序

平成２５年度は、高等学校において新学習指導要領が年次進行により全面実施され、これによりすべての学校において新学習指導要領に基づいた教育活動が展開された年でした。一方で、本県においては東日本大震災により依然として幼児児童生徒が避難を余儀なくされている状況が続いていました。

このような中、県教育委員会では、平成２４年１２月に改訂された本県の最上位計画である福島県総合計画「ふくしま新生プラン」及び平成２３年１２月に策定された福島県復興計画を踏まえ、震災からの復旧・復興に向けた取組を加えるなどして平成２５年３月に改定した第６次福島県総合教育計画に基づき、「“ふくしまの和”で奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり」の実現に向け様々な施策を展開してまいりました。

さて、本教育年報は、平成２５年度における教育に関する施策概要や事業実績等を収録しており、本県教育行政を一望することができる資料として、また、本県の過去の教育行政を現在まで伝える貴重な資料として、教育関係者のみならず、多方面の方々に広く御利用いただいています。

今後も本書が、教育施策や各種事業を推進する上での参考資料として広く活用され、本県教育振興の一助となりますことを願っています。

平成２６年１２月

福島県教育委員会

教　育　年　報　目　次

第１章　教育行政の概観

1　平成25年度の教育の概要…… 1
2　教育の情報化関係…… 6
3　義務教育関係…… 6
4　高等学校教育関係…… 6
5　特別支援教育関係…… 7
6　社会教育関係…… 7
7　文化関係…… 8
8　生涯学習関係…… 9
9　スポーツ関係…… 9
10　福利厚生関係…… 9

第２章　教　育　行　政

第１節　平成25年度福島県教育委員会重点施策 …… 11
第２節　教育委員会 …… 14
1　教育委員会…… 14
2　審議事項…… 14
第３節　教育庁組織 …… 16
第４節　企画調整 …… 17
1　教職員現職教育計画の策定…… 17
2　調整事務…… 17
第５節　広報・広聴 …… 18
1　教育委員会だより…… 18
2　教育年報…… 18
3　福島県の教育…… 18
4　ふくしま教育ニュース…… 18
5　教育庁各課・所・館の広報誌・紙…… 19
6　教育長記者会見…… 20
7　記者発表及び資料提供…… 20
8　教育フォーラム…… 20
9　平成25年度「ふくしま教育の日」啓発推進事業 …… 21
10　県庁子ども参観デー…… 21
第６節　調査統計 …… 21
1　学校統計要覧…… 21
2　地方教育費調査（一般統計） …… 21
3　学校教員統計調査（基幹統計）…… 21
4　進路状況等に関する調査…… 21
第７節　教職員の給与 …… 21
1　通勤手当（平成26年４月１日適用） …… 21
2　期末・通勤手当（平成26年４月１日適用） …… 22
3　給与の減額関係（平成25年7月1日適用） …… 22
第８節　附属機関等…… 22
1　福島県学校教育審議会…… 22
2　福島県社会教育委員の会議 …… 22
3　福島県文化財保護審議会 …… 23
第９節　市町村教育委員会…… 24
1　概要 …… 24
2　組織 …… 24
3　平成25年度市町村教育委員会援助指導の概要…… 25
第10節　職員団体との話合い…… 25
1　福島県教職員組合…… 25

2 福島県高等学校教職員組合 …… 25
3 福島県立高等学校教職員組合 …… 26
4 福島県学校事務労働組合 …… 26
第11節 不利益処分審査請求事件及び損害賠償請求事件 …… 27
1 不利益処分審査請求事件 …… 27
2 損害賠償請求事件 …… 27
第12節 公益法人等の指導等並びに公益信託の状況 …… 27
1 公益法人等 …… 27
2 公益信託 …… 27
第13節 表彰及び叙勲 …… 27
1 教育・文化関係表彰 …… 27
2 文部科学大臣表彰 …… 28
3 春・秋・高齢者叙勲、死亡叙位・叙勲 …… 28
第14節 奨学育英 …… 31
1 福島県奨学資金 …… 31
2 福島県高等学校定時制課程及び通信制課程修学資金貸与制度 …… 31

第3章 教 育 財 政
第1節 平成25年度決算 …… 33
1 歳入 …… 33
2 歳出 …… 34
第2節 学校教育施設 …… 36
1 県立学校 …… 36
2 幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校(市町村立分) …… 38
第3節 産業教育振興法補助事業 …… 39
1 産業教育施設・設備の整備 …… 39
第4節 理科教育振興法補助事業 …… 39
1 理科設備 …… 39
2 算数・数学特別設備 …… 39
第5節 情報処理設備整備事業 …… 39
1 県単独事業 …… 39

第4章 教育の情報化
第1節 基盤整備 …… 41
第2節 人材の育成・活用 …… 42

第5章 義 務 教 育
第1節 学校管理 …… 43
1 児童生徒数・学級数と教職員定数 …… 43
2 教職員人事・任用 …… 45
3 教育職員の免許 …… 45
4 学校の設置及び統廃合 …… 46
5 学校防火 …… 46
6 へき地対策 …… 47

第2節 学校教育 …… 49
1 概要 …… 49
2 現職教育 …… 50
3 教育課程 …… 53
4 学力向上等 …… 53
5 放射線教育 …… 53
6 防災教育 …… 54

7 道徳教育 …… 54
8 特別活動 …… 55
9 生徒指導・進路指導 …… 55
10 幼稚園教育 …… 55
11 へき地教育 …… 56
12 環境教育 …… 56
13 教科用図書 …… 57
14 教育研究団体 …… 58
第３節 国際化・科学技術の進展等への対応 …… 60
1 中学生・高校生の科学・技術研究論文 …… 60
2 中学生・高校生の国際理解・国際交流論文 …… 61

第６章 高等学校教育
第１節 学校管理 …… 63
1 生徒数と教職員数 …… 63
2 教職員人事・任用 …… 67
3 学校の設置及び統廃合 …… 70
第２節 学校教育 …… 71
1 概要 …… 71
2 現職教育 …… 77
3 教育課程 …… 78
4 学力向上対策等 …… 78
5 生徒指導・進路指導 …… 79
6 学校行事 …… 79
7 産業教育 …… 80
8 学校訪問 …… 81
9 県立高等学校学校教育指導委員 …… 81
10 教科用図書 …… 82
11 教育研究団体 …… 82

第７章 特別支援教育
第１節 学校管理 …… 85
1 児童生徒数と教職員定数 …… 85
2 特別支援学校及び特別支援学級の実態 …… 87
3 教職員人事・任用 …… 89
第２節 学校教育 …… 90
1 概要 …… 90
2 現職教育 …… 92
3 教育課程 …… 94
4 訪問教育 …… 94
5 生徒指導・進路指導 …… 94
6 特別活動 …… 95
7 学校訪問 …… 95
8 県立学校教育指導委員 …… 95
9 就学指導 …… 96
10 教科用図書 …… 96
11 教育研究団体 …… 96

第８章 社 会 教 育
第１節 社会教育一般 …… 99
1 概要 …… 99
2 社会教育推進体制の充実 …… 99

3 社会教育施設の整備充実…… 100
4 社会教育関係職員の研修…… 100
5 社会教育研究集会…… 100
6 社会教育指導員の設置…… 100
7 社会教育主事の市町村派遣…… 101
8 社会教育研修会…… 101
9 福島県公民館研究集会…… 101
10 福島県公民館主事部会研修会…… 101
11 社会教育職員研修派遣…… 101
12 出版資料…… 102
第２節 地域教育力の向上 …… 102
1 概要…… 102
2 体験活動・ボランティア推進センター事業…… 102
第３節 地域コミュニティの再生…… 103
1 概要…… 103
2 放課後子ども教室推進事業…… 103
3 学校支援地域本部事業…… 103
4 地域支援推進事業…… 104
5 東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業…… 104
6 文化による心の復興支援プロジェクト…… 104
第４節 家庭教育 …… 106
1 概要…… 106
2 子どもをはぐくむ家庭・地域支援事業 …… 106
第５節 青少年教育 …… 107
1 概要…… 107
2 十七字のふれあい事業 …… 107
第６節 成人教育 …… 108
1 概要…… 108
第７節 子どもの読書活動推進 …… 108
1 概要…… 108
2 子どもの読書活動推進会議の設置…… 108
3 子ども読書活動推進事業…… 108
第８節 ユネスコ活動 …… 108
1 概要…… 108
2 ユネスコ協会事務局一覧…… 108
3 福島県ユネスコ活動研修会…… 109
第９節 ふくしまっ子体験活動応援事業…… 109
1 目的…… 109
2 内容…… 109
第10節 公民館等社会教育施設…… 110
1 概要…… 110
2 公民館を除く主な社会教育施設…… 110

第９章 文　　化

第１節 概要 …… 115
1 文化活動の振興…… 115
2 文化の伝承の充実…… 115
3 文化施設の整備充実…… 115
第２節 文化活動の振興 …… 116
1 芸術文化活動発表機会の充実…… 116
第３節 文化財の愛護と伝統文化の継承 …… 120
1 文化財保護体制の充実…… 120
2 埋蔵文化財の保護の充実…… 120

3 平成25年度文化財保存助成の充実…… 141
4 文化財の愛護と公開の推進…… 144
5 銃砲刀剣類の登録状況…… 144
第４節 財団法人福島県文化振興財団による文化財保護の推進…… 145
1 埋蔵文化財調査事業…… 145
2 文化財センター整備業務…… 148

第10章 体育・健康

第１節 概要 …… 149
1 学校体育の充実…… 149
2 学校保健・学校安全の充実…… 149
3 食育の推進…… 149
4 学校給食の充実…… 149
第２節 表彰 …… 150
1 体育関係…… 150
2 学校保健・学校安全関係…… 150
3 学校給食関係…… 152
第３節 学校体育 …… 153
1 学校体育関係各種研修…… 153
2 福島県高等学校体育連盟…… 154
3 福島県中学校体育連盟…… 156
第４節 学校保健・学校安全 …… 157
1 学校保健・学校安全研修会等…… 157
2 児童・生徒の健康管理費補助…… 157
3 教職員の健康管理…… 157
4 福島県学校保健会…… 158
5 独立行政法人日本スポーツ振興センター…… 158
第５節 学校給食 …… 159
1 学校給食に関する研修会…… 159
2 学校給食用パン品質調査…… 159
3 食育に関する研修会等…… 159
4 学校給食関係の国庫助成実績…… 160
第６節 体育施設…… 160
1 公立学校施設整備費補助（学校体育諸施設補助）…… 160
2 社会体育施設整備費補助…… 160

第11章 福 利 厚 生

［福利厚生事業］ …… 161
第１節 概要 …… 161
第２節 保健・厚生事業 …… 161
1 保健事業…… 161
2 厚生事業…… 163
第３節 貸付事業 …… 165
1 共済組合…… 165
第４節 宿泊・保養施設 …… 165
第５節 児童手当（特例給付を含む） …… 166
第６節 財産形成貯蓄制度 …… 166
［福利給付事業］ …… 166
第７節 概要 …… 166
第８節 短期給付 …… 166
1 共済組合…… 166
2 互助会…… 167
第９節 長期給付 …… 167

1 恩給…… 167
2 退職手当…… 168
3 共済年金…… 168

第12章 福島県教育センター

第１節 概要 …… 171
1 調査・研究事業…… 171
2 研修事業…… 171
3 情報教育事業…… 171
4 教育相談事業…… 172
5 教育図書・資料事業…… 172
第２節 調査・研究事業 …… 172
1 調査・研究…… 172
2 長期研究員による研究…… 173
第３節 研修事業 …… 173
1 研修講座の概要…… 173
2 研修講座…… 175
3 指導主事派遣等…… 177
第４節 情報教育事業 …… 177
1 研修講座の概要…… 177
2 施設利用概況…… 178
第５節 教育相談 …… 178
1 対象別…… 178
2 区分別…… 178
3 地区別来所相談件数…… 178
4 月別相談件数・回数…… 178
第６節 教育図書・資料事業 …… 178
1 教育図書・教育資料の収集…… 178
2 教育資料の刊行…… 178

第13章 福島県養護教育センター

第１節 概要 …… 179
1 教育相談事業…… 179
2 教職員研修事業…… 179
3 教育調査・研究事業…… 179
4 教育図書・資料の収集・提供事業…… 179
5 広報・啓発事業…… 180
6 情報教育事業…… 180
第２節 教育相談事業 …… 180
1 相談対象…… 180
2 形態…… 180
3 現状と課題…… 180
第３節 教職員研修事業 …… 181
1 教職員の研修講座…… 181
第４節 教育調査・研究事業 …… 182
1 調査研究…… 182
2 プロジェクト研究…… 183
第５節 教育図書・資料の収集・提供事業 …… 185
1 教育図書・資料の収集・整理…… 185
第６節 広報・啓発事業…… 185
1 所報「特別支援教育」(66号) …… 185
2 研究紀要「第26回」 …… 185
第７節 情報教育事業 …… 185

1 ICT活用支援 …… 185
2 情報機器活用 …… 186
3 情報教育ネットワークとWebページの充実 …… 186

第14章 福島県立図書館

第１節 概要 …… 187
1 運営の概要 …… 187
2 図書館協議会 …… 187
第２節 資料の収集・整理 …… 187
1 図書館資料の収集 …… 187
第３節 館内奉仕 …… 189
1 調査相談(レファレンス) …… 189
2 館内サービス …… 190
3 館外個人貸出 …… 190
4 特別貸出 …… 190
5 地域資料 …… 190
6 逐次刊行物 …… 191
7 児童サービス …… 191
8 東日本大震災福島県復興ライブラリー …… 191
9 複写サービス …… 191
10 来館者用インターネットコーナー …… 191
11 展示 …… 192
第４節 館外奉仕 …… 192
1 移動図書館「あづま号」 …… 193
2 市町村援助のための支援貸出 …… 193
3 福島県立図書館資料の譲与 …… 193
4 学校図書館活動支援貸出 …… 193
5 学校図書館活動支援セット貸出 …… 193
6 広報資料の発行 …… 193
第５節 図書館協力 …… 193
1 相互協力と遠隔地返却 …… 193
2 県内図書館職員研修会 …… 193
3 県内大学図書館間との連携 …… 194

第15章 福島県立美術館

第１節 概要 …… 195
1 美術館運営協議会 …… 195
2 他館等との連携 …… 195
第２節 美術品の収集・保存 …… 195
1 収蔵作品点数(平成26年3月31日現在) …… 195
2 収集評価委員会 …… 195
3 平成25年度収蔵作品 …… 195
4 保存修復 …… 197
第３節 展示事業 …… 197
1 常設展 …… 197
2 企画展 …… 198
第４節 調査研究事業 …… 200
1 調査研究 …… 200
第５節 普及事業 …… 200
1 館内解説 …… 200
2 鑑賞講座 …… 200
3 実技教室 …… 200
4 美術館・学校教育連携事業 …… 201

5 美術館への年賀状展…… 201
6 博物館実習…… 201
7 友の会、協力会との連携事業…… 201
8 その他の事業…… 202
第６節 工事関係 …… 202
1 災害復旧事業…… 202
2 改修工事等…… 202

第16章 福島県立博物館
第１節 概要 …… 203
1 運営の概要…… 203
2 運営協議会…… 203
第２節 調査研究事業 …… 203
1 展示資料調査研究…… 203
2 その他の調査研究事業…… 204
第３節 資料収集事業 …… 204
1 収集展示委員会…… 204
2 受贈・受託…… 204
3 購入…… 204
第４節 保存管理事業 …… 205
1 資料の収蔵…… 205
2 登録・整理…… 205
3 保存…… 206
4 貸出…… 206
第５節 展示事業 …… 207
1 常設展示…… 207
2 企画展示…… 208
3 特集展…… 211
4 移動展…… 211
5 指定文化財の公開…… 212
6 展示解説…… 212
7 体験学習室…… 213
8 博物館新情報収集・展示室改善プロジェクト…… 213
第６節 東日本大震災からの復興支援…… 214
1 文化財レスキュー…… 214
2 市町村埋蔵文化財技術協力…… 215
3 ふくしま応援ミュージアムイベント…… 215
4 館長サタデープロジェクト…… 216
5 復興応援パートナー事業…… 216
第７節 平成25年度行事…… 216

第17章 福島県自然の家
第１節 沿革及び所在地 …… 221
1 沿革…… 221
2 所在地…… 221
第２節 教育目標及び基本的視点 …… 221
1 教育目標…… 221
2 基本的視点…… 221
第３節 各施設の利用者数 …… 222

福島県郡山自然の家
第１節 概要 …… 223
1 職員組織…… 223

2 平成25年度重点目標と成果…… 223
第２節 施設・設備の概要 …… 224
1 所在地…… 224
2 宿泊定員…… 224
3 敷地面積…… 224
4 建物面積…… 224
5 設備備品等…… 224
第３節 利用状況 …… 225
1 月別利用状況…… 225
2 利用団体別・宿泊日数利用状況…… 226
3 研修活動の分類と実施団体数…… 227
第４節 企画事業 …… 228
1 研修会事業…… 228
2 利用拡大事業…… 228
3 協力事業…… 230

福島県会津自然の家

第１節 概要 …… 231
1 職員組織…… 231
2 平成25年度重点目標と成果…… 231
第２節 施設・設備の概要 …… 232
1 所在地…… 232
2 宿泊定員…… 232
3 敷地面積…… 232
4 建物面積…… 232
5 運動広場面積…… 232
6 設備備品等…… 232
第３節 利用状況 …… 232
1 当施設を利用可能対象者…… 232
2 平成25年度の利用団体数…… 232
3 屋外活動を制限された子どもたちへの対応…… 232
4 利用状況…… 232
5 月別利用状況…… 233
6 利用団体別・宿泊日数利用状況…… 234
7 研修活動の分類と実施団体数…… 235
第４節 企画事業 …… 236
1 指導者の研修…… 236
2 利用促進事業…… 236
3 その他の企画事業…… 238

福島県いわき海浜自然の家

第１節 概要 …… 239
1 平成25年度重点目標と成果…… 239
2 職員組織…… 240
第２節 施設・設備の概要 …… 240
1 所在地…… 240
2 宿泊定員…… 240
3 敷地面積…… 240
4 建物面積…… 240
5 野外活動施設面積…… 240
6 設備備品等…… 240
第３節 利用状況 …… 241
1 平成25年度　月別利用状況一覧表(3月末現在)…… 241

2 平成25年度　利用団体別・宿泊日数利用状況…… 242
3 平成25年度　研修活動の分類と実施団体数…… 243
第４節　企画事業 …… 245
1 研修会事業…… 245
2 利用促進事業…… 245
3 その他の企画事業…… 246
4 協力事業…… 247

第18章　福島県文化財センター白河館
第１節　白河館の運営状況 …… 249
1 利用者数…… 249
2 入館者の内訳と傾向…… 249
3 団体利用者の内訳と傾向…… 249
4 情報発信事業の利用者…… 250
5 資料管理業務…… 250
6 研修事業の状況…… 250
7 体験学習事業の状況…… 250
8 常設展事業…… 252
9 企画展事業…… 252
10 ボランティア運営事業…… 252

第19章　文化スポーツ局
第１節　組織…… 255
第２節　附属機関…… 255
1 福島県文化振興審議会 …… 255
2 福島県生涯学習審議会 …… 255
3 福島県スポーツ推進審議会 …… 256
第３節　表彰…… 258
1 文化功労賞受賞者 …… 258
2 第66回福島県文学賞受賞者…… 258
3 文化・スポーツ知事感謝状受賞者 …… 258
4 体育・スポーツ関係 …… 259
第４節　文化…… 264
1 概要 …… 264
2 文化活動の振興 …… 264
第５節　生涯学習…… 267
1 概要…… 267
2 生涯学習の推進体制 …… 267
3 生涯学習情報提供及び啓発…… 267
4 生涯学習による復興応援…… 267
5 復興を担う子どもたちの育成 …… 267
第６節　スポーツ…… 268
1 概要 …… 268
2 生涯スポーツ・競技スポーツの振興 …… 268
3 体育・スポーツ施設…… 288

ふくしま海洋科学館
第１節　施設の概要 …… 289
1 本館施設…… 289
2 ふくしま海洋科学館子ども漁業博物館…… 289
3 水生生物保全センター …… 289
4 海水取水・送水施設 …… 289
5 展示生物の収集、蓄養施設…… 289

第２節　各種事業 …… 289
1 飼育展示事業…… 289
2 移動水族館事業…… 290
3 研究交流事業…… 290
4 海洋文化推進事業…… 290
5 企画営業事業…… 290
6 学習交流事業…… 291
7 スクール開催事業…… 293
8 子ども漁業博物館事業…… 293
9 ボランティア等活動事業…… 293
10 クウェート・ふくしま友好記念日本庭園整備事業…… 293
第３節　月別入館者数 …… 293
第４節　公益財団法人ふくしま海洋科学館の概要 …… 294
1 財団法人の名称…… 294
2 財団法人の目的…… 294
3 財団法人の事業…… 294
4 基本財産…… 294
5 組織(平成26年3月現在) …… 294

福島県文化センター

第１節　概要 …… 297
1 業務内容…… 297
第２節　施設の概要 …… 297
1 福島県文化会館…… 297
2 福島県歴史資料館…… 297
第３節　事業の実施状況 …… 297
1 管理運営事業…… 297
2 文化情報の発信…… 298
3 歴史資料館事業…… 298
4 受託事業…… 300
5 文化事業…… 301
第４節　財団法人福島県文化振興財団の概要 …… 304
1 財団法人の名称…… 304
2 財団の目的…… 304
3 財団の事業…… 304
4 組織（平成２６年３月３１日現在） …… 304

第１章　教育行政の概観

１　平成25年度の教育の概要

平成２５年度は、高等学校において新学習指導要領が年次進行により全面実施され、これによりすべての学校において新学習指導要領に基づいた教育活動が展開されることになった。一方で、東日本大震災により多くの幼児児童生徒が避難を余儀なくされている状況が今も続いている。

県教育委員会では、平成２２年３月に策定した本県の教育指針である第６次福島県総合教育計画に基づき、その基本理念である「“ふくしまの和”で奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり」の実現に向け、３つの基本目標それぞれについて各施策を展開することにより、目標の達成を目指していく。

なお、第６次福島県総合教育計画については、平成２４年１２月に改訂された本県の最上位計画である福島県総合計画「ふくしま新生プラン」及び平成２３年１２月に策定された福島県復興計画を踏まえ、震災からの復旧・復興に向けた取組を加えるなど、平成２５年３月に必要な改定を行った。

基本理念

“ふくしまの和”で奏でる、
こころ豊かなたくましい人づくり

基本目標

基本目標１　知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成
基本目標２　学校、家庭、地域が一体となった教育の実現
基本目標３　豊かな教育環境の形成

基本目標を達成するための施策

基本目標１
- 施策１　子どもたちの豊かなこころをはぐくみます
- 施策２　子どもたちの健やかな体をはぐくみます
- 施策３　子どもたちの生き抜く力を支える「確かな学力」を身につけさせます
- 施策４　望ましい勤労観・職業観をはぐくみます
- 施策５　障がいのある子どもたちが「地域で共に学び、共に生きる教育」を推進します
- 施策６　高度情報化社会を主体的に生きていく力をはぐくみます
- 施策７　国際化の進展に対応できる人づくりを進めます
- 施策８　公立大学において、社会をリードし、地域に貢献する人づくりを進めます

基本目標２
- 施策９　地域全体で子どもたちを教え育てる取組を支援します
- 施策10　家庭における教育を支援します
- 施策11　生涯を通して学習し、その成果が生きる環境を整備します
- 施策12　自然に親しみ、自然を尊重するこころをはぐくみます
- 施策13　地域に根ざした伝統文化を保存・継承し、地域を愛するこころをはぐくみます

基本目標３
- 施策14　教員の資質の向上を図ります
- 施策15　一人一人の子どもに教員が向き合うことができる環境を整備します
- 施策16　透明性の高い、開かれた教育を推進します
- 施策17　安全で安心できる学習環境の整備を促進します
- 施策18　地域における身近な文化・スポーツ環境を整備します
- 施策19　私立学校の振興を図ります
- 施策20　社会情勢や環境の変化に対応した学校づくりを推進します

この計画の運用に当たっては、毎年度、基本目標ごとに重視する観点を定め、これに基づき実施する事業を明らかにするとともに、計画の進捗状況を点検・評価し、計画の適切な運用に努めることとしており、平成２５年度は次の３つの観点を重視し、これらに沿った施策・事業を総合的に展開した。
（★印は、知事部局所管の事業等）

平成25年度に重視する観点及び対応する重点事業

基本目標１において重視する観点
○ふくしまの復興・再生に向けた、生き抜く力を育む教育の推進

○　ピュアハートサポートプロジェクト

大震災を経験したこの時に、「いのち」、「家族愛」、「郷土愛」等について系統的に学ぶための読み物資料を作成したり、ゲストティーチャーを学校に派遣したりすることにより、道徳教育を推進し、今後の福島県の復興を担うことになる児童生徒の育成を図った。

また、心のケアを必要としている児童生徒が増加していることから、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置し、教育相談体制の充実を図るとともに、学校・家庭・地域が連携し、問題行動やＰＴＳＤ等の未然防止と早期解決を図った。

○　緊急スクールカウンセラー等派遣事業★

東日本大震災により被災した児童生徒等の心のケアなどに当たるため、国の委託により緊急にスクールカウンセラー等の派遣を実施した。

○　ふくしまっ子体験活動応援事業

子どもたちが伸び伸びと活動できる環境が少なくなっているため、心身ともにリラックスできる環境の中で学校・団体等が実施する体験活動等の補助を行った。

○　豊かな心をはぐくむ子ども読書活動推進事業

子どもに読書の楽しさを実感させ、生涯にわたる望ましい読書習慣を形成するため、学校図書館や子どもの読書活動を支援するボランティアを養成した。

○　「ふくしま子ども宣言」推進事業

子どもたちが社会の一員として人の役に立つことを書き出し、宣言することにより、自己実現を目指した。併せて、作文コンクールを実施し、取組みを積極的にＰＲした。

○　児童生徒の体力向上推進事業

低下傾向にある児童生徒の体力・運動能力の向上に向けて小学校・中学校・高等学校の教員に対し、指導方法の改善を図るための研修会等を実施した。

○　放射線から子どもの健康を守る対策支援事業

放射線に対する不安により外出や屋外活動を控えている児童生徒の精神的なストレスや運動不足を解消するため、医師やスポーツトレーナー等の専門家を学校に派遣した。

○　地域スポーツ人材の活用実践支援事業

中学校の武道・ダンスの授業と中学校・高等学校の運動部活動に対し、県教育委員会が委嘱する地域スポーツ人材を派遣することにより指導の一層の充実を図った。

○　学校における食育推進プロジェクト

健康及び食生活の課題を明確にし、学校における食育推進の基本方針及び評価指標を開発するとともに、家庭、学校、地域の協働による食育の推進を図った。

○　学校給食地場産物活用事業

望ましい食習慣の形成や食育の観点から、学校給食に地場産物を活用する市町村の取組を支援した。

○　学校すこやかプラン

メンタルヘルスに関する課題やアレルギー疾患、性や薬物に関する問題など、児童生徒を取り巻く現代的健康課題に対応するため、家庭や地域の関係機関が効果的に連携しながら支援できる体制を整備し、発達段階に応じた健康教育の推進を図った。

○　学力向上推進支援事業

指導の改善に資する評価問題の作成と活用、効果的な指導法の実践研究を行った。さらに学力調査を実施して児童生徒の学力の実態を把握し、授業改善を図った。

生徒一人一人の進路希望実現のため、難関大学進学に向けた取組や、確かな学力向上のための基礎力養成・キャリア教育に関する取組の支援などを行った。

○　サポートティーチャー派遣事業

児童生徒の心のケアと学習のつまづきを解消するため、サポートティーチャーを学校に派遣し、教科の学習を支援するとともに、授業外や長期休業時における相談活動と学習支援を充実させた。

○　ふくしまの未来を拓く理数教育充実事業

知識基盤社会において重要な科学技術に対する関心と基礎的素養を高めるとともに、本県の復興を担う人材育成のために、教員の理科、算数・数学科の指導力向上を図るとともに、理数に関して児童生徒の学ぶ環境や専門的な学習の機会を充実させた。

○　中山間地域インターネット活用学力向上支援事業

中山間地域の学習指導及び学習環境の充実を図るため、町村教育委員会の実施するインターネットを活用した学力向上の取組を支援した。

○　放射線教育推進支援事業

児童生徒が、自ら考え、判断し、行動する力を身に付け、心身共に健康で安全な生活を送れるよう、放射線等に関する基礎的な知識や放射線からの防護等についての理解を深めるための取組を行った。

○　防災学習推進支援事業

学校における防災教育の一層の充実を図り、児童生徒の防災意識の向上に資するため、授業等で活用できる防災学習指導資料を作成するとともに、防災学習に関する研修会を開催した。

○　双葉地区教育構想（福祉健康人材育成プラン）

福祉・健康に関する専門的な授業を行い、将来、総合的な健康づくりをコーディネートでき、福祉・健康分野で活躍する人づくりを推進した。

○　ふくしま地域医療の担い手育成事業

高等学校の医学部進学希望生徒に、最近の医学や地域医療の実情を理解させ、医学や地域医療に対する関心を高めて学習の動機付けを図ることにより、進路希望の実現を支援し、地域医療に貢献できる人づくりを推進した。

○　キャリア教育推進事業（専門高校プロジェクト事業）

農業高等学校、工業高等学校、商業高等学校において、生徒の実践的な知識や技能の向上を図るとともに、地域に定着し、地域産業を担う人づくりのため、キャリア教育を推進した。

○　キャリア教育推進事業（専門高校における小・中学校連携事業）

小・中・高等学校が連携し、小・中学生に専門高校の取組を体験させることなどにより、児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育を推進した。

○　インクルーシブ教育システム構築事業

特別な支援を必要とする子どもたちへの支援体制の整備・充実のために、関係機関連携によるネットワークの構築や乳幼児期からの一貫した相談体制の整備等の取組を支援した。

○　地域で共に学び、共に生きる教育理解啓発事業

全県民に対して発達障がいの理解と支援に関する講演を行い、障がいのあるなしにかかわらず「地域で共に学び、共に生きる教育」についての理解啓発を行った。

○　高等学校学習支援推進事業

高等学校に在籍している発達障がい等の生徒において、学習の遅れに加え、東日本大震災の影響による環境の変化への不適応等が見られることから、高等学校における発達障がい等の生徒への支援をより手厚くするために、在籍数の多い高等学校に学習支援員を配置し、生徒の特性に応じた学習支援を行った。

○　社会自立を目指すスキルアップ事業

特別支援学校高等部生徒の社会参加・自立を促すため、特別支援学校作業技能大会を開催し、日頃の進路に関する学習の成果を発表するとともに、外部専門家から客観的な評価を受ける機会とした。

○　キャリア教育推進事業（特別支援学校就労推進事業）

県内全ての高等部設置特別支援学校における就職率と職場定着率を向上させるため、関係機関と連携し、企業への理解啓発と企業で働き続けることのできる人材育成の充実を図った。

○　特別支援学校における医療的ケア実施事業

特別支援学校で学ぶ幼児児童生徒の障がいの重度・重複に伴い、吸引等の医療的ケア（日常的応急的手当）を必要とする幼児児童生徒が常在しているため、これらの幼児児童生徒が健康で安全・安心な学校生活を送るとともにその保護者の負担を軽減するため医療的ケアを実施した。

○　特別支援学校における外部専門家活用事業

東日本大震災に伴い、生活や学習に不安を示す特別支援学校の幼児児童生徒が一定数見られるため、特別支援学校の教員が外部専門家からの継続的な指導・助言を受けることにより、幼児児童生徒へのきめ細やかな支援を行い、学習活動の充実を図った。

○　うつくしま教育ネットワーク事業

学校を含めた教育文化機関に安全で安定したインターネット利活用環境を提供した。さらに授業等でのネットワークの使用量増加に対応するためのシステム改良、情報セキュリティの維持、有害情報の遮断、テレビ会議システムの運用などの支援を行った。

○　小学生外国語活動・異文化体験活動充実事業

小学生を対象として、インターネットを活用した外国語活動の授業や異文化体験活動を通して、コミュニケーション能力の素地を育成するとともに、国際感覚を養った。

○　ふくしまの未来を担う高校生海外研修支援事業

国際社会に貢献できる人材を育成するため、学校が実施する海外ホームステイ研修に参加する高校生を対象に旅費の一部を支援した。

○　英語指導力向上事業

震災から復興に向けて、国際社会の進展に対応する人づくり及び国際社会に貢献できるグローバル人材の育成を図るため、小中高等学校等における英語指導及び学習評価の改善についての実践研究を行い、その成果を県内の学校へ普及した。

○　双葉地区教育構想（国際人育成プラン）

震災からの復興に向けて、国際社会に貢献できるグローバル人材の育成及び双葉地区教育構想の基本目標である「国際人として社会をリードする人材の育成」の実現のために、海外留学や国際理解事業により、実践的なコミュニケーション能力や異文化理解に富む人づくりを推進した。

○　医科大学施設・設備整備事業★

公立大学法人福島県立医科大学医学部の定員増に伴う学生の修学環境向上のための施設・設備等に要する経費を補助した。

○　会津大学復興支援センター拠点施設等設計事業★

産業界や医科大学等と連携し、新たな産業の創出や県民健康管理調査のデータ管理など、本県の復興に寄与する会津大学復興支援センターの拠点施設の設計に要する経費を補助した。

○　医科大学修学支援宿泊施設整備事業★

地域社会に貢献する熱意を持った真に人間性豊かな医療人を養成し、その県内定着に大きな役割を果たしてきた学生寮の整備に要する経費を補助した。

基本目標２において重視する観点
○家族や地域の絆を生かした、学校、家庭、地域が一体となった教育力の向上

○　学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業（学校支援地域本部事業）

教員や地域の大人が子どもと向き合う時間の増加、住民等の学習成果の活用機会の拡充及び地域の教育力の活性化を図るために、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進した。

○　学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業（地域支援推進事業）

公民館等の社会教育施設を活用し、コーディネーターを中心に学習活動の活性化を図っていくことで、地域住民の学習・交流促進した。これらを通じ、学びを媒介としたコミュニケーションの活性化や地域の課題解決の取組を支援し、地域コミュニティの再生を図った。

○　学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業（放課後子ども教室推進事業）

子どもの健全育成と安心して子育てできる地域社会の実現のため、地域の協力のもと、子どもたちがスポーツ・文化活動や交流活動を行う放課後子ども教室の設置を支援した。

なお、「放課後児童健全育成事業」（保健福祉部）と連携し総合的な放課後対策事業として実施した。

○　十七字のふれあい事業

子どもと大人が家庭や地域の「人と人とのかかわり」の中で感じたこと等を十七字の作品として募集し、優秀作品を表彰した。

○　子どもをはぐくむ家庭・地域支援事業

関係機関等と連携して、子どもの生活習慣や規範意識の向上が図れるようＰＴＡや地域で取り組んだ。

○　生涯学習による復興応援事業★

地域をつなぐ活動や自治組織の形成を支援するため、行政と住民の協働によるコミュニティ再生に向けた講義等を開催し、地域の核となる人材を養成した。

○　東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業

東日本大震災に関連する資料等を収集・保存し、広く県民に情報を提供するとともに、移動図書館車の巡回による資料の貸出を行った。

○　社会教育施設災害復旧事業

東日本大震災により被災した社会教育施設の復旧を行った。

○　地域における防災力向上支援事業

今後の災害に備え、地域の防災拠点である公民館等社会教育施設における防災体制の整備・充実を図り、地域防災力を向上させるため、市町村の社会教育関係者を支援した。

○　文化による心の復興支援プロジェクト

美術館及び博物館において、文化による心の復興を支援するため、県外の施設等と連携を図りながら観光交流等も視野に入れた企画展を開催した。

○　東日本大震災記録保存活用事業★

東日本大震災及び原子力災害の体験や教訓等を次世代に継承するため、伝えるべき資料、残すべき資料を収集・保存し、活用を図った。

○　再生可能エネルギー教育実践事業

発達段階に応じて再生可能エネルギーと資源の利用に関する意識の醸成を図り、主体的に行動する態度や資質、能力を育成するため、教員の大学おける研修、エネルギー学習教材の開発、専門家の派遣、成果の普及・啓発等を大学に委託し、モデル校において学習プログラムの実践を行った。

○　指定文化財保存活用事業

文化財を活かした地域振興を図るため、国及び県指定文化財の保存と活用を一体的に行う取組について、事業実施に要する経費を補助した。また、東日本大震災で被災した文化財の修復を実施する場合に事業実施に要する経費を補助した。

○　地域に根差した文化財の災害復旧支援事業

地域の宝である文化財の保護・継承を図るため、国登録文化財の個人・法人所有者が、東日本大震災により被災した文化財の修復を実施する場合に事業実施に要する経費を補助した。

○　地域の「きずな」を結ぶ民俗芸能支援事業

継承の危機に瀕している民俗芸能の円滑な継承を促進し、ふるさとに対する誇りや郷土愛を確認し、地域のつながりを再構築するための活動に対して補助をした。また、稽古の様子、公演での演目披露の様子の記録保存を委託した。

○　ふるさと「ふくしま」の学び事業★

子どもたちが復興に向けた地域の現状やふるさとのすばらしさを学ぶため地域の方々に取材等の交流を行い、その成果を新聞にまとめ、HP や広報紙などを活用し県内外に発信した。

○　学びによる未来を担う子ども育成事業★

子どもたちが地域再生に向けてがんばっている方々等と交流し、子どもたちの素直な表現で詩に表して、福島県の現状や「ふくしま」の未来を伝えた。

○　「地域のたから」伝統芸能承継事業★

伝統芸能の担い手の継承意欲を高めるとともに、県民の震災からの心の復興を図るため、被災地の伝統芸能団体や子どもが演じ手の団体を中心に伝統芸能の公演及び代表者や子どもたちの交流会を実施した。

○　ふくしまの心の復興アートプロジェクト★

ふくしまの現状を踏まえ、アートによる支援、アートの可能性などについて意見交換を行い、多彩なプログラムを構築し、被災町村などで実施した。

基本目標３において重視する観点
○復興・再生に向けた教育環境の充実

○　優秀教職員表彰制度

学習指導や生徒指導等において、日常的に努力を積み重ね顕著な成果を上げている教職員を、優秀教職員として積極的に称え表彰することによって、教職員の志気を高めるとともに、教育活動全体の活性化を図った。

○　ふくしま教職員こころのケア事業（共済組合）

公立学校共済組合員を対象に、カウンセリング相談、メンタルヘルス研修会、ピアカウンセリング等を行い、心の健康保持に資した。

○　教職員メンタルヘルスカウンセリング事業

常勤講師等臨時的任用教職員（公立学校共済組合員以外の教職員）が、相談機関でカウンセリングを受ける際の経費を負担した。

○　復旧・復興の基盤づくりのための教員配置

震災により遅れが懸念される児童生徒の学習を支援するための教員を配置した。

○　学校給食検査体制支援事業

学校給食の一層の安全・安心を確保するため、学校給食用食材の放射性物質検査を実施する市町村等を支援した。

○　学校給食モニタリング事業

希望する市町村において、学校給食センター等で提供した学校給食１食分に含まれる放射性物質の検査を民間の検査機関に委託して行った。

○　県立学校施設等災害復旧事業

東日本大震災により被災した県立学校施設等について、建物、工作物、土地、設備等の復旧を行った。

○　県立学校施設応急仮設校舎等設置事業

東日本大震災の発生により校舎が被災した学校や、原発事故により国から区域外への避難指示がなされ移転を余儀なくされた学校を対象に応急仮設校舎等の設置・賃借を行った。

○　県有施設耐震改修事業（県立学校）

大規模な地震による児童・生徒等の安全確保及び地域住民の応急的な避難施設としての機能確保のため、耐震対策が必要な県立学校施設の耐震改修計画の策定、改修工事を行った。

○　大規模改造事業

老朽化した学校施設の機能を回復する大規模改修とともに耐震改修を併せて行い、大規模な地震による災害時には応急的な避難施設となる学校施設の安全性を確保した。

○　高等学校等校舎改築事業

耐震改修工事による耐震化が不可能と判断された校舎及び実習棟について改築を行った。

○　高校等奨学資金貸付事業

高校・専修学校（高等課程）に在学し、能力があるにもかかわらず、経済的理由により修学困難と認められる者及び東日本大震災により被災し経済的に就学困難と認められる者に対して修学資金の貸与を行った。

○　大学等奨学資金貸付事業

大学、短期大学、高等専門学校に在学し、能力があるにもかかわらず、経済的理由により修学困難と認められる者に対して奨学資金の貸与を行った。

また、大学等へ入学しようとする者へ入学一時金の貸与を行った。

○　被災児童生徒等就学支援事業

東日本大震災により被災、または、原子力発電所の事故により避難している幼児児童生徒に就学支援等を行った。
（被災幼児児童生徒を受入れした市町村において実施）

○　被災児童生徒等特別支援教育就学奨励事業

特別支援学校に就学している被災した幼児児童生徒のうち、経済的理由により就学が困難となった者（支弁区分が変更となった者等）に対して、県が保護者に対して補助を行った。

○　高等学校通学費支援事業

東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴うサテライト校への通学や県内の他地域の高校への転学等により、通学環境が大きく変化し、経済的負担が大きくなる生徒を支援した。

・被災生徒への通学支援を行った。

○　文化で元気！”新生ふくしま”グランドステージ事業★

全国的に著名な芸術家等による公演、展覧会等の開催により誘客を図り、本県の姿を全国に発信するため、主催者に対して補助金を交付した。

○　ふくしまからスポーツ発信・全国大会誘致事業★

来県者が期待できるブロック大会規模以上のスポーツやレクリエーションの大会を本県に誘致し、県民へ元気を与えるとともに、地域の活性化につなげた。また、全国に福島県の本当の姿を発信していただくことで、風評被害の払拭を図った。

○　「陸上王国福島」パワーアップ事業★

陸上競技をツールに用いた取組を行い、子どもたちの体力向上と心身の健康を図るとともに、日本一の陸上選手の本県から誕生を目指し、県全体の活性化を図った。また、スポーツを通じた他県との交流も活性化した。

○　スポーツ環境復興緊急対策事業★

短期間での競技力向上が見込める以下の10競技を対象として競技力の向上を図るため、より高度な技術や戦術について指導できる県外の優秀な指導者を「アドバイザーコーチ」と指定し、県内と県外でコーチングクリニックを行った。

①水泳　②ウエイトリフティング　③自転車　④カヌー
⑤スキー　⑥ボート　⑦ボウリング　⑧ボクシング
⑨フェンシング　⑩弓道

○　福島県私学振興基金協会貸付金★

私立学校等の校舎等の整備を促進し、教育条件の向上を図るとともに、その整備事業の実施に伴う父母の負担の軽減に資するため、（社）福島県私学振興基金協会が私立学校の施設設備事業、災害復旧事業及び防災強化施設整備のための資金として、私立学校へ融資する場合の当該貸付金の原資を同基金協会へ貸付けを行った。

○　私立学校被災児童生徒等就学支援★

東日本大震災に起因する事情により被災した児童生徒等の就学を支援するため、授業料等減免措置を行った私立学校に対して減免相当額を補助した。

○　緊急スクールカウンセラー等派遣事業（進路指導・就職支援体制強化事業）★

東日本大震災により被災した私立高等学校生徒の将来の進路に対する支援を行うため、国の委託により進路指導員を派遣した。

○　少人数教育推進事業

個に応じたきめ細やかな指導が可能となるよう、小学校、中学校において30人及び30人程度学級編制に必要な教員を配置した。

○　サテライト校宿泊施設支援事業

サテライト校の集約に伴い、保護者の元からの通学が困難となる生徒がいることから平成24年度に宿泊施設を確保した。平成25年度についても引き続き宿泊施設を確保することで、教育環境の維持を図った。

○　サテライト校運営管理事業

東日本大震災及び原子力発電所事故に伴い設置されたサテライト校の実習用バスの運営費、体育施設等の賃借料、備品購入経費、教育設備の整備など、サテライト校の管理運営に係る経費を支援した。

○　サテライト校支援事業

各サテライト校の計画による学力向上・キャリア教育に関する取組み等を支援した。また、県内各地区に避難を余儀なくされた中学生が、他地区にあるサテライト校を受験しやすいよう支援した。

○　双葉地区教育構想推進事業

日本サッカー協会等と連携の下、スポーツにおいて世界で活躍できるスペシャリストの育成に取り組むとともに、語学や福祉・健康の分野においても国際的な感覚を身に付

けた、豊かな人間性と確かな学力を有する人づくりを推進した。

以上のほか、教育行政の主な動きは次のとおりである。

2　教育の情報化関係

平成13年に発表された「e-Japan戦略」では、「ミレニアム・プロジェクト『教育の情報化』を早期に達成し、ITを利用した教育を可能にする」ことが明記された。また、新しい学習指導要領には、各教科や総合的な学習の時間でコンピュータや情報通信ネットワーク等の活用を図ることが盛り込まれている。さらに、平成18年に発表された「IT新改革戦略」では、すべての教員へのIT機器の整備、IT活用による学力の向上などを行うことで、一層の情報化が求められている。

これらに対応すべく教育の情報化を推進するためには、①基盤整備、②人材の育成・活用、③教育用コンテンツの充実の3つの観点から取り組むことが重要であるとの認識に立ち、事業を実施してきており、情報通信技術を活用した教育に不可欠な"安定"かつ"安全"なネットワーク環境を、学校や教育関係機関などに提供するため、「うつくしま教育ネットワーク」の基盤整備も行ってきた。

インターネットを活用するなどして学習効果の向上を図るためには、コンピュータで指導できる教員の育成が急務であり、コンピュータを操作できる教員の育成に加えコンピュータで指導できる教員の育成を図る研修を実施している。

また、「うつくしま教育ネットワーク」では、テレビ会議システムを再構築し、学校のみならず各教育関係機関での積極的な利活用の促進を図っている。

3　義務教育関係

(1)　県内の小・中学校児童生徒の学力の向上を図るため、授業改善のための定着確認シート活用実践事業、学力向上地域連携事業及び学力調査研究事業を実施した。

また、数学的な考え方や科学的な思考力を高めるため、小学生算数、理科講座事業及び福島県算数・数学ジュニアオリンピック事業を実施した。

さらに、少人数教育充実のために、30 人程度学級又は少人数指導の教員を配置するなど、各市町村教育委員会への支援を通して、各小・中学校における日々の授業の工夫改善を図り、学力向上に努めた。

(2)　「ピュアハートサポートプロジェクト」の一環として、教育センターに学校教育相談員を配置し、電話相談等を実施した。また、小学校24校、中学校144校に文部科学省事業によるスクールカウンセラーを配置し、いじめ問題や不登校等の学校不適応問題への指導援助の強化を図った。

また、大震災後、児童生徒がＰＴＳＤ等にならないように文部科学省事業による緊急スクールカウンセラーを小学校62校、中学校86校に派遣し、心のケアに当たった。

さらに、カウンセリング研修会や各種連絡協議会を開催し、教職員の資質の向上を図った。

4　高等学校教育関係

(1)　生徒の進路希望実現を目指した各学校の学力向上やキャリア教育に関する取組を支援するとともに、特に成績上位者の学力向上を図り、生徒が国立大学をはじめとする志望大学に合格できるようさらなる学力の向上を図るため、「学力向上推進支援事業」を実施した。

ア　「確かな学力」向上のための基礎力育成プラン

○　対象校　２７校

○　各校の取組内容

・　確かな学力の向上

（ア）学力の向上

（イ）学ぶ意欲の向上

（ウ）学習習慣の確立

（エ）指導力向上のための校内研修の活性化

・　社会人基礎力の育成

（ア）社会人として求められる基本的スキルの育成

（イ）学校独自の取組

・　地域貢献活動（選択）

イ　大学進学希望実現事業

○　対象校　１５校

○　各校の取組内容

・　生徒の思考力・読解力・表現力の向上を図る取組

（ア）思考力・読解力・表現力養成講座の実施

（イ）難関大学入試問題研究、解説書等の作成及び解説書等を活用した発展的指導の実施

（ウ）各校独自作成による、論理的思考力を問う記述式模擬試験の実施（選択）

・　生徒の進学意欲の向上を図る取組

（ア）大学教授等による最先端研究講義・演習の実施

（イ）大学などの学術研究機関を活用した最先端研究実習体験等（選択）

・　学校と家庭の連携強化を図る取組

（ア）保護者を交えた進学研究会の開催

（イ）進路便りや年間進路指導計画表の作成・配布

（ウ）保護者による職業観育成講話の実施

・　学校間の連携強化を図る取組

難関大学対策指導プログラムの開発

（ア）数学・英語の難関大学入試対策協議会の実施

（イ）全県教員を対象にした公開授業の実施（選択）

ウ　合同学習セミナー

○　対象　県立高等学校１年生、２年生

○　実施内容

・　教員による入試問題研究講座の開催

・　生徒による課題研究及び発表（数学）

・　予備校講師による難関大学合格に向けたハイレベル講座の開催

(2)　教職員現職教育計画に基づいて、各種研修会や講習会を

開催し、教職員の職責にふさわしい資質・能力の向上に努めるとともに、社会の変化や時代の進展に対応した実践的指導力を習得させるため、各種の研修等を実施した。

(3) 多様化した生徒の心の問題の解決のために、ピュアハートサポートプロジェクトとしてカウンセリング等の各種研修会を開催し、教員の資質向上に努めた。さらに、教育相談専門研修及び関係機関との連携強化のために各種連絡協議会を開催し、教員の実践的指導力の向上を図った。

5 特別支援教育関係

(1) 平成19年4月、学校教育法等の一部改正の施行により、特別支援教育は、特別支援学校のみならず、幼稚園、小・中学校、高等学校等に在籍する発達障がいのある児童生徒等も含めて、特別な支援を必要とする児童生徒等が在籍するすべての学校において実施されることになったことを踏まえ、県教育委員会では、福島県学校教育審議会に本県における今後の特別支援教育の在り方について諮問し、平成21年9月に答申を受けた。

本答申では、「子どもたちは、障がいのあるなしにかかわらず、地域に支えられるとともに、地域を支える一員として生きていくことが期待されていることから、地域の幼稚園・保育所、小・中学校、高等学校、特別支援学校において、地域の関係機関による連携した支援の下、障がいのある子ども一人一人のニーズに応じた教育の実現を目指す。」として、「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進を基本理念として掲げている。

本答申を具体的な施策に反映させるため、第６次福島県総合教育計画（改訂版）においては、「地域における支援体制の整備・充実と理解啓発の促進」、「小・中学校における特別支援教育の充実」、「高等学校における特別支援教育の充実」、「特別支援学校における特別支援教育とセンター的機能の充実」、「教員の特別支援教育に関する指導力の向上」の５項目を本県の目指すべき特別支援教育の方向性として示した。

(2) 社会自立目指すスキルアップ事業」を実施し、高等部設置県立特別支援学校全校による特別支援学校作業技能大会を開催した。各校の進路に関する学習の成果を発表し合ったり、作業技能検定等において外部専門家から客観的な評価を受けたりすることを通して、生徒の社会参加・自立につながる学力や技能、意欲の向上を図った。また、「キャリア教育推進事業（特別支援学校就労推進事業）を実施し、特別支援学校高等部生徒の就職率と職場定着率の向上に向けて、労働や福祉の関係機関と連携体制の構築と、企業への理解啓発並びに企業で働き続けることのできる人材の育成を図った。

(3) 「地域支援体制整備充実事業」では、県内全域を推進地域とし、理解啓発セミナーや研修会等を通して、市町村における相談機能や支援体制の整備を進めた。各地域では、保健福祉部局と連携を図り、ポートフォリオ形式の相談支援ファイルを作成し、早期からの継続した支援を充実させる取組みを進めた。また、教育事務所を中心として養護教育センター、特別支援学校がそれぞれの役割や機能を生かし、地域支援チームとして連携・協力して市町村や学校等のニーズに応じて、支援体制整備に向けた取組を行った。

(4) 「平成25年度特別支援学校における医療的ケア実施事業」を実施し、教育・医療・福祉等関係者からなる「医療的ケア実施運営協議会」を設置し、本県における医療的ケアの在り方について研究・協議を行った。また、常時、医療的ケアを必要とする児童生徒（訪問教育や病院入院生徒は除く）が在籍している学校（12校）に常勤講師及び特別非常勤講師として看護師を配置した。さらに、医療的ケアの実施を指導する「指導医の委嘱」、地域の保健・医療・福祉機関のバックアップ体制の確立のための「医療的ケアサポート会議の設置」、医療的ケアの実施に必要な「医療機器等の整備」を行った。

6 社会教育関係

(1) 県社会教育委員の会議では、公募委員２名を含む１６名に委員を委嘱した。

本年度は、本県における社会教育推進や地域の教育力向上をめざした施策について、体制づくりや人材育成等のあり方を審議し、平成２６年３月に提言『「学校、家庭、地域が一体となった教育の実現」に向けて～これからの社会教育推進のために～』にまとめた。

(2) 震災からの復興のために、地域コミュニティを再生していくことが重要である。そのために、地域の実情に即して、学校・家庭・地域住民の連携を進めるとともに、それぞれが主体的かつ確実にその役割を果たしながら、地域の教育力向上を図ることができるよう、子どもたちの健全育成と安心安全な活動拠点づくりを推進するための「放課後子ども教室推進事業」や、地域人材や社会教育団体などの参画を得て、学校と地域の連携の構築を図り、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進する「学校支援地域本部事業」、学校や公民館等の社会教育施設に学習活動をコーディネートする人材を配置し、地域住民の学習・交流を促進するとともに、子どもたちの良好な生活環境を整備し地域コミュニティの再生を図る「地域支援推進事業」などを実施した。

また、災害記録の保存と県民への情報提供に活用する資料の収集を行い、移動図書館や協力車の巡回を実施して読書普及を通じた支援を行った。

(3) 家庭教育は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーを身につける上で重要な役割を担っている。

しかしながら、少子高齢化、高度情報化等、社会環境が激しく変化する現在、子育てに関する課題等も多様化して

いる。そこで、地域ぐるみで子どもたちをはぐくむ仕組みの構築に努め、「子どもをはぐくむ家庭・地域支援事業」等を実施した。

(4) 青少年の豊かな人間性や社会性をはぐくむためには、異年齢の子ども同士や地域の大人等の関わりのもと、自然体験、ボランティア活動、職業体験、交流体験、スポーツ・文化活動等の様々な体験の機会の充実や社会環境づくりが促進されることが必要である。

そのために、体験活動・ボランティア推進センター事業を実施するとともに、学校・家庭・地域が連携を進めながら、地域ぐるみで青少年を育成する環境づくりが推進されるよう、子どもと大人が、共通の体験をとおして、感動したことや共感したことを話し合い、日本古来の五・七・五の十七音で表現した作品を募集・表彰・広報する「十七字のふれあい事業」を実施した。

(5) 地域における大人の持つ知識や技能、公民館等において学習した成果などを、地域社会に還元する活動の重要性が高まっていることから、地域の教育力の向上への取組と関連させながら、成人の学習活動や社会参加活動を促進するよう努めた。

(6) 平成22年度３月に策定した「福島県子ども読書活動推進計画（第二次）」を踏まえ、関係機関と連携して、地域で子どもの読書活動を推進するボランティアの資質向上を図り、学校図書館への支援等もできる人材の養成に努めた。また、福島県子ども読書活動推進会議を開催し、読書活動推進に向けた協議を行った。

(7) ユネスコ憲章の精神に基づく教育・科学・文化活動についての理解を県民一般に広めるよう努めた。

(8) ふくしまっ子体験活動応援事業

子どもたちがのびのびと活動できる環境が少なくなっている折、心身ともにリラックスできる環境の中で体験活動を実施する団体に対して、補助金を交付した。

7 文化関係★

(1) 文化振興による地域づくりを施策の柱に加えた新しい「福島県文化振興基本計画」～ふくしま文化元気創造プラン～を平成22年3月に策定したが、東日本大震災・原子力災害などによる社会経済情勢の変化を踏まえ、平成25年3月に本計画を見直し、文化の力による創造的な復興を目指し改訂した。

(2) 福島県文学賞、福島県総合美術展覧会等の事業を実施し、県民文化活動の促進と発表機会の充実に努めた。

(3) 県民の芸術文化の振興と東日本大震災以降の県民の心の復興を図るため、県立美術館での「震災復興支援特別展 若冲が来てくれました」や県立博物館の「2013年ＮＨＫ大河ドラマ特別展 八重の桜」等の企画展を開催した。

(4) 国指定文化財では、重要文化財（彫刻）として、いわき市長福寺「木造地蔵菩薩像」１躯が指定された。また史跡では、伊達市「宮脇廃寺跡」、棚倉町「流廃寺跡」が新規指定、白河市「小峰城」が追加指定された。さらに、名勝とし二本松市「黒岩の岩屋」がおくの細道風景地として指定された。

(5) 各種の開発から埋蔵文化財を保護するため、一般国道115号相馬福島道路など10事業について表面調査・試掘確認調査を実施した。

また、現状保存できない遺跡については、会津縦貫北道路など５事業で記録保存のための発掘調査を実施し、報告書を刊行した。

(6) 文化財の保存と活用を一体的に図るため、文化財の修理等の保存事業と公開等活用事業を併せて実施する場合に助成を行う指定文化財保存活用事業を実施し、国・県指定等28件の助成を行った。

また、東日本大震災で甚大な被害を受けた文化財については国・県指定12件の修復事業に対して助成を行った。

(7) 各種コンクール等においては、例年のとおり音楽関係分野の活躍がめざましく、第66回全日本合唱コンクール全国大会高等学校部門において、会津高等学校が３年連続の金賞および第２位相当の広島県知事賞を受賞した。また、安積黎明高等学校が34年連続35回目の金賞および第３位相当の広島県教育委員会賞を受賞し、郡山高等学校が混声合唱として初の金賞を受賞した。

同コンクール中学校部門では、郡山市立郡山第五中学校が史上初、混声・同声で金賞と最高賞の文部科学大臣賞を受賞した。さらに混声で郡山市立郡山第二中学校（11年連続金賞）、同声で会津若松市立第四中学校が金賞と第２位に相当する福山市長賞を受賞した。日本学校合奏コンクール全国大会では、郡山市立橘小学校の弦楽アンサンブル、郡山市立郡山第二中学校管弦楽部が金賞と最高賞の文部科学大臣賞を受賞した。

音楽以外の分野でも、第4回国際ナノ・マイクロアプリケーションコンテストで郡山北工業高等学校が国内予選第１位、世界第２位を受賞、第34回U-20プログラミングコンテストで、郡山北工業高等学校の羽生徹さんが第1位相当の経済産業大臣賞を受賞、第13回高校生ものづくりコンテスト全国大会建設系木材加工部門で、福島工業高等学校の盛藤駿介さんが優勝、第37回全国高等学校総合文化祭長崎大会小倉百人一首かるた部門読手コンクールの部で、安積黎明高等学校の星杏奈さんが第１位相当の最優秀賞を受賞、第60回ＮＨＫ杯全国高校放送コンテスト全国大会の創作テレビドラマ部門において、磐城高等学校が３年連続の優勝、テレビドキュメント部門で相馬高等学校が優勝、第61回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会学校家庭クラブ活動の部において、福島北高等学校が2年連続第１位相当の文部科学大臣賞を受賞、全経簿記電卓競技全国大会団体競技電卓の部において、郡山商業高等学校が第1位となるなど、本県のめざましい活躍が見られた。

8　生涯学習関係★

県民の多様なニーズや学習活動の広域化に対応するため、県・市町村・大学等高等教育機関、民間教育機関等が連携・協力し、県民が主体的、継続的に学習活動に取り組めるよう、生涯学習に関する情報や学習機会を体系化して提供するしくみである「ふくしま学習空間夢まなびと」を運営し、生涯学習の推進に努めた。

福島県を復興し地域コミュニティを再生するには、地域課題を解決するための県民一人ひとりの「力」が欠かせないことから、地域をつなぐ活動や地域課題を解決するための学びの場の提供を行い、地域の核となる人材を養成するための事業等を実施した。

東日本大震災の記録及び教訓等を次世代に継承するため、資料の収集及び保存等を行った。

また、子どもたちが、地域の状況やふくしまの未来について考え、新聞にまとめHP等を活用し、県内外に発信する「ジャーナリストスクール」等を実施し、ふくしまの復興を担う子どもたちの育成に努めた。

9　スポーツ関係★

平成２５年３月に「福島県スポーツ推進基本計画」を策定し、以後８年間のスポーツ施策の方向性を定めた。平成２２年３月に策定した福島県スポーツ振興基本計画は、東日本大震災や津波、原子力発電所事故により、本県を取り巻く社会経済情勢が大きく変化したことや、国が新たに「スポーツ基本法」を施行し、同法に基づいて「スポーツ基本計画」が策定されたことから、その内容の見直しを行ったものである。

ソチ冬季オリンピックに、穂積雅子選手、遠藤尚選手、星野純子選手が本県出身やゆかりの選手として出場。同パラリンピックにおいては鈴木猛史選手が出場し、アルペンスキー男子回転座位で金メダルを獲得。県民栄誉賞を受賞した。また、第２７回ユニバーシアード競技大会では、根本理世選手が卓球競技女子団体優勝、ダブルス３位入賞をを果たし、田野倉翔太選手はレスリング競技男子グレコローマンスタイル５５kg級第３位の成績を収めた。高校生では、アジアユースバドミントン大会において、大堀彩選手（富岡高２年）が女子シングルスで優勝を果たした。
多くのトップアスリートが世界を舞台に活躍し、県民に勇気や元気を与え、改めてスポーツの力を感じる機会となった。

本県競技力の向上を図るため、強化選手や強化チーム並びに中・高校の運動部を指定し、長期的・組織的・計画的に選手を育成する「競技別一般強化合宿事業」を中心に、各種事業を実施した。特にバドミントン競技及びゴルフ競技においては、トップレベルの指導者を招聘し、中高連携の一貫した指導体制のもと、優秀な選手を育成する「専任コーチ活用事業」を実施した。また新規事業として、前事業を継承し陸上競技をツールに用いて、子どもたちの体力向上、心身の健康を図るとともに、将来の日本一の選手誕生を目指した「陸上王国福島」パワーアップ事業を実施した。

なお、優秀な人材の発掘と育成を目標とした、「うつくしまスポーツキッズ発掘事業」の発掘テストは、再開２年目で震災前と同じ５地区で開催することができた。

全国中学校体育大会で猪苗代中学校バドミントン部（原発事故の影響により富岡一中の生徒が在籍）が男女とも団体優勝（男子は４年連続４度目、女子は３年連続４度目）、個人ではバドミントン競技男子ダブルスで本田大樹・筑後恵太組（猪苗代中学校）、女子シングルスで仁平菜月選手（猪苗代中３年）、ソフトテニス競技女子で大貫彩・久我奈々子組（西郷第二中学校）、陸上競技男子３０００ｍで遠藤日向選手（郡山第四中３年）、同じく男子砲丸投で布川輝選手（石神中３年）が優勝を果たした。

また、全国高等学校総合体育大会では、バドミントン競技で富岡高等学校が昨年の女子に続き、男子団体で悲願の初優勝を果たし、女子団体も２位入賞、男子ダブルスでは保木・小林組が見事優勝するなど活躍し、ウエイトリフティング競技でも近内三孝選手（田村高３年）が62kg級で優勝した。２月には、猪苗代町で２９年ぶりに全国高校スキー大会を開催し、全国各地から集まった高校生スキーヤーが熱戦を展開した。地元猪苗代高等学校の２選手が入賞する活躍もあり、大会は盛会のうちに終了した。

年度末に開催された選抜大会においては、富岡高等学校バドミントン部が女子学校対抗で優勝、男子学校対抗で２位入賞し、男子ダブルスにおいても優勝を果たした。

さらには、国民体育大会においては、ウエイトリフティング競技少年男子62kg級で近内三孝選手（田村高３年）が全国高校総体に引き続き優勝を果たし、カヌー競技においても少年女子WK-1　５００ｍで小久保南海選手（安達高１年）が一年生ながら見事優勝した。冬季大会では、スケート競技少年女子１５００ｍで水澤彩佳選手（郡山商３年）が本県少年勢としては初めて優勝を果たすなど、少年種別で全国の強豪相手に健闘した。

10　福利厚生関係

(1)　特定健康診査等を実施するとともに、教職員の生活習慣病の早期発見・早期治療に資するため、人間ドック等の健診事業を、県、市町村、公立学校共済組合、財団法人福島県教職員互助会等が連携を図りつつ実施した。

(2)　教職員の健康管理意識を高めるため、放射線や生活習慣病、メンタルヘルス等に関する各種セミナー事業を実施し、教職員の心身の健康づくりを支援した。

また、ふくしま教職員こころのケア事業等をはじめとする各種相談事業やストレスチェック事業を実施し、メンタルヘルス対策の充実を図った。

第２章　教　育　行　政

第１節　平成25年度福島県教育委員会重点施策

☆　県教育委員会では、平成２２年３月に策定した「“ふくしまの和”で奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり」を基本理念とする「第６次福島県総合教育計画」に基づき、３つの基本目標を定めて各施策を展開し、目標の達成を目指して教育行政を推進している。

☆　この計画の適切な運用に努めるため、３つの基本目標ごとに毎年度、重視する観点を以下のように定め、これに基づき実施する事業を明らかにしている。

☆　生涯学習、文化及びスポーツに関する事業については知事部局の企画調整部文化スポーツ局において所管しているが、県教育委員会も連携を図りながら推進していく。

（知事部局所管の事業に★を付す。）

「平成２５年度に重視する観点」に対応した事業

基本目標１「知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成」において重視する観点

○ふくしまの復興・再生に向けた、生き抜く力を育む教育の推進

子どもたちの「確かな学力」、「豊かなこころ」と「健やかな体」をバランスよく育み、ふくしまの再生に向けた生き抜く力を育む教育を推進します。特に、震災の教訓を生かした道徳教育の充実、医学や新たな産業の基盤となる理数教育、児童生徒の発達段階に応じた放射線教育の推進、国際化の進展に対応できる国際人の育成とともに、新学習指導要領の円滑な実施、関係機関との連携による学力や体力の維持・向上、読書活動の推進、小・中学校等における特別支援教育の推進、就職の支援などに取り組みます。

継　続　ピュアハートサポートプロジェクト
（学校の教育活動（全体）を通した道徳教育の充実、道徳教育総合支援事業、人権教育開発事業、スクールカウンセラー等活用事業、スクールカウンセラー活用事業、学校教育相談員配置事業、緊急時カウンセラー派遣事業、緊急時スクールカウンセラー派遣事業（災害分）、緊急時カウンセラー派遣事業（災害分）、スクールソーシャルワーカー緊急派遣事業、子ども２４時間いじめ電話相談事業、生徒指導総合推進事業、不登校対策推進事業、いじめ問題等対策支援事業）

継　続　緊急スクールカウンセラー等派遣事業（スクールカウンセラー等派遣事業）★

継　続　学校すこやかプラン（夢をはぐくむいのち生きいきプロジェクト事業）

継　続　「みんなで築こう男女共同参画社会」公開授業

継　続　児童生徒の発達段階に応じた体験活動の推進

継　続　自然の家の利用促進

継　続　ふくしまっ子体験活動応援事業

継　続　幼児教育の振興

継　続　豊かな心をはぐくむ子ども読書活動推進事業

継　続　読書活動推進事業

継　続　ふくしま子ども憲章推進事業

継　続　「ふくしま子ども宣言」推進事業

継　続　児童生徒の体力向上推進事業

継　続　放射線から子どもの健康を守る対策支援事業

継　続　スポーツ関係団体運営・活動支援★

継　続　地域スポーツ人材の活用実践支援事業

継　続　学校における食育推進プロジェクト（朝食について見直そう週間運動）

新　規　学校給食地場産物活用事業（「いただきます。ふくしまさん」事業、学校給食おいしい県産農林水産物活用事業）

継　続　学校すこやかプラン（学校保健課題解決支援事業、健康教育推進者パワーアップ事業）

新　規　学校欠席者サーベイランス事業

継　続　教科等における言語活動の充実

継　続　学校における読書活動の推進

継　続　学力向上推進支援事業（小・中学校）

継　続　学力向上推進支援事業（高等学校）

新　規　学力向上地域連携事業

新　規　サポートティーチャー派遣事業

新　規　授業力向上に係る調査研究

継　続　ふくしまの未来を拓く理数教育充実事業（小・中・高等学校）

継　続　スーパーサイエンスハイスクール事業

継　続　サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト

継　続　科学・技術研究論文募集事業（野口英世賞）

継　続　中山間地域インターネット活用学力向上支援事業

新　規　放射線教育推進支援事業

新　規　防災学習推進支援事業

継　続　双葉地区教育構想（福祉健康人材育成プラン）

継　続　小・中学校における勤労観・職業観の基盤形成

継　続　高等学校における進路決定能力等の育成

継　続　市町村立学校における職場体験活動の促進

継　続　ふくしま地域医療の担い手育成事業

継　続　高等学校インターンシップ推進事業

継　続　デュアルシステムの活用の普及

継　続　県立高等学校就職促進支援員配置事業

継　続　キャリア教育推進事業(専門高校プロジェクト事業)

継　続　キャリア教育推進事業（専門高校における小・中学校連携事業）

新　規　インクルーシブ教育システム構築事業（地域支援体制整備充実事業、地域教育相談推進事業、早期から

の教育相談・支援体制構築事業）
継　続　「個別の教育支援計画」の作成と活用の促進
継　続　地域で共に学び、共に生きる教育理解啓発事業
継　続　「交流及び共同学習」の促進
継　続　「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進
継　続　視覚障がいに応じた教材教具貸与事業
継　続　視覚障がい支援講師配置
継　続　ＡＤＨＤ通級指導教室講師配置
継　続　高等学校学習支援推進事業
継　続　身体に障がいのある生徒に対する支援事業
新　規　社会自立を目指すスキルアップ事業
継　続　キャリア教育推進事業（特別支援就労支援事業）
継　続　特別支援学校における医療的ケア実施事業
継　続　特別支援学校における外部専門家活用事業
継　続　校内研修の充実
継　続　教員研修の充実
継　続　情報化対応研修の充実
継　続　ＩＣＴを活用した学習活動の推進
継　続　情報モラル教育に関する教材の開発や実践事例の提供等
継　続　うつくしま教育ネットワーク事業
継　続　県立学校ＩＴ環境整備事業
継　続　県立学校校内ＬＡＮ整備事業
継　続　教育用コンピューター機器の整備
新　規　小学生外国語活動・異文化体験活動充実事業
新　規　ふくしまの未来を担う高校生海外研修支援事業
継　続　ふくしまグローバルセミナー
継　続　外国語指導助手の母国の文化や習慣を学ぶ機会の提供
継　続　国際理解・国際交流論文募集事業（朝河貫一賞）
継　続　うつくしま電子事典
継　続　伝統や文化に触れる機会の充実
継　続　英語指導力向上事業
継　続　外国語指導助手（ＡＬＴ）の配置
継　続　外国語指導助手の指導力等向上研修
継　続　小学校外国語活動講座
継　続　外国人児童生徒等への支援体制の整備
継　続　双葉地区教育構想（国際人育成プラン）
継　続　会津学鳳中学校・高等学校における国際化社会、情報化社会のリーダーとして活躍できる人づくり
継　続　医科大学運営費交付金★
継　続　会津大学運営費交付金★
継　続　医科大学施設・設備整備事業★
継　続　会津大学復興支援センター拠点施設等設計事業★
新　規　医科大学修学支援宿泊施設整備事業

基本目標２「学校、家庭、地域が一体となった教育の実現」において重視する観点
○家族や地域の絆を生かした、学校、家庭、地域が一体となった教育力の向上
震災により改めて認識された家族や地域の絆を生かしながら、地域コミュニティの再生を図りつつ、学校・家庭・地域が一体となり、総合的に教育力の向上を図ります。このため、地域全体で学校教育を支援する体制の充実や、関係部局との連携による家庭教育の支援の強化、公民館などを活用した地域における防災力の向上支援に取り組むとともに、被災した文化財の修復や伝統文化、体験・交流活動等に係る支援、文化施設相互の連携をさらに推進します。

継　続　学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業（学校支援地域本部事業）
継　続　体験活動・ボランティア推進センター事業
継　続　学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業（地域支援推進事業）
継　続　学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業（放課後子ども教室推進事業）
継　続　コーディネーター等の育成への支援
継　続　社会教育研修会の充実
継　続　公民館主事等の研修の充実
継　続　公共図書館の連携による読書環境の整備・促進
継　続　司書研修会の実施
継　続　十七字のふれあい事業
継　続　保護者への学習機会の提供
継　続　子どもをはぐくむ家庭・地域支援事業
継　続　家庭教育の情報や資料の提供
継　続　ＰＴＡ連合会等の支援
継　続　生涯学習による復興応援事業（ふくしまの地域や学習をサポートする環境づくり）★
継　続　美術館・図書館・博物館の整備・充実
継　続　東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業
継　続　社会教育施設災害復旧事業
新　規　地域における防災力向上支援事業
新　規　文化による心の復興支援プロジェクト
継　続　東日本大震災等収集保存活用事業★
継　続　県民カレッジ推進事業（学習情報の提供）★
継　続　自然の家の利用促進
継　続　県立学校における森林自然学習支援事業
継　続　「尾瀬子どもサミット」小・中学生３県交流事業
継　続　「せせらぎスクール」への取組の推進
新　規　再生可能エネルギー教育実践事業
継　続　ふくしま子ども自然環境学習推進事業
継　続　指定文化財保存活用事業
継　続　地域に根差した文化財の災害復旧支援事業
継　続　歴史資料館収蔵資料電子データ化事業★
継　続　地域の「きずな」を結ぶ民俗芸能支援事業
新　規　子供達によるふるさと「ふくしま」の学び事業★（ふるさと「ふくしま」の学び事業、学びによる未来を担う子ども育成事業）
新　規　「地域のたから」伝統芸能承継事業
新　規　ふくしまの心の復興アートプロジェクト
継　続　被災ミュージアム再興事業

基本目標３「豊かな教育環境の形成」において重視する観点

○復興・再生に向けた教育環境の充実

震災により被災した教育施設の復旧、県立高校サテライト校における教育環境の充実、防災教育や防災管理体制の充実、奨学金の拡充、児童生徒の受ける放射線量の低減、学校給食の検査体制への支援、学校施設の耐震化・老朽化対策、特別支援学校の整備推進、被災した児童生徒に適切に対応するための教員配置、教員研修の充実など、復興に向けて、子どもたちが安心して学ぶことができる教育環境の充実に努めます。

継　続　県立学校教員人事公募選考制度
継　続　教職員目標管理制度の効果的な運用
継　続　教職員の資質向上に向けた研修の充実
継　続　教員の服務倫理に関する研修の充実
継　続　教職員の服務倫理の確立のための取組
継　続　優秀教職員表彰制度
継　続　指導不適切教諭等の資質向上事業
継　続　学校の組織運営体制の改善
継　続　教員の多忙化解消のための取組
継　続　教職員健康管理事業
継　続　教職員メンタルヘルス事業（ふくしま教職員こころのケア事業（共済組合））
新　規　教職員メンタルヘルスカウンセリング事業
継　続　教職員相談事業
継　続　学校評議員制度の導入の促進
継　続　学校評価の充実
継　続　学校評議員による学校関係者評価の実施
継　続　新任校長・教頭研修会
継　続　校長・教頭のためのマネジメント講座
継　続　「ふくしま教育の日」啓発
継　続　「学校へ行こう運動」の推進
継　続　マニュアルに基づいた対応の徹底
継　続　市町村教育委員会等への情報提供と感染予防・拡大防止
継　続　学校安全計画の充実などによる安全体制の整備
継　続　県立学校等自動体外式除細動器整備事業
継　続　小・中学校における児童生徒の安全確保の促進
継　続　情報モラル教育の充実やネット被害等から児童生徒を守るための環境の整備
継　続　学校給食検査体制支援事業
継　続　学校給食モニタリング事業
継　続　県立学校施設等災害復旧事業
継　続　県立学校施設応急仮設校舎等設置事業
継　続　県有施設耐震改修事業（県立学校）
継　続　大規模改造事業
継　続　高等学校等校舎改築事業
継　続　市町村立学校施設の耐震化の促進
継　続　高校等奨学資金貸付事業
継　続　大学等奨学資金貸付事業
継　続　被災児童生徒等就学支援事業（被災幼児就園支援事業、被災児童生徒就学援助事業）
継　続　被災児童生徒等特別支援教育就学奨励事業
継　続　特別支援学校特別支援教育就学奨励費
継　続　高等学校通学費支援事業
新　規　未来を担う子どもたちの安心就学環境支援事業★
新　規　未来の子どもを守る食の安全確保事業★
継　続　新しい文化の風交流事業★
継　続　声楽アンサンブルコンテスト全国大会開催事業★
継　続　文学賞実施事業★
継　続　県展開催事業★
新　規　文化で元気！”新生ふくしま”グランドステージ事業
継　続　復興の担い手を育む芸術文化活動支援事業
継　続　うつくしま広域スポーツセンター事業★
継　続　ふくしまからスポーツ発信・全国大会誘致事業（大会開催支援事業）★
新　規　日本陸上競技選手権大会開催準備事業）★
新　規　「陸上王国福島」パワーアップ事業（小・中学生陸上競技出前講座、小学生特設陸上部指導事業、中学校陸上選手指導事業）★
継　続　地域連携型人材育成事業（双葉地区教育構想）★
継　続　うつくしまスポーツキッズ発掘事業★
継　続　競技力向上特別対策事業★
新　規　スポーツ環境復興緊急対策事業★
継　続　福島県私学振興基金協会貸付金★
継　続　私立学校設備整備事業等補助金★
継　続　私立小中学校少人数教育推進事業補助金★
継　続　私立幼稚園子育て支援推進事業★
継　続　認定こども園支援事業★
継　続　私立幼稚園心身障がい児教育費補助金★
継　続　私立学校運営費補助金（一般分）★
継　続　私立幼稚園教育振興事業補助金★
継　続　福島県私立学校教職員退職手当資金給付事業補助★
継　続　私立学校運営費補助金（教育改革推進特別分）★
継　続　私立学校被災児童生徒等就学支援★
継　続　高等学校等就学支援金★
継　続　私立高等学校就学支援事業★
継　続　私立専修学校就学支援事業★
継　続　企業ＯＢ等の地域人材を活用した教育支援・県内企業就職促進支援事業★
継　続　緊急スクールカウンセラー等派遣事業（進路指導・就職支援体制強化事業）
継　続　学校運営状況調査★
継　続　少人数教育推進事業
継　続　特色ある教育課程の編成
継　続　地域の実態に応じた教員の配置

継　続　学校改革調査事業
継　続　高校改革懇談会事業
継　続　通学区域についての検討
継　続　双葉地区教育構想推進事業（双葉地区教育構想緊急対応事業、富岡高等学校「国際・スポーツ科」支援事業）
継　続　中高一貫教育校の効果的な運営と教育内容の改善
継　続　今後の県立特別支援学校の在り方の検討
継　続　サテライト校の整備・充実（サテライト校宿泊施設支援事業、サテライト校運営管理事業、サテライト校支援事業）
継　続　復旧・復興の基盤づくりのための教員配置

第２節 教育委員会

１ 教育委員会

平成25年10月18日に開催された教育委員会定例会において、委員長に小野栄重委員が互選され、委員長職務代理には、高橋金一委員が指定された。その後、平成25年12月23日に委員長の任期が満了となることに伴い、平成25年12月19日に開催された教育委員会定例会において、委員長に小野栄重委員が互選され、委員長職務代理には、高橋金一委員が指定された。

職名	氏名	就任年月日	職業	備考
委員長	小野　栄重	平成25年12月24日（２期目）	会社代表取締役	いわき市
委員長職務代理者	高橋　金一	平成23年12月27日	弁護士	郡山市
委　員	境野　米子	平成23年４月１日（２期目）	生　活評論家	福島市
委　員	蜂須賀禮子	平成24年10月19日	生　花販　売	大熊町
委　員	佐藤　有史	平成24年10月19日	会社代表取締役	会津若松市
教育長	杉　　昭重	平成24年４月１日		福島市

２ 審議事項

４月定例会(25.4.19)

○　審議事項
(1)　技能労務職員の給与及び勤務時間等に関する規則等の一部を改正する規則の一部を改正する規則について
(2)　平成２６年度福島県公立学校教員採用予定者数について

○　報告事項
(1)　平成２５年度福島県立高等学校入学者選抜の結果について
(2)　平成２５年度福島県立特別支援学校高等部入学者選抜の結果について

５月定例会(25.5.17)

○　審議事項
(1)　課長相当職、副課長相当職等の職の職務の見直しに伴う関係規則の整理に関する規則について
(2)　福島県教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価実施要綱の一部改正について
(3)　教職員の懲戒処分について

○　報告事項
(1)　体罰に係る文部科学省報告について
(2)　平成２６年度使用教科用図書の採択等に関する答申について

６月定例会(25.6.14)

○　審議事項
(1)　教育長臨時代理による処理の承認について
（平成２４年度福島県一般会計補正予算(教育委員会関係部分)について）
(2)　平成２５年度６月補正予算案(教育委員会関係部分)について
(3)　教育長臨時代理による処理の承認について
（工事請負契約の一部変更について（福島高等学校災害復旧（校舎改築・建築）工事））
(4)　工事請負契約案について
(5)　福島県社会教育委員の任免について
(6)　平成２６年度使用教科用図書調査研究資料について
(7)　福島県教育庁事務職員及び福島県公立学校事務職員の人事について
(8)　教職員の懲戒処分について

○　報告事項
(1)　訓告処分等について

７月定例会(25.7.17)

○　審議事項
(1)　教育長臨時代理による処理の承認について
（技能労務職員の給与の臨時特例に関する規則の制定について）
(2)　福島県教育委員会が管理する公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する規則の一部を改正する規則について
(3)　福島県立博物館運営協議会委員の任免について
(4)　教育庁職員（教員系）の人事について
(5)　教職員の懲戒処分について
(6)　退職手当の支給について

○　報告事項
(1)　訓告処分等について

８月定例会(25.8.21)

○　審議事項

(1) 平成２６年度使用県立特別支援学校小学部・中学部・高等部の教科用図書の採択について
(2) 平成２６年度使用県立高等学校の教科用図書の採択について
(3) 県立高等学校長の人事について
(4) 教育庁職員（教員系）の人事について
(5) 教職員の懲戒処分について
(6) 退職手当の支給について

○ 報告事項
(1) 訓告処分等について

９月定例会(25.9.13)

○ 審議事項
(1) 平成２６年度福島県立中学校入学者選抜について
(2) 平成２６年度福島県立高等学校入学者選抜について
(3) 平成２６年度福島県立特別支援学校高等部入学者選抜について
(4) 平成２５年度９月補正予算案(教育委員会関係部分)について
(5) 工事請負契約の一部変更案について
(6) 平成２５年度教育・文化関係表彰について
(7) 平成２６年度福島県公立学校実習助手採用予定者数及び平成２６年度福島県公立学校寄宿舎指導員採用予定者数について
(8) 教職員の懲戒処分について

○ 報告事項
(1) 訓告処分等について

10月定例会(25.10.18)

○ 審議事項
(1) 平成２６年度福島県立学校生徒募集定員について
(2) 公の施設の指定管理者の指定案について
(3) 図書館協議会委員の任命について
(4) 平成２５年度教育・文化関係表彰について
(5) 平成２６年度人事異動方針及び各人事異動実施要項について
(6) 平成２６年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験について
(7) 教職員の懲戒処分について
(8) 退職手当の支給について

○ 報告事項
(1) 訓告処分等について

○ 委員長選挙

○ 委員長職務代理者の指定

11月定例会(25.11.22)

○ 審議事項
(1) 平成２５年度１２月補正予算案(教育委員会関係部分)について
(2) 福島県立美術館条例の一部を改正する条例案について
(3) 福島県立博物館条例の一部を改正する条例案について
(4) 福島県自然の家条例の一部を改正する条例案について
(5) 工事請負契約の一部変更案について
(6) 損害賠償の額の決定及び和解案について
(7) 平成２５年度中学生・高校生の国際理解・国際交流論文朝河貫一賞の受賞者について
(8) 平成２５年度中学生・高校生の科学・技術研究論文野口英世賞の受賞者について
(9) 教育長臨時代理による処理の承認について
(市町村公立学校長の人事について)
(10) 市町村公立学校長の人事について
(11) 教職員の懲戒処分について

○ 報告事項
(1) 平成２５年度福島県市町村立学校教職員の勤務評定について
(2) 平成２５年度福島県立学校教職員の勤務評定について
(3) 教職員等による不適切な行為に関する実態調査について
(4) 訓告処分等について

12月定例会(25.12.19)

○ 審議事項
(1) 平成２５年度教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価結果について
(2) 地方自治法第１８０条の２の規定に基づく協議について
(3) 教職員の懲戒処分について

○ 報告事項
(1) 訓告処分等について

○ 協議事項
(1) 双葉郡の中高一貫校について

○ 委員長選挙

○ 委員長職務代理者の指定

１月定例会(26.1.17)

○ 審議事項
(1) 教育職員の免許状に関する規則の一部を改正する規則について
(2) 平成２５年度教育・文化関係表彰について
(3) 平成２５年度福島県指定重要文化財指定の諮問について
(4) 平成２５年度福島県指定重要無形民俗文化財指定の諮問について
(5) 平成２５年度福島県指定天然記念物指定区域の部分指定解除の諮問について
(6) 教職員の懲戒処分について
(7) 教育職員免許状の取上げについて
(8) 平成２６年度福島県公立学校実習助手採用候補者選考試験の合格者について
(9) 平成２６年度福島県公立学校寄宿舎指導員採用候補者選考試験の合格者について
(10) 退職手当の支給について

○ 報告事項
(1) 平成２６年度人事異動（教員系）について
(2) 訓告処分等について

２月定例会(26.2.14)

○　審議事項

(1)　福島県立高等学校学則の一部を改正する規則について

(2)　福島県立高等学校の授業料等に関する条例の一部を改正する条例案について

(3)　平成２６年度当初予算案（教育委員会関係部分）について

(4)　平成２５年度２月補正予算案（教育委員会関係部分）について

(5)　福島県教育関係職員定数条例等の一部を改正する条例案について

(6)　福島県社会教育委員の定数及び任期に関する条例の一部を改正する条例案について

(7)　教職員の懲戒処分について

○　報告事項

(1)　平成２５年度福島県市町村立学校教職員の勤務評定について

(2)　平成２５年度福島県立学校教職員の勤務評定について

(3)　訓告処分等について

○　協議事項

(1)　平成２６年度人事異動（教員系）について

２月臨時会(26.2.28)

○　審議事項

(1)　市町村公立学校長の人事について

(2)　平成２６年度教育庁及び教育機関の主要職員(教員系)の人事について

(3)　平成２６年度市町村公立小・中・特別支援学校長の人事について

(4)　平成２６年度市町村公立小・中・特別支援学校教頭の人事について

(5)　平成２６年度県立学校長の人事について

(6)　平成２６年度県立学校教頭の人事について

(7)　指導不適切教諭等に対する措置について

３月定例会(26.3.17)

○　審議事項

(1)　第６次福島県総合教育計画「平成２６年度アクションプラン」について

(2)　福島県立高等学校の授業料の免除等に関する規則の一部を改正する規則について

(3)　技能労務職員の給与及び勤務時間等に関する規則の一部を改正する規則について

(4)　平成２７年度使用教科用図書選定審議会委員の任命について

(5)　福島県立美術館長の委嘱について

(6)　平成２６年度教育庁及び教育機関の職員の人事について

(7)　平成２６年度市町村公立小・中・特別支援学校教職員の人事について

(8)　平成２６年度県立学校教職員の人事について

○　報告事項

(1)　平成２７年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験実施に係る改善点について

(2)　土曜日等における授業の実施について

(3)　教職員等による不適切な行為に関する実態調査について

(4)　訓告処分等について

第３節　教育庁組織

理事兼政策監	尾形　淳一
教育次長（業務）	田代　公啓
教育庁参事（人事・企画）	笠原　裕二

課室名	職名	課長等名
教育総務課	課長	森下　平
	庁主幹兼副課長	鶴見　宏幸
	庁企画主幹兼副課長	山内　正之
財務課	課長	山田　英一
	主幹兼副課長	菅野　信之
施設財産室	室長	中島　博
	主幹	松本　信也
職員課	課長	齋藤　圭一
	主幹兼副課長	阿部　武彦
	主幹	朽木　栄作
福利課	課長	武田　和也
	主幹兼副課長	鈴木　正彦
社会教育課	課長	瀬谷　真理子
	主幹兼副課長	橘　廣中
	主幹	永瀬　功一
文化財課	課長	菅野　忠男
	副課長兼主任主査	金澤　昭
	副課長兼専門文化財主査	長島　雄一
義務教育課	課長	飯村　新市
	主幹兼副課長	佐藤　行広
	主幹	水野　達雄
	主幹	佐藤　秀美
高校教育課	課長	菅野　誠
	主幹兼副課長	金澤　卓志
	主幹	小島　稔
	主幹	瓜生　康弘
特別支援教育課	課長	阿部　教夫
	主幹兼副課長	上妻　弘
健康教育課	課長	笠井　淳一
	主幹兼副課長	皆川　信一
	主幹　（～８月）	大和田　範雄

教育事務所

教育事務所	所長・次長名		課長名	
県北	所長	芳賀　祐司	総務社会教育(兼)	粂　圭次
	次長(総)	粂　圭次	学校教育	伊藤　隆幸
	次長(業)	齋藤　吉成		
県中	所長	青田　誠	総務社会教育(兼)	鈴木　俊明
	次長(総)	鈴木　俊明	学校教育	佐藤　祐也
	次長(業)	長場　壮夫		
県南	所長	寺木　誠伸	総務社会教育(兼)	佐藤　庸雄
	次長(総)	佐藤　庸雄	学校教育	佐久間芳雄

	次長(業) 秦 公男		
会津	所長 梅田 善幸	総務社会教育(兼)	湯田 邦彦
	次長(総) 湯田 邦彦	学校教育	神田 順一
	次長(業) 星 克一		
南会津	所長 塩田 正信	総務社会教育(兼)	万波 憲一
	次長(総) 万波 憲一	学校教育(兼)	星 英雄
	次長(業) 星 英雄		
相双	所長 佐川 正人	総務社会教育(兼)	米沢 修志
	次長(総) 米沢 修志	学校教育	遠藤 和雄
	次長(業) 木村 政文		
いわき	所長 折笠 文昭	総務社会教育(兼) (~6月)	
	次長(総) (~6月)		棚瀬 和夫
	棚瀬 和夫	総務社会教育(兼) (7月~)	
	次長(総) (7月~)		佐藤 等
	佐藤 等	学校教育(兼)	永山 誠一
	次長(業) 永山 誠一		

所管教育機関等

教育機関名	所館長名	次長等名
福島県教育センター	青山 修身	次長(総務) 鈴木 芳夫 総務管理部長(兼) 鈴木 芳夫 研究・研修部長 (~8月) 吉田 豊彦 研究・研修部長 (9月~) 大和田 範雄
福島県養護教育センター	眞部 知子	主幹兼事務長 吉田 昌弘 企画事業部長 片寄 一
福島県立図書館	篠木 敏明	副館長 高野 浩二
福島県立美術館	早川 博明	副館長 鵜澤 義孝
福島県立博物館	赤坂 憲雄	副館長 門馬 靖
郡山自然の家	川島 敬章	次長 山口 祥則
会津自然の家	管原 克章	主幹兼次長 長沼 靖

第４節 企画調整

１ 教職員現職教育計画の策定

(1) 教職員現職教育担当者会議を開催し、平成26年度の教職員研修計画及び研究学校(地区)指定計画について策定に関する協議や関係課・所間の調整を行い、「福島県公立学校教職員現職教育計画」を策定した。

(2) 策定計画

回	開催期日	会議の場所	議事及び協議の概要
第１回	25.6.3	本庁舎正庁	○平成26年度教職員現職教育計画作成日程について ○平成26年度教職員現職教育計画策定に向けた全体及び各課・所の検討事項について ○平成26年度教職員現職教育計画作成方針を踏まえ、関係課・所において、予算化等を見通した研修の改善及び新設、変更、廃止の案の検討について
第２回	25.8.28	自治会館301会議室	○第１回会議の確認事項について ○各課・所における予算化等を見通した具体的計画案について ○平成26年度教職員現職教育計画修正案作成の関係課・所への依頼について

(3) 構成員

教育総務課
　企画主幹兼副課長、主任主査
社会教育課
　主幹、主任社会教育主事、社会教育主事兼指導主事
義務教育課
　課長、主幹、主任管理主事、主任指導主事、管理主事、指導主事
健康教育課
　主幹、主任指導主事、主任栄養技師、指導主事
特別支援教育課
　主幹兼副課長、主任指導主事、管理主事、指導主事
高校教育課
　課長、主幹、主任管理主事、主任指導主事、管理主事、指導主事
教育センター
　研究・研修部長、主任指導主事、指導主事
養護教育センター
　企画事業部長、主任指導主事

２ 調整事務

(1) 教育庁内企画・調整事務

ア　総合教育計画に関する連絡調整
イ　県教委重点施策に関する連絡調整
ウ　県教委点検・評価に関する連絡調整
エ　県重点事業に関する連絡調整
オ　県重点施策評価に関する連絡調整
カ　政府予算対策に関する連絡調整
キ　双葉地区教育構想推進事業に関する連絡調整

(2) 知事部局との調整事務

ア　知事直轄
　安全で安心な県づくり推進庁内連絡会議
イ　総務部
　行財政改革推進本部
ウ　企画調整部
　県総合計画関係、施策評価関係、県重点事業関係、政

府予算対策活動関係、過疎・中山間地域経営戦略本部会議、エネルギー政策検討会、電子社会推進本部会議、政策調整会議、避難地域復興推進会議、新生ふくしま復興推進本部会議

エ　生活環境部

ユニバーサルデザイン推進本部会議、青少年健全育成推進本部、環境影響評価庁内連絡会議、循環型社会形成庁内推進会議、景観形成推進庁内連絡会、特定外来生物対応庁内連絡会、男女共同参画推進本部会議、環境・エネルギー施策推進庁内連絡会議、ふくしま地球温暖化対策推進本部会議、除染・廃棄物対策推進会議

オ　保健福祉部

子育て支援推進本部会議、高齢社会対策推進本部会議

カ　商工労働部

緊急経済・雇用対策本部会議、街なか再生プロジェクトチーム、企業誘致・立地企業振興対策本部会議

キ　農林水産部

ふくしま県産木材利用推進会議

ク　土木部

県有建築物保全推進連絡会議、都市計画行政連絡会議

第５節　広報・広聴

１　教育委員会だより

(1)　編集方針

教育庁の新陣容や教育行政の諸領域の中から広報を要する事項及び教職員に周知させる必要のあるものを掲載し、教育委員会施策の徹底を図る。

(2)　内容

県教育委員会重点施策、県教育委員会所管予算、県教育庁組織改編の概要、県教育委員名簿・県教育庁新陣容、県教育庁の組織及び電話番号一覧、県教育庁各課・室配置図

(3)　規格・部数

ア　規格　　A4判　4ページ

イ　部数　　4,500部

(4)　配布対象

市町村教育委員会、県内公立学校、私立団体連合会、各教育関係機関、北海道・東北各県教育委員会等

(5)　発行時期

4月に発行

２　教育年報

(1)　編集方針

平成24年度の県教育行政の成果を記録し、将来に残る公的記録として保存する。

(2)　内容

平成24年度の本県教育行政の実績

(3)　規格・部数

ア　規格　　A4判　292ページ

イ　部数　　150部

(4)　配布対象

市町村教育委員会、各教育関係機関

３　福島県の教育

(1)　編集方針

本県教育の実績と教育行政の要点を図式化して掲載し、教育庁への来訪者等に配布し、本県教育に対する理解を図る。

(2)　内容

本県教育の実情及び教育行政の要点

(3)　規格・部数

ア　規格　　A4判　8ページ　カラー

イ　部数　　1,000部

(4)　配布対象

教育機関への来訪者、市町村教育委員会、県内公立学校、各教育関係機関、各都道府県教育委員会等

４　ふくしま教育ニュース

(1)　編集方針

県教育委員会の教育行政施策、実績等を県民、特に保護者を対象として伝えることにより、本県教育に対する理解を図る。６月・10月の年２回発行した。

(2)　内容

ア　第40号（６月発行）

第６次福島県総合教育計画の改定
平成25年度ふくしまっ子体験活動応援事業
「地域でともに学び、共に生きる教育」の推進
「豊かなこころ」の推進
サポートティーチャー派遣事業
文化財レスキュー事業
放射線教育推進支援事業
文化による心の復興支援プロジェクト
夏休みの主なコンテスト等
奨学生・各種相談窓口の案内

イ　第41号（10月発行）

小学生外国語活動・異文化体験活動充実事業
ふくしまの未来を担う高校生海外研修支援事業
中学生・高校生の活躍報告
テクノチャレンジ２０１３開催報告
運動身体づくりプログラム
第６３回全国高等学校スキー大会
他県からの応援職員の紹介
「ふくしま教育の日」
県教育委員会の事業紹介
転入学・入学者選抜に関する情報
平成25年度ふくしまっ子体験活動応援事業
相談窓口の案内

(3)　規格・部数

ア　規格　　A4判　4ページ　カラー

イ　部数　　各号　270,000部

(4)　配布対象

県内公立学校の全保護者、県外に避難している児童生徒の保護者、私立幼稚園及び小・中・高等学校、市町村教育委員会、各教育関係機関等

5　教育庁各課・所・館の広報誌・紙

課・所・館名	広報誌・紙名	内　　容	発行回数	判	ページ	発行部数	配　布　対　象
教育総務課	福島県の教育	本県教育の実情及び教育行政の要点を図式化して表示	1	A4	8	1,000	教育機関への来訪者、教育関係機関等
	教育委員会だより	県教育長あいさつ、教育施策及び予算、県教育委員名簿、電話番号	1	A4	4	4,500	県内公立学校、私学団体連合会、教育関係機関等
	教育年報	前年度の県教育行政の実績	1	A4	292	150	市町村教委、教育関係機関等
	ふくしま教育ニュース	県教育委員会の教育行政施策、実績、事業のお知らせ等	2	A4	4	270,000	県内公立学校の全保護者・教職員、教育関係機関等
福利課	ふくしま福利だより	教職員の福利・厚生事業の紹介等	4	A4	16（6月、9月） 12（12月、3月）	21,000	全教職員
社会教育課	社会教育	社会教育に関する情報、活動状況の取りまとめ	1	A4	8	－	webに掲載
教育センター	要覧	教育センターについての沿革、設置の趣旨、組織、予算、事業内容を掲載	1	A4	20	200	学校、関係機関
	所報ふくしま「窓」	教育関係者の提言や県内教員の教育研究等についての紹介及び教育センターからの案内	2	A4	8	－	webに掲載
	研究紀要	研究の成果をとりまとめて刊行し、本県学校教育の向上に資する。	1	A4	91	1,200	学校、関係機関
養護教育センター	センター案内リーフレット	事業の内容・啓発	1	A4二折		50	来所者等
	所報「特別支援教育」	センターの取組みや国内外の教育動向等	1	A4	31	50	関係機関 webに掲載
	要覧	沿革、事業体系、事業概要、施設・設備	1	A4	13	－	webに掲載
	研究紀要	プロジェクト研究及び調査研究についての研究成果のまとめ	1	A4	69	70	関係機関 webに掲載

課・所・館名	広報誌・紙名	内　　容	発行回数	判	ページ	発行部数	配　付　対　象
図書館	館 報 あ づ ま	図書館業務の広報	1	A４	6	1,000	図書館・関係機関
	福島県立図書館要覧	県立図書館の概況	1	A４	20	―	webに掲載
美術館	美術館ニュース 美術館ニュース ART IMFORMATION	企画展・普及事業等の案内	6	A４ A４ 三折		各11,000 各11,000	関係機関、来館者等 関係機関、来館者等
	ミュージアム カレンダー	年間事業紹介	1	B５		35,000	〃
博物館	県立博物館年報	前年度の事業実績	1	A４	85	400	関係機関
	月行事予定表	月行事予定	12	A４	1	各1,400	〃
	博物館だより	行事予定、企画展案内、講演要旨等	4	A４	8	各3,500	学校、関係機関
	はくぶつかん ニュース	月毎の博物館行事予定及び博物館にかかわるニュース	12	A４	2	各12,600	〃
	企画展ポスター・リーフレット	企画展２回分・特別展１回分紹介	3	ポスターB2 リーフレット A4		8,500 120,000	学校、関係機関 関係機関、来館者など
	年間催し物案内	主催行事などの紹介	1	200×394 四折		45,000	関係機関、来館者など
自然の家	利 用 案 内（いわき）	施設概要、利用方法等	1	A４	1	1,000	関係機関
	しおね（いわき）	企画事業内容、実施期日、対象等	1	A４	8	2,000	関係機関
	企画事業案内（郡　山）	企画事業内容、実施期日、対象等	1	A４	1	―	ｗｅｂに掲載
	会津自然の家だより（会　津）	企画事業内容、実施期日、対象等	3	A４	2	―	ｗｅｂに掲載
文化財センター白河館	年　　報	沿革、事業の概要、入館者統計、予算等	1	A４	28	500	関係機関
	まほろん通信	イベントの内容、体験学習の案内等	4	A４	4	各4,000	関係機関、利用者等
	研 究 紀 要	学芸員の調査、研究成果の報告	1	A４	72	500	関係機関

6　教育長記者会見

平成26年3月25日(火)　10:30～

- 内容　平成26年度福島県公立学校教職員及び教育庁職員人事異動について
- 場所　教育委員室

7　記者発表及び資料提供(投げ込み)件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
記者発表	-	1	2	-	1	-	-	-	1	1	-	-	6
資料提供	17	12	14	32	19	22	32	35	20	23	18	24	268

8　教育フォーラム

(1)　目的

県民各層との対話をとおして、多様化している県民の意向を積極的かつ多角的に把握し、県民と一体となった開かれた教育を推進するために実施する。震災を経て、ふくしまの再生に向けたふくしまならではの教育について、県民の意見を把握する機会の一つとして、生徒、保護者をはじめとする教育関係者の意見を聴くものとする。

(2)　テーマ

「学びの意欲
～子どもが学びに向かうとき～」

(3)　内容

ア　開催形態
意見発表・意見交換

イ　会場
福島県立会津学鳳高等学校

ウ　開催日時
平成 25 年 11 月 19 日（火）13:10 ～ 15:00

エ　出席者

（ア）意見発表者
佐藤　優介（中学生）
牧野　千優（中学生）
梅津　大雅（中学生）
猪俣　雄希　高校生）
結城奈美恵（高校生）
栗城　結衣（高校生）
佐藤　夏美（大学生）

（イ）福島県教育委員会
小野　栄重（県教育委員会委員長）
境野　米子（県教育委員会委員）
蜂須賀禮子（県教育委員会委員）
佐藤　有史（県教育委員会委員）
杉　　昭重（県教育委員会教育長）
森下　平　（教育総務課長）
瓜生　康弘（高校教育課主幹）
鯨岡　寛泰（義務教育課主任指導主事）
菊池　篤志（義務教育課主任指導主事）
梅田　善幸（会津教育事務所長）

（ウ）傍聴者　　３１名

9　平成25年度「ふくしま教育の日」啓発推進事業

県民の教育に対する理解、関心を高め、学校教育、社会教育及び文化の充実、発展を期するため、平成15年3月にふくしま教育の日条例を制定し、ふくしま教育の日（11月1日）及びふくしま教育週間（11月1日~7日）を設けている。当該期間を含むその前後の期間において「教育の日」の趣旨にふさわしい取組が実施されるよう、市町村や関係機関に働きかけるとともに普及啓発を図った。

10　県庁子ども参観デー

子どもたちに県庁を見学する機会を提供することにより、職業や社会への理解を深めてもらう機会とした。

また、この取組を広報することにより、県民に対して復興をアピールする機会とした。あわせて、一丸となって震災対策に取り組んでいる職員の姿や職場を見学することによって、復興に向けた県の取組を理解してもらうとともに、子どもたちを勇気づけ、生きる力を涵養することも目的とした。

(1)　日時　平成25年8月21日(水)　9:00～12:00

(2)　参観者　小学生とその保護者など計96人

(3)　内容　ア　県庁見学（知事室・議場・河川流域総合情報システム室・通信司令室・観光交流課・広報課）
イ　教育庁見学
ウ　教育委員との懇談

第６節　調査統計

平成25年度において実施した調査統計事業は、次のとおりである。

1　学校統計要覧

平成25年5月1日現在で調査した「学校基本調査」（指定統計13号）の調査結果により、学校数、児童生徒数、教職員等の基本的事項を収録した「学校統計要覧」の作成作業を実施した。（平成26年度に県教委ＨＰにて公開）

2　地方教育費調査（一般統計）

この調査は、平成24会計年度において、学校教育、社会教育、生涯学習関連及び教育行政における県及び市町村（教育事務組合を含む。）から支出された経費並びに授業料等の収入の実態及び地方教育行政機関の組織等の状況を明らかにし、教育諸施策を検討・立案するための基礎資料を得ることを目的として文部科学省が実施したものである。

3　学校教員統計調査（基幹統計）

この調査は，学校の教員構成並びに教員の個人属性、職務態様及び異動状況等を明らかにすることを目的として文部科学省が実施したものである。

4　進路状況等に関する調査

この調査は、中学校・高等学校生徒の進路希望及び卒業後の状況を調査し、進路指導及び高等学校の適正配置計画並びに課程・学科等の整備計画の基礎資料を得ることを目的とした県単独調査である。

第７節　教職員の給与

平成25年度の教職員の給与改定については、平成25年10月4日の県人事委員会給与報告に基づき、諸手当について、平成25年12月県議会において給与条例等の一部改正が提案され、議決・公布された。また、国家公務員の給与減額支給措置を踏まえ、平成25年6月県議会において、福島県職員の給与等の臨時特例に関する条例が提案され、議決・公布された。その概要は、次のとおりである。

1　通勤手当（平成26年4月1日適用）

自動車等交通用具使用者の手当額が次のとおり改正された

こと。

片道の自動車等の使用距離	手当額	
	自動車	自動車以外の原動機付きの交通用具
2 km以上　4 km未満	3,900 円	2,000 円
4 km以上　6 km未満	5,200 円	2,600 円
6 km以上　8 km未満	6,500 円	3,300 円
8 km以上　10 km未満	7,800 円	3,900 円
10 km以上　12 km未満	9,100 円	4,600 円
12 km以上　14 km未満	10,400 円	5,200 円
14 km以上　16 km未満	11,600 円	5,800 円
16 km以上　18 km未満	12,900 円	6,500 円
18 km以上　20 km未満	14,200 円	7,100 円
20 km以上　22 km未満	15,500 円	7,800 円
22 km以上　24 km未満	16,800 円	8,400 円
24 km以上　26 km未満	18,100 円	9,100 円
26 km以上　28 km未満	19,400 円	9,700 円
28 km以上　30 km未満	20,700 円	10,400 円
30 km以上　32 km未満	22,000 円	11,000 円
32 km以上　34 km未満	23,300 円	11,700 円
34 km以上　36 km未満	24,600 円	12,300 円
36 km以上　38 km未満	25,900 円	13,000 円
38 km以上　40 km未満	28,800 円	14,400 円
40 km以上　45 km未満	31,500 円	15,800 円
45 km以上　50 km未満	34,200 円	17,100 円
50 km以上　55 km未満	36,600 円	18,300 円
55 km以上　60 km未満	38,500 円	19,300 円
60 km以上　65 km未満	41,500 円	20,800 円
65 km以上　70 km未満	44,400 円	22,200 円
70 km以上　75 km未満	47,400 円	23,700 円
75 km以上　80 km未満	50,400 円	25,200 円
80 km以上		

2　期末・勤勉手当（平成26年4月1日適用）

技能労務職員における職務段階加算措置の経験年数が次のとおり改正されたこと。

基準学歴	基準日における経験年数	割合
高校卒	３２年以上	100分の 10
	１８年以上３２年未満	100分の 5
中学卒	３５年以上	100分の 10
	２１年以上３５年未満	100分の 5

3　給与の減額関係（平成25年7月1日適用）

国家公務員の給与減額支給措置を踏まえ、平成25年7月1日から平成26年1月31日までの間、職員の給料月額及び給料の特別調整額を減額して支給することとされた。

(1) 給料月額

給料月額に職員に適用される給料表及び職務の級の区分に応じた減額率を乗じて得た額に相当する額を減じる。

給料表	減額率及び職務の級		
	4.77%	7.77%	9.77%
行政職 事務職	1･2級	3～6級	7級以上
教育職 小中教育職 高校教育職	1･2級	3･4級	－
研究職	1･2級	3･4級	5級
医療職(二) 医療職	1･2級	3級以上	－
技能労務職	1～3級	4級以上	－

(2) 給料の特別調整額

給料の特別調整額の月額に100分の10を乗じて得た額に相当する額を減じる。

(3) 職員の給与の特例に関する条例

職員の給与の特例に関する条例（平成23年福島県条例第11号）は廃止する。

第８節　附属機関等

1　福島県学校教育審議会

根拠法令

福島県学校教育審議会条例（昭和41年福島県条例第42号）

目的

・　教育委員会の諮問に応じ、学校教育の振興についての総合計画に関する事項及び学校教育についての基本的な重要施策に関する事項について調査審議する。

・　学校教育に関する事項について、必要があると認めるときは、教育委員会に対し、意見を申し出る

(1) 審議・経過

東日本大震災及び原子力発電所事故の影響により、県内の状況がいまだ流動的であることから、県立高等学校の改革について依然として議論できる状況にはないと判断し、平成23年度・24年度に引き続き開催しなかった。

なお、委員は平成24年3月18日に前委員の任期が満了して以降、欠員となっている。

2　福島県社会教育委員の会議

根拠法令

社会教育法（昭和24年法律第207号）第15条並びに福島県社会教育委員の定数及び任期に関する条例（昭和24年福島県条例　第56条）

目的

社会教育に関する諸計画を立案するとともに教育委員会の諮問に応じ、意見を述べたり必要な研究調査を行い、社会教育に関して教育長を経て教育委員会に助言する。

(1) 福島県社会教育委員　　任期 平成24年6月20日~平成26年6月19日

区分	氏名	役職名	備考
学校教育関係者	古川　満里子	福島市立福島第四小学校長	
	菊池　芳次	会津若松市立第一中学校長	新任
	本間　悦男	福島県立湯本高等学校長	
社会教育関係団体の関係者	園部　一弘	福島県公民館連絡協議会会長	副議長・新任
	鴫原　明寿	福島県市町村社会教育委員連絡協議会副会長	新任
	渡辺　直也	福島県連合青年会会長	
	川島　久美子	福島県ＰＴＡ連合会母親代表理事	
	小林　清美	福島県婦人団体連合会副会長	
	新井田　萬壽子	福島県子ども会育成会連合会会長	
	阿久津　文作	福島県商工会連合会専務理事	
	瀬田　弘子	特別非営利活動法人うつくしまＮＰＯネットワーク	
家庭教育関係者	佐藤　紀子	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会代表	
学識関係者	伊藤　行和	元福島県立磐城女子高等学校長	
	浜島　京子	福島大学人間発達文化学類教授	議長
公募	佐藤　房枝	会津坂下町金上コミュニティセンター事務局長	
	佐藤　晴美	主婦	

(2) 定例会の開催

ア　第１回定例会

(ｱ)　日時　　平成２５年７月２３日（火）

(ｲ)　場所　　県庁西庁舎９階　教育委員室

(ｳ)　内容

a　報告事項

平成２５年度社会教育に関する主要施策・事業の概要について

b　審議事項

本県における社会教育推進のあり方について

～「学校、家庭、地域が一体となった教育の実現」に向けて～

イ　第２回定例会

(ｱ)　日時　平成２６年２月１０日（月）

(ｲ)　場所　県庁西庁舎９階　教育委員室

(ｳ)　内容

a　報告事項

平成２５年度社会教育関係事業報告について

平成２６年度社会教育関係主要施策・事業（案）について

b　審議事項

福島県社会教育委員の会議「提言」（案）について～「学校、家庭、地域が一体となった教育の実現」に向けて～

3 福島県文化財保護審議会

(1) 福島県文化財保護審議会委員　　任期 平成25年4月1日~平成27年3月31日

氏名	所属等	担当分野	備考
阿部　俊夫	郡山女子大学短期大学部講師	古文書、歴史資料	
泉　武夫	東北大学大学院教授	絵画	
伊藤　喜良	福島大学名誉教授・歴史学研究会・東北史学会	古文書(中世)・書跡・典籍	
永広　昌之	東北大学総合博物館・東北大学名誉教授・日本地質学会・日本古生物学会	天然記念物（地質鉱物、古生物）	
岡田　茂弘	国立歴史博物館名誉教授・日本考古学協会	考古資料・史跡・埋蔵文化財	会長
懸田　弘訓	会津大学非常勤講師・民俗芸能学会・福島県民俗学会・日本民俗音楽学会	有・無形民俗文化財	
狩野　勝重	元日本大学教授・工学博士・日本建築学会	建造物・伝統的建造物群	
鈴木　俊行	（公財）福島県都市公園・緑化協会・樹木医学会・日本桜学会	天然記念物(植物)	

竹　原　　明　秀	岩手大学教授・日本生態学会・植生学会・日本植物学会	天然記念物(植生)	
田　辺　　真　弓	郡山女子大学短期大学部教授・服装美学会・国際服飾学会	工芸品・染織	
辻　　秀　人	東北学院大学教授・日本考古学協会	考古資料・史跡・埋蔵文化財	
藤　井　　英二郎	千葉大学大学院教授・日本庭園学会	史跡・名勝地（庭園）	
守　谷　　早　苗	福島市史編纂室（嘱託員）	歴史資料	
若　林　　繁	東京家政大学教授・美術史学会	彫刻	

(2)　会議

ア　第１回審議会

(ｱ)　期日　平成２５年８月５日(月)

(ｲ)　場所　福島県自治会館６階　６０２会議室

(ｳ)　内容

a　震災で被災した文化財の復旧状況について

b　国指定文化財について

c　指定文化財の指定候補について

イ　第２回審議会

(ｱ)　期日　平成２６年２月３日(月)

(ｲ)　場所　福島県庁西庁舎１２階　講堂

(ｳ)　内容

a　福島県指定文化財候補諮問案件の審議

b　国指定文化財について

c　震災関連事業について

第９節　市町村教育委員会

１　概要

本県の市町村教育委員会数は、平成25年5月1日現在、13市46町村1組合の計60である。

県教育委員会は、市町村教育委員会連絡協議会、都市教育長協議会、町村教育長協議会等との密接な連絡、連携のもとに、教育行政の適正な事務の執行と管理に努めている。

２　組織

平成25年5月1日現在、県内各市町村教育委員会の委員長及び教育長は次のとおりである。

教育委員会名	教育委員長	教　育　長
県北(8)		
福島市	芳賀　　裕	佐藤俊市郎
伊達郡川俣町	佐藤　捷善	神田　　紀
伊達市	髙野　保夫	湯田　健一
伊達郡桑折町	柴田　宣広	安藤　重男
伊達郡国見町	遊佐眞紀子	岡崎　忠昭
二本松市	宮前　　貢	小泉　裕明
安達郡大玉村	斎藤　雅子	押山　利一
本宮市	仲川　　清	原瀬久美子
県中(12)		
郡山市	三森　正子	木村　孝雄
須賀川市	深谷　敬一	柳沼　直三
岩瀬郡鏡石町	塩田　重男	髙原孝一郎
岩瀬郡天栄村	高野　卓樹	増子　清一
石川郡石川町	近内　光慶	田口　和憲
石川郡玉川村	阿部　裕子	冨岡ケイ子
石川郡平田村	吉田　貞光	吾妻　幹廣

教育委員会名	教育委員長	教　育　長
石川郡浅川町	緑川又次郎	内田　賢壽
石川郡古殿町	鈴木あい子	大樂　宣和
田村市	三浦　昭見	助川　弘道
田村郡三春町	武地　優子	遠藤　真弘
田村郡小野町	大千里義市	矢内今朝見
県南(9)		
白河市	藤田　克彦	伊藤　　渉
西白河郡西郷村	菊池千代子	加藤　征男
西白河郡中島村	水野谷剛夫	佐藤　正敏
西白河郡矢吹町	水戸　勘十	栗林　正樹
西白河郡泉崎村	本柳　　功	穂積　貞子
東白川郡棚倉町	八槻　浩子	松本　市郎
東白川郡塙町	高澤　和子	藤田　　充
東白川郡矢祭町	片野　宗和	古張　金一
東白川郡鮫川村	水野　春雄	奥貫　　洋
会津(13)		
会津若松市	新城猪之吉	星　　憲隆
耶麻郡磐梯町	鈴木　定憲	齋藤　就治
耶麻郡猪苗代町	岩橋　紀男	土屋　重憲
喜多方市	上野利一郎	芳賀　忠夫
耶麻郡北塩原村	阿部　好喜	佐藤　信寛
耶麻郡西会津町	井上　祐悦	佐藤　　晃
河沼郡会津坂下町	高久栄一郎	佐藤　　玄
河沼郡湯川村	兼子奈緒美	星　三千男
河沼郡柳津町	小林　銀一	目黒健一郎
大沼郡会津美里町	鶴賀　イチ	佐治　和則
大沼郡三島町	阿部　和彦	矢澤　源成
大沼郡金山町	横田　敏宏	目黒　則雄
大沼郡昭和村	五十嵐喜久男	本名　幸平

教育委員会名	教育委員長	教　育　長
南会津(5)		
南会津郡南会津町	渡部　謙一	五十嵐竹則
南会津郡下郷町	室井　伸子	大竹　康隆
南会津郡檜枝岐村	星　　賢二	平野　信之
南会津郡只見町	小沼　一弘	齋藤　修一
南会津地方広域市町村圏組合	平野　信之	五十嵐竹則
相双(12)		
相馬郡新地町	加藤　潤一	村上　正之
相馬市	倉本まり子	堀川　利夫
南相馬市	大石　力彌	青木　紀男
相馬郡飯舘村	佐藤　眞弘	八巻　義徳
双葉郡浪江町	青田　忠文	畠山熙一郎
双葉郡葛尾村	東海林幸敏	猪狩　省造
双葉郡双葉町	岡村　隆夫	空席（※1）
双葉郡大熊町	嶋貫　光喜	武内　敏英
双葉郡富岡町	関本　征司	庄野富士男
双葉郡川内村	西山　光熙	秋元　　正
双葉郡楢葉町	渡邉　　司	高橋　尚子
双葉郡広野町	浅野　　一	芦川　鋭章
いわき(1)		
いわき市	山本　もと子	吉田　　浩

※1　職務代理者　教育総務課長　今泉祐一

3 平成25年度市町村教育委員会援助指導の概要

県教育委員会は、市町村教育委員会教育長会議、新任教育委員研修会を開催して助言指導を行うとともに、教育行政関係の諸資料等を配布して県内市町村教育委員会への援助に努めた。

(1) 平成25年度福島県市町村教育委員会教育長会議

ア　主催　　福島県教育委員会
イ　期日　　平成25年4月15日(月)
ウ　会場　　西庁舎12階　講堂
エ　出席者　市町村教育委員会教育長 59名
オ　内容
　平成25年度教育庁各課（室）・所の重点施策の説明

(2) 平成25年度福島県市町村教育委員会新任教育委員研修会

ア　主催
　福島県市町村教育委員会連絡協議会
　福島県教育委員会
イ　期日
　平成25年11月21日（木）
ウ　会場
　西庁舎12階　講堂
エ　参加者
　平成24年11月23日から平成25年9月30日の間に任命された委員及び、それ以前に就任し未参加の委員　35名
オ　内容
　○講話
　・演題　「教育委員に期待するもの」
　・講師　福島県教育委員会教育長　　杉　　昭重
　○講話
　・演題　「教育委員会の運営は、いかにあるべきか」
　・講師　福島市教育委員会教育委員長　芳賀　　裕
　○講義
　・演題　「教育委員会の組織と運営について」
　・講師　福島県教育庁職員課管理主事　穂積　　浩

第10節 職員団体との話合い

平成25年度における「福島県教職員組合」「福島県高等学校教職員組合」「福島県立高等学校教職員組合」「福島県学校事務労働組合」との話合いのうち、主なものは次のとおりである。

1　福島県教職員組合

(1)平成25年4月25日
ア　給与について
イ　特別昇給、主任主査昇任について
ウ　臨時的任用教職員の待遇及び勤務条件の改善について
エ　浜通りの住宅事情について
オ　震災に係る復興加配について
カ　病休に対する代替教職員の配置について
キ　時間講師の病気休暇について
ク　多忙化解消、労働安全衛生体制の確立について
ケ　セクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメントの根絶について
コ　放射線対策について
(2)平成25年5月29日
ア　賃金削減について
(3)平成25年6月18日
ア　賃金削減について
(4)平成25年6月24日
ア　賃金削減について
(5)平成25年7月1日
ア　賃金削減について
(6)平成25年11月6日
ア　一時金の支給月数について
イ　臨時的任用教職員の処遇改善について
ウ　時間講師の病気休暇について
エ　病休に係る補充教員の配置について
オ　雇用と年金の接続について
(7)平成25年11月19日
ア　５５歳昇給停止について
イ　臨時採用教職員の処遇改善について
ウ　教職員の増員について
エ　定数改善計画について
オ　多忙化解消について
カ　パワーハラスメントについて
キ　再任用について

2　福島県高等学校教職員組合

(1)平成25年4月26日
ア　農場等の除染について
イ　スクールカウンセラーについて
ウ　サテライト校について
エ　浜通り地域の住居確保について

オ　教員定数の維持について
カ　学校の統廃合及び学級数について
キ　給与、諸手当について
ク　臨時的任用職員の処遇改善について
ケ　高齢期雇用について
コ　特別支援学校の教育環境整備について
サ　目標管理制度について
シ　免許更新制について
ス　子育て休暇について
セ　パソコンの更新について
ソ　入試について
タ　給与について
(2)平成25年5月30日
ア　賃金削減について
(3)平成25年6月18日
ア　賃金削減について
(4)平成25年6月24日
ア　賃金削減について
(5)平成25年11月7日
ア　震災に係る復旧事業について
イ　除染について
ウ　スクールカウンセラーについて
エ　サテライト校について
オ　浜通りの住居確保について
カ　学校の統廃合について
キ　特別支援学校における教育環境整備について
ク　採用について
ケ　給与について
(6)平成25年11月20日
ア　義務教育等教員特別手当について
イ　産業教育手当、定時制通信教育手当について
ウ　旅費について
エ　浜通り地区の住宅事情について
カ　通勤手当について
キ　部活動指導手当の拡大について
ク　単身赴任手当について
ケ　臨時的任用職員の処遇改善について
コ　ＩＣＴ環境について
サ　多忙化解消について
シ　目標管理制度について
ス　メンタルヘルス対策について

3　福島県立高等学校教職員組合

(1)平成25年4月26日
ア　賃金諸手当の改善について
イ　長時間過密労働の解消について
ウ　勤務時間の計測について
(2)平成25年5月30日
ア　賃金削減について
(3)平成25年6月18日
ア　賃金削減について
(4)平成25年6月24日
ア　賃金削減について
(5)平成25年11月7日
ア　給与について
イ　時間講師の時間単価について
ウ　高齢期雇用について
エ　長時間過密労働について
オ　労働安全衛生委員会について
カ　サテライト校について
(6)平成25年11月20日
ア　再任用制度について
イ　学校内設置の自動販売機の益金について
ウ　特別支援学校の新規の設置について
エ　メンタルヘルスについて

4　福島県学校事務労働組合

(1)平成25年4月25日
ア　賃金抑制について
イ　退職手当について
ウ　再任用制度について
エ　就学援助に係る震災加配について
オ　主任主査昇任者拡大について
カ　永年勤続昇給加算について
キ　臨時任用職員について
ク　旅費について
ケ　労働安全衛生規定等について
(2)平成25年5月29日
ア　賃金削減について
(3)平成25年6月18日
ア　賃金削減について
(4)平成25年6月24日
ア　賃金削減について
(5)平成25年11月6日
ア　給与について
イ　再任用について
ウ　学校事務職員の定数について
エ　学校事務共同連携について
オ　主任主査昇任について
カ　永年勤続昇給加算について
キ　臨時的任用職員の処遇改善について
ク　旅費について
(6)平成25年11月19日
ア　新たな賃金抑制について
イ　再任用について
ウ　学校事務職員複数配置について
エ　学校事務共同連携実施について
オ　昇格及び昇給等についての知事部局との均衡について
カ　旅費について
キ　臨時的任用職員の処遇改善について

第11節 不利益処分審査請求事件及び損害賠償請求事件

1 不利益処分審査請求事件

平成26年3月31日現在、県人事委員会に不利益処分審査請求事件として係属中のものは10件であり、その概要及び進行状況等は下表のとおりである。

請求事件名	請求年月日	請 求 の 内 容	請 求 者	備 考
懲戒処分取消請求事件(7件)	昭48. 5. 28～昭60. 3. 29	昭48から昭60までに行われたストライキに係る懲戒処分についてその取消を請求	公立小・中学校及び県立高等学校教職員105名	準備手続中
懲戒処分取消請求事件	平24. 8. 10	平24. 6. 15付懲戒処分についてその取消を請求	公立高等学校教員	平25.12.18棄却
懲戒処分取消請求事件	平25. 2. 15	平24. 12. 19付懲戒処分についてその取消を請求	主任実習講師	平25.3.24棄却

2 損害賠償請求事件

平成26年3月31日現在、裁判所に係属中の事件はない。

第12節 公益法人等の指導等並びに公益信託の状況

1 公益法人等

平成26年3月31日現在、県教育委員会の所管に属する公益法人等は63法人である。

各法人から事業報告書・収支決算書、事業計画書、終始予算書等の提出を求めた。

法人ごとの内訳は下表のとおり。

法人種別	所管する法人数	平成25年度に公益法人又は一般法人に移行した法人数
公益財団法人	19	7
公益社団法人	2	2
一般財団法人	6	3
一般社団法人	2	2
特例民法法人	26	－
解散した法人	8	－
計	63	14

2 公益信託

平成26年3月31日現在、県教育委員会の所管に属する公益信託は3件である。

なお、平成25年度に引き受けを許可した公益信託はない。

第13節 表彰及び叙勲

平成25年度教育・文化関係表彰式は11月1日(金)福島県文化センター、平成26年2月5日(水)杉妻会館において、それぞれ厳粛のうちにも盛大に行われた。

また、文部科学大臣による地方教育行政功労者表彰式は10月4日(金)、また、教育者表彰式は11月27日(水)、文部科学省講堂において、それぞれ行われた。

1 教育・文化関係表彰

(1) 地方教育行政功労者(5名)

(前) 伊達市教育委員会教育委員長	遠藤 道雄
(前) 二本松市教育委員会教育委員	齋藤 一夫
(前) 須賀川市教育委員会教育長	坂野 順一
中島村教育委員会教育委員長	水野谷剛夫
(前)川内村教育委員会教育長	石井 芳信

(2) 学校教育功労者(15名)

福島市立福島第一小学校長	福井 一明
福島市立福島第三小学校長	土屋 悦男
福島市立森合小学校長	長尾順一郎
田村市立船引小学校長	佐久間光春
郡山市立郡山第二中学校長	市川 正道
田村市立船引中学校長	根本 保男
会津坂下町立坂下南小学校長	滝沢 玲子
南会津町立田島中学校長	渡部 岩男
相馬市立中村第一小学校長	吉田 雄二
浪江町立浪江小学校長	石井 賢一
いわき市立小名浜第一小学校長	片寄 信
福島県立福島高等学校長	本間 稔
福島県立福島明成高等学校長	大竹 正志
福島県立盲学校長	安藤 俊典
福島県立聾学校長	髙屋 隆男

(3) 社会教育関係

ア 社会教育功労者(1名)

南会津町社会教育委員長	猪股 純一

イ 功績顕著な団体・施設(5団体・3施設)

〈社会教育団体〉

福島市立蓬萊中学校父母と教師の会

二本松市立安達太良小学校父母と教師の会

須賀川市立仁井田小学校父母と教師の会

下郷町立旭田小学校父母と教師の会

南相馬市立大甕小学校父母と教師の会

〈社会教育施設〉

郡山市立逢瀬公民館

郡山市立芳賀地域公民館

奥会津「匠の郷」

(4) 文化財保護関係

ア 文化財保護功労者(2名)

(元)福島県文化財保護審議会委員	中村 嘉男
浅川町文化財保護審議会会長	川音 正平

(5) 学校体育・学校保健関係

ア 学校保健功労者(4名)

(元)二本松市立安達中学校	学校医	高橋 幸夫
(元)いわき市立磐崎中学校	学校医	原 晋二
いわき市立汐見が丘小学校	学校歯科医	門馬 功
福島県立福島明成高等学校	学校医	齋藤 松雄

(6) へき地教育関係

ア へき地教育功労者(1名)

喜多方市立塩川小学校長 佐藤 和信

イ 功績顕著な団体(2団体)

三島町立三島小学校

南会津町立檜沢中学校

(7) 特別支援教育関係

ア 特別支援教育功労者(1名)

福島県立大笹生養護学校長 円谷美智子

(8) 永年勤続関係

	小学校	中学校	県立学校	教育庁	計
校 長	39	20	6		65
教 頭	45	21	10		76
教 員	191	131	78		400
教員以外	20	6	12	16	54
計	295	178	106	16	595

(9) 特別功績者

ア 児童・生徒(団体)の部(12団体)

○ 郡山市立橘小学校弦楽アンサンブル

○ 郡山市立郡山第二中学校管弦楽部

○ 郡山市立郡山第五中学校合唱部

○ 猪苗代町立猪苗代中学校男子バドミントン部
(富岡町立富岡第一中学校男子バドミントン部)

○ 猪苗代町立猪苗代中学校女子バドミントン部
(富岡町立富岡第一中学校女子バドミントン部)

○ いわき市立勿来第一中学校報道委員会

○ 福島県立福島北高等学校家庭クラブ

○ 福島県立郡山北工業高等学校コンピュータ部

○ 福島県立郡山商業高等学校珠算部

○ 福島県立磐城高等学校放送委員会

○ 福島県立相馬高等学校放送局

○ 福島県立富岡高等学校バドミントン部

イ 優秀教職員の部(18名)

福島市立瀬上小学校	教 諭	猪狩 英究
桑折町立伊達崎小学校	教 諭	佐藤 和子
郡山市立朝日が丘小学校	教 諭	久野由美子
西郷村立小田倉小学校	教 諭	薄葉 征子
喜多方市立第二小学校	教 諭	結城 克徳
下郷町立江川小学校	教 諭	湯田 祥子
相馬市立桜丘小学校	教 諭	吉田 広
いわき市立小川小学校	教 諭	白土 勲
いわき市立錦小学校	教 諭	土屋 智明
福島市立蓬萊中学校	教 諭	柳田 健一
郡山市立郡山第一中学校	教 諭	芳賀 勝栄
郡山市立郡山第四中学校	教 諭	鈴木 貞喜
会津若松市立河東中学校	教 諭	渡部 幹雄
南会津町立田島中学校	教 諭	大内 進矢
福島県立安積黎明高等学校	教 諭	仲野 雅彦
福島県立白河高等学校	教 諭	菊地 良尚
福島県立盲学校	主任栄養技師	五十嵐好恵
福島県立郡山養護学校	教 諭	阿部 敬子

2 文部科学大臣表彰

(1) 地方教育行政功労者表彰(5名)

大熊町教育委員会教育長	武内 敏英
(前)天栄村教育委員会教育長	武田 國男
	伊藤てる子
(前)西会津町教育委員会教育委員	藤田 基吉
(前)北塩原村教育委員会教育委員	岩谷 和夫
(前)矢吹町教育委員会教育委員長	

(2) 教育者表彰(3名)

福島県立福島高等学校長	本間 稔
福島県福島市立福島第一小学校長	福井 一明
福島県いわき市立小名浜第一小学校長	片寄 信

3 春・秋・高齢者叙勲、死亡叙位・叙勲

(1) 平成25年春の叙勲

ア 瑞宝小綬章

阿部 哲夫(教育功労 元福島県立福島女子高等学校長)

三瓶 昌久(教育功労 元福島県立郡山東高等学校長)

小野 孝雄(教育功労 元福島県立磐城桜が丘高等学校長)

イ 瑞宝双光章

石田 富夫(教育功労 元原町市立原町第一中学校長)

遠藤 英機(教育功労 元会津若松市立城西小学校長)

高橋 清(教育功労 元原町市立原町第一小学校長)

佐藤 英男(教育功労 元小高町立小高中学校長)

菅野金四郎(教育功労 元桑折町立桑折中学校長)

(2) 平成25年秋の叙勲

ア 瑞宝小綬章

齊藤 義人(教育功労 元福島県立福島商業高等学校長)

柳橋 幸生(教育功労 元福島県立葵高等学校長)

日下部健一(教育功労 元福島県立原町高等学校長)

イ 瑞宝双光章

武田 國男(教育功労 元須賀川市立第一中学校長)

遠藤　忠弘（教育功労　元安達町立安達中学校長）
原　康之（教育功労　元会津若松市立第三中学校長）
齋藤　義次（教育功労　元会津若松市立一箕小学校長）
高石　寛治（教育功労　元南郷村立南郷中学校長）

(3)　高齢者叙勲（平成25年4月1日～平成26年3月1日発令）

ア　瑞宝小綬章（教育功労）

山内　和子（元福島県立須賀川女子高等学校長）
蓬田　英夫（元福島県立小野高等学校長）
石井　重衛（元福島県立白河女子高等学校長）
園部　正一（元福島県立磐城農業高等学校長）
松本　紹夫（元福島県立郡山北工業高等学校長）

イ　瑞宝双光章（教育功労）

若林　五郎（元本郷町立本郷第一小学校長）
竹内　健（元二本松市立二本松南小学校長）
宗像　雄（元須賀川市立大東小学校長）
松田　仲男（元鮫川村立鮫川小学校長）
佐久間文二（元岩代町立小浜中学校長）
菊池　玄（元棚倉町立棚倉小学校長）
鈴木　光雄（元福島市立鎌田小学校長）
佐藤　幸一（元新鶴村立新鶴小学校長）
杉内　豊徳（元白沢村立和田小学校長）
若林　淳（元只見町立只見小学校長）
室井　四郎（元長沼町立長沼小学校長）
齋藤　啓次（元いわき市立汐見が丘小学校長）
添田　三郎（元福島市立野田小学校長）
相樂　一郎（元郡山市立郡山第二中学校長）
田﨑　弘毅（元河東町立河東中学校長）
與田　薫（元いわき市立好間第三小学校長）
猪狩　福秀（元いわき市立小名浜第二中学校長）
横山　義秋（元会津若松市立日新小学校長）
石﨑　俊一（元福島市立平石小学校長）
菅野　正夫（元川俣町立福田小学校長）
深谷喜三郎（元須賀川市立第一中学校長）
河越　良平（元泉崎村立泉崎第一小学校長）
長谷川　正（元常葉町立常葉中学校長）
佐治　靖雄（元会津高田町立尾岐小学校長）
渡邊　豊一（元田島町立荒海小学校長）
渡部　幸江（元猪苗代町立猪苗代小学校長）
角田　新平（元長沼町立長沼中学校長）
遠藤　裕（元浪江町立浪江小学校長）
大木　友義（元矢吹町立三神小学校長）
山森　正弘（元いわき市立小川小学校長）
三瓶　悦雄（元東村立東中学校長）
知々田徳衛（元会津坂下町立広瀬小学校長）
根本　敏雄（元郡山市立芳山小学校長）
角田　謙三（元鏡石町立鏡石中学校長）
宍戸　成男（元国見町立藤田小学校長）
渡邉　浩（元富岡町立富岡第二小学校長）
菅野　寅人（元小高町立小高中学校長）
菅野　榮二（元福島市立東湯野小学校長）
鷲　茂夫（元いわき市立内郷第二中学校長）
星　重良（元浪江町立浪江中学校長）
安部喜代文（元郡山市立郡山第四中学校長）
長谷川次男（元喜多方市立松山小学校長）

(4)　死亡叙位・叙勲

《平成25年度》

正六位　石井　義八郎（元郡山市立中野小学校長）
従五位瑞宝双光章　田原口　保貞（元原町市立原町第二中学校長）
正六位瑞宝双光章　吉成　公彦（元郡山市立安積第一小学校長）
正六位瑞宝小綬章　平澤　伸雄（元福島県立郡山高等学校長）
従五位　丹治　和一（元福島市立岳陽中学校長）
正六位瑞宝双光章　佐藤　重吉（元福島県会津坂下町立八幡小学校長）
従六位　猪股　宏平（元福島県田島町立田島中学校長）
正六位瑞宝双光章　根本　秋雄（元福島県梁川町立白根小学校長）
正六位瑞宝双光章　根本　安惠（元郡山市立喜久田中学校長）
正六位　阿部　忠（元相馬市立八幡小学校長）
正六位瑞宝双光章　我妻　政久（元福島県古殿町立宮本小学校長）
従六位瑞宝双光章　森田　時夫（元福島県北会津村立荒舘小学校長）
従五位瑞宝双光章　山岸　德（元福島市立東湯野小学校長）
正六位瑞宝双光章　武澤　修道（元相馬市立桜丘小学校長）
正六位瑞宝双光章　目黒　眞一（元福島県柳津町立久保田小学校長）
正六位瑞宝双光章　佐藤　力哉（元郡山市立小山田小学校長）
正六位　鈴木　光雄（元福島市立鎌田小学校長）
従六位瑞宝双光章　坂本　雅人（元南相馬市立原町第一小学校長）
正六位瑞宝双光章　酒井　安正（元福島県伊南村立伊南小学校長）
従五位瑞宝小綬章　渡邊　茂（元福島県立内郷高等学校長）
正六位瑞宝小綬章　目黒　憲（元福島県立いわき総合高等学校長）
正六位　鈴木　信夫（元相馬市立磯部小学校長）

従五位　鈴木美夫
（元福島県小高町立小高小学校長）
正六位　齋藤博
（元福島県熱塩加納村立加納小学校長）
正六位　江花旭
（元福島県湯川村立笈川小学校長）
正六位瑞宝双光章　原正昭
（元福島県鏡石町立第二小学校長）
正六位瑞宝双光章　芳賀亀彌
（元須賀川市立第一小学校長）
正六位　水戸亥三郎
（元白河市立白河第二中学校長）
正六位　佐藤裕
（元福島市立福島第三小学校長）
正六位瑞宝双光章　村上喜八
（元いわき市立小玉小学校長）
正六位　土田直枝
（元福島県立須賀川高等学校長）
正六位瑞宝双光章　柴愛吉
（元福島県浪江町立浪江小学校長）
従五位瑞宝双光章　矢澤佐吉
（元福島県北会津村立川南小学校長）
正六位瑞宝双光章　佐藤和典
（元いわき市立上遠野中学校長）
正六位　三浦正己
（元福島県飯野町立青木小学校長）
従五位　竹内央
（元福島県鏡石町立第一小学校長）
従六位瑞宝双光章　菅井誠
（元福島県猪苗代町立猪苗代小学校長）
従六位瑞宝双光章　加茂隆二
（元福島県岩代町立小浜小学校長）
正六位　前田衛
（元福島県西会津町立野沢小学校長）
従六位瑞宝双光章　佐藤信髙
（元会津若松市立城北小学校長）
従六位瑞宝双光章　木下宇平
（元福島県田島町立田島小学校長）
正六位瑞宝双光章　酒井一雄
（元郡山市立芳賀小学校長）
正六位　片寄喜一
（元いわき市立平第四小学校長）
正六位瑞宝双光章　菅家省三
（元福島県会津高田町立旭小学校長）
正六位瑞宝双光章　淺井賢三
（元福島市立庭塚小学校長）
正六位瑞宝双光章　佐久間林作
（元福島県小野町立小野新町小学校長）
正六位　室井四郎
（元福島県長沼町立長沼小学校長）
正六位　橋本正司
（元郡山市立桃見台小学校長）
正六位　大和田光明
（元福島県鹿島町立鹿島中学校長）
正六位瑞宝双光章　佐久間宗平
（元福島県保原町立松陽中学校長）
従六位瑞宝双光章　磯上英男
（元いわき市立平第二中学校長）
従六位瑞宝双光章　天野正雄
（元福島県会津本郷町立本郷第一小学校長）
正六位瑞宝双光章　宗像敏郎
（元郡山市立芳山小学校長）
正六位瑞宝双光章　幕田且夫
（元福島県三春町立三春小学校長）
正六位瑞宝双光章　林賢伍
（元福島県新鶴村立新鶴中学校長）
正六位瑞宝双光章　野地敏明
（元いわき市立平第二小学校長）
従五位　武川一夫
（元福島県立内郷高等学校長）
正六位　橋本光男
（元須賀川市立第一中学校長）
従五位　佐藤善雄
（元福島県山都町立山都第一小学校長）
正六位　目黒金三
（元福島市立水原小学校長）
正六位瑞宝双光章　三橋正雄
（元福島県塩川町立駒形小学校長）
従五位　石塚篤
（元郡山市立郡山第五中学校長）
正六位　堀井勝美
（元郡山市立片平小学校長）
従五位瑞宝小綬章　小林孝雄
（元福島県立喜多方高等学校長）
正六位瑞宝双光章　越尾新伍
（元福島県会津高田町立永井野小学校長）
正六位瑞宝双光章　鈴木次夫
（元福島市立佐原小学校長）
正六位瑞宝双光章　影山明
（元郡山市立小原田中学校長）
従六位瑞宝双光章　立花和夫
（元福島市立福島第二中学校長）
正六位　安藤元介
（元須賀川市立阿武隈小学校長）
正六位　齋藤正規
（元原町市立原町第二小学校長）
従六位瑞宝双光章　新田宣雄
（元原町市立原町第一小学校長）
正六位瑞宝小綬章　佐藤輝夫
（元福島県立湯本高等学校長）

従五位瑞宝小綬章　斎　藤　洋　一
（元福島県立福島東高等学校長）
正六位　齋　藤　正　國
（元郡山市立郡山第一中学校長）
正六位瑞宝双光章　安　達　　隆
（元郡山市立郡山第四中学校長）

第14節　奨学育英

1　福島県奨学資金

(1)　貸与月額

区分	平成11～12年度採用者	平成13～16年度採用者	平成17年度以降採用者
高等学校	国公立15,000円 私立　19,000円	国公立16,000円 私立　20,000円	国公立 自宅　18,000円 自宅外23,000円 私立 自宅　30,000円 自宅外35,000円
高等専門学校	15,000円	16,000円	18,000円
大学	国公立34,000円 私立　39,000円	国公立35,000円 私立　40,000円	国公立35,000円 私立　40,000円

(2)　平成25年度の貸与状況

ア　募集期間

(ｱ) 在学採用

平成25年４月入学以降～６月28日

(ｲ) 震災特例採用

平成25年５月１日～平成25年７月31日

イ　奨学生決定

(ｱ) 在学採用

平成25年８月２日

(ｲ) 震災特例採用

平成25年９月10日

ウ　貸与状況

区分	継続貸与	新規貸与		計
		応募者数	貸与者数	
高等学校 高等専門学校	1,103人	401人	395人	1,498人
大学	194人	62人	59人	253人
計	1,297人	463人	454人	1,751人

うち震災特例採用　979人

2　福島県高等学校定時制課程及び通信制課程修学資金貸与制度

(1)　貸与月額

定時制課程
１～４学年　14,000円

通信制課程
１～４学年　14,000円

(2)　平成25年度の貸与状況

学年別	定時制	通信制	計
１年生	１人	０人	１人
２年生	０人	０人	０人
３年生	１人	０人	１人
４年生	１人	０人	１人
計	３人	０人	３人

第３章　教　育　財　政

第１節　平成25年度決算

１　歳入

一般会計　　（単位：千円）

款	項	決算額	%
分担金及び負担金		0	0.0
	負担金	0	0.0
使用料及び手数料		190,976	0.4
	使用料	51,597	0.1
	手数料	139,379	0.3
国庫支出金		39,553,437	76.7
	国庫負担金	36,918,127	71.6
	国庫補助金	1,814,822	3.5
	委託金	820,488	1.6
財産収入		187,366	0.3
	財産運用収入	46,771	0.1
	財産売払収入	140,595	0.2
寄附金		498,798	1.0
	寄附金	498,798	1.0
繰入金		4,285,725	8.3
	特別会計繰入金	131,326	0.3
	基金繰入金	4,154,399	8.0
諸収入		1,031,779	2.0
	預金利子	1	0.0
	貸付金元利収入	19,977	0.0
	受託事業収入	669,143	1.3
	収益事業収入	56,166	0.1
	雑入	286,492	0.6
県債		5,838,300	11.3
	県債	5,838,300	11.3
計		51,586,381	100.0

福島県奨学資金貸付金特別会計　　（単位：千円）

款	項	決算額	%
国庫支出金		175,817	18.8
	国庫補助金	175,817	18.8
繰入金		450,217	48.0
	一般会計繰入金	450,217	48.0
繰越金		36,851	3.9
	繰越金	36,851	3.9
諸収入		273,278	29.2
	預金利子	74	0.0
	貸付金元利収入	272,356	29.1
	雑入	848	0.1
財産収入		885	0.1
	財産運用収入	885	0.1
計		937,048	100.0

2　歳　出

(1)　県予算に占める教育費

（単位：千円）

区分	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
県予算	1,731,970,338	100.0	2,094,985,833	100.0	1,793,871,159	100.0
教育費	222,787,339	12.8	218,127,456	10.4	213,768,344	11.9
教育委員会所管分	194,353,195	11.2	188,452,725	9.0	185,708,629	10.4
知事部局所管分	28,434,144	1.6	29,674,731	1.4	28,059,715	1.6
教育委員会所管分総務費	84	0.0	84	0.0	84	0.0
教育委員会所管分災害復旧費	7,036,654	0.4	9,652,224	0.5	6,672,295	0.4

（最終予算額及び決算額には繰越分を含む）

(2) 教育委員会所管目的別予算及び決算状況

（単位：千円）

区分（款・項・目）	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
総務費	84	0.0	84	0.0	84	0.0
総務管理費	84	0.0	84	0.0	84	0.0
諸費	84	0.0	84	0.0	84	0.0
教育費	194,353,195	96.5	188,452,725	95.1	185,708,629	96.5
教育総務費	21,675,507	10.8	21,372,160	10.8	20,779,008	10.8
教育委員会費	14,164	0.0	13,425	0.0	13,305	0.0
事務局費	3,924,460	1.9	4,006,000	2.0	3,993,688	2.1
財務管理費	543,605	0.3	821,943	0.4	578,986	0.3
義務教育指導費	633,143	0.3	578,594	0.3	539,399	0.3
教職員福利厚生費	14,081,114	7.0	13,747,192	6.9	13,501,551	7.0
育英費	1,930,954	1.0	1,692,401	0.9	1,644,711	0.8
恩給及び退職年金費	215,550	0.1	193,316	0.1	190,743	0.1
教育センター費	323,694	0.2	310,743	0.2	308,135	0.2
養護教育センター費	8,823	0.0	8,546	0.0	8,490	0.0
小学校費	64,972,870	32.2	63,888,418	32.2	63,854,308	33.2
教職員費	64,972,870	32.2	63,888,418	32.2	63,854,308	33.2
中学校費	41,241,130	20.5	40,543,636	20.5	40,508,104	21.1
教職員費	41,241,130	20.5	40,543,636	20.5	40,508,104	21.1
高等学校費	47,108,386	23.4	45,180,788	22.8	43,455,285	22.6
教職員費	37,284,582	18.5	36,164,065	18.3	36,134,277	18.8
高等学校指導費	382,759	0.2	354,733	0.2	327,568	0.2
高等学校管理費	6,827,175	3.4	6,378,958	3.2	4,918,726	2.5
施設等整備費	735,573	0.3	697,841	0.3	656,751	0.3
農業高等学校実習費	146,766	0.1	146,315	0.1	145,037	0.1
水産高等学校実習費	190,713	0.1	169,731	0.1	166,710	0.1
24～26勿来工業高等学校校舎改築費	972,126	0.5	699,611	0.3	553,274	0.3
24～25喜多方桐桜高等学校実習棟改築費	568,692	0.3	569,534	0.3	552,942	0.3
特別支援学校費	14,089,358	7.0	13,436,653	6.8	13,377,460	6.9
特別支援学校費	1,022,781	0.5	994,183	0.5	938,793	0.5
教職員費	13,066,577	6.5	12,442,470	6.3	12,438,667	6.4
社会教育費	3,821,369	1.9	3,042,968	1.5	2,971,163	1.5
社会教育総務費	1,789,203	0.9	1,034,634	0.5	1,015,170	0.5
図書館費	77,103	0.0	83,485	0.1	83,068	0.1
自然の家費	233,930	0.1	239,422	0.1	238,481	0.1
文化振興費	1,000	0.0	1,000	0.0	1,000	0.0
文化財保護費	1,107,339	0.6	1,025,531	0.5	999,242	0.5
美術館費	206,742	0.1	239,400	0.1	215,740	0.1
博物館費	164,873	0.1	178,317	0.1	177,321	0.1
文化財センター費	241,179	0.1	241,179	0.1	241,141	0.1
保健体育費	1,444,575	0.7	988,102	0.5	763,301	0.4
保健体育総務費	934,364	0.5	494,740	0.3	467,971	0.3
学校保健費	485,229	0.2	467,615	0.2	270,652	0.1
体育振興費	24,982	0.0	25,747	0.0	24,678	0.0
災害復旧費	7,036,654	3.5	9,652,224	4.9	6,672,295	3.5
文教施設災害復旧費	7,036,654	3.5	9,652,224	4.9	6,672,295	3.5
公立文教施設災害復旧費	7,036,654	3.5	9,652,224	4.9	6,672,295	3.5
計	201,389,933	100.0	198,105,033	100.0	192,381,008	100.0

福島県奨学資金貸付金特別会計　　（単位：千円）

区分（款・項・目）	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
奨学資金貸付事業費	827,590	100.0	879,460	100.0	864,106	100.0
奨学資金貸付事業費	827,590	100.0	879,460	100.0	864,106	100.0
貸付金	814,951	98.5	736,193	83.7	721,221	83.5
償還金	300	0.0	0	0.0	0	0.0
事務費	12,337	1.5	11,941	1.4	11,559	1.3
一般会計繰出金	2	0.0	131,326	14.9	131,326	15.2
計	827,590	100.0	879,460	100.0	864,106	100.0

第２節　学校教育施設

１　県立学校

(1)　学校建設の概要

平成26年5月1日現在の県立学校の現況は、別表のとおりである。全体を構造的に見ると、鉄筋コンクリート造が73.7%、鉄骨その他造が24.5%と非木造建物が98.2%を占めており、木造建物が1.8%となった

別表　県立学校建物の現況

区分		中学校		高等学校		盲・聾学校		特別支援学校		計	
		面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比
		㎡	%	㎡	%	㎡	%	㎡	%	㎡	%
校舎	R	5,583	100.0	595,216	85.1	10,934	74.8	68,885	96.2	680,618	86.0
	S	0	0.0	89,305	12.8	1,676	11.5	2,242	3.1	93,223	11.8
	W	0	0.0	14,798	2.1	2,006	13.7	473	0.7	17,277	2.2
	計	5,583	100.0	699,319	100.0	14,616	100.0	71,600	100.0	791,118	100.0
体育館	R	1,297	100.0	23,313	14.0	0	0.0	4,919	64.9	29,529	16.6
	S	0	0.0	142,559	85.5	2,240	100.0	2,658	35.1	147,457	82.9
	W	0	0.0	838	0.5	0	0.0	0	0.0	838	0.5
	計	1,297	100.0	166,710	100.0	2,240	100.0	7,577	100.0	177,824	100.0
寄宿舎	R	0	0.0	10,762	98.5	2,433	93.9	2,231	100.0	15,426	97.9
	S	0	0.0	164	1.5	101	3.9	0	0.0	265	1.7
	W	0	0.0	0	0.0	57	2.2	0	0.0	57	0.4
	計	0	0.0	10,926	100.0	2,591	100.0	2,231	100.0	15,748	100.0
計	R	6,880	100.0	629,291	71.8	13,367	68.7	76,035	93.4	725,573	73.7
	S	0	0.0	232,028	26.4	4,017	20.7	4,900	6.0	240,945	24.5
	W	0	0.0	15,636	1.8	2,063	10.6	473	0.6	18,172	1.8
	計	6,880	100.0	876,955	100.0	19,447	100.0	81,408	100.0	984,690	100.0

R　鉄筋コンクリート造、　S　鉄骨その他造、　W　木造

※一部仮設校舎を使用している学校及び別敷地に仮設建物等を用いて学校を開設しているものについては除外している。

福島、いわき総合、磐城農業、勿来工業、双葉、浪江、浪江津島校、富岡、双葉翔陽、相馬農業飯舘校、小高商業、小高工業、あぶくま養護安積分校、富岡養護

(2) 平成25年度事業実績

ア 高等学校一般施設整備事業

事項	校数	学校名	事業費	財源内訳		
				国庫	その他	県費
県有施設耐震改修事業	0		千円 963	千円	千円 0	千円 963
大規模改造事業	48	福島、福島商業、福島明成、福島工業、福島北、福島東、福島南、川俣、梁川、安達、二本松工業、本宮、安積、安積御舘、安積黎明、郡山東、郡山、あさか開成、湖南、白河、白河実業、修明、石川、田村、小野、小野平田、会津、葵、若松商業、会津工業、喜多方、耶麻農業、西会津、大沼、坂下、会津農林、磐城、磐城桜が丘、平工業、平商業、いわき総合、小名浜、勿来工業、四倉、相馬、原町、相馬農業、いわき翠の杜	2,275,117	1,033,700	272,417	969,000
合計	48		2,276,080	1,033,700	272,417	969,963

イ 特別支援学校施設整備事業(一般施設)

事項	校数	学校名	事業費	財源内訳		
				国庫	その他	県費
大規模改造事業	4	聾、石川養護、会津養護、猪苗代養護	千円 127,143	千円 56,400	千円 8,164	千円 62,579
合計	4		127,143	56,400	8,164	62,579

2　幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校（市町村立分）

(1)　構造物保有面積

平成26年5月1日現在

区分		小学校		中学校		小・中学校計		特別支援学校		幼稚園	
		面　積	構成比	面　積	構成比	面　積	構成比	面　積	構成比	面　積	構成比
		㎡	%	㎡	%	㎡	%	㎡	%	㎡	%
校舎	R	1,422,183	96	854,486	95	2,276,669	96	2,461	66	32,119	32
	S	31,851	2	21,802	3	53,653	2	1,290	34	45,454	46
	W	26,396	2	20,033	2	46,429	2	0	0	22,004	22
	計	1,480,430	100	896,321	100	2,376,751	100	3,751	100	99,577	100
屋内運動場	R	149,848	41	128,028	51	277,876	45	391	94	0	0
	S	210,065	57	121,963	48	332,028	54	26	6	0	0
	W	7,129	2	2,064	1	9,193	1	0	0	0	0
	計	367,042	100	252,055	100	619,097	100	417	100	0	0
寄宿舎	R	65	100	2,427	89	2,492	89	0	0	0	0
	S	0	0	312	11	312	11	0	0	0	0
	W	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	65	100	2,739	100	2,804	100	0	0	0	0
計	R	1,572,096	85	984,941	86	2,557,037	85	2,852	68	32,119	32
	S	241,916	13	144,077	12	385,993	13	1,316	32	45,454	46
	W	33,525	2	22,097	2	55,622	2	0	0	22,004	22
	計	1,847,537	100	1,151,115	100	2,998,652	100	4,168	100	99,577	100

R　鉄筋コンクリート造、　S　鉄骨その他造、　W　木造

※楢葉町、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯舘村の全学校及び従来の施設の全てが被災等により使用できず、仮設建物等を用いて学校を開設しているものについては除外している。

(2) 公立学校施設整備事業（市町村分実績額）

平成25年度

区分	単年度		国庫債務負担行為（24～25）	
	学校数	負担金及び交付金(千円)	学校数	負担金及び交付金(千円)
公立小学校校舎の新増築	1	86,852	1	144,393
公立中学校校舎の新増築	1	33,415	2	75,977
公立小学校屋内運動場の新増築	1	37,350	1	52,165
公立中学校屋内運動場の新増築	3	112,733	—	—
公立小・中学校の統合	—	—	—	—
公立小・中学校危険建物の改築	5	359,895	—	—
公立小・中学校不適格建物の改築	11	715,016	—	—
屋外環境整備	3	41,697	—	—
大規模改造	57	1,012,398	—	—
地震補強	71	2,001,157	—	—
地震改築	2	106,903	—	—
公立幼稚園の新増築	3	124,817	—	—
太陽光発電	14	95,409	—	—
防災機能強化	7	51,262	—	—
木の教育環境整備	1	11,222	—	—
計	(延べ校数)		(延べ校数)	
	180	4,790,126	4	272,535

第３節　産業教育振興法補助事業

１　産業教育施設・設備の整備

高等学校産業教育施設・設備等整備

県立高等学校における産業教育のための設備促進を図った。平成25年度における実施状況は次のとおりである。

設備

(1) 県単独事業

ヲ　老朽設備の整備　　10,968千円

(2) 国庫補助事業

老朽設備の整備　　36,376千円

第４節　理科教育振興法補助事業

１　理科設備

学校規模別設備現有状況

規模別＼区分	学校数	基準金額	現有金額	現有率
	校	円	円	%
高校Ⅰ	90	9,269,439,000	1,040,505,631	11.2
高校Ⅱ	0	0	0	-
小計	90	9,269,439,000	1,040,505,631	11.2
盲学校	1	170,615,000	5,299,060	3.1
聾学校	4	149,698,000	10,346,979	6.9
特別支援学校	16	968,293,000	35,293,364	3.6
小計	21	1,288,606,000	50,939,403	4.0

２　算数・数学特別設備

学校規模別設備現有状況

規模別＼区分	学校数	基準金額	現有金額	現有率
	校	円	円	%
高校Ⅰ	90	189,353,000	71,584,023	37.8
高校Ⅱ	0	0	0	-
小計	90	189,353,000	71,584,023	37.8
盲学校	1	3,180,000	42,400	1.3
聾学校	4	5,951,000	616,443	10.4
特別支援学校	16	36,206,000	4,575,459	12.6
小計	21	45,337,000	5,234,302	11.5

第５節　情報処理設備整備事業

１　県単独事業

(1) 教育用コンピュータの整備

89校（リース・保守）　　303,373 千円

(2) 校内ＬＡＮ保守

110校（特別支援・分校含む）　　13,576 千円

第4章 教育の情報化

第１節　基盤整備

学校及び教育事務所等の教育関係機関が教育ネットワーク及びインターネットを利用できるよう、情報環境の基盤整備を目的としたネットワークである「うつくしま教育ネットワーク」を平成11年度から整備してきた。「うつくしま教育ネットワーク」は県教育センターを拠点とし、県立学校はもとより県内の学校などの教育関係機関との接続を可能としている。ネットワークの高速化を図るために、県の情報通信ネットワークへの接続を進め、平成15年度に全県立学校の接続を完了するとともに、平成18年度には回線を更新することでその高速化を行った。これにより、高速回線で教育情報の提供・検索などができるようになり、電子情報利活用のため利便性の向上が図られた。

生涯学習については、インターネットを利用し、生涯学習に関する情報を県民に提供する「福島県生涯学習情報提供システム（検索ツールの「まなびとファインダー」等）の運用を行っている。

さらに、平成18年1月の「ＩＴ新改革戦略」に基づき、校務事務の効率化及び情報管理の徹底のために、平成19年度から平成21年度までに、県立学校に教員１人１台に相当するパソコンの配備を行った。（平成21年度「学校情報通信技術環境整備事業費補助金を一部利用）

また、児童・生徒の学習意欲の向上や教員の多忙化解消、特別支援学校における児童・生徒の交流に資するため、平成23年2月にテレビ会議システムの再構築を行った。

うつくしま教育ネットワークのサービス

- ホームページの利用環境

  学校や教育関係機関等のホームページを設置できるスペースを提供し、取組や研究成果などを広く共有する場を提供する。
- 電子メールサービス

  電子メールアカウントを、教職員、学校、教育関係機関等に発行する。
- 不適切情報のフィルタリング

  児童・生徒に触れさせたくない情報をネットワーク拠点で一元的に管理し、教育にふさわしい情報の提供を行う。
- セキュリティやウィルス等への対策
- 教育情報データベース（アーカイブとして公開）
- コミュニケーション環境(メーリングリスト、メールマガジン等)
- ヘルプデスクによるネットワークサービスの相談受付
- テレビ会議システムの運用

県立学校基盤整備状況

年度	教職員PC配備実績	校内LAN整備
H12		４８校
H13		２５校
H14		１５校
H15		７校
H16		４校
H17		３校
H18	H19年度から配備 ※1	３校
H19	９２６台	
H20	７３５台	
H21	２，０４９台	７校
H22	０台	
H23	３１６台 ※2	
H24	１，３９５台 ※3	１校
H25	８１４台 ※3	

※１　うつくしま教育ＮＷ・県情報通信ＮＷへの接続は、平成15年度に整備済み

※２　東日本大震災に伴うサテライト拠点校等への緊急配備

※３　WindowsXP のサポート終了に伴う更新

※３　WindowsXP のサポート終了に伴う更新

学校の基盤整備状況（小･中･高･特別支援学校）

項　目	福島県	全国平均
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ１台当たりの児童生徒数	5.9人	6.5人
校務用PCの整備率	96.4%	111.1%
普通教室のLAN整備率	78.2%	85.6%
電子黒板のある学校	69.3%	76.4%
超高速インターネット接続率	76.4%	79.0%
校務支援システムの整備状況	43.1%	80.3%
デジタル教科書の整備状況	40.4%	37.3%
学校ＣＩＯの設置状況	15.8%	35.1%

H26.3月現在　文部科学省調べ

第２節　人材の育成・活用

すべての教員がコンピュータを操作でき、コンピュータを用いて指導できることを目指して、研修の充実を図っている。

人材の育成状況

項　目	福島県	全国平均
教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力	76.5%	80.9%
授業中にICTを活用して指導する能力	60.4%	69.4%
児童・生徒のICT活用を指導する能力	60.5%	64.5%
情報モラルなどを指導する能力	72.6%	76.1%
校務にICTを活用する能力	70.9%	77.0%

H26.3月現在 文部科学省調べ

第５章　義　務　教　育

第１節　学校管理

１　児童生徒数・学級数と教職員定数

(1)　小学校

年　度	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
本　校	540	538	531	530	525	512	511	497	489	479	472
分　室	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
分　校	20	18	12	10	10	9	8	8	6	5	5
計	560	556	543	540	535	521	519	505	495	484	477
前　差	△8	△4	△13	△3	△5	△14	△2	△14	△10	△11	△7

(2)　平成２５年度の学級数別学校数(小学校)　※臨時休業が７校（５／１時点）あり、０学級になります。

学級数別	1～5学級	6～11学級	12～18学級	19～24学級	25学級以上	合　計
本　校	96	199	105	46	19	465
分　室	－	－	－	－	－	－
分　校	5	－	－	－	－	5
計	101	199	105	46	19	470
構成比	22	42	22	10	4	100

(3)　中 学 校

年　度	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
本　校	241	240	240	240	239	239	237	237	237	236	232
分　室	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
分　校	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
計	241	240	240	240	239	239	237	237	237	236	232
前　差	△1	△1	0	0	△1	0	△2	0	0	△1	△4

※平成19年度から県立中学校を含む。

(4)　平成２５年度の学級数別学校数(中学校)　※臨時休業が３校（５／１時点）あり、０学級になります。

学級数別	1～5学級	6～11学級	12～18学級	19～24学級	25学級以上	合　計
本　校	70	75	58	21	5	229
分　室	－	－	－	－	－	－
分　校	－	－	－	－	－	－
計	70	75	58	21	5	229
構成比	31	33	25	9	2	100

(5)　公立幼稚園の設置状況

年　度	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
園　数	232	225	219	218	216	210	209	206	204	201	193
園児数	11,540	11,874	11,643	11,742	11,541	11,162	11,083	10,749	9,136	8,646	8,320

(6) 小学校児童数・学級数の推移

小学校の児童数は昭和34年度が最高で、その後は減少を続けてきた。昭和52年度を境に児童数、学級数とも増加傾向にあったが、昭和60年度を境に児童数が再び減少傾向にあり、学級数も学級編制基準の改善にもかかわらず少しずつ減少している。

年度	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
単式	5,041	4,947	5,125	5,042	4,950	4,948	4,849	4,795	4,465	4,301	4,197
複式	193	196	183	211	218	202	219	197	180	204	203
特別支援	288	303	320	326	328	329	333	336	332	350	377

年度	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
児童	130,290	127,494	125,795	123,856	121,591	120,270	118,036	116,177	107,043	102,095	99,339
学級	5,522	5,446	5,628	5,579	5,496	5,479	5,401	5,328	4,977	4,855	4,777

(7) 中学校生徒数・学級数の推移

中学校の生徒数は昭和37年度が最高となり、その後は減少を続けてきた。昭和56年度を境に生徒数、学級数とも増加傾向にあったが、昭和63年度より再び減少傾向にある。

年度	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
単式	2,281	2,248	2,398	2,396	2,350	2,311	2,251	2,180	2,089	2,079	2,050
複式	8	6	5	5	6	6	7	10	8	8	8
特別支援	126	131	144	142	153	162	177	191	187	203	218

年度	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
生徒	70,573	68,680	67,489	66,447	65,234	63,696	62,642	60,746	58,212	56,922	56,262
学級	2,415	2,385	2,547	2,543	2,509	2,479	2,435	2,381	2,284	2,290	2,276

(8) 小・中・特別支援学校条例定数の推移

	年度	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
小学校	教員	7,784	7,791	7,762	7,640	7,490	7,402	7,293	7,235	7,131	7,028	6,979
	事務職員	535	534	528	521	509	505	495	487	474	466	468
	充指導主事	26	26	26	27	26	19	15	22	23	23	25
	補充教職員	365	357	347	349	365	360	353	329	312	293	332
	県単独負担教員	350	344	320	312	305	272	246	211	182	171	170
	学校栄養職員	151	151	148	146	144	145	141	138	128	124	125
中学校	教員	4,551	4,598	4,567	4,508	4,450	4,401	4,326	4,361	4,399	4,324	4,337
	事務職員	232	234	232	230	231	225	229	228	227	228	229
	充指導主事	55	54	51	58	53	46	42	40	40	38	35
	補充教職員	177	171	165	182	159	178	169	160	150	143	167
	県単独負担教員	255	256	230	219	209	183	166	188	161	160	151
	学校栄養職員	64	67	66	65	64	61	66	67	65	67	69
市立特別支援学校	教員	94	95	92	106	65	64	36	40	46	41	39
	事務職員	6	6	6	6	4	4	2	2	2	2	2
	補充教職員	6	5	8	8	10	10	12	13	13	13	7
	県単独負担教員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	学校栄養職員	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1

2　教職員人事・任用

平成25年度人事異動方針

教育に対する県民の期待と要望にこたえ、第６次福島県総合教育計画に沿った教育施策を推進するとともに、東日本大震災からの復興に向けた取組みを進め、本県教育の一層の充実と向上発展を目指すためには、各学校の教育職員組織及び教育庁職員組織を充実・強化し、各学校の教職員及び教育庁職員の志気の高揚を図らなければならない。

本委員会は、この実現のため、下記の方針に基づき人事異動を行うものである。

Ⅰ　基本方針

1　全県的視野に立ち、適材を適所に配置し、教育効果及び行政効果の向上を図る。

2　教育の機会均等の理念に立脚し、各学校の教職員組織の充実と均衡に努めるとともに、第６次福島県総合教育計画に沿った教育施策を推進するため、教育庁職員組織の充実を図る。

3　厳正かつ適正な人事を行い、各学校の教職員及び教育庁職員の志気の高揚を図る。

4　教育に対する県民の期待と要望にこたえるため、人事の公平性、公正性、透明性の確保に一層努める。

5　東日本大震災及び原子力発電所事故に伴う様々な課題に適切に対応するための教員配置等を継続し、復興に向けた取組みを進める。

Ⅱ　重点

1　市町村立学校関係

(1) 教育の充実を図るため、有能適格な教職員の採用と新進有為な人材を登用する。

(2) 教職員組織の充実と均衡を図るため、計画的な異動を推進する。

(3) 特別支援教育及びへき地教育の振興を図るため、適任者を配置するとともに、適正な異動を行う。

(4) 管理監督の立場となる職への登用に当たっては、その職責の重要性に鑑み、適任者を厳選し、適所に配置する。

◎平成25年度公立小・中学校人事（平成25年3月末公表）

(1) 異動件数

異動件数2,761件（前年度2,678件）83件の増。前年度実施しなかった新規採用を実施したために、増加となった。

(2) 採用について

前年度は原子力発電所事故の影響により、採用試験を実施しなかったが、本年度は131名（小学校教諭59名、中学校教諭39名、養護教諭22名、事務職員8名、栄養職員3名）を新規に採用した。

(3) 異動について

各学校の均衡を図るため、免許状、年齢構成、性別等に考慮して、努めて広域にわたるとともに、各地域の実態に応じ、都市、へき地等相互間の計画的な異動を積極的に行うようにした。

また、東日本大震災後の児童・生徒の学力向上や心のケアに配慮するとともに、警戒区域等にあって臨時休業中の学校の再開を視野に入れた教職員配置に努め、相双地区で臨時休業中の学校の教職員については、被災した児童生徒を受け入れている学校に兼務加配として配置した。

(4) 昇任について

ア　管理職への昇任は校長66名（小学校44名、中学校22名、前年度比20名減）、教頭72名（小学校41名、中学校31名、前年度比19名減）、計138名で、前年度より39名減少した。

イ　女性教員の管理職登用に意を用いた。小学校長11名、中学校長3名、小学校教頭2名、中学校教頭1名を登用した。

ウ　教頭の昇任は受考者588名に対し、72名で昇任率は12.2％となっている。

(5) 退職について

ア　平成24年度末の退職者数は302名で前年度に比べ7名の増である。

イ　退職者の内訳は定年退職者160名、勧奨による退職者103名、普通退職者39名となっている。

ウ　退職者中、校長は69名（小学校48名、中学校21名、市立特別支援学校0名）、教頭は19名となっている。

3　教育職員の免許

(1)　教育職員免許状の授与状況

平成25年度中に本県で授与した教育職員免許状は、総数で1,597件あり前年度より164件減となっている。

普通免許状は、前年度より169件減で1,493件、臨時免許状は5件増で104件となっている。

普通免許状のうち平成25年度大学卒業者の占める割合は、約78％で、1,171件となっている。

免許状の種類別授与件数は、次のとおりである。

小学校教諭専修免許状	……	10件
同　一種免許状	……	119件
同　二種免許状	……	27件
中学校教諭専修免許状	……	31件
同　一種免許状	……	288件
同　二種免許状	……	17件
高等学校教諭専修免許状	……	37件
同　一種免許状	……	401件
幼稚園教諭専修免許状	……	2件
同　一種免許状	……	28件
同　二種免許状	……	389件
特別支援学校教諭専修免許状	……	0件
同　一種免許状	……	35件
同　二種免許状	……	71件

養護教諭専修免許状 …… 1件
同　一種免許状 …… 3件
同　二種免許状 …… 12件
栄養教諭専修免許状 …… 0件
同　一種免許状 …… 9件
同　二種免許状 …… 12件
特別支援学校自立活動教諭一種免許状…… 1件
小学校助教諭免許状 …… 64件
中学校助教諭免許状 …… 13件
高等学校助教諭免許状 …… 14件
幼稚園助教諭免許状 …… 3件
特別支援学校助教諭免許状 …… 10件
養護助教諭免許状 …… 20件

4　学校の設置及び統廃合

地域社会における過疎・過密化の進行に伴い地域の事情に応じた教育諸条件の整備充実が図られてきた。学校規模の適正化もその一つであり、地域にあった設置、廃止が計画的に進められている。

公立小・中学校の設置・廃止

	廃止（平成26. 3. 31）	設置（平成26. 4. 1）
小学校	南相馬市立真野小学校 いわき市立田人第一小学校荷路夫分校 いわき市立貝泊小学校 いわき市立田人第二小学校 いわき市立田人第二小学校南大平分校 いわき市立石住小学校	※　該当なし
中学校	小野町立浮金中学校 いわき市立貝泊中学校 いわき市立石住中学校	※　該当なし

5　学校防火

学校火災は、公有財産を消失し、児童生徒に精神的な打撃を与え学校教育の質の低下を招くとともに、教育行政を停滞させるなど、社会に及ぼす物心両面の影響はきわめて大きい。

県教育委員会は、市町村教育委員会の協力のもと、次の観点から、各学校における防火体制を再点検し、その強化を図っているところである。

・学校防火計画及び防火診断の内容と方法の改善
・木造校舎を中心とする防火上の施設設備の充実と整備方法の改善
・児童生徒及び教育関係者の防火意識の高揚と防火訓練の強化

平成25年度は、学校火災は市町村立中学校において４件発生した。今後とも学校火災の絶無を期するよう努める。

また、昭和50年度以降の県内の学校火災は原因別にみると、放火又は放火の疑い、火遊び、たばこの不始末など生徒指導上の問題と関連の深い火災が多く、防火の面からも生徒指導の一層の充実と強化を図る必要がある。なお、原因不明による火災が突出している。

次に、学校の警備状況を見ると、その多くが機械警備となっており、機械が探知した火災情報の確認から消火活動に至るまで、関係者の連携が一層迅速になるよう検討し、改善を図っていくことが重要である。

さらに、灯油、アルコール、シンナー等の燃えやすい物質や混合爆発、発火等の可能性の高い毒劇物・危険物等薬品の保管については、防火上のみならず、防犯上からも厳重な管理を徹底していくことが必要である。

平成25年度の学校防火診断の概要及び学校管理の状況は次のとおりである。

(1)　平成25年度公立小・中・特別支援学校防火診断項目

ア　防火体制について
イ　警備員、代行員の勤務状況について
ウ　火気関係設備及び取り扱い状況について
エ　電気設備について
オ　消防用設備及びその管理について
カ　その他
・諸表簿の管理状況
・毒劇物・危険物等薬品の保管状況

(2)　学校防火診断の実施と指導

ア　学校防火診断実施要項の趣旨を徹底させた。
イ　防火診断の結果に基づき、防火対策上必要な措置を市町村教育委員会及び各小・中・特別支援学校に指導した。

※平成21年度より県教育委員会による研修を目的とした学校防火診断は実施しないこととしたが、市町村教育委員会と連携を図りながら、各学校における防火診断の適正な実施を行っていく。

6　へき地対策

(1)　へき地学校の状況

ア　へき地学校

教育事務所＼級地		4級		3級		2級		1級		準1級		特地		教育事務所指定		計	
		本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校
小学校	県北							2		1				14		17	0
	県中					2		3	1	3	1	2	1	25	1	35	4
	県南			1				3				1		8		13	0
	会津					3		4		1				6		14	0
	南会津					7				1				6		14	0
	相双					3		2		2				4		11	0
	いわき			1		6	1	3		1		1		9	1	21	2
	計	0	0	2	0	21	1	17	1	9	1	4	1	72	2	125	6
中学校	県北							1		1				5		7	0
	県中					2		3		2		1		11		19	0
	県南							1						4		5	0
	会津					2		4		1				6		13	0
	南会津					4				1				3		8	0
	相双					3		2						1		6	0
	いわき			1		5		3				1		4		14	0
	計	0	0	1	0	16	0	14	0	5	0	2	0	34	0	72	0
総計		0	0	3	0	37	1	31	1	14	1	6	1	106	2	197	6
		0		3		38		32		15		7		108		203	

イ　特別へき地学校数、学級数、児童生徒数、教員数（休校中も含む）

	小学校												中学校												合計											
	学校数			児童数			学級数			教職員数				学校数			生徒数			学級数			教職員数			学校数			児童生徒数			学級数			教職員数		
級地	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	級地	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	級地	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計
4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3級	2	0	2	14	0	14	4	0	4	10	0	10	3級	1	0	1	1	0	1	1	0	1	5	0	5	3級	3	0	3	15	0	15	5	0	5	15	0	15
2級	21	1	22	760	0	760	37	0	37	186	0	186	2級	16	0	16	464	0	464	45	0	45	154	0	154	2級	37	1	38	1244	0	1244	132	0	132	340	0	340
1級	17	1	18	1060	14	1074	87	2	89	180	2	182	1級	14	0	14	812	0	812	56	0	56	170	0	170	1級	31	1	32	1872	14	1886	143	2	145	350	2	352
準1	9	1	10	549	9	558	47	2	49	93	2	95	準1	5	0	5	279	0	279	16	0	16	50	0	50	準1	14	1	15	828	9	837	63	2	65	143	2	145
特地	4	1	5	384	13	397	28	3	31	49	3	52	特地	2	0	2	39	0	39	4	0	4	18	0	18	特地	6	1	7	423	13	436	32	3	35	67	3	70
教育事務所指定	72	2	74	5676	28	5704	404	5	409	767	5	772	教育事務所指定	35	0	35	4001	0	4001	194	0	194	491	0	491	教育事務所指定	107	2	109	9677	28	9705	598	5	603	1258	5	1263
合計	125	6	131	8443	64	8507	657	12	669	1285	12	1297	合計	73	0	73	5595	0	5595	316	0	316	889	0	889	合計	198	6	204	14099	64	14163	973	12	985	2173	12	2185

⑵　へき地教育の振興策

へき地の学校は、概して小規模であり、また、複式学級も多い。したがって、教育条件の改善充実を図るとともに、へき地学校に優秀な教員を確保することが緊要である。

ア　へき地教育の人事行政

「平成25年度人事異動方針」第１の２において、「教育の機会均等の理念に立脚し、各学校の教職員組織の充実と均衡に努めるとともに、第６次福島県総合教育計画に沿った教育施策を推進するため、教育庁職員組織の充実を図る」ことを基本として掲げ、これを受けて平成25年度小・中・特別支援学校教職員人事異動実施要項第２の２の⑴において「異動のための区分を設定し、すべての教職員を在職期間中に都市、平地、へき地の勤務を公平に経験させる」こととし、へき地と各地域との計画的な異動の推進を図った。

(ｱ) へき地異動

a　地域区分

県内の地域区分を次のとおりとする。

○　Ａ地域　市の中心部で比較的交通の便のよい地区及び桑折町、国見町、鏡石町、石川町、浅川町、三春町、小野町、棚倉町、塙町、会津坂下町、会津美里町、浪江町、富岡町の中心部の学校

○　Ｂ地域　Ａ及びＣ地域以外の学校

○　Ｃ地域　へき地の学校(人事委員会・教育事務所指定の学校)

b　異動基準

(a)　へき地学校勤務については次の基準による。

○ へき地学校勤務未了者については、へき地学校へ計画的に転出させる。へき地学校勤務満了者であっても、へき地学校に勤務すべき該当者が少ない場合においては、へき地学校へ計画的に転出させる。

○ へき地学校勤務については、別表１による期間勤務した場合は満了とする。ただし、会津ブロック外出身者の会津ブロックへき地学校勤務については、別表２による。

○ すでに、へき地学校勤務満了者が、再び相当期間へき地学校に勤務し、都市又は平地の学校に転出を希望する者については考慮する。相当期間とは、２年以上とする。

別表１（教員のへき地校勤務年数）

級別	教育事務所指定のへき地	人事委員会指定へき地					
		特地・準1級地	1級地	2級地	3級地	4級地	5級地
勤続年数	4年以上	３年以上		２年以上			

別表２（教員のへき地校勤務年数）

会津ブロック外出身者の会津ブロックへき地勤務年数（新採は含まない）	へき地級地別	
	教育事務所指定	特地、準１級地、１級地以上
	３年以上	２年以上

(b)　他管内へき地等への計画的異動

小学校・中学校等に勤務する教員のうち、学習指導等に実績のある優秀な教員を選考して、他管内へき地等の学校に計画的に異動させ、その教育実践を通して、県内全域の教育の振興・充実を図ることとした。異動先での勤務期間は３年以上である。また、異動先での勤務期間を良好な成績で勤務した者については、教頭昇任選考筆頭試験の一部（指導関係）を免除する施策もあわせて実施した。

イ　へき地学校教職員の経済的優遇策

(ｱ) へき地手当等の支給

人事委員会指定のへき地学校等に勤務する教職員に対し、次の手当が支給される。

○　へき地手当

勤務するへき地学校等の級別区分に応じて、次のとおり支給される。

級地	手当額	支給割合
４級地	(給料の月額＋教職調整額＋扶養手当)×支給割合	20／100
３級地		16／100
２級地		12／100
１級地		8／100
準１級地		4／100

(注)給料の月額＝給料月額＋給料の調整額

○　へき地手当に準ずる手当

へき地学校等又は特別の地域に所在する学校等（人事委員会指定）へ、異動に伴い住居を移転した場合に支給される。

・異動日から５年間

(異動等の日における給料の月額＋教職調整額＋扶養手当)×４％

・５年を経過した後の１年間

(異動等の日における給料の月額＋教職調整額＋扶養手当)×２％

ウ　へき地学校教職員の配置に対する特別措置

へき地教育振興法第４条の２項に「都道府県は、へき地学校に勤務する教員及び職員の決定について特別の考慮を払わなければならない。」とあり、本県としてもへ

き地学校教職員及び養護教員、事務職員等の配置について特別措置を講じている。

(3) 今後の問題点

ア へき地学校の教職員配置の改善を図ること。

へき地学校の教職員の年齢構成からみて、中堅教員が少ない傾向にある。今後中堅教員を計画的にへき地に配置していく必要がある。

また、へき地に勤務する教職員の優遇策や地元の受け入れ態勢の整備充実にいっそう努力する必要がある。

イ 都市・平地とへき地との人事異動を推進すること。

へき地学校勤務未了者を解消するため、これまでも計画的に平地、へき地の異動を推進してきた。今後一層計画的、広域的な異動を推進する必要がある。

第２節 学校教育

１ 概要

(1) 指導行政の基本方針

今年度は、平成22年度から平成26年度までの５年間を計画期間とし、本県の教育施策を総合的・計画的に推進するための指針である「第６次福島県総合教育計画」の三年目に当たり、「“ふくしまの和”を奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり」を基本理念に、

① 知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成

② 学校、家庭、地域が一体となった教育の実現

③ 豊かな教育環境の形成

の３つの基本目標のもと、平成24年度の成果を踏まえるとともに、引き続き、震災後の本県学校教育分野の復興に適切に対応するため、事業を展開してきた。

特に、「ふくしまの復興・再生に向けた、生き抜く力をはぐくむ教育の推進」「家族や地域の絆を生かした、学校、家庭、地域が一体となった教育力の向上」「復興・再生に向けた教育環境の充実」を、重視する３つの観点として、学校教育の推進を図ってきた。

(2) 指導組織

各課長を中心に、主幹、主任指導主事、指導主事及び各教育事務所学校教育課長、指導主事、各市町村教育委員会指導主事等（下表）によって、幼稚園、小学校、中学校の指導に当たった。

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
指導主事数（学校教育課長を含む）	11	11	8	11	5	9	6	61
市町村教育委員会指導主事等数	21	34	8	8	0	8	17	96

(3) 学校教育指導の重点

学習指導要領の趣旨を踏まえ、「確かな学力」「豊かな人間性・社会性」の育成を図るため、教育課程の改善・充実、学習指導と生徒指導の充実に努めた。

ア 教育内容・方法の改善充実に努めた。

(ｱ)「学校教育指導の重点」などにより、具体的な実践例を紹介したり指導の重点を示したりし、授業の改善が図られるようにした。

(ｲ) 本県教育行政の推進を図るため、指導担当者の資質向上のための研修に努めた。

○ 指導担当者研究協議会
○ 学校教育課長等会議
○ 学力向上担当指導主事会議
○ 生徒指導担当指導主事会議

(ｳ) 小・中学校教育課程研究協議会を開催し、学習指導要領の趣旨の徹底と教員の指導力向上を図った。

○ 対象者 各校長・教頭及び教務主任等のうちから２名

(ｴ) 福島県小・中学校教育研究会を共催し、教育課程実施上の諸問題を研究し、その改善・充実に努めた。

(ｵ) 各種研究学校（地区）を指定し、指導内容や指導方法の改善・充実に努めた。

○ 文部科学省及び国立教育政策研究所の研究委託による研究指定校等
・ 生徒指導・進路指導総合推進事業 ほか
○ 県教育委員会による研究指定校
・ 学力向上推進支援事業 ほか

イ 教職員の資質と指導力の向上に努めた。

(ｱ) 小学校、中学校初任者研修の実施

(ｲ) 事務職員、教職経験者、校長研修会、新任校長、新任教頭、新任教務主任等の研修会の実施

(ｳ) 中央研修講座への派遣

(ｴ) 長期研修生（内地留学）の派遣

(ｵ) 教育研究団体に対する援助と指導

(ｶ) 教職員研究論文の募集

ウ 免許外教科担当教員の研修の充実と指導力の向上に努めた。

(ｱ) 中学校免許外教科担任教員研修会

エ 幼稚園教育担当教員の研修の充実と指導力の向上に努めた。

(ｱ) 幼稚園等新規採用教員研修

(ｲ) 幼稚園経験者研修Ⅱ

(ｳ) 幼稚園教育理解推進事業中央協議会

(ｴ) 幼稚園教育課程研究協議会

(ｵ) 幼児教育実技研修会

オ 生徒指導の充実に努めた。

(ｱ) 各種研修会を実施し、生徒指導の充実に努めた。

○ 生徒指導総合推進事業運営協議会（２回）

(ｲ) 研究地域を指定し、生徒指導の充実・改善に努めた。

○ 生徒指導総合推進事業

(ｳ) ピュアハートサポートプロジェクト事業を実施した。いじめの問題の解消とその未然防止に努めるとともに、不登校等の学校不適応問題の解決に努め

た。

○　教育相談体制の充実

・スクールカウンセラー等活用事業
・スクールカウンセラー活用事業
・緊急時カウンセラー派遣事業
・学校教育相談員（教育センターに配置）
・スクールカウンセラー緊急派遣事業(震災対応)
・スクールソーシャルワーカー緊急派遣事業
・子ども２４時間いじめ電話相談

○　教職員の資質向上

・子どもの心のサポート研修会
・道徳教育教材作成
・道徳教育推進校による実践研究（６地区）
・初任研、経験者研修、専門研修等

○　教育相談専門研修及び関係機関との連携強化

カ　社会の変化に対応した教育の充実に努めた。

(ｱ) 情報化社会への対応

○　学校におけるコンピュータ等の整備(市町村教委)

(ｲ) 国際化への対応

○　語学指導等を行う外国青年招致事業の実施

○　134名の外国JET青年の受入れ(102名を市町村教育委員会が配置［CIR１名を含む］)

(4)　県立中学校入学者選抜

ア　基本方針

「平成26年度福島県立中学校入学者選抜における基本方針」

県立中学校入学者選抜に当たっては、適性検査及び作文の成績、面接の結果、並びに小学校の校長から提出される調査書を資料として、志願者の意欲･能力･適性等を総合的に判定し、入学予定者を決定するものとする。

(ｱ)　選抜の資料は次のとおりとする。

a　適性検査

問題発見･解決能力、思考力、判断力、表現力等、小学校における教育において身に付けた総合的な力をみる。

b　作文

与えられた課題について、考えたことや感じたことなどをまとめ表現する力をみる。

c　面接

志願者の目的意識、意欲や長所等をみる。

d　調査書

小学校での学習や生活の状況をみるために、各教科の学習の記録、外国語活動の記録、総合的な学習の時間の記録、特別活動の記録、行動の記録などが記載された調査書を選抜資料に用いる。

なお、調査書は福島県教育委員会教育長が定める様式及び調査書作成要領に基づき、志願者の在学している小学校の校長が作成する。

(ｲ)　入学予定者の決定に当たっては、次の手順で行う。

まず、適性検査及び作文の成績の合計並びに調査書の成績のいずれもが定員内にある者で、かつ、調査書の記載事項及び面接の結果に特に問題のない者を入学予定者とする。

次に、その他の者については、適性検査及び作文の成績、調査書の記載事項並びに面接の結果を十分に精査して、総合的に判定し、入学予定者を決定する。

(ｳ)　選抜結果については、志願者及び志願者の在学している小学校の校長に通知するものとする。

(ｴ)　入学辞退その他の理由により入学予定者の定員に欠員が生じた場合は、入学予定者とならなかった者の中から速やかに新たな入学予定者を決定し、入学の意思を確認の上、補充するものとする。

イ　入学者選抜関係日程

６月　７日　第１回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議
７月24日　第２回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議
８月23日　県立中学校・高等学校入学者選抜方法の改善に関する調査研究報告書提出
10月　８日～10月10日　県中及び会津地区で入学者選抜実施要綱説明会実施
10月18日　平成26年度入学者募集定員決定
12月　９日～12月13日　出願書類受付
１月11日　適性検査、作文及び面接
１月17日　選抜結果通知書の発送
１月20日～１月24日　入学確約書提出
１月27日～１月31日　欠員補充

２　現職教育

(1)　教職員等中央研修

ア　趣旨

校長、教頭、中堅教員に対し、学校の管理運営、学習指導などの諸問題について、それぞれの職務に必要な研修を行い、その識見を高め、指導力の向上を図る。

イ　主催　独立行政法人教員研修センター

ウ　共催　文部科学省

エ　会場　独立行政法人教員研修センター

オ　期間及び参加者

◇校長マネジメント研修

６月10日（月）～６月14日（金）
会津若松市立大戸小学校　山本　靖
10月21日（月）～10月25日（金）
古殿町立古殿中学校　渡邊　宏文
郡山市立守山小学校　小林　希一

◇副校長・教頭研修

１月７日（火）～１月24日（金）
伊達市立粟野小学校　教頭　高野　孝男
福島県教育センター指導主事　小林　真一
１月28日（火）～２月14日（金）
中島村立中島中学校　教頭　深谷　昇司

◇中堅教員研修

７月23日（火）～８月16日（金）

福島市立信夫中学校	栗城　敏彦
須賀川市立第一小学校	森藤　雅之
いわき市立平第三中学校	坪井　浩一

８月20日（火）～９月13日（金）

福島市立福島第三小学校	渡辺　博明
南会津町立荒海小学校	佐藤三和子
浪江町立浪江小学校	横山　浩志

11月19日（火）～12月13日（金）

会津若松市立第五中学校	植村　　信
郡山市立小山田小学校	横田　利定
郡山市立大槻中学校	酒井　　優

(2)　各種研修会

ア　福島県公立学校長研修会地区別研修会(公立小・中・特別支援学校長、県立学校長)

(ｱ) 主催　　福島県教育委員会

(ｲ) 管内・期日・会場・参加人数【参加824名】

○ 県北　　６月24日（月）
【福島市アクティブシニアセンター】170名

○ 県中　　７月９日（火）
【田村市文化センター】　　207名

○ 県南　　６月18日（火）
【白河市産業プラザ人材育成センター】
66名

○ 会津　　７月９日(火)
【会津美里町新鶴公民館構造改善センター】
121名

○ 南会津　７月１日（月）
【南会津町御蔵入交流館】　　26名

○ 相双　　６月20日（木）
【福島県養護教育センター（双葉)】27名
６月17日（月）
【南相馬市鹿島区万葉ふれあいセンター(相馬)】
52名

○ いわき　６月24日（月）
【いわき合同庁舎】　　131名

イ　公立小・中・特別支援学校新任校長研修会

(ｱ) 主催　　福島県教育委員会

(ｲ) 会場　　福島県教育センター

(ｳ) 期間・参加人数

５月７日（火）～５月８日（水）小学校　41名
中学校　20名

(ｴ) 講師　　義務教育課長　　飯村　新市　他

ウ　公立小・中・特別支援学校新任教頭研修会

(ｱ) 主催　　福島県教育委員会

(ｲ) 会場　　福島県教育センター

(ｳ) 期間・参加人数

５月13日（月）～５月14日（火）小学校　41名
中学校　30名

(ｴ) 講師　　義務教育課主任管理主事　有賀　仁一　他

エ　公立小・中・特別支援学校新任教務主任研修会

(ｱ) 主催　福島県教育委員会

(ｲ) 管内・期日・会場・参加人数

○ 県北　５月23日（木）【県教育センター】
小学校15名　中学校６名　特別支援学校１名

○ 県中　８月22日（木）【須賀川市産業会館】
小学校11名　中学校６名　特別支援学校０名

○ 県南　４月22日（火）【白河合同庁舎】
小学校７名　中学校６名　特別支援学校０名

○ 会津　５月16日（木）【ユースピアゆがわ】
小学校７名　中学校３名　特別支援学校０名

○ 南会津５月31日（金）【南会津合同庁舎】
小学校２名　中学校１名　特別支援学校０名

○ 相双　５月16日（金）【南相馬合同庁舎】
小学校９名　中学校３名　特別支援学校０名

オ　公立小・中学校経験者研修（Ⅰ、Ⅱ）

(ｱ) 経験者研修Ⅰ

○ 主催　　福島県教育委員会

○ 期間・会場

a　５月～12月　　勤務校

b　５月～12月　研修会等への参加
※先進校での研修

c　６月～10月　　教育センター

(小)　６月10日（月）～12日（水）

(中)　10月16日（水）～18日（金）
10月22日（火）～24日（木）

○ 参加人数（小学校26名、中学校37名）

○ 講師　　教育センター依頼の外部講師・大学教授
※主にセンター指導主事が講座担当、一部大学教授等が講師

(ｲ) 経験者研修Ⅱ

○ 主催　　福島県教育委員会

○ 期間・会場

a　４月～11月　　教育事務所

b　５月～１月　　勤務校

c　９月～11月　　教育センター

(小)　９月30日（月）～10月２日（水）

(中)　９月３日（火）～９月５日（木）

○ 参加人数(小学校49名、中学校54名)

○ 講師　　教育センター依頼の外部講師・大学教授、教育センター指導主事等

カ　公立小・中学校初任者研修

(ｱ) 校内における研修　180時間以上
各学校で年間を通じて計画し、実施する。

(ｲ) 校外における研修　22日間

a　地区別研修Ａ
（６日間、各教育事務所の計画による）

- 一般研修　　１日間
- 授業研修　　２日間
- へき地校研修　　１日間
- カウンセリング研修　　１日間
- 特別支援学校研修　　１日間

b　地区別研修Ｂ
（10日間、各市町村教育委員会の計画による）
・　一般研修　１日間
・　研究発表集会等研修　３日間
・　社会奉仕体験活動研修　２日間
・　企業等体験研修　３日間
・　他校種園参観研修　１日間
c　宿泊研修　５月28日（火）～30日（木）
(ｳ) 参加者数
a　小学校　47名
b　中学校　35名

キ　公立小・中・特別支援学校事務職員研修
(ｱ) 新規採用職員研修
・　対象　平成25年度新規採用者
・　日数　前期５日間、後期３日間
・　参加人数　８名（小学校６名、中学校２名）
・　会場　ふくしま自治研修センター
(ｲ) 基礎力アップ研修
・　対象　採用後４年目
・　日数　３日間
・　参加人数　５名
(ｳ) 応用力アップ研修
・　対象　採用後８年目
・　日数　２日間
・　参加人数　６名
(ｴ) 実行力アップ研修
・　対象　採用後12年目
・　日数　３日間
・　参加人数　６名
(ｵ) 総合力アップ研修
・　対象 採用後20年目、40歳以上
・　日数 ２日間
・　参加人数　73名
(ｶ) 新任係長研修会
・　対象　新任の主任主査
・　日数　３日間
・　参加人数　23名

ク　事務職員研修（小・中学校）
○　主催　独立行政法人教員研修センター
○　期間　2月25日（月）～3月1日（金）
○　参加人数　２名（小学校１名、中学校１名）
○　会場　独立行政法人教員研修センター

(3)　教員長期研修

（研修機関、研修期間、研修生）
ア　上越教育大学
(ｱ) 平成24年4月1日～平成26年3月31日
会津若松市立河東学園小学校教諭　高倉　順一
相馬市立磯部小学校教諭　芦口　玲子
(ｲ) 平成25年4月1日～平成27年3月31日
福島市立立子山小学校教諭　加藤　正典
白河市立白河第二中学校教諭　小林　巧一

イ　福島大学
(ｱ) 平成24年4月1日～平成26年3月31日
白河市立白河第一小学校教諭　鈴木美沙歩
白河市立白河第二小学校教諭　荒井　智
只見町立朝日小学校教諭　渡邉　拓
いわき市立平第二小学校教諭　渡辺　哲也
いわき市立豊間中学校教諭　山下有希子
(ｲ) 平成25年4月1日～平成27年3月31日
福島市立大森小学校教諭　菅野　紀子
二本松市立二本松第三中学校教諭　三瓶理恵子
天栄村立湯本小学校教諭　白井　孝拓
白河市立白河第二中学校教諭　矢吹　章
いわき市立小名浜西小学校教諭　山田　茂幸

(4)　教員体験研修

ア　主催　福島県教育委員会
イ　期間　３か月
ウ　派遣者及び派遣先

学校名	職名	氏名	派遣先
国見町立国見小学校	教諭	高橋　秀幸	公益財団法人福島県国際交流協会
須賀川氏立稲田小学校	教諭	八城　眞人	ハマツ観光株式会社ホテルハマツ
喜多方市立喜多方第一小学校	教諭	日下　智裕	会津天宝醸造株式会社
いわき市立泉小学校	教諭	柴田　達八	常磐興産株式会社スパリゾートハワイアンズ事業本部

(5)　平成25年度産業・情報技術等指導者養成研修（中学校）

教科	技術・家庭
氏名	野口　幸哉
職名	教諭
学校名	川俣町立山木屋中学校
研修先	宮城教育大学
研修期間	8月5日～8月9日

(6)　教育研究奨励

ア　名称　福島県教職員研究論文
イ　主催　福島県教育委員会
ウ　応募資格　福島県公立幼稚園・小・中・高・特別支援学校の教職員
エ　審査委員
福島大学人間発達文化学類特任教授　野崎　修司
福島大学総合教育研究センター特任教授　丹野　学
福島市教育実践センター所長　鈴木　昭雄
オ　応募数　３６点
カ　入賞者
(ｱ) 特選

氏名	所属
教諭　菅野　智香子	二本松市立石井小学校
教諭　吉田　明史	郡山市立湖南小中学校
教諭　齋藤　孝之	田村市立美山小学校
教諭　遠藤　範子	伊達市立桃陵中学校
矢祭町立内川小学校	団体

(ｲ) 入選

氏名	所属
棚倉町立棚倉小学校	団体

只見町立朝日小学校	団　　体
教諭　増子　啓信	相馬市立桜丘小学校
只見町立只見小学校	団　　体
天栄村立天栄中学校	団　　体
県立聾学校	グループ
矢祭町立東舘小学校	団　　体

(ｳ) 奨励賞

氏　　名	所　　属
教諭　河原田三春	南会津町立舘岩小学校
教諭　柳澤　香里	福島市立鳥川小学校

3　教育課程

(1)　平成25年度福島県小・中学校教育課程研究協議会

〈平成25年度福島県小学校教育課程研究協議会〉

ア　主催　　福島県教育委員会

イ　実施期間

県北域内　　９月５日（木）
県中域内　　９月26日（木）
県南域内　　９月17日（火）
会津域内　　９月20日（金）
南会津域内　９月20日（金）
相双域内　　９月２日（月）
いわき域内　９月10日（火）

ウ　実施教科等

総則、国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動

エ　参加者数　465名

〈平成25年度福島県中学校教育課程研究協議会〉

ア　主催　　福島県教育委員会

イ　実施期間

県北域内　　９月３日（火）
県中域内　　９月５日（木）
県南域内　　９月10日（火）
会津域内　　９月17日（火）
南会津域内　９月20日（金）
相双域内　　９月９日（月）
いわき域内　９月19日（木）

ウ　実施教科等

総則、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語、道徳、総合的な学習の時間、特別活動

エ　参加者数　250名

4　学力向上等

(1)　学力向上推進支援事業

ア　授業改善のための定着確認シート活用実践事業

イ　学力向上地域連携事業

ウ　学力調査研究事業

(2)　ふくしまの未来を拓く理数教育充実事業

ア　理科力アップ事業

イ　理数教育優秀教員活用事業

ウ　小学生算数・理科講座事業

エ　福島県算数・数学ジュニアオリンピック事業

オ　「科学の甲子園」福島県大会事業

(3)　少人数教育推進事業

学力向上や人間性・社会性の育成を総合的・効果的に推進するための「個に応じた指導」の徹底を図るため、ティーム・ティーチングや習熟度別等指導、及び30人学級編制等の少人数教育を進め、教員等の目が子ども一人一人に行き届き、きめ細かな指導や評価ができる体制を作る。

○　30人程度学級

○　30人学級編制（小１、小２、中１）

5　放射線教育（放射線教育推進支援事業）

放射線等に関する基礎的な知識についての理解を深め、心身ともに健康で安全な生活を送るために、児童・生徒が自ら考え、判断し、行動する力を育成するための支援を行うため、下記の事業等を実施した。

(1)　実践協力校

ア　小学校

下郷町立楢原小学校
相馬市立桜丘小学校

イ　中学校

桑折町立醸芳中学校
郡山市立郡山第四中学校

(2)　指導者養成研修会

ア　主催　福島県教育委員会

イ　期日　平成２５年６月２７日（木）

ウ　会場　ビッグパレットふくしま

エ　参加者　１００名

(3)　地区別研究協議会

ア　主催　福島県教育委員会

イ　期日

県北域内　　８月23日（金）
県中域内　　９月２日（月）
県南域内　　９月５日（木）
会津域内　　９月10日（火）
南会津域内　９月５日（木）
相双域内　　10月３日（木）［相馬］
　　10月７日（月）［双葉］
いわき域内　11月７日（木）

ウ　参加者数　780名

(4)　運営協議会

ア　主催　福島県教育委員会

イ　期間　４月～１月（５回）

ウ　参加対象者　本庁関係課、教育事務所、教育センターの担当指導主事等及び実践協力校担当者

エ　内容　各種放射線教育研究協議会の企画・立案、指導資料の作成及び事業の総括

(5)　「放射線等に関する指導資料第３版」の作成と配付

ア　発行者　福島県教育委員会

イ　発行　　平成２６年３月

ウ　部数　　３０００部

6　防災教育（防災学習推進支援事業）

地域の自然環境、災害や防災について正しい知識を身に付け、災害発生時における危険を理解し、状況に応じて的確な判断の下に、自らの安全を確保するための行動ができたり、災害発生時及び事後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができたりする態度及び能力を児童生徒に育成するため、下記の事業等を実施した。

(1)　防災学習に関する資料作成担当指導主事研修会

ア　主催　福島県教育委員会

イ　期間　５月～１２月（４回）

ウ　参加対象者　本庁関係課、教育事務所、教育センターの担当指導主事等

エ　内容　資料作成担当指導主事に対して防災学習に関する研修を行い防災教育についての理解を深め資料作成に繋げた。

(2)　防災教育指導資料の作成と配付

ア　発行者　福島県教育委員会

イ　発行　　平成２６年２月

ウ　部数　　１５００部

7　道徳教育

(1)　道徳教育

ア　道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修

(ｱ) 主催　中央指導者研修
　　独立行政法人教員研修センター
　　ブロック別指導者研修
　　独立行政法人教員研修センター、
　　宮城県教育委員会

(ｲ) 会場　中央：独立行政法人教員研修センター
　　ブロック：仙台国際センター（仙台市）

(ｳ) 期日
　中央指導者研修　　平成25年６月　３日～　７日
　ブロック別指導者研修　平成25年７月２９日～３１日

〈中央指導者研修〉

氏　名	勤　務　先	職　名
鈴木　孝彦	新地町立駒ヶ嶺小学校	校長
坂井　孝子	郡山市立安積第三小学校	教諭
熊谷　幸司	県北教育事務所	指導主事
渡部　朋史	会津教育事務所	指導主事
福羽由佳子	いわき市教育委員会	指導主事

〈ブロック別指導者研修〉

氏　名	勤　務　先	職　名
神永　睦子	白河市立関辺小学校	校長
土屋　好二	南会津町立南会津中学校	教頭
齋藤賢一郎	福島県立梁川高等学校	教諭
宗形　潤子	県中教育事務所	指導主事

イ　小学校教育研究会道徳部会

(ｱ) 研究主題

「道徳的価値の自覚と自己の生き方についての考え方を深める指導の充実」

(ｲ) 主催
　福島県教育委員会、福島県小学校教育研究会
　関係市町村教育委員会

(ｳ) 会場・期日
　各地区ごとに設定

ウ　中学校教育研究会道徳部会

(ｱ) 研究主題

「心をたがやし、心に力を与える道徳教育はどうあればよいか」
～発問構成と効果的な展開のあり方～

(ｲ) 主催
　福島県教育委員会、福島県中学校教育研究会
　関係市町村教育委員会

(ｳ) 会場・期日
　各地区ごとに設定

(2)　道徳教育総合支援事業

ア　趣旨

学習指導要領の趣旨並びに児童生徒、学校等の実態を踏まえ、創意工夫を生かした道徳教育を推進するための実践研究を行い、その成果を普及することにより道徳教育の充実を図る。

イ　福島県道徳教育推進協議会
　年２回開催（５月３１日、２月５日）

ウ　福島県道徳教育地区別推進協議会
　各事務所ごとに設定、１回開催

エ　道徳教育推進校
　小学校６校、中学校１校、高等学校１校

オ　道徳教材作成
　「ふくしま道徳教育資料集第Ⅱ集「敬愛・つながる思い」」

カ　道徳教育推進協議会
　期日　　平成26年３月６日（木）
　会場　　文部科学省旧庁舎６階　第２講堂
　参加者　県教育庁義務教育課
　　指導主事　大内　克之

(3)　人権教育

ア　人権教育研究開発事業

○　趣旨
　人権意識を培うための学校教育の在り方について幅広い観点から実践的な研究を行い、人権教育に関する指導方法等の改善及び充実を図る。

○　推進地域
　西郷村（西郷村教育委員会）村内幼・小・中学校（１園８校）

○　研究テーマ
　自分を大切にし、他の人を思いやることのできる人づくり　～　みんなで見守り、みんなで育む人権教育　～

○　研究期間

平成２４・２５年度

イ　人権教育指導者養成研修

○　主催　　独立行政法人教員研修センター

○　期日　　平成25年７月10日～12日

○　会場　　独立行政法人教員研修センター

○　参加者　会津若松市立第五中学校

教諭　兼子　明美

大熊町立熊町小学校

教諭　門馬　　貞

(4)　「モラル・エッセイ」コンテスト

ア　趣旨

モラルやマナー、いのち、家族、人との絆など、心温まるちょっといいお話、今伝えたいメッセージ等を募集し、学校と家庭・地域が一体となって、子どもたちの道徳的実践力を養うとともに、県民一丸となって「生きる力」を身に付ける機会とする。

イ　応募期間

平成25年７月１日～８月30日

ウ　応募数

中学校　　７７０点

高等学校　　４８２点

一般　　１１点

エ　受賞者

【中学校】

最優秀賞	いわき市立中央台南中学校	２年	小野　夏海
優秀賞	郡山市立緑ケ丘中学校	３年	藤田ももこ
	天栄村立湯本中学校	３年	小山　真梨

【高等学校】

最優秀賞	白河高等学校	１年	藤田　純佳
優秀賞	白河高等学校	１年	佐藤　　彩
	白河高等学校	１年	菊地　郁恵

【一般】

最優秀賞	福島市在住	宍戸　悦子

８　特別活動

主な研修及び行事

(1)　県小学校教育研究会特別活動部会

ア　主催　　県小学校教育研究会

イ　研究主題

望ましい集団活動を通して、個性の伸長を図るとともに、よりよい生活や人間関係を築き、自主的、実践的な態度を育てる特別活動の指導の在り方

ウ　県研究協議会

○　期日　平成25年10月11日(金)

○　会場　国立那須甲子青少年自然の家

(2)　県中学校教育研究会特別活動部会

ア　主催　県中学校教育研究会、開催市町村教育委員会

イ　研究主題

生徒会の一員としての自覚を高め、意欲的な自分を生かす生徒会活動の指導

ウ　県研究協議会

○　期日　平成25年10月9日(水)

○　会場　会津美里町立高田中学校

９　生徒指導・進路指導

(1)　生徒指導

ア　委託地域による研究推進

福島市　会津若松市　白河市　郡山市

○　委託　文部科学省、いじめ対策等生徒指導推進事業

平成25年度

イ　生徒指導研究連絡会議

国立教育政策研究所主催

○　期日　　平成25年６月６日

○　会場　　文部科学省講堂

○　参加者　県教育庁高校教育課

主任指導主事　佐藤　文男

県教育庁義務教育課

主任指導主事　菊池　篤志

ウ　生徒指導指導者養成研修

○　期日　　平成25年６月24日～７月９日

○　会場　　独立行政法人教員研修センター

○　参加者　相馬市立八幡小学校

教諭　　遠藤　　隆一

郡山市立郡山第六中学校

教諭　　田中　朗裕

エ　教育相談指導者養成研修

○　期日　　平成25年９月24日～９月27日

○　会場　　独立行政法人教員研修センター

○　参加者　県中教育事務所

指導主事　　本田　一意

(2)　進路指導・キャリア教育

ア　キャリア教育指導者養成研修会（東部ブロック）

(ｱ)　主催　　独立行政法人教員研修センター

(ｲ)　会場　　独立行政法人教員研修センター

(ｳ)　期間　　６月17日（月）～６月21日（金）

(ｴ)　参加者

会津若松市立門田小学校教諭	君　　佳子
棚倉町立棚倉中学校教諭	本多　正典
福島県立修明高等学校教諭	三浦　　純

１０　幼稚園教育

平成25年度公立幼稚園数は、193園（休園18を含む）であった。学級数は前年度より14学級減の505であったが、東日本大震災及びその後の原子力発電所事故の影響による幼児数の減少も影響し、少人数保育になっているところが多い。県全体の公立幼稚園平均学級園児数は、16.5人である。幼稚園未設置市町村の解消や就園率の地域格差是正、３年保育、その他混合保育、預かり保育など課題も多い。

さらに、幼稚園教育の一層の充実を図るため、市町村教育委員会、福島県公立幼稚園教育研究会及び公益社団法人福島県私立幼稚園連合会協会等の協力を得て、次の事業を実施した。

(1)　幼稚園教育課程研究協議会

ア　主催　福島県教育委員会

イ　期日
　平成25年９月13日～10月８日のうち１日
ウ　会場（県内６地区）
　県北、県中、県南、会津・南会津、相双、いわき
エ　内容
　○　幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続についての説明
　○　幼稚園の教育活動及び運営に係る課題と対応策
オ　参加者数　338名（６地区合計）

⑵　幼児教育実技研修会

ア　主催　　福島県教育委員会
イ　期日　　平成25年８月５日（月）～８月７日（水）
ウ　会場　　福島大学附属幼稚園
エ　受講者　131名

⑶　福島県幼稚園等新規採用教員研修

ア　主催　　文部科学省、福島県教育委員会
イ　会場　　教育センターが定めた場所、勤務園、参観を希望する幼稚園、保育所、小学校
ウ　日数　　園外研修（教育センターの計画）　３泊４日
　〃　（教育センターの計画）　３日間
　〃　（幼稚園、保育園、小学校参観）　３日間
　園内研修（勤務園）　１０日間
エ　参加者　研修対象者　公立33名　私立58名　計91名
オ　内容　　講義……教師の役割、幼稚園教育の現状
　演習……自然の中での遊び
　協議……諸問題、教師のかかわり
　実技……絵本のイメージと遊び、みんなで楽しむ歌やゲーム
　参観……生活科等小学校の授業、保育実習
　実習……保育実習

⑷　幼稚園経験者研修Ⅱ

ア　主催　　文部科学省、福島県教育委員会
イ　期日　　年間
ウ　日数・内容・会場

○　休業期間等における研修…５日以上
・共通研修……１日（教育センター）
・保育専門研修…１泊２日（教育センター）
・社会体験研修…１日（社会体験を行う各施設等）
・選択研修　……１日以上（幼児教育実技研修会等）
○　課業期間等における研修…７日以上
・保育力の向上研修
・教育課題研修
・パイオニア研修

エ　参加者　研修対象者　公立19名　私立0名　計19名

１１　へき地教育

本県におけるへき地学校は、県全体の小・中学校別の総数に対して、小学校125校で、26.5%、中学校72校で31.0%を占め、小・中学校総数に対して28.0%の割合となっている。

このへき地、山村、過疎地域の教育の振興を図るため、下記の事業を実施した。

⑴　複式学級担任教員研修会

ア　主催　福島県教育委員会
イ　期日　平成25年５月28日（火）～５月29日（水）
ウ　会場　福島県教育センター
エ　講師　小学校教諭他
オ　参加者数　40名

⑵　中学校免許外教科担当教員研修会

ア　主催　福島県教育委員会
イ　期日　平成25年５月15日（水）～５月17日（金）
　平成25年５月22日（水）～５月24日（金）
ウ　会場　福島県教育センター
エ　講師　中学校教諭他
オ　参加者数　128名

⑶　全国へき地教育研究大会

第62回全国へき地教育研究大会和歌山大会
ア　主催　文部科学省、全国へき地教育研究連盟
　三重県教育委員会
イ　期日　平成25年11月７日（木）～11月８日（金）
ウ　会場　全体会・分散会　三重県総合文化センター
　学校別分科会　県内８会場
エ　研究主題
　○　全国主題
　「ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を築く心豊かな子どもの育成」
オ　派遣者氏名

氏　名	職	勤務先
渡部　重	教諭	柳津町立柳津小学校
池上　禎一	教諭	南会津町立南会津中学校

⑷　福島県へき地・小規模学校教育研究会

平成２２年度末に福島県へき地・小規模学校教育研究会が解散している。

１２　環境教育

学校における環境教育は、学校教育全体を通して行う必要があり、自然とふれあいを深め自然を愛護することの大切さを理解させるように努めている。

⑴　「尾瀬サミット」小・中学生３県交流事業「尾瀬子どもサミット」

ア　主催　　福島県教育委員会
　群馬県・群馬県教育委員会
　新潟県教育委員会
イ　期日　　平成25年7月30日（火）～8月2日（金）
ウ　会場　　群馬県利根郡片品村「尾瀬ロッジ」
エ　参加者数　福島県　県内小・中学生２０名
　群馬県　県内小・中学生２０名

新潟県　県内小・中学生２０名

オ　活動内容　尾瀬レクチャー・フィールド活動・意見交換会

カ　知事報告会　平成25年８月２日(金)　県庁

１３　教科用図書

(1)　平成26年度使用教科用図書の採択

公立小・中学校教科用図書の採択は、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」に基づき、学校教育法附則第９条図書を採択した。小学校用教科書、中学校用教科書は継続採択であった。

ア　教科用図書選定審議会

(ｱ) 委員　16名

(ｲ) 任期　平成25年4月1日～平成25年8月31日

(ｳ) 開催期日　第１回　平成25年４月18日

第２回　書面による審査

(ｴ) 会場　第１回　福島県庁西庁舎講堂

イ　教科書展示会

平成25年6月14日から14日間、県内18の会場で開催した。会場及び来会者は下の表のとおりである。

※　双葉教科書センターは震災の影響により休止

教科書センター（展示会場）	採択地区名	展示教科書（該当に○印）			展示会場設置場所（該当に○印）			来会者総数
		小・中・高	小・中	高	教科書センター	分館	その他	
福島教科書センター（福島市立図書館）	福島・伊達・安達地区	○			○			9
伊達教科書センター（保原小学校）	〃		○		○			31
二本松教科書センター（二本松文化センター）	〃		○		○			1
郡山教科書センター（郡山中央図書館）	郡山地区	○			○			27
須賀川教科書センター（須賀川第二中学校）	岩瀬地区		○		○			22
石川教科書センター（石川中学校）	石川地区		○		○			77
三春教科書センター（三春小学校）	田村地区		○		○			58
〃　（おおごえふるさと館）	〃		○				○	90
〃　（小野町教育委員会）	〃		○				○	49
西白河教科書センター（白河市立図書館）	西白河・東白川地区	○			○			17
東白川教科書センター（棚倉町文化センター）	〃	○			○			37
会津若松教科書センター（城北小学校）	会津地区	○			○			7
喜多方教科書センター（喜多方第一小学校）	〃	○			○			3
会津坂下教科書センター（坂下南小学校）	〃	○			○			35
南会津教科書センター（御蔵入交流館）	〃		○		○			34
南会津教科書センター（伊南分館）	〃		○			○		8
相馬教科書センター（相馬市図書館）	相馬地区	○			○			114
双葉教科書センター（富岡町文化交流センター）	双葉地区		—		—			—
いわき教科書センター（いわき市総合教育センター）	いわき地区	○			○			41
合　計 （展示会場18箇所）（採択地区10地区）		9	9		15	1	2	660

ウ　平成26年度使用小学校教科書採択一覧（採択４年目）

種目 / 採択地区	国語	書写	社会	地図	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	保健
福島・伊達・安達	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	東書	開隆堂	東書
郡山	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	開隆堂	東書	学研
田村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	日文	東書	東書
岩瀬	光村	教出	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書
石川	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	開隆堂	開隆堂	東書
西白河・東白川	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	開隆堂	開隆堂	東書
会津	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	日文	東書	東書
相馬	東書	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	日文	東書	東書
相双	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	日文	東書	東書
いわき	光村	東書	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	開隆堂	開隆堂	東書

エ　平成26年度使用中学校教科書採択一覧（採択３年目）

種目 / 採択地区	国語	書写	社会（地理的分野）	社会（歴史的分野）	社会（公民的分野）	地図	数学	理科	音楽（一般）	音楽（器楽合奏）	美術	保健体育	技術・家庭（技術）	技術・家庭（家庭）	英語
福島・伊達・安達	光村	東書	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教芸	開隆堂	東書	東書	東書	東書
郡山	光村	光村	帝国	教出	帝国	帝国	東書	学図	教芸	教芸	日文	学研	東書	東書	東書
田村	光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	東書	東書	東書	東書
岩瀬	光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書
石川	光村	光村	東書	帝国	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	開隆堂	開隆堂	東書
西白河・東白川	光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書
会津	光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	三省堂
相馬	光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	東書	東書	東書	東書
相双	光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	東書	東書	東書	東書
いわき	東書	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	開隆堂	東書	東書	東書	東書

(2)　教科用図書無償給与

平成25年度も義務教育諸学校の全児童生徒に教科書の無償給与が行われた。また、平成26年度使用教科用図書無償給与事務説明会を市町村教育委員会及び県立特別支援学校・私立学校等の教科書事務担当者を対象に下表のとおり開催し、適正かつ円滑な事務処理が図られるようにした。

期日	会場	参集範囲
平成26年２月３日	南相馬合同庁舎	相双
平成26年２月４日	郡山合同庁舎	県中
平成26年２月５日	福島県教育センター	県北
平成26年２月10日	白河合同庁舎	県南
平成26年２月13日	湯川村公民館	会津
平成26年２月14日	南会津合同庁舎	南会津
平成26年２月17日	いわき合同庁舎	いわき

１４　教育研究団体

(1)　福島県公立幼稚園教育研究会

ア　研究主題（平成25年度～平成27年度）

協議主題１	きまりの必要性などに気付き、自分の気持ちを調整する力が育つようにするための環境の構成や教師のかかわりについて
協議主題２	自ら考えようとする気持ちが育つようにするための環境の構成や教師のかかわりについて
協議主題３	人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わうようになるための環境の構成や教師のかかわりについて
協議主題４	特別な支援を必要とする幼児の状態等に応じた計画的、組織的な指導の在り方について
協議主題５	教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動（いわゆる預かり保育）について
協議主題６	幼稚園における学校評価について

イ　組織及び財政の状況

○　会長　　長尾順一郎

○　会員数　　787名

○　平成25年度決算額　　1,321,589円

上記のうち補助金　　なし

ウ　主な事業

○　ブロック研究協議会

平成25年度は各地区ごとに実施。

○　研究主題研修会

(ｱ)期日・会場

平成25年6月5日(水)　福島市吾妻学習センター

(ｲ)講師　福島県教育庁義務教育課指導主事

(2)　福島県小学校教育研究会

ア　基本主題（平成25年度～平成27年度）

(ｱ)「確かな学びと豊かなかかわりを通して生きる力をはぐくむ授業」

イ　各研究部研究主題

研究部	研究主題
国語	児童一人一人の表現力や理解力を育成し、伝え合う力を高める指導はどうあればよいか。
社会	子ども一人一人が社会事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を身に付け、観察や調査、資料の活用などの活用をとおして、社会的な見方や考え方を成長させる社会科の授業はどうあればよいか。
算数	算数的活動を通して、数量や図形について実感的に理解し、次の学びに生かそうとする子どもの育成
理科	自ら自然にはたらきかけ、感じ、考え、実感できる理科学習の充実
生活・総合	人・社会・自然に進んでかかわり、

	質の高い気付きや学びができる子どもを育成するにはどうすればよいか。
音　楽	多様な音楽活動と豊かな学びを通して、音楽を愛好する子どもの育成
図画工作	つくり出す喜びを味わう造形活動を通して、感性を働かせながら、自分の思いを豊かに表現することができる図画工作科の指導
家　庭	家族とのきずなを深め、生き抜く力をはぐくむ家庭科の学習はどうあればよいか。
体　育	多様な運動の特性に触れる経験を通して学び合う中で、めあての達成を目指して主体的に運動に取り組む子どもを育てる体育指導
道　徳	道徳的価値の自覚と自己の生き方についての考えを深める指導の充実
特別活動	望ましい集団活動を通して、個性の伸長を図るとともに、よりよい生活や人間関係を築き、自主的、実践的な態度を育てる特別活動の指導の在り方

ウ　組織及び財政の状況

(ｱ) 会長　　中野　光一（郡山市立桃見台小学校）

(ｲ) 会員数　6,069名

(ｳ) 平成25年度決算額　　5,149,153円

エ　主な事業

○　研究協議会

(ｱ) 主催　福島県小学校教育研究会

(ｲ) 共催　福島県教育委員会・開催地区関係市町村教育委員会

(ｳ) 期日・会場

a 地区研究協議会　各地区　各地区の計画による

b 県研究協議会　10月8日（火）～10月25日（金）　県内11会場

(ｴ) 指導助言者　　指導主事等

(3) 福島県中学校教育研究会

ア　研究主題

(ｱ) 基本主題

「未来を切り拓く確かな学力を身につけ、人間性豊かにたくましく生きる生徒の育成」

イ　各部研究主題

部　会	平成25年度の研究主題・研究副主題
国　語	豊かな言語生活を支える生きて働くことばの力を身につけさせるための指導はどうあればよいか。～伝え合う力の育成～ H25　文学的文章における指導の工夫
社　会	自ら学び社会にはたらきかける力を育成するための社会科の授業はどうあればよいか。 H25　社会的事象どうしを関連づける力を育てる授業の工夫
数　学	数学的活動の工夫を通して、確かな学力を身につけさせるためにはどうすればよいか。 H25　思考力・判断力・表現力を高める指導
理　科	自然とのかかわりを重視し、自然を探究する力を高め、望ましい自然観を育てる授業はどうあればよいか。 H25　目的意識をもって、観察、実験を行い、得た結果を分析して解釈し、表現する力をはぐくむ探究活動の工夫
音　楽	音楽活動の楽しさを通して、音楽を愛好する心情を育て、音楽に対する感性を豊かにする指導はどうあればよいか。 H25　音楽の価値を感受し、表出する能力を高める指導と評価
美　術	生徒一人一人に創造活動の喜びを味わわせ、生涯にわたって美術に親しむ心をはぐくむ美術教育はどうあればよいか。 H25　主体的な活動による美に向かう実践力の育成
保健体育	生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育て、健康の保持増進と体力の向上を図る指導はどうあればよいか。 H25　自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育成する指導の工夫 ～保健分野～
技術・家庭	よりよい生活を創造するための実践力をはぐくむ指導はどうあればよいか。 H25　習得した知識及び技術を活用して課題を解決する学習活動の工夫
英　語	４技能を総合的に活用できるコミュニケーション能力をはぐくむための指導はどうあればよいか。 H25　身につけた知識や技能を活かし、コミュニケーション能力をはぐくむための言語活動の工夫
道　徳	心をたがやし、心に力をあたえる道徳教育はどうあればよいか。 H25　発問構成と効果的な展開のあり方
特別活動	望ましい集団活動を通して自分のよさを生かし、社会性をはぐくむ特別活動の指導はどうあればよいか。 H25　生徒会の一員としての自覚を高め、意欲的な自分を生かす生徒会活動の指導

ウ　組織及び財政の状況

(ｱ)　会長　小柴　治紀（福島市立信陵中学校）

(ｲ)　会員数　3,701名

(ｳ)　平成25年度の決算額　8,292,921円

エ　主な事業

○　研究協議会

(ｱ) 主催　福島県中学校教育研究会

(ｲ) 共催　福島県教育委員会

(ｳ) 期日・会場

a　支部研究協議会　　各支部

b　県研究協議会　　10月９日（水）　県内11会場

(ｴ) 指導助言者　指導主事等

(4) 福島県小学校長会

ア　組織及び財政の状況

(ｱ) 会　長　福井　一明（福島市立福島第一小学校）

(ｲ) 会員数　466名

(ｳ) 平成25年度の決算額　14,009,334円

イ　主な事業

(ｱ) 理事会　年５回開催

(ｲ) 会　場　福島市

(5)　福島県中学校長会

ア　組織及び財政の状況

(ｱ) 会　長　君島　勇吉（福島市立福島第四中学校）

(ｲ) 会員数　234名

(ｳ) 平成25年度の決算額　7,778,219円

イ　主な事業

(ｱ) 平成25年度福島県中学校長会総会

(ｲ) 開催期日　４月25日（木）

(ｳ) 会　　場　福島県教育会館

(6)　福島県公立小・中学校教頭会

ア　組織及び財政の状況.

(ｱ) 会　長　半澤　正保（福島市立福島第四中学校）

(ｲ) 会員数　707名

(ｳ) 平成25年度の決算額　12,013,655円

イ　主な事業

○　平成25年度福島県小・中学教頭会総会及び研修会

(ｱ)開催期日　５月13日（月）

(ｲ)会　　場　福島県教育会館

○　第27回福島県小・中学教頭会研究大会福島大会

(ｱ)開催期日　９月12日（木）、13日（金）

(ｲ)会　　場　パルセいいざか　吉川屋　ホテル聚楽

(ｳ)参加人数　６５０名

(7)　福島県学校図書館協議会

ア　組織及び財政の状況

(ｱ) 会長　今野　隆（郡山市立白岩小学校）

(ｲ) 加盟校　715校

平成25年度の決算額　1,014,873円

イ　主な事業

(ｱ) 第62回福島県学校図書館研究大会北会津大会

(ｲ) 研究主題　「未来を拓き、豊かな学びの中核となる学校図書館」

(ｳ) 開催期日　平成25年10月29日（火）

(ｴ) 会　　場　磐梯町立磐梯幼稚園
磐梯町立磐梯第一小学校
磐梯町立磐梯第二小学校
猪苗代町立東中学校
猪苗代町立体験交流館「学びいな」

(ｵ) 参加人数　230人

(8)　福島県公立小中学校事務研究協議会

ア 組織及び財政の状況

(ｱ) 会長　土澤　琴江

(ｲ) 会員数　627名

(ｳ) 平成25年度の予算額　3,890,000円

イ 主な事業

学校事務研修会

研修Ⅰ（講話）

福島県教育庁義務教育課　管理主事　歌川哲由

「福島県の教育施策と学校事務職員の役割」

研修Ⅱ（講演）

日本大学文理学部教育学部　准教授　末冨　芳

「カリキュラム経営と学校事務職員の財務マネジメント」

・開催期日　平成25年5月22日（水）

・会　　場　ユラックス熱海

・参加人数　役員･代議員166名、一般会員120名

(5)　受賞者

第３節　国際化・科学技術の進展等への対応

１　中学生・高校生の科学・技術研究論文

野口英世賞募集

(1)　募集の趣旨

郷土が生んだ世界的な医学者、「医聖のぐち」とうたわれた野口英世博士の名を冠した賞を制定し、県内の中学校・高等学校生徒を対象に論文の募集、表彰を行い、科学及び技術の発展に対応した人材の育成に努める。

(2)　応募期間

平成25年9月2日（月）～9月10日（火）

(3)　応 募 数

中 学 校　28点（8校）

高等学校　5点（5校）

(4)　審 査 会

平成25年10月15日(火)　自治会館　３０１会議室

（審査員長）

福　島　大　学　長　入戸野　　修

（審査員）

福　島　大　学　副　学　長　小　沢　喜　仁

福　島　大　学　教　授　渡　邊　　明

いわき明星大学准教授　岩　田　惠　理

県中学校教育研究会理科部長　遠　藤　二　郎

県私立中学高等学校協会元理事　唐　木　義　則

県高等学校教育研究会理科部会長　坂　爪　靖　夫

【中学校】

・個人研究の部

賞	氏　名	学　校　名	論　文　の　題　名
最優秀賞	伊藤　愛	会津若松市立第六中学校	Earth Worm ～偉大なるミミズの力～
優秀賞	鈴木　智也	福島市立岳陽中学校	「まわれぼくの風車」－羽根の大きさや形、素材を工夫したよくまわりパワーのある風車に関する研究－
入　選	湯田　茜音	福島大学附属中学校	水中をゆっくりと沈むフィルムケースの運動
	渋谷　和秀	福島大学附属中学校	水に浮く物体の「浮く力」ははかれるか？
	小林　武尊	福島市立岳陽中学校	植物を糖質とミネラルの割合を変えた溶液で育てるとどのような変化が見られるか
	山本明日香	福島市立松陵中学校	塩が農作物に与える影響について～塩害を再現する～
	福原　諒	会津若松市立第二中学校	ゴム底靴の「スリップ」の原因を探る

・共同研究の部

賞	団　体　名	論　文　の　題　名
入　選	西郷村立西郷第二中学校 科学部	土壌について

【高等学校】

・個人研究の部

応募なし

・共同研究の部

賞	団　体　名	論　文　の　題　名
最優秀賞	福島県立相馬農業高等学校 農業クラブ草花専攻班	ハマナスの自生地再生を目指して ～難発芽性種子の発芽率向上に関する研究～
優秀賞	福島県立白河実業高等学校 農業科畜産専攻班	「安全で安心な採卵養鶏の改善を目指して」 自家産唐辛子を利用した採卵養鶏の研究
	福島県立会津学鳳高等学校	会津メダカの遺伝子解析 －遺伝子汚染はどれだけ進んでいるのか－
入　選	福島県立福島高等学校 探究クラス化学班	金属イオンを用いたスライム

2　中学生・高校生の国際理解・国際交流論文

朝河貫一賞募集

(1)　募集の趣旨

国際化の進展に対応し、世界のさまざまな文化や価値観を尊重するとともに、国際社会の平和と発展を担っていくことのできる青少年の育成を図る観点から、郷土が生んだ国際的な歴史学者「朝河貫一博士」の名を冠した賞を制定し、県内の中学校・高等学校の生徒を対象に論文の募集、表彰を行い、国際化に対応した人材の育成に努める。

(2)　応募期間

平成25年9月2日（月）～9月10日（火）

(3)　応募数

中学校　35点（18校）

高等学校　26点（4校）

(4)　審査会

平成25年10月17日(木)　自治会館３０１会議室

(5)　受賞者

（審査員長）

桜の聖母短期大学名誉教授　富良謝　純

（審査員）

郡山女子大学教授　J･ティルマント

福島学院大学客員講師　玄永牧子

福島民報社論説委員長　鈴木　久

福島民友新聞社編集局報道部長　小野広司

福島県中学校長会副会長　山寺精吉

福島県高等学校長協会普通部会長　小浜宗一郎

【中学校の部】

賞	氏　名	学　校　名	学年	論文の題名
最優秀賞	佐藤　眞理	いわき市立中央台南中学校	3	Change the world.－マララさんから学んだこと－
優秀賞	菅野　竣介	福島大学附属中学校	1	命の灯を絶やさないために
	瓜生　　開	福島大学附属中学校	2	国際理解への第一歩
	山口愛由美	福島大学附属中学校	3	同じ地球に生を受けた人間として
	日下俊一郎	福島県立会津学鳳中学校	3	「世界平和のあり方について」
	園部　佳尋	いわき市立川部中学校	3	私の好物と国際社会
入選	中里　優理	福島大学附属中学校	3	あなたにとって「幸せ」とは何ですか？
	齋藤　周也	喜多方市立山都中学校	2	減らそう差別、増やそう幸せ

【高等学校の部】

賞	氏　名	学　校　名	学年	論文の題名
最優秀賞	長島　智里	福島県立磐城高等学校	1	一歩踏み出す勇気を
優秀賞	久保木　剛	福島県立磐城高等学校	1	自他をよく知り、認め合うこと
	中越　早紀	福島県立磐城高等学校	1	気持ちの言葉
	黒川　杏奈	福島県立磐城高等学校	1	パヤタスの人の話
	阿部　宮基	福島県立磐城高等学校	1	アメリカから見る人種差別問題
	松本　莉奈	福島県立磐城高等学校	1	熱い心で
	酒井　英知	福島県立安積高等学校	1	国際交流において二次関数が描き出すもの
入選	加藤　　舞	福島県立磐城高等学校	1	「国際社会」

第6章　高等学校教育

第1節　学校管理

1　生徒数と教職員数

(1)　県立高等学校の推移

区分＼年度		16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
全日制	本校	85	85	85	85	85	84	83	83	83	83
	分校	6	6	6	6	6	6	6	5	5	5
定時制	独立	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	併置	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	計	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	分校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(注)募集基準として学校数を算定した(課程の変更、募集停止を実施した場合、2年以上の生徒が在籍しても学校数に含めない)。

(2)　中学校卒業者の進学状況

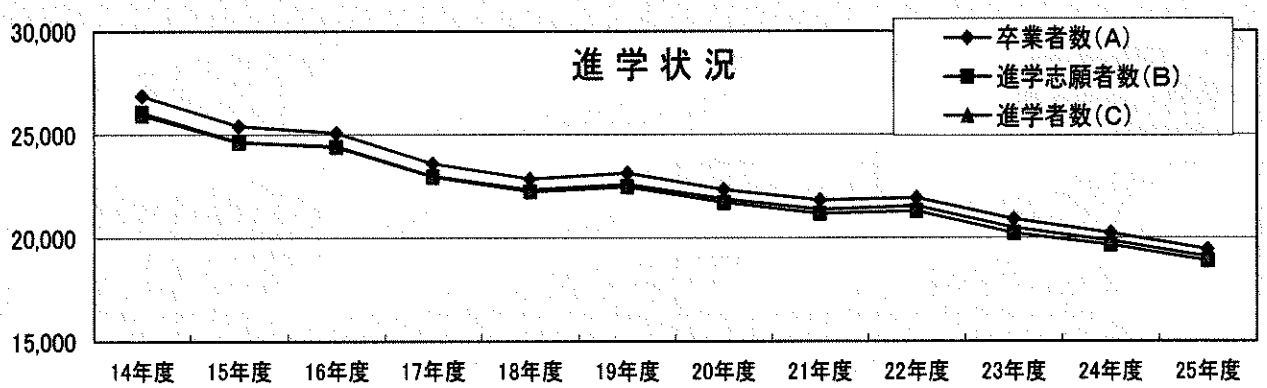
区分＼年度	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
卒業者数(A)	26,868	25,404	25,067	23,593	22,851	23,127	22,333	21,807	21,930	20,887	20,220	19,427
進学志願者数(B)	26,068	24,653	24,392	22,957	22,231	22,471	21,704	21,176	21,305	20,219	19,659	18,873
進学者数(C)	25,947	24,617	24,441	22,981	22,337	22,593	21,873	21,371	21,529	20,467	19,835	19,072
進学志願率(B/A)	97.0	97.0	97.3	97.3	97.3	97.2	97.2	97.1	97.2	96.8	97.2	97.1
進学率(C/A)	96.6	96.9	97.5	97.4	97.8	97.7	97.9	98.0	98.2	98.0	98.1	98.2
入学率(C/B)	99.5	99.9	100.2	100.0	100.5	100.5	100.8	100.9	101.1	101.2	100.9	101.1

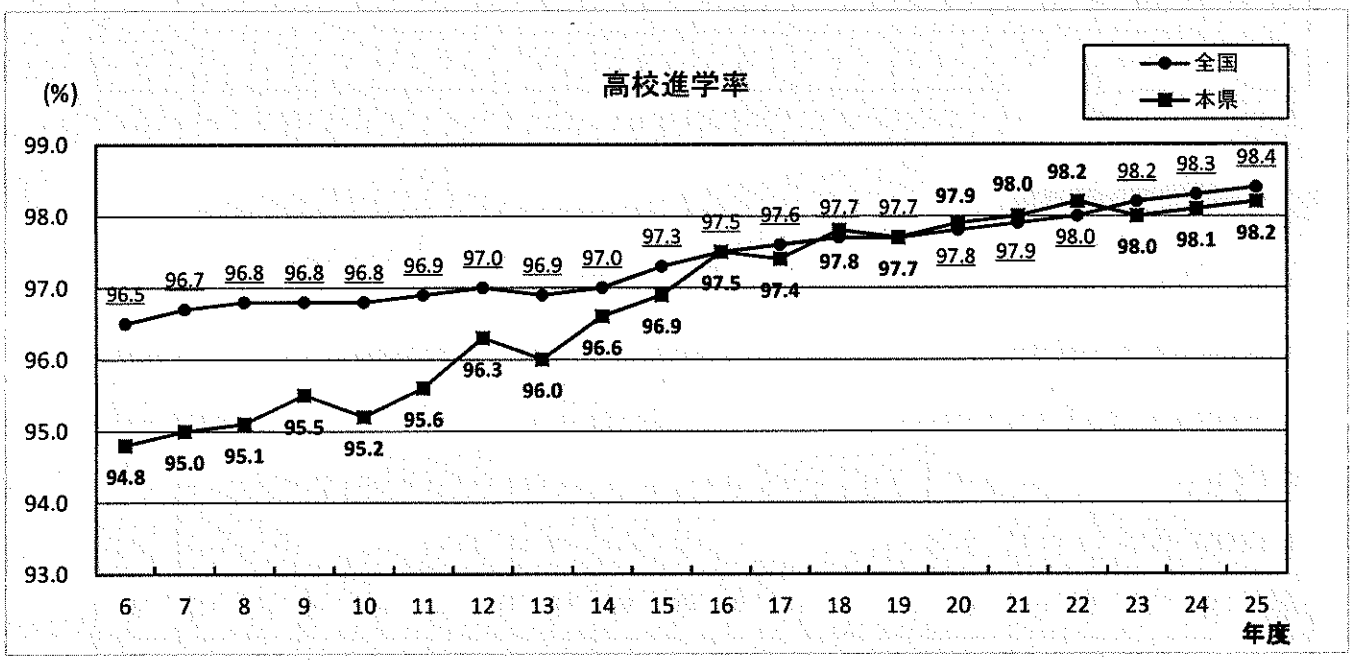
(注)進学とは中学校卒業者のうち県内外を問わず、高校の全日制、定時制、通信制、別科、高専及び特別支援学校高等部へ進学したことをいう(就職者を含む)。 進学志願者数には高校の通信制課程志願者は含まれない。

中学校卒業者数は前年度より793名減少し、進学率は0.1ポイントアップし、入学率は0.2ポイントアップした。
平成25年度の進学者の内訳は次のとおりである。

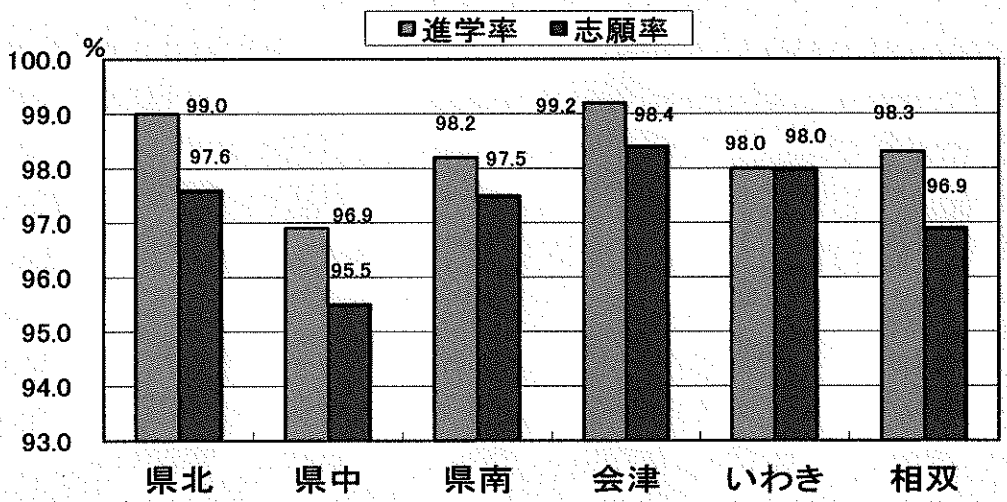
高等学校全日制 18,052名 (94.7%)
高等学校定時制 312名 (1.6%)
高等学校通信制 350名 (1.8%)
高等専門学校 225名 (1.2%)
特別支援学校高等部 133名 (0.7%)

ア　中学校卒業者の進学状況の推移、進学率の推移



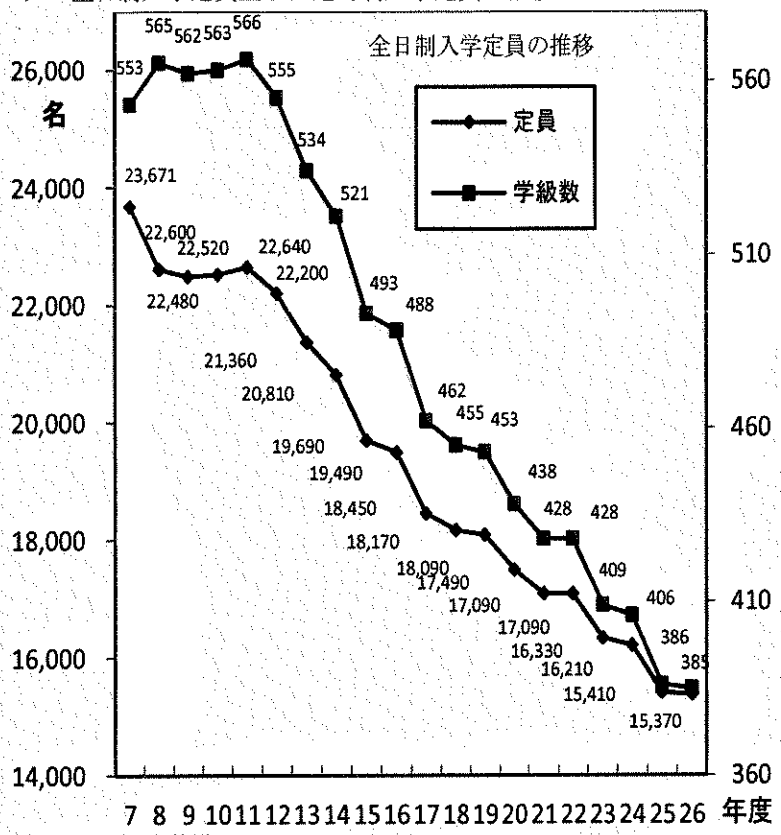


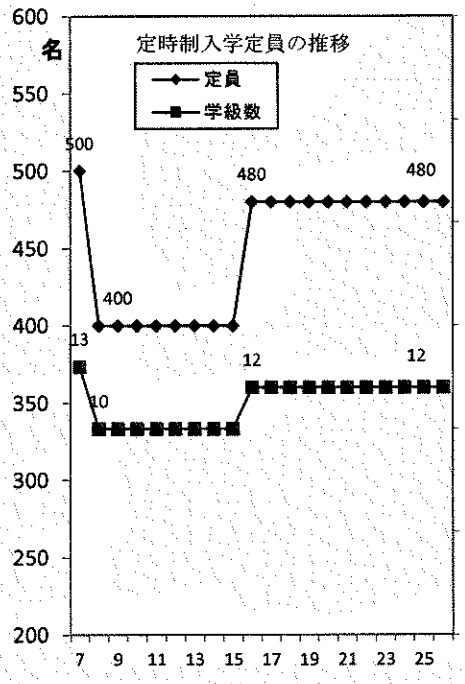
イ　地域別高校志願率・進学率



(3) 県立高等学校入学定員の推移

ア　全日制入学定員並びに定時制入学定員の推移





イ　学級編成基準

学科の区分	全日制	定時制	学科の区分	全日制	定時制
普通科	35，40	40	国際文化に関する学科	40	－
農業に関する学科	40	－	英語に関する学科	40	－
工業に関する学科	40	40	体育に関する学科	40	－
商業に関する学科	40	－	美術に関する学科	40	－
家庭に関する学科	40	－	国際科学に関する学科	40	－
水産に関する学科	40	－	総合学科	40	－
理数に関する学科	40	－	国際・ｽﾎﾟｰﾂに関する学科	40	－
文理に関する学科	40	－			

(4) 県立高等学校全日制課程入学状況の推移

年度	中学校卒業者数	入学定員		志願者数		志願倍率	入学者数	
	A	B 定員	B／A（%）	C 志願者数	C／A（%）	C／B（%）	D 入学者数	D／C(%)
16	25，067	19，490	77.8	20，659	90.4	116	18，988	83.8
17	23，593	18，450	78.2	20，634	87.5	113	17，928	86.9
18	22，851	18，170	79.5	19，988	87.5	113	17，508	87.6
19	23，127	18，090	78.2	20，130	87.0	111	17，530	87.1
20	22，333	17，490	78.3	19，368	86.7	111	16，934	87.4
21	21，807	17，090	78.4	18，975	87.0	111	16，666	87.8
22	21，930	17，090	77.9	18，996	86.6	111	16，599	87.4
23	20，887	16，330	78.2	17，725	84.9	109	15，460	87.2
24	20，220	16，210	80.2	16，961	84.3	105	15，090	89.0
25	19，427	15，410	79.3	16，231	83.5	105	14，307	88.1

(5) 県立高等学校生徒数（25.5.1現在）

学科の区分＼課程		全日制	定時制			専攻科	合計	通信制
			学年制	単位制	計			
普通科	男	10,610	181	308	489		11,099	1,148
	女	11,871	147	416	563		12,434	1,116
	計	22,481	328	724	1,052		23,533	2,264
農業に関する学科	男	1,438					1,438	
	女	1,391					1,391	
	計	2,829					2,829	
工業に関する学科	男	5,772	74		74		5,846	
	女	530	13		13		543	
	計	6,302	87		87		6,389	
商業に関する学科	男	1,568					1,568	
	女	3,233					3,233	
	計	4,801					4,801	
家庭に関する学科	男	11					11	
	女	65					65	
	計	76					76	
水産に関する学科	男	314				32	346	
	女	62				2	64	
	計	376				34	410	
理数に関する学科	男	257					257	
	女	198					198	
	計	455					455	
文理に関する学科	男	431					431	
	女	605					605	
	計	1,036					1,036	
国際文化に関する学科	男	33					33	
	女	130					130	
	計	163					163	
国際・スポーツに関する学科	男	116					116	
	女	68					68	
	計	184					184	
国際科学に関する学科	男	153					153	
	女	448					448	
	計	601					601	
英語に関する学科	男	72					72	
	女	240					240	
	計	312					312	
体育に関する学科	男	92					92	
	女	25					25	
	計	117					117	
美術に関する学科	男	7					7	
	女	102					102	
	計	109					109	
総合学科	男	1,433					1,433	
	女	2,516					2,516	
	計	3,949					43,949	
合計	男	22,307	255	308	563	32	22,902	1,148
	女	21,484	160	416	576	2	22,062	1,116
	計	43,791	415	724	1,139	34	44,964	2,264

(6) 県立高等学校通信制課程入学者、卒業者の推移

区分＼年度	学校	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
入学者	安積第二高校	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	あさか開成高校	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	郡山萌世高校	269	238	242	263	253	239	262	278	290	216	197	152
	計	269	238	242	263	253	239	262	278	290	216	197	152

区分＼年度	学校	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
卒業者	安積第二高校	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	あさか開成高校		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	郡山萌世高校	243	208	241	233	207	204	200	218	228	260	223	231
	計	243	208	241	233	207	204	200	218	228	260	223	231

(7) 県立高等学校教職員数の推移

区分	種別	高等学校																			
	課程	全日制・定時制										通信制									
	職種 年度	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
教員	校長	87	87	87	87	87	86	85	85	85	85										
	教諭等	4052	3922	3853	3790	3730	3674	3617	3523	3446	3351	37	37	36	37	37	37	37	37	37	36
	養護教員	120	123	120	119	116	114	113	110	110	109										
	補充教員	132	151	155	161	167	155	148	148	144	157										
	講師																				
	寄宿舎指導員	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3										
	実習助手	370	359	353	351	346	334	330	330	329	326										
	計	4766	4647	4573	4513	4451	4368	4298	4201	4119	4031	37	37	36	37	37	37	37	37	37	36
事務職員		285	276	274	272	266	263	262	257	256	251	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
その他の職員	技能員	1	1																		
	学校司書	68	66	65	65	64	61	62	58	57	55										
	用務員	59	58	57	56	56	56	54	53	52	49										
	ボイラー技師	19	18	18	17	16	16	14	11	10	11										
	栄養士	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4										
	調理給食員	5	5	4	4	4	4	4	5	4	4										
	計	157	153	149	147	144	141	138	131	127	123										
練習船	技能職員	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9										
	その他の職員	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13										
	計	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22										
合計		5230	5098	5018	4954	4883	4794	4720	4611	4524	4427	43	43	42	43	43	43	43	43	43	42

2 教職員人事・任用

(1) 人事異動の概要

平成25年度の高等学校教職員定数は、前年度比112人減の4,334人となった。このうち、教諭等は、前年度比96人減の3,387人である。

また、特別支援学校については、前年度比10人減の1,519人となった。このうち教諭等は前年度比10人減の1,289人となった。

ア 新採用(教諭)について

平成25年度は63名(国語7名・地理歴史4名・公民1名・数学9名・理科9名・保健体育6名・音楽4名・美術1名・英語7名・家庭1名・農業5名・工業7名・商業2名)の新採用教員を県立高等学校に配置した。

平成25年度に実施した平成26年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験は、採用予定者数 80名程度に対して、高等学校志願者は前年度比44名増の947名であった。

一次及び二次選考試験の結果、名簿登載者数は81名(前年度比11名増)となり、そのうち辞退者を除く77名(前年度比14名増)が新採用教員として配置されることになる。

イ 校長への昇任

県立学校の校長への昇任は、その職責の重要性にかんがみ、資格・人物・指導力等を十分考慮のうえ、教頭から16名、教育庁関係から現場復帰による1名の登用をみた。

これらの管理職は、できる限り自分の専門性をいかせるよう適材を適所に配置し、適正な学校管理運営をするよう努めた。

ウ 異動について

本年度も昨年度同様の方針にのっとり、同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に3年以上勤務する者等を含めて450名の教諭等の異動が実現した。

経験豊かな教員の転出が促進されたこととともに、定時制・通信制・及び特別支援学校と全日制高校との交流が進んだことは、教育組織の強化充実に資するところであり、全県的に教育水準及び教育効果の向上に役立つものと期待される。

(2) 平成25年度県立学校教員異動基準

1 一般基準

(ア)過員解消のための異動は、全県的視野から優先的に取り扱う。

(イ)教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡化を図り主免許教科を担当させるように努める。

(ウ)優秀な人材の定時制(夜間)・通信制・分校及びへき地校への転入を図るとともに、その者が相当年数(3年以上)勤務した場合の転出については、特に考慮する。

(エ)同一校には、原則として、最低3年は勤務するもの

とする。

(オ) ２親等以内の者（姻族を含む。）は、原則として、同一校勤務を避ける。

(カ) 教員人事公募選考制度については、別に定める。

Ⅱ　異動基準

ア　勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

（ア）採用後引き続き同一校に３年以上勤務した者（以下「初任者」という。）

（イ）異動２校目において３年以上勤務した者（以下「若年者」という。）

ただし、若年者は原則として３年以上５年以内で異動の対象とするものとする。

（「若年者」については平成２１年度以降の採用者から適用する。）

（ウ）同一校に８年以上勤務した者（以下「永年者」という。）

ただし、若年者が中通り地域の４校（湖南・塙工業・修明・修明鮫川）、　会津地域の４校（川口・田島・南会津・只見）及び浜通り地域の２校（浪江津島・相馬農業飯舘）に勤務した場合は、原則として３年以上５年以内で異動の対象とするものとする。

イ　地域、地区及び学校群による基準

教員の適材適所への配置及び教員組織の均衡化を図るため、県内を中通り、会津、浜通りの３地域に分け、各地域に所在する学校を学校規模及び交通の利便性等を考慮して、別表①に定めるⅠ・Ⅱ群に分類し、以下により異動を促進する。

（ア）原則として、採用後２０年以内に３地域の学校に勤務するものとする。

（イ）農業、工業、商業、看護、福祉等を除く教科の教員については、Ⅱ群の学校に勤務している者が同一地区内で異動するときは、原則としてⅠ群の学校に勤務するものとする。

ただし、Ⅱ群普通系からⅡ群専門系への異動、Ⅱ群専門系勤務者のうち直近の勤務がⅠ群校の者のⅡ群普通系への異動は可とする。

なお、相双地区においてはⅡ群普通系内の異動も可とする。

（ウ）農業、工業、商業、看護、福祉等の教科の教員については、全県的視野から地域間で相互に異動させるものとする。

ウ　平成２０年度以前の採用者について

平成３０年度までは次の基準（以下「旧基準」という。）を準用し、下記の（イ）ａを満たす者は、上記イ（ア）の規定を満たすものとする。

（ア）勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

ａ　初任者　　ｂ　永年者

（イ）地区及び学校群による基準

教員組織の均衡化を図るため、県内を県北・県南・会津・いわき・相双の５地区に分け、地区ごとに所在する学校を地理的特殊性等を考慮して、別表②に定めるＡ・Ｂ・Ｃ３群に分類し、以下により異動を促進する。

ａ　原則として次の条件を満たすよう勤務するものとする。

（ａ）採用後１５年以内に２地区以上の学校に勤務する。

（ｂ）Ａ・Ｂ２群の学校に勤務する。ただし、Ａ群については、採用後１５年以内とする。

ｂ　県南地区の４校（湖南・塙工業・修明・修明（鮫川）、会津地区の４校（川口・田島・南会津・只見）及び相双地区の３校（浪江津島・富岡川内・相馬農業飯舘）は、それぞれ１地区とみなす。

ｃ　本宮は平成１６年度より県北地区とし、平成１６年度以降の転入・在籍者から適用する。

ｄ　群の取扱いの変更は、別表③の適用年度以降に当該校へ転入・在籍した者について適用する。

ｅ　同一学校群内の異動については、次の諸点に留意する。

（ａ）Ａ群については、原則として、へき地校間、分校間の異動は行わない。

（ｂ）Ｂ群については、原則として、同一市内間の異動は行わない。ただし、いわき市及び南相馬市は除く。

（ｃ）Ｃ群については、同一市内間の異動は行わない。

ｆ　職業に関する学科の教員で、永年者については、全県的視野から地区間で相互に異動することができるものとする。

また、異動後同一校に３年以上勤務した場合は、直近の勤務地区内へ異動することができる。

エ　寄宿舎指導員

原則としてア、イ、ウに準ずるが、採用後２０年以内に２地域の学校に勤務するものとする。

オ　交流

（ア）学校種別間の交流

高等学校、特別支援学校及び中学校における教育を充実させるため、県立特別支援学校、市町村公立中学校との交流を促進する。

ａ　県立特別支援学校との交流は教諭、養護教諭、実習助手、寄宿舎指導員を対象とする。

その期間は、教諭及び実習助手については原則として３年とし、養護教諭及び寄宿舎指導員については原則として３年から８年とする。

ｂ　市町村公立中学校との交流は教諭を対象とし、その期間は原則として２年とする。

（イ）他県との交流

他県との交流については、別に定める。

別表①　地域・地区・群学校分類表

地域・地区		群 I		群 II	
中通り	県北	福島工業（定） 福島北　川俣　梁川 保原　保原（定） 安達　二本松工業 安達東 本宮　福島中央	普通系	福島　橘 福島西　福島東 福島南	
			専門系	福島商業 福島明成 福島工業	
	県中	安積（御舘）　湖南 須賀川　須賀川桐陽 清陵情報　長沼 岩瀬農業　石川 田村　船引　小野 小野（平田）　郡山萌世	普通系	安積　安積黎明 郡山東　郡山 あさか開成	
			専門系	郡山商業 郡山北工業	
	県南	光南　塙工業 修明　修明（鮫川） 白河二	普通系	白河　白河旭	
			専門系	白河実業	
会津		喜多方　喜多方東 喜多方桐桜 猪苗代　耶麻農業 西会津　大沼 川口　坂下 会津農林　田島 南会津　只見 会津二	普通系	会津 葵 会津学鳳	
			専門系	若松商業 会津工業	
		会津学鳳中学校			
浜通り	いわき	湯本　小名浜 いわき海星 磐城農業　勿来 勿来工業　好間 遠野　四倉 いわき翠の杜	普通系	磐城 磐城桜が丘 いわき光洋	
			専門系	平工業 平商業 いわき総合	
	相双	浪江　浪江（津島） 富岡　双葉翔陽 相馬農業 相馬農業（飯舘） 小高商業 小高工業 新地	普通系	双葉　相馬 原町	
			専門系	相馬東	

別表②　地区・群別学校分類表

地区＼群	A	B	C	特別支援学校（A群校扱い）
県北	福島工業(定) 川俣 梁川 保原(定) 安達東 福島中央	福島商業 福島明成 福島北 保原 安達 二本松工業 本宮	福島 橘 福島工業 福島西 福島東 福島南	盲 聾(福島) 大笹生養護 須賀川養護(医大)
県南	安積(御舘) 長沼 石川 船引 小野 小野(平田) 郡山萌世 白河第二 湖南 塙工業 修明 修明(鮫川)	須賀川 須賀川桐陽 清陵情報 岩瀬農業 光南 白河実業 田村	安積 安積黎明 郡山東 郡山商業 郡山北工業 郡山 あさか開成 白河 白河旭	聾 郡山養護 あぶくま養護 あぶくま養護(安積) 須賀川養護 須賀川養護(郡山) 西郷養護　石川養護
会津	猪苗代 耶麻農業 西会津 会津第二 川口 田島 南会津 只見 会津学鳳中学校	喜多方 喜多方東 喜多方桐桜 大沼 坂下 会津農林	会津 葵 会津学鳳 若松商業 会津工業	聾(会津) 会津養護 会津養護(竹田) 猪苗代養護
いわき	いわき海星 磐城農業 勿来 勿来工業 遠野 いわき翠の杜	いわき総合 いわき光洋 湯本 小名浜 好間 四倉	磐城 磐城桜が丘 平工業 平商業	聾(平) 平養護 いわき養護
相双	双葉翔陽 新地 浪江(津島) 相馬農業(飯舘)	双葉 浪江 富岡 相馬農業 小高商業 小高工業	相馬 相馬東 原町	富岡養護 相馬養護

別表③

高校名	群	適用年度	高校名	群	適用年度	高校名	群	適用年度
小野	A	昭和52	白河実業	B	昭和61	棚倉	A	平成10
福島明成	B	昭和56	川俣	A	平成2	東白川農商	A	〃
福島北	B	〃	福島商業	B	〃	あさか開成	C	平成11
いわき海星	A	〃	梁川	A	平成8	光南	B	〃
磐城農業	A	〃	船引	A	〃	石川	A	〃
勿来工業	A	〃	いわき光洋	C	〃	いわき光洋	B	平成16
双葉翔陽	A	〃	勿来	A	〃			
猪苗代	A	昭和58	相馬農業	B	〃			

(3)　教頭複数制実施校(平成25年度実績)

福島	橘	福島西	福島北
保原	安積	安積黎明	郡山東
郡山北工	郡山	須賀川	岩瀬農業
光南	白河	白河実業	修明
田村	葵	会津学鳳	会津工業
喜多方桐桜	磐城	磐城桜が丘	平工業
平商業	いわき総合	湯本	勿来工業
富岡	郡山萌世	いわき翠の杜	盲
聾	大笹生養護	郡山養護	あぶくま養護
須賀川養護	会津養護	平養護	いわき養護

3　学校の設置及び統廃合

－ 公立高等学校の設置・廃止等(平成26年度) －

(1)　学校の新設・廃止

なし

(2)　学級増

なし

(3)　学級減

全日制１校１学級

課程	学校名	内　　容
全日制	保原	普通科１学級

(4)　募集停止

なし

(5)　35人学級編制

全日制３校　６学級

課程	学校名	内　　容
全日制	川口	普通科2学級
	南会津	普通科2学級
	只見	普通科2学級

(6)　課程廃止

なし

(7)　学科転換・学科改編

なし

(8)　学科名変更

なし

(9)　校名変更

なし

(10)　連携型中高一貫教育校

課程	学校名	連携中学校
全日制	塙工業	塙
	田島	田島、檜沢、荒海
	富岡	富岡第一、富岡第二、楢葉、広野
	相馬東	玉野、中村第一、中村第二、向陽、磯部

(11)　併設型中高一貫教育校

会津学鳳高等学校(会津学鳳中学校)

(12)　定時制・通信制

変更なし

(13)　専攻科

変更なし

第２節　学校教育

１　概要

(1)　指導行政の基本方針

生徒の能力・適性、進路・関心等を十分考慮し、地域や学校の実態に応じた教育指導の充実を図りながら、人間性豊かな生徒の育成を目指して、学校教育活動が活発に展開されるよう次の重点目標を設定し、その達成に努めた。

ア　生徒の実態等を踏まえ、各学校が主体性をもって、多様な教育課程を編成し、特色ある学校づくりができるよう指導・援助する。

イ　指導内容の精選と構造化に努め、言語活動の充実と生徒のよい点を積極的に評価するなどの評価の改善を進めることにより、生徒一人一人の個性を生かす指導方法の工夫・改善が図られるよう指導・援助する。

ウ　生徒指導の組織・体制を点検するとともに、教職員の共通理解を基盤として、中学校や家庭との連携を深めながら、生徒理解に基づいた指導が展開されるよう、指導・援助する。

エ　生徒の学校生活への適応を促し、中途退学者の減少及び問題行動・生徒事故の未然防止が図られるよう指導・援助する。

オ　教職員の資質と指導力の向上に努める。

カ　勤労観・職業観の育成にかかわる体験的な学習及び産業教育、情報教育の推進を図る。

(2)　指導組織

高校教育課長を中心に、主幹、主任指導主事及び指導主事が一体となって、それぞれの分掌に従い、企画・運営・指導助言に当たった。

また、学校教育指導委員の指名については、県立高校教諭４０名を指名し、各教科の指導活動の充実・強化を図った。

(3)　学校教育指導の重点

前記の基本方針に基づき、指導の重点を次のように設定し、指導の充実を図った。

ア　教育課程の適切な運営と指導法の改善を図る。

(ｱ) 教育課程の適正な実施について、校長会、教頭会において周知徹底を図った。

(ｲ) 福島県高等学校教育課程講習会において、高等学校学習指導要領について、その趣旨の徹底を図るとともに、教育課程実施に伴う諸問題について研究協議を行った。

イ　学力向上を図る。

「学力向上推進支援事業」を実施し、生徒の進路希望実現を目指した各学校の学力向上やキャリア教育に関する取組を支援するとともに、特に成績上位者の学力向上を図り、国立大学等への合格者の増加を図った。

ウ　生徒指導の充実を図る。

(ｱ) 各種研修会、学校訪問等の指導を通して、校内における指導体制の確立を図るとともに、教職員の共通理解を図り、同一歩調による生徒指導の充実に努めた。

(ｲ) 生徒指導担当者研修会を開催し、生徒の多様化に即した生徒指導の在り方、開かれた生徒指導の在り方について研究協議を行った。

(ｳ) 学校における教育相談体制の確立と教育相談活動の改善・充実を図った。

(ｴ) スクールカウンセラー活用事業として、生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有するスクールカウンセラーを配置し、いじめや不登校等生徒の問題行動の解決に当たった。

エ　進路指導の充実を図る。

各種の研修会や講座を通して、下記事項の徹底に努めた。

(ｱ) キャリア教育の観点より低学年からの計画的・組織的な進路指導を通し進路意識の高揚に努めること。

(ｲ) ホームルーム活動における進路指導の充実に努めること。

(ｳ) 面談や諸調査・諸検査を通して、生徒の能力・適性・進路の希望等を的確に把握すること。

(ｴ) 生徒の自己理解の促進に努めること。

(ｵ) 進路指導室の整備及び進路に関する情報や資料の収集に努めるとともに、その効果的な活用を図ること。

(ｶ) 組織的・計画的な進路相談の充実に努めること。

(ｷ) きめ細かな就職指導の充実・徹底に努めること。

オ　産業教育の充実を図る。

産業教育の改善・充実を図るため、施設・設備の充実及び情報教育の推進に努めた。

(ｱ) 体験入学の内容の質的改善・充実に努めた。

(ｲ) 情報教育の充実のため、教員の研修に努めた。

(ｳ) 産業教育関係機関との連携により、産業教育の振興に努めた。

(4)　教職員の資質の向上と学校管理運営の充実

ア　現職教育の充実

(ｱ) 校内における研修体制の改善・充実を図った。

(ｲ) 研修会、講習会等への積極的な参加を促進し、指導力の向上を図った。

(ｳ) 自己研修の充実により、教職員の能力が効果的に発揮されるように努めた。

イ　学校管理運営の適正化

(ｱ) 学校経営・運営ビジョンを定め、その達成度を客観的に評価し、その結果を公表するように努めた。

(ｲ) 管理者が学校管理運営について積極的に指導助言を行うよう努めた。

(ｳ) 諸表簿の整理と保管、設備・備品の管理と活用については、適正に行われるように努めた。

(ｴ) 学校事務の責任分担を明確にし、正確、敏速、円滑に処理するよう努めた。

(ｵ) 各種調査報告について、厳正、的確に作成し、期限の厳守に努めた。

ウ　勤務体制の確立

教職員の勤務内容を明確にし、その実績について客観的に評価できるようにした。

エ　使命感の高揚

(ｱ) 教育公務員としての使命感に徹し、規律と責任ある体制を整え、教育能率の向上に努めた。

(ｲ) 教育公務員としての立場を自覚するとともに、服務倫理委員会を活用して事故防止に努め、社会的信用を失墜させることのないようにした。

(ｳ) 絶えず自己研修に努め、豊かな知性を養い、指導力を高め、職責を十分果たせるようにした。

(5)　教育環境の整備充実

ア　学習環境の整備充実

(ｱ) 環境整備については、方針を確立し、年次計画による充実を図った。

(ｲ) 学習環境を整備し、学習意欲の高揚を図った。

(ｳ) 施設・設備の管理と運営の適正化を図った。

イ　学校事故防止の徹底

(ｱ) 安全教育の計画的実施と、事故防止を配慮した環境の整備改善に努めた。

(ｲ) 学校事故、教職員事故の防止については、適切な対策を講じ、事故の絶無を期した。

(ｳ) 指導・管理の充実を図るため、関係機関、団体等との連携を密にして協力体制の確立に努めた。

(6)　県立高等学校入学者選抜

ア　基本方針

平成26年度福島県立高等学校入学者選抜における基本方針

(ｱ) Ⅰ期選抜

Ⅰ期選抜は、各高等学校が自校の特色に応じてどのような受験生に志願してほしいかを選抜方法と併せて明示し、受験生は、それに応じて自分の志願したい高等学校を主体的に選択し出願できる選抜とする。選抜に当たっては、受験生の個性や学ぶ意欲を重視するとともに、自校の特色に応じた選抜となるよう選抜資料を活用し、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

a　選抜に当たっては、志願理由書の記載内容、調査書の審査結果、面接の結果を資料とする。なお、各高等学校の判断により、学校の特色や学科の特性に応じて、小論文（又は作文）の結果、実技等の結果を選抜資料に加えることができるものとする。

b　Ⅰ期選抜においては、各高等学校が自校の教育目標にふさわしい入学者を選抜するため、受験生を多面的・多元的に評価するための資料の一つとして面接の結果を積極的に活用するものとする。

このため、面接の内容としては、受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。

c　Ⅰ期選抜の定員枠については、県教育委員会が定める範囲の中で、各高等学校が、その特色や学科の特性に応じて設定するものとする。

(ｲ) Ⅱ期選抜

Ⅱ期選抜は、中学校における学習活動の成果を総合的にみる選抜とする。選抜に当たっては、学力検査の成績、調査書の審査結果を資料とし、さらに面接を実施する高等学校においては面接の結果とを併せて資料とし、各学校の特色、学科の特性等に配慮しつつ、その教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

a　学力検査を実施する教科は、全日制の課程においては、国語、社会、数学、理科、外国語（英語）の５教科とする。

定時制の課程においては、各高等学校の判断により、実施教科を減じることができるものとする。

b　学力検査の問題作成に当たっては、中学校学習指導要領に示された各教科の目標及び内容を踏まえて、基礎的・基本的な内容の確実な定着をみる出題を一層工夫するとともに、論述式の解答を求める出題や思考力・分析力を問う出題をさらに工夫するものとする。

c　学力検査問題の配点については、各問の標準配点に留意しつつ、各高等学校の判断により配点ができるものとする。

d　特定の教科の学力検査の配点の比重を変える傾斜配点については、各学校の特色・学科の特性を考慮し、各高等学校の判断により実施することができるものとする。

また、志願者の自己申告による傾斜配点についても、各高等学校の判断により実施できるものとする。

e　Ⅱ期選抜の合否判定に当たっては、学力検査と調査書の成績の比重を原則として同等とする。

ただし、各高等学校が自校の特色化を図るために必要と判断する場合には、学力検査と調査書の成績の比重を変えることができるものとする。

具体的には、次のようにして合否判定を行う。

(a) 学力検査と調査書の成績の比重を同等とする場合

学力検査と調査書の成績のいずれもが定員内にある者で、調査書の記載事項及び面接を実施した場合にはその結果に特に問題のない者を合格とする。次に、その他の者については、学力検査の成績と調査書の記載事項及び面接を実施した場合にはその結果とを十分に精査して、総合的に判定する。

(b) 学力検査と調査書の成績の比重を変える場合

学力検査と調査書の成績のいずれか一方に一定の数値を掛けて両者を加えて得られた成績と、調査書の記載事項及び面接を実施した場合にはその結果とを十分に精査して、総合的に判定する。

ただし、学力検査と調査書の成績の比重を変える場合には、学力検査の特定の教科への傾斜配点及び自己申告による傾斜配点は実施しないものとする。

f　面接については、各高等学校の判断により実施できるものとする。

(ｳ) Ⅲ期選抜

Ⅲ期選抜は、Ⅰ期選抜、Ⅱ期選抜及び連携型中高一貫教育に係る入学者選抜（以下「連携型選抜」という。）により定員（会津学鳳高等学校においては、会津学鳳中学校から会津学鳳高等学校への入学を志願する者の数を除いた数とする。）を充足しない高等学校において実施するものとし、Ⅰ期選抜、Ⅱ期選抜及び連携型選抜の受験の有無にかかわらず出願できる選抜とする。

選抜に当たっては、調査書の審査結果、面接の結果及び小論文（又は作文）の結果を資料として、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

なお、Ⅰ期選抜、Ⅱ期選抜又は連携型選抜に合格した者は出願できないものとする。

a　選抜に当たっては、調査書の成績とともに、面接の結果及び小論文（又は作文）の結果を十分に精査する。

b　Ⅱ期選抜における学力検査の成績は、Ⅲ期選抜の資料とはしないものとする。

c　Ⅲ期選抜における面接は、受験生の学ぶ意欲をみる内容とともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。

(ｴ) 連携型選抜

連携型中高一貫教育を実施する高等学校（以下「連携型高等学校」という。）において、連携型中高一貫教育を実施する中学校（以下「連携型中学校」という。）から目的意識や意欲のある生徒の入学を促進し、６年間を通して生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を図るため連携型選抜を実施する。選抜に当たっては、受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、連携している内容に応じた選抜となるよう配慮し、各連携型高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

a　選抜に当たっては、中学校長から提出された調査書及び面接の結果を資料とする。

なお、各連携型高等学校長の判断により、学校の特色や連携している内容に応じて、課題研究レポート、適性検査等の結果を選抜資料に加えることができるものとする。

b　連携型選抜においては、各連携型高等学校が連携型中高一貫教育にふさわしい入学者を選抜するため、面接の内容としては、受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。

c　募集定員枠については、別に公告する募集定員の30%を下限とし、各連携型高等学校が地域の特性に応じて設定する。

ただし、定員枠については、当該高等学校長はあらかじめ県教育委員会と協議するものとする。

また、Ⅰ期選抜の募集定員枠は、これとは別に設定するものとする。

d　連携型高等学校の連携型選抜に出願することができる者は、当該高等学校と連携している中学校を卒業する見込みの者とする。

なお、連携型中学校を卒業する見込みの者は、当該中学校と連携している高等学校のⅠ期選抜へ出願することはできない。

e　実施期日については、Ⅰ期選抜と同日又はⅠ期選抜に近接した日とする。

なお、併設型中高一貫教育校である会津学鳳中学校から会津学鳳高等学校への入学を志願する者については、各選抜に出願することはできないものとする。

イ　入学者選抜関係日程

6月７日　第１回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議

７月24日　第２回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議

８月23日　第３回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議

８月23日　県立中学校・高等学校入学者選抜方法の改善等に関する調査研究報告書提出

10月７日～10月11日　県北・県中・県南・会津・南会津・いわき・相双の７地区で入学者選抜実施要綱説明会実施

10月18日　平成26年度入学者募集定員決定

(ｱ) Ⅰ期選抜関係日程

１月20日～１月23日	出願書類受付
２月３日（２月４日）	面接等
２月６日	合格内定通知
２月10日～２月13日	入学確約書提出
３月14日	合格者発表

(ｲ) Ⅱ期選抜関係日程

２月14日～２月19日	出願書類受付
２月20日～２月24日	出願先変更
２月25日～２月26日	調査書提出
３月10日	学力検査
３月10日又は11日	面接等
３月14日	合格者発表

(ｳ) Ⅲ期選抜関係日程

３月17日～３月18日	出願書類受付
３月19日	出願先変更
３月24日	面接等
３月25日	合格者発表

(ｴ) 連携型選抜関係日程

１月20日～１月23日	出願書類受付
Ⅰ期選抜と同日又はⅠ期選抜に近接した日	面接等
２月６日	合格内定通知
２月10日～２月13日	入学確約書提出

３月14日　　合格者発表

(オ) 通信制の課程選抜日程

２月14日～３月27日　出願書類受付

４月４日　　合格者発表(個人宛通知)

ウ　志願者数・合格者数

◇　各選抜ごとの集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、国際文化科、英語科、体育科、デザイン科学科、国際科学科、国際・スポーツ科が含まれる。

(　) 内は平成25年度入試のもの。

(1)　Ⅰ期選抜

《全日制》

学科	入学定員	Ⅰ期選抜定員	志願者数			志願倍率	合格内定者数		
			男	女	計		男	女	計
普通科等	8,970	2,301	1,564	2,220	3,784	1.64	907	1,453	2,360
農　業	1,040	430	272	398	670	1.56	186	250	436
水　産	160	56	61	20	81	1.45	39	17	56
工　業	2,160	984	1,284	132	1,416	1.44	905	102	1,007
商　業	1,680	680	369	837	1,206	1.77	194	539	733
家　庭	40	14	2	7	9	0.64	2	7	9
総　合	1,320	455	237	483	720	1.58	137	307	444
計	15,370 (15,410)	4,920 (4,891)	3,789 (3,638)	4,097 (3,860)	7,886 (7,498)	1.60 (1.53)	2,370 (2,379)	2,675 (2,662)	5,045 (5,041)

《定時制》

学科	入学定員	Ⅰ期選抜定員	志願者数			志願倍率	合格内定者数		
			男	女	計		男	女	計
普　通	440	138	61	95	156	1.13	37	67	104
工　業	40	12	5	1	6	0.50	3	1	4
計	480 (480)	150 (150)	66 (76)	96 (119)	162 (195)	1.08 (1.30)	40 (42)	68 (83)	108 (125)

(2)　連携型選抜

学科	入学定員	連携型選抜定員	志願者数			志願倍率	合格内定者数		
			男	女	計		男	女	計
普　通	200	92	41	40	81	0.88	41	40	81
工　業	80	24	19	5	24	1.00	19	5	24
総　合	160	48	21	55	76	1.58	15	37	52
計	440 (440)	164 (172)	81 (102)	100 (106)	181 (208)	1.10 (1.21)	75 (86)	82 (81)	157 (167)

(3) Ⅱ期選抜

《全日制》

学科	入学定員	Ⅰ期選抜・連携型選抜合格内定者を除いた定員	志願者数			志願倍率	合格者数		
			男	女	計		男	女	計
普通科等	8,970	6,529	3,531	3,565	7,096	1.09	2,831	2,888	5,719
農　業	1,040	604	361	285	646	1.07	287	223	510
水　産	160	104	58	14	72	0.69	47	11	58
工　業	2,160	1,129	1,150	81	1,231	1.09	961	69	1,030
商　業	1,680	947	487	664	1,151	1.22	369	470	839
家　庭	40	31	2	8	10	0.32	2	8	10
総　合	1,320	739	329	467	796	1.08	267	407	674
計	15,370 (15,410)	10,083 (10,116)	5,918 (5,759)	5,084 (4,921)	11,002 (10,680)	1.09 (1.06)	4,764 (4,691)	4,076 (4,072)	8,840 (8,763)

《定時制》

学科	入学定員	Ⅰ期選抜・連携型選抜合格内定者を除いた定員	志願者数			志願倍率	合格者数		
			男	女	計		男	女	計
普　通	440	336	102	94	196	0.58	71	76	147
工　業	40	36	14	1	15	0.42	9	1	10
計	480 (480)	372 (355)	116 (128)	95 (102)	211 (230)	0.57 (0.65)	80 (88)	77 (81)	157 (169)

(4) 外国人生徒等に係る特別枠選抜

学校名	学科名	定員	志願者数			合格者数		
			男	女	計	男	女	計
福島北	総合	若干名	0	0	0	0	0	0
福島南	国際文化	若干名	1	0	1	1	0	1
あさか開成	国際科学	若干名	1	1	2	1	0	1
光南	総合	若干名	0	3	3	0	3	3
会津学鳳	総合	若干名	1	0	1	1	0	1
湯本	英語	若干名	0	0	0	0	0	0
相馬東	総合	若干名	0	0	0	0	0	0

(5) Ⅲ期選抜

《全日制》

学科	入学定員	志願者数			合格者数		
		男	女	計	男	女	計
普通科等	810	152	91	243	108	81	189
農　業	94	31	2	33	24	2	26
水　産	46	18	6	24	14	4	18
工　業	99	26	4	30	21	3	24
商　業	108	12	15	27	8	15	23
家　庭	21	0	5	5	0	4	4
総　合	65	3	7	10	2	7	9
計	1,243 (1,353)	242 (197)	130 (144)	372 (341)	177 (143)	116 (107)	293 (250)

《定時制》

学科	入学定員	志願者数			合格者数		
		男	女	計	男	女	計
普　通	189	41	26	67	26	22	48
工　業	26	11	0	11	8	0	8
計	215 (186)	52 (35)	26 (18)	78 (53)	34 (21)	22 (13)	56 (34)

◇ Ⅲ期選抜実施後の最終集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、国際文化科、英語科、体育科、デザイン科学科、国際科学科、国際・スポーツ科が含まれる。

（ ）内は平成25年度入試のもの。

《全日制》

学科	入学定員	Ⅰ期選抜合格内定者数	連携型選抜合格内定者数	Ⅱ期選抜合格者数	Ⅲ期選抜合格者数	合格者数		
						男	女	計
普通科等	8,970	2,360	81	5,719	189	3,887	4,462	8,349
農　業	1,040	436		510	26	497	475	972
水　産	160	56		58	18	100	32	132
工　業	2,160	1,007	24	1,030	24	1,906	179	2,085
商　業	1,680	733		839	23	571	1,024	1,595
家　庭	40	9		10	4	4	19	23
総　合	1,320	444	52	674	9	421	758	1,179
計	15,370 (15,410)	5,045 (5,041)	157 (167)	8,840 (8,763)	293 (250)	7,386 (7,299)	6,949 (6,922)	14,335 (14,221)

《定時制》

学科	入学定員	Ⅰ期選抜合格内定者数	連携型選抜合格内定者数	Ⅱ期選抜合格者数	Ⅲ期選抜合格者数	合格者数		
						男	女	計
普　通	440	104		147	48	134	165	299
工　業	40	4		10	8	20	2	22
計	480 (480)	108 (125)		157 (169)	56 (34)	154 (151)	167 (177)	321 (328)

2　現職教育

(1)　各種研修並びに講習会

名　称	期日	期間	会　場	参加者
新任校長研修会	5.9 ～5.10	2日	教育センター	新任県立高等学校長17名
新任教頭研修会	5.20 ～5.21	2日	教育センター	新任県立高等学校教頭25名
経験者研修Ⅲ (中堅教員研修)	10.30 ～11.1	3日	教育センター	県立学校中堅教員74名
初任者研修 (基本研修)	4.3 ～4.4	2日	教育センター	高等学校初任者研修対象教員77名
〃 (第1次)	4.15 ～4.17	3日	教育センター	
〃 (第2次)	2. 18 ～2. 20	3日	教育センター	
〃 (教科別研修)	(1班) 9.11 ～9.13	3日	・地歴公民 (相馬東) ・数学 (船引) ・理科 (石川) ・保健体育 (修明) ・英語 (福島) ・商業 (平商業) ・音楽 (いわき光洋・好間) ・美術 (相馬東・新地)	
	(2班) 9.24 ～9.26	3日	・国語 (遠野) ・農業水産 (福島明成) ・工業 (二本松工業) 家庭 (双葉翔陽・富岡)	
〃 (地区別研修)	4月 ～ 12月	14日	各地区施設学校等	
〃 (所属校における研修)	4月 ～3月	180時間	各所属校	

名　称	期日	期間	会　場	参加者
経験者研修Ⅰ	1班 10.16 ～ 10.18 2班 10.22 ～ 10.24	3日	教育センター	県立学校教職経験5年を経過した者74名
各所属校における研修	5月～ 12月	5日	各所属校	
経験者研修Ⅱ 共通	4.23	1日	教育センター	県立学校教職経験10年を経過した者90名
〃 教科指導Ⅰ	7.10 ～7.11	2日	教育センター	
〃 教科指導Ⅱ	1班 2.6 ～2.7 2班 2.13～ 2.14	2日		
〃 社会体験研修	4月 ～1月	2日	各所施設等	
〃 各所属校における研修	4月 ～1月	15日	各所属校	
〃 選択研修	4月 ～1月	3日以上	各所、施設等	
新任教務主任研修会	8.19	1日	本宮高校	新任教務主任22名
	8.19	1日	安積黎明高校	
	8.21	1日	若松商業高校	
	8.23	1日	小名浜高校	

(2)　教員体験研修（２か月）

実施せず

(3)　教職員等中央研修

ア　趣旨

校長、教頭、中堅教員に対し、学校の管理運営、学習指導などの諸問題について、それぞれの職務に必要な研修を行い、その識見を高め、指導力の向上を図る。

イ　主催　　独立行政法人教員研修センター

ウ　共催　　文部科学省

エ　会場　　独立行政法人教員研修センター

オ　期間及び参加者

◇校長マネジメント研修（6月10日～14日）

県立四倉高等学校長　　池田　健一郎

◇副校長・教頭等研修（9月17日～10月4日）

県立安積黎明高等学校教頭　　柳沼　　英樹

◇学校組織マネジメント指導者養成指導者養成研修
（10月28日～11月1日）
県立湯本高等学校教頭　菊田　勇雄
◇中堅教員研修（11月19日～12月13日）
県立会津学鳳高等学校教諭　五十嵐　健博
県立相馬東高等学校教諭　猪狩　晃一

3　教育課程

(1)　高等学校教育課程説明会

平成25年度は実施せず。

(2)　福島県高等学校教育課程講習会

ア　目的

高等学校学習指導要領について、その趣旨の徹底を図るとともに、教育課程実施に伴う諸問題について研究協議を行う。

イ　主催

文部科学省及び福島県教育委員会

ウ　期日・会場・参加者数

地区	期日	会場	参加者数
相双	8月1日	相馬高等学校	67
県北	8月2日	二本松工業高等学校	245
県中・県南	8月5日	清陵情報高等学校	355
会津・南会津	8月6日	会津学鳳高等学校	207
いわき	8月7日	いわき光洋高等学校	194
合計			1,068

エ　部会の参加者

設置部会及び参加者数は次の通りである。

部会	参加者数	部会	参加者数
国語	98	外国語	99
地理歴史	92	家庭	91
公民	82	情報	59
数学	97	農業	13
理科	97	工業	17
保健体育	97	商業	43
音楽	64	水産	1
美術・工芸	45	福祉	10
書道	13	計	1,018

(3)　情報教育の充実

ア　情報教育研修

(ｱ) 専門研修　高等学校教育の産業教育及び教育センターの情報処理教育講座の欄参照

(ｲ) 一般研修　各種研修において情報処理に関する演習等を実施

イ　情報処理関係学科の設置状況

農業	生産情報	福島明成、岩瀬農業
工業	情報技術	郡山北工業、会津工業、平工業
	情報電子	福島工業、清陵情報、
	情報システム	二本松工業
商業	情報処理	福島商業、郡山商業、清陵情報、小高商業
	情報会計	福島南、本宮、清陵情報
	情報ビジネス	福島商業、白河実業、若松商業、小高商業
	経営情報	福島商業
	オフィス情報	須賀川
	情報マネジメント	修明
	情報システム	喜多方桐桜、平商業
水産	情報通信	いわき海星

(4)　国際理解教育の充実

語学指導等を行う外国青年招致事業
国際化に対応できる人材の育成及び外国語教育の充実

ア　招致人数　29名

イ　配置　○県内21の高校に各１名を配置、配置校における指導及び訪問指導
○県内7つの高校に各1名、県立中学校に1名配置、専任校における指導

4　学力向上対策等

(1)　平成25年度文部科学省指定各種研究校

研究種別	学校名	指定年度	研究主題
		24～28	【通常枠】 福島県立福島高等学校における「震災・原発被災地として国内外に認知された福島の地域性と５年間の SSH 研究開発を融合し、災害復興を可能とする領域横断的な科学力と国際コミュニケーション力を持つ次世代型の指導的人材育成プログラムの開発研究」
スーパーサイエンスハイスクール（ＳＳＨ）	福島		【コアＳＳＨ枠】 福島県立福島高等学校における「地域への自信、

	24 ～ 26	誇り、愛情を科学技術の側面から育み、難局を打破する素養をもった人材を育成するための連携体制の構築 ～ふくしまサイエンススクールコミュニティー（ＦＳＣ）の創設～」
会津学鳳	22 ～ 26	大学、研究機関、地元企業の協力のもとに、高度なコンピュータリテラシーをそなえ、国際化、情報化社会に夢ひらく豊かな創造性を持ち科学技術分野で活躍できる人材を、中学校・高等学校・大学の連携体制を通して育成するプログラムの研究開発
磐城	23 ～ 27	最先端の研究機関や大学との連携を密にし、科学技術に対する興味、関心、探究心を高め、地域性を生かした研究を通して才能を伸ばし、国際化社会でも活躍できる人材を育成する理数系教育に関する研究開発

(2) 学力向上推進支援事業

ア 「確かな学力」向上のための基礎力育成プラン

高等学校において、多様な進路希望を持つ生徒が「確かな学力」だけでなく社会人としての基礎力を育成し、望ましい勤労観、職業観を育む。

（対象27校）

福島商業、福島明成、梁川、安達、郡山商業、須賀川、須賀川桐陽、長沼、光南、白河旭、塙工業、修明、船引、若松商業、喜多方東、川口、坂下、田島、南会津、只見、湯本、小名浜、いわき海星、勿来工業、遠野、相馬農業、新地

イ 大学進学希望実現事業

高等学校において、生徒の知的探究心の向上を図り、難関大学をはじめとした生徒が希望する大学への合格者数を増やす。

（対象校15校）

福島、橘、福島東、安積、安積黎明、郡山東、郡山、白河、会津、葵、会津学鳳、喜多方、磐城、磐城桜が丘、原町

ウ 合同学習セミナー

難関大学を目指す学力上位にある県立高等学校１、２年生を対象とし、予備校講師や県内教員によるハイレベルな講義等を行い、生徒の進路希望実現を図る。

１年生　平成26年3月25日～27日（2泊3日）

２年生　平成25年8月18日～20日（2泊3日）

場所については、１年生、２年生ともに国立磐梯青少年交流の家で実施した。

5 生徒指導・進路指導

(1) 教育事務所指導主事の活動

県内７地区の教育事務所の指導主事の活動によって生徒指導の充実を図った。

主な活動は次のとおりである。

ア 地区内の高等学校の訪問指導（計画・随時）

イ 地区内の高等学校生活指導協議会の指導・援助

ウ 関係諸機関、諸団体との連携

エ 生徒指導関係の情報と資料の収集

オ 生徒指導関係の諸研修会における指導

(2) スクールカウンセラーの配置

生徒の問題行動の多様化や深刻化、東日本大震災に伴う心のケアに対応するため、全ての県立高等学校（93 校）にスクールカウンセラーを配置した。

6 学校行事

(1) 卒業式

ア 県立高等学校卒業者数

課程＼性別	男	女	計
全日制	7,473	7,095	14,568
定時制	140	147	287
通信制	77	118	195
計	7,690	7,360	15,050

イ 卒業式実施期日

種別	全日制	定時制	通信制	計
3月1日	87	6	0	93
3月2日	1	0	1	2
3月3日	0	0	0	0
3月4日	0	1	0	1
合計	88	7	1	96

ウ 県知事、県議会議長、県教育長臨席校

県知事臨席校	３月１日	平工業高等学校
	〃	いわき総合高等学校
県議会議長臨席校	３月１日	会津高等学校
	〃	会津第二高等学校
県議会副議長臨席校	３月１日	磐城高等学校
県教育長臨席校	３月１日	耶麻農業高等学校

(1) 修学旅行（県立高等学校）　（）は前年度

ア　参加生徒総数　14,647人(14,589人)
イ　参　加　率　98.0%(97.1%)
ウ　行　　先

行先	北海道	関東	奈良・京都	中国・近畿	九州	沖縄	四国・中国・近畿	四国・近畿	四国	海外
校数	2 (2)	1 (0)	32 (39)	15 (7)	4 (6)	32 (31)	2 (2)	1 (3)	1 (0)	3 (1)

エ　航空機利用　59校（60校）
　　北海道方面　2校（ 1校）
　　大阪方面　17校（15校）
　　九州方面　 4校（ 6校）
　　沖縄方面　32校（31校）
　　広　　島　 0校（ 1校）
　　愛　　媛　 1校（ 5校）
　　海　　外　 3校（ 1校）

オ　泊日数
　　1泊2日　 0校（ 0校）
　　2泊3日　 6校（ 4校）
　　3泊4日　68校（77校）
　　4泊5日　19校（10校）

カ　必要経費
　　生徒一人当たりの最高額　150,000円（133,177円）
　　最低額　59,388円（ 67,554円）
　　平均額　98,108円（ 98,832円）

キ　引率責任者
　　校　　長　32校（40校）
　　教　　頭　61校（51校）

7　産業教育

(1) 県産業教育フェア

平成25年度は実施せず。

(2) 文部科学省主催の研修講座と内容

ア　平成25年度産業・情報技術等指導者養成研修

教科	氏名	職名	学校名	研修先	研修期間
農業	金成　力	教諭	磐城農業高等学校	静岡県立静岡農業高等学校	8月5日～8月9日
工業	猪狩　光央	教諭	塙工業高等学校	金沢工業大学	8月20日～8月24日
商業	阿部　好伸	教諭	清陵情報高等学校	千葉商科大学	7月29日～8月2日
商業	佐藤みゆき	教諭	福島南高等学校	千葉商科大学	7月29日～8月2日
水産	坂田　了	教諭	いわき海星高等学校	東京海洋大学	8月5日～8月9日
家庭	星野　恭代	教諭	耶麻農業高等学校	全国高等学校長協会家庭部会事務局他	8月5日～8月8日
情報	高橋　英彰	教諭	福島商業高等学校	千葉商科大学	7月29日～8月2日

イ　平成25年度学校農業・家庭クラブ連盟指導者養成講座

教科	氏名	職名	学校名	研修先	研修期間
農業	伊藤正樹	教諭	岩瀬農業高等学校	国立オリンピック記念青少年総合センター	8月6日～8月8日
家庭	佐々木晶子	教諭	相馬東高等学校	国立オリンピック記念青少年総合センター	7月25日～7月26日

8　学校訪問

(1)　目的

指導主事等が県立学校を訪問し、関係者とともに授業研究や教科の指導に関する研究協議を行うことにより、学習指導等の充実を図る。

(2)　訪問校

経験者研修Ⅰ、又は経験者研修Ⅱの該当者の勤務する学校から数校を選定する。

(3)　訪問学校一覧

福島工業高等学校	工業
福島西高等学校	理科
梁川高等学校	数学
安達高等学校	地理歴史、外国語
二本松工業高等学校	国語、地理歴史
安達東高等学校	農業、学校保健
安積高等学校	外国語
郡山商業高等学校	商業
あさか開成高等学校	数学、理科
清陵情報高等学校	工業
白河旭高等学校	保健体育
修明高等学校鮫川校	家庭
田村高等学校	芸術
小野高等学校	理科
会津高等学校	学校保健
葵高等学校	理科
会津学鳳高等学校	国語、芸術
若松商業高等学校	保健体育
喜多方桐桜高等学校	数学、保健体育
猪苗代高等学校	地理歴史
磐城高等学校	国語、保健体育
平工業高等学校	工業
小名浜高等学校	国語
磐城農業高等学校	農業
勿来工業高等学校	工業
好間高等学校	外国語
浪江高等学校	公民、芸術
相馬農業高等学校	農業
小高商業高等学校	商業
新地高等学校	家庭
いわき翠の杜高等学校	情報

9　県立学校学校教育指導委員

教科名	氏　名	職名	学校名
国　語	遠藤　真樹	教諭	須賀川桐陽高等学校
	梅宮　泰	教諭	喜多方東高等学校
	今村　裕子	教諭	勿来工業高等学校
地理･歴史	松本　重明	教諭	福島東高等学校
	五十嵐岳樹	教諭	会津学鳳高等学校
公　民	石川　喜昭	教諭	本宮高等学校
	宗像　康栄	教諭	石川高等学校
数　学	宗像　孝幸	教諭	福島高等学校
	杉岡　英樹	教諭	須賀川桐陽高等学校
	歌川　真克	教諭	会津学鳳高等学校
理　科	遠藤　直哉	教諭	福島高等学校
	千葉　直人	教諭	川口高等学校
	島津　康行	教諭	磐城高等学校
	藁谷　悟	教諭	いわき総合高等学校
保健体育	大吉　千浪	教諭	白河実業高等学校
	渡部　宗晴	教諭	会津高等学校
	稲村　泰伸	教諭	喜多方東高等学校
	小野　隆志	教諭	四倉高等学校
芸術(書道)	郡司　仁美	教諭	福島北高等学校
(音楽)	鈴木　和明	教諭	安積高等学校
(美術)	三條　敦	教諭	光南高等学校
	横木由紀枝	教諭	本宮高等学校
外国語	星　恭子	教諭	郡山高等学校
	四家　真澄	教諭	磐城高等学校
家　庭	横田　日夏	教諭	郡山商業高等学校
	福島　美香	教諭	会津高等学校
情　報	雷　博	教諭	安達東高等学校
	佐藤　章	教諭	安積高等学校
農業･水産	志賀　勲	教諭	福島明成高等学校
	高畑　正宏	教諭	耶麻農業高等学校
	持地　勝博	教諭	相馬農業高等学校
工　業	新妻　孝	教諭	清陵情報高等学校
	佐藤　貴之	教諭	塙工業高等学校
	佐藤　秀幸	教諭	喜多方桐桜高等学校
	星　輝光	教諭	小高工業高等学校
商　業	三浦　純	教諭	修明高等学校
	羽染　恒	教諭	若松商業高等学校
定　通	江川　文子	教諭	いわき翠の杜高等学校
学校保健	関本　昌美	養護教諭	福島商業高等学校
	遠藤喜美恵	養護教諭	会津養護学校

（４０名）

10　教科用図書

(1)　教科書採択事務説明会

県北地区	６月　５日	本庁西庁舎
県中・県南地区	６月１０日	郡山合同庁舎
会津・南会津地区	６月　６日	会津高等学校
いわき地区	６月　４日	いわき合同庁舎
相双地区	６月２９日	相馬東高等学校

11　教育研究団体

(1)　福島県高等学校長協会

組織

平成25年度福島県高等学校長協会役員名簿

役職名	氏　　名
会長	久保田　範　夫　（安積）
副会長	本　間　　稔　（福島）
副会長	箱　崎　二三彦　（会津）
副会長	箱　﨑　温　夫　（磐城）
副会長	本　多　光　弥　（原町）
監査	吉　田　会津夫　（福西）
監査	古　川　清　春　（福北）
事務局長	田　村　秀　夫　（福東）

支部

支　部	支部長	副支部長
県　北	本間　　稔（福島）	小浜宗一郎（橘） 喜多見　薫（福商）
県　南	久保田範夫（安積）	丹藤　　茂（黎明） 髙橋　正人（白河）
会　津	箱崎二三彦（会津）	荒井　光廣（葵） 山崎　浩三（喜多方）
いわき	箱﨑　温夫（磐城）	渡邉　　望（桜が丘） 若菜　靖彦（勿工）
相　双	本多　光弥（原町）	刈谷　俊樹（双葉） 菅野　　論（相東）

理事会

	氏　　名	
理事会	久保田範夫（安積）	小浜宗一郎（橘）
	本間　　稔（福島）	喜多見　薫（福商）
	箱崎二三彦（会津）	大竹　正志（福明）
	箱﨑　温夫（磐城）	内田　貞俊（福工）
	本多　光弥（原町）	宍戸　弘治（萌世）
	田村　秀夫（福東）	安藤　俊典（盲）

専門委員会

◎印　委員長　○印　副委員長

専門委員会	氏　　名	
管　理	◎阿部　正春（あ開）	○大和田　修（富岡）
運　営	大竹　正志（福明）	目黒　　憲（い総）
委員会	太田　　孝（本宮）	安藤　俊典（盲）
	丹藤　　茂（黎明）	大関　彰久（石養）
	安瀬　一夫（石川）	紺野登喜子（会養）
	源後　正能（会学）	久保田範夫（安積）
	松田　泰夫（平商）	

◎印　委員長　○印　副委員長

専門委員会	氏　　名	
教　育	◎菅野　　論（相東）	○渡辺　　昇（安達）
課　題	松岡　浩三（塙工）	澤尻　京二（海星）
委員会	水野　晴夫（修明）	円谷美智子（大笹養）
	久保田忠雄（耶農）	井戸川恵理子（郡養）
	安田　　徹（川口）	水野　徳子（西養）
	横山　　隆（只見）	小野　誠子（富養）
	松本　明倫（平工）	箱﨑　温夫（磐城）
生　徒	◎二瓶　益幸（清陵）	○佐久間秀夫（磐農）
指　導	古川　清春（福北）	渡辺　譲治（双翔）
委員会	木田　英男（二工）	宍戸　弘治（萌世）
	迎　　裕仁（湖南）	渡邉　恵一（あ養）
	二瓶　賢一（白実）	原　　美子（猪養）
	深津　文夫（喜桐）	山崎　　亨（平養）
	皆川　正信（西会津）	芳賀　孝美（相養）
	本馬　忠幸（好間）	
教　育	◎橘　　和彦（梁川）	○根本　良政（猪代）
課　程	吉田啓一郎（須桐）	吉田　佳正（新地）
委員会	内田　貞俊（福工）	髙屋　隆男（聾）
	大越　憲峰（光南）	鹿目　敦子（い養）
	佐藤　恵一（田島）	本多　光弥（原町）
	森田　晶代（遠野）	
高　校	◎佐藤　淳一（福南）	○馨田　秀隆（須高）
入　試	菅野　哲哉（保原）	五十嵐　研（大沼）
検　討	杉内　聡恵（長沼）	君島　秀夫（坂下）
委員会	長岐　　博（田村）	大沼　博文（勿来）
	相良　昌彦（船引）	若菜　靖彦（勿工）
	高梨　洋史（喜東）	本間　　稔（福島）
	佐藤　　肇（浪江）	
大　学	◎吉田会津夫（福西）	○斎藤　貢一（郡東）
入　試	小浜宗一郎（橘）	荒井　光廣（葵）
対　策	田村　秀夫（福東）	山崎　浩三（喜多方）
委員会	髙橋　正人（白河）	鎌田　由人（南会津）
	遠藤雄二郎（郡山）	竹田　真二（光洋）
	坂爪　靖夫（白旭）	本間　悦男（湯本）
	渡邉　　望（桜が丘）	刈谷　俊樹（双葉）
	日高　裕志（相馬）	箱崎二三彦（会津）
就　職	◎荒井　一成（郡商）	○髙城　友治（郡北）
指　導	喜多見　薫（福商）	五輪美智子（小浜）
対　策	高野　成一（川俣）	池田健一郎（四倉）
委員会	飯野　信也（安達東）	渡部勢津子（翠杜）
	横山　道夫（岩農）	渡邉　芳広（相農）

	深谷　茂樹（小野）	二瓶　晃一（小商）
	佐藤　信常（若商）	荒井　勝彦（小工）
	根本　和次（会工）	菊池惠美子（須養）
	菅野　直芳（会農）	

部会長

部　会	氏　名
普通部会	小浜宗一郎（橘）
商業部会	喜多見　薫（福島商業）
農業部会	大竹　正志（福島明成）
工業部会	内田　貞俊（福島工業）
水産部会	澤尻　京二（いわき海星）
家庭部会	森田　晶代（遠野）
定通部会	宍戸　弘治（郡山萌世）
特別支援部会	安藤　俊典（盲）
理数部会	日高　裕志（相馬）
英語国際部会	佐藤　淳一（福島南）
体育部会	長岐　博（田村）
総合学科部会	菅野　論（相馬東）

全国校長会

部　会	氏　名
理　事	久保田範夫（安積）
理　事	箱崎二三彦（会津）
理　事	箱﨑　温夫（磐城）
管理運営	阿部　正春（あさか開成）
教育課題	菅野　論（相馬東）
生徒指導	二瓶　益幸（清陵情報）
教育課程	橘　和彦（梁川）
大学入試	吉田会津夫（福島西）
就職対策	荒井　一成（郡山商業）
人権教育	二瓶　益幸（清陵情報）

(2)　福島県高等学校教育研究会

ア　財政及び組織の状況

(ｱ) 本部

平成25年度福島県高等学校教育研究会

役職名	氏名	所属校・職名
会長	吉田会津夫	福島県立福島西高等学校長
副会長	本間　稔	〃　福島高等学校長
副会長	坂爪　靖夫	〃　白河旭高等学校長
委員	目黒　憲	〃　いわき総合高等学校長
委員	荒井　一成	〃　郡山商業高等学校長
委員	大竹　正志	〃　福島明成高等学校長
委員	喜多見　薫	〃　福島商業高等学校長
委員	根本　和次	〃　会津第二高等学校長
委員	根本　良政	〃　猪苗代高等学校長
委員	渡邉　芳広	〃　相馬農業高等学校長
委員	菅野　哲哉	〃　保原高等学校長
監査	小浜宗一郎	〃　橘高等学校長
監査	内田　貞俊	〃　福島工業高等学校長
幹事	渋谷　卓也	〃　福島西高等学校教頭
幹事	国分　香	〃　福島西高等学校教諭
幹事	佐藤　直美	〃　福島西高等学校教諭
幹事	羽田　潤一	〃　福島西高等学校講師

(ｲ) 部会

部会名	部会長氏名	所属校・職名	会員数
養護教諭	本間　稔	福島高等学校長	１５６
保健体育	箱崎二三彦	会津高等学校長	４３１
理　科	坂爪　靖夫	白河旭高等学校長	５５０
音　楽	荒井　一成	郡山商業高等学校長	９１
農　業	大竹　正志	福島明成高等学校長	２３２
工　業	内田　貞俊	福島工業高等学校長	４３９
商　業	喜多見　薫	福島商業高等学校長	３５３
定　通	根本　和次	会津第二高等学校長	１５３
英　語	根本　良政	猪苗代高等学校長	５３７
数　学	小浜宗一郎	橘高等学校長	５２０
家　庭	渡邉　芳広	相馬農業高等学校長	１５６
美術工芸	菅野　哲哉	保原高等学校長	６７

○平成25年度予算　8,167,064円

第７章　特別支援教育

第１節　学校管理

１　児童生徒数と教職員定数

(1)　児童生徒数の推移

種別	部/年度	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
	小学部	11	11	12	8	8	10	9	7	6	6
視覚障がい	中学部	14	8	5	11	12	10	7	6	7	8
特別支援学校	高等部	34	36	36	39	28	29	32	33	35	30
	計	59	55	53	58	48	49	48	46	48	44
	幼稚部	16	10	13	13	14	17	17	14	16	11
聴覚障がい	小学部	45	42	39	33	35	35	44	42	46	54
特別支援学校	中学部	27	28	24	24	21	24	20	21	17	18
	高等部	29	25	24	27	25	23	24	25	29	24
	計	117	105	100	97	95	99	105	102	108	107
	小学部	364	427	457	460	462	464	493	498	504	501
知的障がい	中学部	273	317	330	354	385	408	376	345	334	362
特別支援学校	高等部	404	479	546	601	657	670	746	763	824	757
	計	1,041	1,223	1,333	1,415	1,504	1,542	1,615	1,606	1,662	1,620
	小学部	119	115	113	117	114	118	119	120	124	128
肢体不自由	中学部	76	71	80	67	77	73	71	58	71	68
特別支援学校	高等部	97	91	86	91	84	90	78	83	75	76
	計	292	277	279	275	275	281	268	261	270	272
	小学部	39	34	29	26	30	29	37	40	34	29
病弱	中学部	45	43	39	39	39	40	36	46	46	36
特別支援学校	高等部	58	62	58	40	42	40	45	44	46	40
	計	142	139	126	105	111	109	118	130	126	105
計		1,651	1,799	1,891	1,950	2,033	2,080	2,154	2,145	2,214	2,148

※1　知的障がい特別支援学校は市立特別支援学校、福島大学附属特別支援学校を含む。
※2　視覚障がい特別支援学校高等部は専攻科を含む。

(2)　平成25年度児童生徒数

（H25．5．1　学校基本調査、含む訪問学級）

部・学年		幼稚部	小学部							中学部				高等部 本科				高等部 専攻科	高等部 合計	総計
種別	性別		1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	計	1	2	3	計			
視覚障がい特別支援学校	男		0	0	0	0	1	1	2	1	2	2	5	4	3	3	10	9	19	26
	女		1	1	0	0	1	1	4	1	1	1	3	3	1	2	6	5	11	18
	計		1	1	0	0	2	2	6	2	3	3	8	7	4	5	16	14	30	44
聴覚障がい特別支援学校	男	7	6	3	8	5	6	6	34	1	5	4	10	2	7	5	14			65
	女	4	5	4	2	2	2	5	20	4	1	3	8	2	6	2	10			42
	計	11	11	7	10	7	8	11	54	5	6	7	18	4	13	7	24			107
知的障がい特別支援学校	男		50	56	66	62	53	52	339	101	86	73	260	155	178	179	512			1111
	女		28	24	24	24	30	32	162	28	32	42	102	66	91	88	245			509
	計		78	80	90	86	83	84	501	129	118	115	362	221	269	267	757			1620
肢体不自由特別支援学校	男		9	15	14	14	14	9	75	15	15	10	40	14	10	17	41			156
	女		14	11	7	7	6	8	53	7	9	12	28	9	12	14	35			116
	計		23	26	21	21	20	17	128	22	24	22	68	23	22	31	76			272
病弱特別支援学校	男		0	2	4	4	5	1	16	7	4	11	22	7	6	11	24			62
	女		0	2	4	1	3	3	13	5	5	4	14	4	5	7	16			43
	計		0	4	8	5	8	4	29	12	9	15	36	11	11	18	40			105

※　市立特別支援学校、福島大学附属特別支援学校を含む。

(3) 県立特別支援学校教職員定数の推移

種別		盲学校・聾学校										養護学校									
年度		16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
教員	校長	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	11	11	11	11	11	11	12	12	12	12
	教頭・教諭	120	117	115	117	114	122	123	121	117	119	808	836	853	868	882	887	948	994	965	963
	養護教諭	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	23	23	23	23	23	23	24	25	24	24
	兼任主事																				
	補充教員	8	7	8	9	11	7	10	5	10	11	58	98	71	94	120	148	147	132	162	159
	講師																				
	寄宿舎指導員	28	26	25	25	22	24	24	24	26	25	29	29	28	32	31	30	31	34	33	33
	実習助手	8	8	8	6	8	8	8	8	8	8	22	22	22	22	22	22	24	24	24	24
	計	170	164	162	163	161	167	171	164	167	169	951	1,019	1,008	1,050	1,089	1,121	1,186	1,221	1,220	1,215
事務職員		11	11	11	11	11	11	10	11	11	12	45	46	47	46	45	44	48	48	49	53
その他の職員	技能労務員																				
	学校司書																				
	用務員	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	9	9	9	8	8	8	6	6	6	6
	ボイラー技師	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	1	0	0	1	1	1	2	2	2	1
	栄養職員	1			2	2	2	2	2	2	2	1	2	3	4	6	6	7	7	9	8
	調理給食員											1									
	技能訓練士																				
	マッサージ師																				
	運転手	1	1									1	1	1	1	1	1	1	1	0	0
	計	6	5	4	6	5	6	6	6	6	6	13	12	13	14	16	16	16	16	17	15
合計		187	180	178	180	177	184	187	181	184	187	1,009	1,077	1,068	1,110	1,150	1,181	1,250	1,285	1,286	1,283

種別		計									
年度		16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
教員	校長	13	13	13	13	13	13	14	14	14	14
	教頭・教諭	928	953	968	985	996	1,009	1,071	1,115	1,082	1,082
	養護教諭	27	27	27	27	27	27	28	29	28	28
	兼任主事	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	補充教員	66	105	79	103	131	155	157	137	172	170
	講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	寄宿舎指導員	57	55	53	57	53	54	55	58	59	58
	実習助手	30	30	30	28	30	30	32	32	32	32
	計	1,121	1,183	1,170	1,213	1,250	1,288	1,357	1,385	1,387	1384
事務職員		56	57	58	57	56	55	58	59	60	65
その他の職員	技能労務員										
	学校司書										
	用務員	11	11	11	10	10	10	8	8	8	8
	ボイラー技師	3	2	2	3	2	3	4	4	4	3
	栄養職員	2	2	3	6	8	8	9	9	11	10
	調理給食員	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	技能訓練士										
	マッサージ師										
	運転手	2	2	1	1	1	1	1	1	0	0
	計	19	17	17	20	21	22	22	22	23	21
合計		1,196	1,257	1,245	1,290	1,327	1,356	1,437	1,466	1,470	1470

2　特別支援学校及び特別支援学級の実態

(1)　特別支援学校（学部別学級・児童生徒数）

障がい種別	種別 / 校名	幼稚部		小学部		中学部		高等部				計	
								本科		専攻科			
		学級数	幼児数	学級数	児童数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	児童生徒数
視覚	県立盲学校			3	6	3	8	8	16	3	14	17	44
	小　計			3	6	3	8	8	16	3	14	17	44
聴覚	県立聾学校	2	5	6	22	6	18	8	24			22	69
	県立聾学校福島分校	1	1	7	20							8	21
	県立聾学校会津分校			2	4							2	4
	県立聾学校平分校	2	5	3	8							5	13
	小　計	5	11	18	54	6	18	8	24			37	107
知的障がい	県立大笹生養護学校			22	64	13	41	21	105			56	210
	県立あぶくま養護学校			32	99	17	67	33	167			82	333
	県立あぶくま養護学校安積分校			7	16	5	13					12	29
	県立西郷養護学校			13	43	7	23	16	80			36	146
	県立石川養護学校			15	37	11	31	12	61			38	129
	県立会津養護学校			21	64	15	47	16	81			52	192
	県立猪苗代養護学校			6	16	4	15	5	14			15	45
	県立いわき養護学校			29	84	15	47	21	102			65	233
	県立富岡養護学校			3	6	5	11	4	13			12	30
	県立相馬養護学校			10	27	5	15	7	43			22	85
	福島市立福島養護学校			9	30	11	37	14	71			34	138
	小　計			167	486	108	347	149	737			424	1570
不肢体由	県立郡山養護学校			29	85	18	44	17	48			64	177
	県立平養護学校			17	43	9	24	10	28			36	95
	小　計			46	128	27	68	27	76			100	272
病弱	県立須賀川養護学校			5	11	6	14	13	40			24	65
	県立須賀川養護学校医大分校			3	10	3	5					6	15
	県立須賀川養護学校郡山分校			2	3	4	10					6	13
	県立会津養護学校竹田分校			2	5	3	7					5	12
	小　計			12	29	16	36	13	40			41	105
合　計		5	11	246	703	160	477	205	893	3	14	619	2098

(2) 特別支援学級（障がい別・児童生徒数）

管内	学校別 / 種別 / 内容	小学校								中学校								計
		弱視	難聴	知的障がい	病弱	肢体不自由	言語障がい	情緒障がい	小計	弱視	難聴	知的障がい	病弱	肢体不自由	言語障がい	情緒障がい	小計	
県北	学校数		3	53		1		28	85		1	34		1		20	56	141
	学級数		3	59		1		31	94		1	38		1		21	61	155
	児童生徒数		6	233		3		137	379		2	152		3		71	228	607
県中	学校数		2	52				37	91		1	38				21	60	151
	学級数		2	55				44	101		1	38				21	60	161
	児童生徒数		3	195				214	412		1	110				67	178	590
県南	学校数	2		22		1		6	31			13				4	17	48
	学級数	2		24		1		6	33			14				4	18	51
	児童生徒数	2		84		1		20	107			48				9	57	164
会津	学校数			31				12	43			15				3	18	61
	学級数			31				13	44			17				3	20	64
	児童生徒数			109				50	159			67				10	77	236
南会津	学校数			8				1	9			5				1	6	15
	学級数			8				1	9			5				1	6	15
	児童生徒数			18				1	19			9				1	10	29
相双	学校数		1	23	1	1		11	37			16				6	22	59
	学級数		1	23	1	1		12	38			16				6	22	60
	児童生徒数		2	85	1	1		37	126			43				16	59	185
いわき	学校数	1		35		0		17	53	1	1	19				7	28	81
	学級数	1		40		0		17	58	1	1	22				7	31	89
	児童生徒数	2		179		0		64	245	1	2	86				16	105	350
計	学校数	3	6	224	1	3	0	112	349	1	3	140	0	1	0	62	207	556
	学級数	3	6	240	1	3	0	124	377	1	3	150	0	1	0	63	218	595
	児童生徒数	4	11	903	1	5	0	523	1447	1	5	515	0	3	0	190	714	2161

(3) 通級による指導（障がい別・児童生徒数）

管内	学校別 / 種別 / 内容	小学校								中学校								計
		弱視	難聴	言語障がい	自閉症	情緒障がい	LD	ADHD	小計	弱視	難聴	言語障がい	自閉症	情緒障がい	LD	ADHD	小計	
県北	学校数			3	1		2	3	9				1		1	1	3	12
	学級数			11	3		4	3	21				1		1	1	3	24
	児童生徒数			152	66		66	37	321				9		11	9	29	350
県中	学校数		1	2	2			4	9			1				1	2	11
	学級数		1	3	2			4	10			1				1	2	12
	児童生徒数		12	33	20			39	104			10				12	22	126
県南	学校数							1	1								0	1
	学級数							1	1								0	1
	児童生徒数							17	17								0	17
会津	学校数			1			1	1	3						1	1	2	5
	学級数			2			1	1	4						1	1	2	6
	児童生徒数			13			13	4	30						11	8	19	49
南会津	学校数								0								0	0
	学級数								0								0	0
	児童生徒数								0								0	0
相双	学校数			2				2	4								0	4
	学級数			5				2	7								0	7
	児童生徒数			79				23	102								0	102
いわき	学校数			2		1		1	4			1					1	5
	学級数			4		1		1	6			1					1	7
	児童生徒数			56		9		15	80			4					4	84
計	学校数	0	1	10	3	1	3	12	30	0	0	2	1	0	2	3	8	38
	学級数	0	1	25	5	1	5	12	49	0	0	2	1	0	2	3	8	57
	児童生徒数	0	12	333	86	9	79	135	654	0	0	14	9	0	22	29	74	728

(4) 訪問教育対象児童生徒数及び担当教員数

年度	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
対象児童生徒数	76	80	77	75	89	69	90	80	69	58	55	54	49	50	43	42	39	43	38	33
担当教員数	33	35	33	36	41	36	45	36	41	33	33	35	27	27	27	27	30	29	24	19

(5) 障がいによる就学義務の猶予・免除者の推移

年度	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
猶予者数	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
免除者数	4	4	5	7	5	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3 教職員人事・任用

(1) 人事異動の概要

平成25年度の県立特別支援学校教職員の定数は、前年比3人減の1,384人となった。このうち、教諭等は、前年比2人減の1,252人である。

ア 新採用について

平成26年度福島県公立学校教員採用試験での特別支援学校の志願者数は、平成25年度に比べ、前年比9人増の292人（小中学校教員採用試験との併願者を含む）であった。一次及び二次選考試験の結果、名簿登載者数は50人であり、48人が教諭として採用された。

イ 交流について

平成25年度人事異動は、例年通り４月１日付け実施となった。同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に３年以上勤務する者等を含め139人の教諭の交流が実現した。

また、小・中学校・市立特別支援学校及び福島大学附属特別支援学校との交流（転入）は10人で、高等学校との交流（転入）は11人であった。特別支援教育の更なる充実が期待される。

(2) 平成25年度県立特別支援学校教員異動・交流基準

ア 一般基準

(ｱ) 教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡をはかるようにつとめる。

(ｲ) 同一校には原則として最低３年は勤務するものとする。

(ｳ) ２親等以内の者（姻族を含む）は原則として同一校勤務をさける。

イ 平成20年度以前の採用者についての基準（以下「旧基準」）という。

(ｱ) 勤続年数による基準

次の基準に該当する者は、原則として異動の対象とする。

○ 採用後引き続き同一校に３年以上勤務した者（以下「初任者」という。）

○ 同一校に８年以上勤務した者（以下「永年者」という。）

(ｲ) 地区、障がいによる基準

教員の均衡化を図るため、県内を県北、県南、会津、いわき、相双の５地区に分け、地区及び障がい別に、所在する学校を別表１に定めるⅠ・Ⅱ群に分類し、以下により異動を促進する。

○ 昭和52年度以降、特別支援学校教員採用者は、原則として、15年以内に２地区および２障がい以上の学校に勤務するものとする。

○ 上記の２障がいの経験については、原則として、別表１注によるものとする。

ウ 平成21年度以降の採用者についての基準（以下「新基準」という。）

(ｱ) 勤続年数により基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

○ 初任者

○ 異動２校目において３年以上勤務したもの（以下「若年者」という。）

○ 永年者

(ｲ) 地域による基準

教員の適材適所への配置及び教員組織の均衡化を図るため、県内各学校を別表２のとおり中通り、会津、浜通りの３地域に分け、異動を促進する。

原則として、採用後20年以内に３地域の学校に勤務するものとする。

エ 平成24年度より、採用年度にかかわらず新基準を適用する。

ただし、平成20年度以前の旧基準採用者については、平成30年度まではｲ(ｲ)別表１を準用し、(ｲ)○印を満たす者は、ｳ(ｲ)の規定を満たす者とみなす。

オ 交流

特別支援学校及び小学校、中学校、高等学校における教育を充実させるため、県立特別支援学校と市立特別支援学校及び市町村公立小・中学校、県立高等学校との交流を促進する。その期間は、教諭及び実習助手については原則として３年とし、養護教諭及び寄宿舎指導員については、原則として３年から８年とする。

別表１　県立特別支援学校地区別・障がい別・群別学校

群分類 / 障がい / 地区	Ⅰ　群	Ⅱ　群			
	知的障がい教育を主とする学校	視覚障がい教育を主とする学校	聴覚障がい教育を主とする学校	肢体不自由教育を主とする学校	病弱教育を主とする学校
県北	大笹生養護	盲	聾（福島）		須賀川養護(医大)
県南	あぶくま養護 あぶくま養護(安積) 西郷養護 石川養護		聾	郡山養護	須賀川養護 須賀川養護（郡山）
会津	会津養護 猪苗代養護		聾（会津）		会津養護（竹田）
いわき	いわき養護		聾（平）	平養護	
相双	富岡養護 相馬養護				

注：平成20年度までの採用教員について

(1) Ⅱ群内の学校のみの経験者は、Ⅰ群の学校に勤務することを必須とする。

(2) Ⅰ群の学校に勤務している者、又は勤務した者で、２障がいの経験を有していない者は、Ⅱ群内の学校での勤務をするものとする。

(3) ただし、平成７年度までに２地区及び２障がいの勤務経験を終了している者はこの限りではなく、これまで２地区及び２障がいの勤務経験を有していない者、及び平成８年度以降平成20年度までの採用教員については、(1)、(2)の勤務経験を必要とする。

別表２　県立特別支援学校地域別学校

地域	地区	学校	
中通り	県北	盲 聾（福島）	大笹生養護 須賀川養護（医大）
	県中	聾 須賀川養護 あぶくま養護	郡山養護 須賀川養護（郡山） あぶくま養護（安積）
	県南	石川養護	西郷養護
会津	会津	会津養護 聾（会津）	会津養護（竹田） 猪苗代養護
浜通り	いわき	平養護 聾（平）	いわき養護
	相双	富岡養護	相馬養護

第２節　学校教育

１　概要

(1)　指導行政の基本方針

学校教育審議会答申（平成21年９月）の基本理念「地域で共に学び、共に生きる教育」をもとに、第６次総合教育計画（改訂版）で、特別支援教育の推進に向けた取組を行った。

本県では、「共に学ぶ」理念のもと、障がいのある子どもが障がいのない子どもと共に学ぶ環境づくりを推進し、障がいのある子どもが地域の小・中学校等で、障がいのない子どもと共に学ぶことができる教育環境を整備した。第６次総合教育計画（改訂版）では、次の基本的な方針のもとに、大きく５つの具体的な取組を示し、その充実に努めた。

○　基本的方向性

- 障がいのある子どもたちが、就学前、在学中、さらには卒業後において、一貫した支援を受けることができるよう、医療、保健、福祉、教育、労働等の関係機関の連携を深めることなどにより、地域で「共に生きる」ことができる体制の整備を進める。
- 障がいのある子どもが、一人一人のニーズに応じて、地域の幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校において学ぶことができるよう、教員の専門性の向上、校内支援体制の整備・充実、すべての保護者に対する特別支援教育への理解の促進などにより、各学校における「共に学ぶ」環境づくりを進める。

○　具体的な取組

- 地域における支援体制の整備・充実と理解啓発の促進
- 小・中学校における特別支援教育の充実
- 高等学校における特別支援教育の充実
- 特別支援学校における特別支援教育とセンター的機能の充実
- 教員の特別支援教育に関する指導力の向上

(2)　指導組織

課長、主幹兼副課長、主任管理主事１名、管理主事２名、主任指導主事１名、指導主事４名、各教育事務所特別支援教育担当指導主事７名、教育委員会委嘱特別支援教育担当学校教育指導委員８名をもって指導に当たった。

(3)　学校教育指導の重点

前記の基本方針に基づき、指導の重点を次のように設定し、指導の充実を図った。

ア　教育内容・方法の改善充実

(ｱ) 児童生徒一人一人の障がいの状態や教育的ニーズに応じた適切な教育を行うために特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室等の教員に対し、教育課程実施に伴う指導上の問題点、個に応じた指導の工夫改善、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成等について研修を行い、指導担当者の指導力の向上に努めた。

(ｲ) 各種研修会、要請訪問等を通して、幼児児童生徒の実

態に応じた学習指導、生徒指導等の諸問題について協議を深め、学校運営の質的向上に努めた。

イ　生徒指導の充実

幼児児童生徒の障がいの状態や特性について、教職員の共通理解を図り、幼・小・中・高等部の一貫した指導に努めるとともに、生徒指導の機能を生かした授業や家庭及び関係機関との連携に努めた。

また、県立特別支援学校の生徒指導担当者による連絡協議会を７月と１月の２回開催し、本県の生徒事故の現状や課題の共有を図り、事故の未然防止に向けた取組の充実に努めた。

ウ　進路指導の充実

「社会自立を目指すスキルアップ事業」を実施し、生徒の社会参加･自立を図るため、全ての高等部設置県立特別支援学校による「特別支援学校作業技能大会」を開催した。作業技能検定や作業製品品評等で得られた外部専門家からの評価を生かし、各校の進路に関する取組のさらなる充実を図ると共に、生徒の就労に向けた企業等への理解啓発を行った。また、「キャリア教育推進事業」において、生徒の就職率とその定着率の向上を目指し、高等部を設置する特別支援学校の進路指導担当者による進路支援チーム会議を開催し、教員の進路指導に関する専門性の向上と、労働、福祉の各関係機関と連携した早期からの支援体制の構築を図った。

エ　発達障がいの児童生徒への指導の充実

障がいの多様化に対応した教育課程の編成に努め、個に応じた指導計画の作成及び指導の充実に努めるなど、学習指導要領の趣旨を生かした特別支援学級経営の充実に努めた。また、通常の学級に在籍する発達障がいの児童生徒の理解や指導の在り方について、各地域において幼稚園、小・中学校、高等学校等の特別支援教育コーディネーターや教員を対象とした研修を開催し、指導力や専門性の向上に努めた。

オ　交流及び共同学習の推進

近隣の幼稚園や小・中学校、高等学校との交流及び共同学習や、児童生徒の居住地における学校との交流を通し、幼児児童生徒の経験を広め、社会性を養うとともに、障がいのあるなしにかかわらず、お互いを理解し尊重する心を育むことに努めた。

カ　情報教育の充実

幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難を改善・克服し、学習を支援するために情報機器や情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用するとともに児童生徒の情報活用能力の育成に努めた。

(4)　教職員の資質と指導力の向上

ア　「インクルーシブ教育システム構築事業」事業担当者研修会の開催

事業を推進する指導主事が参集し、各事業実施状況等の報告及び課題についての協議を行い、各教育事務所域内の支援体制の整備や特別支援教育に関する指導の重点や事業概要等について研究協議を行い、各教育事務所域内の特別支援教育の充実に向けた指導業務の円滑な推進を図った。

イ　学校教育指導委員連絡協議会の開催

特別支援教育に関する指導の重点や事業概要及び学校教育指導委員の任務についての研修を行い、学校教育指導委員の資質の向上を図った。

ウ　特別支援学校初任者研修、経験者研修の実施

特別支援学校の初任者に対して、校内・校外における研修を通して、実践的指導力と使命感を養った。

また、教職経験に応じた経験者研修を実施し、校内におけるリーダーとしての力量の向上に努めた。経験者研修において、教科（領域）指導研修や社会体験研修等を行った。

エ　特別支援教育担当教員専門研修

特別支援教育に関し、指導的立場に立つ教員の育成に対し、専門的知識及び技術を習得させ、資質の向上と指導力の向上を図るため、教員６名を国立特別支援教育総合研究所の専門研修へ派遣した。

(5)　就学相談の推進

学校教育法施行令一部改正による就学の仕組み等の周知を図るため、市町村教育委員会を対象に就学指導協議会を県内７か所で開催するとともに就学事務の手引きの改訂作業を行った。また、市町村の就学先決定における相談については、各教育事務所で対応し、障がい児の早期からの一貫した支援に努めた。

(6)　特別支援教育の推進

ア　特別支援学校における医療的ケア実施事業

「平成25年度特別支援学校における医療的ケア実施事業」を実施し、教育・医療・福祉等関係者からなる「医療的ケア実施運営協議会」を設置し、本県における医療的ケアの在り方について研究・協議を行った。また、常時、医療的ケアを必要とする児童生徒（訪問教育や病院入院生徒は除く）が、在籍している学校（12校）に看護師を配置した。さらに、医療的ケアの実施を指導する「指導医の委嘱」、地域の保健・医療・福祉機関のバックアップ体制の確立のための「医療的ケアサポート会議の設置」、医療的ケアの実施に必要な「医療機器等の整備」を行った。

※看護師配置校

聾学校、大笹生養護学校、郡山養護学校、あぶくま養護学校、須賀川養護学校、西郷養護学校、石川養護学校、会津養護学校、会津養護学校竹田分校、平養護学校、いわき養護学校、相馬養護学校

【平成25年度医療的ケア実施運営協議会委員】

氏　名	委嘱時の職名
◎三島　博	大原綜合病院・顧問
○森田　浩之	県総合療育センター・副所長
古橋　知子	福島医科大学看護学部・講師
熊谷　光彦	保健福祉部自立支援総室障がい福祉課主幹
眞部　知子	県養護教育センター・所長
鈴木　仁	白河こひつじ学園・相談支援アドバイザー
古河志津子	聾学校・教頭
丹治　早苗	大笹生養護学校・教頭
齊藤　恵子	郡山養護学校・教頭
香取　重治	あぶくま養護学校・教頭
最上　学	須賀川養護学校・教頭
岡崎　典泰	西郷養護学校・教頭
江見　浩二	石川養護学校・教頭
菅野かおり	会津養護学校・教頭
渡邉　周二	会津養護学校竹田分校・分校長
佐藤　登	平養護学校・教頭
佐藤　清悦	いわき養護学校・教頭
橋本　淳一	相馬養護学校・教頭
鈴木志保子	平養護学校・看護師

（◎委員長　○副委員長）

【医療的ケア実施運営協議会の開催】

○　平成25年6月21日

【会議における検討事項】

○　「社会福祉士及び介護福祉士法の一部改正」や「福島県特別支援学校医療的ケア実施要綱の一部改正」を踏まえた県立特別支援学校における医療的ケアの今後の在り方について

【看護師研修会の開催】

○　年１回の医療的ケア実施校看護師研修会を県養護教育センターにおいて実施した。

イ　「特別支援教育総合推進事業」による市町村における支援体制整備の促進

県内７地区において「特別支援教育体制促進協議会」を年２回開催し、市町村における支援体制の整備・機能充実に向けた支援や、地域自立支援協議会子ども部会の設置支援のための具体的方策について協議するとともに、保健福祉部局と連携した相談体制の整備や相談支援ファイルの作成・活用の促進に取り組んだ。また、特別支援教育セミナーの開催による地域住民への特別支援教育の理解・啓発に努めた。

ウ　地域支援体制の充実

地域教育相談推進事業として、県内６箇所で相談支援チームを編制し、巡回相談員による教育相談を実施した。相談件数は950件であった。

また、特別支援学校では、地域の特別支援教育のセンターとして特別支援教育に関する研修会、教育相談を行い、市町村教育委員会等と連携を図り、地域に開かれた学校づくりを推進した。

エ　「高等学校学習支援推進事業」による後期中等教育における発達障がい支援の充実

平成17年度から平成23年度まで、文部科学省「研究開発学校」制度や、県重点事業「ＬＤ等の中高連携型生徒支援事業」、「特別支援教育総合推進事業」において進めてきた学習支援員を活用した生徒支援のノウハウを活かし、新たに県立高等学校10校に学習支援員を配置し、高等学校における支援を必要とする生徒への支援の充実を図った。

オ　早期からの教育相談・支援体制整備の充実

文部科学省「早期からの教育相談・支援体制構築事業」において、伊達市を推進地域とし、伊達市内の障がいのある子どもの早期からの教育相談・支援体制構築を図った。大笹生養護学校に配置した「早期支援コーディネーター」が大笹生養護学校と教育事務所、養護教育センターとの連携の下、伊達市の発達支援室担当者や保育所・幼稚園・小学校等の教職員、保健・福祉担当者等のニーズに応じた研修会等を開催し、保育者や教職員の専門性の向上を図った。また、伊達市自立支援協議会子ども部会に早期支援コーディネーターが参加し、関係機関が連携した早期からの教育相談・支援体制整備を図った。

2　現職教育

(1)　教職員の研修

研修会については、下表のとおり実施し、教職員の資質向上に努めた。

名　称	期　日	期間	会　場	人数	対　象
特別支援学校教育課程運営改善講座	8月23日	１日	県養護教育センター	39	特別支援学校教員
特別支援学級等新任担当教員研修会	4月22日～23日	２日	県養護教育センター	65	特別支援学級担当教員
通級指導教室担当教員研修会	７月25日 12月17日	２日	県養護教育センター	91	通級指導教室担当教員
特別支援学校経験者研修Ⅰ	７月３日～５日	２日	県養護教育センター	26	特別支援学校教員
特別支援学校経験者研修Ⅱ	６月26日～28日	２日	県養護教育センター	23	特別支援学校教員

特別支援学校初任者研修

名称		期　日	期間	会　場
宿泊研修	一次研修	8月7日～9日	２日	郡山自然の家
	二次研修	1月28日～30日	３日	郡山自然の家
養護教育センター研修	一般研修	4月17日～18日	2日	県養護教育センター
	カウンセリング研修	6月12日～13日	2日	県養護教育センター
	情報教育研修	5月1日	1日	県養護教育センター
地区別研修	講習会研修会等参加研修	各校ごとに実施	1日	各地区内の該当学校等
	他校参観研修	各校ごとに実施	５日	各地区内の該当学校等
	企業等体験研修	各校ごとに実施	４日	各地区内の該当学校等
	社会奉仕体験活動研修	各校ごとに実施	２日	各地区内の該当施設
教育課程別研修		9月18日	1日	県養護教育センター
			年間180時間以上	各所属校

(2)　特別支援教育教員短期研修

国立特別支援教育総合研究所（専門研修　２か月）

氏　名	職名	学校名	コース等	期　間
近藤　聡美	教諭	平養護学校	肢体不自由教育専修	５月８日～７月９日
中島　裕子	教諭	郡山養護学校	肢体不自由教育専修	５月８日～７月９日
小林　直輝	教諭	大笹生養護学校	知的障害教育専修	５月８日～７月９日
齋藤　正幸	教諭	いわき養護学校	知的障害教育専修	５月８日～７月９日
佐川　匠	教諭	盲学校	視覚障害教育専修	９月３日～11月８日
岡田　進	教諭	聾学校	聴覚障害教育専修	９月３日～11月８日

(3)　小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会

小・中学校の特別支援教育コーディネーターに対し、校内支援や関係機関との連携の在り方について研修し、特別支援教育コーディネーターの実践力の向上を図った。

(4)　高等学校特別支援コーディネーター研修会

高等学校の特別支援教育コーディネーターに対し、校内支援や関係機関との連携の在り方について研修し、特別支援教育コーディネーターの実践力の向上を図った。

(5)　特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修会

特別支援学校の特別支援教育コーディネーターを対象に、センター的機能の在り方、国や県の教育施策、コンサルテーションの進め方等について研修し、特別支援教育コーディネーターとしての専門性の向上及び実践力の向上を図った。

地区	会　場	期　日	受講者数
県内	県養護教育センター	5月14日 12月13日	42

3　教育課程

特別支援学校教育課程運営改善講座

特別支援学校における教育課程実施上の諸問題に関する専門的な研修を実施することにより、指導的立場にある教員の指導力の向上を図るとともに、学校の実態や児童生徒の障がいの種類と程度に応じた教育課程の編成と適切な実施及び管理に努め、特別支援教育の改善・充実に資する。

地区	期　日	会　場	人数	参加対象
県内	8月23日	県養護教育センター	39	特別支援学校の教務主任等

4　訪問教育

通学して教育を受けることが困難な児童生徒に対して行う訪問教育を週３回実施し、登校可能な児童生徒に対して、定期的に他の子どもたちと交流したり、集団学習を行ったりすることができるように、１回はスクーリング（登校学習）を実施した。

さらに、大笹生養護学校、郡山養護学校、会津養護学校、平養護学校では高等部の訪問教育を実施している。

実施状況は次のとおりである。

学級数／児童生徒数／校名	学級数								児童生徒数								スクーリング児童生徒数			
	小学部	病院訪問	中学部	病院訪問	高等部	病院訪問	学部計	病院訪問計	小学部	病院訪問	中学部	病院訪問	高等部	病院訪問	学部計	病院訪問計	小学部	中学部	高等部	計
大笹生養護学校	2		1		1		4		4		2		2		8		2	1	1	4
郡山養護学校	2		2		1		5		5		4		1		10		1	0	0	1
須賀川養護学校郡山分校		1		1				2				2				2				
石川養護学校	1		1				2		1		1				2		0	1		1
会津養護学校	1		1		1		3		2		2		1		5		2	2	1	5
平養護学校	1	1			1	1	2	2	1	1			1	3	2	4			1	1
合　計	7	2	5	1	4	1	16	4	13	1	9	2	5	3	27	6	5	4	3	12

※スクーリング児童生徒数は再掲。

5　生徒指導・進路指導

(1)　生徒指導

障がいのある児童生徒一人一人の意思や個性を生かしながら、障がいの状態や発達段階・特性等に応じた指導が十分に行えるように、校内の生徒指導体制の確立に努めた。

特に、児童生徒一人一人の課題を的確に把握し、児童生徒の立場に立った行動理解を行い、児童生徒の自己実現を図るべく、生徒指導の機能を生かした指導援助に努めた。

(2)　進路指導

ア　社会自立を目指すスキルアップ事業

(ｱ)　事業の趣旨

特別支援学校高等部生徒の社会参加・自立を促すため、特別支援学校作業技能大会を開催し、日頃の進路に関する学習の成果を発表するとともに、外部専門家から客観的な評価を受ける機会とする。

(ｲ)　実施校

高等部設置県立特別支援学校 14校

(ｳ)　実施状況

a　特別支援学校作業技能大会の開催

・　期日　7月30日（火）

・　場所　ビッグパレットふくしま

b　実施部門

・　作業技能検定部門
　ビルクリーニング、喫茶接遇サービス、パソコンデータ入力
・　作業製品品評部門
　作業製品の品評と作業学習の紹介等
・　デモンストレーション部門
　盲学校理療科のあん摩マッサージ等の技術披露

c　外部評価の活用
・　各作業技能検定部門及び作業製品品評部門の評価表に関する助言
・　作業技能検定部門と作業製品品評部門の審査

イ　キャリア教育推進事業（特別支援学校就労推進事業）

(ｱ) 事業の趣旨

高等部を設置する特別支援学校を対象として、労働、福祉等の各関係機関と連携した支援体制整備を基盤とし、企業への理解啓発と、企業で働き続けることのできる人材育成を充実させることにより、就職率と定着率の向上を図る。

(ｲ) 実施校

高等部設置県立特別支援学校 14校

(ｳ) 実施状況

a　進路支援チーム会議の実施
・　特別支援学校進路指導担当による就労促進及び支援の充実に関する協議

b　移行支援機能の充実
・　関係機関と連携した，早期からの移行支援会議の実施
・　在学中から卒業後までの長いスパンでの支援

c　企業の求める人材育成
・　作業学習の内容や手法の見直し
・　ジョブコーチや企業等からの指導助言

d　外部評価の活用
・　「障がい者技能競技大会」への参加
・　「障がい者就職面接会」への参加
・　「特別支援学校早期訓練コース」の活用

6　特別活動

(1)　卒業式

ア　県立特別支援学校卒業者数

障がい＼学部	幼稚部	小学部	中学部	高等部	合計
視覚障がい		2	3	5	１０
聴覚障がい	2	１１	7	7	２７
知的障がい		７６	９８	２３８	４１２
肢体不自由		１７	２２	３１	７０
病弱		3	１３	１８	３４
計	2	１０９	１４３	２９９	５５３

イ　県立特別支援学校卒業式学部別開催日(校数)

開催＼学部	3月3日	3月6日	3月12日	3月13日	3月17日	3月18日	3月19日	3月20日
幼稚部						1		
小学部			1	2	3	8	4	1
中学部			1	3	3	8	2	1
高等部	1	1	1	1	1	7	1	1

(2)　修学旅行

行き先＼日数＼学部	行き先							日数					人数
	県内	東北	関東	北陸	関西	九州・沖縄	北海道	日帰り	一泊二日	二泊三日	三泊四日	四泊五日	
小学部	3	4	9					12	4				１１１
中学部	2	1	13					1	4	11			１２０
高等部	1		2		8	1	1	1		6	6		２３２

7　学校訪問

(1)　県立特別支援学校

ア　経験者研修
経験者研修Ⅰ、Ⅱの研究授業日に学校訪問を実施した。

No.	訪問日	学校名
1	10月3日	平養護学校
2	10月8日	聾学校
3	10月11日	会津養護学校
4	10月25日	須賀川養護学校医大分校
5	11月1日	石川養護学校
6	11月27日	いわき養護学校
7	12月11日	大笹生養護学校

8　県立学校教育指導委員

氏名	職名	所属校
高橋英之	教諭	盲学校
齋藤成子	教諭	聾学校
鈴木嘉人	教諭	いわき養護学校
湯田繁	教諭	猪苗代養護学校
渡邉弘規	教諭	郡山養護学校
大竹奈保子	教諭	須賀川養護学校
木鋤美幸	教諭	会津養護学校

菅　　玲　子	教諭	西郷養護学校

9　就学指導

(1)　福島県特別支援教育推進会議

ア　福島県特別支援教育推進会議委員

委　員	職　名
学識見識者	大学教授
関係機関	ＮＰＯ団体代表
関係機関	県総合療育センター所長
関係機関	県保健福祉部障がい福祉課長
関係機関	県商工労働部商工労働総室雇用労政課長
関係機関	県保健福祉部自立支援総室子育て支援課長
関係機関	県保健福祉部自立支援総室児童家庭課長
教育関係	小・中学校長会代表
教育関係	高等学校長会代表
教育関係	特別支援学校長会代表
教育関係	県養護教育センター所長
教育関係	県教育庁特別支援教育課長

(2)　特別支援教育就学指導協議会

ア　期日及び会場

地　区	期　日	会　場	参加者数
県　北	6月11日	白沢公民館	５８
県　中	6月10日	県養護教育センター	４８
県　南	5月31日	白河合同庁舎	２９
会　津	6月21日	新鶴公民館	４４
南会津	6月 3日	御蔵入交流館	１２
相　双	7月 8日	県養護教育センター	２１
	7月 9日	相馬市教育実践センター	１８
いわき	5月21日	いわき合同庁舎	４１

イ　参加者

・各市町村教育委員会就学指導関係者

ウ　講義と協議

(ｱ) 講義「本県の特別支援教育の取組みについて」

(ｲ) 事務説明及び協議

「就学事務の手続きについて」

「支援体制整備と就学指導」

10　教科用図書

(1)　教科用図書事務説明会

ア　開催日時・場所

平成25年5月13日・県教育センター

平成25年5月17日・郡山合同庁舎

平成25年5月20日・白河合同庁舎

平成25年5月22日・下郷町ふれあいセンター

平成25年5月24日・南相馬合同庁舎

平成25年5月27日・いわき合同庁舎

イ　参加者

各教育事務所　各市町村教育委員会

特別支援学校教科書担当者

(2)　学校教育法附則第９条に規定する一般図書の展示期日及び会場

6月17日～6月18日　相馬養護学校

6月19日～6月20日　福島市立福島養護学校

6月21日～6月24日　大笹生養護学校

6月25日～6月26日　福島大学附属特別支援学校

6月27日～7月 1日　会津養護学校

7月 2日～7月 3日　南会津町御蔵入交流館

7月 4日～7月 8日　西郷養護学校

7月 9日～7月11日　あぶくま養護学校

7月12日～7月17日　いわき養護学校

7月18日～7月26日　県養護教育センター(一般公開)

11　教育研究団体

(1)　平成25年度福島県特別支援学校長会役員

役職名	氏　名	所　属　校
会　長	安藤俊典	盲学校
副会長	髙屋隆男	聾学校
副会長	山﨑壽克	福島市立福島養護学校

(2)　平成25年度福島県特別支援学校教頭会役員

役職名	氏　名	所　属　校
会　長	岡崎典泰	西郷養護学校
副会長	櫛田省吾	平養護学校
副会長	瀬谷一司	いわき養護学校

(3)　福島県特別支援教育研究会

ア　組織

役職名	氏　名	所　属　校
会　長	山﨑壽克	福島市立福島養護学校
副会長	安藤俊典	盲学校
副会長	渡邉幸典	郡山市立橘小学校

イ　事業の概要

事業名	期　日	会　場	概　要
役員会	2月20日	県養護教育センター	H25事業報告、H26事業計画について

(4) 福島県特別支援教育振興会

ア 役 員

役職名	氏 名	所 属
顧 問	鈴 木 典 夫	福島大学行政政策学類准教授
会 長	栁 沼 宥 壹	元あぶくま養護学校長
副会長	桜 井 和 朋	元県ＰＴＡ連合会長
副会長	穴 澤 由 美	元大笹生養護学校長
理 事	丹 野 功 一	県北支部長
理 事	松 井 壽 則	県中支部長
理 事	緑 川 孝 夫	県南支部長
理 事	木 村 秀	会津支部長
理 事	只 野 裕 一	相双支部長
理 事	大 谷 明	いわき支部長
監 事	眞 部 知 子	県養護教育センター所長
監 事	蓬 田 健 郎	元猪苗代養護学校長

イ 事務局

(ｱ) 本部

事務局長　聾学校　校長　髙 屋 隆 男
幹事　〃　教頭　小檜山 宗 浩
〃　〃　教諭　野 口 敦 子

(ｲ) 支部

支 部	事務局校	支 部	事務局校
県 北	盲学校	会 津	会津養護学校
県 中	郡山養護学校	相 双	相馬養護学校
県 南	石川養護学校	いわき	平養護学校

第8章　社　会　教　育

第１節　社会教育一般

１　概要

(1) 地域の教育力向上

子どもたちの育ちを支援するためには、地域社会全体で支え合うことが重要である。そのために、地域の実情に即して、学校・家庭・地域住民の連携を進めるとともに、それぞれが主体的かつ確実にその役割を果たしながら、地域の教育力向上を図ることができるよう、次の事業を実施した。

・青少年の体験活動の支援や家庭教育支援、社会教育施設等での学習支援を行うボランティアの登録及びコーディネートを推進する「体験活動・ボランティア推進センター事業」

・美術館及び博物館において、文化による心の復興を支援するため、県外の施設等と連携を図りながら観光交流等も視野に入れた企画展を開催する「文化による心の復興プロジェクト」

(2) 地域コミュニティの再生

東日本大震災からの自律的な復興に向けて、住民一人一人が主体的に参画することのできる地域コミュニティ再生のための学びの場づくり、コミュニケーションの場づくりを推進していくことが必要である。

このため、学校や公民館等の社会教育施設も活用しつつ、学習活動のコーディネートや指導、安全管理等に従事する人材により、地域住民の学習・交流活動を促進するとともに、子どもたちの良好な生活環境を整備する。これらを通じ、学びを媒介としたコミュニケーションの活性化や地域の課題解決の取組を支援し、地域コミュニティの再生を図るために次の事業を実施した。

・地域住民の参画を得て、放課後等における子どもたちの健全育成と安全安心な活動拠点づくりを推進する「放課後子ども教室推進事業」

・地域人材や社会教育団体などの参画を得て、学校と地域が連携し、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進する「学校支援地域本部事業」

・公民館等の社会教育施設を活用し、コーディネーターを中心に学習活動の活性化を図っていくことで、地域住民の学習・交流を促進する「地域支援推進事業」

また、今後の災害に備え、地域の防災拠点である公民館等の社会教育施設における防災体制の整備・充実を図り地域防災力を向上させるために「地域における防災力向上支援事業」を実施し、市町村の社会教育関係者を支援した。

(3) 家庭教育

家庭教育は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーを身につける上で重要な役割を担っている。

しかしながら、少子高齢化、高度情報化等、社会環境が激しく変化する現在、子育てに関する課題等も多様化している。そこで、地域ぐるみで子どもたちをはぐくむ仕組みの構築に努めた。

(4) 青少年教育

青少年の豊かな人間性や社会性をはぐくむためには、異年齢の子ども同士や地域の大人等の関わりのもと、自然体験、ボランティア活動、職業体験、交流体験、スポーツ・文化活動等の様々な体験の機会の充実や社会環境づくりが促進されることが必要である。

そのために、学校・家庭・地域が連携を進めながら、地域ぐるみで青少年を育成する環境づくりが推進されるよう次の事業を実施した。

・子どもの体験活動を奨励するとともに、子どもと大人が共通の体験から得た思いや感動を十七音で表現する作品づくりを通して、子どもの豊かな心を育成する「十七字のふれあい事業」

(5) 成人教育

地域における大人の持つ知識や技能、公民館等において学習した成果などを、地域社会に還元する活動の重要性が高まっていることから、地域の教育力の向上への取組と関連させながら、成人の学習活動や社会参加活動を促進するよう努めた。

(6) 子どもの読書活動推進

平成22年3月に策定した「福島県子ども読書活動推進計画（第二次）」を踏まえ、関係機関と連携して、地域で子どもの読書活動を推進するボランティアの資質向上を図り、学校図書館への支援等もできる人材の養成に努めた。

また、福島県子ども読書活動推進会議を開催し、読書活動推進に向けた協議を行った。

(7) ユネスコ活動

ユネスコ憲章の精神に基づく教育・科学・文化活動についての理解を県民一般に広めるよう努めた。

(8) ふくしまっ子体験活動応援事業

子どもたちが伸び伸びと活動できる環境が少なくなっている折、心身ともにリラックスできる環境の中で体験活動を実施する団体に対して、補助金を交付した。

２　社会教育推進体制の充実

(1) 社会教育行政の推進

社会教育担当者会議

第１回　日　時　平成 25 年 4 月 12 日（金）
　　場　所　自治会館

第２回　日　時　平成 26 年 2 月 7 日（金）
　　場　所　教育委員室

(2) 社会教育主事の設置

社会教育活動の充実を図るため、県立の自然の家へ社会

教育主事を配置するなど設置促進に努めた。

(3) 社会教育関係職員の研修

ア　市町村の社会教育主事や公民館職員、図書館職員、社会教育指導員などの社会教育関係職員を対象とした研修機会の充実を図り、その資質向上に努めた。

イ　国立教育政策研究所等で実施する専門的な研修講座への計画的な派遣に努めた。

(4) 各種社会教育関係団体等との連携

地域教育力向上を図る観点から、各種社会教育関係団体等の果たす役割や学校、家庭、地域住民の連携を促進するための活動が重要であるため、各種社会教育関係団体等との連携に努めた。

3　社会教育施設の整備充実

(1) 県立社会教育施設の整備充実

ア　県立図書館の整備充実

県民への図書館サービスの向上を図るため、図書館資料や設備・備品等の整備充実に努めるとともに、平成21年度に更新した「県立図書館情報ネットワークシステム」を活用して公立図書館や公民館図書室、学校図書館等との連携の強化に努めた。

イ　福島県自然の家の整備充実

自然の中での集団宿泊体験をとおして青少年の健全育成を図る場や機会を拡充するため、自然の家の整備充実に努めた。

(2) 市町村立社会教育施設の整備促進

ア　公民館の整備促進

・　地域住民のための学習の拠点となる社会教育施設として、多様化した学習ニーズに的確に対応し、充実した公民館活動が行われるよう、市町村に対し、長期的な展望に立った施設・設備の在り方について助言した。

イ　市町村立図書館の整備促進

市町村立図書館をおおむね２ヶ月に１回巡回して、図書館運営の相談や相互賃借資料の運搬、各種資料の交流等を行った。

(3) 災害復旧国庫補助事業

激甚災害に指定された東日本大震災で被災した、公立社会教育施設の災害復旧事業を補助するため、災害査定（現地調査）等の事務を行った。また、未だ申請できない相双地区の市町村について、情報収集を行い復旧に向けての準備ができるよう働きかけた。

4　社会教育関係職員の研修

(1) 公民館職員研修会

ア　期日　平成２５年５月２３日(木)～２４日(金)

イ　会場　福島県男女共生センター

ウ　参加対象　市町村公民館職員でおおむね３年未満の者及び社会教育関係者

エ　参加者数　５０名

オ　講師

教育庁社会教育課長	瀬谷真理子
生活環境部青少年・男女共生課長	宍戸志津子
いわき市教育委員会生涯学習課	金子　浩朗
福島大学人間発達文化学類教授	中田スウラ
郡山市立湖南公民館長	成山美恵子
西会津町立西会津公民館長	薄上　亮一
ＮＰＯ法人キッズドア	片貝　英行

(2) 福島県市町村社会教育担当者研修会

ア　期日　平成２５年９月５日(木)～６日（金）

イ　会場　福島県男女共生センター

ウ　参加対象

社会教育関係行政職員（公民館職員、社会教育主事等の社会教育関係事業担当２年目以上の職員）、社会教育指導員等

エ　参加人数　２９名

オ　講師

福島大学総合教育センター准教授	岡田　　努
郡山市立東部地域公民館長	佐藤光一郎
喜多方市立松山公民館長	唐橋　一郎
ＮＰＯ法人新座子育てネットワーク	坂本　純子

5　社会教育研究集会

(1) 主催

福島県市町村社会教育委員連絡協議会

(2) 主管

いわき地区社会教育委員連絡協議会

(3) 後援

福島県教育委員会　いわき市教育委員会

(4) 日程・内容

ア　期日　平成２５年９月１２日(木)～１３日(金)

イ　会場　スパリゾートハワイアンズ

ウ　参加対象　市町村社会教育委員　市町村社会教育行政担当者　社会教育関係施設職員　社会教育関係団体会員

エ　参加者数　２５０名

オ　基調講演講師

東京学芸大学芸術・スポーツ科学系　教授　松田恵示

演題「学校・家庭・地域の連携と社会教育委員の役割」

アンケート調査中間報告

常盤大学コミュニティ振興学部　助教　伊藤真木子

「被災地の社会教育委員の大震災発生時および復旧・復興への意識と活動についてのアンケート」

6　社会教育指導員の設置

(1) 設置数

ア　県北　　５５名

イ　県中　　１８名

ウ　県南　　１０名

エ　会津　　５３名
オ　南会津　１０名
カ　相双　　１２名
キ　いわき　　６名
　合　計　１６４名

(2) 福島県市町村社会教育指導員研修会（年２回）

ア　第１回
(ｱ) 期日　平成２５年５月１３日（月）
(ｲ) 場所　郡山市公会堂
(ｳ) 対象　福島県市町村社会教育指導員
(ｴ) 参加者数　１２９名
(ｵ) 講師　社会教育課長

イ　第２回
(ｱ) 期日　平成２５年１０月４日(金)
(ｲ) 場所　いわき海浜自然の家（いわき市）
(ｳ) 対象　福島県市町村社会教育指導員、青少年教育指導員、社会教育主事、公民館職員等社会教育関係者
(ｴ) 参加人数　１１０名
(ｵ) 講師
県教育委員　いわき商工会議所会頭
小野　栄重
演題「いわきに生きる　夢とビジョン」

7　社会教育主事の市町村派遣

※　平成22年度より派遣していない。

8　社会教育研修会

(1) 内容

社会教育推進上の諸問題についての協議等を通してその方策を明らかにし、市町村における社会教育の振興・充実に資する。

市町村職員及び社会教育委員等を対象として希望市町村の計画に基づき実施する。

(2) 対象

公民館職員、公民館運営審議会委員、社会教育委員
社会教育関係者

域内	期日	実施市町村	参加者
県北	7月 2日	国見町	26名
	7月16日	川俣町	42名
	10月22日	伊達市	43名
県中	10月 2日	田村市	22名
県南	4月22日	矢祭町	15名
	8月30日	白河市	23名
	11月28日	西郷村	26名
会津	7月 1日	磐梯町	5名
	8月21日	湯川村	10名
	9月27日	昭和村	5名
南会津	7月 3日	只見町	32名
	9月26日	南会津町	22名
相双	10月10日	楢葉町	3名
いわき	＜実施なし＞		

合計　13箇所　　参加者 274名

9　福島県公民館研究集会

(1) 期日

平成２５年１０月２日(水)

(2) 会場

郡山市中央図書館

(3) 参加対象

公民館職員、公民館運営審議会委員等

(4) 参加者数　１６５名

(5) 講師

桜美林大学名誉教授　瀬沼　克彰
演題「団塊世代の地域デビューと公民館の役割」

10　福島県公民館主事部会研修会

(1) 期日

平成２５年６月２８日(金)

(2) 会場

須賀川市中央公民館ホール

(3) 参加対象

公民館職員等

(4) 参加者数　６７名

(5) 講師

フリーアナウンサー　宗方　和子
演題「夢咲き公民館、本日も営業中」
～生きがいサポーターの皆様へ～

11　社会教育職員研修派遣

(1) 東北大学社会教育主事講習

ア　主催　東北大学教育学部
イ　期日　平成25年6月19日(水)～6月20日(木)
福島県男女共生センター
平成25年7月 1日(月)～8月 9日(金)
国立磐梯青少年交流の家
東北大学教育学部
ウ　受講者数　１４名
エ　修了者名

域　内	氏名	勤務先
県　北 (4)	稲垣　隆一	福島市立鳥川小学校
	菅野　桃子	福島市立福島第四小学校
	吉田　　茂	福島市立笹谷小学校
	村上　　亮	伊達市立桃陵中学校
県　中 (2)	東条　正徳	郡山市教育委員会中央公民館
	渡部　謙三	須賀川市立柏城小学校

県　南 (2)	加藤　正行 湯田　和敬	西郷村立熊倉小学校 西郷村立小田倉小学校
会　津(1)	五十嵐一欽	猪苗代町立緑小学校
相　双(1)	矢吹　吏志	相馬市立中村第一中学校
いわき (2)	堀　　恵一 今野　　樹	いわき市教育委員会 事務局生涯学習課 福島県いわき海浜自然の家
県立学校 (2)	小林　弘明 長谷川智彦	福島県立あぶくま養護学校 福島県立郡山萌世高等学校

(2) 国立教育政策研究所主催講習

ア　社会教育主事講習

(ｱ) 会場　国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

(ｲ) 期日

a　A講習　平成25年7月24日(水)～8月28日(水)

b　B講習　平成26年1月22日(水)～2月28日(金)

(ｳ) 受講者数

a　A講習　　0名

b　B講習　　3名

(ｴ) 修了者名

域内	氏名	勤務先
A講習(0)		
B講習(3)	石田　光路 大竹　　伸 太長根和之	福島市教育委員会生涯学習課 国立那須甲子青少年自然の家 サービス付き高齢者向き住宅 なのはな畑

イ　専門講座等

講座名	期間	受講者数
社会教育主事専門講座	11月13日（水） ～15日（金）	0名

12　出版資料

資料名	部門	規格	頁数	広報手段
社会教育　№334	社会教育	A4	8	ホームページ掲載

第２節　地域の教育力向上

1　概要

子どもたちの育ちを支援するためには、地域社会全体で支え合うことが重要である。そのために、地域の実情に即して、学校・家庭・地域住民の連携を進めるとともに、それぞれが主体的かつ確実にその役割を果たしながら、地域の教育力向上を図ることができるよう努めた。

2　体験活動・ボランティア推進センター事業

(1) 目的

青少年の社会性や思いやりの心など豊かな人間性を育むため、学校内外を通じた体験活動やボランティア活動の機会の充実を図ることを目的に情報提供やコーディネート等を行う推進センターを県に設置し、市町村並びに市町村センターにおける体験活動・ボランティア活動の推進体制を支援する。

(2) 内容

ア　本部センターの設置

(ｱ) 構成

・センター長（社会教育課長）

・副センター長（社会教育課主幹）

・コーディネーター（社会教育主事兼指導主事）

(ｲ) 内容

・各種研修会に関すること

・連絡調整、情報収集、調査研究に関すること

・人材登録に関すること

・地域センターの統括、指導助言に関すること

イ　地域センターの設置

(ｱ) 構成

・センター長（教育事務所総務社会教育課長）

・コーディネーター（社会教育主事、指導主事）

(ｲ) 内容

・公民館及び学校の訪問指導に関すること

・連絡調整、情報収集、調査研究に関すること

・人材登録に関すること

・市町村センターとの連携に関すること

ウ　学校における推進体制の整備

(ｱ) 体験活動等推進委員会の開催

(ｲ) 推進委員会主任(教頭又は社会教育主事有資格者等)の配置

エ　学習支援ボランティアの登録推進

(ｱ) 目的

青少年の体験活動の支援にあたるボランティアの登録を促進するとともに、学校内外における青少年の体験活動を支援することにより、地域の教育力の向上に寄与する。

(ｲ) 対象　ボランティアを推進する県民一般

(ｳ) 内容

学習支援ボランティア、読書活動ボランティア、ノートテイクボランティア、外国出身者支援ボランティア、

家庭教育支援ボランティア、病院訪問学習支援ボランティアの登録や活動を支援する。

・学習支援ボランティア登録人数　420名
・読書活動ボランティア登録人数　209名
・ノートテイクボランティア登録人数　2名
・外国出身者支援ボランティア登録人数　24名
・家庭教育支援ボランティア登録人数　209名
・病院訪問学習支援ボランティア登録人数　16名
計　880名

第３節　地域コミュニティの再生

１　概要

東日本大震災からの自律的な復興に向けて、住民一人一人が主体的に参画することのできる地域コミュニティ再生のための学びの場づくり、コミュニケーションの場づくりを推進していくことが必要である。

このため、学校や公民館等の社会教育施設も活用しつつ、学習活動のコーディネートや指導、安全管理等に従事する人材により、地域住民の学習・交流活動を促進するとともに、子どもたちの良好な生活環境を整備する。

２　放課後子ども教室推進事業

(1) 目的

すべての児童を対象とし、地域の方々の参画を得て、様々な体験活動や交流活動を行う「放課後子ども教室」を設置し、放課後等の子どもたちの安全で健やかな居場所をつくる。

(2) 県事業

ア　推進委員会の設置

(ｱ) 推進委員会委員　10名

NO.	委員名	役職名	備考
1	原野　明子	学識経験者	
2	阿部　律子	放課後児童クラブ関係者	
3	鈴木きよ子	放課後子ども教室関係者	
4	引地　知子	市町村行政関係者	
5	久能　孝幸	市町村行政関係者	
6	中村　利幸	学校関係者	
7	佐藤　房枝	社会教育関係者	
8	小川　　武	県行政関係者（保健福祉部）	
9	阿部　教夫	県行政関係者（教育委員会）	
10	瀬谷真理子	県行政関係者（教育委員会）	

(ｲ) 推進委員会の実施　年２回

a　第１回　平成２５年７月　４日(木)

b　第２回　平成２６年１月２９日(水)

イ　研修会の実施

○放課後子どもプラン地区別研修会　６箇所

県北地区

期　　日：平成２５年８月２１日（水）
会　　場：二本松市安達公民館
参加者数：３０名
内　　容
講演・事例発表・講話・グループ協議

県中地区

期　　日：平成２５年８月１１日（日）
会　　場：郡山市労働福祉会館
参加者数：４３名
内　　容
講演・事例発表・スキルアップ演習・情報交換

県南地区

期　　日：平成２５年９月２６日（木）
会　　場：白河市立図書館
参加者数：３８名
内　　容
講演・事例発表

南会津地区

期　　日：平成２５年１０月１９日（土）
会　　場：下郷ふれあいセンター
参加者数：３１名
内　　容
講演・事例発表・グループ協議

相双地区

期　　日：平成２５年１０月１日（火）
会　　場：相馬市総合福祉センター
参加者数：４０名
内　　容
講話・実技

ウ　放課後子ども教室の実施

県立特別支援学校　（３教室）

・　福島県立聾学校福島分校
・　福島県立聾学校平分校
・　福島県立平養護学校

(3) 市町村事業

ア　運営委員会の実施

イ　子ども教室の実施

38市町村　118教室実施

３　学校支援地域本部事業

(1) 目的

地域人材や団体などの参画を得て、学校と地域が連携し、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進する。

(2) 県事業

ア　第１回コーディネーター課題別研修会

(ｱ) 期日　平成25年7月3日（水）

(ｲ) 場所　相馬市総合福祉センター

(ｳ) 内容

○講話Ⅰ

「持続可能な地域コミュニティの必要性」
ＮＰＯ法人亘理いちごっこ代表　馬場　照子

○講話Ⅱ
「地域コーディネーターの一年」
岩手県宮古市立山口小学校支援地域本部
地域コーディネーター　佐々木良恵

○グループ討議
「学校や地域を元気に！～子どもたちや地域住民の豊かな学びや体験を目指して～」

(ｴ) 参加者　44名

イ　第２回コーディネーター課題別研修会

(ｱ) 期日　平成25年9月25日（水）

(ｲ) 場所　西郷村文化センター

(ｳ) 内容

○事例発表Ⅰ
「大玉村学校支援地域本部事業の活動実例」
大玉村学校支援地域本部・コミュニティスクールコーディネーター　伊藤由美子

○事例発表Ⅱ
「住民パワーで、地域を元気に！」
会津坂下町金上コミュニティセンター
事務局長　佐藤　房枝

○講話
「学校とともに 地域で子どもをはぐくむ おとなの輪」
新潟県新潟市立坂井東小学校
地域教育コーディネーター　郷　扶二子

○グループ協議
「学校や地域を元気に！パート２～子どもたちや地域住民の豊かな学びや体験を目指して～」

(ｴ) 参加者　71名

(3) 市町村委託

13の市町村（桑折町、大玉村、本宮市、鏡石町、田村市、三春町、玉川村、西郷村、鮫川村、西会津町、三島町、北塩原村、相馬市）で18の学校支援地域本部を設置して実施した。

4　地域支援推進事業

(1) 目的

公民館等の社会教育施設を活用し、学習活動の活性化を図ることで、地域住民の学習・交流を促進する。

(2) 県事業

ア　コーディネーター基礎研修会の実施
※　学校支援地域本部事業と合同で開催

イ　コーディネーター課題別研修会の実施
※　学校支援地域本部事業と合同で開催

(3) 市町村委託

17の市町村（伊達市、国見町、本宮市、鏡石町、西郷村、棚倉町、鮫川村、会津若松市、猪苗代町、喜多方市、西会津町、会津坂下町、三島町、金山町、南相馬市、双葉町、楢葉町）で490の講座を実施した。

5　東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業

(1) 目的

災害記録の保存と県民への情報提供に活用する資料の収集を行う。資料は館内での貸出に加え、避難自治体や学校向けの貸出も行い活用する。

また、避難自治体の教育委員会と連携し学校等への移動図書館（あづま号）及び協力車の巡回を実施し、資料の貸出を通じた支援を行う。避難住民向けの朗読会を公民館等において実施し、読書普及を通じた支援を行う。

(2) 内容

ア　震災及び原発事故関連資料収集
資料収集件数　３，００９件

イ　避難自治体支援
①移動図書館（あづま号）による資料貸出
稼働１６回（延べ１８ヶ所）　貸出４，８３２冊
（開催場所　飯舘村、楢葉町他　計１８ヶ所）
②協力車による支援資料の提供
提供資料４，１７２冊　（開催場所　浪江町、楢葉町他　計延べ３７ヶ所）
③仮設学校の児童向けの朗読会
１２月４日（水）開催　（場所　富岡養護学校）

6　文化による心の復興支援プロジェクト

(1) 目的

東日本大震災で被災した県民の心を癒やし、深刻な風評被害を払しょくするため、県立美術館および県立博物館において、県外施設と連携を図りながら、観光集客も視野に入れた企画展を開催する。

(2) 2013年ＮＨＫ大河ドラマ特別展「八重の桜」

ア　期　　日：平成25年5月17日～7月3日
イ　会　　場：福島県立博物館
ウ　関連事業：講演会、ワークショップ等の開催
エ　入館者数：23,977人

(3) 震災復興支援特別展「若冲が来てくれました」

ア　期　日：平成25年7月27日～9月23日
イ　会　場：福島県立美術館
ウ　関連事業：講演会、ワークショップ等の開催
エ　来場者数：155,592人

7　地域における防災力向上支援事業

(1) 目的

今後の災害に備え、地域の防災拠点である公民館等社会教育施設における防災体制の整備・充実を図り、地域防災力を向上させるため、市町村の社会教育関係者を支援する。

(2) 支援者養成プログラム

ア　期　日：平成２５年６月１４日（金）

イ　会　場：ふくしま中町会館
ウ　参加者：２２名
エ　内　容：
①講義「防災に関する基礎知識と必要な対策」
講師　東北大学災害科学国際研究所
教授　源栄　正人　氏
②講義・演習「地域の状況把握と事業企画の視点」
講師　関西大学社会安全部
准教授　永松　伸吾　氏

(3)地域防災力向上支援プログラム

【第１回県南地区研修】
ア　期　日：平成２５年　８月２７日（火）
イ　場　所：サンフレッシュ白河
ウ　参加者：１５名
エ　内　容
①　事例発表「東日本大震災、その後の取り組み」
講師　宮城県亘理郡亘理町立荒浜小学校
教務主任　鹿又　政信　氏
防災主幹教諭　渡辺　英明　氏
②　講義「防災に関する基礎知識と必要な対策～東日本大震災における被害の実態と教訓を踏まえて～」
講師　東北大学災害科学国際研究所
教授　源栄　正人　氏
【第１回いわき地区研修】
ア　期　日：平成２５年　９月１７日（火）
イ　場　所：いわき市文化センター
ウ　参加者：４０名
エ　内　容
①　講演「東日本大震災から学ぶ公民館運営」
講師　大船渡市赤崎地区公民館運営委員長
大船渡市赤崎地区公民館
館長　吉田　忠雄　氏
②　事例発表１「防災サマーキャンプについて」
講師　いわき市教育委員会生涯学習課
主査　小林　幸代　氏
③　事例発表２「防災サマーキャンプ等の公民館の防災の取り組みについて」
講師　いわき市小川公民館
館長　長野　仁郎　氏
④　事例発表３「子どもの心を育む防災プログラム」
講師　いわき市立中央台南小学校
教諭　佐藤　登氏
【第１回県北地区研修】
ア　期　日：平成２５年　９月２７日（金）
イ　場　所：ふくしま中町ビル
ウ　参加者：３５名
エ　内　容
①　講義１「防災・減災と地域コミュニティ」
講師　関西大学社会安全部
准教授　永松　伸吾　氏
②　講義２「被災地の事例に学ぶ～まさかに備える地域力から」
講師　宮城県気仙沼市立松岩公民館
館長　齋藤　文良　氏
【第１回県中地区研修】
ア　期　日：平成２５年１０月１１日（金）
イ　場　所：郡山市労働福祉会館
ウ　参加者：２０名
エ　内　容
①　講義１「地質学的に見た県中地区の自然災害の可能性とその対応～地形や地盤の特徴を理解し、地域を災害から守るために～」
講師　日本大学工学部土木工学科
教授　中村　　晋　氏
②　事例発表「H23.7.29 新潟・福島豪雨時における避難所対応の実際」
講師　南会津郡只見町町民生活課
主査　目黒　健太　氏
③　講義２「社会教育施設における避難所運営について」
講師　富岡町生活復興支援おだがいさまセンター
北村　育美　氏
【第１回会津・南会津地区研修】
ア　期　日：平成２５年１１月　８日（金）
イ　場　所：下郷ふれあいセンター
ウ　参加者：３１名
エ　内　容
①　事例発表「被災地の事例に学ぶ」
講師　宮城県気仙沼市立松岩公民館
館長　齋藤　文良　氏
②　講義「防災・減災と地域コミュニティ」
講師　関西大学社会安全部
准教授　永松　伸吾　氏
【第１回相双地区研修】
ア　期　日：平成２５年１１月２７日（水）
イ　場　所：南相馬市鹿島農村環境改善センター
ウ　参加者：２８名
エ　内　容
①　講義「自然災害から身を守るために　～現象を知り、情報を知り、災害に備える～」
講師　気象庁福島地方気象台
防災管理官　小池　二郎　氏
同気象台
地震津波防災官　越谷　英樹　氏
②　事例発表「東日本大震災時の対応と地域学習センターの役割」
講師　南相馬市高平生涯学習センター
所長　中田　幸喜　氏
【第２回県中地区研修】
ア　期　日：平成２５年１０月２５日（金）
イ　場　所：郡山市労働福祉会館
ウ　参加者：２０名
エ　内　容
①　ワークショップ「社会教育施設における避難所運営マニュアルの作成」
講師　富士常葉大学環境防災学部
教授　重川　希志依　氏
【第２回会津・南会津地区研修】
ア　期　日：平成２５年１１月１５日（金）
イ　場　所：会津若松市ルネッサンス中の島
ウ　参加者：２８名
エ　内　容
①　講義・演習「避難所運営ゲームＨＵＧ」
講師　富岡町生活復興支援おだがいさまセンター
北村　育美　氏
【第２回いわき地区研修】
ア　期　日：平成２５年１１月２５日（月）
イ　場　所：いわき市文化センター

ウ　参加者：３９名
エ　内　容
①　講義・演習１「地域課題の把握と防災関係マニュアル作成の視点」
講師　福島大学うつくしまふくしま未来支援センター
特任教授　天野　和彦　氏
②　演習２「災害時支援体制構築の手順と防災事業の企画・立案」
講師　富岡町生活復興支援おだがいさまセンター
北村　育美　氏

【第２回県北地区研修】
ア　期　日：平成２５年１１月２８日（木）
イ　場　所：ふくしま中町ビル
ウ　参加者：２２名
エ　内　容
①　講義１「おだがいさまセンターはどこに向かって進もうとしているのか～自治・交流・居場所づくりをめざして～」
講師　福島大学うつくしまふくしま未来支援センター
特任教授　天野　和彦　氏
②　講義２「もし公民館が避難所になったら～避難所運営ゲームＨＵＧとは～」
講師　富岡町生活復興支援おだがいさまセンター
北村　育美　氏

【第２回相双地区研修】
ア　期　日：平成２５年１２月２０日（金）
イ　場　所：南相馬市鹿島農村環境改善センター
ウ　参加者：１９名
エ　内　容
①　講義・演習「もし公民館が避難所になったら」
講師　富岡町生活復興支援おだがいさまセンター
北村　育美　氏
②　事例発表「防災サマーキャンプ等公民館における防災事業の取組」
講師　いわき市教育委員会生涯学習課主査
小林　幸代　氏
いわき市立小川公民館館長
長野　仁郎　氏

【第２回県南地区研修】
ア　期　日：平成２６年　１月１６日（木）
イ　場　所：白河市表郷庁舎
ウ　参加者：２５名
エ　内　容
①　講義「県南地域に起こりうる地震・火山・水害などの自然災害について」
講師　気象庁福島地方気象台
水害対策気象官　岩佐　洋司　氏
同気象台
火災防災官　樋渡　秀一　氏
②　講義・演習「災害時の地域課題を明らかにする出発点！～ＨＵＧをつかったワークショップ～」
講師　富岡町生活復興支援おだがいさまセンター
北村　育美　氏

第４節　家庭教育

１　概要

家庭教育は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーを身につける上で重要な役割を担っている。

しかしながら、少子高齢化、高度情報化等、社会環境が激しく変化する現在、子育てに関する課題等も多様化している。そこで、家庭教育の自主性を尊重しつつ、家庭教育についての学習機会の提供や家庭教育サポートブックの活用など子育てを支援する体制を整備するなどの取組の推進に努めた。

２　子どもをはぐくむ家庭・地域支援事業

(1) 目的

保護者が子育て意欲を高め、自信を持って役割を果たせるようにするために、関係団体等との連携により諸事業を展開する。また、家庭の教育力を高め、子育て力の向上を図るために、子育て不安や悩みを抱える保護者や、特に支援の必要な家庭等への働きかけを行う人材を養成するとともに、地域ぐるみで子どもたちをはぐくむ仕組みを構築する。

(2) 子どもをはぐくむ地域実践プロジェクト

ア　福島県地域家庭教育推進協議会
第１回　平成25年5月27日（月）
杉妻会館
第２回　平成26年2月 3日（月）
杉妻会館

イ　地域家庭教育推進各地区ブロック会議
各教育事務所管内（7箇所）
各地区２回実施　（６月、１月）

ウ　家庭教育各地区ブロックセミナー
(ｱ)　県北地区ブロックセミナー
期　日：平成25年12月8日（日）
会　場：男女共生センター
参加者：176名
内　容：講演「学校と家庭と地域が連携して育む子どもの未来」
講師　千葉大学名誉教授
明石　要一　氏
事例発表

(ｲ)　県中地区ブロックセミナー
期　日：平成25年10月6日（日）
会　場：郡山市労働福祉会館
参加者：66名
内　容：ワールドカフェ「家庭教育を考える」～老いも若きも家庭・地域・学校もそれぞれの立場でコミュニケーションについて考えよう。～
講師　群馬大学大学院教育学研究科
准教授　音山　若穂　氏

(ｳ)　県南地区ブロックセミナー
期　日：平成25年12月7日（土）
会　場：西郷村文化センター
参加者：104名
内　容：基調講演「五感ではぐくむ子どものこころ」
講師　向綱学院大学子ども学科
教授　岩倉　政城　氏
講話・事例発表

(ｴ)　会津地区ブロックセミナー
期　日：平成25年8月31日（土）
会　場：会津大学
参加者：164名
内　容：問題提起・分科会
基調講演「世界一寂しい・自分に自信のない日本の少年」
講師　国立病院機構仙台医療センター
教授　田澤　雄作　氏
(ｵ)　南会津地区ブロックセミナー
期　日：平成25年10月5日（土）
会　場：南会津町あたご館
参加者：42名
内　容：講演「父親の家庭教育参加と家訓づくり」
講師　日本家庭教育学会常任理事
平林　直人　氏
グループ協議
(ｶ)　相双地区ブロックセミナー
期　日：平成25年7月20日（土）
会　場：鹿島農村環境改善センター
参加者：81名
内　容：基調講演「子どもたちにメディアワクチンを」
～メディアの光と影～
講師　国立病院機構仙台医療センター
教授　田澤　雄作　氏
問題提起・協議
(ｷ)　いわき地区ブロックセミナー
期　日：平成25年9月10日（火）
会　場：いわき市立中央台公民館
参加者：40名
内　容：講義「子どもたちの生活習慣の向上と実践
～家庭で取り組む実践キャッチフレーズをつくろう～
講師　いわき明星大学
人文学部現代社会学科
教授　菊池　真弓　氏

(3) 地域子育てサポートチーム養成事業

家庭教育・子育てを「チーム」として支援する「子育てサポートチーム」を養成。
年間３回開催。（全県１回、７地区で各２回）
ア　全体研修
期　日：6月22日（土）
会　場：郡山市労働福祉会館
受講者数：164名
イ　地区別研修Ａ
(ｱ)　県北地区
期　日：7月27日(土)
会　場：福島県男女共生センター
受講者数：35名
(ｲ)　県中地区
期　日：7月13日(土)
会　場：郡山市労働福祉会館
受講者数：38名
(ｳ)　県南地区
期　日：9月28日(土)
会　場：白河市産業プラザ人材センター
受講者数：30名
(ｴ)　会津地区
期　日：8月24日(土)
会　場：ユースピアゆがわ
受講者数：24名
(ｵ)　南会津地区
期　日：8月25日(日)
会　場：南郷開発総合センター
受講者数：25名
(ｶ)　相双地区
期　日：9月29日(日)
会　場：鹿島農村環境改善センター
受講者数：29名
(ｷ)　いわき地区
期　日：7月28日(日)
会　場：いわき合同庁舎南分庁舎
受講者数：35名
ウ　地区別研修Ｂ
(ｱ)　県北地区
期　日：8月29日(木)
会　場：福島中町ビル
受講者数：33名
(ｲ)　県中地区
期　日：10月18日(金)
会　場：郡山市労働福祉会館
受講者数：32名
(ｳ)　県南地区
期　日：10月4日(金)
会　場：棚倉町文化センター倉美館
受講者数：26名
(ｴ)　会津地区
期　日：9月4日(水)
会　場：ユースピアゆがわ
受講者数：29名
(ｵ)　南会津地区
期　日：9月11日(水)
会　場：御蔵入交流館
受講者数：33名
(ｶ)　相双地区
期　日：10月24日(木)
会　場：鹿島農村環境改善センター
受講者数：22名
(ｷ)　いわき地区
期　日：10月12日(土)
会　場：いわき合同庁舎南分庁舎
受講者数：40名

第５節　青少年教育

１　概要

青少年の豊かな人間性や社会性をはぐくむためには、異年齢の子ども同士や地域の大人等の関わりのもと、自然体験、ボランティア活動、職業体験、交流体験、スポーツ・文化活動等の様々な体験の機会の充実や社会環境づくりが促進されることが必要である。

そのために、学校・家庭・地域が連携を進めながら、地域ぐるみで青少年を育成する環境づくりが推進されるよう努めた。

２　十七字のふれあい事業

(1) 目的

家庭・学校・地域が連携を進め、地域ぐるみで子どもの体験活動を奨励し、子どもと大人、子どもと子どもが共通の体験から得た思いや感動を十七音で表現する作品づくりを通して、子どもの豊かな心を育成する。

(2) 内容

ア　応募期間　　7月1日～9月30日
イ　応募総数　　36,055組
ウ　最終審査会　平成25年12月5日(木)
エ　審査員　　安部　光夫、山内　正之、増子　春夫
オ　表彰式　　平成26年1月6日(月)　福島県庁西庁舎
カ　入賞数　　最優秀賞5組、優秀賞5組、佳作10組

(3) 広報・普及活動

ア　募集・応募

県内各幼稚園、保育園、小・中学校、高等学校、特別支援学校、社会教育施設、教育事務所等にチラシ・応募用紙を配布した。また、社会教育課のホームページに掲載した。

イ　事後の広報

社会教育課においては、入賞作品集を作成し、各学校や社会教育施設等へ配布した。各教育事務所においては、域内で入選した作品集を作成し、事業の普及に努めた。

第６節　成人教育

１　概要

地域における大人の持つ知識や技能、公民館等において学習した成果などを、地域社会に還元する活動の重要性が高まっていることから、地域の教育力の向上への取組と関連させながら、成人の学習活動や社会参加活動を促進するよう努めた。

第７節　子どもの読書活動推進

１　概要

平成22年3月に策定した「福島県子ども読書活動推進計画（第二次）」を踏まえるとともに、機会をとらえて子どもの読書活動を推進するための研修会を開催するなど啓発、広報に努めた。

また、子ども読書活動を推進するため、ボランティアの育成等を目指し、「子ども読書活動推進研修講座」を県内７地区で実施した。

２　子ども読書活動推進会議の設置

(1) 目的

福島県子ども読書活動推進計画に沿って、読書活動推進に向けた取組等について協議・評価を行う。

(2) 子ども読書推進会議委員

氏　名	職業等	区　分
高野　保夫	国立大学法人福島大学名誉教授	学識経験者
山岸　　波	福島県PTA連合会母親代表	社会教育関係者
今野　　隆	郡山市立白岩小学校	学校図書館の関係者
安齋　良次	本宮市しらさわ夢図書館長	公立図書館等の関係者
高橋　明子	山都公民館社会教育指導員	家庭教育関係者
金沢　美香	白河市立みさか小図書ボランティア	家庭教育関係者

３　子ども読書活動推進事業

(1) 子ども読書活動推進研修講座

ア　県　北　平成25年6月26日（水）～6月27日（木）
　　平成25年7月10日（水）
　　受講者　46名　　福島県立図書館
イ　南会津　平成25年6月30日（日）
　　平成25年7月6日（土）～7月7日（日）
　　受講者　44名　　南郷開発総合センター
ウ　相　双　平成25年7月31日（水）
　　平成25年8月5日（月）～8月6日（火）
　　受講者　40名　　鹿島農村環境改善センター
エ　会　津　平成25年10月18日（金）～10月19日（土）
　　平成25年10月25日（金）
　　受講者　47名　　湯川公民館
オ　県　南　平成25年8月19日（月）
　　平成25年8月23日（金）～8月24日（土）
　　受講者　47名　　棚倉町立図書館
カ　県　中　平成25年9月19日（木）～9月20日（金）
　　平成25年9月28日（土）
　　受講者　23名　　労働福祉会館
キ　いわき　平成25年11月28日（木）～11月29日（金）
　　平成25年12月6日（金）
　　受講者　24名　　いわき合同庁舎南分庁舎

(2) 子どもの読書と科学のコラボ事業

第１回　平成25年9月7日（土）～9月8日（日）
　参加者数　約270名　福島県農業総合センター
第２回　平成25年11月30日（土）
　参加者数　約120名　いわき駅前開発ビル「ラトブ」

第８節　ユネスコ活動

１　概要

ユネスコ憲章の精神に基づく教育・科学・文化活動についての理解を県民一般に広めるとともに研修の機会を提供して、ユネスコ活動の充実発展に努めた。

本県には、以下の協会が組織され、県内の各地において国際平和と人類の福祉に貢献する民間活動が展開されている。県教育委員会としても、積極的に普及の啓発と民間ユネスコ運動の支援に努めた。

2　ユネスコ協会事務局一覧

協会名	会長名	事務局	事務局長	設立年月日
須賀川地方ユネスコ協会	岩田悦次郎	市教委文化・スポーツ課内 須賀川市牛袋町５	河村　朝子	S46.9.13
いわきユネスコ協会	松本　恒雄	市教委生涯学習課内 いわき市堂根町４－８	佐久間静子	S51.10.23
郡山ユネスコ協会	過足　満雄	学校法人尚志学園高等学校内 郡山市大槻町字担ノ腰２	宗像　金三	S53.1.24
白河ユネスコ協会	小野　利廣	市教委生涯学習スポーツ課内 白河市八幡小路７－１	星　　信義	S53.11.19
福島ユネスコ協会	河田　　亨	市中央学習センター内 福島市松木町１－７	阿部　　隆	S55.7.19
会津ユネスコ協会	宗像　　精	市教委生涯学習センター内 会津若松市栄町3−50	石田　明夫	S55.11.16
川俣ユネスコ協会	佐藤　好弘	町教育委員会内 伊達郡川俣町字樋ノ口１１	遠藤貴美子	H16.11.26
福島県ユネスコ連絡協議会	河田　　亨	福島市笹木野字中西表６０－６ 近野元洋宅	近野　元洋	S56.12.5

3　福島県ユネスコ活動研修会

平成25年11月22日（金）福島県いわき海浜自然の家
参加者数　47名

第９節　ふくしまっ子体験活動応援事業

1　目的

子どもたちがのびのびと活動できる環境が少なくなっているため、心身ともにリラックスできる環境の中で体験活動を実施する団体に対して、補助金を交付する。

2　内容

(1) ふくしまっ子体験活動応援補助事業

・対 象 者：県内の幼児、小・中学校、特別支援学校小学部・中学部の児童生徒及び引率者等
・対象期間：7月から8月末、12月から1月末
・実施内容：市町村や社会教育関係団体等が、よりよい環境（県内）のもとで体験活動や交流活動を実施する場合、宿泊費と交通費・体験活動費を補助する。
・補助基準：一人当たり
①宿泊費　1泊5千円上限　7泊まで（食費を含む）
②交通費・体験活動費　1回2千円上限

(2) ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業

・対 象 者：県内の幼児、小・中学生とその家族（乳児含む）
・実施期間：夏期間各1回、冬期間各1回
・場　　所：郡山自然の家、会津自然の家
・内　　容：自然体験活動の日帰り開放プラン　計4回
交通費のみ参加者負担

(3) ふくしまっ子移動教室体験活動応援補助事業

・対 象 者：県内の幼稚園・保育所、小・中学校、特別支援学校幼稚部・小学部・中学部の幼児児童生徒及び引率者等
・対象期間：4月から3月末まで
・実施内容：幼稚園・保育所、小・中学校や特別支援学校幼稚部・小学部・中学部が、教育課程等に位置付けられている園行事、各教科、特別活動等などをよりよい環境（県内）のもとで行う宿泊を伴う体験活動（幼稚園・保育所にあっては日帰りも可）に宿泊費と活動費・交通費を補助する。
・補助基準：①宿泊費　一人当たり1泊5千円上限　30泊まで
②活動費・交通費　活動日数に一人当たり2千円を乗じた額を上限

第10節　公民館等社会教育施設

1　概要

地域住民のための学習の拠点となる社会教育施設として、多様化した学習ニーズに的確に対応し、充実した公民館活動や図書館サービスが行われるよう助言した。

2　公民館を除く主な社会教育施設

※震災により休館中の施設を含む

(1) 図書館の設置状況

	名　　称	所在地・電話番号	設置者
県立	福島県立図書館	福島市森合字西養山１ ０２４－５３５－３２１８	福島県
市	福島市立図書館	福島市松木町１－１ ０２４－５３１－６５５１	福島市
	福島市西口ライブラリー	福島市三河南町１－２０ ０２４－５２５－４０２３	福島市
	福島市子どもライブラリー	福島市早稲町１－１（こむこむ内） ０２４－５２６－４２００	福島市
	伊達市立図書館	伊達市箱崎字川端７ ０２４－５５１－２１３２	伊達市
	二本松市立二本松図書館	二本松市本町１丁目１０２番地 ０２４３－２３－５０８２	二本松市
	二本松市立岩代図書館	二本松市小浜字藤町２４２番地 ０２４３－５５－３２５５	二本松市
町	しらさわ夢図書館	本宮市白岩字堤崎５００ ０２４３－４４－２１１２	本宮市
	郡山市中央図書館	郡山市麓山一丁目５－２５ ０２４－９２３－６６０１	郡山市
	郡山市希望ケ丘図書館	郡山市希望ケ丘１－５ ０２４－９６１－１６００	郡山市
村	郡山市安積図書館	郡山市安積一丁目３８ ０２４－９４６－８８５０	郡山市
	郡山市富久山図書館	郡山市富久山町福原字泉崎１８１－１ ０２４－９２１－００３０	郡山市
立	須賀川市図書館	須賀川市八幡町１３４ ０２４８－７５－３３０９	須賀川市
	須賀川市長沼図書館	須賀川市長沼字金町８５ ０２４８－６７－２１３８	須賀川市
	須賀川市岩瀬図書館	須賀川市柱田字中地前２２番地 ０２４８－６５－３５４９	須賀川市
	鏡石町図書館	鏡石町旭町４４０－６ ０２４８－６２－１２８８	鏡石町
	古殿町図書館	古殿町松川字横川２３５ ０２４７－５３－２３０５	古殿町
	三春町町民図書館	三春町字大町１２－１ ０２４７－６２－３３７５	三春町
	小野町ふるさと文化の館・図書館	小野町大字小野新町字中通２ ０２４７－７２－２１２０	小野町
	田村市図書館	田村市船引町船引字扇田１９ ０２４７－８２－１００１	田村市
	田村市図書館滝根分館	田村市滝根町神俣字町４８－１ ０２４７－７８－２００１	田村市
市	田村市図書館大越分館	田村市大越町上大越字元池８７－５ ０２４７－７９－２１６１	田村市
	田村市図書館常葉分館	田村市常葉町常葉字町裏１ ０２４７－７７－２２１１	田村市
町	田村市図書館都路分館	田村市都路町古道字遠下前８７ ０２４７－７５－２０６３	田村市
	白河市立図書館	白河市手代町２２－１ ０２４８－２３－３２５０	白河市
	白河市東図書館	白河市東釜子字狐内４７ ０２４８－３４－１１３０	白河市
村	中山義秀記念文学館	白河市大信町屋字沢田２５ ０２４８－４６－３６１４	白河市
	矢吹町図書館	矢吹町小松４８１ ０２４８－４４－３５９５	矢吹町
立	泉崎図書館	泉崎村大字泉崎字舘２４－９ ０２４８－５３－４７７９	泉崎村
	棚倉町立図書館	棚倉町大字棚倉字城跡２６－２ ０２４７－３３－４３４２	棚倉町
	塙町立図書館	塙町大字塙字栄町６８－６ ０２４７－４３－０８０８	塙町
	矢祭もったいない図書館	矢祭町大字東舘字石田２５ ０２４７－４６－４６４６	矢祭町
	鮫川村図書館	鮫川村大字赤坂中野字新宿６４－２ ０２４７－２９－１１５０	鮫川村
	会津若松市立会津図書館	会津若松市城東町２－３ ０２４２－２７－１７８４	会津若松市
	喜多方市立図書館	喜多方市字柳原７５０３－１ ０２４１－２２－１８５５	喜多方市
	南会津町図書館	南会津町田島字宮本東２２ ０２４１－６２－５５２２	南会津町
	相馬市図書館	相馬市中村字塚ノ町６５－１６ ０２４４－３７－２６３０	相馬市

	名　称	所在地・電話番号	設置者
市	新地町図書館	新地町谷地小屋字樋掛田 ４０－１ ０２４４－６２－５０３１	新地町
	南相馬市立中央図書館	南相馬市原町区朝日町二丁目７－１ ０２４４－２３－７７８９	南相馬市
	南相馬市立鹿島図書館	南相馬市鹿島区寺内字迎田 ２２－１ ０２４４－４６－５１１６	南相馬市
町	南相馬市立小高図書館 （休館中）	南相馬市小高区本町二丁目 ８９－１ ０２４４－４４－３０４９	南相馬市
	浪江町図書館 （休館中）	浪江町権現堂字矢沢町６－１ ０２４０－３４－５０２４	浪江町
村	双葉町図書館 （休館中）	双葉町大字長塚字鬼木１ ０２４０－３３－４２１４	双葉町
	大熊町図書館 （休館中）	大熊町大字下野上字大野 ６６９－３ ０２４０－３２－３０１１	大熊町
立	富岡町図書館 （休館中）	富岡町大字本岡字王塚 ６２２－１ ０２４０－２１－３６６５	富岡町
	いわき市立総合図書館	いわき市平字田町１２０ ０２４６－２２－５５５２	いわき市
	いわき市立内郷図書館	いわき市内郷綴町榎下４０-１ ０２４６－４５－１０３０	いわき市
	いわき市立小名浜図書館	いわき市小名浜字愛宕上7-2 ０２４６－５４－９２５７	いわき市
	いわき市立常磐図書館	いわき市常磐関船町作田１ ０２４６－４４－６２１８	いわき市
	いわき市立勿来図書館	いわき市植田町南町１丁目 ２－２ ０２４６－６２－７４３１	いわき市
	いわき市立四倉図書館	いわき市四倉町字東一町目 ５０ ０２４６－３２－５９８０	いわき市
法人	クローバー子供図書館	郡山市開成６丁目３４６－１ ０２４－９３２－２１１８	(財)金森和心会

(2) 博物館の設置状況

ア　登録博物館及び相当施設

	名　　称	所在地・電話番号	設置者 種別 登録・指定年月日
登録博物館	福島県立美術館	福島市森合字西養山１ ０２４－５３１－５５１１	福島県 美術博物館 ５９．７．１６
	福島県立博物館	会津若松市城東町 １－２５号 ０２４２－２８－６０００	福島県 総合博物館 ６１．１１．２８
	須賀川市立博物館	須賀川市池上町６ ０２４８－７５－３２３９	須賀川市 歴史博物館 ４６．７．１０
	いわき市立美術館	いわき市平字堂根町４－４ ０２４６－２５－１１１１	いわき市 美術博物館 ５９．９．３
	郡山市立美術館	郡山市安原町字大谷地 １３０－２ ０２４－９５６－２２００	郡山市 美術博物館 平５．１．２０
	南相馬市博物館	南相馬市原町区牛来字出口１９４ ０２４４－２３－６４２１	南相馬市 総合博物館 平８．５．９
	野口英世記念館	猪苗代町大字三ツ和字前田８１ ０２４２－６５－２３１９	(財)野口英世記念会 歴史博物館 ２９．１０．２１
	会津民俗館	猪苗代町大字三ツ和字前田３３－１ ０２４２－６５－２６００	（財）会津民俗館 歴史博物館 ５５．１０．３
	白虎隊記念館	会津若松市一箕町大字八幡字弁天下３３ ０２４２－２４－９１７０	(財)白虎隊記念館 歴史博物館 ６３．６．３０
	奥会津博物館	南会津町糸沢字西沢山 ３６９２－２０ ０２４１－６６－３０７７	南会津町 歴史博物館 平２１．６．１６
相当施設	諸橋近代美術館	北塩原村大字桧原字剣ヶ峰１０９３－２３ ０２４１－３７－１０８８	(財)諸橋近代美術館 美術博物館 平１１．８．１７
	藤田記念博物館 （休館中）	白河市五郎窪３７－１ ０２４８－２４－１７８０	(財)藤田教育振興会 美術博物館 ５４．９．１
	やないづ町立齋藤清美術館	柳津町柳津字下平乙 １８７ ０２４１－４２－３６３０	柳津町 美術博物館 平１１．９．２８
	龍が城美術館	いわき市平字旧城跡２７ ０２４６－２２－１６０１	（財）白龍会 美術博物館 ３０．２．１０
	会津武家屋敷会津歴史資料館	会津若松市東山町大字石山字院内１ ０２４２－２８－２５２５	（株）会津武家屋敷歴史博物館 ５６．１１．２５
	安積歴史博物館	郡山市開成５－２５－６３ ０２４－９３８－０７７８	(財)安積歴史博物館 歴史博物館 ５９．９．８
	磐梯山噴火記念館	北塩原村桧原字剣ヶ峰 １０９３－３６ ０２４１－３２－２８８８	(株)ｺﾞｰﾙﾄﾞﾊｳｽ目黒科学博物館 平５．７．１
	會津藩校日新館	会津若松市河東町南高野字高塚山１０番地 ０２４２－７５－２５２５	（株）会津武家屋敷歴史博物館 平１２．１１．２８

イ　類似施設

名　称	所在地・電話番号	設置者
ふくしま海洋科学館	いわき市小名浜字辰巳町５０ ０２４６－７３－２５２５	福島県
福島県文化財センター白河館	白河市白坂一里段８６ ０２４８－２１－０７００	福島県
福島県歴史資料館	福島市春日町５－５４ ０２４－５３４－９１９３	福島県
ふれあい歴史館（福島市資料展示室）	福島市上町５－１ ０２４－５２１－５３１８	福島市
福島市民家園	福島市上名倉字大石前地内 ０２４－５９３－５２４９	福島市
福島市古関裕而記念館	福島市入江町１－１ ０２４－５３１－３０１２	福島市
福島市写真美術館	福島市森合町１１－３６ ０２４－５３４－９７７７	福島市
ＵＦＯふれあい館	福島市飯野町大字青木字小手神森１－２９９ ０２４－５６２－２００２	福島市
民俗資料展示室	福島市飯野町大字明治字北小戸明利６０	福島市
川俣町織物展示館	川俣町鶴沢字東１３－１ ０２４－５６５－４８８９	川俣町
伊達市梁川美術館	伊達市梁川町字中町１０ ０２４－５２７－２６５６	伊達市
伊達市保原歴史文化資料館	伊達市保原町大泉字宮脇２６５ ０２４－５７５－１６１５	伊達市
霊山子どもの村遊びと学びのミュージアム	伊達市霊山町石田字宝司沢９－１ ０２４－５８９－２２１１	伊達市
二本松市歴史資料館	二本松市本町１－１０２ ０２４３－２３－３９１０	二本松市
二本松市智恵子記念館	二本松市油井字漆原町３６ ０２４３－２２－６１５１	二本松市
あだたらふるさとホール	大玉村玉井字西庵１８３ ０２４３－４８－２５６９	大玉村
歴史民俗資料館	本宮市字南町裡１３０ ０２４３－３３－２５４６	本宮市
白沢ふれあい文化ホール	本宮市白岩字堤崎４９４－４４ ０２４３－４４－３１８５	本宮市
郡山市開成館	郡山市開成３－３－７ ０２４－９２３－２１５７	郡山市
郡山市歴史資料館	郡山市麓山１－８－３ ０２４－９３２－５３０６	郡山市
郡山市こおりやま文学の森資料館	郡山市豊田町３－５ ０２４－９９１－７６１０	郡山市
郡山市ふれあい科学館	郡山市駅前２－１１－１ビッグアイ２０Ｆ～２４Ｆ ０２４－９３６－０２０１	郡山市
須賀川市歴史民俗資料館	須賀川市長沼字門口１８６ ０２４８－６７－２０３０	須賀川市
古殿町郷土文化保存伝習施設	古殿町大字松川字横川２３５ ０２４７－５３－２３０５	古殿町
天栄村ふるさと文化伝承館	天栄村大字大里字八石１－２ ０２４８－８１－１０３０	天栄村
石川町歴史民俗資料館	石川町字高田２００－２ ０２４７－２６－３７６８	石川町
浅川町歴史民俗資料館	浅川町大字浅川字背戸谷地１４４－６	浅川町

名　称	所在地・電話番号	設置者
吉田富三記念館	浅川町大字袖山字森下２８７ ０２４７－３６－４１２９	財団法人
三春町歴史民俗資料館	三春町字桜谷５ ０２４７－６２－５２６３	三春町
三春郷土人形館	三春町字大町３０ ０２４７－６２－７０５３	三春町
小野町ふるさと文化の館・郷土資料館	小野町大字小野新町字中通２ ０２４７－７２－２１２０	小野町
田村市歴史民俗資料館	田村市船引町船引字四城内前１９６番地	田村市
白河市歴史民俗資料館	白河市中田７－１ ０２４８－２７－２３１０	白河市
白河集古苑	白河市郭内１－７３ ０２４８－２４－５０５０	白河市
中山義秀記念文学館	白河市大信町屋字沢田２５ ０２４８－４６－３６１４	白河市
白河市大信ふるさと文化伝承館	白河市大信町屋字沢田２５ ０２４８－４６－３６１４	白河市
泉崎資料館	泉崎村大字泉崎字舘２４－９ ０２４８－５３－４７７７	泉崎村
あぶくま高原美術館	塙町大字那倉字吉元８６－１ ０２４７－４２－２５１０	塙町
矢祭町歴史民俗資料館	矢祭町大字東舘字石田２５	矢祭町
国指定名勝会津松平氏庭園	会津若松市花春町８－１ ０２４２－２７－２４７２	会津若松市
若松城天守閣	会津若松市追手町１－１ ０２４２－２７－４００５	会津若松市
茶室麟閣	会津若松市追手町１－１ ０２４２－２７－４００５	会津若松市
会津町方伝承館	会津若松市大町２－８－８ ０２４２－２２－８６８６	会津若松市
いなわしろ淡水魚館	猪苗代町大字長田字東中丸３４４－４ ０２４２－６５－２４８１	財団法人
喜多方市郷土民俗館	喜多方市柳原７５０３－１ ０２４１－２２－４１５４	喜多方市
喜多方蔵の里	喜多方市字押切２丁目１０９ ０２４１－２２－６５９２	喜多方市
喜多方市美術館	喜多方市押切２丁目２ ０２４１－２３－０４０４	喜多方市
喜多方市高郷郷土資料館	喜多方市高郷町上郷字天神後戊４１７ ０２４１－４４－２７６５	喜多方市
会津坂下町五浪美術記念館	会津坂下町字台ノ下８４２ ０２４２－８４－１２３３	会津坂下町
ほっとｉｎやないづ縄文館	柳津町大字柳津字下平乙１５１－１ ０２４１－４１－１０７７	柳津町
会津美里町民俗資料館	会津美里町米田字堂ノ後甲１４９ ０２４２－７８－２００７	会津美里町
三島町交流センター山びこ	三島町名入字諏訪ノ上４１８ ０２４１－５２－２１６５	三島町
からむし工芸博物館	昭和村大字佐倉字上ノ原１ ０２４１－５８－１６７７	昭和村
旧南会津郡役所	南会津町田島字丸山甲４６８１ ０２４１－６２－３８４８	南会津町

名　称	所在地・電話番号	設置者
久川城資料館	南会津町青柳字久川２４	南会津町
奥会津南郷民俗館	南会津町界字川久保５５２ ０２４１－７３－２８２９	南会津町
檜枝岐村歴史民俗資料館	檜枝岐村字下ノ原８８７－２ ０２４１－７５－２３４２	檜枝岐村
会津只見考古館	只見町大字大倉字窪田３３ ０２４１－８６－２１７５	只見町
河井継之助記念館	只見町大字塩沢字上ノ台８５０－５ ０２４１－８２－２８７０	只見町
相馬市歴史民俗資料館	相馬市中村字大手先１３ ０２４４－３７－２１９１	相馬市
鹿島歴史民俗資料館	南相馬市鹿島区西町３－１ ０２４４－４６－４２８１	南相馬市
埴谷島尾記念文学資料館（休館中）	南相馬市小高区本町２－８９－１ ０２４４－４４－３０４９	南相馬市
葛尾村郷土文化保存伝習館	葛尾村落合字落合１１ ０２４０－２９－２００８	葛尾村
双葉町歴史民俗資料館（休館中）	双葉町大字新山字本町２７－１ ０２４０－３３－４７６３	双葉町
大熊町民俗伝承館（休館中）	大熊町大字下野上字大野６６９－３ ０２４０－３２－３０１１	大熊町
富岡町歴史民俗資料館（休館中）	富岡町大字本岡字王塚６２２－１ ０２４０－２２－２６２６	富岡町
楢葉町歴史資料館（休館中）	楢葉町大字北田字鐘突堂５－４ ０２４０－２５－２４９２	楢葉町
いわき市石炭・化石館	いわき市常磐湯本町向田３－１ ０２４６－４２－３１５５	いわき市
いわき市勿来関文学歴史館	いわき市勿来町関田長沢６－１ ０２４６－６５－６１６６	財団法人
いわき市アンモナイトセンター	いわき市大久町大久字鶴房１４７－２ ０２４６－８２－４５６１	いわき市
いわき市考古資料館	いわき市常磐湯本町手這５０－１ ０２４６－４３－０３９１	いわき市
いわき市立草野心平記念文学館	いわき市小川町高萩字下夕道１－３９ ０２４６－８３－０００５	いわき市
いわき市草野心平生家	いわき市小川町上小川字植ノ内６－１ ０２４６－８３－０００５	いわき市
いわき市暮らしの伝承郷	いわき市鹿島町下矢田字散野１４－１６ ０２４６－２９－２２３０	いわき市
原郷のこけし群西田記念館	福島市荒井字横塚３－１８３ ０２４－５９３－０６３９	財団法人
種徳美術館	桑折町字陣屋１２ ０２４－５８２－５５０７	桑折町
東北サファリパーク	二本松市沢松倉１ ０２４３－２４－２３３６	株式会社
デコ屋敷資料館	郡山市西田町高柴字福内４１ ０２４－９７１－３９００	私人
ふくしまの森科学体験センター	須賀川市虹の台１００ ０２４８－８９－１１２０	財団法人

名　称	所在地・電話番号	設置者
（有）大桑原つつじ園	須賀川市大桑原字竹ノ花１３ ０２４８－７６－５８５７	有限会社
(株)エイトファーム三春ハーブガーデン	三春町大字斉藤字仁井道１２６ ０２４－９４２－７９３９	株式会社
リカちゃんキャッスル	小野町小野新町中通５１－３ ０２４７－７２－６３６４	株式会社
フラワーワールド	白河市南湖５９ ０２４８－２３－２１００	私人
南湖神社宝物館	白河市字菅生舘２ ０２４８－２３－３０１５	私人
木の博物館	塙町大字伊香字松原１６０－１３ ０２４７－４３－１４８０	有限会社
会津酒造歴史館	会津若松市東栄町８－７ ０２４２－２６－００３１	株式会社
会津葵シルクロード文明館	会津若松市追手町４－６ ０２４２－２７－１００１	株式会社
（社）福島県伝統産業会館	会津若松市大町１－７－３ ０２４２－２４－５７５７	社団法人
大和川酒造北方風土館	喜多方市字寺町４７６１ ０２４１－２２－２２３３	私人
喜多方蔵品美術館	喜多方市梅竹７２９４－４ ０２４１－２４－３５７６	私人
桐の博物館	喜多方市押切南２－１２ ０２４１－２２－１９１１	私人
うるし美術博物館	喜多方市字東町４０９５ ０２４１－２４－４１５１	株式会社
御蔵入細井家資料館	南会津町静川字風下甲１７５ ０２４１－６２－０９０６	私人

(3)　青少年教育関係施設の設置状況

種別	施設名	所在地・電話番号	設置者
県設置教育施設	福島県郡山自然の家	郡山市逢瀬町多田野字中丸山４６ ０２４－９５７－２１１１	福島県
	福島県会津自然の家	会津坂下町大字八日沢字西東山４４９５－１ ０２４２－８３－２４８０	福島県
	福島県いわき海浜自然の家	いわき市久之浜町田之網字向山５３ ０２４６－３２－７７００	福島県
	国立那須甲子青少年自然の家	西郷村大字真船字村火６－１ ０２４８－３６－２３３１	文部科学省
	国立磐梯青少年交流の家	猪苗代町字五輪原７１３６－１ ０２４２－６２－２５３０	文部科学省
	市町村（条例）設置	３９施設（別掲）	
	他県設置等	１２施設（別掲）	

《市町村（条例）設置３９施設》

名称	所在地・電話番号	設置者
福島県青少年会館	福島市黒岩字田部屋５３－５ ０２４－５４６－８３１１	財団法人
福島市社会教育会館「こぶし荘」	福島市庭坂字砥石山４０－１３ ０２４－５９１－３３６６	福島市
福島市社会教育会館「立子山自然の家」	福島市立子山字金井作１ ０２４－５９７－２９５１	福島市
福島市勤労青少年ホーム	福島市入江町１－１ ０２４－５３１－６２２１	福島市
福島市子どもの夢を育む施設	福島市早稲町１－１ ０２４－５２４－３１３１	福島市
二本松市青年の家	二本松市榎戸１－９２ ０２４３－２３－５１２１	二本松市
二本松市二本松勤労青少年ホーム	二本松市榎戸１－９２ ０２４３－２３－５１２１	二本松市
二本松市安達勤労青少年ホーム	二本松市油井字濡石３－１ ０２４３－２３－３７２１	二本松市
本宮市勤労青少年ホーム	本宮市字矢来３９－１ ０２４３－３３－２６１１	本宮市
郡山市青少年会館	郡山市大槻町字漆棒８２ ０２４－９６１－８２８２	郡山市
郡山市少年湖畔の村	郡山市湖南町横沢字村西１１２ ０２４－９８２－２１１５	郡山市
郡山勤労青少年ホーム	郡山市麓山１丁目８－４ ０２４－９３２－３０２７	郡山市
須賀川市市民の森	須賀川市塩田字音森２０ ０２４８－７９－２１８７	須賀川市
須賀川市勤労青少年ホーム	須賀川市和田字柏崎４４ ０２４８－６３－２１５４	須賀川市
須賀川市ふれあいセンター	須賀川市長禄町７９ ０２４８－７２－０２００	須賀川市
鏡石町勤労青少年ホーム	鏡石町中央５９ ０２４８－６２－２１１５	鏡石町
鏡石町ふれあいの森公園	鏡石町小栗山７１ ０２４８－８３－２３８１	鏡石町
三春町児童生活センター	三春町字大町７－１ ０２４７－６２－８６６６	三春町
田村市船引児童館	田村市船引町船引字石田１５１ ０２４７－８２－０６９０	田村市
小野町勤労青少年ホーム	小野町大字小野新町字中道２ ０２４７－７２－２１２５	小野町
石川町勤労青少年ホーム	石川町当町４１８－１ ０２４７－２６－２５６６	石川町
聖ケ岩ふるさとの森	白河市大信隈戸５７及び５９林班地内 ０２４８－４６－２４７１	白河市
会津若松市勤労青少年ホーム	会津若松市城東町１４－５２ ０２４２－２６－６６６２	会津若松市
会津若松市少年の家	会津若松市城東町１５－６２	会津若松市
青少年研修センター(わらび学園)	喜多方市熱塩加納町加納字村前乙５４９	喜多方市
喜多方市勤労青少年ホーム	喜多方市舞台田３１１９－１ ０２４１－２２－１４０３	喜多方市
びわ沢原森林公園	猪苗代町字琵琶沢原７０９５ ０２４２－６２－３２９１	猪苗代町
三島町生涯学習センター森の校舎カタクリ	三島町西方字上原３５８０ ０２４１－４８－５５７７	三島町
御蔵入の里会津山村道場	南会津町糸沢字西沢山３６９２－２０ ０２４１－６６－２１０８	南会津町
野外活動施設（開墾小屋）	南会津町多々石字多々石入８７２－２１６	南会津町
針生青少年旅行村	南会津町針生字宮ノ下１７３４－１ ０２４１－６２－６２００	南会津町
新地町勤労青少年ホーム	新地町大字福田字中里１５－１ ０２４４－６２－３１０６	新地町
双葉町青年婦人会館（休館中）	双葉町長塚字谷沢町５６ ０２４０－３３－２０８３	双葉町
グリーンフィールド富岡（休館中）	富岡町小浜３０４ ０２４０－２２－５５６６	富岡町
富岡町合宿センター（休館中）	富岡町小浜３４３ ０２４０－２２－７０００	富岡町
楢葉町サイクリングターミナル展望の宿天神（休館中）	楢葉町北田字上ノ原２７－２９ ０２４０－２５－３１１３	楢葉町
いわき市勿来勤労青少年ホーム	いわき市金山町朝日台１ ０２４６－６３－２８７９	いわき市

参考　※　いわき市生涯学習プラザ
いわき市平字一町目１番地ティーワンビル
４・５階
※　財団法人福島県産業振興センター産業交流館
（ビッグパレットふくしま）
郡山市安積町日出山字北千保１９－８

《他県設置等１２施設》

名　称	所在地・電話番号	設置者
天栄村羽鳥湖畔オートキャンプ場	天栄村羽鳥字芝草２－４ ０２４８－８５－２０３３	財団法人
矢祭山友情の森	矢祭町大字山下字下河原１－１ ０２４７－４６－２１６２	矢祭町
只見町青少年旅行村いこいの森	只見町大字只見字向山２８３２－２ ０２４１－８２－２４３２	只見町
高清水自然公園	南会津町界字長池沢口４２９８－１２ ０２４１－７３－２１１５	南会津町
小野田自然塾	東京都中央区佃１－１０－５ ０３－３５３３－７８９５	財団法人
越谷市立あだたら高原少年自然の家	二本松市永田字長坂国有林１４林班 ０２４３－２４－２５６１	越谷市
羽生市立あだたら高原少年自然の家	二本松市永田字長坂国有林１４林班之小班 ０２４３－２４－２８５９	羽生市
葛飾区立あだたら高原学園	二本松市永田字長坂国有林１４林班 ０２４３－２４－２２０６	葛飾区
中野区常葉少年自然の家	田村市常葉町山根字鰍５－２９ ０２４７－７７－２０９８	中野区
朝霞市立猪苗代湖自然の家	会津若松市湊町大字赤井字戸ノ口５３ ０２４２－９４－２４３４	朝霞市
さいたま市立舘岩少年自然の家	南会津町宮里字向山２８４７－１ ０２４１－７８－２３１１	さいたま市
ＳＹＤぱんだいふれあいぴあ	北塩原村桧原字南黄連沢山 １１５７－１９２ ０２４１－３３－２３３５	財団法人

第９章　文　　化

第１節　概要

近年、生活水準の向上、自由時間の増大及び生涯学習の進展を背景として、心の豊かさを実感できる生活の実現を求める県民意識が高まりをみせており、新たな文化を創造、発展させることが求められている。

このため、県教育委員会では、県民の自主性と創造性を尊重しながら、“知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成”を基本目標に、文化財の保存・継承と適切な活用、次代を担う子どもたちの地域の伝統文化を愛するこころの醸成、地域に根ざした伝統文化などの文化的資源を活かした文化振興の取組みと地域活性化を基本的方向性として、施策「地域に根ざした伝統文化を保存し・継承し、地域を愛するこころをはぐくみます」を積極的に展開しており、その成果は次のとおりである。

１　文化活動の振興

高校生の芸術文化活動の充実向上を図るため、福島県高等学校文化連盟に対する助成を行った。

平成25年11月8日（金）、福島県文化センターにおいて第32回福島県高等学校総合文化祭総合開会式が行われ、事務局校である橘高等学校を中心とした実行委員会の協力により、成功裏のうちに終了した。

２　文化の伝承の充実

(1)　埋蔵文化財の保存の充実

開発事業に対して、事前の表面調査と試掘調査を実施するとともに、事業者側と協議を行い、可能な限り埋蔵文化財の現状保存に努めながら、記録の保存のための発掘調査を行った。

(2)　文化財防災設備等の整備促進

文化財防災設備、保存施設等の整備を促進するとともに、所有者又は管理団体等に対し日常的管理の強化を図るよう指導に当たった。

(3)　文化財保存助成の充実

国・県指定文化財の保存修理及び埋蔵文化財保存調査と一体となって、文化財を広く県民へ公開する「指定文化財保存活用事業」により助成を行った。

また、東日本大震災により被災した国・県指定文化財の修復事業に対し補助率を嵩上げし、助成を行うとともに、原発事故等により存続の危機にある民俗芸能の継承を図るため、震災により流出・毀損した用具類の新調・修理及び稽古等に必要な交通費等を助成した。

(4)　文化財の救援活動

東日本大震災により被災した双葉郡内町立歴史民俗資料館等の文化財を関係機関・団体の協力により搬出した。

搬出した文化財を、県文化財センター白河館（愛称まほろん）に設置した安定的に保管するための施設に搬送した。

また、搬出した文化財の一部をまほろんで展示・公開した。

３　文化施設の整備充実

(1)　県立美術館の整備充実

常設展、企画展等を開催するとともに、美術作品の収集と作品・作家等に関する調査研究を計画的に推進したほか、教育普及活動に努め、本県美術振興の中心的施設として機能の充実に努めた。

(2)　県立博物館の整備充実

展示資料の収集・整備に努め、調査研究を計画的に推進し、常設展・企画展等の充実を図るとともに教育普及のための各種事業を行い、県内博物館の中心的施設として機能の充実に努めた。

(3)　県文化財センター白河館（まほろん）

文化財の収蔵と被災した地域の文化財等の公開・活用及び埋蔵文化財担当職員等の研修を図り、文化財に親しみ、文化財への理解を深める施設として機能の充実に努めた。

第２節　文化活動の振興

１　芸術文化活動発表機会の充実

(1)　福島県高等学校文化連盟への助成

福島県高等学校総合文化祭の開催に対する補助を行った。（補助対象事業費計：8,290千円、補助金額計：1,000千円）

ア　平成25年度福島県高等学校文化連盟

役員

役職名	氏名	職	所属校	役職名	氏名	職	所属校
会長	丹藤　茂	校長	安積黎明高等学校	監事	安齋　雅高	教諭	小野高等学校
副会長(私立)	森　涼	校長	学法石川高等学校	幹事	林王　昭	教諭	橘高等学校
副会長(県北)	小浜宗一郎	校長	橘高等学校	幹事	渡部　亮	教諭	大沼高等学校
副会長(県南)	深谷茂樹	校長	小野高等学校	幹事	安斎　泉	教諭	郡山商業高等学校
副会長(会津)	五十嵐研	校長	大沼高等学校	幹事	飯豊利子	教諭	白河旭高等学校
副会長(いわき)	五輪美智子	校長	小名浜高等学校	幹事	今泉勝行	教諭	須賀川桐陽高等学校
副会長(相双)	日高裕志	校長	相馬高等学校	幹事	岩山久美子	教諭	須賀川桐陽高等学校
理事長	和田直也	教諭	安積黎明高等学校	幹事	清野浩幸	教諭	清陵情報高等学校
副理事長	三條敦	教諭	光南高等学校	幹事	津滝亜希子	講師	安積黎明高等学校
事務局長	遠藤喜光	教諭	安積黎明高等学校	顧問	菅野誠	課長	高校教育課
監事	斎藤貢一	校長	郡山東高等学校				

専門部会長・専門部委員長

専門部	部会長	職	所属校	部委員長	職	所属校
演劇	大越憲峰	校長	光南	佐藤茂紀	教諭	光南
高音連	荒井一成	校長	郡山商	星弓彦	教諭	福島工業
合唱	久保田範夫	校長	安積	鈴木和明	教諭	安積
吹奏楽	本間悦男	校長	湯本	橋本葉司	教諭	湯本
器楽管弦楽	荒井一成	校長	郡山商	鈴木敦	教諭	郡山商
日本音楽	池田健一郎	校長	四倉	瀬谷浩子	教諭	四倉
吟詠剣詩舞	浅岡秀夫	校長	昌平	賀澤裕三	講師	昌平
郷土芸能	渡邉芳広	校長	相馬農	村田和丈	教諭	相馬農
マーチングB・バトンT	荒井一成	校長	郡山商	横田日夏	教諭	郡山商
美術・工芸	菅野哲哉	校長	保原	林王昭	教諭	橘
書道	菅野論	校長	相馬東	鹿山俊	教諭	相馬東
写真	渡邉望	校長	磐城桜が丘	吉田靖夫	教諭	磐城桜が丘
放送文化	箱崎温夫	校長	磐城	中野淳之	教諭	磐城
囲碁	小浜宗一郎	校長	橘	鈴木仁孝	教諭	橘
将棋	本間稔	校長	福島	根本郁男	教諭	福島
弁論	箱崎二三彦	校長	会津	佐藤繁	教諭	会津
小倉百人一首かるた	丹藤茂	校長	安積黎明	橋本安広	教諭	田村
新聞	日高裕志	校長	相馬	武内義明	教諭	相馬
文芸	齋藤貢一	校長	郡山東	池上貴夫	教諭	郡山東
自然科学	坂爪靖夫	校長	白河旭	小野寺充	教諭	安積黎明
農業	菅野直芳	校長	会津農林	目黒裕	教諭	会津農林
工業	高城友治	校長	郡山北工	浜津俊明	教諭	郡山北工
商業	喜多見薫	校長	福島商	安田宗章	教諭	福島商
家庭	菅野哲哉	校長	保原	佐賀美たか	教諭	保原
定通	渡部勢津子	校長	いわき翠の杜	星美奈	教諭	いわき翠の杜
特別支援学校	安藤俊典	校長	盲学校	芳賀孝宏	教諭	盲学校
国際教育	吉田啓一郎	校長	須賀川桐陽	阿部孝一	教諭	須賀川桐陽
JRC	渡邉望	校長	磐城桜が丘	高橋敏夫	教諭	磐城桜が丘

イ　第32回福島県高等学校総合文化祭

県内高校生の文化活動の成果発表と相互の交流を目的として、全県内において、平成25年５月から平成25年12月まで、専門部の行事を開催した。

部門	期日	場所	内容
演劇	11月22日（日）～24日	福島県文化センター	第67回福島県高等学校演劇コンクール
合唱 吹奏楽 器楽・管弦楽 日本音楽	6月20日（木）～21日（金）	喜多方プラザ文化センター 會津風雅堂	第32回福島県高等学校総合文化祭 音楽部門
吟詠剣詩舞 郷土芸能	11月2日（土）	いわき芸術文化交流館アリオス	第3回福島県高等学校総合文化祭三部門 （日本音楽・吟詠剣詩舞、郷土芸能部門）合同発表会
マーチングバンド・バトントワリング	8月23日（金）	福島県営あづま総合体育館	第5回福島県高等学校マーチングバンド・ バトントワリング発表会
美術・工芸	12月4日（水）～8日（日）	福島県文化センター	第39回福島県高等学校美術展
書道	12月13日（金）～17日（火）	福島市アクティブシニアセンターAOZ	第32回福島県高等学校総合文化祭 書道展
写真	11月14日（木）～17日（日）	福島県文化センター	第32回福島県高等学校総合文化祭 写真展
放送文化	6月2日(日) ～3日(月) 6月7日(金)	福島県文化センター	第32回福島県高等学校総合文化祭 放送部門 第60回ＮＨＫ杯全国高校放送コンテスト 福島県大会
囲碁	6月15日（土）～16日（日）	橘高等学校	第37回全国高校囲碁選手権大会 福島県大会
将棋	5月18日(土)	安積高等学校	第49回全国高校将棋選手権大会 福島県大会
弁論	12月18日（水）	会津若松市文化センター	第5回福島県高等学校弁論大会
小倉百人一首かるた	10月13日（日）	安積黎明高等学校	第6回福島県高等学校総合文化祭 小倉百人一首かるた選手権大会
新聞	11月12日(火)～13日（水）	矢吹町ホテルニュー日活	福島県高等学校新聞連盟 平成25年度総会・大会
文芸	11月1日（金）	ビッグパレットふくしま	第11回福島県高等学校総合文化祭 文芸部門大会
自然科学	11月16日（土）～17日（日）	会津学鳳高等学校	第26回福島県高等学校生徒理科研究発表会
農業	7月3日(水)～7月4日(木)	福島明成高等学校 あづま総合体育館	福島県学校農業クラブ連盟技術競技大会
工業	9月30日(月)	郡山北工業高等学校	第20回福島県高等学校ロボット競技大会
商業	7月21日(日)～22日(月)	喜多方プラザ文化センター	第19回福島県高等学校生徒商業 研究発表大会
家庭	10月24日(木)～25日(金)	福島県文化センター	第61回福島県高等学校家庭クラブ連盟 研究発表大会
定通	10月9日(水)	郡山萌世高等学校	第61回福島県高等学校定時制通信制 生徒生活体験発表大会
特別支援学校	10月16日(水)～18日(金)	福島県文化センター	第27回特別支援学校生徒作品展
JRC	11月7日（木）～8日（金）	郡山ユラックス熱海	平成25年度福島県高等学校青少年 赤十字連絡協議会第46回大会
国際教育	9月11日（水）	須賀川市産業会館	第26回高校生による国際理解のための弁論大会

ウ　第37回全国高等学校総合文化祭への参加

平成25年7月31日から8月4日まで、長崎県で開催された文化祭に参加する185名を派遣した。

〔参加部門等及び参加生徒数〕

総合開会式2名、パレード21名、日本音楽11名、吟詠剣詩舞11名、郷土芸能20名、マーチングB・バトンT21名
美術・工芸5名、書道5名、写真8名、放送26名、囲碁5名、将棋5名、弁論2名、小倉百人一首9名、新聞6名、文芸5名、自然科学18名、JRC5名

エ　平成25年度福島県高文連専門部全国大会入賞状況

（ア）　団体

専門部	大会名	成績	学校名
合唱	第66回全日本合唱コンクール全国大会	金賞（2位相当）（広島県知事賞）	会津
		金賞（3位相当）（広島県教育委員会賞）	安積黎明
	第80回NHK全国学校音楽コンクール全国大会	金賞	郡山
		銀賞	安積黎明
		優良賞	郡山
吹奏楽	第61回全日本吹奏楽コンクール	銀賞	湯本
		銀賞	平商業
		銅賞	磐城
器楽・管弦楽	日本学校合奏コンクール2013全国大会	銅賞	郡山商
放送文化	第60回NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会	テレビドキュメント部門　優勝	相馬
		テレビドキュメント部門　優良賞	原町
		創作テレビドラマ部門　優勝	磐城
将棋	第37回全国高等学校総合文化祭将棋部門 第49回全国高等学校将棋選手権大会	男子団体第5位（ベスト8）	福島
新聞	第37回全国高等学校総合文化祭新聞部門年間紙面審査	優良賞	福島
		奨励賞	郡山東
文芸	第28回全国高等学校文芸コンクール文芸部誌部門	優良賞（一ッ橋文芸教育振興会賞）	磐城
自然科学	第37回全国高等学校総合文化祭自然科学部門ポスター（パネル）発表	科学部門奨励賞	磐城
		地学部門奨励賞	磐城
		科学部門奨励賞	磐城
工業	第11回高校生技術・アイディアコンテスト全国大会	優秀賞（全国第2位）	郡山北工業
	第4回国際ナノ・マイクロアプリケーションコンテスト2013	世界第2位　準グランプリ 全国大会第1位	郡山北工業
商業	第60回全国高等学校珠算・電卓競技大会	団体総合第4位	郡山商業
	全経簿記電卓競技全国大会団体競技電卓の部	第1位	郡山商業
	第17回全日本電卓競技大会全国大会団体競技高校の部	第1位	郡山商業
家庭	第61回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会学校家庭クラブ活動の部	文部科学大臣賞（第1位）	福島北

（イ）　個人

専門部	大会名	成績	学校名	氏名
書道	第37回全国高等学校総合文化祭書道部門	特別賞	白河	海津ひかり
放送	第60回NHK杯全国高校放送コンテスト	アナウンス部門入選	磐城	叶多栞
		朗読部門入選	郡山	渡邉由紀子
工業	第34回U-20プログラミングコンテスト	経済産業大臣賞（全国1位）	郡山北工業	羽生徹
	第13回高校生ものづくりコンテスト全国大会建設系木材加工部門	優勝（農林水産大臣賞）	福島工業	盛藤駿介
小倉百人一首かるた	第37回全国高等学校総合文化祭小倉百人一首かるた部門読手コンクールの部	最優秀賞 全日本かるた協会長賞	安積黎明	星杏奈
		優良賞（第6位）	安積黎明	古川可奈
	第35回全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会	B級2位	安積黎明	古川可奈
		C級3位	郡山商業	柳沼奏絵
文芸	第28回全国高等学校文芸コンクール短歌部門	優秀賞	磐城	藤原千鶴
		入選	磐城	廣岡奈那子

農　　業	第43回日本学校農業クラブ全国大会農業鑑定競技　農業	優　　秀	岩瀬農業	渡辺　唯嗣
	第43回日本学校農業クラブ全国大会農業鑑定競技会　生活科学	優　　秀	岩瀬農業	根本有希
	第43回日本学校農業クラブ全国大会農業鑑定競技会　食品科学	優　　秀	福島明成	赤坂春奈
	第43回日本学校農業クラブ全国大会農業鑑定競技会　食品科学	優　　秀	福島明成	遊佐茉由子
	第43回日本学校農業クラブ全国大会農業情報処理競技	優　　秀	修　　明	齋藤公見
商　　業	第60回全国高等学校珠算・電卓競技大会珠算部門　読上暗算競技	第　2　等	小名浜	高橋　秀典
	第60回全国高等学校珠算・電卓競技大会電卓部門　個人総合	第　3　等	郡山商業	大柿里紗
	第60回全国高等学校珠算・電卓競技大会電卓部門　伝票算競技	第　2　等	郡山商業	渡邉紗弥
		第　3　等	郡山商業	熊谷由美
	平成25年度全経簿記電卓競技全国大会個人総合競技電卓の部	第　3　位	郡山商業	鈴木樹里
	第17回全日本電卓競技大会全国大会個人総合競技	第　2　位	郡山商業	鈴木樹里
家　　庭	第61回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会ホームプロジェクトの部	全国家庭科教育協会賞（第4位）	耶麻農業	國分　愛
定　　通	第61回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表会	石澤奨学会賞	郡山萌世	本田真由美
弁　　論	第3回安達峰一郎記念世界平和弁論大会	優　秀　賞（全国大会第2位相当）	郡山女子大学附属	古川のどか

オ　平成25年度福島県高等学校文化連盟表彰

（7）　優秀団体

No.	団体名	所属校名	専門部	全国大会等での成績
1	安積黎明高校合唱団	安積黎明高校	合　唱	第80回NHK全国学校音楽コンクール　銀賞 第66回全日本合唱コンクール全国大会　金賞 （広島県教育委員会賞）（全国大会第3位相当）
2	会津高校合唱団	会津高校	合　唱	第66回全日本合唱コンクール全国大会　金賞 （広島県知事賞）（全国大会第2位相当）
3	相馬高校放送局	相馬高校	放　送	第60回全国高校放送コンテスト　主催：NHKほか テレビドキュメント部門　優勝（全国大会第1位）
4	磐城高校放送委員会	磐城高校	放　送	第60回全国高校放送コンテスト　主催：NHKほか 創作テレビドラマ部門　優勝（全国大会第1位）
5	磐城高校文学部	磐城高校	文　芸	第27回全国高等学校文芸コンクール 主催：（公社）全国高等学校文化連盟・読売新聞社 文芸部誌部門優良賞・一ツ橋文芸教育振興会賞 （全国大会第3位相当）
6	郡山北工業高校情報技術科	郡山北工業高校	工　業	第4回国際ナノ・マイクロアプリケーションコンテスト2013 主催：世界の企業・大学の研究機関11団体 開催地：スペイン・バルセロナ2位（準グランプリ） ※高校生チームとして世界初
7	郡山商業高校珠算部	郡山商業高校	商　業	平成25年度全経簿記電卓競技全国大会 主催：全国経理教育協会 団体競技（電卓の部）優勝（全国大会第1位）
8	福島北高校家庭クラブ	福島北	家　庭	第61回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会 主催：全国高等学校家庭クラブ連盟 学校家庭クラブ活動部門 文部科学大臣賞（全国大会第1位相当）

(イ) 優秀個人

No.	氏名	所属校名	専門部	全国大会等での成績
1	星 杏奈	安積黎明	小倉百人一首かるた	第37回全国高等学校総合文化祭長崎大会 読手コンクールの部 全国最優秀読手賞 全日本かるた協会長賞（全国第1位相当）
2	羽生 徹	郡山北工業	工業	第34回U-20プログラミングコンテスト 主催：経済産業省 経済産業大臣賞（全国第1位相当）
3	鈴木 樹里	郡山商業	商業	平成25年度全経簿記電卓競技全国大会 主催：全国経理教育協会 総合競技 個人 電卓の部 第3位（全国第3位）
4	渡邉 紗弥	郡山商業	商業	第60回全国高等学校珠算・電卓競技大会 主催：全国商業高等学校協会 電卓の部 伝票算競技 第2位（全国第2位）
5	高橋 秀典	小名浜	商業	第60回全国高等学校珠算・電卓競技大会 主催：全国商業高等学校協会 珠算の部 読上暗算競技 第2位（全国第2位））

(ウ) 優秀指導者

No.	氏名	所属校名	専門部	指導歴等
1	高橋祐二	喜多方	合唱	（昭和61年）第39回全日本合唱コンクール全国大会 会津高校男声合唱団 金賞(全国大会第3位以上相当) 今年度退職
2	渡部義弘	相馬	放送	通算指導歴12年
3	深澤剛	郡山北工業	工業	通算指導歴8年
4	大竹和徳	若松商業	商業	通算指導歴9年
5	急式祐子	福島北	家庭	通算指導歴17年

第3節 文化財の愛護と伝統文化の継承

1 文化財保護体制の充実

(1) 指定文化財保護体制の充実(文化財パトロール)

例年、文化財保護の万全を期すため、民間の有識者を文化財保護指導委員に委嘱し、パトロール計画に基づいて、定期的に国・県指定重要文化財や重要遺跡の巡視を行い、その実態把握に努めてきた。平成25年度も巡視対象地区を14地区に編成して実施した。

(2) 文化財保護指導者講習会

ア 趣旨

文化財に関する知識の普及と愛護精神の高揚を図るため、県文化財センター白河館が実施主体となり、文化財の保護について指導的立場にある関係者に対し、文化財に関する専門的事項について講習を行い、市町村における文化財保護行政の進展に役立てることを目的とする。

イ 期日及び場所

平成25年9月4日(水)～5日(木)

国見町

ウ 内容

(ア) 講義内容及び講師

a 「国見町の歴史と古代の条里制について～伊達西部条理遺構の調査等を例として～」

福島県文化財センター白河館運営協議会委員(兼)二本松市文化財保護審議会委員 日下部 善己

b 「文化財保護行政の現状～復興関連調査を中心に～」

文化財課 副課長(兼)専門文化財主査 長嶋雄一

(イ) 現地研修

a 阿津賀志山防塁石母田地区（国史跡）
旧奥州道中国見峠長坂跡（町史跡）
義経の腰掛松（町天然記念物）

b 石母田城跡（町史跡）

c 阿津賀志山防塁下二重堀地区（国史跡）
中尊寺ハス池

(3) 市町村文化行政担当者会議

ア 趣旨

県内市町村の文化財行政担当者が職務を遂行するうえでの必要な知識の習得を図り、また、実務上の疑問点や問題点等について質疑・意見交換することによって、より円滑に文化財行政を推進させることを目的として開催した。

イ 期日及び場所

平成25年5月21日（火）本庁舎正庁

ウ 内容

(ア) 文化行政の動向

(イ) 平成25年度事業について

(ウ) 指定文化財の対応について

2 埋蔵文化財の保護の充実

(1) 埋蔵文化財保護体制

県の歴史と文化を物語る文化財や県内の遺跡への関心は、県民の中で着実に高まっており、福島県教育委員会は、埋蔵文化財（遺跡）についても保存保護のため調査体制の充実を図ってきた。平成25年度は、東日本大震災からの復旧・復興事業の埋蔵文化財調査に対応するため、他府県市教育委員

会から10名の派遣を受けて、文化財課の体制を強化した。

他府県市からの派遣

派遣期間	府　県　市　名
H25.4～H26.3	京都府、兵庫県、福岡県、沖縄県、茨城県、長野県、富山県、さいたま市
H25.4～H25.10	和歌山県
H25.12～H26.3	高知県

また、（財）福島県文化振興財団遺跡調査部においては、事業団職員22名、派遣教員5名、財団間出向職員5名、嘱託職員8名、計40名で調査にあたった。

福島県文化振興財団遺跡調査部職員数

年度	57	58	59	60	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7
人員	26	26	30	40	44	47	47	55	60	60	62	62	62	62
年度	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
人員	62	62	68	68	76	61	40	40	40	40	41	40	38	32
年度	22	23	24	25										
人員	26	25	34	40										

（平成14年度までは遺跡調査課定数）

(2)　開発事業地内の保護対策

開発事業地内の遺跡の保護は、①遺跡の所在・範囲・内容等を明らかにする「分布調査」の結果により、②事業者と遺跡を保護するための「保存協議」を行い、③現状保存ができない場合は、発掘調査により「記録保存」し、その成果を調査報告書としてまとめることで対応している。

ア　分布調査

分布調査は、開発地内の表面調査・試掘調査を行い、遺跡を保護するための情報を収集することを目的としている。

表面調査は、主要地方道いわき上三坂小野線（仮称）11haを実施した。

試掘調査は、常磐自動車道1箇所50㎡、一般国道115号相馬福島道路12箇所79,450㎡、新地町福田地区土取場（震災復興関連）2箇所18,000㎡を実施した。

イ　保存協議

昨年度の継続協議を含め、次の事業について関係機関と保存協議を実施した。

常磐自動車道、阿武隈川右岸築堤事業、阿賀川狭窄事業、会津縦貫北道路、会津縦貫南道路、一般国道115号相馬福島道路の各事業関係機関、国道・県道の工事事務所等。

ウ　発掘調査

福島県教育委員会では、開発に伴う発掘調査（記録保存調査）を（財）福島県文化振興財団に委託した。調査した遺跡は下記のとおり。

・常磐自動車道相馬工区：南狼沢遺跡（新地町）
3,100㎡

・会津縦貫北道路：西木流C遺跡他5遺跡（会津若松市）
46,100㎡

・阿武隈右岸築堤事業：トロミ遺跡（二本松市）
30,200㎡

・一般国道115号相馬福島道路：宝直館跡他6遺跡
13,900㎡

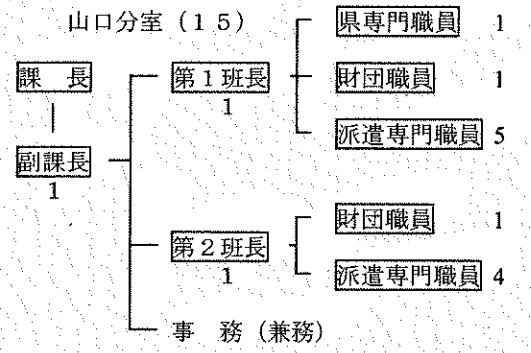
なお、県内市町村においても開発に伴う発掘調査が各市町村教育委員会によって実施しているが、遺跡の重要性や調査体制の実情に応じ、適時福島県教育委員会が指導助言している。

(3)　平成２５年度の復興事業に係る埋蔵文化財調査状況

昨年度に引き続き、県の復興調査態勢を強化し、県営ほ場再整備事業、道路改良や防災関連事業、県営施設建設に係る埋蔵文化財の分布調査から試掘、確認調査まで迅速に実施し、遅れのない復興事業計画に対応した。

また、被災市町村の復興事業に対しても、専門職員所在の有無に関わらず技術協力を実施し、復興事業の迅速化に寄与してきた。

〈平成２５年度〉復興調査体制



実施した調査は以下のとおりである。

ア　分布調査

再ほ場整備、土取り場候補地、道路改良、海岸防災林、県営建設事業等　約1,150ha

イ　試掘確認調査

再ほ場整備、土取り場候補地、道路改良、海岸防災林、災害復旧、県営建設事業　約273ha

ウ　本調査（文化振興財団委託）

農山漁村等復興基盤総合整備事業（原町第１地区）
4,000㎡相当

エ　災害復興に係る市町村技術協力

①　広野町
災害公営住宅本調査、土取り候補地分布、町道試掘、民間開発試掘

②　南相馬市
防集移転、災害公営住宅、個人住宅、工業団地造成等に係る試掘確認調査および本調査

③　浪江町
災害公営住宅関連分布。墓地移転事業に伴う試掘確認調査

④　飯舘村
土取り場に係る分布、試掘調査

⑤　楢葉町

作業員宿舎建設予定地、災害公営住宅分布調査

⑥ 大熊町

東電給食施設建設予定地協議

(4) 埋蔵文化財保護体制充実のための研修

ア 福島県文化財センター白河館文化財研修

「福島県埋蔵文化財発掘技術者研修会」を、(財) 福島県文化振興財団へ委託し、福島県文化財センター白河館研修事業とし実施している。

イ 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所埋蔵文化財担当者専門研修

平成25年度研修を受けた者は、以下のとおり。

研修名称	期 日	受 講 者
中近世城郭調査	6月17日～6月21日	白河市 1名 国見町 1名
報告書作成研修	7月10日～7月19日	猪苗代町 1名 桑折町 1名
保存科学基礎Ⅱ	10月17日～10月25日	福島県立博物館 1名

(5) 埋蔵文化財保護普及活動

平成25年度に刊行した埋蔵文化財調査報告書は以下のとおり。

ア 福島県内遺跡分布調査報告20

イ 会津縦貫北道路遺跡発掘調査報告13

ウ 阿賀川改修（長井地区）遺跡発掘調査報告3

エ 阿武隈川上流河川改修事業トロミ地区遺跡発掘調査報告書2

オ 常磐自動車道遺跡調査報告68

カ 常磐自動車道遺跡発掘調査69

キ 常磐自動車道遺跡調査報告70

(6) 市町村埋蔵文化財調査技術協力事業

この事業は、県内の市町村教育委員会が実施する埋蔵文化財発掘調査等について、市町村教育委員会からの要請により県教育委員会が埋蔵文化財の調査等に必要な技術を協力・支援する事業である。

調査等に必要な技術の協力・支援を行う職員は、県教育委員会の依頼により（財）福島県文化振興財団が選任した財団職員で、表面調査、試掘確認調査、小規模な発掘調査及び出土遺物の整理や報告書作成に関する技術の協力・支援を行う。

平成25年度の技術協力の実績は、以下のとおり。

	遺 跡 名	協 力 内 容
市町村	下高山遺跡	事前協議
北塩原村	遺跡推定地SKG-B３	事前協議・試掘調査
須賀川市	上平遺跡	試掘調査
昭和村	大平山遺跡	事前協議・試掘調査
浪江町	大倉遺跡	事前協議・試掘調査
小野町	上ノ台遺跡	報告書作成
矢祭町	宮前遺跡	現地協議
只見町	上田郷Ⅵ遺跡	事前協議・試掘調査
広野町	上町遺跡	事前協議・試掘調査
金山町	喜久田堀之内地区	表面調査
郡山市	代官所跡遺跡	事前協議
川俣町	塩生館跡	事前協議・試掘調査
下郷町	上野内遺跡	事前協議・試掘調査
矢祭町	後原遺跡	事前協議・試掘調査
矢祭町	上野内遺跡	本発掘調査
矢祭町	堂後遺跡	試掘調査
湯川村	蓬田館跡	現地協議
平田村	二本木遺跡	試掘調査
小野町	長障子遺跡	事前協議・試掘調査
国見町		

(7) 文化財センター整備事業

福島県教育委員会が財団法人福島県文化振興財団に委託して実施した発掘調査により出土した遺物の保存処理及び調査・研究については、渡利の県施設を活用し、福島県文化財センター整備事業の一機能をまかないながら実施している。主な業務として金属製品や木製品等脆弱な出土文化財の保管管理と劣化防止措置、出土した遺物の整理・梱包・搬送・文化財データベース入力を実施している。

（８） 平成２５年度開発事業に伴う試掘確認調査件数

（平成25年4月～26年3月）

No.	調査原因	県 北	県 中	県 南	会 津	南会津	相 双	いわき	計
1	道路建設	4	4	1	5		18	2	34
2	河川・ダム・空港・港湾	1					8		9
3	学校建設			1				1	2
4	その他の建物	7	7			2	4	3	23
5	宅地造成・住宅等	59	62	1	3	1	47	11	184
6	都市計画等		2		1		6	2	11
7	公園造成など				1				1
8	ゴルフ場								0
9	農業関係	2	3		1		92	1	99
10	電気・ガス・水道	4	2	1					7
11	その他	3	18	2		1	18	9	51
	計	80	98	6	11	4	193	29	421

※ 試掘確認調査件数の内訳は、県教育委員会が実施したもの138件、市町村教育委員会が実施したもの283件です。

（９） 平成２５年度発掘調査件数

（平成25年4月～26年3月）

No.	調査原因	県 北	県 中	県 南	会 津	南会津	相 双	いわき	計
1	道路建設	7	3		9		5	2	26
2	河川・ダム・空港・港湾	1							1
3	学校建設			1	1				2
4	その他の建物						1		1
5	宅地造成・住宅等	3	1	1	1		4	5	15
6	都市計画等		1		1				2
7	公園造成など								0
8	ゴルフ場								0
9	農業関係				2				2
10	電気・ガス・水道								0
11	その他	4		2			1		7
	小 計	15	5	4	14	0	11	7	56
12	史跡整備	7		1	6		1	2	17
13	学術調査		1		2				3
	合 計	22	6	5	22	0	12	9	76

※ 発掘調査件数の内訳は、県教育委員会が実施したもの16件、市町村教育委員会が実施したもの56件、大学等研究機関が実施したもの3件です。

※ 史跡整備等には、史跡整備・遺跡整備・保存目的の範囲内容確認調査が含まれます。

※ 開発に伴う事前協議のための試掘確認調査は含まれていません。

(10)平成25年度開発事業に伴う試掘調査(周知の遺跡)

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
1	北五老内遺跡	福島市北五老内町	福島市教委	4月 9日 ～ 4月 9日	461 ㎡	10 ㎡	奈良・平安	散布地	その他開発
2	本内館跡	福島市本内館	福島市教委	4月 10日 ～ 4月 12日	406 ㎡	20 ㎡	中世	城館跡	宅地造成
3	宮代館跡	福島市宮代字一本木	福島市教委	4月 11日 ～ 4月 15日	782 ㎡	20 ㎡	奈良・平安	城館跡・集落	住宅
4	本内館跡	福島市本内館	福島市教委	4月 23日 ～ 4月 26日	419 ㎡	20 ㎡	中世	城館跡	住宅
5	勝口前畑遺跡	福島市八島田字勝口	福島市教委	4月 25日 ～ 5月 1日	935 ㎡	10 ㎡	弥生・江戸	集落跡	個人住宅
6	本内館跡	福島市本内字南古館	福島市教委	5月 7日 ～ 5月 10日	234 ㎡	5 ㎡	中世	城館跡	個人住宅
7	腰浜廃寺跡	福島市腰浜町	福島市教委	5月 7日	335 ㎡	12 ㎡	平安	社寺跡	個人住宅
8	沖町遺跡	福島市渡利字番匠町	福島市教委	5月 14日 ～ 5月 23日	1,000 ㎡	40 ㎡	縄文・弥生・平安	散布地・集落	住宅
9	塚越遺跡	福島市大森字塚越	福島市教委	5月 15日 ～ 5月 15日	186 ㎡	2 ㎡	奈良・平安	散布地	個人住宅
10	杉ノ内遺跡	福島市鳥谷野字杉ノ内	福島市教委	6月 19日 ～ 6月 28日	1,396 ㎡	120 ㎡	縄文・平安	散布地・集落	宅地造成
11	仙台内遺跡	福島市松川町水原字仙台内	福島市教委	6月 24日 ～ 7月 1日	196 ㎡	20 ㎡	縄文	散布地	道路
12	梅ノ木内B遺跡	福島市鳥谷野字梅ノ木	福島市教委	7月 8日 ～ 7月 11日	1,137 ㎡	6 ㎡	平安	集落跡	個人住宅
13	台畑遺跡	福島市丸子字四反田	福島市教委	7月 16日 ～ 8月 30日	2,122 ㎡	138 ㎡	縄文・平安	散布地・集落	宅地造成
14	勝口前畑遺跡	福島市野田町字加賀屋敷	福島市教委	7月 22日	243 ㎡	2 ㎡	弥生～江戸時代	集落跡・水田跡	その他開発
15	福島城跡	福島市上町 他	福島市教委	7月 29日 ～ 1月 20日	6,452 ㎡	257 ㎡	中世～近世	城館跡	その他建物
16	腰浜廃寺跡	福島市腰浜町	福島市教委	8月 7日 ～ 8月 12日	150 ㎡	1 ㎡	古墳、平安	社寺跡	個人住宅
17	勝口前畑遺跡	福島市野田町字道端	福島市教委	8月 19日 ～ 8月 24日	248 ㎡	2 ㎡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・	集落跡・その他の生産遺跡	個人住宅
18	上岡遺跡	福島市飯坂町東湯野字上岡	福島市教委	8月 29日 ～ 8月 29日	723 ㎡	11 ㎡	縄文・平安	散布地・集落跡	その他建物
19	一人子遺跡	福島市松川町字一人子	福島市教委	9月 3日 ～ 9月 6日	396 ㎡	8 ㎡	縄文・奈良・平安	散布地	個人住宅
20	杉ノ内遺跡	福島市鳥谷野字宮畑	福島市教委	9月 9日 ～ 9月 13日	334 ㎡	14 ㎡	縄文・平安	散布地・集落	住宅
21	原B遺跡	福島市松川町字西谷地、原	福島市教委	9月 19日 ～ 9月 20日	178 ㎡	2 ㎡	縄文・奈良・平安	散布地	個人住宅
22	屋ノ内遺跡	福島市黒岩字八郎内	福島市教委	9月 24日 ～ 9月 27日	337 ㎡	14 ㎡	縄文・弥生・平安・近世	散布地・集落	個人住宅
23	山ノ下遺跡	福島市渡利字大久保	福島市教委	9月 30日 ～ 10月 4日	431 ㎡	8 ㎡	弥生・奈良・平安	散布地	個人住宅
24	勝口前畑遺跡	福島市野田町字中ノ町	福島市教委	10月 3日 ～ 10月 4日	242 ㎡	1 ㎡	弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世	散布地・集落	個人住宅
25	福島城跡	福島市杉妻町	福島市教委	10月 4日 ～ 10月 10日	1,200 ㎡	6 ㎡	近世	城館跡	その他建物
26	宿地遺跡	福島市松川町字町端	福島市教委	10月 15日 ～ 10月 17日	276 ㎡	12 ㎡	縄文・奈良・平安	散布地	個人住宅
27	本内館跡	福島市本内字館 本内字西井戸神	福島市教委	10月 17日 ～ 10月 23日	619 ㎡	5 ㎡	中世	城館跡	個人住宅
28	原B遺跡	福島市松川町西谷地	福島市教委	10月 21日 ～ 10月 22日	190 ㎡	3 ㎡	縄文・奈良・平安	散布地	個人住宅
29	北五老内遺跡	福島市旭町	福島市教委	10月 28日 ～ 11月 7日	1,666 ㎡	48 ㎡	奈良・平安	郡衙跡？	住宅
30	椿館跡	福島市渡利字後田	福島市教委	11月 5日	827 ㎡	6 ㎡	中世	城館	その他開発
31	福島城跡	福島市杉妻町	福島市教委	11月 18日 ～ 12月 19日	1,500 ㎡	177 ㎡	近世	城館跡	その他建物

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
32	本内館跡	福島市本内字舘	福島市教委	12月 12日 ～ 12月 13日	314 ㎡	12 ㎡	中世	城館跡	個人住宅
33	平舘跡	福島市松川町向町	福島市教委	1月 14日 ～ 1月 18日	512 ㎡	10 ㎡	不明	城館跡	個人住宅
34	暮坪湯ノ上遺跡	福島市飯坂町字湯野西畑	福島市教委	1月 16日 ～ 1月 17日	180 ㎡	14 ㎡	縄文・平安・近世	散布地・集落	住宅
35	腰浜廃寺跡	福島市腰浜町	福島市教委	1月 28日	143 ㎡	1 ㎡	奈良・平安	寺院跡	個人住宅
36	福島城跡	福島市杉妻町	福島市教委	2月 24日 ～ 3月 18日	3,000 ㎡	150 ㎡	近世	城館跡	その他建物
37	沖町遺跡	福島市渡利字沖町	福島市教委	3月 4日 ～ 3月 6日	699 ㎡	30 ㎡	縄文時代・弥生時代・平安時代	散布地・集落跡	住宅
38	南諏訪原遺跡	福島市松川町字木曽内	福島市教委	3月 10日 ～ 3月 11日	225 ㎡	12 ㎡	縄文・奈良・平安	集落跡	個人住宅
39	台畑遺跡	福島市南矢野目字台畑	福島市教委	3月 12日 ～ 3月 20日	556 ㎡	20 ㎡	縄文・平安	散布地・集落	個人住宅
40	宮代館跡	福島市宮代字屋敷畑	福島市教委	3月 25日 ～ 3月 31日	326 ㎡	72 ㎡	奈良・平安	城館跡・集落	住宅
41	暮坪湯ノ上遺跡	福島市飯坂町湯野字暮坪	福島市教委	3月 25日 ～ 3月 31日	953 ㎡	42 ㎡	縄文	散布地	住宅
42	柳ノ目遺跡	桑折町大字伊達崎字西柳ノ目、東柳ノ目	桑折町教委	11月 14日	58,000 ㎡	10 ㎡	古墳、奈良、平安	散布地	個人住宅
43	金秀寺遺跡(4次)	伊達市字雪車町	伊達市教委	5月 14日	220 ㎡	3 ㎡	縄文中期 平安	散布地	個人住宅
44	梁川城跡(26次)	伊達市梁川町梁川字菖蒲沢	伊達市教委	5月 16日	60 ㎡	2 ㎡	中世	城館跡	個人住宅
45	山城舘東遺跡(2次)	伊達市梁川町字山城舘	伊達市教委	5月 27日 ～ 5月 29日	3,500 ㎡	51 ㎡	奈良～近世	散布地	認定こども園
46	梁川城跡(27次)	伊達市梁川町梁川字鶴ヶ丘.	伊達市教委	6月 20日	198 ㎡	1 ㎡	中世	城館跡	個人住宅
47	高屋敷遺跡	伊達市霊山町下小国字高屋敷	伊達市教委	8月 2日 ～ 8月 9日	527 ㎡	11 ㎡	縄文・奈良	散布地	個人住宅
48	根田館跡(2次)	伊達市字沢田	伊達市教委	8月 19日 ～ 8月 20日	278 ㎡	3 ㎡	中世	城館跡	個人住宅
49	金秀寺遺跡(5次)	伊達市字中畑	伊達市教委	8月 21日 ～ 8月 27日	1,034 ㎡	11 ㎡	縄文中期 平安	散布地	宅地造成
50	院主遺跡(1次)	伊達市霊山町大石字院主	伊達市教委	9月 10日	32 ㎡	3 ㎡	縄文	散布地	アンテナ建設
51	早稲田遺跡	伊達市保原町字早稲田	伊達市教委	9月 17日 ～ 9月 19日	2,634 ㎡	20 ㎡	古墳～平安	散布地	宅地造成
52	小作逢遺跡	伊達市保原町大泉字小作逢	伊達市教委	11月 7日 ～ 11月 8日	231 ㎡	16 ㎡	古墳～平安	散布地	個人住宅
53	深田遺跡	伊達市月舘町御代田字深田	伊達市教委	12月 11日	621 ㎡	9 ㎡	古墳～平安	散布地	個人住宅
54	町谷川遺跡(4次)	伊達市梁川町字北町谷川	伊達市教委	12月 24日	258 ㎡	10 ㎡	縄・平・近	散布地	個人住宅
55	荒屋敷遺跡	伊達市伏黒字上大川	伊達市教委	1月 7日	55 ㎡	7 ㎡	古墳～中世	散布地	個人住宅
56	梁川城跡(29次)	伊達市梁川町梁川字桜岳	伊達市教委	1月 15日 ～ 1月 17日	3 ㎡	1 ㎡	中世	城館跡	アンテナ建設
57	山崎城跡	国見町大字山崎字舘	国見町教委	6月 25日 ～ 6月 26日	1,248 ㎡	18 ㎡	中世	城館跡	個人住宅
58	東大窪館跡	国見町大字高城字前	国見町教委	9月 27日	3,259 ㎡	28 ㎡	中世	城館跡	個人住宅
59	長障子遺跡	国見町大字貝田字長障子	国見町教委	2月 25日 ～ 3月 13日	15,000 ㎡	550 ㎡	縄文	散布地	ほ場整備事業
60	二本松城跡	二本松市郭内	二本松市教委	5月 21日 ～ 5月 23日	204 ㎡	30 ㎡	中世～近世	城館跡	個人住宅
61	上竹遺跡	二本松市上竹	二本松市教委	5月 24日 ～ 5月 27日	374 ㎡	40 ㎡	縄文 奈良～平安	散布地	個人住宅

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
62	郡山台遺跡	二本松市郡山台	二本松市教委	5月 28日 ～ 5月 30日	163 ㎡	18 ㎡	奈良～平安	集落跡 官衙跡	住宅
63	二本松城跡	二本松市郭内	二本松市教委	6月 12日 ～ 6月 25日	428 ㎡	42 ㎡	中世～近世	城館跡	住宅
64	下田B遺跡	二本松市戸沢字下田	二本松市教委	7月 8日 ～ 7月 19日	2,697 ㎡	142 ㎡	縄文	散布地	河川
65	原瀬上原遺跡	二本松市原セ日照田	二本松市教委	10月 8日 ～ 10月 9日	99 ㎡	36 ㎡	縄文	集落跡	その他建物 (集会所)
66	星内遺跡	大玉村玉井字星内	大玉村教委	4月 16日	381 ㎡	77 ㎡	縄文～平安	散布地	個人住宅
67	稲荷免遺跡	大玉村大山字大畑	大玉村教委	6月 11日	521 ㎡	106 ㎡	古墳・奈良	散布地	個人住宅
68	二子塚古墳	大玉村大山字二子塚	大玉村教委	6月 20日	110 ㎡	17 ㎡	古墳	古墳	側溝敷設
69	行屋遺跡	大玉村大山字荒久	大玉村教委	8月 21日 ～ 8月 21日	336 ㎡	64 ㎡	弥生～奈良	散布地	個人住宅
70	金山古墳	大玉村大山字宮ノ下	大玉村教委	10月 17日 ～ 10月 29日	274 ㎡	46 ㎡	古墳	古墳	個人住宅
71	星内遺跡	大玉村玉井字星内	大玉村教委	12月 25日	803 ㎡	70 ㎡	縄文～平安	散布地	駐車場造成
72	金山古墳	大玉村大山字宮ノ下	大玉村教委	3月 11日	495 ㎡	71 ㎡	古墳	古墳	個人住宅
73	北ノ脇遺跡	本宮市高木字北ノ脇	本宮市教委	6月 14日	475 ㎡	41 ㎡	縄文・平安	集落跡	住宅
74	恵畑遺跡	本宮市荒井字上恵畑	本宮市教委	7月 10日	1,355 ㎡	60 ㎡	縄文・平安	集落跡	ガス
75	高木遺跡	本宮市高木字高木	本宮市教委	3月 10日	180 ㎡	16 ㎡	縄文・平安	集落跡	個人住宅
76	西原遺跡群	郡山市富田町字若木下	郡山市教委	4月 15日	200 ㎡	11 ㎡	縄文・ 古墳～平安	散布地	個人住宅
77	横塚二丁目遺跡	郡山市横塚	郡山市教委	4月 16日	263 ㎡	11 ㎡	縄文・平安	散布地	個人住宅
78	皆屋敷遺跡	郡山市鬼生田字新田	郡山市教委	4月 17日	863 ㎡	17 ㎡	縄文・奈良 平安・中世	散布地	個人住宅
79	阿久戸遺跡	郡山市町東一丁目	郡山市教委	4月 19日	543 ㎡	9 ㎡	弥生～平安	散布地	住宅
80	阿久戸遺跡	郡山市町東三丁目	郡山市教委	4月 19日	99 ㎡	9 ㎡	弥生～平安	散布地	個人住宅
81	清水台遺跡	郡山市清水台二丁目	郡山市教委	4月 22日	292 ㎡	15 ㎡	奈良・平安	官衙跡	個人住宅
82	鳴神・柿内戸遺跡	郡山市富久山町福原字神明	郡山市教委	4月 23日	765 ㎡	28 ㎡	縄文～平安	散布地	住宅
83	虎丸遺跡	郡山市神明町	郡山市教委	4月 24日	107 ㎡	17 ㎡	縄文・ 奈良～平安	散布地	住宅
84	大久保遺跡	郡山市富久山町久保田字乙高	郡山市教委	4月 26日	1,014 ㎡	24 ㎡	縄文	散布地	その他開発
85	向館跡	郡山市富田町字下西田	郡山市教委	5月 7日	647 ㎡	33 ㎡	中世	城館跡	宅地造成
86	清水台遺跡	郡山市赤木町	郡山市教委	5月 8日	320 ㎡	16 ㎡	奈良・平安	官衙跡	その他開発
87	清水台遺跡	郡山市咲田二丁目	郡山市教委	5月 9日	723 ㎡	5 ㎡	奈良・平安	官衙跡	住宅
88	咲田遺跡	郡山市咲田一丁目	郡山市教委	5月 14日	380 ㎡	8 ㎡	縄文・平安	散布地	個人住宅
89	南田遺跡	郡山市富久山町久保田字南田	郡山市教委	5月 16日	607 ㎡	26 ㎡	古墳	散布地	宅地造成
90	堀切西遺跡	郡山市大槻町字堀切	郡山市教委	5月 17日	155 ㎡	5 ㎡	奈良・平安	散布地	個人住宅
91	大久保遺跡	郡山市富久山町久保田字乙高	郡山市教委	5月 24日	1,014 ㎡	24 ㎡	縄文	散布地	その他開発

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
92	徳定A・B遺跡	郡山市田村町徳定字下北田	郡山市教委	6月 4日	215 ㎡	8 ㎡	縄文～平安	散布地	個人住宅
93	阿久戸遺跡	郡山市町東2丁目	郡山市教委	6月 5日	388 ㎡	14 ㎡	弥生～平安	散布地	住宅
94	明覚寺跡	郡山市安積町笹川字四角垣	郡山市教委	6月 7日	385 ㎡	9 ㎡	中世	社寺跡	個人住宅
95	恩田遺跡	郡山市富久山町久保田字水口	郡山市教委	6月 10日	161 ㎡	8 ㎡	古墳～平安	散布地	宅地造成
96	後田A遺跡	郡山市阿久津町字後田	郡山市教委	6月 11日	169 ㎡	9 ㎡	平安	散布地	ガス・電気・水道等
97	守山城跡	郡山市田村町守山字殿町	郡山市教委	6月 13日	1,511 ㎡	46 ㎡	中世	城館跡	住宅
98	原ノ町遺跡	郡山市大槻町字普門寺坦	郡山市教委	6月 17日	222 ㎡	5 ㎡	古墳～平安	散布地	個人住宅
99	咲田遺跡	郡山市神明町	郡山市教委	6月 20日	228 ㎡	8 ㎡	縄文・平安	散布地	個人住宅
100	水神山遺跡	郡山市富久山町久保田字久保田	郡山市教委	6月 24日	425 ㎡	11 ㎡	縄文	散布地	個人住宅
101	曲木沢遺跡	郡山市西田町根木屋字曲木沢	郡山市教委	6月 25日	209 ㎡	7 ㎡	縄文・平安・近世	散布地	個人住宅
102	水見台遺跡	郡山市桜木二丁目	郡山市教委	6月 26日	331 ㎡	14 ㎡	縄文・奈良～平安	散布地	住宅
103	水見台遺跡	郡山市桜木二丁目	郡山市教委	6月 27日	143 ㎡	8 ㎡	縄文・奈良～平安	散布地	その他開発
104	新屋敷遺跡	郡山市新屋敷一丁目	郡山市教委	7月 2日	961 ㎡	48 ㎡	奈良・平安	散布地	住宅
105	弥明遺跡	郡山市田村町岩作字小人町	郡山市教委	7月 9日	827 ㎡	13 ㎡	旧石器・弥生奈良・平安	散布地	個人住宅
106	大久保遺跡	郡山市富久山町久保田字乙高	郡山市教委	7月 10日	268 ㎡	11 ㎡	縄文	散布地	住宅
107	島二丁目遺跡	郡山市島二丁目	郡山市教委	7月 11日	397 ㎡	12 ㎡	古墳～平安	散布地	その他建物
108	古町遺跡	郡山市富久山町久保田字古町	郡山市教委	7月 23日	371 ㎡	15 ㎡	古墳～平安	散布地	その他開発
109	西原遺跡	郡山市富久山町福原字町田	郡山市教委	7月 24日	30 ㎡	3 ㎡	縄文・奈良～平安	散布地	ガス・電気・水道等
110	大槻城跡	郡山市大槻町字北寺	郡山市教委	7月 30日	380 ㎡	32 ㎡	中世	城館跡	その他開発
111	恩田遺跡	郡山市富久山町久保田字山王舘	郡山市教委	8月 2日	392 ㎡	17 ㎡	古墳～平安	散布地	その他開発
112	成山館跡	郡山市成山町	郡山市教委	8月 5日	952 ㎡	37 ㎡	中世	城館跡	その他開発
113	八雲遺跡	郡山市荒井字八雲	郡山市教委	8月 6日	839 ㎡	21 ㎡	古墳～平安	散布地	宅地造成
114	八雲遺跡	郡山市荒井字畑田	郡山市教委	8月 7日	410 ㎡	12 ㎡	古墳～平安	散布地	その他開発
115	柴宮山古墳群	郡山市安積町荒井字柴宮山	郡山市教委	8月 19日 ～ 8月 21日	2,638 ㎡	117 ㎡	古墳	古墳	個人住宅
116	十文字遺跡	郡山市富田町字十文字	郡山市教委	8月 22日	395 ㎡	11 ㎡	古墳～平安	散布地	個人住宅
117	咲田遺跡	郡山市咲田一丁目	郡山市教委	8月 26日	1,260 ㎡	180 ㎡	縄文・平安	散布地	個人住宅
118	恩田遺跡	郡山市富久山町久保田字水口	郡山市教委	8月 29日	347 ㎡	20 ㎡	古墳～平安	散布地	住宅
119	守山城跡	郡山市田村町守山字中町	郡山市教委	9月 10日	443 ㎡	9 ㎡	中世	城館跡	個人住宅
120	鳴神・柿内戸遺跡	郡山市富久山町福原字鳴神	郡山市教委	9月 11日 ～ 9月 12日	1,260 ㎡	71 ㎡	縄文～平安	散布地	その他開発
121	上之内遺跡	郡山市富久山町福原字陣場	郡山市教委	9月 13日	540 ㎡	15 ㎡	平安	散布地	宅地造成

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
122	大善寺古墳群	郡山市田村町大善寺字上野	郡山市教委	9月 17日	356 ㎡	14 ㎡	古墳	古墳	個人住宅
123	鳴神・柿内戸遺跡	郡山市富久山町福原字町田	郡山市教委	9月 18日	640 ㎡	20 ㎡	縄文～平安	散布地	住宅
124	向館跡	郡山市富田町字館南	郡山市教委	9月 20日	308 ㎡	17 ㎡	中世	城館跡	住宅
125	並木遺跡	郡山市桑野五丁目	郡山市教委	9月 25日	286 ㎡	12 ㎡	縄文・平安	散布地	個人住宅
126	阿弥陀壇古墳群	郡山市堤一丁目	郡山市教委	10月 2日	594 ㎡	24 ㎡	古墳	古墳	個人住宅
127	水神山遺跡	郡山市富久山町久保田字水神山	郡山市教委	10月 8日	206 ㎡	3 ㎡	縄文	散布地	個人住宅
128	清水台遺跡	郡山市赤木町	郡山市教委	10月 10日	770 ㎡	72 ㎡	奈良・平安	官衛跡	宅地造成
129	水神山遺跡	郡山市富久山町久保田字水神山	郡山市教委	10月 24日	1,170 ㎡	15 ㎡	縄文	散布地	個人住宅
130	水見台遺跡	郡山市桜木二丁目	郡山市教委	10月 30日	463 ㎡	39 ㎡	縄文・奈良～平安	散布地	その他開発
131	堀切西遺跡	郡山市大槻町字堀切西	郡山市教委	11月 1日	652 ㎡	17 ㎡	奈良・平安	散布地	住宅
132	鳴神・柿内戸遺跡	郡山市富久山町福原字西原	郡山市教委	11月 5日	1,025 ㎡	60 ㎡	縄文～平安	散布地	その他開発
133	上野山遺跡	郡山市水門町	郡山市教委	11月 6日	968 ㎡	41 ㎡	平安	散布地	その他開発
134	萩平遺跡	郡山市中田町高倉字萩平	郡山市教委	11月 8日	198 ㎡	18 ㎡	平安	散布地	個人住宅
135	南田遺跡	郡山市富久山町久保田字南田	郡山市教委	11月 21日	560 ㎡	45 ㎡	古墳	散布地	宅地造成
136	中台遺跡	郡山市富久山町久保田字宮田	郡山市教委	12月 19日	1,999 ㎡	54 ㎡	古墳～平安	散布地	宅地造成
137	東笹原遺跡	郡山市笹川一丁目	郡山市教委	12月 24日	147 ㎡	8 ㎡	弥生	散布地	個人住宅
138	南田遺跡	郡山市富久山町久保田字南田	郡山市教委	12月 25日	380 ㎡	24 ㎡	古墳	散布地	個人住宅
139	西原遺跡群	郡山市富田町字町畑	郡山市教委	12月 26日	482 ㎡	24 ㎡	縄文・古墳～平安	散布地	住宅
140	南田遺跡	郡山市富久山町久保田字南田	郡山市教委	1月 8日	932 ㎡	17 ㎡	古墳	散布地	個人住宅
141	並木遺跡	郡山市並木三丁目	郡山市教委	1月 9日	549 ㎡	8 ㎡	縄文・平安	散布地	その他建物
142	西原遺跡群	郡山市富田町字町畑	郡山市教委	1月 14日	316 ㎡	9 ㎡	縄文・古墳～平安	散布地	個人住宅
143	御前遺跡	郡山市静町	郡山市教委	1月 17日	245 ㎡	12 ㎡	奈良・平安	散布地	個人住宅
144	妙見館跡	郡山市片平町字妙見舘	郡山市教委	1月 21日	4,022 ㎡	47 ㎡	中世	城館跡	その他建物
145	中野遺跡	郡山市大槻町字下町東	郡山市教委	1月 22日	165 ㎡	11 ㎡	奈良	散布地	個人住宅
146	堀之内館跡	郡山市喜久田町堀之内	郡山市教委	1月 27日 ～ 1月 29日	10,000 ㎡	187 ㎡	中世	城館跡	農業基盤整備
147	上野山遺跡	郡山市水門町	郡山市教委	1月 30日	476 ㎡	18 ㎡	平安	散布地	個人住宅
148	虎丸遺跡	郡山市虎丸町	郡山市教委	1月 31日	825 ㎡	23 ㎡	縄文・奈良～平安	散布地	住宅
149	恩田遺跡	郡山市富久山町久保田字久保田	郡山市教委	2月 3日	199 ㎡	17 ㎡	古墳～平安	散布地	個人住宅
150	堀切西遺跡	郡山市大槻町字八坦	郡山市教委	2月 4日	609 ㎡	17 ㎡	奈良・平安	散布地	住宅
151	高瀬遺跡	郡山市笹川3丁目	郡山市教委	2月 7日	463 ㎡	14 ㎡	平安	散布地	その他開発

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
152	鳴神・柿内戸遺跡	郡山市富久山町福原字柿内戸	郡山市教委	3月 11日	192 ㎡	11 ㎡	縄文～平安	散布地	その他開発
153	六斗蒔遺跡	郡山市喜久田町堀之内字柴河原	郡山市教委	3月 18日 ～ 3月 19日	3,000 ㎡	86 ㎡	弥生	散布地	農業基盤整備
154	原ノ町遺跡	郡山市大槻町字西宮前	郡山市教委	3月 24日	304 ㎡	24 ㎡	古墳～平安	散布地	その他開発
155	大根畑遺跡	郡山市久留米一丁目	郡山市教委	3月 25日	261 ㎡	10 ㎡	縄文・古墳～平安	散布地	その他開発
156	愛宕遺跡	郡山市富久山町久保田字愛宕	郡山市教委	3月 26日	534 ㎡	4 ㎡	奈良	散布地	個人住宅
157	徳玄遺跡	須賀川市稲字徳玄	須賀川市教委	5月 7日 ～ 5月 21日	12,850 ㎡	444 ㎡	中世	塚・散布地	国道建設
158	高木遺跡	須賀川市浜尾字高木	須賀川市教委	11月 21日 ～ 12月 4日	32,000 ㎡	1,364 ㎡	奈良・平安	散布地・集落跡	遊水地掘削
159	十日山館跡	須賀川市東町	須賀川市教委	11月 29日	60 ㎡	8 ㎡	中世・近世	城館跡	個人住宅
160	上人壇廃寺跡	須賀川市上人坦	須賀川市教委	1月 28日	1,500 ㎡	46 ㎡	奈良・平安	寺院跡	個人住宅
161	須賀川城跡	須賀川市八幡町	須賀川市教委	4月 22日	23,448 ㎡	53 ㎡	近世	城館跡	市役所建設
162	須賀川城跡	須賀川市八幡町	須賀川市教委	6月 24日	23,448 ㎡	40 ㎡	近世	城館跡	市役所建設
163	広瀬立石遺跡	田村市滝根町広瀬字矢大臣	田村市教委	4月 16日	190 ㎡	10 ㎡	縄文	散布地	鉄塔移設工事
164	持藤田A遺跡	田村市都路町岩井沢字持藤田	田村市教委	4月 17日	305 ㎡	20 ㎡	縄文・弥生・奈良～平安	散布地	携帯電話無線基地局建設
165	大木A遺跡	田村市大越町牧野字大木	田村市教委	12月 3日	500 ㎡	20 ㎡	縄文・奈良～平安	散布地	スマートIC建設
166	牧野堀ノ内遺跡	田村市大越町牧野字堀ノ内	田村市教委	12月 4日	900 ㎡	20 ㎡	縄文・弥生・奈良～近世	散布地	スマートIC建設
167	大倉遺跡	小野町大字小野新町字愛宕	小野町教委	8月 27日 ～ 8月 28日	2,400 ㎡	65 ㎡	縄文	散布地	除染土仮置き場
168	二本木遺跡	小野町大字飯豊字二本木	小野町教委	12月 19日	60 ㎡	8 ㎡	古墳・奈良・平安	散布地	通信基地局
169	三森遺跡	白河市表郷三森浅井月桜	白河市教委	12月 24日	6 ㎡	3 ㎡	弥生・古墳・平安	散布地・集落跡	東屋建設
170	田内C遺跡	矢吹町田内	矢吹町教委	3月 25日	4,150 ㎡	0 ㎡	古墳・奈良	散布地	太陽光発電
171	後原遺跡	矢祭町大字下関河内字後原	矢祭町教委	10月 2日	700 ㎡	0 ㎡	縄文	散布地	国道改良
172	上野内遺跡	矢祭町大字東舘字上野内	矢祭町教委	9月 24日 ～ 9月 27日	2,100 ㎡	0 ㎡	弥生～平安・中世	散布地	学校建設
173	棚倉城跡	棚倉町大字棚倉字城跡	棚倉町教委	7月 26日	200 ㎡	12 ㎡	近世	城館跡	個人住宅
174	棚倉城跡	棚倉町大字棚倉字城跡	棚倉町教委	12月 16日 ～ 1月 23日	20 ㎡	3 ㎡	近世	城館跡	街路灯設置
175	渋井館跡	喜多方市豊川町一井字前田	喜多方市教委	10月 31日 ～ 12月 13日	2,145 ㎡	217 ㎡	中世	城館跡	市道改良
176	大門遺跡	会津坂下町大字塔寺字大門	会津坂下町教委	4月 25日 ～ 6月 28日	12,000 ㎡	215 ㎡	縄文・弥生・平安・中世	散布地	公園造成
177	中平遺跡	会津坂下町大字津尻字中平	会津坂下町教委	10月 21日 ～ 10月 25日	49,600 ㎡	9 ㎡	縄文・弥生・平安	集落跡	農業基盤整備
178	殿田遺跡	湯川村大字清水田字長瀞甲	湯川村教委	5月 27日 ～ 5月 29日	1,856 ㎡	336 ㎡	縄文 奈良・平安	集落跡	役場新庁舎建設
179	殿田遺跡	湯川村大字清水田字長瀞甲	湯川村教委	11月 17日 ～ 11月 30日	10,587 ㎡	226 ㎡	縄文 奈良・平安	集落跡	定住化促進事業に伴う宅地造成
180	堂後遺跡	湯川村大字勝常字堂後	湯川村教委	11月 5日 ～ 11月 8日	336 ㎡	60 ㎡	縄文・弥生古代～近世	散布地	農道改良舗装工事
181	浜崎城跡	湯川村大字浜崎字北殿町	湯川村教委	11月 25日 ～ 11月 27日	230 ㎡	163 ㎡	中世・近世	城館跡	個人住宅建設
182	下野街道	会津美里町氷玉	会津美里町教委	1月 16日 ～ 3月 10日	10 ㎡	10 ㎡	近世	その他	県道建設
183	上町遺跡	金山町大字川口	金山町教委	9月 10日 ～ 9月 11日	400 ㎡	40 ㎡	縄文	散布地	町営住宅
184	上平遺跡	昭和村大字下中津川字上平	昭和村教委	6月 3日 ～ 6月 4日	330 ㎡	15 ㎡	縄文	散布地	道路改良
185	塩生館跡	下郷町大字塩生字前原 他	下郷町教委	11月 11日 ～ 11月 15日	5,730 ㎡	348 ㎡	中世	城館跡	町営住宅

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
186	宮前遺跡	只見町大字只見字雨堤	只見町教委	6月 25日 ～ 8月 19日	8,000 ㎡	548 ㎡	縄文・弥生	散布地	その他建物
187	熊倉館跡	只見町大字熊倉字宮ノ前	只見町教委	7月 29日	400 ㎡	38 ㎡	中世	城館跡	その他開発
188	北原遺跡	相馬市椎木字北原	相馬市教委	7月 4日	750 ㎡	85 ㎡	縄文・奈良・平安	散布地	個人住宅
189	西畑遺跡	相馬市大坪字西畑	相馬市教委	7月 5日	458 ㎡	45 ㎡	奈良・平安	散布地	個人住宅
190	北原遺跡	相馬市塚部字本社 他	相馬市教委	8月 23日	1,214 ㎡	69 ㎡	縄文・奈良・平安	散布地	個人住宅
191	観音前C遺跡	相馬市新沼字観音前	相馬市教委	8月 26日	228 ㎡	9 ㎡	古墳～平安	散布地	個人住宅
192	飯淵古館跡	相馬市北飯淵	相馬市教委	11月 13日 ～ 11月 15日	153 ㎡	17 ㎡	中世	城館跡	個人住宅
193	北原遺跡	相馬市塚部字新城下 他	相馬市教委	12月 2日 ～ 12月 3日	5,789 ㎡	202 ㎡	縄文・奈良・平安	散布地	駐車場
194	中村城跡	相馬市中村字北原	相馬市教委	1月 23日	232,131 ㎡	9 ㎡	中世・近世	城館跡	庁舎建設
195	谷地小屋要害遺跡	新地町谷地小屋	新地町教委	4月 15日 ～ 6月 28日	200 ㎡	2,000 ㎡	近世	要害	震災に伴う駅前開発
196	八幡林遺跡	南相馬市鹿島区寺内字八幡林	南相馬市教委	4月 11日	160 ㎡	1 ㎡	縄文～古墳	集落・古墳	個人住宅
197	高見町B遺跡	南相馬市原町区高見町	南相馬市教委	4月 17日	273 ㎡	16 ㎡	縄文～平安	散布地	個人住宅
198	桜井B遺跡	南相馬市原町区上渋佐字原田	南相馬市教委	4月 17日 ～ 4月 19日	915 ㎡	48 ㎡	弥生～平安	散布地	個人住宅
199	高見町B遺跡	南相馬市原町区高見町	南相馬市教委	4月 17日	566 ㎡	18 ㎡	縄文～平安	散布地	個人住宅
200	大谷地遺跡	南相馬市鹿島区寺内字大谷地	南相馬市教委	4月 24日 ～ 5月 2日	1,194 ㎡	90 ㎡	縄文	散布地	個人住宅
201	東町遺跡	南相馬市原町区東町	南相馬市教委	4月 19日 ～ 5月 16日	44,131 ㎡	175 ㎡	縄文	散布地	防災集団移転
202	桜井D遺跡	南相馬市原町区上渋佐字原田	南相馬市教委	4月 4日 ～ 4月 10日	329 ㎡	20 ㎡	弥生～平安	集落	個人住宅
203	八幡林遺跡	南相馬市鹿島区寺内字八幡林	南相馬市教委	5月 17日	291 ㎡	10 ㎡	縄文～古墳	集落	個人住宅
204	小島田館跡	南相馬市鹿島区小島田字東立	南相馬市教委	5月 22日 ～ 5月 24日	840 ㎡	30 ㎡	中世	城館跡	個人住宅
205	桜井D遺跡	南相馬市原町区上渋佐字原田	南相馬市教委	5月 13日 ～ 5月 15日	931 ㎡	20 ㎡	弥生～平安	集落	個人住宅
206	八幡林遺跡	南相馬市鹿島区寺内字八幡林	南相馬市教委	5月 28日 ～ 6月 25日	1,051 ㎡	92 ㎡	縄文～古墳	集落・古墳	個人住宅
207	桜井原畑遺跡	南相馬市桜井町	南相馬市教委	6月 6日	20 ㎡	264 ㎡	縄文～平安	散布地	賃貸住宅
208	桜井B遺跡	南相馬市原町区上渋佐字原田	南相馬市教委	6月 20日 ～ 6月 21日	200 ㎡	18 ㎡	弥生～平安	散布地	個人住宅
209	原山遺跡	南相馬市原町区上渋佐字原山	南相馬市教委	6月 21日 ～ 7月 8日	8,368 ㎡	200 ㎡	弥生～平安	集落・古墳	事務所建設
210	脇遺跡	南相馬市原町区北泉字脇	南相馬市教委	7月 1日 ～ 7月 19日	7,196 ㎡	200 ㎡	弥生～平安	散布地	土砂採取
211	東町遺跡	南相馬市原町区東町1丁目	南相馬市教委	7月 23日	376 ㎡	20 ㎡	縄文	散布地	共同住宅
212	桜井D遺跡	南相馬市原町区上渋佐字原田	南相馬市教委	8月 1日	421 ㎡	10 ㎡	弥生～平安	集落	個人住宅
213	八郎内遺跡	南相馬市鹿島区西町3丁目	南相馬市教委	8月 2日	689 ㎡	11 ㎡	古墳～平安	散布地	個人住宅
214	横手窪寺跡	南相馬市鹿島区横手字御所内	南相馬市教委	6月 17日 ～ 2月 18日	1,456 ㎡	97 ㎡	古墳～平安	寺社跡散布地	個人住宅
215	原山遺跡	南相馬市原町区上渋佐字原山	南相馬市教委	8月 27日 ～ 9月 6日	500 ㎡	71 ㎡	弥生～平安	集落・古墳	個人住宅
216	赤沼遺跡	南相馬市原町区萱浜字赤沼	南相馬市教委	9月 25日 ～ 11月 21日	710,000 ㎡	1,514 ㎡	縄文	散布地	工場団地造成

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
217	萱浜原畑遺跡	南相馬市原町区萱浜字原畑	南相馬市教委	11月 20日 ～ 11月 26日	496 ㎡	20 ㎡	弥生～平安	集落・古墳	個人住宅
218	八幡林遺跡	南相馬市鹿島区寺内字八幡林	南相馬市教委	11月 22日 ～ 11月 29日	232 ㎡	16 ㎡	縄文～古墳	集落	個人住宅
219	桜井D遺跡	南相馬市原町区上渋佐字原田	南相馬市教委	12月 16日	1,131 ㎡	20 ㎡	弥生～平安	集落	賃貸住宅
220	長柴沢遺跡	南相馬市原町区大谷字中柴	南相馬市教委	12月 26日	47,840 ㎡	3 ㎡	近世	散布地	果樹園造成
221	榎内遺跡	南相馬市鹿島区横手字榎内	南相馬市教委	12月 18日 ～ 12月 20日	396 ㎡	20 ㎡	縄文～平安	集落・古墳	個人住宅
222	桜井A遺跡	南相馬市原町区上渋佐字原畑	南相馬市教委	2月 20日 ～ 3月 5日	558 ㎡	32 ㎡	縄文～平安	集落	畑造成
223	下渋佐赤沼遺跡 湊遺跡	南相馬市下渋佐字南赤沼	南相馬市教委	9月 2日 ～ 9月 20日	60,000 ㎡	720 ㎡	縄文～平安	集落	太陽光発電
224	大平山遺跡	浪江町大字請戸字北舘ノ内、南	浪江町教委	7月 8日 ～ 7月 19日	10,000 ㎡	263 ㎡	縄文・奈良平安	城跡	集団墓地移転
225	上田郷IV遺跡	広野町大字上北迫字上田郷	広野町教委	8月 19日 ～ 8月 22日	1,200 ㎡	113 ㎡	縄文	散布地	工場
226	大谷地原Ⅰ遺跡	広野町大字下北迫字大谷地原	広野町教委	6月 13日 ～ 6月 13日	962 ㎡	40 ㎡	弥生	散布地	その他建物
227	大谷地原Ⅰ遺跡	広野町大字下北迫字大谷地原	広野町教委	5月 21日 ～ 5月 21日	2,900 ㎡	40 ㎡	弥生	散布地	その他建物
228	桜田Ⅰ遺跡	広野町大字下浅見川字広長	広野町教委	5月 7日 ～ 5月 8日		40 ㎡	奈良・平安近世	散布地	道路
229	桜田Ⅱ遺跡	広野町大字下浅見川字広長	広野町教委	5月 7日 ～ 5月 8日	3,365 ㎡	12 ㎡	古墳	散布地	道路
230	桜田IV遺跡	広野町大字下浅見川字桜田	広野町教委	5月 7日 ～ 5月 8日		30 ㎡	縄文・弥生	散布地	道路
231	桜田Ⅰ遺跡	広野町大字下浅見川字広長	広野町教委	11月 5日 ～ 12月 3日		154 ㎡	奈良・平安、近世	散布地	宅地造成
232	桜田IV遺跡	広野町大字下浅見川字広長	広野町教委	11月 5日 ～ 12月 3日	129,942 ㎡	154 ㎡	縄文・弥生	散布地	宅地造成
233	宮田条理遺跡	広野町大字下北迫字宮田	広野町教委	11月 5日 ～ 12月 3日		154 ㎡	奈良・平安	散布地	宅地造成
234	薄磯貝塚	いわき市平薄磯	いわき市教委	4月 19日 ～ 4月 24日	700 ㎡	82 ㎡	縄文	貝塚	土地区画整理
235	原前遺跡	いわき市平神谷作字原前	いわき市教委	5月 23日 ～ 5月 24日	3,332 ㎡	93 ㎡	弥生～古墳	散布地	工場等建設
236	須賀蛭C遺跡	いわき市泉町下川字須賀蛭	いわき市教委	5月 27日 ～ 6月 7日	60,408 ㎡	178 ㎡	縄文・平安	散布地	太陽光発電
237	大畑B遺跡	いわき市泉町下川字大畑	いわき市教委	5月 31日 ～ 6月 10日	880 ㎡	65 ㎡	縄文後期	集落跡	個人住宅建築
238	後田遺跡・後田古墳群	いわき市後田町源道平	いわき市教委	6月 17日 ～ 6月 18日	168 ㎡	52 ㎡	古墳	散布地	公民館復旧事業
239	御前田E遺跡	いわき市泉町字御前田、字泉町	いわき市教委	7月 1日 ～ 7月 3日	497 ㎡	48 ㎡	古墳～平安・近世～近代	散布地	集合住宅建設
240	江栗馬場遺跡	いわき市錦町江栗馬場	いわき市教委	7月 8日 ～ 7月 10日	1,774 ㎡	42 ㎡	平安	散布地	店舗建設
241	久世原館跡・番匠地遺跡	いわき市内郷御厩町番匠地	いわき市教委	7月 16日 ～ 7月 26日	2,089 ㎡	178 ㎡	弥生・平安	散布地	病院建設
242	竜ヶ崎遺跡	いわき市常磐下湯長谷町梅ノ房 他	いわき市教委	7月 16日 ～ 8月 6日	4,913 ㎡	396 ㎡	弥生～中世	散布地	宅地造成
243	好間上野原遺跡	いわき市好間町上好間字上野原	いわき市教委	8月 6日 ～ 8月 8日	607 ㎡	30 ㎡	近代	散布地	集合住宅建設
244	好間上野原遺跡	いわき市好間町上好間字上野原	いわき市教委	8月 6日 ～ 8月 8日	494 ㎡	30 ㎡	近代	散布地	集合住宅建設
245	井上遺跡	いわき市山田町井上	いわき市教委	8月 22日	414 ㎡	6 ㎡	古代	散布地	個人住宅建設
246	磐出館跡	いわき市久之浜町久之浜字館ノ下、字代、字立地内	いわき市教委	10月 9日 ～ 11月 7日	30,219 ㎡	557 ㎡	古代・近世	散布地	宅地造成
247	荒田目条里跡	いわき市平荒田目字中田 他	いわき市教委	11月 13日 ～ 11月 22日	14,704 ㎡	143 ㎡	古墳時代(前期)	集落跡	特養ホーム応急仮設建築
248	御宝殿遺跡	いわき市錦町後宝殿 他	いわき市教委	11月 18日 ～ 11月 19日	1,363 ㎡	63 ㎡	古代・近世	散布地	学校建設
249	白岩堀ノ内遺跡	いわき市四倉町中島字三反田、白岩字北ノ作	いわき市教委	12月 4日 ～ 12月 12日	3,300 ㎡	47 ㎡	弥生～近世	集落跡・包含層	工場造成
250	酒井酒井原遺跡	いわき市勿来町酒井酒井原	いわき市教委	12月 9日 ～ 12月 10日	495 ㎡	240 ㎡	縄文～平安	集落跡	宅地造成

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
251	後田遺跡・後田古墳群	いわき市後田町源道平	いわき市教委	1月 23日 ～ 1月 28日	2,200 ㎡	52 ㎡	古墳	古墳	市道改良工事
252	須賀蛭A遺跡	いわき市泉町下川字須賀蛭他	いわき市教委	2月 18日 ～ 2月 19日	1,764 ㎡	38 ㎡	弥生	散布地	個人住宅建築
253	神谷作古墳群	いわき市平神谷作字腰巻	いわき市教委	2月 24日 ～ 3月 17日	1,311 ㎡	358 ㎡	古墳	古墳	個人住宅建築
254	関根遺跡	いわき市勿来町酒井関根	いわき市教委	3月 6日	291 ㎡	26 ㎡	古代	散布地	個人住宅建築
255	後田町堀ノ内遺跡	いわき市後田町堀ノ内	いわき市教委	3月 11日 ～ 3月 12日	77 ㎡	23 ㎡	中世	散布地	携帯電話無線基地局
256	川向遺跡	伊達市霊山町石田字川向・庚申向	福島県教委	10月 23日 ～ 11月 15日	6,750 ㎡	329 ㎡	縄文	散布地	道路(相馬福島道路)
257	渋谷館跡	伊達市月舘町御代田字渋谷	福島県教委	8月 26日 ～ 12月 20日	5,200 ㎡	133 ㎡	中世	館跡	道路(相馬福島道路)
258	前柳館跡	伊達市月舘町御代田字作	福島県教委	9月 2日 ～ 9月 6日	1,800 ㎡	80 ㎡	中世	館跡	道路(相馬福島道路)
259	鴻ノ巣遺跡	新地町駒ヶ嶺字鴻ノ巣	福島県教委	4月 16日	50 ㎡	8 ㎡	縄文	散布地	道路(常磐自動車道)
260	宿仙木B遺跡	相馬市黒木字宿仙木	福島県教委	5月 14日 ～ 5月 22日	28,000 ㎡	89	—	—	土取り場候補地
261	大内舘下遺跡	南相馬市鹿島区大内字堤下・仲田・高田・舘下・町田	福島県教委	9月 18日 ～ 10月 8日	169,000 ㎡	895	古代	集落	再ほ場整備
262	樋ノ口遺跡	南相馬市鹿島区小島田字堂沼・長畑	福島県教委	10月 9日 ～ 10月 15日	78,700 ㎡	306	—	—	再ほ場整備
263	小島田遺跡①	南相馬市鹿島区小島田字釜川内・古川・北田・下ノ内・大学・仲屋舗・北畑・後藤内	福島県教委	9月 18日 ～ 10月 8日	275,000 ㎡	1177	古墳・古代	集落	再ほ場整備
264	小島田館跡②	南相馬市鹿島区小島田字大原・榎下・角田	福島県教委	11月 14日 ～ 11月 15日	6,400 ㎡	115	—	—	再ほ場整備
265	小島田遺跡③	南相馬市原町区小島田字北田・古川ほか	福島県教委	9月 18日 ～ 10月 8日	400 ㎡	8	—	—	河川改修
266	熊野前遺跡	南相馬市鹿島区江垂字熊野前	福島県教委	11月 25日 ～ 11月 28日	12,700 ㎡	407	古墳・古代	古墳	再ほ場整備
267	萱浜原畑遺跡	南相馬市原町区萱浜字原畑	福島県教委	7月 31日 ～ 8月 5日	16,900 ㎡	130	弥生	再葬墓	再ほ場整備
268	南才ノ上遺跡	南相馬市原町区萱浜字南才ノ上	福島県教委	10月 7日 ～ 10月 23日	93,000 ㎡	379	縄文・古代	集落	再ほ場整備
269	五畝田・犬遣遺跡①	南相馬市原町区雫字五畝田・犬遣・北迫田	福島県教委	8月 26日 ～ 9月 10日	131,000 ㎡	685	縄文	集落	再ほ場整備
270	五畝田・犬遣遺跡②	南相馬市原町区雫字犬遣	福島県教委	8月 26日 ～ 9月 10日	5,000 ㎡	172	弥生	再葬墓	再ほ場整備
271	犬遣瓦窯跡	南相馬市原町区雫字犬遣	福島県教委	8月 27日 ～ 8月 29日	13,000 ㎡	380	縄文・古代	集落	再ほ場整備
272	五畝田B遺跡	南相馬市原町区雫字京塚沢	福島県教委	9月 10日	10,000 ㎡	44	—	—	再ほ場整備
273	京塚沢瓦窯跡A	南相馬市原町区雫字京塚沢	福島県教委	8月 20日 ～ 8月 21日	3,000 ㎡	55	—	—	再ほ場整備
274	京塚沢B遺跡	南相馬市原町区雫字上迫田・袖原	福島県教委	8月 19日	2,700 ㎡	22	—	—	再ほ場整備
275	宮田条里遺跡	南相馬市原町区下北迫字宮田 他	福島県教委	11月 26日 ～ 11月 28日	20,000 ㎡	576	縄文	集落	防災緑地
276	京塚沢遺跡	南相馬市原町区雫字上ノ台	福島県教委	9月 12日 ～ 9月 17日	8,000 ㎡	116	—	—	再ほ場整備
277	赤柴前遺跡	南相馬市原町区駒ヶ嶺字赤柴前	福島県教委	4月 16日	2,000 ㎡	32	—	—	県道改良
278	大身遺跡	南相馬市原町区下渋佐字大身	福島県教委	1月 30日 ～ 2月 3日	4,200 ㎡	122	—	—	海岸防災林
279	上田郷VI遺跡	広野町上北迫字上田郷	福島県教委	10月 7日	500 ㎡	18			道路改良
280	大塚古墳	いわき市錦町字浜田	福島県教委	12月 2日 ～ 12月 6日	40,000 ㎡	91	—	—	再ほ場整備

(11)平成25年度開発事業に伴う試掘調査(未周知範囲)

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
1	下小国地区	伊達市霊山町下小国字御渡	伊達市教委	3月 11日 ～ 3月 19日	1,500 ㎡	139 ㎡			個人住宅
2	中島地区	国見町大字大木戸字中島	国見町教委	3月 18日 ～ 3月 19日	2,704 ㎡	10 ㎡			ほ場整備事業
3	方八丁・横塚地区	郡山市横塚六丁目	郡山市教委	5月 20日 ～ 5月 22日	3,280 ㎡	119 ㎡			道路
4	方八丁・横塚地区	郡山市昭和一丁目	郡山市教委	6月 12日	592 ㎡	12 ㎡			住宅
5	方八丁・横塚地区	郡山市昭和一丁目	郡山市教委	12月 11日	391 ㎡	11 ㎡			住宅
6	若宮前・満水田地区	郡山市富田町字若宮前	郡山市教委	3月 3日 ～ 3月 17日	52,740 ㎡	665 ㎡			その他建物
7	前田川地区	須賀川市前田川字坊の内	須賀川市教委	6月 6日	740 ㎡	40 ㎡	奈良・平安	散布地	圃場整備(予備調査)
8	大久保地区	北塩原村大字大久保	北塩原村教委	9月 4日 ～ 9月 5日	2,100 ㎡	230 ㎡			県林道工事
9	折橋地区	南会津町田島字北下原	南会津町教委	4月 22日 ～ 4月 25日	8,467 ㎡	230 ㎡			介護施設建設
10	北町地区	相馬市中村字北町	相馬市教委	11月 5日 ～ 11月 21日	3,000 ㎡	8 ㎡	近世～近代	堀跡	庁舎建設関連遺構確認
11	荒田地区	相馬市原釜字荒田	相馬市教委	8月 5日 ～ 8月 6日	55,000 ㎡	377 ㎡			防災集団移転促進事業
12	南ノ入地区	相馬市尾浜字南ノ入	相馬市教委	4月 25日	35,222 ㎡	35 ㎡	不明	散布地	防災集団移転促進事業
13	菖蒲刈沢地区	南相馬市鹿島区寺内字菖蒲刈沢	南相馬市教委	4月 24日 ～ 5月 2日	14,026 ㎡	250 ㎡			防災集団移転
14	六貫山地区	南相馬市原町区萱浜字六貫山	南相馬市教委	5月 8日 ～ 5月 17日	13,868 ㎡	440 ㎡			防災集団移転
15	堂ヶ迫地区	南相馬市鹿島区北海老字堂ヶ迫	南相馬市教委	5月 8日 ～ 5月 22日	15,314 ㎡	500 ㎡			防災集団移転
16	広町地区	南相馬市鹿島区鹿島字広町	南相馬市教委	5月 23日 ～ 5月 27日	7,471 ㎡	200 ㎡			防災集団移転
17	若宮遺跡	南相馬市鹿島区南屋形字若宮	南相馬市教委	5月 29日 ～ 6月 12日	6,481 ㎡	655 ㎡	奈良・平安	散布地	防災集団移転
18	仏坊内地区	南相馬市鹿島区寺内字仏坊内	南相馬市教委	6月 14日 ～ 9月 10日	41,680 ㎡	1,923 ㎡			防災集団移転
19	横峰地区	南相馬市鹿島区寺内字横峰	南相馬市教委	7月 23日	6,000 ㎡	82 ㎡			防災集団移転
20	原山地区	南相馬市原町区萱浜字六貫山	南相馬市教委	12月 9日 ～ 12月 17日	15,900 ㎡	546 ㎡			防災集団移転
21	浦頭地区	南相馬市原町区北泉字浦頭地区	南相馬市教委	1月 7日 ～ 1月 27日	8,400 ㎡	300 ㎡			防災集団移転
22	前向地区	南相馬市原町区泉字前向地区	南相馬市教委	2月 3日	3,000 ㎡	56 ㎡			藻類生産工場
23	赤沼地区	南相馬市原町区萱浜字赤沼	南相馬市教委	2月 20日 ～ 2月 27日	710,000 ㎡	476 ㎡			防災集団移転
24	本陣前地区	南相馬市原町区本陣前	南相馬市教委	3月 6日	8,380 ㎡	140 ㎡			防災集団移転
25	中才遺跡	南相馬市鹿島区寺内字中才	南相馬市教委	9月 26日 ～ 10月 24日	5,841 ㎡	140 ㎡	縄文・平安	散布地	災害公営住宅
26	大古内地区	南相馬市鹿島区南右田字大古内	南相馬市教委	11月 28日	6,000 ㎡	50 ㎡			太陽光発電
27	伊丹沢地区	飯舘村大字伊丹沢字大平・野沢	飯舘村教委	12月 16日 ～ 12月 25日	9,400 ㎡	267 ㎡			土砂採取
28	久之浜地区	いわき市久之浜町久之浜	いわき市教委	11月 18日 ～ 11月 29日	2,000 ㎡	103 ㎡	弥生・平安・中世・近世	散布地	道路
29	今田地区	相馬市今田字久保前・薮内	福島県教委	10月 29日 ～ 10月 31日	1,300 ㎡	137 ㎡			道路(相馬福島道路)
30	山上地区	相馬市山上字横川	福島県教委	11月 20日 ～ 11月 22日	1,000 ㎡	43 ㎡			道路(相馬福島道路)
31	山上地区	相馬市山上字横川	福島県教委	11月 18日 ～ 11月 19日	400 ㎡	27 ㎡			道路(相馬福島道路)
32	山上地区	相馬市山上字間ノ次郎	福島県教委	4月 15日 ～ 4月 25日	7,500 ㎡	472 ㎡			道路(相馬福島道路)
33	東玉野地区	相馬市東玉野字姥ヶ岩	福島県教委	7月 17日 ～ 8月 1日	7,300 ㎡	329 ㎡			道路(相馬福島道路)

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
34	東玉野地区	相馬市東玉野字須場	福島県教委	6月 10日 ～ 7月 1日	10,100 ㎡	760 ㎡			道路(相馬福島道路)
35	東玉野地区	相馬市東玉野字須場・姥ヶ岩	福島県教委	7月 1日 ～ 7月 17日	11,100 ㎡	401 ㎡	近世	散布地	道路(相馬福島道路)
36	東玉野地区	相馬市東玉野字須場	福島県教委	7月 31日 ～ 8月 9日	6,500 ㎡	212 ㎡			道路(相馬福島道路)
37	東玉野地区	相馬市東玉野字向山・町裏	福島県教委	10月 7日 ～ 11月 12日	20,500 ㎡	711 ㎡	縄文、古代以降	散布地	道路(相馬福島道路)
38	福田地区	新地町福田字北原	福島県教委	11月 25日 ～ 12月 12日	10,000 ㎡	146 ㎡	奈良・平安	製鉄跡	土砂採取
39	福田地区	新地町福田字小鯨・鉄砲町	福島県教委	12月 3日 ～ 12月 13日	8,000 ㎡	200 ㎡	奈良・平安	製鉄跡	土砂採取
40	福田地区	新地町福田字北原	福島県教委	11月 6日 ～ 1月 31日	58,000 ㎡	1,042 ㎡			土取り場候補地
41	福田地区	新地町福田字小鯨・鉄炮町	福島県教委	12月 3日 ～ 12月 13日	8,000 ㎡	201 ㎡			土取り場候補地
42	福田地区	新地町福田字鉄炮町	福島県教委	12月 13日 ～ 1月 16日	20,000 ㎡	376 ㎡			土取り場候補地
43	福田地区	新地町福田字北原	福島県教委	11月 6日 ～ 1月 31日	106,500 ㎡	1,042 ㎡			土取り場候補地
44	福田地区	新地町福田字小鯨・鉄炮町	福島県教委	12月 3日 ～ 12月 13日	17,300 ㎡	201 ㎡			土取り場候補地
45	福田地区	新地町福田字鉄炮町	福島県教委	12月 13日 ～ 1月 16日	20,000 ㎡	376 ㎡			土取り場候補地
46	和田地区	相馬市和田字坂下・大谷地・末無	福島県教委	4月 22日 ～ 4月 24日	2,300 ㎡	129 ㎡			再ほ場整備
47	蒲庭地区	相馬市蒲庭字坂下・軽井沢	福島県教委	5月 27日 ～ 9月 9日	96,000 ㎡	975 ㎡			土取り場候補地
48	蒲庭地区	相馬市蒲庭字船田・孫目	福島県教委	7月 2日 ～ 7月 9日	14,500 ㎡	99 ㎡			再ほ場整備
49	蒲庭地区	相馬市蒲庭字坂下	福島県教委	6月 28日 ～ 7月 2日	2,300 ㎡	14 ㎡			再ほ場整備
50	蒲庭地区	相馬市蒲庭字舘前	福島県教委	7月 2日	1,500 ㎡	18 ㎡			再ほ場整備
51	蒲庭地区	相馬市蒲庭字堂ヶ迫	福島県教委	6月 27日	800 ㎡	6 ㎡			再ほ場整備
52	蒲庭地区	相馬市蒲庭字瓢庭・滝ノ沢	福島県教委	6月 28日 ～ 7月 1日	7,400 ㎡	68 ㎡			再ほ場整備
53	蒲庭地区	相馬市蒲庭字瓢庭	福島県教委	6月 27日 ～ 6月 28日	6,200 ㎡	68 ㎡			再ほ場整備
54	蒲庭地区	相馬市蒲庭字瓢庭・鯉沼	福島県教委	6月 26日	8,300 ㎡	9 ㎡			再ほ場整備
55	蒲庭地区	相馬市蒲庭字船田・字孫目	福島県教委	7月 2日 ～ 7月 9日	4,600 ㎡	48 ㎡			海岸防災林
56	柚木地区	相馬市柚木字谷地田亀岩・前日向堤外	福島県教委	6月 18日 ～ 6月 20日	5,800 ㎡	106 ㎡			再ほ場整備
57	柚木地区	相馬市柚木字前日向・前日向堤外・前日向堤内・葉山前	福島県教委	6月 18日 ～ 6月 27日	4,400 ㎡	82 ㎡			再ほ場整備
58	柚木地区	相馬市柚木字前日向堤外・前日向堤内	福島県教委	1月 27日 ～ 1月 28日	9,500 ㎡	89 ㎡			再ほ場整備
59	八沢地区	南相馬市北海老字乙姥懐	福島県教委	6月 25日	700 ㎡	3 ㎡			再ほ場整備
60	八沢地区	南相馬市北屋形字舘ノ腰・石八手	福島県教委	6月 25日 ～ 6月 26日	12,600 ㎡	152 ㎡			再ほ場整備
61	八沢地区	南相馬市北屋形字小藤七迫	福島県教委	6月 26日	7,400 ㎡	9 ㎡			再ほ場整備
62	八沢地区	南相馬市南柚木字対馬谷地・矢ノ目川添	福島県教委	1月 29日 ～ 1月 31日	8,300 ㎡	100 ㎡			再ほ場整備
63	八沢地区	南相馬市南柚木字対馬谷地・矢ノ目川添	福島県教委	11月 26日 ～ 11月 27日	7,200 ㎡	37 ㎡			再ほ場整備
64	八沢地区	南相馬市南柚木字対馬谷地・水神下	福島県教委	6月 21日 ～ 6月 24日	6,000 ㎡	56 ㎡			再ほ場整備
65	八沢地区	南相馬市南柚木字仲坂	福島県教委	6月 10日 ～ 6月 20日	11,100 ㎡	128 ㎡			再ほ場整備
66	八沢地区	南相馬市南柚木字林際・仲坂	福島県教委	6月 5日 ～ 6月 7日	24,000 ㎡	112 ㎡			再ほ場整備
67	八沢地区	南相馬市南柚木字二反田	福島県教委	6月 3日 ～ 6月 4日	4,700 ㎡	27 ㎡			再ほ場整備

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
68	八沢地区	南相馬市南柚木字浅田・前浅田	福島県教委	5月 23日 ～ 5月 30日	8,900 ㎡	160 ㎡			再ほ場整備
69	八沢地区	南相馬市南柚木字浅田	福島県教委	5月 21日 ～ 5月 29日	6,000 ㎡	138 ㎡			再ほ場整備
70	八沢地区	南相馬市南柚木字浅田・上浅田	福島県教委	5月 30日 ～ 5月 30日	3,500 ㎡	10 ㎡			再ほ場整備
71	右田・海老地区	南相馬市南海老字南町・竹ノ内前	福島県教委	11月 16日 ～ 11月 17日	6,800 ㎡	43 ㎡			再ほ場整備
72	右田・海老地区	南相馬市南海老字西畑・大森	福島県教委	10月 30日 ～ 12月 5日	49,000 ㎡	451 ㎡			再ほ場整備
73	右田・海老地区	南相馬市北海老字原田	福島県教委	10月 15日 ～ 12月 5日	44,700 ㎡	166 ㎡			再ほ場整備
74	右田・海老地区	南相馬市南海老字水久保	福島県教委	11月 27日 ～ 12月 4日	2,400 ㎡	119 ㎡			再ほ場整備
75	右田・海老地区	南相馬市南海老字下沖・劔ノ宮	福島県教委	11月 5日 ～ 11月 13日	98,700 ㎡	663 ㎡			再ほ場整備
76	右田・海老地区	南相馬市北右田字北染師	福島県教委	11月 13日 ～ 11月 15日	8,500 ㎡	126 ㎡			再ほ場整備
77	右田・海老地区	南相馬市北右田字軍塚・北染師	福島県教委	11月 15日 ～ 11月 27日	19,900 ㎡	609 ㎡			再ほ場整備
78	右田・海老地区	南相馬市北右田字劔宮・八龍町	福島県教委	11月 20日 ～ 12月 12日	18,800 ㎡	502 ㎡			再ほ場整備
79	右田・海老地区	南相馬市北右田字桶師屋・大橋・竹花・八斗蒔・宮田	福島県教委	11月 13日 ～ 12月 11日	80,900 ㎡	829 ㎡			再ほ場整備
80	右田・海老地区	南相馬市北右田字薬師堂	福島県教委	11月 18日 ～ 11月 19日	5,100 ㎡	54 ㎡			再ほ場整備
81	右田・海老地区	南相馬市南右田字前畑・高畑	福島県教委	11月 18日 ～ 11月 20日	7,300 ㎡	100 ㎡			再ほ場整備
82	右田・海老地区	南相馬市南海老字中谷地・蛭沼・北右田字北高屋釜・南高屋釜・南右田字踏切・蛭田・谷地・二ッ沼	福島県教委	1月 20日 ～ 1月 23日	22,700 ㎡	279 ㎡			海岸防災林
83	真野地区	南相馬市江垂字熊野前・柚原	福島県教委	11月 13日 ～ 11月 14日	29,000 ㎡	40 ㎡			再ほ場整備
84	金沢・北泉地区	南相馬市北泉字脇	福島県教委	7月 3日 ～ 7月 9日	12,600 ㎡	58 ㎡			再ほ場整備
85	金沢・北泉地区	南相馬市北泉字字浦頭・天化沢	福島県教委	6月 20日 ～ 6月 24日	6,200 ㎡	27 ㎡			再ほ場整備
86	金沢・北泉地区	南相馬市北泉字字浦頭・天化沢	福島県教委	6月 18日 ～ 6月 20日	4,200 ㎡	32 ㎡			再ほ場整備
87	金沢・北泉地区	南相馬市北泉字沖田	福島県教委	6月 24日 ～ 6月 26日	9,200 ㎡	56 ㎡			再ほ場整備
88	金沢・北泉地区	南相馬市北泉字堤下	福島県教委	7月 2日 ～ 7月 3日	2,600 ㎡	14 ㎡			再ほ場整備
89	金沢・北泉地区	南相馬市北泉字浦頭	福島県教委	6月 26日 ～ 7月 2日	25,400 ㎡	197 ㎡			再ほ場整備
90	金沢・北泉地区	南相馬市金沢字追合	福島県教委	6月 27日 ～ 7月 2日	7,700 ㎡	109 ㎡			再ほ場整備
91	金沢・北泉地区	南相馬市金沢字割田	福島県教委	7月 2日	4,000 ㎡	14 ㎡			再ほ場整備
92	金沢・北泉地区	南相馬市金沢字谷地中	福島県教委	6月 28日 ～ 7月 1日	9,500 ㎡	53 ㎡			再ほ場整備
93	金沢・北泉地区	南相馬市金沢字鳥井沢	福島県教委	7月 2日	6,500 ㎡	11 ㎡			再ほ場整備
94	金沢・北泉地区	南相馬市金沢字道金沢	福島県教委	7月 4日	2,300 ㎡	84 ㎡			再ほ場整備
95	金沢・北泉地区	南相馬市金沢字外輪戸	福島県教委	7月 3日	3,100 ㎡	17 ㎡			再ほ場整備
96	金沢・北泉地区	南相馬市金沢字鳥打沢	福島県教委	7月 9日 ～ 7月 10日	19,000 ㎡	139 ㎡			再ほ場整備
97	金沢・北泉地区	南相馬市金沢字水神崎・西山	福島県教委	7月 8日 ～ 7月 19日	9,600 ㎡	77 ㎡			再ほ場整備
98	金沢・北泉地区	南相馬市金沢字水神崎	福島県教委	7月 16日 ～ 7月 17日	8,900 ㎡	47 ㎡			再ほ場整備
99	金沢・北泉地区	南相馬市金沢字前田・西山・長瀞・鳥打沢	福島県教委	7月 10日 ～ 7月 12日	14,600 ㎡	104 ㎡			再ほ場整備
100	金沢・北泉地区	南相馬市金沢字前田	福島県教委	6月 26日 ～ 7月 2日	18,900 ㎡	54 ㎡			再ほ場整備
101	金沢・北泉地区	南相馬市金沢字前田	福島県教委	7月 9日	9,300 ㎡	24 ㎡			再ほ場整備

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
102	金沢・北泉地区	南相馬市金沢字谷地中	福島県教委	8月 26日 ～ 11月 1日	25,000 ㎡	660 ㎡			土取り場候補地
103	金沢・北泉地区	南相馬市北泉字天化沢	福島県教委	4月 30日 ～ 6月 21日	75,500 ㎡	662 ㎡			土取り場候補地
104	金沢・北泉地区	南相馬市北泉字天化沢	福島県教委	6月 21日 ～ 6月 26日	3,500 ㎡	52 ㎡			土取り場候補地
105	原町東地区	南相馬市上渋佐字沖田	福島県教委	7月 10日 ～ 7月 19日	108,000 ㎡	522 ㎡			再ほ場整備
106	原町東地区	南相馬市下渋佐字沖西・南谷地	福島県教委	7月 23日 ～ 7月 25日	214,000 ㎡	472 ㎡			再ほ場整備
107	原町東地区	南相馬市下渋佐字南谷地	福島県教委	7月 30日	55,000 ㎡	227 ㎡			再ほ場整備
108	原町東地区	南相馬市萱浜字原畑	福島県教委	8月 2日 ～ 8月 7日	7,000 ㎡	144 ㎡			再ほ場整備
109	原町東地区	南相馬市萱浜字南見谷地	福島県教委	8月 5日 ～ 8月 7日	1,800 ㎡	8 ㎡			再ほ場整備
110	原町東地区	南相馬市萱浜字南見谷地	福島県教委	8月 7日 ～ 8月 8日	12,600 ㎡	80 ㎡			再ほ場整備
111	原町東地区	南相馬市萱浜字堀子目	福島県教委	8月 7日 ～ 8月 19日	8,700 ㎡	130 ㎡			再ほ場整備
112	原町東地区	南相馬市萱浜字一本松	福島県教委	10月 24日 ～ 10月 29日	10,000 ㎡	143 ㎡			再ほ場整備
113	原町東地区	南相馬市萱浜字神田・前田	福島県教委	10月 9日 ～ 10月 18日	20,000 ㎡	95 ㎡			再ほ場整備
114	原町東地区	南相馬市萱浜字長沼	福島県教委	10月 22日	3,000 ㎡	18 ㎡			再ほ場整備
115	原町東地区	南相馬市萱浜字落江下・愛原	福島県教委	9月 20日 ～ 9月 25日	4,000 ㎡	108 ㎡			再ほ場整備
116	原町東地区	南相馬市萱浜字落江下	福島県教委	9月 19日 ～ 9月 20日	4,800 ㎡	42 ㎡			再ほ場整備
117	原町東地区	南相馬市萱浜字二股・落江下	福島県教委	9月 18日 ～ 9月 19日	49,000 ㎡	218 ㎡			再ほ場整備
118	原町東地区	南相馬市雫字狐穴	福島県教委	8月 22日 ～ 8月 27日	49,000 ㎡	213 ㎡			再ほ場整備
119	原町東地区	南相馬市北原字江下	福島県教委	10月 23日	6,000 ㎡	44 ㎡			再ほ場整備
120	原町東地区	南相馬市萱浜字福田	福島県教委	10月 29日	2,700 ㎡	7 ㎡			再ほ場整備
121	原町東地区	南相馬市雫字五畝田	福島県教委	9月 12日	1,800 ㎡	30 ㎡			再ほ場整備
122	原町東地区	南相馬市雫字犬道	福島県教委	9月 10日 ～ 9月 11日	13,000 ㎡	110 ㎡			再ほ場整備
123	原町東地区	南相馬市雫字北迫田	福島県教委	8月 27日	5,500 ㎡	50 ㎡			再ほ場整備
124	原町東地区	南相馬市雫字牛頭方	福島県教委	6月 26日	2,700 ㎡	76 ㎡			再ほ場整備
125	原町東地区	南相馬市雫字野馬道	福島県教委	6月 25日	3,000 ㎡	80 ㎡			再ほ場整備
126	原町東地区	南相馬市雫字狐穴	福島県教委	9月 10日 ～ 9月 11日	5,700 ㎡	114 ㎡			再ほ場整備
127	原町東地区	南相馬市雫字上ノ台・北畑・迫田・台畑・山畑・東坊志	福島県教委	8月 20日 ～ 9月 12日	61,000 ㎡	281 ㎡			再ほ場整備
128	原町東地区	南相馬市雫字上ノ台・北畑・迫田・台畑・山畑・東坊志	福島県教委	8月 20日 ～ 9月 12日	11,000 ㎡	147 ㎡			海岸防災林
129	原町東地区	南相馬市雫字上ノ台・権現下	福島県教委	9月 12日 ～ 9月 17日	17,000 ㎡	149 ㎡			海岸防災林
130	原町東地区	南相馬市萱浜字巣掛場	福島県教委	1月 27日 ～ 1月 30日	10,000 ㎡	213 ㎡			環境創造センター
131	原町東地区	南相馬市萱浜字巣掛場	福島県教委	9月 2日 ～ 9月 6日	19,000 ㎡	134 ㎡			環境創造センター
132	原町東地区	南相馬市上町	福島県教委	2月 17日 ～ 2月 18日	28,300 ㎡	9 ㎡			復興公営住宅
133	下浅見川地区	広野町下浅見川字本町ほか	福島県教委	11月 28日 ～ 12月 18日	14,000 ㎡	328 ㎡			防災緑地
134	北田地区	楢葉町北田字下山根・井手字西原	福島県教委	11月 11日 ～ 11月 13日	6,300 ㎡	294 ㎡			道路改良
135	井出地区	楢葉町井手字上ノ原	福島県教委	11月 6日 ～ 11月 7日	3,900 ㎡	129 ㎡			道路改良

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
136	井出地区	楢葉町井手字木屋	福島県教委	11月 7日 ～ 11月 8日	2,800 ㎡	120 ㎡			道路改良
137	四倉地区	いわき市四倉町下仁井田字明神前・七反田・左島立・夕原	福島県教委	12月 3日 ～ 12月 9日	28,300 ㎡	69 ㎡			再ほ場整備
138	平下大越地区	いわき市平下大越字山ノ神	福島県教委	1月 10日 ～ 1月 14日	3,600 ㎡	8 ㎡			再ほ場整備
139	平下大越地区	いわき市平下大越字南横手	福島県教委	1月 8日 ～ 1月 10日	66,300 ㎡	173 ㎡			再ほ場整備
140	平藤間地区	いわき市平藤間字川田・下大越字正慶	福島県教委	1月 14日 ～ 1月 22日	23,800 ㎡	29 ㎡			再ほ場整備
141	錦地区	いわき市錦町字浜田・安良町	福島県教委	12月 2日 ～ 12月 6日	40,300 ㎡	59 ㎡			再ほ場整備

(12)平成25年度発掘調査一覧

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	時代	種別	調査原因
1	腰浜廃寺跡	福島市腰浜町	福島市教委	5月 13日 ～ 5月 16日	43 ㎡	平安	社寺跡	個人住宅
2	天神平山古墳群	福島市岡島字天神平山	福島市教委	6月 6日 ～ 10月 31日	1,364 ㎡	古墳	古墳	その他開発
3	天神平古墳群	福島市岡島字天神平	福島市教委	6月 6日 ～ 10月 31日	1,364 ㎡	古墳	古墳	その他開発
4	杉ノ内遺跡	福島市鳥谷野字杉ノ内	福島市教委	10月 7日 ～ 11月 25日	267 ㎡	縄文・平安	散布地・集落跡	宅地造成
5	宮代館跡	福島市宮代字屋敷畑 他	福島市教委	10月 29日 ～ 11月 29日	199 ㎡	平安	集落跡・城館跡	住宅
6	鎧塚遺跡	福島市仁井田字上台 他	福島市教委	12月 2日 ～ 2月 7日	121 ㎡	縄文・古墳・平安	集落跡	道路
7	桑折西山城跡	桑折町大字万正寺字本丸 他	桑折町教委	6月 3日 ～ 11月 19日	550 ㎡	中世	城館跡	史跡整備
8	大塚古墳群	伊達市保原町字大塚	伊達市教委	7月 9日 ～ 10月 9日	53 ㎡	古墳時代	古墳	保存目的の範囲内容確認調査
9	梁川城跡(28次)	伊達市梁川町字南町頭	伊達市教委	11月 18日 ～ 1月 24日	109 ㎡	中世	城館跡	保存目的の範囲内容確認調査
10	阿津賀志山防塁	国見町大字大木戸字高橋	国見町教委	5月 21日 ～ 6月 27日	150 ㎡	中世(文治5年)	防塁跡	史跡整備
11	阿津賀志山防塁	国見町大字西大枝字原鍛冶西	国見町教委	10月 21日 ～ 11月 22日	113 ㎡	中世(文治5年)	防塁跡	史跡整備
12	塚野目城跡	国見町大字塚野目字館前	国見町教委	9月 9日 ～ 9月 27日	80 ㎡	中世	城館跡	道路
13	中ノ内塚群	二本松市高西	二本松市教委	4月 11日 ～ 4月 17日	148 ㎡	近世	塚	その他開発(駐車場)
14	二本松城跡	二本松市郭内	二本松市教委	5月 31日 ～ 6月 14日	55 ㎡	中世～近世	城館跡	災害復旧
15	二本松城跡	二本松市郭内	二本松市教委	6月 25日 ～ 7月 4日	17 ㎡	中世～近世	城館跡	史跡整備
16	名目津遺跡	二本松市百目木字名目津	二本松市教委	7月 22日 ～ 8月 12日	229 ㎡	縄文	散布地	道路
17	二本松城跡	二本松市郭内	二本松市教委	10月 21日 ～ 11月 8日	102 ㎡	中世～近世	城館跡	保存目的の範囲内用確認調査
18	清水台遺跡	郡山市清水台	郡山市教委	5月 9日 ～ 5月 31日	140 ㎡	奈良・平安	官衛跡	個人住宅
19	西原遺跡	郡山市富久山町福原字西原	郡山市教委	8月 1日 ～ 3月 20日	1,971 ㎡	縄文・古墳～平安	散布地	道路
20	大平後田遺跡	郡山市大平町字後田	郡山市教委	7月 9日 ～ 2月 25日	292 ㎡	古墳～平安	散布地	道路
21	団子山古墳	須賀川市	福島大学	8月 19日 ～ 9月 16日	79 ㎡	古墳	古墳	学術調査
22	原作田F遺跡	玉川村大字竜崎字原作田	玉川村教委	4月 10日 ～ 6月 5日	1,000 ㎡	縄文・古墳	狩猟場	村道整備
23	近世追手門前通遺跡群(F地点)	三春町字南町	三春町教委	6月 17日 ～ 12月 26日	1,080 ㎡	近世	その他(城下町)	河川改修役場庁舎建設
24	小峰城跡	白河市郭内	白河市教委	4月 23日 ～ 11月 28日	112 ㎡	中世・近世	城館跡	震災復旧に伴う調査
25	小峰城跡	白河市郭内	白河市教委	11月 18日 ～ 3月 31日	63 ㎡	中世・近世	城館跡	震災復旧に伴う調査
26	白川城跡	白河市藤沢山 他	白河市教委	10月 10日 ～ 3月 26日	346 ㎡	中世	城館跡	内容確認

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	時代	種別	調査原因
27	向原・中原遺跡	西白河郡西郷村大字米字向原・間の原・中山前・中山下	西郷村教委	12月 9日 ～ 12月 9日	105 ㎡	縄文・古墳・奈良・平安時代	畑	アパート建設
28	上野内遺跡	矢祭町大字東舘字上野内	矢祭町教委	10月 7日 ～ 12月 13日	1,500 ㎡	縄文～平安・中世	散布地	学校建設
29	若松城郭内武家屋敷跡 小原内記・日向弥志摩邸跡	会津若松市東栄町	会津若松市教委	6月 24日 ～ 1月 28日	4,350 ㎡	近世	城下町	学校建設
30	若松城郭内武家屋敷跡 築瀬三左衛門邸跡	会津若松市城前	会津若松市教委	9月 6日 ～ 12月 26日	1,300 ㎡	近世	城下町	住宅
31	郡山遺跡	会津若松市河東町郡山字古宮	会津若松市教委	6月 10日 ～ 8月 9日	600 ㎡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世	散布地	保存目的の範囲内容確認調査
32	笹山原遺跡16	会津若松市湊町大字赤井字笹山原	郡山女子大学	5月 25日 ～ 6月 4日	100 ㎡	旧石器・縄文・平安	散布地	学術調査
33	慧日寺跡	磐梯町大字磐梯字本寺八幡	磐梯町教委	7月 23日 ～ 12月 10日	350 ㎡	平安～近世	国史跡	史跡整備
34	香隈山古墳	喜多方市慶徳町豊岡字香隈山	喜多方市教委	7月 1日 ～ 8月 30日	800 ㎡	古墳	古墳	県道改良
35	家西遺跡	喜多方市塩川町五合字金森	喜多方市教委	7月 10日 ～ 9月 20日	1,376 ㎡	古墳・平安・中世	集落跡	ほ場整備
36	宮腰遺跡	喜多方市塩川町五合字宮腰	喜多方市教委	10月 18日 ～ 11月 18日	582 ㎡	平安	散布地	ほ場整備
37	上江館跡	喜多方市塩川町新江木字舘跡	喜多方市教委	11月 25日 ～ 12月 9日	300 ㎡	中世	館跡	市道改良
38	灰塚山古墳	喜多方市慶徳町新宮字小山腰	東北学院大学	8月 5日 ～ 9月 11日	112 ㎡	古墳	古墳	学術調査
39	下高山遺跡	北塩原村大字大塩	北塩原村教委	5月 9日 ～ 11月 22日	3,500 ㎡	縄文、古代、近世	散布地	県林道建設
40	竈原遺跡	会津坂下町大字長井字竈	会津坂下町教委	8月 1日 ～ 8月 9日	36 ㎡	縄文	散布地	保存目的の範囲内容確認調査
41	亀ヶ森古墳	会津坂下町大字青津字舘ノ越	会津坂下町教委	8月 16日 ～ 10月 11日	86 ㎡	古墳	古墳	史跡・遺跡整備に伴う調査
42	殿田遺跡	湯川村大字清水田字長瀞甲	湯川村教委	6月 10日 ～ 9月 30日	1,630 ㎡	縄文 奈良・平安	集落跡	役場新庁舎建設
43	堂後遺跡	湯川村大字勝常字堂後	湯川村教委	8月 31日 ～ 10月 26日	797 ㎡	縄文・弥生 古代～近世	散布地	保存目的の範囲内容確認調査
44	向羽黒山城跡	会津美里町字船場	会津美里町教委	6月 11日 ～ 11月 29日	70 ㎡	中世	城館跡	史跡整備
45	中才遺跡	南相馬市鹿島区寺内字中才	南相馬市教委	1月 6日 ～ 3月 31日	800 ㎡	縄文	散布地	災害公営住宅
46	桜井D遺跡	南相馬市原町区上渋佐字原田	南相馬市教委	4月 11日 ～ 5月 17日	329 ㎡	弥生～平安	集落	個人住宅
47	桜井D遺跡	南相馬市原町区上渋佐字原田	南相馬市教委	5月 16日 ～ 6月 22日	110 ㎡	弥生～平安	集落	個人住宅
48	榎内遺跡	南相馬市鹿島区横手字榎内	南相馬市教委	1月 7日 ～ 1月 30日	257 ㎡	縄文～平安	集落・古墳	個人住宅
49	椴ノ木沢C遺跡	南相馬市鹿島区浮田字椴ノ木沢	南相馬市教委	8月 19日 ～ 2月 7日	7,400 ㎡	奈良・平安	製鉄跡	道路
50	観音堂石仏	南相馬市小高区泉沢字後屋	南相馬市教委	8月 29日 ～ 2月 21日	143 ㎡	平安	寺院跡	覆屋復旧のための調査
51	桜田Ⅳ遺跡	広野町大字下浅見川字桜田	広野町教委	12月 21日 ～ 5月 30日	3,892 ㎡	奈良	散布地	その他建物
52	久之浜条里跡	いわき市久之浜町久之浜	いわき市教委	6月 5日 ～ 12月 4日	6,450 ㎡	奈良・中世	条里跡 集落跡	土地区画整理
53	専称寺境域(総門)	いわき市平山崎字梅福山	いわき市教委	6月 21日 ～ 8月 31日	50 ㎡	近世・近代	社寺跡	災害復旧
54	小原遺跡	いわき市岩間町小原	いわき市教委	8月 9日 ～ 11月 16日	1,660 ㎡	縄文	集落跡	土地区画整理

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	時代	種別	調査原因
55	前上ノ山遺跡(E地点)	いわき市久之浜町久之浜字上ノ山	いわき市教委	8月 26日 ～ 12月 20日	1,110 ㎡	弥生時代 平安時代	包含層	道路
56	専称寺境域(本堂)	いわき市平山崎字梅福山	いわき市教委	9月 17日 ～ 12月 21日	422 ㎡	近世・近代	社寺跡	災害復旧
57	三反田B遺跡	いわき市平薄磯字三反田	いわき市教委	12月 10日 ～ 2月 3日	265 ㎡	縄文～弥生	包含層	土地区画整理
58	酒井酒井原遺跡	いわき市勿来町酒井酒井原	いわき市教委	12月 11日 ～ 12月 27日	240 ㎡	縄文～平安	集落跡	宅地造成
59	御前田B遺跡	いわき市泉町滝尻字御前田	いわき市教委	1月 27日 ～ 3月 17日	540 ㎡	古代	集落跡	土地区画整理
60	前上ノ山遺跡(F地点)	いわき市久之浜町久之浜字上ノ山	いわき市教委	2月 21日 ～ 3月 19日	309 ㎡	弥生時代 平安時代	包含層	道路
61	南狼沢A遺跡	新地町谷地小屋字南狼沢	福島県教委	4月 10日 ～ 8月 23日	3,100 ㎡	縄文・平安・中世	製鉄跡	道路(常磐自動車道)
62	桜町遺跡	湯川村大字桜町字千苅	福島県教委	4月 10日 ～ 5月 17日	2,000 ㎡	平安・近世	集落跡	道路(会津縦貫北道路)
63	西木流C遺跡	会津若松市高野町大字西木流	福島県教委	4月 10日 ～ 11月 19日	10,400 ㎡	平安・近世	散布地	道路(会津縦貫北道路)
64	西木流D遺跡	会津若松市高野町大字西木流	福島県教委	5月 14日 ～ 9月 13日	2,800 ㎡	平安・近世	散布地	道路(会津縦貫北道路)
65	鶴沼B遺跡	会津若松市高野町大字中沼字鶴沼	福島県教委	4月 15日 ～ 11月 29日	12,100 ㎡	古墳・平安・中世以降	散布地	道路(会津縦貫北道路)
66	鶴沼C遺跡	会津若松市高野町大字中沼字鶴沼	福島県教委	4月 11日 ～ 11月 29日	11,000 ㎡	古墳～近世	散布地	道路(会津縦貫北道路)
67	西坂才遺跡	会津若松市高野町大字中沼字西坂才	福島県教委	4月 10日 ～ 10月 22日	7,800 ㎡	平安	散布地	道路(会津縦貫北道路)
68	トロミ遺跡	二本松市北トロミ・南トロミ	福島県教委	4月 8日 ～ 12月 19日	30,200 ㎡	縄文～鎌倉	集落跡	河川(阿武隈川上流河川改修)
69	宝直館跡	伊達市月舘町布川字立ヶ沢・大舘・宝直	福島県教委	4月 15日 ～ 7月 12日	1,600 ㎡	縄文・中近世	館跡	道路(相馬福島道路)
70	行合道B遺跡	伊達市霊山町大字石田字川向・行合道	福島県教委	4月 15日 ～ 7月 12日	1,900 ㎡	縄文・平安～近世	散布地	道路(相馬福島道路)
71	熊屋敷B遺跡	伊達市霊山町石田字熊屋敷	福島県教委	7月 16日 ～ 8月 26日	1,100 ㎡	縄文・近世	散布地	道路(相馬福島道路)
72	姥ヶ岩遺跡	相馬市東玉野字姥ヶ岩	福島県教委	8月 26日 ～ 10月 4日	1,000 ㎡	近世	散布地	道路(相馬福島道路)
73	川向遺跡	伊達市霊山町石田字川向・庚申向	福島県教委	10月 21日 ～ 12月 6日	2,400 ㎡	縄文	散布地	道路(相馬福島道路)
74	向山遺跡	相馬市東玉野字向山	福島県教委	11月 18日 ～ 1月 21日	2,400 ㎡	縄文、古代以降	散布地	道路(相馬福島道路)
75	東羽黒平遺跡	相馬市今田字東羽黒平	福島県教委	7月 1日 ～ 12月 6日	3,500 ㎡	縄文・平安・近世	散布地	道路(相馬福島道路)
76	天化沢A遺跡	南相馬市原町区天化沢	福島県教委	2月 12日 ～ 3月 7日	4,000 ㎡	奈良・平安	製鉄	土取り場候補地

3　平成２５年度文化財保存助成の充実

（１）文化財保存助成事業

国指定文化財の防災設備保守点検等の管理に必要な経費について、助成を行った。

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額（単位：円）			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
国指定文化財の管理に関する事業	八葉寺	八葉寺阿弥陀堂	建造物	防災保守点検等	231,000	57,000	58,000	116,000
国指定文化財の管理に関する事業	延命寺	延命寺地蔵堂	建造物	防災保守点検等	262,000	66,000	65,000	131,000
国指定文化財の管理に関する事業	飯盛正徳	旧正宗寺三匝堂	建造物	防災保守点検等	1,026,500	256,000	257,000	513,500
国指定文化財の管理に関する事業	横山操	旧滝沢本陣横山家住宅	建造物	防災保守点検等	218,001	55,000	54,000	109,001
国指定文化財の管理に関する事業	勝福寺	勝福寺観音堂	建造物	防災保守点検等	431,100	107,000	108,000	216,100
国指定文化財の管理に関する事業	熊野神社	熊野神社長床	建造物	防災保守点検等	1,144,300	286,000	286,000	572,300
国指定文化財の管理に関する事業	円満寺	円満寺観音堂	建造物	防災保守点検等	887,646	222,000	221,000	444,646
国指定文化財の管理に関する事業	飯野八幡宮	飯野八幡宮	建造物	防災保守点検等	810,377	202,000	203,000	405,377
国指定文化財の管理に関する事業	福生寺	福生寺観音堂	建造物	防災保守点検等	52,500	12,000	12,000	28,500
国指定文化財の管理に関する事業	常福院	常福院薬師堂	建造物	防災保守点検等	52,500	11,000	11,000	30,500
国指定文化財の管理に関する事業	法用寺	法用寺本堂内厨子及び仏壇	建造物	防災保守点検等	42,000	10,000	9,000	23,000
国指定文化財の管理に関する事業	願成寺	阿弥陀堂（白水阿弥陀堂）	建造物	小修理	1,047,900	261,000	262,000	524,900
計	１２件				6,205,824	1,545,000	1,546,000	3,114,824

（２）指定文化財保存活用事業（災害復旧事業を除く）

文化財の修理・防災・整備・調査・管理、埋蔵文化財保存調査等の事業（保存事業）とそれらの文化財を活用した事業（活用事業）を一体的に行った事業（保存活用事業）に必要な経費について、助成を行った。

ア　国指定文化財

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額（単位：円）			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
建造物保存修理	安積歴史博物館	旧福島県尋常中学校本館	建造物	塗装修理	25,275,000	20,000,000	792,000	4,483,000
建造物保存修理	恵隆寺	恵隆寺観音堂	建造物	屋根葺替	10,150,361	8,500,000	216,000	1,434,361
美術工芸品保存修理	会津若松市	会津大塚山古墳出土品	美術工芸品	修理	5,800,654	2,840,000	450,000	2,510,654
記念物保存修理	白河市	小峰城跡	史跡	計画策定	8,240,618	4,057,000	450,000	3,733,618
記念物保存修理	会津美里町	向羽黒山城跡	史跡	発掘調査	6,376,722	3,060,000	350,000	2,966,722
記念物保存修理	会津若松市	会津松平氏庭園	名勝	建物修理	12,461,960	6,125,000	455,000	5,881,960
記念物保存修理	猪苗代町	会津藩主松平家墓所	史跡	環境整備	8,649,852	4,097,000	450,000	4,102,852
記念物保存修理	会津若松市	会津藩主松平家墓所	史跡	便益施設	6,482,478	3,180,000	350,000	2,952,478
記念物保存施設	福島市	宮畑遺跡、市内遺跡	史跡	復元的整備	4,152,000	2,045,000	250,000	1,857,000
建造物保存修理	下郷町	下郷町大内宿	伝統的建造物群	保存修理	8,327,430	5,296,000	630,000	2,401,430
建造物保存修理	南会津町	南会津町前沢	伝統的建造物群	保存修理	19,289,885	12,361,000	819,000	6,109,885
重要無形民俗文化財伝承・活用等	相馬野馬追保存会	相馬野馬追	無形民俗	用具の修理・新調	2,539,884	1,250,000	270,000	1,019,884
計	１２件				117,746,844	72,811,000	5,482,000	39,453,844

イ　埋蔵文化財

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額（単位：円）			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
埋蔵文化財発掘調査等	湯川村	村内遺跡	—	保存目的の確認	10,559,403	5,187,000	550,000	4,822,403
埋蔵文化財発掘調査等	白河市	小峰城跡、白川城跡	史跡	史跡内容確認	4,816,467	2,369,000	250,000	2,197,467
埋蔵文化財発掘調査等	伊達市	市内遺跡	—	各種開発確認	10,335,770	5,000,000	550,000	4,785,770
埋蔵文化財発掘調査等	会津坂下町	町内遺跡	—	保存目的の確認	12,170,000	6,000,000	650,000	5,520,000
埋蔵文化財発掘調査等	桑折町	桑折西山城跡	史跡	保存目的の確認	9,277,575	4,340,000	450,000	4,487,575
埋蔵文化財発掘調査等	国見町	町内遺跡	—	保存目的の確認	6,045,368	2,900,000	250,000	2,895,368
埋蔵文化財発掘調査等	棚倉町	町内遺跡	—	保存目的の確認	3,828,525	1,874,000	150,000	1,804,525
埋蔵文化財発掘調査等	南相馬市	市内遺跡	—	各種開発確認	10,172,449	5,000,000	550,000	4,622,449
埋蔵文化財発掘調査等	福島市	市内遺跡	—	個人住宅本調査	7,105,000	3,500,000	350,000	3,255,000
計	９件				74,310,557	36,170,000	3,750,000	34,390,557

ウ　県指定文化財

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額（単位：円）			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
建造物保存修理	南泉寺	南泉寺鐘楼門	建造物	茅葺き替え	2,459,120	0	810,000	1,649,120
建造物保存修理	南会津町	旧南会津郡役所	建造物	内装改修	13,109,822	0	3,052,000	10,057,822
美術工芸品保存修理	白河ハリストス正教会	白河ハリストス正教会のイコン	美術工芸品	絵画修復	1,010,400	0	330,000	680,400
美術工芸品保存修理	虚空蔵堂奉賛会	虚空蔵菩薩坐像	美術工芸品	危険木伐採	906,500	0	300,000	606,500
天然記念物保護増殖	棚倉町	棚倉城の大ケヤキ	天然記念物	樹勢回復	1,052,554	0	350,000	702,554
天然記念物保護増殖	八坂神社	八坂神社の二本杉	天然記念物	枯枝伐採、囲い柵設置等	869,700	0	280,000	589,700
天然記念物保護増殖	東禅寺	東禅寺のめおとスギ	天然記念物	樹勢回復、枯枝伐採	1,920,000	0	640,000	1,280,000
計	7件				21,328,096	0	5,762,000	15,566,096

（3）指定文化財保存活用事業（災害復旧事業）

東日本大震災により被災した国指定・県指定文化財の修復等保存事業に必要な経費について、助成を行った。

ア　国指定文化財

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額（単位：円）			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
記念物保存修理	猪苗代町	会津藩主松平家墓所	史跡	鎮石ずれを修復	21,350,350	14,945,000	3,202,000	3,203,350
記念物保存修理	南相馬市	観音堂石仏	史跡	覆屋修復に向けた事前調査	3,989,299	2,792,000	598,000	599,299
記念物保存修理	南相馬市	薬師堂石仏	史跡	覆屋修復	9,787,261	6,850,000	1,468,000	1,469,261
記念物保存修理	白河市	南湖公園	史跡及び名勝	御影の島護岸修復	16,858,800	11,800,000	2,529,000	2,529,800
記念物保存修理	安積歴史博物館	旧福島県尋常中学校本館	建造物	漆喰壁落下・亀裂等を修復	58,585,435	49,797,000	3,515,000	5,273,435
記念物保存修理	専称寺	専称寺本堂及び総門	建造物	建物傾斜大を解体修復	100,000,000	85,000,000	7,500,000	7,500,000
計	6件				210,571,145	171,184,000	18,812,000	20,575,145

イ　県指定文化財

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額（単位：円）			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
建造物保存修理	願成寺	願成寺阿弥陀堂	建造物	建物全体の傾斜、歪み修復	97,806,000	0	48,902,000	48,904,000
建造物保存修理	西光寺	阿弥陀堂	建造物	建物全体の傾斜、歪み修復	9,523,500	0	4,761,000	4,762,500
美術工芸品保存修理	西光寺	木造阿弥陀如来坐像	美術工芸品	蓮の彫刻等の離脱を修復	1,152,152	0	576,000	576,152
記念物保存修理	岩角山	岩角寺	名勝及び天然記念物	石垣のゆるみ、建物等を修復	21,254,000	0	10,627,000	10,627,000
計	4件				129,735,652	0	64,866,000	64,869,652

【参考】平成２５年度に県費補助交付決定を行い、平成２６年度に繰越しを行った事業

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	見込金額（単位：円）			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
建造物保存修理	会津民俗館	旧馬場家住宅	建造物	家屋傾斜、壁崩落箇所を修復	63,000,000	53,550,000	3,780,000	5,670,000
記念物保存修理	いわき市	賢沼ウナギ生息地	天然記念物	魚見堂周辺崩落箇所等を修復	47,620,020	33,334,000	7,143,000	7,143,020
計	2件				110,620,020	86,884,000	10,923,000	12,813,020

(4)地域に根差した文化財災害復旧支援事業

東日本大震災により被災した、個人・法人が所有する国登録有形文化財の修復等保存事業に必要な経費について、助成を行った。

市町村	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額(単位:円)			
					事業費	国庫補助	県費補助	所有者等
郡山市	善導寺	善導寺本堂	宗教	漆喰壁剥離やその他の亀裂・割れ等を修復	11,025,000	0	1,500,000	9,525,000
郡山市	善導寺	善導寺庫裏	宗教	漆喰壁剥離や廊下破損等を修復	16,485,000	0	1,500,000	14,985,000
須賀川市	渡辺一夫	渡辺家住宅南蔵	住宅	屋根瓦のずれ及び下地破損を修復	2,100,000	0	400,000	1,700,000
計	3件				29,610,000	0	3,400,000	26,210,000

(5)地域の「きずな」を結ぶ民俗芸能支援事業

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故による被害により避難を余儀なくされた地域の市町村で活動した保存団体が行う、用具類の新調・修理、稽古等に必要な経費について、助成を行った。

なお、※印のついた民俗芸能については、稽古の様子や公演での演目披露の様子を記録保存した。

市町村	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額(単位:円)			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
富岡町	麓山神社氏子総代	麓山の火祭り	無形民俗文化財	公開	63,350	0	63,350	0
浪江町	津島郷土芸術保存会	津島の田植踊	無形民俗文化財	用具類の新調	700,000	0	700,000	0
浪江町	本城御神楽保存会	本城の神楽	—	用具類の修理、新調	447,500	0	447,500	0
南相馬市	塚原神楽保存会	塚原の神楽	—	用具類の新調	320,250	0	320,250	0
南相馬市	南海老芸能保存会	南海老の大蛇神楽	—	用具類の新調	733,150	0	733,150	0
南相馬市	鳥崎の子供手踊保存会	鳥崎の子供手踊※	無形民俗文化財	用具類の新調、公開	845,790	0	845,790	0
南相馬市	鳥崎の盆踊り保存会	鳥崎の盆踊	—	用具類の新調	600,000	0	600,000	0
大熊町	熊川稚児鹿舞保存会	熊川の獅子舞	—	用具類の新調、稽古、公開	1,168,750	0	1,000,000	168,750
南相馬市	北萱浜神楽愛好会	北萱浜の神楽と天狗枚	—	用具類の新調	733,665	0	733,665	0
南相馬市	鹿島御子神社敬神会	鹿島神子神社の神楽と大蛇神楽	—	用具類の新調	375,375	0	375,375	0
南相馬市	萱浜神楽保存会	萱浜の神楽	—	用具類の新調	702,355	0	702,355	0
双葉町	前沢婦人会芸能保存会	前沢女宝財踊り※	—	用具類の新調	29,400	0	29,400	0
双葉町	山田芸能保存会	山田のじゃんがら念仏踊り	—	稽古、公開	276,450	0	250,000	26,450
双葉町	郡山無形文化財保存会	郡山の神楽	—	稽古、公開	166,675	0	166,675	0
双葉町	はまなす会	はまなす会の神楽	—	用具類の新調	750,000	0	750,000	0
浪江町	大昼地区郷土芸能保存会	大昼の神楽	—	用具類の修理、新調	445,950	0	445,950	0
葛尾村	葛尾三匹獅子保存会	葛尾三匹獅子舞	—	用具類の新調、稽古	684,000	0	684,000	0
飯舘村	比曽芸能保存会	比曽の三匹獅子	—	稽古、公開	358,325	0	250,000	108,325
計	18件				9,400,985	0	9,097,460	303,525

4　文化財の愛護と公開の推進

(1)　第55回北海道・東北ブロック民俗芸能大会

北海道・東北地区に伝承されている民俗芸能を広く一般に公開し、その価値を周知するとともに、無形民俗文化財の保存・伝承、文化財公開による地域振興等に寄与する。

ア　期 日 平成25年10月26日 リハーサル・実行委員会

27日 開会式・民俗芸能公開

イ　場 所 八戸市公会堂(青森県八戸市)

ウ　公開演目 派遣団体　1団体

「室原の田植踊」室原郷土芸能保存会

(浪江町)

(2)　文化財保護強調週間の実施

文化財保護の一層の推進を図るために、11月1日から11月7日までの文化財保護強調週間を中心に、チラシを作成、配布し、県民に対し啓発を行った。

(3)　文化財防火デーの実施

文化財の防火について、所有者、管理者はもとより、県民の理解と協力を高めるため、1月 26 日の文化財防火デーを中心に、チラシを作成、配布するなど啓発を行った。

また、各市町村教育委員会においては、消防署等の協力を得て、防火訓練、防火診断、防火査察等を実施した。

5　銃砲刀剣類の登録状況

美術品若しくは骨とう品としての価値のある火縄式銃砲等の古式銃砲又は美術品として価値のある刀剣類の登録審査会を次のとおり実施した。

(1)　登録審査委員

鈴木俊一、陳内直史、塚本憲司、佐藤安弘

(2)　登録審査会の実施状況

期 日	会 場	審査数	失格数	登録数	左の内訳	
					刀 剣	銃 砲
5月23日	いわき合同庁舎	18	0	18	18	0
7月 3日	郡山市労働福祉会館	42	4	38	36	2
9月13日	会津若松合同庁舎	14	2	12	12	0
12月 5日	福 島 県 庁	68	1	67	67	0
2月20日	郡山市労働福祉会館	77	5	72	69	3
計		219	12	207	202	5

※　再交付に係る審査を除く。

(3)　銃砲刀剣類の譲り受け・相続等の届け出状況

区 分	銃 砲 等	刀 剣 類
譲 り 受 け	21	503
相 続	0	97
貸 付 け	0	0
保 管 の 委 託	0	5
計	21	605

第４節　財団法人福島県文化振興財団による文化財保護の推進

１　埋蔵文化財調査

(1)遺跡分布調査事業　　表面調査　11 ha　　試掘調査　97,500 ㎡

事業内容	所在地	調査面積		調査期間	結果
		表面（ha）	試掘（㎡）		
常磐自動車道 遺跡分布調査	新地町		50	4/26	遺跡を確認できず
復興交付金事業（市街地復興効果促進）新地町福田地区土取場 遺跡分布調査	新地町		18,000	11/25～12/13	２遺跡を確認した
一般国道115号相馬福島道路 遺跡分布調査	相馬市		65,700	4/15～12/12	２遺跡を確認した
	伊達市		13,750	8/26～12/20	１遺跡を確認した
主要地方道いわき上三坂小野線 （仮称）小名浜道路 表面調査	いわき市	11		H26/2/12～2/14	16遺跡を確認した
合　計		11	97,500		

(2)遺跡発掘調査事業　　97,300 ㎡

事業名	市町村	遺跡名	調査面積	調査期間	時代	主な検出遺構（特徴）など
会津縦貫北道路遺跡発掘調査	湯川村	桜町	2,000	4/10～5/17	平安・近世	土坑2
	会津若松市	西木流C	10,400	4/10～11/19	平安・近世	土坑4　流路1　溝13
		西木流D	2,800	4/10～11/19	平安・近世	掘立柱1　流路1
		鶴沼B	12,100	4/15～11/29	古墳・平安中世	土坑8　流路7　溝7
		鶴沼C	11,000	4/22～11/29	古墳・平安中世	掘立柱9　土坑36　流路3　溝25 ピット130　井戸1
		西坂才	7,800	4/10～10/4	平安	掘立柱9　土坑10　溝16 ピット131　土器焼成坑1
	小　計	6遺跡	46,100			
阿武隈川上流河川改修事業トロミ地区遺跡発掘調査	二本松市	トロミ	30,200	4/8～12/20	縄文・古墳 奈良・平安中世	竪穴住3　掘立柱3　土坑125 溝22　ピット46 畑跡11　遺物包含層4層
	小　計	1遺跡	30,200			
常磐自動車道路	新地町	南狼沢A	3,100	4/10～8/23	縄文・平安中世	竪穴住2　掘立柱2　製鉄炉4 鍛冶炉4　土坑17　焼土遺構1 溝6　道1
	小　計	1遺跡	3,100			
一般国道115号相馬福島（霊山道路道路）遺跡発掘調査	伊達市	宝直館跡	1,600	4/15～7/12	縄文 中近世	塚2　土坑4　焼土遺構2
		行合道B	1,900	4/12～7/12	縄文・平安中世	竪穴住1　木炭窯4　構築途中木炭窯4　土坑1
		熊屋敷B	1,100	7/16～8/26	縄文・近世	土坑5　溝跡2　木窯窯2
		川向	2,400	10/21～12/6	縄文・古代	竪穴住2　土坑2
	相馬市	姥ヶ岩	1,000	8/26～10/4	近世	木炭窯3　土坑3
		向山	2,400	11/18～H26.1/21	縄文・古代	土坑9
一般国道115号相馬福島（相馬相馬西道路）道路遺跡発掘調査	相馬市	東羽黒平	3,500	7/1～12/6	縄文・平安中世	竪穴住2　掘立柱2　製鉄炉4 鍛冶炉4土坑17　焼土遺構1 溝6　道1
	小　計	7遺跡	13,900			
復興基盤総合整備事業遺跡発掘調査	南相馬市	天化沢A	4,000	H26.2/18～3/4		表土剥ぎ作業のみ
	小　計	1遺跡	4,000			
合　計	市町村	遺跡	97,300			

(3)発掘調査報告書刊行

事業名	報告書名	収録遺跡名	頁数
遺跡分布調査	福島県内遺跡分布調査報告20	試掘調査22遺跡、表面調査（小名浜道路）	73
常磐自動車道路	常磐自動車道遺跡調査報告68	赤柴前(3･4)次調査、赤柴遺跡、北狼沢A遺跡	377
	常磐自動車道遺跡調査報告69	南狼沢遺跡、南狼沢A遺跡(1次調査)、南狼沢B遺跡	165
	常磐自動車道遺跡調査報告70	朴木原遺跡、新田遺跡	271
会津縦貫北道路遺跡発掘調査	会津縦貫北道路遺跡発掘調査報告13	西木流C遺跡(1次)	167
阿武隈川上流河川改修事業トロミ地区遺跡発掘調査	阿武隈川上流河川改修事業トロミ地区遺跡発掘調査報告2	トロミ遺跡（1･2次）	375
阿賀川下流狭窄部改修事業	阿賀川改修（長井地区）遺跡発掘調査報告3	小田高原遺跡(3次調査)	96
合　計	7冊	33遺跡	1,524

(4)県内市町村埋蔵文化財調査への技術協力事業

表面調査・試掘調査・発掘調査

No.		市町村名	遺跡名	面積（㎡）	時　期	期　　間	業務内容	市町村による判定		備　　考
								遺　構	遺　物	
会津	1	昭和村	上平遺跡	330	縄文	6/3・4	試掘調査	なし	石器	村道建設
	2	金山町	上町遺跡	1,100	縄文	9/10・11	試掘調査	なし	縄文土器	復興住宅建設
	3	湯川村	堂後遺跡	830	中世	11/5～7	確認調査	掘立柱跡 溝跡	土師器・陶器	範囲確認調査
	4	下郷町	塩生館跡	5,700	中世	11/11～15	試掘調査	溝跡	石器	集合住宅建設
中通り	5	須賀川市	ＳＫＧ－Ｂ３	12,850	縄文 中世	5/7～5/21	試掘調査	塚 掘立柱建物跡	縄文土器 かわらけ	国道118号バイパス建設
	6	小野町	大倉遺跡	2,400	縄文	8/27・28	試掘調査	竪穴住居跡	縄文土器	除染土仮置き場建設
	7	郡山市	堀之内・前田沢	75ha	—	9/2・3	表面調査	—	—	除染・ほ場整備
	8	矢祭町	上野内遺跡	2,100	古墳 平安	9/24～27	試掘調査	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 土坑等	土師器	統合小学校建設
	9		後原遺跡	700	縄文	10/2	試掘調査	なし	縄文土器	国道349号拡幅
	10		上野内遺跡 (1次)	1,500	古墳 奈良 平安	10/7～ 12/11間の 31日	発掘調査	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 土坑等	弥生 土師器 須恵器	統合小学校建設
	11		上野内遺跡 (2次)	650	古墳 奈良 平安	H26/3/17～ 20	発掘調査	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 土坑	弥生 土師器 須恵器	統合小学校建設
	12	国見町	(仮称) 長障子遺跡	15,000	縄文	H26/2/25～ 3/7	試掘調査	土坑・小穴	縄文土器 石器	除染・ほ場整備
浜通り	13	浪江町	大平山遺跡	10,000	縄文～中世	7/8～7/19	試掘調査	竪穴住居跡 土坑・柱穴	縄文・弥生 土師器・陶器	集団墓地移転
	14	広野町	上田郷Ⅵ 遺跡	1,200	縄文	8/19～22	試掘調査	土坑・小穴 焼土遺構	縄文土器 石器	工場建設
	15	飯舘村	IT-B①	9,400	縄文 平安	12/16～20	試掘調査	土坑	縄文土器	ほ場整備のための土取り

その他

会津	16	北塩原村	下高山遺跡	本発掘調査に伴う助言
中通り	17	川俣町	川俣代官所跡	試掘調査に伴う協議
	18	矢祭町	上関上ノ台遺跡	報告書作成に伴う支援

市町村数及びのべ事業数

２市８町４村（会津：２町３村，中通り：２市４町，浜通り：２町１村）　のべ18事業

2　文化財センター整備業務

業　務　名	箇　所	内　　容	数　　量
出土品の整理・搬送	空港・阿武隈南道路遺跡発掘調査 中下Ｂ遺跡など	整理済み出土遺物	580箱
		記録写真	23箱
		保存処理済み遺物	9箱
			小計　612箱
文化財データ入力	桜町遺跡など	遺物データベース入力	2,047件
出土品の劣化防止等	上吉田遺跡など 木質遺物	劣化防止処理	3,540件
	上吉田遺跡など 金属質遺物		7,070件
	上吉田遺跡など その他の資料		1,520件
	沼ノ上遺跡など	保存処理	100件
			小計　12,230件

第１０章　体育・健康

第１節　概要

東日本大震災により、甚大な被害を受けたが、「健康」や「体力」の必要性・重要性について、再認識されたところである。

学校体育の充実については、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視し、運動を楽しみながら体力の向上を目指す授業の普及に努めた。

また、体育の授業のさらなる充実と運動部活動の一層の活性化を図るため、地域スポーツ人材の活用実践支援事業及び武道指導者派遣事業により、中学校の武道・ダンスの授業と中・高等学校の運動部活動に専門的な技能を有する地域のスポーツ人材を指導者として派遣し、教員との連携による効果的な指導の実践に努めた。

健康教育の充実・普及については、平成16年度から実施している「うつくしまっ子すこやか事業」の中で、平成19年度より「学校すこやかプラン」を展開し、関係機関との連携や地域を巻き込んだ学校保健委員会の活性化を目指して取り組んでいる。さらに児童生徒の自ら健康的な生活を営む実践力を育むための指導の在り方について研究を深め、関係機関と一体となって児童生徒の健康課題解決を目指している。また、食生活を取り巻く社会環境等の変化に伴い、偏った栄養摂取、肥満等の生活習慣病の増加及び若年化など、食に起因する新たな健康問題が増加している。こうした状況の下、生涯を通じた健康づくりの観点から、食に関する指導を一層充実するとともに、各種研修会・講習会の開催を通して、衛生管理指導の徹底を図り、豊かで安全な学校給食の実現に努めた。

１　学校体育の充実

学校における体育・スポーツ活動のより一層の充実を図るとともに、本県児童生徒の実態を把握し、今日的な課題の解決に資するため「子どもの体力向上支援委員会」を開催し、具体的な方策について検証した。

また、小･中･高体育担当者連絡協議会や地域スポーツ人材の活用実践支援事業及び武道指導者派遣事業を実施し、運動に親しむ児童生徒の育成を図るとともに、体力・運動能力の向上と運動部活動の活性化に努めた。

さらに、「運動身体づくりプログラム」を７年ぶりに改訂し、解説書、ＤＶＤ、リズム太鼓ＣＤを作成した。また、同解説書をホームページに掲載するとともに、次年度に向けた普及準備に努めた。

２　学校保健・学校安全の充実

学校における健康教育の充実を図るため、ヘルスプロモーションの理念に基づく各種事業を推進している。「学校すこやかプラン」は、健康教育推進者研修会・ヘルシースマイル事業・心の健康教育セミナーの３つの柱で展開した。ヘルシースマイル事業は、健康課題の解決を図るため、各地区の養護教諭部会と連携し専門医等を派遣した。心の健康教育セミナーでは、心の健康つくりの中心となる養護教諭の資質向上を目指し、健康相談の充実を図った。

顕彰事業関係では、県教育委員会が行う「福島県学校歯科保健優良校表彰」のほかに、県学校保健会の「学校保健優良学校表彰」を行った。ここでは、自校の健康教育にかかわる課題を的確に捉え、地域と連携し、組織的・計画的に課題解決に向けた取組を行うとともに、児童生徒の主体的な活動が行われた学校を表彰した。

学校安全に関しては、学校災害安全指導者研修会を県内６カ所で開催し、学校防災マニュアルの見直しを図るとともに、放射線量のモニタリングや低減化対策に取り組んだ。また、交通安全教育の充実を図るため、学校安全指導者養成研修会を県内３か所で開催し、指導力向上に努めるとともに、全国で通学路上における交通事故が多発したことを受け、通学路の緊急合同点検の結果を踏まえ、それに基づく安全対策の取組を推進した。

３　食育の推進

学校における食育の方向を示す「ふくしまっ子食育指針」に基づき、食べる力、感謝の心、郷土愛を育み、望ましい食習慣を形成することを目指し、給食の時間や特別活動、各教科等教育活動全体で食に関する指導の充実を図った。また、学校における食育推進委員会を開催し、課題を明確にするとともに今後の方針と評価指標を検討した。さらに「朝食について見直そう週間運動」により朝食摂取率が向上し、栄養教諭を中核とした食に関する指導の充実と、学校・家庭・地域の協働による食育の推進を図った。

４　学校給食の充実

本年度の学校給食の実施状況を児童生徒数で見ると、食物アレルギー等で給食を受けない児童生徒を除き、完全給食は小学校99.8%、中学校98.3%、ミルク給食は小学校0.2%、中学校1.7%の実施率となっている。

米飯給食の週当たりの実施回数は学校１校あたり小学校3.34回、中学校3.37回、小・中学校平均で3.35回の実施となっている。学校給食費は、一食当たり小学校263円76銭、中学校309円18銭となっている。

次に、学校給食の充実を図るため、給食関係者を対象とした各種研修会をはじめ、学校栄養職員の専門的指導力を高めるため、新規採用学校栄養職員研修、学校栄養職員経験者研修Ⅰ（5年研）及び学校栄養職員専門研修（15年研）を実施した。

さらに、食中毒防止等衛生管理の徹底を図るためには、平成21年４月１日に施行された「学校給食衛生管理基準」（文部科学省告示第64号）の遵守が必要であることから、その実施状況の確認及び指導･助言のため、各教育事務所の指導

主事を中心として、単独校調理場47校、共同調理場15施設及び県立学校21施設について、学校給食施設訪問実施状況点検を実施した。

あわせて、安全・安心を確認した県農林水産物を学校給食に活用する市町村等の取組に対して「学校給食地場産物活用事業」を実施し、「いただきます。ふくしまさん」事業においては10市町村59校で実施し、学校給食おいしい県産農林水産物活用事業は11市町村100校で実施した。

第２節　表彰

１　体育関係

(1)　福島県教育委員会表彰

ア　学校保健功労者

氏　名	役職名
高橋　幸夫	(元)二本松市立安達中学校　学校医
原　　晋二	(元)いわき市立磐崎中学校　学校医
門馬　　功	(元)いわき市立汐見が丘小学校　学校歯科医
齋藤　松雄	(元)福島県立福島明成高等学校　学校医

イ　特別功績者(児童・生徒・団体)の部

学校名	校長名
猪苗代町立猪苗代中学校　男女ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ部	宇南山忠明
(富岡町立富岡第一中学校男女ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ部)	(吉田　隆見)
福島県立富岡高等学校　男女ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ部	大和田　修

(2)　公益財団法人日本学校体育研究連合会表彰

ア　最優秀校　該当なし

イ　優良校　　国立大学法人福島大学附属中学校

ウ　功労者

職　名	氏　名	学校・所属名
校　長	岩部　一道	郡山市立高倉小学校
校　長	吉川　　博	福島市立野田中学校
校　長	菊池　芳次	会津若松市立第一中学校
校　長	大原　正義	相馬市立中村第一中学校

(3)　福島県学校体育研究連合会表彰

ア　優良校

学校名	校長名
本宮市立五百川小学校	菅野　敦子
伊達市立梁川中学校	鈴木　昭夫
国立大学法人福島大学附属中学校	嶋津　武仁

イ　功労者

職　名	氏　名	学校名
校　長	菅野　則夫	郡山市立芳賀小学校
校　長	川島　　宏	会津若松市立第四中学校
教　諭	鹿野　治彦	福島県立いわき総合高等学校

２　学校保健・学校安全関係

(1)　文部科学大臣表彰

ア　学校保健・学校安全表彰(学校医・学校歯科医・学校薬剤師)

区　分	氏　名	勤務校
学　校　医	渡邉　昭夫	南相馬市立福浦小学校
学校歯科医	志田　公司	(元)喜多方市立高郷中学校
学校薬剤師	関　　孝一	福島県立会津第二高等学校

イ　学校保健・学校安全表彰(学校・団体)

該当なし

ウ　学校安全ボランティア活動奨励賞

団体名	代表者名
駒形地区子ども見守り隊	小熊　研一

(2)　平成25年度歯科衛生図画・ポスター・書写・標語コンクール表彰

＜最優秀入賞者＞

ア　図画の部

学　年	学　校　名	氏　名
小学校１年	天栄村立牧本小学校	太田　　匠
小学校２年	須賀川市立柏城小学校	矢橋　茉奈
小学校３年	白河市立小田川小学校	五十嵐　茜
特別支援学校	福島県立須賀川養護学校郡山分校	坂上　優佳

イ　ポスターの部

◎　小学校

学　年	学　校　名	氏　名
小学校４年	白河市立釜子小学校	小磯　　優
小学校５年	会津若松市立門田小学校	小勝　敬太
小学校６年	会津若松市立湊小学校	佐藤　麻衣
特別支援学校	福島県立須賀川養護学校郡山分校	高橋　直也

◎　中学校

学　年	学　校　名	氏　名
中学校１年	白河市立白河中央中学校	鈴木　涼花
中学校２年	白河市立白河中央中学校	平山　怜奈
中学校３年	矢吹町立矢吹中学校	木村　桜子

ウ　書写の部

学　年	学　校　名	氏　名
小学校１年	須賀川市立第一小学校	小山　幹大
小学校２年	いわき市立小名浜第一小学校	皆川真太郎
小学校３年	須賀川市立第一小学校	小山　桜歩
小学校４年	白河市立白河第二小学校	目黒　恭涼
小学校５年	会津若松市立行仁小学校	星　　清夏
小学校６年	会津若松市立城南小学校	杉原ほたる

中学校全学年	いわき市立湯本第一中学校	伊藤　綾
特別支援学校	福島県立須賀川養護学校郡山分校	塚野　栞菜

エ　標語の部

学　年	学　校　名	氏　名
小・中学校	喜多方市立第三小学校	渡部　光
特別支援学校	福島県立会津養護学校竹田分校	星　いずみ

(3)　福島県学校歯科保健優良校表彰

ア　特別表彰　　なし

イ　栄誉賞

No.	域　内	学　校　名
1	県　南	西郷村立米小学校
2	特　支	福島県立盲学校（小学部）

ウ　最優秀賞　　２校

No.	域　内	学　校　名
1	県　北	福島市立水保小学校
2	県　南	西郷村立羽太小学校

エ　優秀賞　　２１校

◎小学校（１１学級以下）　１０校

No.	域　内	学　校　名
1	県　北	福島市立東湯野小学校
2	県　北	伊達市立富成小学校
3	県　中	浅川町立山白石小学校
4	県　南	白河市立信夫第二小学校
5	県　南	棚倉町立社川小学校
6	会　津	会津若松市立大戸小学校
7	会　津	喜多方市立第三小学校
8	会　津	喜多方市立駒形小学校
9	会　津	北塩原村立さくら小学校
10	会　津	湯川村立勝常小学校

◎小学校（１２学級以上）　４校

No.	域　内	学　校　名
1	県　北	福島市立清水小学校
2	県　中	須賀川市立柏城小学校
3	会　津	会津若松市立河東学園小学校
4	会　津	喜多方市立第一小学校

◎中学校（１１学級以下）　５校

No.	域　内	学　校　名
1	県　中	須賀川市立長沼中学校
2	県　中	玉川村立須釜中学校
3	県　南	白河市立東中学校
4	県　南	白河市立大信中学校
5	南会津	南会津町立舘岩中学校

◎中学校（１２学級以上）　１校

No.	域　内	学　校　名
1	県　中	石川町立石川中学校

◎特別支援学校　１校

No.	域　内	学　校　名
1	特　支	福島県立盲学校（中学部）

オ　優秀活動奨励賞　　１校

No.	域　内	学　校　名
1	県　南	西郷村立川谷小学校

カ　努力賞　　３６校

◎小学校（１１学級以下）　２２校

No.	域　内	学　校　名
1	県　北	川俣町立福田小学校
2	県　北	伊達市立小国小学校
3	県　北	二本松市立小浜小学校
4	県　中	郡山市立御代田小学校
5	県　中	須賀川市立長沼小学校
6	県　中	須賀川市立長沼東小学校
7	県　中	須賀川市立白方小学校
8	県　中	天栄村立大里小学校
9	県　中	石川町立沢田小学校
10	県　中	石川町立中谷第二小学校
11	県　中	玉川村立川辺小学校
12	県　中	玉川村立須釜小学校
13	県　中	平田村立蓬田小学校
14	県　中	平田村立小平小学校
15	県　中	田村市立芦沢小学校
16	県　南	矢祭町立東館小学校
17	会　津	喜多方市立松山小学校
18	会　津	喜多方市立熊倉小学校
19	会　津	喜多方市立豊川小学校
20	南会津	南会津町立舘岩小学校
21	南会津	只見町立只見小学校
22	いわき	いわき市立渡辺小学校

◎小学校（１２学級以上）　６校

No.	域　内	学　校　名
23	県　北	桑折町立醸芳小学校
24	県　中	石川町立石川小学校
25	県　南	西郷村立小田倉小学校
26	県　南	矢吹町立善郷小学校

27	いわき	いわき市立郷ヶ丘小学校
28	いわき	いわき市立中央台東小学校

◎中学校（１１学級以下）　３校

No.	域　内	学　校　名
29	県　北	伊達市立松陽中学校
30	県　中	石川町立沢田中学校
31	県　中	平田村立蓬田中学校

◎中学校（１２学級以上）　３校

No.	域　内	学　校　名
32	県　北	福島市立福島第二中学校
33	県　南	西郷村立西郷第一中学校
34	いわき	いわき市立中央台南中学校

◎特別支援学校　２校

No.	域　内	学　校　名
32	特　支	福島県立郡山養護学校（小学部）
33	特　支	福島県立いわき養護学校（中学部）

(4)　福島県学校保健会表彰

ア　学校保健優良学校（２校）

No.	学　校　名	校　長　名
1	川俣町立富田小学校	竹之下道子
2	会津若松市立大戸小学校	山本　　靖

イ　学校保健功労者（２１名）

No.	職　名	氏　名	勤　務　校
1	学校医	佐原　　元	喜多方市立第一中学校　他
2	〃	武田　尚壽	喜多方市立堂島小学校　他
3	〃	遠藤　德雄	新地町立新地小学校　他
4	〃	谷口　孝一	いわき市立夏井小学校　他
5	〃	渡辺　秀夫	いわき市立常磐第一保育園
6	学校歯科医	秋田　民夫	福島市立信陵中学校
7	〃	樋口　亮一	福島市立岡山小学校　他
8	〃	五十嵐迪子	白河市立東北中学校　他
9	〃	河田修一郎	南相馬市立太田小学校　他
10	学校薬剤師	藤田　俊德	二本松市立二本松北小学校　他
11	〃	菅野　英樹	二本松市立東和中学校　他
12	〃	佐藤　　悟	福島県立相馬高等学校　他
13	〃	小貫　春夫	広野町立広野小学校
14	〃	関　　洋美	いわき市立玉川中学校　他
15	養護教諭	田中　洋子	福島県立郡山高等学校
16	〃	坂上　　緑	本宮市立白沢中学校
17	〃	菅野　恵子	伊達市立松陽中学校
18	〃	小滝　久子	郡山市立大成小学校
19	〃	影山　靖子	郡山市立安積中学校
20	〃	栁沼美智子	白河市立小田川小学校
21	〃	矢吹久美子	塙町立塙中学校

ウ　学校安全ボランティア活動奨励賞（２団体）

No.	団　体　名	代表者名
1	明健小学区通学路定点パトロール隊	本間　守昭
2	小林明朗見守り隊	角田　定平

エ　学校保健会感謝状（１０名）

No	職　名	氏　名	勤　務　校
1	学　校　医	猪野登喜子	(前)福島市立清水小学校
2	〃	三浦　　武	(前)喜多方市立高郷中学校
3	学校歯科医	金子　　振	(前)福島市立福島第二小学校　他
4	〃	坪井　栄久	(前)郡山市立小山田小学校
5	学校薬剤師	阿部　禮子	(前)郡山市立熱海小学校　他
6	〃	荒川　哲栄	(前)いわき市立四倉中学校　他
7	校　長	星　　浩次	(前)福島県立磐城高等学校
8	養護教諭	冨田美智子	(前)　福島県立福島中央高等学校
9	〃	栁内とき子	(前)郡山市立西田中学校
10	〃	大竹　惠子	(前)　福島県立磐城高等学校

3　学校給食関係

(1)　文部科学大臣表彰

ア　学校給食優良学校等　　該当なし

イ　学校給食功労者

職　名	氏　名	所　属
栄養教諭	井間眞理子	川俣町立川俣南小学校

(2)　公益財団法人福島県学校給食会会長・福島県学校給食研究会会長表彰

ア　学校給食優良団体

団体名	校長・施設長名
白河市立白河第一小学校	角田彰三郎
会津若松市立小金井小学校	佐藤　京子
二本松市立岩代学校給食ｾﾝﾀｰ	杉山啓一郎

イ　学校給食功労者

職　名	氏　名	所　属
主任栄養技師	菊地　金子	(前)福島市立杉妻小学校
主任栄養技師	菊地真知子	相馬市立中村第一小学校
栄養教諭	鈴木　洋子	いわき市立四倉学校給食共同調理場

第３節　学校体育

１　学校体育関係各種研修

(1)　小・中・高体育担当者連絡協議会

県　北：平成25年11月26日（火）
　　県文化センター　168名参加
県　中：平成25年11月20日（水）
　　郡山ユラックス熱海　220名参加
県　南：平成25年11月25日（月）
　　白河市産業プラザ　73名参加
会　津・南会津
　　：平成25年11月21日（木）
　　下郷ふれあいセンター　139名参加
相　双：平成25年11月19日（火）
　　相馬市総合福祉センター　50名参加
いわき：平成25年11月27日（水）
　　いわき合同庁舎南分庁舎　142名参加

(2)　子どもの体力向上指導者養成研修

県中央研修：平成25年6月27日（木）
　　あづま総合運動公園　49名参加
地区別研修
県北地区：平成25年8月22日（木）
　　福島市体育館・武道館、福大附属小
　　93名参加
県中地区：平成25年8月20日（火）
　　郡山市総合体育館　167名参加
県南地区：平成25年8月22日（木）
　　白河市立表郷中学校　74名参加
会津・南会津地区
　　：平成25年8月8日（木）
　　あいづ総合体育館　153名参加
相双地区：平成25年8月2日(金)
　　南相馬市スポーツセンター　45名参加
いわき地区：平成25年8月21日（水）
　　いわき総合体育館　95名参加

(3)　ダンス・表現指導者養成研修会

平成25年8月1日（木）
福島市国体記念体育館　141名参加

(4)　学校フォークダンス指導者養成研修会

平成25年11月14日（木）
あいづ総合体育館　41名参加

2 福島県高等学校体育連盟

（1）平成２５年度福島県高等学校体育連盟役員

顧問(歴代会長)		折笠常弘(15代)　早川俊一(16代)　齋藤　久(18代)　砂子田敦博(19代) 杉原陸夫(20代)　高城俊春(21代)　斎藤和也(22代)　古市孝雄(23代) 富田孝志(24代)　星本文(25代)　新井田　大(26代)　冨田昭夫(27代) 笠井淳一(県教育庁健康教育課長)　廣瀬敬彦(県体育協会専務理事)
参与(歴代理事長)		陸　勤(７代)　髙橋充雄(９代)　浅尾晃左(11代)　菅野一治(12代) 渡辺正昭(13代)　赤沼健一(14代)　渡邊正仁(15代)
会長		本間　稔（福島高校長）
副会長(地区会長)		橘　和彦（梁川高校長）長岐　博（田村高校長）箱崎二三彦（会津高校長） 吉田豊彦（いわき総合高校長）菅野　諭（相馬東高校長）
理事長		穐本哲哉（福島　）
事務局長		齋藤　靖（安積黎明）
常任理事		穂積祐司（健康教育課）渡部浩一（県体育協会）大内　悟（安達　） 宗像孝幸（福島　）千田則和（郡山萌世（通信制））
常任理事・理事	県北	☆◎瀬田川広行（橘　）☆○阿部秀男（福島商業）☆菊田貴幸（福島工業） ☆長澤敏浩（梁川　）☆佐藤直明（福島東稜）△芳賀祐太（学法福島）
	県南	☆◎齋藤　靖（安積黎明）○齊藤　勝（郡山商業）　矢吹秀司（塙工業） 小針竜之（学法石川）△橋本璃乃（郡山　）
	会津	☆◎齋藤真人（葵　）○紅屋　聡（会津　）　植田浩司（喜多方） △市村裕也（耶麻農業）
	いわき	☆◎菅野長敏（磐城桜が丘）○阿部秀幸（いわき総合）　小川尚之（磐城　） △鈴木雅史（磐城桜が丘）
	相双	☆◎皆原邦彦（相馬　）○奥村修平（原町　）　平子雅通（小高工業） △佐々木康彦（相馬　）
監事		西山文夫（川俣　）五十嵐　直（喜多方桐桜）
会長指名理事		穂積祐司（健康教育課）渡部浩一（県体育協会）
幹事		田邊　惟（福島　）菅野悟史（福島東　）橘内聡志（福島南　）
(財)福体協理事		本間　稔（福島高校長）
同評議員		穐本哲哉（福島　）齋藤　靖（安積黎明）齋藤真人（葵　） 菅野長敏（磐城桜が丘）皆原邦彦（相馬　）
(財)全国高体連評議員		本間　稔（福島高校長）
東北高体連副会長		本間　稔（福島高校長）
同常任理事		穐本哲哉（福島　）
同理事		齋藤　靖（安積黎明）

☆常任理事　◎地区理事長　○地区副理事長　△地区生徒理事

（2）第５９回福島県高等学校体育大会日程・会場　※○・・・終日　□・・・半日

開催地区	No.	種目名	日程 6/1(土)	6/2(日)	6/3(月)	会場	参加人数
県北	1	サッカー 男子	5月25日(土)・26日(日)・31日(金)・6月1日(土)			十六沼公園サッカー場　県北地区各高校	500
		サッカー 女子	5月31日(金)～6月1日(土)			十六沼公園サッカー場	76
	2	剣道	6月4日(火)～6日(木)			あづま総合体育館	650
	3	体操 体操競技	5月24日(金)～26日(日)			福島市国体記念体育館	64
	4	馬術	5月18日(土)～19日(日)			福島競馬場	42
	5	登山	5月29日(水)～1日(土)			吾妻連峰（福島市　猪苗代町）	211
	6	ﾌｪﾝｼﾝｸﾞ	○	○		福島商業高校　第2体育館	19
	7	カヌー競技		○		二本松市阿武隈漕艇場	20
	8	ライフル射撃		○		二本松市総合射撃場	17
県南	9	陸上競技	5月24日(金)～27日(月)			郡山市開成山陸上競技場	1,490
	10	ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ	6月8日(土)～10日(月)			郡山総合体育館　郡山西部体育館　帝京安積高校	912
	11	テニス	○	○	□	天栄村　羽鳥湖高原レジーナの森	437
	12	ハンドボール	○	○	□	石川町総合体育館　学法石川高校体育館　光南高校体育館	720
	13	バドミントン	5月30日(木)～1日(土)			白河中央体育館	559
	14	水泳 競泳	6月21日(金)～23日(日)			郡山ｶﾙﾁｬｰﾊﾟｰｸﾌﾟｰﾙ	436
		水泳 飛込	7月10日(水)			郡山ｶﾙﾁｬｰﾊﾟｰｸﾌﾟｰﾙ	2
	15	相撲	○	○		日大東北高校相撲場	19
	16	空手道	5月31日(金)～6月2日(日)			尚志高校　体育館	101
	17	自転車競技(ﾛｰﾄﾞ)		○		西郷村小田倉台上の周回コース	32
	18	ｳｪｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	○	○		田村高校　東体育場	41
	19	ホッケー	○			棚倉高校跡地グラウンド	27
	20	スケート スピード	12月6日(金)			磐梯熱海スポーツパーク郡山スケート場	7
		スケート ﾌｨｷﾞｭｱ	11月17日(日)			磐梯熱海アイスアリーナ	
	21	アーチェリー	○			三春町営グラウンド	40
	22	駅伝競走	10月22日(火)～23日(水)			田村市駅伝コース	558
会津	23	ソフトテニス	○	○	□	会津若松総合運動公園テニスコート　会津庭球場	707
	24	ソフトボール	○	○	□	男子　喜多方市　押切川運動公園多目的広場	155
						女子　会津若松市　総合運動公園	524
	25	柔道	○	○	□	鶴ヶ城体育館	285
	26	体操 新体操	5月24日(金)～26日(日)			鶴ヶ城体育館	64
	27	ボート	5月31日(金)～2日(日)			福島県営荻野漕艇場	87
	28	レスリング	○	○		田島高校	45
	29	スキー	26年1月14日(火)～16日(木)			ｱﾙﾍﾟﾝ：猪苗代ｽｷｰ場　ｸﾛｶﾝ：猪苗代ｸﾛｽｶﾝﾄﾘｰｺｰｽ	41
	30	なぎなた	○	○		葵高校	33
いわき	31	バレーボール	○	○	□	いわき市立総合体育館　磐城桜が丘高校　平工業高校　いわき光洋高校	1,328
	32	ﾗｸﾞﾋﾞｰﾌｯﾄﾎﾞｰﾙ	10月26日(土)・27日(日)・11月2日(土)9日(土)			21世紀の森公園いわきｸﾞﾘｰﾝﾌｨｰﾙﾄﾞ・多目的広場	269
	33	卓球	5月25日(土)～27日(月)			いわき市総合体育館	576
	34	弓道	○	○	□	いわき市立いわき弓道場	624
	35	自転車競技(ﾄﾗｯｸ)	5月29日(水)～31日(金)			いわき平競輪場	32
	36	軟式野球	7月6日(土)～7日(日)			いわき市南部スタジアム	67
	37	ボクシング	5月31日(金)～2日(日)			磐城緑蔭高校	21
	38	ヨット	○			いわき市　小名浜港	5
特殊専門部		定時制通信制	6月8日(土)～9日(日)			あづま総合体育館　ふるさとの森スポーツパーク野球場 あづま庭球場　福島工業高校　福島中央高校　郡山萌世高校	456

3　福島県中学校体育連盟

(1)　平成２５年度福島県中学校体育連盟役員

役職名	氏名	所属名	地区名
会長	佐々木祐司	郡山四中	県中
地区会長	吉川　博	野田中	県北
	鈴木　訓夫	安積中	県中
	面川　三雄	白河二中	県南
	酒井　完	若松二中	会津
	笹川　庸雄	四倉中	いわき
	遠藤・弘通	小高中	相双
理事長	福地　誠志	福島三中	県北
理事	丹野　英雄	県教育庁健康教育課指導主事	
	久保寺　徹	大玉中	県北

役職名	氏名	所属名	地区名
理事	北澤　和久	安積二中	県中
	小出　義則	白河二中	県南
	高橋　主税	若松二中	会津
	松本　仁志	永井中	いわき
	藍原　広明	小高中	相双
監事	佐藤　卓弘	明健中	県中
	吉田　兼光	好間中	いわき
	濱名　新一	浪江中	相双
顧問	伊東　豊		県中
事務局長	長正　壮平	東和中	県北

(2)　第５６回福島県中学校体育大会

競技種目		競技場	期日	参加人数
陸上競技		いわき陸上競技場	７月２日（火）～７月４日（木）	1,340
水泳競技	競泳	郡山カルチャーパークプール	７月２２日（日）～７月２４日（火）	
	飛込み	郡山カルチャーパークプール	７月１０日（水）	
軟式野球		あづま球場	７月２４日（水）～７月２６日（金）	
		信夫ヶ丘球場	７月２４日（水）～７月２５日（木）	
		ほばら大泉野球場	７月２４日（水）	
		しらさわグリーンパーク	７月２４日（水）	
ソフトボール		十六沼運動公園スポーツ広場	７月２３日（火）～７月２４日（水）	
バスケットボール		いわき市立総合体育館	７月２３日（火）～７月２４日（水）	
		いわき南の森スポーツパーク南部アリーナ	７月２３日（火）	
バレーボール		あいづ総合体育館	７月２３日（火）～７月２４日（水）	
		鶴ヶ城体育館	７月２３日（火）～７月２４日（水）	
		会津若松市立第二中学校体育館	７月２３日（火）	
ソフトテニス		しらさかの森スポーツ公園テニスコート	７月２３日（火）～７月２４日（水）	4,725
卓球		南相馬市スポーツセンター	７月２３日（火）～７月２４日（水）	
バドミントン		白河市中央体育館	７月２３日（火）～７月２４日（水）	
サッカー		あいづ総合運動公園サッカー場・同多目的広場	７月２２日（月）～７月２４日（水）	
		会津若松市立北会津中学校	７月２２日（月）	
		福島県立学鳳高等学校	７月２２日（月）	
ハンドボール		郡山西部第二体育館	７月２２日（月）～７月２４日（水）	
		郡山西部体育館	７月２２日（月）～７月２３日（火）	
柔道		二本松市城山総合体育館	７月２３日（火）～７月２４日（水）	
剣道		須賀川アリーナ	７月２３日（火）～７月２４日（水）	
相撲		郡山相撲場	７月２３日（火）～７月２４日（水）	
新体操		福島市国体記念体育館	７月２２日（月）～７月２４日（水）	
体操競技		県営あづま総合体育館	７月２３日（火）～７月２４日（水）	
駅伝競走		西郷村台上コース	１０月１日（火）～１０月２日（水）	615
スケート		磐梯熱海スポーツパーク郡山スケート場	１２月６日（金）	15
スキー		猪苗代スキー場	１月１５日（水）～１月１７日（金）	250
		猪苗代クロスカントリースキーコース	１月１４日（火）～１月１６日（木）	

第４節　学校保健・学校安全

１　学校保健・学校安全研修会等

①　学校保健

事業名	期　日	会　場	参加人数
養護教諭経験者研修Ⅰ	校内研修（３日間） 校外研修（３日間） 宿泊研修 ８月７日（水） ～８月９日（金）	学校の計画による各教育事務所の計画による教育センター	15名
養護教諭経験者研修Ⅱ	校内研修(4日以上) 校外研修(6日以上) 宿泊研修 ７月３１日（水） ～８月２日（金）	学校の計画による各教育事務所・学校の計画による教育センター	15名
健康教育推進者研修会	７月８日（月）	安積総合学習センター	105名
	７月１０日(水)	県文化センター	62名
心の健康教育セミナー	11月26日(火)	安積総合学習センター	101名

②　学校安全

・学校災害安全指導者研修会

県北・相双：平成25年9月19日（木）

県文化センター　219名参加

県中・県南：平成25年9月4日（水）

郡山市民文化センター　259名参加

会津・南会津：平成25年9月3日（火）

下郷ふれあいセンター　124名参加

いわき：平成25年9月9日（月）

いわき合同庁舎南分庁舎　124名参加

・学校安全指導者養成研修会

平成25年7月31日（水）

安積総合学習センター　144名参加

２　児童・生徒の健康管理費補助

(1)　要保護児童生徒援助費補助金(医療費)

学校安全保健法第25条の規定に基づく補助金の交付状況は次のとおりである。

ア　県立学校

対象児童生徒数（人）		設置者が援助した額（円）	補助金確定額(円)
区　分	特別支援学校		
要保護	3	17,510	8,755
計	3	17,510	8,755

イ　市町村立学校

対象児童生徒数（人）				設置者が援助した額(円)	補助金確定額(円)
区　分	小学校	中学校	特別支援学校		
要保護	74	54	0	2,355,335	1,071,000
計	74	54	0	2,355,335	1,071,000

３　教職員の健康管理

教職員の健康管理を適正に行うため、雇入時健康診断、教職員定期健康診断、教職員結核健康診断を実施した。

(1)　雇入時健康診断結果

教育庁及び県立学校等の新規採用教職員

ア　健康診断実施状況の内訳

受診者数	要注意者数		要精密検査者数	
	人数	割合	人数	割合
１５５	４６	２９．７％	５２	３３．５％

イ　精密検査の内訳

検査項目	聴力	血圧	貧血	血中脂質	肝機能	血糖	尿	心電図	胸部
受診者数	１５４	１５５	１５４	１５４	１５４	１５５	１５３	１５５	１５５
要精密検査者数	2	6	6	２５	１１	2	１１	2	2
要精密検査率	１．３％	３．９％	３．９％	１６．２％	７．１％	１．３％	７．１％	１．３％	１．３％

（注）要精密検査者については、要精密検査項目が１人で２つ以上ある場合には、該当項目にそれぞれ計上した。

(2) 教職員定期健康診断結果

教育庁及び県立学校等教職員（新規採用教職員を除く）

ア　健康診断実施状況の内訳

区分 / 年齢・性別		受診者数	要注意者数		要精密検査者数	
		人数	人数	割合（%）	人数	割合（%）
35歳以上	男性	3,353	1007	30.0%	1,797	53.6%
	女性	1,913	751	39.3%	695	36.3%
	計	5,266	1,758	33.4%	2,492	47.3%
35歳未満	男性	732	266	36.3%	272	37.2%
	女性	752	212	28.2%	190	25.3%
	計	1,484	478	32.2%	462	31.1%
合計	男性	4,085	1,273	31.2%	2,069	50.6%
	女性	2,665	963	36.1%	885	33.2%
	計	6,750	2,236	33.1%	2,954	43.8%

イ　要精密検査の内訳

検査項目	聴力		血圧		貧血		血中脂質		肝機能		腎機能	
年齢	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上
受診者数	1,484	5,251	1,471	5,265	1,467	5,249	1,467	5,254	1,468	5,253	1,464	5,057
要精密検査者数	16	293	54	632	54	223	239	1,254	107	565	61	204
要精密検査率	1.1%	5.6%	3.7%	12.0%	3.7%	4.2%	16.3%	23.7%	7.3%	10.8%	4.2%	4.0%

検査項目	血糖		尿		心電図		胃エックス線		大腸がん		眼底	
年齢	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上
受診者数	1,470	5,264	1,439	5,206		5,234		4,364		4,945		5,168
要精密検査者数	6	230	93	296		150		271		316		197
要精密検査率	0.4%	4.4%	6.5%	5.9%		2.3%		6.2%		6.4%		3.8%

（注）　要精密検査者については、要精密検査項目が１人で２つ以上ある場合には、該当項目にそれぞれ計上した。

(3) 教職員結核健康診断結果

教育庁及び県立学校等教職員（新規採用教職員を除く）

受診者数	要精密検査者数	要精密検査率
６，４００人	７１人	１．１%

4　福島県学校保健会

(1) 会　　員

ア 県内小・中学校及び高等学校の児童生徒

イ 学校医、学校歯科医、学校薬剤師及び学校保健関係者

(2) 財　　政

平成25年度予算額　　5,042,323円

(3) 事業概要

ア 学校保健講習会の開催（県内21支部単位）

イ 学校保健優良学校・学校保健功労者表彰・学校安全ボランティア奨励賞

ウ 各種研究大会、講習会等への派遣

エ 刊行物の発行

学校保健会報　第44号

5　独立行政法人日本スポーツ振興センター

(1) 災害共済給付契約加入状況

県立学校の平成25年度の加入幼児児童生徒数は47,954人で、前年度に比べ2,177人減少した。

児童生徒は、一部の長期欠席者等を除き全員加入している。

(2) 災害共済給付状況

県立学校において、平成25年度「学校管理下」で発生した児童生徒等の災害は、給付件数では3,781件（平成24年度5,765件）、給付金額では35,857,738 円である。

給付件数では1,984件減少し、給付金額では30,688,787円減少した。

(3) 平成25年度県立学校災害共済給付状況

区分		医療費		障害見舞金		死亡見舞金		供花料		合計	
		(発生件数) 給付件数	給付額	給付件数	給付額	給付件数	給付額	給付件数	給付額	(発生件数) 給付件数	給付額
		件	円	件	円	件	円	件	円	件	円
小学校		(11) 17	34,798	0	0	0	0	0	0	(11) 17	34,798
中学校		(22) 53	391,995	0	0	0	0	0	0	(22) 53	391,995
高等学校	全日制	(1,489) 3,688	28,162,709	1	6,900,000	0	0	1	170,000	(1,489) 3,690	35,232,709
	定時制	(8) 18	192,746	0	0	0	0	0	0	(8) 18	192,746
	通信制	(2) 3	5,490	0	0	0	0	0	0	(2) 3	5,490
合計		(1,532) 3,779	28,787,738	1	6,900,000	0	0	1	170,000	(1,532) 3,781	35,857,738

(4) 学校安全支援業務

ア　各種研修会等への講師派遣

第５節　学校給食

１ 学校給食に関する研修会

名称	開催月日	会場	参加人数
学校給食担当者会議	2月10日	ﾊｲﾃｸﾌﾟﾗｻﾞ	50名
新規採用学校栄養職員研修	校内研修 各15日	所属校・ 勤務共同調理場	3名
	校外研修 地区別研修A　4日 地区別研修B　3日	教育事務所の計画による 市町村教育委員会の計画による	
	宿泊研修A　3日 5月28日～30日	国立磐梯青少年交流の家	
	宿泊研修B　3日 8月19日～21日	教育センター	
学校栄養職員経験者研修Ⅰ	校内研修　2日以上	所属校・勤務共同調理場	6名
	宿泊研修　2日 9月25日～26日	教育センター	
学校栄養職員専門研修	宿泊研修　3日 9月3日～5日	教育センター	12名

２ 学校給食用パン品質調査

学校給食用パン品質を良化して、学校給食の食事内容の充実向上に役立たせるため実施した。

教育事務所	調査件数
県北	6 件
県中	20 件
県南	8 件
会津	3 件
南会津	2 件
相双	2 件
いわき	9 件
合計	50 件

３　食育に関する研修会等

(1) 栄養教諭研修会

○　日　時　　平成25年11月26日（火）
○　会　場　　三春町立三春中学校
○　対象者　　栄養教諭24名

4　学校給食関係の国庫助成実績

平成23年４月1日付け23文科施第３号文部科学大臣裁定「学校施設環境改善交付金要綱」に基づく交付金の状況は、次のとおりである。

平成25年度「学校施設環境改善交付金」（学校給食施設）

設置者名	交付額	学校又は共同調理場名	事業名	児童生徒数	構造	交付面積
	千円			人		㎡
石川町	6,919	石川小学校（Ⅰ期）	単独校調理場(新増築)	393	鉄筋コンクリート造(R)	60
計	千円 6,919	1件				

第６節　体育施設

1　公立学校施設整備費補助（学校体育諸施設補助）

(1)　水泳プール（屋外）

設置者名	施設名	水面積（m²）	交付金額（千円）
郡山市	橘小学校	２７５	３４，８５５
白河市	白河第二小学校（Ⅲ期）	９８	１７，２０４
須賀川市	仁井田中学校	３２５	２７，５００
南相馬市	原町第二小学校	４００	１５，２４０
国見町	県北中学校	３７５	３３，０３１
会津坂下町	（仮）統合中学校	３２５	９，１４５

(2)　学校屋外運動場照明施設

設置者名	施設名	面積（m²）	交付金額（千円）
会津若松市	第六中学校	６，０００	４，１１３

(3)　学校クラブハウス

設置者名	施設名	面積（m²）	交付金額（千円）
伊達市	梁川小学校（Ⅰ期）	３４	２，８４２
本宮市	岩根小学校（Ⅰ期）	７３	７，２０５

2　社会体育施設整備費補助

(1)　社会体育施設耐震化

設置者名	施設名	面積（m²）	交付金額（千円）
いわき市	下三坂体育館	４７６	６，３７９

第１１章　福　　利　　厚　　生

[福利厚生事業]

第１節　概要

教職員の福利厚生については、教職員の生活の安定と福祉の向上を目指し、県教育委員会、公立学校共済組合及び財団法人福島県教職員互助会の３者が緊密な連携を保ち、各事業を実施した。

保健・厚生事業については、特定健康診査等を実施するとともに、教職員の健康管理を重点目標とし、生活習慣病の早期発見・早期治療等健康づくりを支援するための人間ドックや大腸がん検診等の健診事業のほか、保養所等利用助成業業等を実施した。

また、教職員の生涯生活設計の推進のためのライフプラン講座、家庭における在宅介護術を身につけるための実技を中心とした在宅介護講座、心とからだの健康づくりのためのメンタルヘルスセミナーのほか、生活習慣病予防セミナーや女性のための健康セミナー、震災後の不安に対するメンタルケアと放射線に対する知識の習得を目的とした震災に関するセミナーなど各種講座を開催するとともに、ストレスチェック事業や教職員向けの健康相談事業として「こころとからだの健康相談」および「ふくしま教職員こころのケア事業」などを実施した。

第２節　保健・厚生事業

１　保健事業

(1)　特定健康診査等（共済組合）

平成25年度中に、40～74歳となった公立学校共済組合員（任意継続組合員も含む）とその被扶養者を対象に、特定健康診査を実施した。特定健康診査の結果、生活習慣病のリスクが高い場合、その程度に応じて特定保健指導を実施した。

対象者数	受診者数	受診率	保健指導
A	B	B／A	対象者
17,582人	14,102人	80.2%	2,545人

（H26.9 速報値）

(2)　人間ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）

ア　教職員人間ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）

平成25年4月1日現在、満35・38・40・43・45・48・50・53・55・58歳、61歳以上の教職員を対象に、人間ドック（脳ドックを含む。）を実施した。

対象者数	申込者数	受診者数	申込率	受診率		検診結果			
A	B	C	B／A	C／A	C／B	異常なし	要注意	要精検	治療中
6,678人	5,677人	5,600人	85.0%	83.9%	98.6%	5.7%	33.0%	39.0%	22.3%

イ　配偶者人間ドック（共済組合・互助会）

平成25年4月1日現在、満35歳以上の被扶養配偶者を対象に、人間ドックを実施した。

申込者数	受診者数	受診率	検診結果			
A	B	B／A	異常なし	要注意	要精検	治療中
294人	248人	84.4%	8.2%	32.1%	41.5%	18.2%

ウ　定年退職予定者人間ドック（互助会）

平成25年4月1日現在、満59歳の教職員を対象に、人間ドックを実施した。

対象者数	申込者数	受診者数	申込率	受診率		検診結果			
A	B	C	B／A	C／A	C／B	異常なし	要注意	要精検	要治療
346人	251人	248人	72.5%	71.7%	98.8%	1.2%	28.6%	24.2%	46.0%

(3) 大腸がん検診（共済組合・互助会）

平成25年4月1日現在、満35歳以上の教職員（人間ドック及び脳ドック受診者を除く。）を対象に、大腸がん検診を実施した。

対象者数	申込者数	受診者数	申込率	受診率		検診結果			
A	B	C	B／A	C／A	C／B	異常なし	要注意	要精検	治療中
10,084人	1,068人	963人	10.6%	9.5%	90.2%	75.2%	16.5%	8.3%	0%

(4) 乳がん・子宮がん検診（県・公立大学法人・共済組合・互助会）

平成25年4月1日現在、満20歳以上の女性教職員（人間ドック及び脳ドック受診者を除く。）を対象に、乳がん・子宮がん検診を実施した。

対象者数	申込者数	受診者数	申込率	受診率		検診結果			
A	B	C	B／A	C／A	C／B	異常なし	要注意	要精検	治療中
7,244人	4,196人	4,004人	57.9%	55.3%	95.4%	89.7%	4.6%	5.3%	0.4%

(5) 脳ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）

平成25年4月1日現在、満40・43・45・48・50・53・55・58歳、61歳以上の教職員を対象に、脳ドックを実施した。

※申込者数及び受診者数は教職員人間ドックの内数で、検診結果は人間ドック項目を除いた項目の構成比率である。

対象者数	申込者数	受診者数	申込率	受診率		検診結果			
A	B	C	B／A	C／A	C／B	異常なし	要注意	要精検	治療中
5,771人	850人	840人	14.7%	14.5%	98.8%	81.5%	9.6%	8.6%	0.3%

(6) 脳検診（共済組合・互助会）

平成25年4月1日現在、満40・43・45・48・50・53・55・58歳、61歳以上の教職員を対象に、脳検診を実施した。

対象者数	申込者数	受診者数	申込率	受診率		検診結果			
A	B	C	B／A	C／A	C／B	異常なし	要注意	要精検	治療中
5,771人	1,929人	1,847人	33.4%	32.0%	95.7%	83.2%	12.6%	4.1%	0.1%

(7) 肺がん検診（共済組合・互助会）

平成25年4月1日現在、満40歳以上の教職員を対象に、肺がん検診を実施した。

対象者数	申込者数	受診者数	申込率	受診率		検診結果			
A	B	C	B／A	C／A	C／B	異常なし	要注意	要精検	治療中
14,454人	1,737人	1,652人	12.0%	11.4%	95.1%	72.0%	22.4%	5.3%	0.3%

(8) 胃がん検診（共済組合・互助会）

平成25年4月1日現在、満30・33歳の教職員を対象に胃がん検診を実施した。

対象者数	申込者数	受診者数	申込率	受診率		検診結果			
A	B	C	B／A	C／A	C／B	異常なし	要注意	要精検	治療中
630人	125人	109人	19.8%	17.3%	87.2%	85.3%	5.5%	9.2%	0%

2　厚生事業

(1)　厚生事業

ア　ライフプラン講座（共済組合・互助会）

教職員一人ひとりが、生涯にわたり健やかで充実したゆとりある生活を送ることができるよう、退職後の生活を視野に入れた生涯生活設計づくりとその実現を支援するため、ライフプラン講座を開催した。

日　程	平成25年8月5日
会　場	ビッグパレットふくしま
プログラム	ライフプラン設計演習 ○20代～30代コース 株式会社FP研究所 馬場　成一　氏 ○40代コース 株式会社FP研究所 今野　隆文　氏 ○50代～60代コース 株式会社FP研究所 石田　英憲　氏 ○ライフプラン基調講演 おち　とよこ　氏
受講者数	336人

イ　在宅介護講座（共済組合）

組合員を対象に、在宅介護に必要な知識や技術を身につけるための実技中心の１日介護講座を実施した。

日　程	平成25年8月20日	平成25年8月21日
会　場	福島県男女共生センター	
プログラム	(1)　講義「在宅介護の基礎知識」 (2)　実技Ⅰ「環境整備と更衣の仕方」 (3)　実技Ⅱ「排泄援助」 (4)　実技Ⅲ「清潔援助」 8月20日 （福島県介護福祉士会 関根　誠一 氏　鈴木　慎也　氏） 8月2日 （福島県介護福祉士会　廣川　宗之　氏　渡辺　高広　氏）	
受講者数	30人	35人

ウ　管理・監督者メンタルヘルス講習会（県）

管理・監督者に対し、メンタルヘルスケアに関する基礎知識や職場環境等の改善方法を習得させるため、講習会を実施した。

日　程	平成25年7月10日
会　場	県庁本庁舎５階　正庁
講　師	公立学校共済組合 関東中央病院　精神科 中　康　氏
受講者数	１２３　人

エ　管理職員・各部人事管理担当者向けメンタルヘルス宿泊研修（県）

地方公務員災害補償基金の「東日本大震災に関連するメンタルヘルス総合対策事業」を活用し、教育庁及び県立学校等の管理職員・人事管理担当者を対象に福島、仙台、盛岡会場で実施した。

日　程	平成25年6月13日～14日	平成25年11月28日～29日
会　場	福島ビューホテル ほか	
プログラム	講評・事例検討 ・ストレスの仕組みについて 石井メンタルクリニック 坂田　成輝　氏 ・ラインケア研修 株式会社アドバンテッジリスクマネジメント 飯塚　靖夫　氏 演習 ・職場のストレスについて ほか 株式会社アドバンテッジリスクマネジメント 飯塚　靖夫　氏	
受講人数	18人	23人

オ　メンタルヘルスセミナー（共済組合）

組合員の心の健康を保持増進するため、メンタルヘルスに関する基礎知識を習得するための講座を開催した。

日　程	平成25年7月25日	平成25年7月26日	平成25年8月1日	平成25年8月6日
会　場	会津アピオ	ビッグパレットふくしま	いわきゆったり館	ビッグパレットふくしま
プログラム	講話 ・教職員のメンタルヘルスの現状 ・ストレスへの理解と心身の健康づくり ・心の問題などの早期発見・早期対応のポイント ・災害時のストレスと対処法 演習 ・リラクゼーション　心身ともにリラックス ・コミュニケーションを改善する聴く技術を身につける 株式会社ウェルリンク　講師：小西　喜朗			
受講者数	35人	82人	48人	24人

カ　女性のための健康セミナー（共済組合）

女性組合員を対象に、健康意識の向上を図るため、女性特有の病気についての知識や予防法等を習得する講演、実技を行うセミナーを開催した。

日　程	平成25年7月30日	平成25年7月31日
会　場	ビッグパレットふくしま	会津アピオ
プログラム	(1)　講演 「女性健康力アップセミナー」 ((株)カイテック講師　樋口　恵子　氏) (2)　演習 「タッチセラピー＆楽々ストレッチ」 ((株)カイテック講師　藤巻　陽子　氏) (3)	

	実技 「ドローインエクササイズ」 ((株)カイテック講師　藤巻　陽子　氏)	
受講者数	113人	104人

キ　男のための脱メタボリックセミナー（共済組合）

主として男性組合員を対象に、生活習慣病の知識と予防法等に関する講話と運動指導を行うセミナーを実施した。

日程	平成25年7月30日	平成25年7月31日
会場	ビックパレットふくしま	会津アピオ
プログラム	(1)講話 「Middle Age Men's 倶楽部」 (2)演習 「美味しいは元気のもと！」 (3)実技 「楽々ボクシングエクササイズ＆疲労回復ストレッチ」 (株)カイテック　講師　皆川　芳弘　氏 樋口　恵子　氏	
受講人数	27人	29人

ク　震災からの復興支援セミナー（共済組合）

組合員を対象に、震災後の不安に対する対応方法や放射線に関する正しい知識を提供した。

日　程	平成25年7月29日	平成25年8月7日
会　場	ビックパレットふくしま	いわきゆったり館
プログラム	(1)講話「放射線被爆と発がん」 (東京大学医学部教授 中川　恵一 氏) (2)講話「低線量放射線の生体への影響と食の重要性」 ((財)ルイ・パストゥール医学研究センター　宇野　賀津子　氏)	
受講者数	141人	42人

ケ　保育補助（共済組合）

平成25年度内に出産し又は出産を予定する女性組合員及び被扶養配偶者を有する組合員に対し、保育の支援及び福祉の向上に資するため、乳幼児の保育に必要な用品を出生児1人につき1セット交付した。

区　分	内　　容	交付件数
Aセット	肌着(ボディミニ)(70サイズ) 1枚 肌着(ボディオール)(70サイズ) 2枚	81件
Bセット	ベビー食器セット マグストローバルーン やわらかコンパクトエプロン	193件
Cセット	ベビー毛布 ベビーバスタオル ベビー枕 スタイ	93件
Dセット	月刊「赤ちゃんとママ」　１２冊 お誕生号　１冊 単行本 「赤ちゃんのつぶやき」　１冊 「やさしい離乳食」　１冊 冊子 「お医者さんにかかるまでに」１冊	25件
計		433件

コ　教職員健康相談事業（共済組合）

（こころとからだの健康相談）

健康上の不具合や心身の悩みについて相談を受けられるよう、19医療機関に相談業務を委託。

のべ利用件数　１４件

サ　教職員相談事業（県）

専任の相談員を配置し、教職員の各種相談に応じた。

相談件数　１７９件

シ　ふくしま教職員こころのケア事業（共済組合）

東日本大震災を受けて、日常のストレスやこころの悩みを専門のカウンセラーに相談できる機会を提供するため、８カウンセリング機関に業務を委託。

カウンセリングのべ利用件数　　７１８件

講師派遣利用件数　　５件

グループカウンセリングコース・

ピアカウンセリングコース利用件数　　２件

ス　教職員メンタルヘルスカウンセリング事業（県）

常勤講師等臨時的任用職員の心の疾患の未然防止や心の健康保持増進を図るため７カウンセリング機関に業務を委託

カウンセリングのべ利用件数　　３件

セ　ストレスチェック事業（共済組合）

公立学校共済組合の被災組合員等対策事業を活用し、２か年にわたり４月１日現在で偶数年齢の組合員を対象に実施した。（平成２５年７月実施）

回答者数　　６，２２０人

回答率　　６７．０％

ソ　ストレスチェック・カウンセリング事業（県）

地方公務員災害補償基金の「東日本大震災に関連するメンタルヘルス総合対策事業」を活用し、教育庁及び県立学校等教職員の正職員を対象に実施した。（平成２５年１１月実施）

回答者数　　２，２４２人

回答率　　３９．４％

相談件数　　１８１件

タ　保養所等利用助成（共済組合）

組合員が福島支部指定の共済組合宿泊施設を利用した

場合、利用料金の一部を助成した。

○　あづま荘利用助成

区分	助成対象	助成内容	助成件数
宿泊利用助成	組合員・被扶養者・配偶者・子・父母・祖父母が宿泊したとき	1人1泊1食まで2,000円 1人1泊2食3,000円　等	14,115件
会議室利用助成	組合員が開催する諸会議	会議室料金の2分の1の額	102件
結婚式利用助成	新郎・新婦が組合員のとき	1組 200,000円	0件
	新郎・新婦の一方あるいは親が組合員のとき	1組 100,000円	0件
会食利用助成	組合員が５名以上で、かつ1人5,000円以上の会食を行ったとき	1人 1,000円	102件
法要利用助成	組合員及び直系親族が法要を行うとき	利用額の30% (上限70,000円)	6件
年金受給者等利用助成	福島支部発行の「宿泊施設特別利用者証」の交付を受けた者が宿泊したとき	1人 1,000円	530件

○　他支部保養所等利用助成

県内2、県外14の指定宿泊施設利用に対し、1人1泊1,500円、計1,711件の助成を行った。

チ　指定旅館利用助成（互助会）

会員の保養及び健康の保持増進を図るため、県内（25施設）、県外（10施設）の宿泊施設を指定し、会員が利用したとき、利用料金の一部を助成した。

区　分	助成件数	金　額
宿泊利用助成	18,741件	49,078千円
会食利用助成	102件	102千円
計	18,843件	49,180千円

ツ　弔慰供花（共済組合）

在職中に亡くなった組合員の霊前に供花を行い、哀悼の意を表した。

供花件数　　16件

テ　リフレッシュ助成（互助会）

勤続10年及び20年の節目に心身のリフレッシュを図るための助成（旅行券又は宿泊施設利用券）を実施した。

実施件数　　845件

ト　永年勤続リフレッシュ助成（互助会）

永年勤続表彰会員及び20年以上30年未満勤続し退職した会員に対し、助成品（旅行券、宿泊施設利用券、図書券又は文箱）を交付した。

永年勤続表彰会員　　６１７名

20年以上30年未満勤続し退職した会員　　２５名

ナ　災害対策見舞金（互助会）

災害救助法が適用された地域内で被災（地域外で同一の事由での被災を含む。）し、短期給付の災害見舞金の給付該当会員に見舞金を支給した。

該当者　　８３名

(2)　公益事業

ア　へき地等教育事業助成（互助会）

県人事委員会指定の特地以上のへき地学校及び特別支援学校に在学する児童生徒の健全育成を図るため、これらの学校に図書を贈呈した。

対　象　校　　118校

児童生徒数　　6,927人

イ　互助会文庫（互助会）

県民の教育文化の向上に寄与するため、県立図書館に図書を寄贈し、広く県民の利用に供した。

一般・児童生徒用　　1,209冊（累計　57,556冊）

第３節　貸付事業

１　共済組合

平成25年度における共済組合貸付事業は、住宅貸付け（介護構造部分貸付けを含む。）をはじめ、一般、教育、災害医療、結婚、葬祭、特例住宅災害貸付けの８種類の貸付けを行った。

(1)　貸付けの状況

種類別貸付けの状況は次のとおりである。

（単位：件、千円）

種類別	件　数	金　額	金額割合
一般貸付け	156	201,700	35.8
住宅貸付け	18	119,327	21.2
教育貸付け	60	135,157	24.0
災害貸付け	1	2,000	0.4
医療貸付け	6	5,800	1.0
結婚貸付け	6	10,000	1.8
特例住宅災害貸付け	7	86,000	15.3
葬祭貸付け	2	3,000	0.5
計	256	562,984	100.0

第４節　宿泊・保養施設

公立学校共済組合では、組合員の福利厚生施設として、飯坂保養所「あづま荘」を運営しているが、平成25年度の利用状況は、次のとおりである。

種別＼施設		あづま荘
利用人員	宿泊	１８，５０８　人
	会議	３，６６８　人
	宴会	７３１　人
	婚礼	０　人
	休憩	３１　人
	計	２２，９３８　人
利用率	宿泊	５４．６　％
	宿泊外	３．４　％

※利用率

・宿泊＝ 利用人員（宿泊） / 宿泊延定員（宿泊定員×営業日数） ×100

・宿泊外＝ 利用人員（会議・宴会・婚礼） / 宿泊外延定員（宿泊外定員×営業日数） ×100

第５節　児童手当（特例給付を含む）

次代の社会を担う児童の健やかな成長に資することを目的とする「児童手当法」に基づき、以下のとおり支給した。

（単位：人、千円）

	平成26年3月の認定状況		支給額
	受給資格者数	支給対象児童数	
本庁・教育機関等	142	229	25,175
小学校	1,388	2,359	311,085
中学校	1,308	2,240	297,825
高等学校	1,282	2,172	286,970
特別支援学校	300	517	70,125
計	4,420	7,517	991,180

第６節　財産形成貯蓄制度

教職員の計画的な財産形成を促進するために財産形成貯蓄を導入し、昭和62年3月から控除預入を開始したが、平成25年度における契約状況は次のとおりである。

財産形成貯蓄契約状況

◎貯蓄種類別契約件数（平成26年3月31日現在）

（単位：件）

	期日指定定期預金	金銭信託	公社債投資信託	積立保険	計
一般貯蓄	8,293	82	182	675	9,232
年金貯蓄	2,039	58	72	354	2,523
住宅貯蓄	636	14	26	60	736
計	10,968	154	280	1,089	12,491

契約者数　９，５４１人

[福利給付事業]

第７節　概要

教職員の福利給付事業については、県教育委員会、公立学校共済組合、財団法人福島県教職員互助会において、組合員（会員）に対する各種の給付事業を実施した。

一方、長期給付事業については、教職員等への退職手当、恩給及び共済年金の支給を行った。

なお、平成25年度の年金額は、当初変更なしの予定であったが特例水準解消法が平成25年10月1日に施行されたことから、平成25年10月以後の月分として支給される年金から特例水準の額が1.0%引き下げられることとなった。

また、恩給年額については、平成22年度に引き続き据え置きとなった。

第８節　短期給付

１　共済組合

平成25年度末現在における組合員数は、現職組合員数19,383人（前年同期比170人増）、任意継続組合員434人（同9人減）の計19,817人（同161人増）である。

また、被扶養者数は、19,271人（同296人減）、組合員１人当たりの被扶養者数は、0.972人となっている。

平成25年度の共済組合短期給付の給付総額は、5,397,055千円で、前年度対比477,759千円の減少となった。

総額に占める割合は、法定給付 96.80%、附加給付 3.20%となっており、給付の内訳は次のとおりである。

共済組合短期給付内訳表

法定給付				附加給付			
	種別	件数（件）	給付額(千円)		種別	件数（件）	給付額（千円）
医療給付	本人医療費	173,396	1,712,558	医療給付	家族療養費	1,080	33,913
	家族医療費	158,948	1,487,054	その他の給付	出産費	295	14,750
	高額療養費	2,251	252,758		家族出産費	147	7,350
	薬剤	148,260	943,684		埋葬料	19	475
	移送費	0	0		家族埋葬料	13	325
	小計	482,855	4,396,054		傷病手当金	43	12,709
その他の給付	出産費	293	126,522		災害見舞金	0	0
	家族出産費	150	62,856		結婚手当金	273	21,840
	埋葬料	19	950		入院附加金	0	0
	家族埋葬料	13	650				
	傷病手当金	413	122,920				
	出産手当金	16	2,789				
	休業手当金	0	0				
	育児休業手当金	2,548	452,561				
	介護休業手当金	61	6,425				
	弔慰金	0	0				
	家族弔慰金	0	0				
	災害見舞金	99	52,643				
	小計	3,612	828,316				
① 法定給付 計		486,467	5,224,370	② 附加給付 計		1,870	91,362

③ 一部負担金払戻金	2,581	81,323
短期給付合計（①＋②＋③）	490,918	5,397,055

2 互助会

平成25年度末現在の互助会の会員数は、17,339人（前年同期比228人減）となっている。

互助会給付規程に基づいた短期給付金及び厚生給付金事業の内訳については、次のとおりである。

(1) 短期給付金

種別		件数（件）	給付額（千円）
医療補助金	（被扶養者）	13,284	45,913
死亡弔慰金	（会員）	14	700
	（被扶養者）	15	510
災害見舞金		90	26,594
出産見舞金	（会員）	244	12,200
	（被扶養者）	125	3,750
計		13,772	89,667

(2) 厚生給付金

種別	件数（件）	給付額（千円）
医療給付金	43,465	142,167
死亡給付金	588	20,030
出産給付金	112	3,450
結婚祝金	239	11,950
入学祝金	735	22,070
入院療養見舞金	1,656	18,295
障がい見舞金	74	3,700
育児休業給付金	2,567	37,911
介護休暇給付金	36	3,878
計	49,472	263,451

第９節 長期給付

平成25年度の教職員等に対する退職給付の執行状況は、次のとおりである。

1 恩給

(1) 恩給の受給者数及び支給の状況

ア 支給人員及び支給額

普通恩給等の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

平成25年度末現在の受給者数は125人（前年度比19人減）、平成25年度における支給総額は190,743千円（同30,673千円減）となっており、受給者の高齢化に伴い、いずれも減少傾向にある。

学校種別	普通恩給		扶助料		退隠料		遺族扶助料		計	
	人員（人）	支給額（千円）	人員（人）	支給額（千円）	人員（人）	支給額（千円）	人員（人）	支給額（千円）	人員（人）	支給額（千円）
小学校	16	32,059	68	102,544	2	2,189	1	280	87	137,072
中学校	3	4,548	27	41,658	3	3,510	0	0	33	49,716
特別支援学校	0	62	0	0	0	0	1	113	1	175
高等学校	0	0	0	0	0	0	1	945	1	945
教育庁その他	0	0	2	1,890	0	0	1	945	3	2,835
計	19	36,669	97	146,092	5	5,699	4	2,283	125	190,743

※年度末日前に失権した場合、一時恩給については人員に計上しない。

イ　裁定及び失権

裁定を受けた者及び死亡等により受給権を失った者は、次のとおりである。　（単位：人）

恩給種別	裁定	失権	左のうち完全失権
普通恩給	0	7	7
扶助料	0	12	12
退隠料	0	0	0
遺族扶助料	0	0	0
計	0	19	19

(2) 恩給の改定について

恩給は、国民年金改定率（国民年金法第27条で規定する改定率）を基準に毎年度改定し、当該年度の４月以降に適用される。

直近の改定としては、平成21年度に0.9％の引き上げがされているが、22年度以降は実施していない。

2　退職手当

(1) 退職手当の支給人員及び支給額

退職手当の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

学校種別	人員（人）	支給額（千円）
教育庁・その他	7	166,506
小学校	1,108	6,304,221
中学校	770	2,853,880
高等学校	607	3,252,468
特別支援学校	348	778,770
計	2,840	13,355,775

(2) 失業者の退職手当

退職手当のうち「失業者の退職手当」の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

学校種別	人員（人）	支給額（千円）
教育庁・その他	0	0
小学校	23	6,858
中学校	13	5,053
高等学校	8	2,102
特別支援学校	6	1,985
計	50	15,998

3　共済年金

(1) 進達件数

退職共済年金等の本部への進達件数は、次のとおりである。

（単位：件）

進達区分	旧共済法による年金		新共済法による年金					計
	退職年金	障害年金	退職共済年金	退職共済年金（特別）	退職共済年金（繰上）	障害共済年金	遺族共済年金	
決定請求	0	0	6	14	2	13	12	47
改定請求	0	0	6	16	0	0	0	22

(2) 支給人員及び支給額

退職共済年金等の平成25年度末現在における支給人員は21,135人で、平成25年度における支給額は394億3,321万0千円、平均年齢は77.1歳である。

前年度に比較して人員で331人の減少、支給額で36億4,939万8千円の減少となっている。

年金種別		受給者数（人）			平均年齢	平均年金額（円）	支給額（円）
		男	女	計			
新共年金	退職共済年金	6,710	3,949	10,659	75.5	1,838,496	19,596,528,864
	退職共済年金（特別）	1,042	862	1,904	62.6	1,512,490	2,879,780,960
	退職共済年金（繰上）	0	0	0	−	0	0
	障害共済年金	150	123	273	59.2	1,188,064	324,341,472
	遺族共済年金	435	4,089	4,524	80.6	1,682,188	7,610,218,512
	小計	8,337	9,023	17,360	75.1		30,410,869,808
共年	退職年金	807	2,132	2,939	87.2	2,647,631	7,781,387,509
	減額退職年金	29	156	185	82.3	1,916,561	354,563,785
	通算退職年金	4	19	23	91.1	687,174	15,805,002
	障害年金	24	29	53	75.8	2,174,836	115,266,308
	遺族年金	21	552	573	84.3	1,316,977	754,627,821
	通算遺族年金	0	2	2	91.5	344,950	689,900
	小計	885	2,890	3,775	86.4		9,022,340,325
合計		9,222	11,913	21,135	77.1		39,433,210,133

※支給額は平均年金額に受給者数を乗じた額である。

(3) 年金額の改定

平成24年平均の全国消費者物価指数（生鮮食品を含む総合指数）の対前年比変動率は0.0%、対前年度比名目手取り賃金変動率はマイナス0.6%であった。本来水準の額の算定については、物価変動率、名目手取り賃金変動率がともにマイナスで、物価変動率が名目手取り賃金変動率を上回る場合には物価変動率で改定することとなるため、原則として平成24年度と同額となった。一方、特例水準の額については、物価が下落した場合、直近の減額改定が行われた年の前年の物価水準を下回った場合のみ改定を行うことになっている。平成24年の物価水準は、改定の基準となる直近の減額改定があった平成24年の前年（平成23年）の物価水準と変わらないことから、平成24年度と同額となった。（平成16年改正法附則第4条、第7条）

また、平成25年度の国民年金法による改定率は「0.982」とされた（平成24年度と同じ改定率）。

特例水準解消法が平成25年10月1日に施行されたことから、平成25年10月以後の月分として支給される年金から特例水準の額が1.0%引き下げられることとなった。

第１２章　福島県教育センター

第１節　概要

教育センターは、教育に関する専門的・技術的事項の調査と研究、教育関係職員の研修、情報教育、教育相談及び教育図書・資料の作成・収集・提供等、本県の学校教育の向上・発展に寄与するための事業を実施してきた。

また、カリキュラムセンター業務として、学校や教職員及び市町村教育委員会をはじめとする教育機関等を対象に、学校経営を含む教育活動全般について、研究成果・資料・情報を提供するとともに、要請に応じて指導主事の派遣等の支援を行ってきた。

平成24年度は、平成23年度の初任者研修が震災の影響で十分な形で実施できなかったことを踏まえ、職能研修Ⅰに「2年次教員指導の実践講座」を設け、初任者の実践的指導力の向上を図った。他方で、震災の影響により小中学校教諭及び養護教諭の採用がなかったため、当該の基本研修は実施しなかった。しかし、年度末の平成25年3月19日本館東西棟の耐震改修や災害復旧工事が完成し震災以前の状態に戻ることができた。

これを受け平成25年度は、震災以前と同じ形態で、基本研修・職能研修・専門研修・自主講座などをセンターの全ての施設を使用しながら行うことができた。

なお、事業概要は、次のとおりである。

１　調査・研究事業

教育センターの使命、役割を自覚し、県教育委員会のシンクタンクとしての期待に十分こたえられるようにするとともに、本県の教育推進上の課題や学校教育の在り方に対応するために、本県学校教育の諸課題の解決に役立つ先導的・実証的な調査・研究を進めてきた。

(1)　調査

本県の教育に関する実態や課題を的確に把握するため、客観的で広範囲な基礎データを継続的に収集し分析した。さらに、その調査結果を教育センターでの研究に生かし、各学校や教育機関等へ提供した。

(2)　研究

「学校での様々な実践に生かす」視点から、本県の教育課題を具体的に把握し、それらの課題に対処する基礎的・実証的な研究を行った。

研究の推進に当たっては、研究調査のためのチームを組織し、また、教育センターの役割と学校現場のニーズに基づく研究とするために、研究協力校、研究協力者を全県的に募り、開かれた研究の実践に努めた。

調査研究チーム、情報教育チーム、教育相談チームがそれぞれ共同研究を行った。

これらの研究成果は、「教育センター Web サイト」「研究紀要」「所報ふくしま『窓』」等に掲載するとともに、平成25年11月28日(木)に実施した「福島県教育研究発表会」においても発表し、その成果を各学校や教育機関へ提供した。

２　研修事業

教職員の資質と指導力の向上を図るために、「平成25年度福島県公立学校教職員現職教育計画」に基づいて各種の研修講座を計画した。

基本研修、職能研修（職能研修Ⅰ、職能研修Ⅱ）、専門研修について、平成 25 年度の実績は、次のとおりであった。

講　座　数	69 講座
講座開設数	137 回
講座研修者数	3,938 人(延べ人数)
講座開設期間	平成 25 年 4 月 3 日～平成 26 年 2 月 26 日

前年度比

講　座　数	23	減
講座開設数	18	増
講座研修者数	667	増

３　情報教育事業

福島県内665の学校・教育関係機関を接続する「ふくしま教育総合ネットワーク(FKS)」において、安全・安心なサービス提供のためのネットワーク基盤の運用・整備や保守対応、テレビ会議システムの利用サポートを行った。また、青少年期における情報リテラシーを育むための「教育の情報化のインフラ」として、有害情報のフィルタリングやウイルス除去を行うとともに、FKS の利用方法の相談・問い合わせに対する対応・回答を行った。

情報教育研修では、新学習指導要領へ対応した研修の充実を図り、「教科指導における ICT 活用」「児童生徒の情報活用能力の育成」「校務の情報化」の３つの柱による「教育の情報化の推進」に向けて取り組んだ。専門研修では、「校務処理における表計算(関数)講座」や「フラッシュ型教材を用いた ICT 活用の授業実践講座」、「NetCommons による学校 Web サイト構築講座」、「校内ネットワークの管理と運用基礎講座」などを行った。また、基本研修での講義等をとおして、「情報モラル教育」及び「教科指導における ICT 活用」の研修の充実を図り、職能研修では「教育の情報化」の講義を行い、教育の情報化が円滑かつ確実に実施されるよう努めた。

「情報モラル教育」については、小・中学校等の要請を受けて、児童生徒・教職員・保護者を対象に、出前講座等を行った。スマートフォン・ゲーム機・音楽プレーヤーの普及、SNS 等の利用の増加に伴い、児童生徒に対する「情報モラル教育」は、喫緊の課題である。

4　教育相談事業

教育相談事業では、幼児及び児童生徒の教育上の諸問題について来所及び電話で相談を受け、問題の改善・解決をめざした。

主訴別では、来所相談では不登校、集団不適応が、電話相談では学校への不満、いじめの相談、不登校が上位を占めている。

いじめの相談では、自殺企図のある事案や深刻化している事案については、義務教育課及び高校教育課に情報を提供し緊急対応を図った。

また、平成 25 年度に入り、電話相談において学校への不満に関する相談の件数が増加し、件数順位も昨年度の３番目から１番目に変わった。そのため、資料『「学校への不満」に関する電話相談の現状と分析』を作成し、年度末に県内の公立学校全てに配布した。

なお、震災・原発事故に関連した相談は件数は減ってきているが本年度も入っており、必要に応じて関係専門機関を紹介しながら相談を進めた。

5　教育図書・資料事業

県内教職員の教育活動に役立つ教育図書及び教育資料の収集・分類・整理に努め、データベース化して教育センターWeb(http://www.center.fks.ed.jp/)に掲載し、図書検索を可能にした。また、文献資料利用相談への対応並びに貸し出し等のサービスも行い、教職員の研修・研究活動を援助してきた。

教育センター広報誌「所報ふくしま『窓』」第 165 号、166 号及び「研究紀要」第 43 集を発行した。

第２節　調査・研究事業

1　調査・研究

平成 25 年度の調査・研究として、教育庁より依頼された調査研究チームと情報教育チームの２件及び教育相談チームの１件、計３件に取り組んだ。

(1)　調査研究チームによる研究

授業力の向上に係る研究　～算数・数学等の授業を進める上での教師のコーディネートの在り方について～

本県の現状や各種調査から、教科の授業の中で「学力」はもちろん、「自尊感情」「集団の親和性」も高めていく必要があると考えられた。それを実現するための授業中の教師のコーディネートについて研究を進め、重要と思われるポイントや手だてを明らかにすることをめざした。研究教科を小学校国語科、算数科、中学校数学科、理科として、研究協力校との実践研究を行うことを通して研究を進めた。主な研究の内容は、次のとおりである。

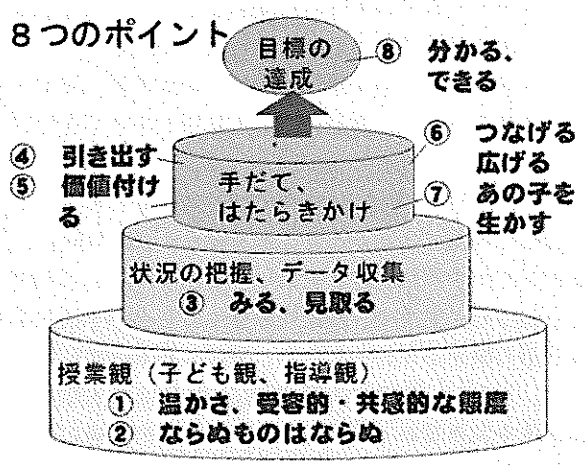
ア　研究協力校における授業の観察及び事後検討での分析等を通して、コーディネートのポイントの具体化・一般化を図る。

イ　ＣＲＴ、Ｑ－Ｕ、意識調査を通して研究協力校の児童生徒の「学力」「自尊感情」「集団の親和性」の変容をとらえるとともに、教師の意識や授業の変容をとらえることで、有効な手だてを見いだす。

その結果、次のような研究の成果と課題が確認された。

成果として、以下のことが挙げられる。

○　コーディネートについてポイントを８つに焦点化することができ、授業の中で適切に組み合わせていくことが大切であることが確認できた。



○　教師と子どもの実際の授業中のやりとりを基に、効果的なコーディネートになるための言葉かけのタイミングや、「学力」「自尊感情」「集団の親和性」の重点の置き方等について、具体的にとらえることができた。また、コーディネート以外の授業要素との関連についても考えることができた。

今後の課題として、以下の２点が挙げられる。

○　単年度の研究において、子どもの変容をとらえる方法をさらに工夫する必要がある。特に、校種・学年・教科が多様な場合の学力の変容のとらえ方や、アンケート以外での意識の変容のとらえ方などを考える必要がある。

○　研究の成果について Web や研究紀要等で発信し、普及を図りたい。また、各学校で行われている校内研修との連携を工夫し、学校現場の教師一人一人の授業力向上に役立てるようにしたい。学力向上に係る校内研修の在り方について、次年度以降、研究を深めていきたい。

(2)　情報教育チームによる研究

情報共有基盤システム NetCommons の活用に関する研究
－情報活用能力をはぐくむ「授業づくり」における活用－

平成 25 年度は、本県の研究課題として NetCommons 活用等に関する研究を進めてきた。次に今年度の成果を上げる。

○　県内の学校や市町村教育委員会等に、NetCommons による学校 Web サイトや市町村ポータルサイトを導入することができた（県立学校 23 校、特別支援学校８校、小中学校ポータルサイト 12 市町村）。導入や運用には、ふくしま教育総合ネットワーク（FKS）と連携し、各学校の状況に応じてサポートを実施した。

今後も、専門研修「NetCommons による学校 Web サイト構築講座」の実施や、NetCommons 導入リーフレットの配布等による広報を続け、普及活動を推進する。

○ 従来、学校 Web サイトで記事更新をする場合には、学校の特定のパソコンからしか、記事の更新をすることはできなかった。しかし、NetCommons は、ブラウザを利用して、どこからでも Web アップをすることが可能であるため、修学旅行や部活動などの状況をタイムリーに情報発信することができる。このため、「開かれた学校づくり」による家庭や地域との連携を図ることができた。

○ 研究協力校の実践例から、NetCommons による学校 Web サイトを教員からの情報発信だけではなく、児童生徒の学習成果発表や、教員からの情報の提供、児童生徒の家庭学習の場として利用し、確かな学力を育む ICT 活用の手段としての可能性を示すことができた。

また、児童生徒自らによる作品の投稿や記事の投稿等の体験型学習を通して、インターネット社会の規範意識を高めたり、責任を自覚させたりすることで、児童生徒の情報活用能力を高めることができた。

(3) 教育相談チームによる研究

児童生徒を支援する力を高める校内研修に関する研究（第三年次）～教育相談的な手法を生かした「校内研修実践資料（中学校版）」の開発を通して～

本研究では、教員が生徒指導・教育相談の校内研修を自律的に進めることができる『校内研修実践資料』の開発を通して、教員の児童生徒を支援する力の向上をめざした。今年度は研究協力校２校での実践的な取組みを通して実施・進行案等の検証と修正を行い、『校内研修実践資料（中学校版）』の開発を進めた。併せて、資料の Web アップ、学校教育相談実践講座での校内研修の進行者の育成により、校内研修実践資料集の普及と活用促進を図った。

2 長期研究員制度による研究

平成 23 年度より長期研究員制度が復活した。長期研究員は、年間を通じて各自が研究テーマを設定して計画、実践、評価、まとめを行うこととしている。平成 25 年度は、15 名が研究に取り組み、平成 24 年度長期研究員の中から５名が福島県教育研究発表会で成果を発表した。

第３節 研修事業

1 研修講座の概要

(1) 基本研修

ア 新規採用者・初任者研修

教職員としての基礎・基本を習得する研修である。

(ｱ) 幼稚園教諭

a 園内における研修(10 日)

b 園外における研修(10 日)

・宿泊研修（３泊４日）

・地区別研修（各地区）（３日）

・参観研修（３日）

(ｲ) 小学校及び中学校教諭

a 校内における研修(180 時間以上)

b 校外における研修(25 日)

(a) 宿泊研修(６日)

宿泊研修Ａ（２泊３日）

宿泊研修Ｂ（２泊３日）

(b) 地区別研修(19 日)

・地区別研修Ａ(７日)(教育センター、各教育事務所による計画)

一般研修、授業研修、へき地校研修、カウンセリング研修、特別支援学校研修

・地区別研修Ｂ(12 日)(市町村教育委員会、勤務校による計画)

研究発表集会等研修、一般研修、社会奉仕体験活動研修、企業等体験研修、他校種園参観研修

(ｳ) 高等学校教諭

a 校内における研修(180 時間以上)

b 校外における研修(25 日)

(a) 宿泊研修(８日)

基本研修(１泊２日)、一次研修(２泊３日)

二次研修(２泊３日)

(b) 教科別研修(３日)(教科ごとに初任者配置校を会場として実施)

(c) 地区別研修(14 日)

・地区別研修Ａ(10 日)(各地区)

一般研修、企業等体験・社会奉仕等体験研修、カウンセリング研修、特別活動等研修、安全教育研修

・地区別研修Ｂ(４日)(各学校による計画)

特別支援学校研修、他校での授業参観等研修

(ｴ) 公立学校実習助手(高校教育課主管　高等学校初任者研修と合同開催)

a 校内における研修(２日程度)

b 校外における研修(12 日)

(a) 基本研修(１泊２日)

(b) 地区別研修Ａ(各地区)

一般研修、企業等体験・社会奉仕等体験研修、カウンセリング研修、特別活動等研修、安全教育研修

(ｵ) 養護教諭（小・中・高・特別支援学校）

a 校内における研修(15 日)

b 校外における研修(14 日)

(a) 宿泊研修(６日)

宿泊研修Ａ（２泊３日）

宿泊研修Ｂ（２泊３日）

(c) 地区別研修(８日)
・地区別研修Ａ(６日)(各教育事務所、勤務校による計画)
一般研修、カウンセリング研修、特別支援学校研修、学校訪問研修
・地区別研修Ｂ(２日)(各教育事務所、勤務校による計画)
一般研修、企業等体験研修

(ｶ) 学校栄養職員
a 学校等内における研修(15 日)
b 学校等外における研修(13 日)
(a) 宿泊研修(６日)
・宿泊研修Ａ(共通研修)(３日)
・宿泊研修Ｂ(専門研修)(２泊３日)
(b) 地区別研修(７日)
・地区別研修Ａ(４日)(各地区)
一般研修、特別支援学校研修、単独校実地研修、共同調理場実地研修
・地区別研修Ｂ(３日)(各教育委員会による計画) 一般研修、他校園参観研修、企業等体験研修

イ 経験者研修Ⅰ
在職期間が５年に達した教職員を対象とし、専門的知識と技能を高め、資質の向上を図る研修である。
(ｱ) 小学校・中学校教諭
a 校内研修(５日)
b 校外研修(３日)
宿泊研修(２泊３日)
(ｲ) 高等学校教諭
a 校内研修(５日)
b 校外研修(３日)
宿泊研修(２泊３日)
(ｳ) 養護教諭(小・中・高・特別支援学校)
a 校内研修(３日)
b 校外研修(３日)
宿泊研修(２泊３日)
(ｴ) 学校栄養職員
a 校内における研修(２日)
b 校外における研修(２日)
宿泊研修(１泊２日)

ウ 経験者研修Ⅱ
在職期間が 10 年に達した教職員を対象とし、幅広い識見と豊かな社会性を得させ、併せて学校組織マネジメントに資する能力の育成を図るとともに、組織の中核として運営に資する人材の育成と職能の更なる向上を図る研修である。
(ｱ) 幼稚園教諭
a 園内研修(７日)
b 園外研修(５日)
宿泊研修(１泊２日)、共通研修(各地区)(１日)、社会体験研修(１日)、選択研修(１日)
(ｲ) 小・中学校教諭
a 校内における研修(15 日)
b 校外における研修(10 日)
共通研修(各地区)(１日)、教科指導研修(２泊３日)
生徒指導研修(各地区)(１日)、社会体験研修Ⅰ(２日)、選択研修(３日)
(ｳ) 高等学校教諭
a 校内における研修(15 日)
b 校外における研修(10 日)
共通研修(１日)、生徒指導研修(１日)、教科指導研修Ⅰ(１日)、教科指導研修Ⅱ(２日)、社会体験研修Ⅰ(２日)、選択研修 (３日)
(ｴ) 養護教諭(小・中・高・特別支援学校)
a 校内研修(４日)
b 校外研修(６日)
共通研修(１日)、宿泊研修(２泊３日)、社会体験研修Ⅰ(１日)、選択研修(１日)

エ 経験者研修Ⅲ
教務主任、学年主任等の中堅教員に対する学校管理運営上の諸問題の解決や、専門的な職能の向上を図る研修である。
(ｱ) 県立学校教諭
教育センター(２泊３日)

(2) 職能研修
新任の校長・教頭・教務主任に対しての職能研修Ⅰ及び学校の教育活動が円滑に展開できるよう担当教員の職責・職能に応じた研修を実施する職能研修Ⅱを実施した。

ア 職能研修Ⅰ
(ｱ) 市町村公立小・中・特別支援学校新任校長研修会
教育センター(１泊２日)
(ｲ) 県立学校新任校長研修会
教育センター(１泊２日)
(ｳ) 市町村公立小・中・特別支援学校新任教頭研修会
教育センター(１泊２日)
(ｴ) 県立学校新任教頭研修会
教育センター(１泊２日)
(ｵ) 新任教務主任研修会(小・中・高・特別支援学校)
各地区 (１日)(関係各教育事務所または各中核市教育委員会による計画)

イ 職能研修Ⅱ
(ｱ) 複式学級担当教員研修会
教育センター(１泊２日)
(ｲ) 免許外教科担任教員研修会
教育センター(２泊３日)
(ｳ) 校長のためのマネジメント講座
教育センター(１泊２日)
(ｴ) 教頭のためのマネジメント講座

教育センター（１泊２日）

(オ) 小・中学校におけるキャリア教育実践講座
教育センター（１泊２日）

(カ) 学校栄養職員専門研修講座
教育センター（２泊３日）

(3) 専門研修

個に即応した指導力の向上を図るために、情報教育、学校教育相談（基礎、実践、予防・開発的教育相談）、道徳教育実践（小・中）、各教科（小・中・高）、高等学校理科実習実技などの各講座を実施した。

2 研修講座

(1) 平成25年度研修講座数・受講者数

ア 基本研修

	基本研修				計
	初任研	経験Ⅰ	経験Ⅱ	経験Ⅲ	
講座数	6	5	5	1	17
（延べ数）	49	7	20	1	77
延べ受講者数	1,740	156	722	74	2,692

イ 職能研修

	職能研修		計
	職能研修Ⅰ	職能研修Ⅱ	
講座数	4	6	10
（延べ数）	4	7	11
延べ受講者数	174	380	554

ウ 専門研修

	専門研修	計
	専門研修Ⅱ	
講座数	42	42
（延べ数）	47	47
延べ受講者数	692	692

エ 総計

	基本研修	職能研修	専門研修	計
講座数	17	10	42	69
（延べ数）	77	11	47	135
延べ受講者数	2,692	554	692	3,938

(2) 平成25年度研修講座実施状況

ア 基本研修

講座名		会場	期日	受講者数
初任者研修	幼稚園	教育センター	8月19日～8月22日	47
	小学校	磐青教育センター	5月28日～5月30日 8月7日～8月9日	47
	中学校	磐青教育センター	5月28日～5月30日 7月24日～7月26日	35
	高等学校	教育センター	4月3日～4月4日 4月15日～4月17日 2月18日～2月20日	77
	養護教諭	磐青教育センター	5月28日～5月30日 10月8日～10月10日	22
	栄養職員	磐青教育センター	5月28日～5月30日 8月19日～8月21日	3
	地区別研修	幼・小・中・高・栄・養（37講座）	各地区で実施	1,279
経験者研修Ⅰ	小学校	教育センター	6月10日～6月12日	26
	中学校	教育センター	10月16日～10月18日 10月22日～10月24日	37
	高等学校	教育センター	同上	74
	養護教諭	教育センター	8月7日～8月9日	13
	栄養職員	教育センター	8月25日～8月26日	6
経験者研修Ⅱ	幼稚園	教育センター	6月6日～6月7日	18
	小学校	教育センター	9月30日～10月2日	48

	中学校	教育センター	9月3日 ～9月5日	53
	高等学校	教育センター	4月23日 7月10日 ～7月11日 2月6日 ～2月7日 2月13日 ～2月14日	90
	養護教諭	教育センター	7月31日 ～8月2日	10
	地区別研修	幼・小・中・高・養（12講座）	各地区で開催	326
	県立学校	教育センター	10月30日 ～11月1日	74

イ　職能研修

	講座名	期日	受講者数
職能研修Ⅰ	市町村公立小・中・特別支援学校新任校長研修会	5月7日 ～5月8日	61
	県立学校新任校長研修会	5月9日 ～5月10日	17
	市町村公立小・中・特別支援学校新任教頭研修会	5月13日 ～5月14日	71
	県立学校新任教頭研修会	5月20日 ～5月21日	25
	市町村公立小・中・特別支援学校新任教務主任研修会	各教育事務所の日程	71
	県立学校新任教務主任研修会	各教育事務所の日程	22
職能研修Ⅱ	複式学級担当教員研修会	5月28日 ～5月29日	40
	免許外教科担任教員研修会	5月15日 ～5月17日	60
		5月22日 ～5月24日	68
	校長のためのマネジメント講座	6月20日 ～6月21日	80
	教頭のためのマネジメント講座	9月25日 ～9月26日	80
	小・中学校におけるキャリア教育実践講座	9月12日 ～9月13日	40
	学校栄養職員専門研修講座	9月3日 ～9月5日	12

ウ　専門研修

	講座名	期日	受講者数
校種共通（小・中・高・特支）	思考力・表現力を高める国語科の評価問題作成・研究講座	8月5日 ～8月6日	10
	国語科指導におけるPISA型読解力研究講座	9月19日 ～9月20日	12
	中学校・高等学校の系統性を重視した統計活用講座（数学）	11月6日 ～11月7日	9
	音楽のよさ、美しさを味わう鑑賞の授業づくり講座	11月6日 ～11月7日	11
	表現と鑑賞に生かす伝統音楽講座	6月18日 ～6月19日	13
	創造性をはぐくむ図画工作・美術の鑑賞法指導講座	8月22日	19
	創造性をはぐくむ美術の表現指導法講座	11月6日 ～11月7日	11
	「体つくり運動」の趣旨を踏まえた体育指導力向上講座	8月1日 ～8月2日	12
	特性や魅力を生かしたボール運動・球技の指導力向上講座	11月6日 ～11月7日	14
	家庭科を担当する先生のための基礎基本講座	9月19日 ～9月20日	7
	英語における「書くこと」の指導と評価実践講座	8月5日 ～8月6日	15
	児童生徒理解に生かす学校教育相談基礎講座	7月29日 ～7月30日	38
	事例研究を中心に児童生徒理解を深める学校教育相談実践講座	7月4日 ～7月5日 10月3日 ～10月4日 2月25日 ～2月26日	22
	人間関係づくりに生かす予防・開発的教育相談講座	6月18日	43
	校務処理に生かす表計算（関数）講座	7月4日	30
	校務処理に生かす表計算（統計分析）講座	11月15日	28
	フラッシュ型教材を用いたICT活用の授業実践講座	9月19日	21
	校内ネットワークの管理と運用基礎講座	11月6日 ～11月7日	12
	NetCommonsによるグループウェア構築講座	6月25日	21
	NetCommonsによる学校Webサイト構築講座	10月3日 10月9日	16 14
	ICT基礎講座	8月2日 8月8日 8月20日	8 14 9

	今さら聞けない道徳の実践講座	7月4日 ～7月5日	5
	今さら聞けない特別活動の実践講座（小）	9月19日 ～9月20日	3
小学校	言語活動の充実を図る国語指導力向上講座	7月22日 ～7月23日	22
	「読むこと」における国語科授業づくり講座	11月13日 ～11月14日	7
	社会的な見方や考え方をはぐくむ社会科の授業づくり講座	9月9日 ～9月10日	14
	算数的活動を取り入れた授業づくり講座	8月1日 ～8月2日	26
	科学的な見方や考え方をはぐくむ理科授業づくり講座	9月9日 ～9月10日	10
	実践事例に学ぶ図画工作科指導法講座	6月18日 ～6月19日	7
	小学校外国語活動講座	8月1日 ～8月2日 8月20日 ～8月21日	25 3
中学校	言語活動の充実を図る国語指導力向上講座（中）	7月1日 ～7月2日	14
	地誌を中心とした社会科の授業づくり講座	8月5日 ～8月6日	3
	活用する力を高める数学の授業づくり講座	7月1日 ～7月2日	12
	科学的な見方や考え方を高める理科観察実験講座	6月18日 ～6月19日	11
	匠に学ぶものづくり講座	8月22日 ～8月23日	9
	読解力・表現力の向上を図る英語指導講座	9月19日 ～9月20日	13
高等学校	思考力・判断力・表現力を高める地歴・公民科実践講座	8月22日 ～8月23日	9
	教科指導力を高める数学問題作成講座	8月5日 ～8月6日	10
	科学的な自然観をはぐくむ理科実験講座	9月19日 ～9月20日	14
	科学的な見方や考え方をはぐくむ理科実験・実習講座	7月1日 ～7月2日	7
	豊かな発想と表現力をはぐくむ被服実技講座	11月13日 ～11月14日	2
	コミュニケーション能力の育成を図る英語指導力向上講座	7月22日 ～7月23日	13

3　指導主事派遣等

平成 25 年度の指導主事派遣及び出前講座の概要は次のとおりである。カッコ内は昨年度比。「出前講座」での指導主事派遣人数は、指導主事派遣人数に含む。

指導主事派遣人数　260名（49名増）
（内訳）小　学　校　62名（13名減）
　　中　学　校　34名（ 9名増）
　　高 等 学 校　31名（ 2名減）
　　教育委員会等　55名（18名増）
　　各種教育団体等　78名（37名増）
「出前講座」での指導主事派遣人数　108名
（内訳）小　学　校　36名
　　中　学　校　19名
　　高 等 学 校　18名
　　教育委員会等　19名
　　各種教育団体等　16名

第4節　情報教育事業

1　研修講座の概要

公立小・中・高等学校・特別支援学校の情報教育に関する教員研修（専門研修）の概要は以下のとおりである。

(1)　ネットワークを活用するための講座（小･中･高･特支）
ア　校内ネットワークの管理と運用基礎講座
イ　NetCommons によるグループウェア構築講座

(2)　授業実践講座（小･中･高･特支）
ア　フラッシュ型教材を用いた ICT 活用の授業実践講座
イ　ICT 基礎講座
ウ　新学習指導要領に対応した共通教科「情報」の授業実践講座

(3)　校務の効率化を目指す講座（小･中･高･特支）
ア　校務処理に生かす表計算（関数）講座
イ　校務処理に生かす表計算（統計分析）講座

(4)　学校Webサイトに関する講座（小･中･高･特支）
ア　NetCommons による学校 Web サイト構築講座

基本研修においては、国や県の情報教育の施策に基づき情報教育の意義や重要性を強調し、また、個人情報の扱いや情報セキュリティについても、その重要性・緊急性に言及した。

情報に関する専門講座を７講座実施した。その中で、「ICT 基礎講座」は３地区で開催した。また、情報モラル・情報セキュリティの出前講座は、学校等のニーズに対応するように努めた。

自主講座においては、６月８日に表計算入門講座を実施し、各地から 20 名の参加を得た。また、一般社団法人「福島県情報産業協会」と連携した、中学生対象の「子どものためのロボット･ワークショップ」は、８月 31 日に６組の中学生とその保護者の参加により実施した。

2　施設利用概況

基本研修の実践講座の各教科において、「教科指導における ICT 活用」を共通項目で指導するため、パソコンやプロジェクタ等 ICT 機器の活用機会やパソコン研修室の利用は多く、以下の通りであった。

パソコン研修室利用状況

利用区分		講座数	利用日数	実人数	延べ人数
教育センター研修		45	67	799	1210
講座	基本研修	19	35	338	583
講座	専門研修（出前講座）	20	24	401	517
講座	職能研修	6	8	60	110
教育庁研修		25	28	455	525
合計		70	95	1254	1735

第５節　教育相談

教育相談チームでは、来所及び電話による教育相談を受けている。今年度の来所相談・電話相談の概要は、以下のとおりである。

1　対象別

来所相談件数･電話相談回数

※　対象の区分は、誰についての相談内容かで分けたものである。来所相談日数は 98 日、電話相談日数は 245 日であった。

種別＼対象		幼	小	中	高	一般	教員	計
来所相談	件数	0	40	28	23	0	0	91
来所相談	人数	0	62	35	24	0	0	121
電話相談	回数	0	128	165	99	30	44	466

2　区分別

来所相談件数･電話相談回数

※　対象の区分で数値の高い「性格行動」には「不登校」の相談、「教育一般」には「いじめ」、「学校への不満」の相談が含まれる。

種別＼対象		知能学業	性格行動	身体神経	進路適性	教育一般	その他	計
来所相談	件数	9	68	0	4	7	3	91
来所相談	人数	9	98	0	4	7	3	121
電話相談	回数	4	108	1	32	233	88	466

3　地区別来所相談件数

県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	県外	計
29	18	15	16	3	4	5	1	91

4　月別相談件数・回数

種別＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
来所 件数	1	2	2	23	0	6	24	2	2	2	25	2	91
相談 人数	2	6	5	25	0	11	27	4	4	5	27	5	121
電話相談	47	65	59	39	25	47	36	37	33	27	30	21	466

第６節　教育図書・資料事業

全国各教育研究機関から送付された研究紀要や資料及び県内各学校から寄せられた研究資料を収集、整理・保管し、レファレンスサービスを行っている。所の研究成果を普及するため、研究紀要や「所報ふくしま『窓』」を刊行した。

1　教育図書・教育資料の収集

教育図書購入冊数	108 冊
寄贈教育図書等（ＶＴＲを含む、教科書は除く）	6 冊
定期刊行図書購入冊数	33 冊
研究紀要寄贈冊数	298 冊
恵贈定期刊行物数	37 冊

2　教育資料の刊行

研究紀要	第 43 集
所報ふくしま「窓」	第 165 号～第 166 号
授業改善ハンドブック　新･授業の窓「授業をつくる 16 の視点」	

付記

平成 16 年度より、教育センターにおいて、指導が不適切である教員等に対して長期特別研修を開始し、平成 20 年度から「指導が不適切である教員等の取扱いに関する要綱」に基づき、指導改善研修を実施している。平成 25 年度は無し。

第１３章　福島県養護教育センター

第１節　概要

昭和61年の開所以来、関係機関と連携協力しながら、教育相談、教職員の研修、調査・研究、図書・資料の収集と情報提供、広報・啓発等の事業を行ってきた。

今年度は、第６次福島県総合教育計画（改訂版）に基づき、早期からの教育的支援、小・中学校及び高等学校に在籍する発達障がいを含む特別な支援を必要とする児童生徒等への支援、特別支援学校の専門性の向上と特別支援教育におけるセンター的機能の充実に向けた支援、関係機関との連携等の充実に努めてきた。

１　教育相談事業

障がい等の心配のある乳幼児・児童生徒に関する教育相談機関として、本人、保護者（家族）、保育所・幼稚園、小・中・高・特別支援学校関係者、教育委員会等からの依頼に応じ、疑問や悩みを一緒に話し合い、特別支援教育の専門的観点からの相談を行った。相談者の心情に寄り添い、相談を通して、子どもへの支援・援助策について共に見つけだすようにした。また、面接、行動観察、必要に応じて心理検査等を行い、関係機関との連携を図りながら専門的・総合的観点からの相談を進めた。

センター相談での相談受理件数は296件（昨年度比93％）、延べ件数は760件（昨年度比64％）であった。障がい種別による相談実件数では、情緒障がい（発達障がいを含む）に関する相談が最も多く約70％を占めている。知的障がいに関する相談は約17％であり、合わせると実件数の全体の87％を占める。相談者は、保護者、教員、保育士、学習支援員、学童保育指導員等である。また、本年度も継続して、震災後の地域支援として、特に被災地域の学校等に出向いて相談を行ったり、教育委員会の就学相談等への支援を行った。

その他の地域においても、学校等に出向き、支援を必要としている子どもに対し、適切な支援と指導が行えるよう必要な支援や助言を行った。学校等のニーズに応じ、ケース検討会や校内研修会等の開催や運営等への支援を行った。さらに、地域における教育相談機能の質的向上を図るため、学校等と保健福祉の関係機関、教育委員会、教育事務所、医療機関等との適切な連携を支援し、地域の支援体制の整備を進めた。

２　教職員研修事業

特別支援学校の基本研修においては、教職経験年数に応じて、基礎的・基本的な事項を中心とした研修や教員の専門的な知識・能力の深化を図る研修、教員として教育活動全般にわたる広い視野に立った研修等を実施した。また、小・中学校や特別支援学校の教員を対象とする職能研修では、その職責に応じた資質・力量の向上を目指した研修を行った。さらに、専門研修の各講座では、特別な支援を必要とする幼児児童生徒の正しい理解や教育的な対応、授業の改善や充実につながる研修を行うとともに、最新の知見を取り入れた各種講座を設け実施した。

基本研修の対象者は初任者研修45名、経験者研修Ⅰ26名、経験者研修Ⅱ23名で、受講者総数は392名であった。職能研修の受講者総数は559名（特別支援学級等新任担当教員研修会109名、特別支援学級担当教員研修会45名、小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会149名、高等学校特別支援コーディネーター研修会96名、特別支援学校コーディネーター研修会49名、特別支援学校訪問教育担当教員研修会20名、通級指導教室担当教員研修会91名、専門研修講座（17講座）の総受講者は439名であった。また、研修の機会を広く提供する公開講座（５講座）の聴講者総数は77名で、自主研修講座（６講座）の参加者総数は121名であった。

３　教育調査・研究事業

震災後の本県が当面している特別支援教育の今日的課題及び学校における教育実践上の具体的課題解決に向けて、以下の研究等を行った。

(1) 調査

【きこえに課題のある児童生徒の学習環境等に関する実態調査（三次）】

平成24年度に福島県内の全公私立小・中学校（727校）を対象に実施した一次調査・二次調査で「きこえに課題のある児童生徒が在籍する」と回答のあった小・中学校182校（追跡調査のため、小学校１年生、中学校１年生を除く）を対象に、きこえに課題のある児童生徒の学習環境等に関する実態調査（三次）を実施した。実施にあたっては、医療機関や特別支援学校等と連携を図り、委員会を立ち上げて調査内容等を検討した。

(2) 研究

【プロジェクト研究】

プロジェクト研究Ⅰでは、「チームで行う特別支援学校の授業改善の在り方」（第二年次）を主題として、特別支援学校においてチーム（複数の教員）で授業のねらいを焦点化し、「子どもの学ぶ姿」に着目した授業研究会（事前検討－授業－事後検討）を提案し、授業改善について考察した。

プロジェクト研究Ⅱでは、「子どもが共に学ぶ小学校（特別支援学級等）の授業づくり－交流及び共同学習の充実に向けて－」（第二年次）を主題として、通常の学級と特別支援学級の教員が協働して、授業づくりを行うことで、児童理解が深まるとともに、教育課程の相互理解が進み、「交流及び共同学習」の授業改善が図られると考え、「子どもの学ぶ姿」をもとにした授業研究会について考察した。

４　教育図書・資料の収集・提供事業

本県特別支援教育の中心的施設としての機能の充実をめざして広く特別支援教育関係図書・資料の収集に努め、関係教

職員等が活用できるよう、整備、充実を図った。

本年度も特別支援教育並びにLD・ADHD・高機能自閉症等の指導に関する図書の充実と教育資料の収集、Webページによる紹介等を推進した。

なお、3月末日現在での特別支援教育関係図書の蔵書数は6,028冊、定期刊行物5種、教育資料数3,903点である。

5　広報・啓発事業

特別支援教育に関する情報や資料及び当センターの事業内容の紹介を定期刊行の広報誌や各種発行物として、関係諸機関等に配付し、特別支援教育に対する啓発や理解の促進を図った。また、本センターのWebページで事業内容を多くの方々に伝えるため、研修や研究についての報告や情報提供の充実に努めた。

6　情報教育事業

研修講座を中心に、障がいのある児童生徒の学習を支援するため、ＦＫＳテレビ会議システムによる学習指導や校内研究への支援を積極的に行った。

第２節　教育相談事業

1　相談対象

相談は、障がいのある、又はその心配のある乳幼児、児童、生徒及びその保護者や関係者を対象として実施した。相談の種類は次のとおりである。

○視覚にかかわる相談　○病弱虚弱にかかわる相談
○聴覚にかかわる相談　○言語にかかわる相談
○知的発達にかかわる相談
○肢体不自由にかかわる相談
○重複した障がいにかかわる相談
○情緒等(LD、ADHD、高機能自閉症、アスペルガー症候群、自閉症、緘黙、不登校等)にかかわる相談

2　形態

(1) センター相談

電話での申込みにより、来所日時をあらかじめ調整し、相談者の来所による教育相談を行った。また、相談の内容によっては電話による相談も行った。

(2) 要請を受けての相談

困難な事例や特に必要な場合には学校等に出向き、現地においての相談を行った。また小・中学校・高等学校から支援要請を受け、事例研究を通しての相談を行った。

3　現状と課題

学習障がい(LD)、注意欠陥／多動性障がい(ADHD)、高機能自閉症等と診断された子どもや、その心配のある「情緒にかかわる相談」が多い。それらの多くは小・中学校の通常の学級や高等学校に在籍している子どもの相談であり、学校等(担任)に具体的な支援策を提供することができるように相談の充実を図った。

また、発達障がいのある子どもについては、一貫した対応と継続した支援が求められることから、幼稚園等から小・中学校、高等学校に至るまでの継続した相談支援体制の整備が求められている。

＜年齢・学校別相談件数＞

年齢・学校		乳幼児(歳)		小学校(年)						中学校(年)			高等学校(年)			一般	計
		0~4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3	他	
センター相談	実件数	8	23	19	19	23	35	30	33	25	24	10	12	9	7	19	296
	延件数	15	34	45	58	52	77	114	83	66	77	18	24	25	13	59	760

＜障がい種別相談件数＞

障がい		視覚障がい	聴覚障がい	知的障がい	肢体不自由	病弱虚弱	言語障がい	情緒障がい	重複障がい	その他	計
センター相談	実件数	1	5	52	11	4	9	207	0	7	296
	延件数	1	7	103	13	8	24	596	0	8	760

＜地区＞	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	その他	計
センター相談	186	355	77	40	3	51	36	12	760

第３節　教職員研修事業

受講者の資質、指導力、専門性の向上をめざし、講座内容の一層の充実を図った。

(1) 専門研修講座を17講座設け、そのうち７講座を公開講座とし、受講者のニーズに応えるようにした。

(2) 講座は講義を中心としながらも、演習や実技、協議等に重点を置いて構成し、研修内容・方法に工夫を加えた。研修を通して、受講者が自らの課題に気付き、その解決に主体的に取り組むことができるように、話し合いの活動を多く取り入れ、具体的な方策に結び付くようにした。

(3) 特別支援教育に関する県内外の専門家や各学校で先進的な実践をしている教員などを招へいして、新たな知見を広げたり具体的な実践に触れたりする機会の充実を図った。

(4) 調査研究や教育相談等の成果を基にして、特別支援教育に関する専門的知識・技能の習得とともに、真摯に実践に取り組む資質の向上に努めた。

１　教職員の研修講座

(1) 専門研修

講　座　名	期　間	受講者数(人)
発達障がいの教育Ⅰ　通常の学級における発達障がいのある児童生徒の理解と対応	(県北) １０月　７日 (県中) １０月　１日 (県南) １０月　２日 (会津・南会津) 10月３日 (相双) １０月　９日 (いわき) １０月１１日	６０
発達障がいの教育Ⅱ　通常の学級における発達障がいのある児童生徒理解を深めるケース検討	８月　６日	１９
特別支援教育の充実Ⅰ　子どもを支える保護者との連携	７月２６日	４７
特別支援教育の充実Ⅱ　通常の学級における授業のユニバーサルデザイン	８月１９日	２５
特別支援教育の充実Ⅲ　アセスメントを生かした授業づくり	８月　７日	３０
特別支援教育の充実Ⅳ　自閉症のある子どもの理解　～社会性を育てるために～	１０月１６日	２１
特別支援教育の充実Ⅴ　特別支援教育とキャリア発達	１０月２４日	２９
特別支援教育の充実Ⅵ　特別支援学校における医療的ケアと授業の実際	８月２１日	１１
特別支援教育実践力アップⅠ　特別支援学校における知的障がい児童生徒の授業充実	７月　９日	２１
特別支援教育実践力アップⅡ　特別支援学校における重度・重複障がい児童生徒の授業充実	７月１１日	１５
特別支援教育実践力アップⅢ　特別な支援を必要とする子どもへの安全・防災教育	１０月３１日	２１
特別支援教育実践力アップⅣ　特別支援学校におけるチーム支援と授業研究の進め方	７月１６日	２５
特別支援教育実践力アップⅤ　インクルーシブな教育における合理的配慮－個に対応したＩＣＴの活用－	９月　５日～６日	２２
地域の支援体制Ⅰ　自閉症・情緒障がい特別支援学級の学級経営－子ども理解と対応－	８月　１日	２１

地域の支援体制Ⅱ　特別支援学級の教育課程と授業づくり	８月　２日	２５
地域の支援体制の充実Ⅲ　特別支援学校のセンター的機能の充実－コーディネーター育成講座－	１０月２９日	２５
幼児期から児童期への支援を継続する幼小連携	７月２２日	２２
計		４３９ （他に公開講座に７７名、自主研修講座に１２１名が参加）

(2) 基本研修

講　座　名	期　間	受講者数(人)
特別支援学校初任者研修　一般研修	４月１７日～　８日	４９
特別支援学校初任者研修　カウンセリング研修	６月１２日～１３日	４７
特別支援学校初任者研修　宿泊一次研修	８月　７日～　９日	４５
特別支援学校初任者研修　情報教育研修	５月１、８、１５日	４６
特別支援学校初任者研修　教育課程別研修	９月１８日	４５
特別支援学校初任者研修　学部別研修	１１月　６日	４３
特別支援学校初任者研修　宿泊二次研修	１月２８日～３０日	４５
特別支援学校経験者研修Ⅰ　基本研修	７月　３日～　５日	２６
特別支援学校経験者研修Ⅱ　共通研修	６月２６日～２８日	２３
特別支援学校経験者研修Ⅱ　教科(領域)指導研修	１月１６日～１７日	２３
計		３９２

(3) 職能研修

講　座　名	期　間	受講者数(人)
特別支援学級等新任担当教員研修会	（共通）４月２２日～２３日 （地区別）１１月	６５ ４４
特別支援学級担当教員研修会	（地区別）　９月	４５
小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会	（地区別）　６月	１４９
高等学校特別支援コーディネーター研修会	（地区別）　５月	９６
特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修会（前期）	５月１４日	２５
特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修会（後期）	１２月１３日	２４
特別支援学校訪問教育担当実習教諭等研修会	８月２２日	２０
通級指導教室担当教員研修会（前期）	７月１９日	４５
通級指導教室担当教員研修会（後期）	１２月２０日	４６
計		５５９

第４節　教育調査・研究事業

１　調査研究

(1)「きこえに課題のある児童生徒の学習環境等に関する実態調査(三次)」結果

ア　調査の概要

調査対象は、平成24年度に福島県内の全公私立小・中学校（727校）を対象に実施した一次調査・二次調査で「きこえに課題のある児童生徒が在籍する」と回答のあった小・中学校182校（追跡調査のため、小学校１年生、

中学校１年生を除く）である。

調査方法は、各市町村教育委員会を通して各学校へ質問紙と回答用紙を送付。回答は学校から当センターへ直接返送とした。

調査内容の主なものは以下の通りである。

・学校の聴力検査の結果
・医療機関からの教育上必要な情報
・指導上困っていることの有無と内容
・機器の使用に関する知識
・学習場面などで実施している配慮
・支援のための連携（校内、校外）
・専門家チームの支援要請の有無　など

なお、本調査の実施にあたっては、「きこえに課題のある児童生徒に関する調査検討委員会」を発足し、医師、特別支援学校、当センターが合同で調査内容や支援の在り方について協議した。

イ　結果及び考察

きこえに課題のある児童生徒の約91％が通常の学級に在籍し集団の中で学習している。

【学級経営上、気になっていること】の上位３項目は以下の通りである。

・学習面での問題（集中力不足、学習の遅れ等）
・友達とうまく関われない
・行動面での問題（黙る、泣く等）

【学習の理解度】についての結果は、

よく理解している・おおよそ理解している　76％

あまり理解していない・ほとんど理解していない　22％

となった。

※　参考　二次調査「あまり・ほとんど理解していない」は15％

上記の結果から、学習面での課題が大きいと言える。学習の理解度は、昨年度の調査よりマイナスの評価が増加していることからも、きこえが不明瞭であると学年が上がることで学習の困難さが顕著になることが推察される。

学習場面において配慮していることは74％が「ある」と回答した。「ない」という回答の中には、機器を所持しているケースもあった。機器を使用していても、きこえが完全ではないケースが多いので、何らかの配慮は必要と考えられる。配慮している内容は「座席の位置等」が一番多かった。また、普段の授業をどの子にもわかりやすくユニバーサルデザイン化し、教師の話し方の工夫や、聴覚だけでなく視覚的な情報でも伝える工夫をしていくことが重要になる。また、ＦＭ補聴システムは、機器を所持している児童生徒には大変有効だが費用がかかるため、保護者や市町村教育委員会と相談の上、合理的配慮の提供の一つとして導入することを検討していく必要がある。

ウ　まとめと今後の課題

昨年度実施した二次調査、また今回の三次調査の結果から、小・中学校において、きこえに課題のある児童生徒は、機器の使用の有無にかかわらず「きこえているかどうか」の判断が難しく、本人も「きこえにくい」と訴えないことが多い。さらに、音声がきこえていても認知・理解の面でつまずきがあり、学習面の遅れが心配される。つまり、きこえに課題のある児童生徒はその困り感が気付かれにくく、指導が難しいことが推察される。また、そのためきこえに課題のある児童生徒への学習上、学級経営上どのような配慮が必要なのか明確になっていない。この課題を解決するためには、担任や学校が単独で取り組むのではなく、ニーズに合わせて専門機関と連携することが重要である。

学校のニーズを確認しながら、一緒に専門家チーム（医療機関、聾学校、当センター等）による学校支援を今後も継続していきたい。

また、きこえに課題のある児童生徒ばかりでなく、その他の障がい種の子どもたちへの支援についても、埋もれている課題があると考える。そのような課題の掘り起こしも、インクルーシブ教育システムの構築に向けて、今後は必要になってくると考える。

２　プロジェクト研究

(1)「チームで行う特別支援学校の授業改善の在り方」（第二年次）

本プロジェクト研究（以下：本研究）では、チーム（複数の教員）で行う授業改善の方法や内容を再検討して、より良い授業研究会の在り方を提案し、授業の充実を目指して２年間にわたり研究を進め、本研究のキーワードを「『子どもの学ぶ姿』に着目したチームで行う授業研究会」とし、「事前検討」「授業」「事後検討」の視点から研究を進めることとした。

一年次では、「事前検討」を中心に「授業のねらい」や「子どもの学ぶ姿」に着目した授業研究会を複数の教員で行った。具体的には、授業の構想等をフィッシュボーン・ダイヤグラムを活用し視覚化しながら、授業のねらいや授業中に期待する「子どもの学ぶ姿」を話題の中心とし、「授業改善につながる授業研究会」の在り方を探求してきた。

二年次においては、一年次の研究「事前検討」で明らかになった授業のねらいを明確にした授業づくりを踏まえ、評価規準や評価基準を設定した「授業」「事後検討」の在り方や方法について研究を進めた。さらに、チーム（複数）で行う授業づくりを活かしながら、目標と評価の一体化を図り、評価の妥当性・信頼性を高めることを目指した。

事前検討では、授業者の考える授業構想やねらいを基に単元で「期待する子どもの姿」「単元で育てたい力」「達成するために必要な力」「子どもの実態と積み重ねてきた学習」について、チームで検討することで、ねらいが焦点化され、授業のねらいが明確になることがわかった。そして、単元の目標設定や指導計画等を立案しながら、「子どもの

学ぶ姿」を想定することで、評価規準や評価基準の作成がしやすいとこがわかった。ここで重要なことは、「なぜ？」「何のために？」など、チームで思考することで確認をしたり、見直したりする過程を経ることで整合性が図られて、授業の骨格がしっかりとしてくることがわかった。

授業では、評価規準と評価基準に沿って、授業中の「子どもの学ぶ姿」に着目していくとともに、授業参観シートや動画の撮影により、記録しておくことで、事後検討における評価に大きく影響することがわかった。また、参観している教員が、評価規準と評価基準に沿って授業中の「子どもの学ぶ姿」に着目できるかで授業改善が促進されることも併せてわかった。

事後検討では、評価基準に照らして、一人一人の学ぶ姿を授業の「どの学習場面で」「何を」「どのように」「どの程度」学んでいたかを複数で評価してきた。そして、単元における児童生徒へ身に付けさせたい力を再評価していくことで、１時間ごとの評価にとどまらず、単元としての評価がなされ、授業改善が促進されていくことがわかった。

２年間の本研究で授業改善を促進させていくために、明らかになったことは、

① チームで授業のねらいを焦点化し、共有すること
② 「どの学習場面で」「何を」「どのように」「どの程度」学ぶ授業なのかを明確にした授業づくりをすること
③ 授業者と参観者が共有した「子どもの学ぶ姿」に着目して、一人一人が「どのように学習していたか」を観察し、個人内評価を重視すること

の３点としてまとめられた。

また、妥当性・信頼性のある目標や評価は、前提となるねらいや目標から結論となる評価が導き出されるように評価規準や評価基準を設定し、複数で評価し合うことで、妥当性・信頼性が得られるかを検証できるものと考える。そのために必要な取組は、

① 前提となる授業のねらいと学習活動、手立て等との整合性を図る取組
② 評価規準や評価基準を設定し、それに基づいた「子どもの学ぶ姿」に着目した授業観察の取組
③ 評価規準や評価基準に基づいたチーム（複数）による評価の取組
④ 教員同士が互いに学び合い、自分の授業に活かそうとする組織力を高める取組

の４点にまとめられた。

今後は、目標と評価の一体化を図る取組を一層推進するためにも、授業のねらいに基づいた「子どもの学ぶ姿」をチームで想定しながら、評価規準や評価基準を設定し、前提となる授業づくりをさらに向上させ、評価の妥当性や信頼性を向上させる工夫をしていくことが今後、特別支援学校に求められることであると考えた。

(2) 「子どもが共に学ぶ小学校（特別支援学級等）の授業づくり－交流及び共同学習の充実に向けて－」（第二年次）

本プロジェクト研究では、通常の学級と特別支援学級の教員が協働した授業づくりとして、子どもの学ぶ姿をもとにした授業研究会と「交流及び共同学習」の計画作成を通して、児童理解が深まるとともに、教育課程の理解が進み、「交流及び共同学習」の授業充実が図られると考えた。

一年次は通常の学級と特別支援学級の教員が協働した特別支援学級の授業づくりとして、自閉症・情緒障がい特別支援学級を対象に、子どもの学ぶ姿をもとにした授業研究会を実施し、特別支援学級の児童理解と特別支援学級の教育課程の理解が深まり、授業改善が図られるという成果が得られた。

二年次は通常の学級と特別支援学級の教員が協働して、通常の学級での「交流及び共同学習」の授業づくりとして、「交流及び共同学習」の計画作成と通常の学級での「交流及び共同学習」における子どもの学ぶ姿をもとにした授業研究会を実施した。

「交流及び共同学習」の計画作成では通常の学級と特別支援学級の教員が共通理解する必要のある自立活動の目標や具体的な手立てなどについて通常の学級の教員がわかりやすいような内容で説明できるように「個別の指導計画」の検討を行う。また、「交流及び共同学習実施計画シート」を活用して、児童一人一人の目標を達成するために必要な教科と学習内容、自立活動の指導内容、交流及び共同学習が実施できる教科・領域、具体的な支援策などについて検討する。

子どもの学ぶ姿をもとにした授業研究会は［事前研究－事中研究－事後研究］の順で行われる。

事前研究では、本時のねらいと児童に期待する活動の姿を明確にし、より具体的にしていくことによって、手立てが考えやすくなるとともに、事中研究での児童を見る視点が明確になる。

事中研究では、本時のねらいと児童に期待する活動の姿に沿って、授業での児童の様子を記録する。その際には、参観者は分担して、児童全員の様子を記録していく。ただし、担当以外の児童の様子を見ておくことも大切である。これらにより、本時のねらいと児童に期待する活動の姿に沿って、授業での児童の姿を細やかに見ることができる。

事後研究では、本時のねらいと児童に期待する姿に沿って、評価する。児童に何を学ばせたかったのかを確認し、授業での児童の姿から、学ばせたかったことが学べていたか、必要な手立ては何であるかを話し合う。それらは、授業者にとっては次の授業での手立てを考えることにつながる。また、授業者と参観者の児童の見方が広がったり、修正されたりするきっかけになる。

実践を通して、次のようなことが言える。

ア 「交流及び共同学習」の実施計画

特別支援学級の児童に対して、どんな目標（本時のねらい）で、どのようにかかわればよいのか（具体的な支援）など、個別の指導計画（自立活動）の内容や実施計画シートで検討した内容の内、交流及び共同学習を行う

上で、通常の学級の教員が必要とする情報をわかりやすく示し、伝えることである。の情報がほしいのである。そのためには、特別支援学級の教員がそれらの情報を通常の学級の教員にわかりやすく示し、伝え必要がある。そうすることで特別支援学級の児童の理解が深まり、通常の学級の教員が普段の授業などで、目標や具体的な支援策を意識したかかわりが見られるようになった。

イ　通常の学級での「交流及び共同学習」の授業における子どもの学ぶ姿をもとにした授業研究会

通常の学級と特別支援学級の教員とで、通常の学級と特別支援学級の児童双方の「本時のねらい」と「期待する子どもの姿」「手立て」を検討し、明確にする。そして、それらを全職員で共通理解をして、子どもの学ぶ姿を記録し、児童一人一人の姿を語り合いながら、授業の評価を全職員で行った。そうすることで通常の学級と特別支援学級双方の児童にとっても、本時のねらいが達成できる充実づくり、つまり、交流及び共同学習の授業の充実、さらに、全ての児童にとってわかりやすいユニバーサルデザインの授業づくりとなった。また、日頃から教員同士が児童について語り合うことが増え、児童理解が深まった。さらに、語り合ったことを授業で生かすようになった。

第５節　教育図書･資料の収集･提供事業

１　教育図書・資料の収集・整理

(1) 教育図書の収集・整理

教育図書については、特別支援教育に関する専門図書の充実に努め、本年度96冊の新規購入及び受贈の結果、蔵書数は6,028冊になった。その種類は、障がい児の教育関係図書が1,133冊、その他の図書が4,895冊である。障がい児関係図書については、利用しやすいように障がい別(視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病弱、言語、情緒、重複障がい等)に配架している。

(2) 教育関係定期刊行物の収集・整理

教育関係定期刊行物は5種類購入し､いつでも閲覧できるように分類・配架した。

(3) 教育資料の収集・整理

全国の関係機関や県内の教育機関の協力により、研究紀要・研究報告書・ハンドブック等の収集に努め、本年度収集した239冊を分類・配架した。県内の資料についても、学校別に分類・配架した。

第６節 広報・啓発事業

１　所報「特別支援教育」(66号)

(1) 内容

ア　所長挨拶「『不易流行』～変えていいもの、変えてはならぬもの～」

イ　特別寄稿

「共生社会、万人のための社会、インクルーシブな社会、そして学校教育の役割」

帝京科学大学生命環境学部

教授　滝坂　信一　氏

ウ　特集

(ア) プロジェクト研究から

教師の協働による授業づくりの実践をとおして見えてきたもの

(イ) 調査・研究から

県内の聴覚障がい児の中学校通常学級における学習環境について

エ　研修ノート

平成25年度専門研修講座（公開講座）より

「インクルーシブな教育における合理的配慮～個に対応したＩＣＴの活用～」

講師　東京大学先端科学技術研究センター

准教授　近藤　武夫　氏

オ　インフォメーション

(ア) 平成25年度教育相談の状況

(イ) 平成25年度研修講座の実施状況

(2) 規格、ページ等

ア　規 格　Ａ４判

イ　ページ数　３１ページ

ウ　ホームページで公開

エ　各関係機関へ配付

２　研究紀要「第26号」

(1) 内容

ア　プロジェクト研究Ⅰ

「チームで行う特別支援学校の授業改善の在り方」(第二年次)

「授業研究パートナー校　猪苗代養護学校の取り組み」

イ　プロジェクト研究Ⅱ

「子どもが共に学ぶ小学校（特別支援学級等）の授業づくりー交流及び共同学習の充実に向けてー」(第二年次)

ウ　調査研究

「きこえに課題のある児童生徒の学習環境等実態調査」

(2) 規格、ページ、部数

ア　規 格　Ａ４判

イ　ページ数　６９ページ

ウ　ホームページで公開

エ　各関係機関へ配付

第７節 情報教育事業

１　ＩＣＴ活用支援

研修講座を中心に、障がいのある児童生徒の学習を支援するソフトウェアの使い方についての研修を行った。

また、ＦＫＳテレビ会議システムの使い方についての研修を実施した。併せて、特別支援学校と連携し、テレビ会議システムを活用した授業研究支援を行った。

２　情報機器活用

研修講座を中心に、スイッチ教材等、支援機器に関する情報提供や作成支援及び貸出を行った。

３　情報教育ネットワークとWebページの充実

特別支援教育に関する情報発信をするために、本センターWebサイトの運営管理を行った。また、Webページで本センターの事業内容を多くの方々に伝えるため、研修や研究の報告の充実に努めた。

・本センターWebページアクセス件数　11,894件

（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

第１４章　福島県立図書館

第１節　概要

１　運営の概要

福島県立図書館は、平成17年10月に策定した『福島県立図書館「学びの環境づくり」』に基づき、県民の生涯にわたる多様な学習活動に応えるため、資料及び情報の計画的な収集を図るとともに市町村立図書館等との連携のもとに効果的な図書館活動の展開に努め、県民文化の向上に寄与することを目的とした事業を行っている。

さらに、平成25年度には「学びの環境づくり」を実現するために、重点的に取り組むべき行動計画を平成25年3月に『福島県立図書館アクションプラン（第２次）』（平成25年度～29年度）として策定し、4つの方針・9つの行動に基づき読書環境、学習環境の整備やサービスの充実に努めた。　　また、平成22年3月に策定された「福島県子ども読書活動推進計画（第二次）」（平成22年度～26年度）に基づき、計画実現のための事業推進にも取り組んでいる。

『福島県立図書館アクションプラン（第２次）』
４つの方針・９つの行動

Ⅰ　東日本大震災等により失われた読書環境、学習環境を取り戻します。

1　東日本大震災等の記録を残します。
2　支援体制の基盤を整備します。
3　読書環境、学習環境の整備を通じて「ふるさと再生」を支援します。

Ⅱ　県民一人ひとりのお役に立てるよう図書館環境を整えます。

1　県民が必要とする情報を提供します。
2　県民が利用しやすい環境を整備します。
3　県民と共に歩む図書館を目指します。

Ⅲ　福島県の子どもたちの読書活動を推進します。

1　「福島県子ども読書活動推進計画（第２次）」に基づき、県立図書館の役割を果たします。

Ⅳ　「図書館の図書館」として、図書館の振興を図ります。

1　図書館・公民館の活動を支援します。
2　高等教育機関、文化施設等関係機関との連携を図ります。

２　図書館協議会

(1)　図書館協議会委員名

［任期：平成25年10月21日～平成27年10月20日］

区分	氏　　名	所属団体等（主な役職名等）
学識経験者	千葉　養伍	福島大学人間発達文化学類（学類長・教授）
	土田　節子	いわき明星大学人文学部現代社会学科（准教授）
	鎌田　喜之	株式会社福島民報社（編集局文化部長）
	加藤　卓哉	福島民友新聞社株式会社（役員待遇　論説委員長）
	小倉　孝太郎	公募
	加賀美　孝俊	公募
家庭教育	矢吹　貴美	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会
社会教育	山中　淳子	福島県公共図書館協会（郡山市安積図書館長）
学校教育関係	五輪　美智子	福島県高等学校長協会（福島県立須賀川桐陽高等学校長）
	田中　淳	福島県中学校長会（会津若松市立湊中学校長）

（会長）千葉　養伍　（副会長）土田　節子

(2)　会　　議

平成25年12月2日　於：県立図書館

（議題等）

・平成25年度図書館利用実績（4月～10月分）について
・東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業実績について
・「福島県立図書館アクションプラン（第２次）」の取組状況について

第２節　資料の収集・整理

「福島県立図書館資料収集基本要綱」及び「福島県立図書館アクションプラン（第２次）」を踏まえ、県民からの資料要求に対応するために、各分野の基本資料を収集し迅速な整理に努めた。また、昨年度開設した「東日本大震災福島県復興ライブラリー」の整備充実を図った。

１　図書館資料の収集

(1)　一般資料の収集

新刊・既刊を問わず、資料的価値や利用的価値の高い資料の収集を行った。官公庁刊行物は主要なものを収集、年鑑白書や叢書等の継続資料については厳選し計画的な収集に努めた。重点収集として、東日本大震災に関する資料をはじめ、調査相談に対応するための各種参考図書、少子化時代の育児及び子育て支援に役立つ資料、大活字本等のユ

ニバーサルデザインに対応した資料の収集、地域振興及び産業・経済の活性化に役立つ資料の収集・整理に努めた。

(2) 地域資料の収集

福島県に関する資料の網羅的収集と福島県人著作の収集に努めた。非売品等の資料については個人・団体・機関等からの寄贈により収集を行い、行政資料についても各自治体・部局への資料収集依頼を行った。

重点収集として、当県に関わる震災関連資料及び東京電力福島第一原子力発電所事故に関する資料及び歴史的変遷を辿る地形図の収集に努めた。また、寄贈資料などで、利用に供していなかった福島県に関係する資料の整理に努めた。

(3) 地域視聴覚資料の収集

震災関連として、各組織や団体等の対応を記録した映像や復興応援歌等の収集に努めた。また、地元新聞のＣＤ－ＲＯＭなど保存価値の高いものを収集した。

(4) 児童資料・研究資料の収集

ア 児童資料

市町村のモデルとして運営している「こどものへや」用児童資料として、子どもの読書活動推進に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

重点収集として、東日本大震災に関する資料や子育て支援に役立つ資料として乳幼児向け絵本の収集に努めた。

また、子どもの読書と科学のコラボ事業のための科学読み物の収集も行った。

イ 研究資料

「児童図書研究室」用研究資料として、児童図書に関する調査研究及び子どもの読書活動支援に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

また、読み聞かせ活動支援のための大型絵本や研究用児童資料としての主要な児童図書賞受賞作品も収集した。

重点収集として、震災関連児童資料の研究書や震災時の子どもの読書に関する資料等の収集に努めた。

(5) 逐次刊行物の収集と整備

新聞では、『東京新聞』が福島市内に支局を開設したことから、新たに寄贈を受けることとなった。

雑誌は、資料価値を重視し、専門的かつ高度な調査相談に対応できる資料を幅広く継続収集した。

新聞、雑誌の震災・原発事故関連記事についても収集に努めた。

(6) 市町村支援用資料の収集

移動図書館などの市町村支援資料は、図書館環境から遠方にある過疎・中山間地域の県民サービスに役立つ新刊書を中心に、話題性の高い文芸書や生活に密着した情報が掲載された実用書・時事関係資料等を収集した。

逐次刊行物受入状況　（単位：種）

区　分	購　入	寄贈・他	計
新　聞	24	53	77
雑　誌	234	786	1,020
官　報　等	3	0	3
合　計	261	839	1,100

資料受入状況　（単位：冊）

区　分	購　入	寄贈・他	計
一　般　資　料	5,581	3,043	8,624
地域・行政資料	1,092	7,389	8,481
児　童　図　書	2,604	360	2,964
児童図書研究書	403	67	470
市町村支援資料	1,376	2,606	3,982
合　計	11,056	13,465	24,521

資料受入状況・推移　（単位：冊）

平成23年度	平成24年度	平成25年度
23,991	21,185	24,521

蔵書統計（資料別・分類別）　　（単位：冊）

分類（区分）		24年度累計	25年度増加	25年度除籍	利用替え	25年度累計
一般資料	0 総記	30,790	386	53	1	31,124
	1 哲学	24,540	465	73	2	24,934
	2 歴史	60,963	963	140	45	61,831
	3 社会科学	98,186	2,345	238	63	100,356
	4 自然科学	33,896	805	75	4	34,630
	5 工学・工業	32,594	728	64	33	33,291
	6 産業	26,371	468	45	8	26,802
	7 芸術	37,408	1,153	133	32	38,460
	8 語学	9,048	141	24	2	9,167
	9 文学	89,635	1,170	1,297	63	89,571
	計	443,431	8,624	2,142	253	450,166
地域資料	0 総記	14,520	484	1	6	15,009
	1 哲学	2,468	49	1	0	2,516
	2 歴史	33,022	842	9	21	33,876
	3 社会科学	54,956	2,536	12	4	57,484
	4 自然科学	7,977	324	2	2	8,301
	5 工学・工業	11,254	708	3	6	11,965
	6 産業	18,926	694	3	2	19,619
	7 芸術	13,718	853	4	6	14,573
	8 語学	770	25	0	0	795
	9 文学	23,492	1,966	3	8	25,463
	計	181,103	8,481	38	55	189,601
児童資料	研究資料	33,630	470	3	16	34,113
	児童図書	99,620	2,964	192	365	102,757
	計	133,250	3,434	195	381	136,870
逐次刊行物資料	雑誌	141,055	4,643	1,756	0	143,942
	新聞合本	14,515	158	0	0	14,673
	新聞記事ファイル	3,823	0	0	0	3,823
	計	159,393	4,801	1,756	0	162,438
特殊文庫		61,753	0	0	0	61,753
館内用計		978,930	25,340	4,131	689	1,000,828
市町村支援計		79,480	3,982	13,424	−689	69,349
合計		1,058,410	29,322	17,555	0	1,070,177

第３節　館内奉仕

開館日は285日、入館者は174,911人、1日平均614人の利用があった。震災の影響で平成23年度に大きく落ち込んだ入館者数だが、昨年度から、震災前（平成22年度）の7割程度に回復してきている。

入館者数

開館日数	285日
入館者数	174,911人
（１日平均）	614人

入館者数・推移　　（単位：人）

平成23年度	平成24年度	平成25年度
85,545	169,623	174,911

１　調査相談（レファレンス）

県内外から、日常の生活の中での質問、仕事上の調査研究等、多種多様な調査相談を受け、所蔵資料及び関係機関の協力を得て回答している。問い合わせは、口頭、電話、文書、FAX、電子メールにて受け付けており、件数は順調に伸びている。また、当館のホームページアクセス件数については、「蔵書検索」や県内の図書館の所蔵資料を検索する「横断検索」、貴重資料の画像を公開している「デジタルライブラリー」の利用が大きく伸びた。

調査相談件数　　（単位：件）

	一般・地域・逐刊	児童資料	小計
口頭	7,683	2,278	9,961
電話	1,239	95	1,334
文書	65	0	65
ＦＡＸ	64	0	64
電子メール	152	9	161
合計	9,203	2,382	11,585

調査相談件数・推移　（単位：件）

平成23年度	平成24年度	平成25年度
4,231	8,232	11,585

ホームページアクセス件数　（単位：件）

区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度
トップページ	143,057	132,462	130,593
蔵書検索	144,047	247,363	312,662
横断検索	134,367	223,701	322,396
ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾗｲﾌﾞﾗﾘｰ	5,223	5,449	6,410
こどものへや	4,671	4,416	3,842
県内図書館(業務用)	14,174	16,777	15,717

2　館内サービス

「福島県立図書館アクションプラン（第２次)」を踏まえ、図書館資料の提供や各種講座の実施を通じ、地域の復興及び暮らしに役立つ情報の提供に努めた。

時事展示として「世界遺産登録！富士山」「日本スペイン交流400周年」、ユネスコ無形文化財に登録された「和食（日本の伝統的な食文化)」をテーマにした「和食～日本の食の底力～」など、ミニ展示として「東北と祭り」や「もっと！！楽しく長くシニアライフ」、県立美術館の企画展にあわせた「江戸絵画の美」、福島医科大学との連携講座にあわせた「健康と病気予防：テーマ薬/脳卒中」など、話題性に富んだテーマで資料を紹介し利用促進に努めた。

また、パスファインダー「本の森への道しるべ」を作成し、有効的な情報の提供に努めた。

さらに、７月５日には、国立国会図書館『歴史的音源』の配信提供に参加し、それらの資料について利用者がインターネット回線を通じて視聴することが可能になった。

3　館外個人貸出

登録者数は12,773人、貸出冊数は130,545冊、のべ人数は36,274人で、昨年度より減少した。

資料宅配サービス（有料）の利用は42件、冊数は265冊で、こちらも利用が減少した。

館外個人貸出状況

分類	冊数	構成比(%)	分類	冊数	構成比(%)
総記	1,574	1.2	語学	1,226	0.9
哲学・宗教	4,262	3.3	文学	20,337	15.6
歴史・地理	7,089	5.4	地域資料	7,637	5.9
社会科学	11,000	8.4	雑誌	8,224	6.3
自然科学	6,947	5.3	小計	86,464	66.2
工学・工業	6,824	5.2	児童	44,081	33.8
産業	3,006	2.3	合計	130,545	100.0
芸術	8,338	6.4			

館外個人貸出状況・推移

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
冊数	71,294	134,867	130,545
のべ人数	19,792	37,180	36,274

館外個人貸出登録者数（登録有効期間３年）　（単位：人）

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	合計
新規	2,019	3,248	3,285	8,552
更新者	996	1,773	1,452	4,221
合計	3,015	5,021	4,737	12,773

館外個人貸出登録者数・推移　（単位：人）

平成23年度	平成24年度	平成25年度
15,005	14,038	12,773

4　特別貸出

特別貸出とは、類縁機関での展示等のための貸出を行う制度で、資料・冊数・期間などの面で配慮している。

特別貸出状況

貸出先	件数	冊数
官公庁関係	5	102
図書館その他	42	178
会社・事業所	21	250
報道関係	2	2
学校	34	54
計	104	586

特別貸出状況・推移　（単位：冊）

平成23年度	平成24年度	平成25年度
862	647	586

5　地域資料

地域資料については、県内外の個人・団体・公的機関等から多種多様な調査相談が寄せられていることから、迅速な対応を心がけつつ、的確な回答を導き出せるよう資料の整理・調査に取り組んだ。

「食の探求者 小泉武夫氏の本」「歴史のみち 万世大路」など館内の企画や講演会、さらには「新緑を求めて 電車に乗って尾瀬へ」「芥川賞 福島県出身・縁の方々の受賞作品」など季節や話題に併せたミニ展示を行い、資料の紹介に努めた。

館外貸出は歴史地理部門の伸びが見られ、地域資料の貸出冊数の４１％を占め、ＮＨＫ大河ドラマ「八重の桜」の放送による新島八重や会津戦争に関する資料への関心が高かった

と思われる。逆に東日本大震災関連資料は編纂・出版も落ち着き、前年度２５％を占めていた地域資料の貸出冊数は５％程度に激減した。貸出冊数全体は震災前平成２２年度並に落ち着いた。

６　逐次刊行物

東日本大震災・原発事故から3年経過し、復興を記録する一助として、『地元新聞にみる原発関連見出し一覧(平成25年9月30日現在)』に従来の１０市町村に加えて、田村市都路地区と川俣町山木屋地区を追加しホームページ上に掲載した。

また、新聞記事閲覧システムの利便性向上のため、新聞記事データ入力のボランティア(来館・在宅)を増員してデータ入力作業を進めている。

『福島県公立図書館 現行購入雑誌保存年限および保存館、現行受入新聞一覧』については、避難している大熊町、富岡町、双葉町、浪江町の4町以外から回答を得て発行した。

『ビジネス支援通信』は継続発行した。

地元新聞社が百二十年史を刊行するにあたり、当館所蔵の明治期の新聞についての情報を提供した。

ミニ展示・時事展示は、「アウトドア」「食とくらし」など話題性や季節に配慮した。

７　児童サービス

子どもの読書活動推進のために各種の事業を行った。

(1)　こどものへや・児童図書研究室の運営

資料の貸出や調査相談をはじめ、「絵本コーナー」や「わくわく科学コーナー」などで推奨する資料の展示を行った。また、「子ども読書活動支援コーナー」においては、読書活動関係者に対して情報提供を行った。

(2)　おはなしかいの開催

乳幼児と保護者を対象とした「ちいさなおはなしかい」（毎月第２木曜日）や児童を対象に以下の「おはなしかい」を開催した。

・はるのおはなしかい「風とあそぼう」(5月25日)
　ふくしまサイエンスぷらっとフォーム協力事業
・アートなおはなしかい（8月10日）
・ふゆのおはなしかい「音のおはなしかい」
　(平成26年1月13日)
　霊山こどもの村ミュージアム協力事業

(3)　図書館見学の受け入れ

学校等の要望に応え、施設見学や利用案内、読み聞かせ等を行い、図書館や本に親しむ機会の提供に努めた。

(4)　情報誌の発行

思春期の子どものための読書案内誌『LITTLE BIG』や児童サービス関連情報誌『児童図書研究ニュース』を発行し読書普及のための情報提供に努めた。

(5)　「子育て支援コーナー」の運営

子育てに役立つ図書や雑誌の展示や関係各課からのパンフレット配布等、情報提供に努めた。

(6)　子ども読書と科学のコラボ事業

・「読書と科学のコラボ事業」(9月7～8日)
　福島県農業総合センター（郡山市）にて、spff（ふくしまサイエンスぷらっとフォーム）会員の大越清美氏協力により「風とあそぼう」の科学講座を行った。
・「サイエンス屋台村 in いわき」(11月30日) いわき産業創造館にて磐梯山噴火記念館との共催でワークショップを行った。

(7)　その他

福島大学が主催するspff（ふくしまサイエンスぷらっとフォーム）と連携協力し科学読み物普及のために以下の事業を行った。

・「わくわく科学コーナー」（こどものへやに設置）
　科学実験器具と科学読み物の展示コーナー。
・『児童図書研究室ニュース』に「科学小話」として科学コラムと関連する児童資料の紹介をした。

８　東日本大震災福島県復興ライブラリー

昨年度より「東日本大震災福島県復興ライブラリー」を開設している。常設コーナーとして、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の関連資料を中心に、地震、津波、体験記、放射線、除染、復興、防災、エネルギー問題等の資料を配架し、利用に供している。所蔵数は、平成26年3月11日現在で6,243タイトルとなっており、一覧リストを作成しＨＰにアップすると共に関係機関へ配布した。また、資料紹介として「ブックガイド」を刊行し利用促進を図った。さらに、〝巡回する福島県復興ライブラリー〟として、資料やパネル等を出張展示用セットとして組み、活用を図っている。今年度は、４件の申込があり、愛媛県内では県立医療技術短期大学な３館の図書館、大阪府立中央図書館、市川市立中央図書館、宇都宮市立東図書館で出張展示が開催された。

９　複写サービス

コイン式コピー機は１台、レーザープリンター１台、カラープリンター１台、マイクロプリンター２台での対応となっている。資料媒体を変化させて保存することから、形態にあわせてそれぞれのプリンターで対応している。

複写利用状況

区　　分	件　　数	枚　　数
自・他館処理	4,963	59,778

複写利用状況・推移　　(単位：枚)

平成23年度	平成24年度	平成25年度
27,867	72,293	59,778

１０　来館者用インターネットコーナー

来館者が利用できるインターネット端末を一般用に6台、こどものへやに1台設置し、情報提供の便宜を図っている。

当館職員による「はじめてのインターネット使い方講座」

を実施し、インターネット利用の啓発を図った。

インターネット利用状況

区　分	人　数
一　般	5,638
児　童	61
合　計	5,699

インターネット利用状況・推移　（単位：人）

平成23年度	平成24年度	平成25年度
3,552	5,684	5,699

１１　展示

(1)　展示コーナー企画展示

当館入り口の展示コーナーにおいて、テーマに沿った資料の展示を行った。

ア　「明治期の雑誌」（6月7日～9月4日）

会津が舞台のNHK大河ドラマ「八重の桜」の放映にあわせ、当館所蔵の雑誌に解説を加え、明治時代を知る機会とした。

雑誌に関する理解と認識を深め、図書館資料としての雑誌の利活用促進を図ることを目的とした。

イ　「いま、磐梯山ジオパークが面白い」（9月6日～12月4日）

自然環境に含まれる地質や地形、景観、動植物、文化や歴史、食べ物や温泉などをまるごと楽しもうというジオパークの考え方を広め、県民が楽しむ機会として、「磐梯山ジオパーク」を中心に資料やパンフレットなどを紹介した。

◆関連事業として次の事業を開催した。

○ギャラリートーク（9月7日）

講師は磐梯山噴火記念館副館長　佐藤公氏

○ふくしまを知る講座「磐梯山とジオパーク」（10月6日）

講師は福島県立博物館専門員　竹谷陽二郎氏

○こども向け科学講座「磐梯山を知ろう」（11月23日）

講師は磐梯山噴火記念館副館長　佐藤公氏

ウ　「ノンフィクション受賞図書展　～時代と人の真実を見つめて～」（12月6日～平成26年3月5日）

大宅壮一ノンフィクション賞、開高健ノンフィクション賞など、福島県立図書館が収集しているノンフィクション系の受賞図書の中から数十点を選び、展示した。

エ　「村岡花子からのおくりもの　～『赤毛のアン』から『いたずらきかんしゃちゅうちゅう』まで～」（平成26年3月7日～6月4日）

長年愛され続けている『赤毛のアン』の最初の翻訳者・村岡花子は、翻訳家としてだけでなく、童話作家、評論家、随筆家、児童文化運動家、女性参政権運動家など、その活動は多岐にわたっている。児童文学者として、家庭文庫活動のパイオニアとしての村岡花子に注目し、資料を展示した。開催にあたっては、クローバー子ども図書館にご協力をいただいた。

(2)　ロビー展示

情報発信の一環としてロビー通路壁面を利用し、県民に作品発表の場を提供した。

ア　「信夫山の史跡写真パネル展」（4月5日～5月1日）

イ　「字游字材（蘇る古代文字）」（5月3日～6月5日）

ウ　「津波も瓦礫もない写真展」（6月7日～7月3日）

エ　「ＦＴＶカルチャーセンター写真講座作品展」（7月5日～7月31日）

オ　「第２回えがく会　油絵作品展」（8月2日～9月4日）

カ　「磐梯山写真展」（9月6日～10月2日）

キ　「第５回網代澄亭と一門による刻字展」（10月4日～11月6日）

ク　「鈴木蔵子押し花展「慈悲・慈愛の花を咲かせましょう！」（11月8日～12月4日）

ケ　「日本画創美会有志　小品展」（12月6日～12月27日）

コ　「「万世大路」の今昔（建設から現在）」（平成26年1月5日～2月11日）

◆関連事業　ふくしまを知る講座

「明治の大プロジェクト　万世大路」（1月25日）

サ　「鉛筆体操展」（2月22日～3月5日）

シ　「東日本大震災パネル展」（3月7日～4月2日）

第４節　館外奉仕

１　移動図書館「あづま号」

(1)　図書館未設置町村支援

図書館未設置町村における、図書館活動の促進を図ることを目的として、資料の援助や公民館図書室の運営相談を行った。

(2)　避難自治体支援事業

東日本大震災等の影響により避難を余儀なくされ、図書館等の運営が困難な6自治体に対し、読書環境を改善することを目的として、資料の貸出と提供を行った。

該当自治体が設置する、仮設校及び仮設住宅等を巡回対象とし、仮設校に対しては、楢葉町・大熊町・葛尾村・飯舘村の４自治体の幼稚園、小・中学校を延べ12回巡回し、2,609冊の貸出しを行った。その他、葛尾村の仮設住宅及び川内村公民館、浪江町の仮設図書館に対し、1,587冊を貸出した。

(3)　特別支援学校読書活動支援事業

日常的に図書館や読書施設、書店等の利用が困難な利用者の読書環境の向上を目的として、2校の特別支援学校に対し資料の提供とおはなし会の開催を行った。

移動図書館「あづま号」貸出状況・推移　（単位：冊数）

平成23年度	平成24年度	平成25年度
22,021	25,789	23,376

2　市町村援助のための支援貸出

大規模な図書館事業を行う市町村に対して、長期にわたり一括大量に図書の貸出を行い、図書館・公民館図書室の充実化を支援した。

本年度の利用状況は次のとおりである。

本宮市教育委員会	276冊
喜多方市教育委員会	452冊
川俣町教育委員会	665冊
只見町教育委員会	564冊
伊達市教育委員会	903冊
西郷村教育委員会	518冊
平田村教育委員会	654冊
西会津町教育委員会	301冊
合　計	4,333冊

3　福島県立図書館資料の譲与

資料の再活用が充分見込まれる図書館や公民館等に対して、福島県立図書館の資料を譲与し、蔵書の充実を支援している。本年度は湯川村に対して452冊の譲与を行った。

4　学校図書館活動支援貸出

県内高等学校及び県立特別支援学校の図書館活動の充実を図るために、長期にわたり一括大量に図書の貸出を行い、学校図書館資料の充実を支援した。

本年度の利用状況は次のとおりである。

県立郡山萌世高等学校	215冊
合　計	215冊

5　学校図書館活動支援セット貸出

県内の児童・生徒の学びの環境づくりを支援するため、県内の高等学校および特別支援学校、小・中学校等に対して、その図書館活動の充実を図ることを目的に、114テーマ（延べ269セット）を編成し貸出を行った。

本年度の利用状況は、27団体（延べ114件）に対し114セット（4,451冊）を貸し出した。

6　広報資料の発行

(1)　館報「あづま」

平成25年10月22日に発行した。

(2)　平成25年版福島県公共図書館・公民館図書室実態調査報告書

図書館活動の振興に資するため、昭和54年度から毎年、県内公共図書館・公民館図書室の実態調査を実施し、報告書にまとめ、県内市町村教育委員会、図書館、公民館等にデータの提供を行うとともに、県立図書館ホームページに掲載した。

なお、主な調査結果として、平成25年4月1日現在、市町村図書館と公民館図書室の合計蔵書冊数は6,037,654冊で、県民１人当たり3.1冊（前年度3.04冊）、年間増加冊数は211,320冊である。

また、平成24年度中の貸出図書冊数は、6,504,705冊（県民１人当たり3.34冊）であり、前年度と比べると総冊数では、681,464冊の増である。

(3)　福島県郷土資料情報

当館所蔵の「国絵図」のデジタル化に伴い郡山女子大学短期大学部准教授の阿部俊夫氏による「明治初年白河・三春両県の国絵図」、当館購読誌以外の雑誌に見る震災関連の特集記事などをまとめた第54号を発行し、県内の図書館や類縁機関へ配布した。

発行部数　250部

第５節　図書館協力

1　相互協力と遠隔地返却

相互貸借冊数は増加した。

遠隔地返却冊数については減少した。

相互貸借状況

区分	県内		県外		合計	
	件数	冊数	件数	冊数	件数	冊数
貸出	971	4,948	534	801	1,505	5,749
借用	85	114	84	118	169	232
小計	1,056	5,062	618	919	1,674	5,981

相互貸借状況・推移　（単位：冊）

平成23年度	平成24年度	平成25年度
4,198	5,902	5,981

遠隔地返却冊数・推移（利用者が来館し、直接貸出しを受けた資料を県内公立図書館に返却した冊数）　（単位：冊）

平成23年度	平成24年度	平成25年度
2,577	6,407	5,788

2　県内図書館職員研修会

図書館職員の資質向上と専門的知識の涵養を図るため、毎

年行っている。

(1) 福島県図書館・公民館図書室職員等初任者研修会

ア　テーマ　「みんなで考えよう　図書館に求められるものとめざすもの」等
イ　期　日　平成25年5月31日
ウ　会　場　県立図書館
エ　参加者　県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等　71名
オ　講　師　白河市立図書館長　田中　伸哉　氏
　　県立図書館職員

(2) 福島県図書館・公民館図書室職員等専門研修会

ア　テーマ　「今日からできる障がい者サービス　～気配りからはじめよう～』
イ　期　日　平成25年11月29日
ウ　会　場　県立図書館
エ　参加者　県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等　21名
オ　講　師　川越市立高階図書館　新山　順子　氏

3　県内大学図書館間との連携

県内の大学図書館と公共図書館との協力体制として「福島県内大学図書館間相互利用制度」があり、その制度の主な柱は、「図書館資料の相互貸借」「複写」「参考業務」及び「一般社会人への共通利用証発行」である。

この制度に参加している市町村立図書館は、福島市立図書館、二本松市立二本松図書館、郡山市中央図書館、須賀川市図書館、白河市立図書館、会津若松市立会津図書館、喜多方市立図書館、相馬市図書館、南相馬市立中央図書館、いわき市立いわき総合図書館、田村市図書館、小野町ふるさと文化の館、三春町民図書館、鏡石町図書館、矢吹町図書館、双葉町図書館、大熊町図書館、新地町図書館、浪江町図書館、本宮市立しらさわ夢図書館の20館で、加盟・参加館は福島県立図書館を含め21館となった。

また、福島大学附属図書館、及び、福島県立医科大学附属学術情報センター図書館との間では、相互協力に関する協定「ふくふくネット」に基づき、資料の相互返却等を実施中である。

第１５章　福島県立美術館

第１節　概要

1984 年に開館した福島県立美術館は、さまざまなテーマに基づく展覧会、創作や芸術鑑賞のための各種講座等の事業を実施している。また、文化財としての美術作品の収集保存、美術や地域の芸術運動に関する調査研究を継続的に実施している。これらの活動を基盤に、美術の情報センターとしての機能を担っている。

当年度の美術館活動の概要は以下のとおりである。

１　美術館運営協議会

(1)　委員

山口　功　福島県中学校教育研究会美術専門部
（平成 25.1.1 ～）

松本良子　福島県高等学校教育研究会美術工芸部会会員
（平成 19.1.1 ～）

遠藤俊博　財団法人福島県文化振興事業団理事長
（平成 25.1.1 ～）

坂本節子　家庭教育インストラクターいわきの会事務局長
（平成 25.1.1 ～）

酒井昌之　福島県美術協会副会長
（平成 19.1.1 ～）

高橋　聡　日本放送協会福島放送局長
（平成 25.1.1 ～）

遠藤久美　蔵のまちアートぶらり一実行委員会事務局長
（平成 21.1.1 ～）

篠　雅廣　大阪市立美術館長
（平成 25.1.1 ～）

辻みどり　福島大学行政政策学類教授
（平成 17.1.1 ～）

貝沼幹夫　福島県立美術館友の会副会長、公益財団法人福島県下水道公社常務理事（平成 25.1.1 ～）

(2)　協議会の開催

ア　期日　平成 26 年 3 月 6 日(木)

イ　内容　・運営協議会会長及び副会長の選出
・平成 25 年度事業実績の概要
・平成 26 年度事業計画案の概要
・県立美術館の運営等

２　他館等との連携

県内外の博物館施設および全国組織等との連携を図り運営・事業等に関する情報交換や研修等を実施した。

加盟団体　・全国美術館会議　(理事)
・日本博物館協会　(会員)
・日本博物館協会東北支部　(監事)
・東北地区博物館協会　(監事)
・福島県博物館連絡協議会　(理事)

第２節　美術品の収集・保存

優れた美術作品鑑賞の機会を提供し、文化財を保存継承するために、コレクション（収蔵作品）の収集活動を継続的に行っている。なお、今年度は 291 点の作品、および美術資料 3 件を寄贈により収蔵する予定である。

１　収蔵作品点数（平成 26 年 3 月 31 日現在）

海外作品	433 点	
日本画	303 点	
洋画	699 点	
版画	1,100 点	
立体	111 点	
工芸	153 点	
書	37 点	
素描・下絵	145 点	
写真	363 点	
計	3,344 点	美術資料 33 件

２　収集評価委員会

(1)　委員

原田　光　岩手県立美術館長
（平成 23.12.1 ～）

村田眞宏　愛知県美術館長
（平成 23.12.1 ～）

荒屋鋪透　ポーラ美術館長
（平成 23.12.1 ～）

三上満良　宮城県美術館学芸部長
（平成 23.12.1 ～）

佐々木吉晴　いわき市立美術館長
（平成 23.12.1 ～）

(2)　委員会の開催

ア　期日　平成 26 年 2 月 18 日 (火)

イ　内容　・平成 24 年度収集作品の報告
・平成 25 年度収集候補作品について

３　平成２５年度収蔵作品

(1)　美術作品及び美術資料の収集

国内・日本画	岸田劉生	1 点
	木村荘八	2 点
	佐藤朝山（玄々）	1 点
	須田国太郎	1 点
	谷角日沙春	1 点
	丸山晩霞	1 点
	村上華岳	2 点

国内・洋画	橋本　章	2点
	丸樹長三郎	3点
	松島一郎	1点
	靄光	1点
	青木　繁	3点
	麻生三郎	5点
	池田龍雄	1点
	池辺　釣	1点
	糸園和三郎	4点
	井上長三郎	10点
	今西中通	2点
	いわさきちひろ	1点
	上野山清貢	1点
	瑛九	1点
	大沢昌助	1点
	織田廣喜	6点
	オノサト・トシノブ	1点
	小山田二郎	3点
	恩地孝四郎	1点
	春日部たすく	1点
	桂　ゆき	4点
	金守世士夫	1点
	川上澄生	6点
	岸田劉生	3点
	北川民次	2点
	木村荘八	1点
	小泉　清	1点
	小出楢重	1点
	古茂田守介	1点
	斎藤真一	1点
	斎藤義重	1点
	坂田一男	2点
	坂本善三	1点
	里見勝蔵	2点
	佐野繁二郎	1点
	島田章三	1点
	清水　崑	2点
	清水登之	1点
	杉本健吉	2点
	須田国太郎	1点
	須田剋太	1点
	清宮質文	4点
	芹沢銈介	4点
	高橋克之	1点
	高橋忠弥	4点
	武井武雄	1点
	谷内六郎	7点
	鳥海青児	1点
	佃　公彦	3点
	椿　貞雄	1点
	鶴岡政男	13点
	難波田史男	1点
	野田英夫	2点
	長谷川利行	13点
	初山　滋	5点
	花柳章太郎	1点
	林　倭衛	1点
	藤島武二	1点
	前田寛治	1点
	前田常作	1点
	松本　榮	2点
	松本竣介	1点
	三岸好太郎	1点
	山口　薫	2点
	山口長男	4点
	山下菊二	1点
	山中　現	1点
	山中春雄	4点
	横山隆一	1点
	吉井　忠	12点
	吉岡　憲	4点
	脇田　和	1点
国内・版画	池田満寿夫	1点
	いわさきちひろ	1点
	瑛九	1点
	恩地孝四郎	1点
	川西　英	3点
	駒井哲郎	1点
	小村雪岱	4点
	斎藤　清	1点
	斎藤真一	1点
	武井武雄	1点
	竹久夢二	21点
	田中恭吉	1点
	谷内六郎	1点
	谷中安規	4点
	中原淳一	8点
	長谷川潔	1点
	初山　滋	2点
	浜田知明	2点
	藤森静雄	1点
	松本　榮	1点
国内・素描	石垣栄太郎	2点
	海老原喜之助	1点
	岸田劉生	3点
	国吉康雄	1点
	須田国太郎	1点
	鳥海青児	1点
	鶴岡政男	2点
	野田英夫	1点

	橋本　章	1点
	南　桂子	1点
	山中春雄	2点
国内・立体	佐藤朝山（玄々）	3点
	朝倉文夫	1点
	阿部常吉	2点
	池田満寿夫	1点
	梅原龍三郎	3点
	岡本太郎	1点
	荻原守衛	1点
	桂　ゆき	2点
	佐藤春二	1点
	里見勝蔵	1点
	蔦　衛	1点
	鶴岡政男	2点
	中村直人	1点
	盛秀太郎	1点
	陽　咸二	1点
	作者不詳	2点
国内・工芸	川上澄生	1点
国内・資料	河野保雄関係資料	1件
	宗像喜代次関係資料	1件
	小川芋銭関係資料	1件

計 291 点　美術資料 3 件

(2)　図書資料の収集（平成 26 年 2 月 28 日現在）

収蔵図書数　　52,922 冊

4　保存修復

美術品の状態を維持回復し、美術品の保管・展示の環境を良好に保つために、計画的に美術品の修復や館内の保存環境調査を実施している。

(1)　虫菌害モニタリングと環境測定の実施

ア　時期　平成 25 年 6 月 3 日～ 17 日、
　　同年 8 月 24 日～ 9 月 7 日の 2 回

イ　場所　展示室、収蔵庫、搬入口およびその他の館内

(2)　美術作品の修復

今年度は辰野登恵子《May-7-91》《May-21-91》《May-25-91》計 3 点、堂本尚郎《臨海-水》《連鎖反応-水》計 2 点の作品固定、額装等を実施した。

(3)　敷地内の放射線測定

ア　時期　毎月 1 回、計 12 回測定

イ　場所　美術館内および敷地内　計 45 か所

第３節　展示事業

1　常設展

収蔵および寄託の美術作品を展示している。美術の多様な領域や数多くの作家を紹介するとともに、作品の状態の保全に配慮して、年 4 回（版画は年 8 回）展示替えを行っている。

常設展については、より多くの県民が利用できるように、無料観覧日を設けている。

(1)　コレクション展

ア　コレクション展Ⅰ

（ア）会期　平成 25 年 4 月 6 日（土）～ 6 月 30 日（日）

（イ）主な内容

・酒井三良と日本画の名品：酒井三良、速水御舟ほか
・斎藤清の墨画：《会津の冬》《野仏》など
・関根正二と大正期の洋画
・日本の風景画：丸山晩霞《渓流》など
・20 世紀の彫刻-写実から抽象へ-：建畠覚造など
・海外の名作選：ピサロ《エラニーの菜園》など
・企画展関連展示：横尾忠則と同時代のポスター

イ　コレクション展Ⅱ

（ア）会期　平成 25 年 7 月 3 日（水）～ 9 月 29 日（日）

（イ）主な内容

・企画展関連展示：コレクション動物園
・関根正二と大正～昭和の絵画：鎌田正蔵《大家族》など
・佐藤朝山（玄々）の彫刻：《巣鶏》《鹿》《陶仏頭》など
・海外の名品選：シャガール《死せる魂》など

ウ　コレクション展Ⅲ

（ア）会期　平成 25 年 10 月 1 日（火）～ 12 月 27 日（金）

（イ）主な内容

・勝田蕉琴と福陽美術会：勝田蕉琴《霜暁》など
・関根正二と大正期の洋画：関根正二《姉弟》など
・麻生三郎とその周辺：麻生三郎《家族》など
・佐藤朝山（玄々）と福島の彫刻：赤堀信平《孫》など
・アメリカン・リアリズムを中心に
・斎藤清が描く女：斎藤清《ヌード》など

エ　コレクション展Ⅳ

（ア）会期　平成 26 年 1 月 5 日（土）～ 3 月 23 日（日）
　　※ 2 月 16 日（日）は大雪のため臨時休館

（イ）主な内容

・王朝の美人たち：蔦谷龍岬《山荘の夕》など
・現代の日本画：田渕俊夫《惶Ⅰ》《惶Ⅱ》など
・池袋モンパルナスと福島の画家たち
・吉井忠 男たちの肖像：吉井忠《広津先生》など
・戦後の具象彫刻：桜井祐一《印度服の女》など
・関根正二と大正期の洋画：関根正二《風景》など
・海外の名品：ベン・シャーンを中心に

(2)　移動美術館

当館所蔵作品の一部を、県内の文化施設で公開展示する事業で、開催館との協働でテーマ、作品選定から実務まで

を行う。今年度はいわき市で開催した。

ア　展覧会名　「海外の名作」展
イ　会期　平成25年10月30日(水)～11月25日(月)
ウ　会場　いわき市暮らしの伝承郷
エ　展示作品　32点
オ　観覧料　一般320(260)円、高校・大学生210(160)円、小・中学生160(110)円 ※( )内は20名以上の団体料金
カ　観覧者数　1,974名（24日間、1日平均82.3名）
キ　関連事業
（ア）ギャラリートーク
a　日時：11月3日(日) 13時30分～
講師：久慈伸一（当館専門学芸員）　参加者21名
b　日時：11月24日(日) 13時30分～
講師：久慈伸一（当館専門学芸員）　参加者48名

(3)　特集展示

ア　展覧会名　「没後10年　橋本章展」
イ　会期　平成25年6月29日(土)～7月15日(月・祝)
ウ　分野　絵画、立体、資料
エ　展示数　55点
オ　観覧料　一般・大学生260(210)円　高校生以下無料
カ　観覧者数　913名
キ　概要

三重県四日市出身の橋本章（1919-2003）は満洲美術学院で学び、その後応召、帰国後妻の郷里であった福島県に定住し、旺盛な創作活動を展開した。自由美術協会、主体美術協会の会員として活躍し、また伊達郡内の美術教諭をつとめて、後進の指導にも力をつくした。2003年、当館での回顧展開催中に逝去した橋本の画業を、55点の作品、県内前衛グループ活動資料等でたどるとともに、教え子や友人らによるトークでは橋本のユニークな人物像をも浮き彫りにした。

ク　関連事業
（ア）ギャラリートーク
日時：6月29日(土) 14時～
講師：堀 宜雄（当館主任学芸員）　参加者：20名
（イ）ゲストトーク
日時：7月15日(月・祝) 14時～
出演：阿部渕氏、荒洋氏、大石尚氏、大町亨氏、熊田喜宣氏、真柴毅氏（以上、作家関係者）
参加者：70名

2　企画展

今年度は4回の企画展示を開催し、国内外の様々な文化を紹介した。

(1)　横尾忠則ポスター展

ア　会期　平成25年4月20日(土)～6月16日(日)
イ　分野　グラフィック・アート
ウ　展示数　396点
エ　主催など
主催：福島県立美術館、福島テレビ
協力：株式会社ヨコオズ・サーカス、国立国際美術館、富山県立近代美術館
助成：福島県立美術館協力会
オ　観覧料　一般・大学生800(640)円、高校生600(480)円、小・中学生400(320)円 ＊( )内は20名以上の団体料金
カ　観覧者数：4,533名
キ　概要

横尾忠則（1936年、兵庫県生まれ）は、第一線で活躍するグラフィック・デザイナー、美術家である。1960年の上京後、独特なイラストとデザイン感覚にあふれるポスターを次々と生みだして、一躍大衆文化を代表する寵児となった。その後、デザイナーとしての仕事は、絵画や版画、映画といった芸術分野にまで広がりを見せている。

今回の展覧会では、1950年代の初期作品から現在に至るまで約60年間に制作された全ポスターを所蔵する国立国際美術館のコレクションを中心に、その後の最新作ポスター、原画や色指定紙等の資料も含め396点を展示し、その原点と全体像を紹介した。

ク　関連事業
（ア）オープニング対談　横尾忠則×山下裕二
日時：4月20日(土) 14時～　参加者：300人
講師：横尾忠則氏（作家）、山下裕二氏（美術史家、明治学院大学教授）
（イ）ワークショップ「私自身のための広告ポスターを作ろう」
日時：4月27日(土)、5月11日(土) 10時30分～16時
講師：和合亮一氏（詩人）、中山千尋氏（グラフィック・デザイナー）
参加者：高校生以上16名
（ウ）担当学芸員によるギャラリートーク
a　日時：5月18日(土) 14時～
講師：久慈伸一（当館専門学芸員）　参加者：30名
b　日時：6月8日(土) 14時～
講師：荒木康子（当館専門学芸員）　参加者：30名
（エ）フォーラム福島との連携企画　映画上映会「新宿泥棒日記」
期間：6月1日(土)～5日(水)
会場：フォーラム福島
協力：福島県立美術館協力会

(2)　若冲が来てくれました プライスコレクション 江戸絵画の美と生命

ア　会期　平成25年7月27日(土)～9月23日(月・祝)
イ　分野　絵画
ウ　展示数　109点
エ　主催など
主催：「若冲が来てくれました」福島展実行委員会、

財団 心遠館、日本経済新聞社
後援：アメリカ大使館、南カリフォルニア日米協会、福島民報社、福島民友新聞社、朝日新聞福島総局、毎日新聞福島支局、読売新聞東京本社福島支局、産経新聞福島支局、河北新報社、時事通信社福島支局、共同通信社福島支局、NHK 福島放送局、ラジオ福島、福島テレビ、福島中央テレビ、福島放送、テレビユー福島、ふくしま FM
特別協賛：キヤノン
協力：ロサンゼルス・カウンティ美術館、京都文化協会、小学館、日本航空

オ　観覧料　一般・大学生 800(640)円、高校生以下無料
※( )内は 20 名以上の団体料金

カ　観覧者数　155,592 名

キ　概要

プライスコレクションは、伊藤若冲をはじめ曾我蕭白や長沢芦雪、酒井抱一など江戸時代を代表する画家の名品の数々で世界的に知られている。その美しく生命の輝きと喜びに満ちた江戸絵画が、震災で被害に遭われた方々、とりわけ未来を担う子どもたちの心の支えになればというプライス夫妻の強い思いにより本展は実現した。

会場ではプライスコレクション 100 点のほか、プライス夫妻の熱意に賛同された独立行政法人国立文化財機構の各館（福島会場では東京国立博物館、京都国立博物館、東京国立近代美術館）、宮内庁（三の丸尚蔵館、正倉院事務所）、および MIHO MUSEUM からもそれぞれ所蔵作品が出品された。

ク　関連事業

（ア）対談「プライスコレクションにみる江戸絵画の楽しみ」
日時：7 月 27 日（土）14 時～
出演：悦子＆ジョー・プライス氏（コレクター）、辻惟雄氏（本展監修者、東京大学名誉教授、MIHO MUSEUM 館長）、田沢裕賀氏（東京国立博物館絵画・彫刻室長）
参加者：300 名

（イ）講演会 1「動物画ワンダーランド-江戸時代に描かれた異国の動物たち-」
日時：8 月 31 日（土）14 時～
講師：内山淳一氏（仙台市博物館副館長）
参加者：200 名

（ウ）講演会 2「プライスコレクションの魅力-若冲、円山四条派、江戸琳派など-」
日時：9 月 8 日（日）14 時～
講師：河野元昭氏（東京大学名誉教授、秋田県立近代美術館長）　参加者：250 名

（エ）ワークショップ 1　わんぱくミュージアム「ねこの『チョーちゃん』をえがこう！」
日時：7 月 28 日（日）10 時～ 15 時
講師：國島 敏（当館主任学芸員）　参加者：7 名

（オ）ワークショップ 2　キッズレクチャー「江戸時代にタイムスリップ?!」
日時：8 月 4 日（土）10 時～ 15 時
講師：國島 敏（当館主任学芸員）　参加者：7 名

（カ）ワークショップ 3　アートなおはなしかい「キーワード『どうぶつ』」（県立図書館との連携企画）
日時：8 月 10 日（土）13 時 30 分～ 15 時 30 分
講師：國島 敏（当館主任学芸員）、大崎眞希子氏（県立図書館専門司書）
参加者：42 名（うち保護者 20 名）

（キ）ワークショップ 4　親と子の美術教室「小さな張り子をつくろう！」
日時：9 月 22 日（日）10 時～ 15 時 30 分
講師：笠原広一氏（福岡教育大学幼児教育講座講師）
参加者：18 名（うち保護者 9 名）

（ク）ギャラリートーク
a　日時：8 月 9 日（金）14 時～
講師：紺野朋子（当館学芸員）　参加者：70 名
b　日時：9 月 6 日（金）14 時～
講師：紺野朋子（当館学芸員）　参加者：200 名

（ケ）特別鑑賞プラン
a　日時：9 月 2 日（月）　参加者：147 名
b　日時：9 月 9 日（月）　参加者：272 名

(3)　ホセ・マリア・シシリア　福島・冬の花

ア　会期　平成 25 年 10 月 4 日（金）～ 12 月 1 日（日）

イ　分野　絵画、立体、インスタレーション

ウ　展示数　26 点

エ　主催　福島県立美術館、スペイン政府 - AC/E, スペイン文化活動公社、スペイン大使館

オ　観覧料　一般・大学生 600(480)円、高校生以下無料
※( )内は 20 名以上の団体料金

カ　観覧者数　3,615 名

キ　概要

スペインの現代アートシーンでひときわ異彩を放つアーティスト、ホセ・マリア・シシリア（1954 年マドリード生まれ）。数年前から彼の芸術的探求は、自分の関心の対象物が発する「言葉」の解読に向けられている。「福島・冬の花」展は、2011 年 3 月に東北地方沿岸を襲った津波の様々な音を元に作り出された作品で構成された。

さらに本展覧会では、東北地方の被災地の学校でシシリアが児童を対象に開催したワークショップの作品もあわせて紹介した。なお本展は「日本スペイン交流 400 周年」の一環として開催された。

ク　関連事業

（ア）講演会「美術においてスペイン的なものとは？―グレコ、ベラスケス、ゴヤを中心に」
日時：11 月 10 日（日）14 時～
講師：雪山行二氏（富山県立近代美術館長）
参加者：30 名

（イ）友の会講座「ホセ・マリア・シシリアとスペインの美術」
日時：11月30日（土）14時～
講師：宮武 弘（当館主任学芸員）　参加者：40名

(4)　近代洋画にみる夢　河野保雄コレクションの全貌

ア　会期　平成26年2月8日（土）～3月23日（日）
※2月16日（日）は大雪のため臨時休館

イ　分野　絵画、版画、素描、立体

ウ　展示数　425点

エ　主催など
主催：福島県立美術館、府中市美術館
後援：福島市
助成：芸術文化振興基金

オ　観覧料　一般・大学生800(640)円、高校生600(480)円、小・中学生400(320)円 ※( )内は20名以上の団体料金

カ　観覧者数　3,074名

キ　概要
福島市の実業家・河野保雄（1936-2013）は、有数の日本近代洋画コレクターである。音楽評論家でもあった河野は、音楽や文芸なども視野に入れた批評眼により、長谷川利行、青木繁、関根正二など、個性あふれる画家たちの作品を収集した。また福島市内に開いた「百点美術館」は、コンサートやパーティー、本の出版などを通じて、文化サロンとしても親しまれた。
本展は、河野コレクションを引き継ぎ、まとめて収蔵・受託する府中市美術館と福島県立美術館が共同で企画した。平成25年10月に77歳で急逝した河野が、生涯にわたって収集した400点あまりの作品を一堂に集め、コレクションの全貌に迫った。

ク　関連事業
（ア）湯浅譲二作品による合唱コンサート
日時：3月2日（日）　14時～
曲目：混声合唱曲「おやすみなさい」（長田弘・詩）～河野保雄に捧げる～など
指揮：西川竜太氏
合唱：混声合唱団「空」、女声合唱団「暁」
トーク：湯浅譲二氏（作曲家）　参加者：200名

（イ）ゲストトーク
a　「作品を『持つ』喜び-コレクションと美術館」
日時：2月22日（土）　14時～
講師：小泉晋弥氏（茨城大学教授）　参加者：30名

b　「河野コレクションと青木繁、明治初期洋画」
日時：3月8日（土）　14時～
講師：志賀秀孝氏（府中市美術館学芸係長）
参加者：30名

（ウ）ギャラリートーク
a　「小品の美学～河野保雄コレクション」
日時：2月8日（土）　14時～
講師：早川博明（当館館長）　参加者：20名

b　「『美のおもちゃ箱』と最後のコレクション」
日時：2月15日（土）　14時～
講師：増渕鏡子（当館主任学芸員）※大雪のため実施せず

c　「百点美術館と河野さん」
日時：3月15日（土）　14時～
講師：堀 宜雄（当館主任学芸員）　参加者：40名

第4節　調査研究事業

1　調査研究

調査研究は美術館活動の基礎をなし、また広く県民に対して美術の情報センター機能を果たすためにデータ集積が欠かせない。県内外の美術家や作品の調査、教育普及、保存、展示等の調査を継続的に実施している。

今年度は県内の美術支援者と作家との関係調査を重点的に行った。

第5節　普及事業

美術をより深く知る喜びを得る機会を提供する事業として、さまざまな講座を開催している。また、つくる楽しみを経験する契機として、各種の実技講座や、美術館への年賀状展、学校と連携しての出張実技講座を行っている。

1　館内解説

学校や公民館その他の団体での鑑賞者のために、鑑賞前に学芸員が美術館の概要、鑑賞のマナー、代表的な収蔵作品の解説、常設展示や企画展示の概要等のガイダンスを行っている。

団体総数は255団体9,913人、そのうち解説を行ったのは140団体6,874人である。

2　鑑賞講座

(1)　館長講座〈西洋美術の魅力〉

5・7・10・11・1・3月開催　＊年間6回
講師：早川博明（当館館長）　参加者：のべ100名

3　実技教室

実技教室は、広く県民各層の美術に関する関心をふまえ、美術創作と鑑賞の理解を深める一助とする目的で、各種プログラムを実施している。

(1)　実技講座

ア　「シルクスクリーンによるデザイン」
日時：平成25年6月1日（土）、2日（日）、8日（土）、9日（日）、15日（土）、16日（日）　各13時30分～16時30分
講師：菅野朝宏氏（福島成蹊高等学校教諭）
参加者：8名

イ　「墨と和紙の出会い」

日時：平成25年8月31日(土)、9月1日(日)、7日(土)、8日(日)
土曜13時30分～16時30分、日曜10時～15時30分
講師：浅見貴子氏（画家）　参加者：16名

ウ　「ガラス絵の魅力」
日時：平成26年2月15日(土)、16日(日)、22日(土)、23日(日)
土曜13時30分～16時30分、日曜10時～15時30分
講師：児玉房子氏（ガラス絵作家）　参加者：8名

(2) 技法講座

ア　「サイエンティフィック・イラストレーションの世界」
日時：平成25年10月12日(土)、13日(日)
土曜13時30分～16時30分、日曜10時～15時30分
講師：木村政司氏（日本大学芸術学部教授）
参加者：6名

イ　「自分で漉いた和紙を素材にした絵画制作」
日時：平成25年11月9日(土)、10日(日)
土曜13時30分～16時30分、日曜10時～15時30分
講師：小原 馨氏（造形作家）　参加者：9名

(3) 親と子の美術教室

ア　「ふしぎな回転ゴマを作ろう！」
日時：平成25年5月5日(日) 10時～15時
講師：古川英樹氏（日本おもちゃ会議会員）
参加者：小学生の親子4組11名

イ　「小さな張り子をつくろう！」
日時：平成25年9月22日(日) 10時～15時30分
講師：笠原広一氏（福岡教育大学幼児教育講座講師）
参加者：小学生の親子8組18名

ウ　「親子おもちゃ作家養成講座」
日時：平成25年12月22日(日) 10時～15時
講師：芳賀 哲氏（仙台手作りおもちゃ研究所主宰）
参加者：小学生の親子4組10名

(4) 一日創作教室

ア　「金属で作る彫刻＆オブジェ」
日時：平成25年6月30日(日) 10時～16時
講師：久慈伸一（当館専門学芸員）　参加者：14名

イ　「超軽量紙粘土で作る～かるがる彫刻のレシピ」
日時：平成25年12月8日(日) 10時～16時
講師：久慈伸一（当館専門学芸員）　参加者：9名

(5) わんぱくミュージアム

ア　「ねこの『チョーちゃん』をえがこう！」
日時：平成25年7月28日(日) 10時～15時
講師：國島 敏（当館主任学芸員）　参加者：7名

イ　「けずって、つくって！わが家のマスコット」
日時：平成25年10月26日(土) 10時～15時
講師：國島 敏（当館主任学芸員）　参加者：4名

ウ　「ひと・ヒト・hito!!～ひとのすがたを木で表現しよう～」
日時：平成26年3月15日(土) 10時～15時
講師：國島 敏（当館主任学芸員）　参加者：4名

4　美術館・学校教育連携事業

(1) 学校連携共同ワークショップ

平成15年度より開催する連携事業で、こどもたちが作家と触れ合う生の機会として、作家・学校・美術館の共同による創作活動を中心にした「出張ワークショップ」を開催している。この事業により相互の協力関係を密にし、新鮮な体験を通してこどもたちの美術や美術館への関心を高めるとともに、通常は美術館を利用しにくい地域のニーズに対応を図っている。

今年度は幼稚園・小・中・高校合わせて19校の参加申し込みがあったので、抽選で9校に絞り開催した。ワークショップ作品は平成25年12月18日(水)～平成26年1月26日(日)の期間、当館企画展示室Bにて活動中のスナップ写真とあわせて展示した。

ア　テーマ　「スタンプで創ろう！大きな絵」
イ　講師　青山ひろゆき氏（東北芸術工科大学講師）
ウ　開催概要
10月17日(木)　白河市立第四小学校4年生　参加者：35名
10月21日(月)　郡山市立多田野小学校1～6年生　参加者：143名
10月25日(金)　白河西幼稚園年中・年長　参加者：100名
10月26日(土)　県立小野高等学校平田校1～3年生　参加者：49名
11月5日(火)　鏡石栄光幼稚園年長　参加者：30名
11月8日(金)　福島市立森合小学校1～3年生　参加者：300名
11月21日(木)　須賀川市立稲田小学校4年生　参加者：41名
11月22日(金)　郡山市立第二中学校特別支援学級　参加者：8名
12月13日(金)　原釜幼稚園全園児　参加者：50名

5　美術館への年賀状展

県内の小・中学生から寄せられた手作り年賀状をエントランスホールに展示した。

会期：平成26年1月12日(日)～31日(金)
応募数：小学生408枚、中学生332枚、
学年不明その他31枚　　合計771枚
観覧者数：1,170名

6　博物館実習

学芸員資格取得のため実習を希望する大学生を受け入れ、カリキュラムを組んで指導している。

期間：平成25年8月20日(火)～25日(日)
実習生：12名

7　友の会、協力会との連携事業

(1) 友の会対象の鑑賞プログラム

ア　「没後10年　橋本章展」ギャラリートーク

日時：平成25年7月6日(土)
講師：堀 宣雄（当館主任学芸員）　参加者：8名

イ　「若冲が来てくれました」鑑賞講座
日時：平成25年9月6日(金)
講師：紺野朋子（当館学芸員）　参加者：200名

ウ　「ホセ・マリア・シシリア　福島・冬の花」鑑賞講座
日時：平成25年11月30日(土)
講師：宮武 弘（当館主任学芸員）　参加者：20名

エ　「河野保雄コレクションの全貌」ギャラリートーク
日時：平成26年3月15日(土)
講師：堀 宣雄（当館主任学芸員）　参加者：40名

(2)　友の会創立10周年記念講演会「ルソーって誰のことだろう。『楽園のカンヴァス』とモダン・アート再考」
日時：平成25年12月14日(日) 14時～
会場：美術館講堂（参加無料）
講師：原田マハ氏（作家）　参加者：250名

(3)　友の会美術映画鑑賞会「ルノワール　陽だまりの裸婦」
日時：平成26年1月13日(月・祝)
会場：福島フォーラム
出演：貝山幸子氏（シャンソン歌手）、
阿部泰宏氏（フォーラム支配人）、
荒木康子（当館専門学芸員）
参加者：130名

(4)　友の会実技講座
ア　「好きな絵をハートで描く・コラージュ絵画」
日時：平成25年9月28日(土)、29日(日)
講師：浅野アキラ（郡山女子大学短期大学部教授）
参加者：11名

イ　「超軽量紙粘土で作る彫刻」
日時：平成26年1月26日(日)
講師：久慈伸一（当館専門学芸員）　参加者：8名

(5)　アートチャリティー・バザー
友の会会員、美術館関係者が持ち寄った図録・書籍・アート関連グッズ等を販売した。
日時：平成25年11月17日(日)
会場：エントランスホール

(6)　友の会研修旅行
日時：平成25年11月10日(日)
目的地：小杉放庵記念日光美術館、
鹿沼市立川上澄生美術館ほか
参加者：伊藤 匡（当館学芸課長）ほか計39名

(7)　ミュージアム・コンサート
福島県立美術館協力会、福島県立美術館友の会との共同開催
日時：平成26年3月23日(日)
会場：エントランスホール（参加無料）
演奏：瀬崎明日香（バイオリン）、篠崎和子（ハープ）
参加者：250名

8　その他の事業

(1)　県立図書館との連携事業「アートな おはなしかい」
小学生とその保護者を対象にした、図書館での絵本の読み聞かせと、美術館での鑑賞および工作ワークショップ。
日時：平成25年8月10日(土)
講師　國島 敏（当館主任学芸員）、
大﨑眞希子氏（県立図書館専門司書）
参加者：42名（うち保護者20名）

(2)　地域に学ぶ中学生体験活動
期間：平成25年7月3日(水)～5日(金)
参加校：福島市立岳陽中学校2年生2名、
福島市立野田中学校2年生1名、
福島市立松陵中学校2年生1名　　合計4名

(3)　先生のための美術館講座
日時：平成25年8月22日(木)
講師：星 博人氏（教育センター指導主事）、
國島 敏（当館主任学芸員）　　参加教員：20名

(4)　出張ワークショップ「鳥獣花木図屏風を切り絵で制作」
企画：伊達市諏訪野子ども会
日時：平成25年7月20日(土)
会場：伊達市諏訪野公民館
講師：國島 敏（当館主任学芸員）　参加者：小学生24名

(5)　巨大塗り絵ワークショップ「気分はもう若冲！」
日時：平成26年3月22日(土)
講師：神戸智行氏（日本画家）
特別講師：彬子女王殿下
企画：心游舎　　参加者：子ども14名
※「若冲展」開催時、台風接近により延期になった事業

第6節　工事関係

1　災害復旧事業

平成23年3月11日に発生した東日本大震災とそれに伴う東京電力（株）福島第一原子力発電所の事故により被害を受けた建物等の復旧及び敷地内の除染を実施した。

(1)　美術館・図書館外構、建物の除染
平成25年11月26日～平成26年3月31日　桜井造園（株）

(2)　美術館災害復旧工事（建築）
平成25年10月25日～平成26年3月23日　鹿島建設（株）

2　改修工事等

(1)　美術館・図書館空調設備等改修実施設計
平成25年9月5日～平成26年3月13日　（株）森村設計

(2)　外構等
平成26年度改修予定
美術館池配管工事　他

第１６章　福島県立博物館

第１節　概要

１　運営の概要

福島県立博物館は資料収集・常設展・企画展・調査研究・教育普及事業を中心に内容の充実を図っている。

今年度の博物館の活動の概要は次のとおりである。

２　運営協議会

（１）委員

学校教育	中野　みどり	郡山市立多田野小学校長
	横山　敦子	いわき市立湯本第三中学校長
	源後　正能	県立会津学鳳高等学校長
社会教育	遠藤　俊博	福島県文化振興財団理事長
	佐藤　典子	いわき市立中央公民館庶務係長
学識経験者	白井　美津子	会津若松市教育委員会委員
	佐藤　彌右衛門	合資会社　大和川酒造店代表社員
	長尾　修	公立大学法人会津大学短期大学部社会福祉学科　非常勤講師
	新妻　玲子	家庭教育インストラクターいわきの会
	庄司　梓	公募委員

（２）会議

ア　第１回　平成 25 年６月６日(木)

議題　①会長および副会長の選出について
②平成 25 年度の事業について
③中期目標の達成状況について
④入館状況について

イ　第２回　平成 26 年２月 28 日(金)

議題　①平成 25 年度事業の実施状況について
②平成 26 年度事業計画について
③平成 26 年度予算案の概要について

第２節　調査研究事業

１　展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向けて、新たなる研究成果と展示資料の収集のため、考古・歴史・民俗・美術・自然の各分野がテーマを設定し、調査を実施している。なお、本年度より各分野における研究テーマを一新し、以下の４テーマで新たな調査研究を開始することとした。

（１）新生代植物化石の再評価

ア　趣　旨

当館自然分野の収蔵資料のなかで最も重要なものの一つに鈴木敬治植物化石コレクションがある。このコレクションは（故）鈴木敬治福島大学名誉教授が当館に寄贈されたもので、その内容の大部分は福島県内産の新生代植物化石である。これらの標本は、これまでに 10,000 点以上について鑑定、整理が行われてきたが、鈴木氏の他界後、多数の未整理標本が残された。

これらについて、最近、新たに 1,000 点以上の整理を進めることができた。最近の進捗についてはボランティアの力によるところが大きく、また、産地・地質時代にまとまりのある標本の整理を進めることができた。

そこで、これらの標本について鑑定内容を確認した上で成果を論文として記録・公表し、これまでに行ってきた本コレクション整理の成果に付け加えたい。また、整理済標本を展示する機会を設け、より充実したコレクションの再評価につなげたい。

イ　概　要

郡山市熱海町地域における片平層、金山町猿倉沢地域における上井草層の化石産地確認調査を行うとともに、付近の地質概要を把握する。また、すでに収蔵されている同地域の植物化石について、同定内容の再確認、標本写真撮影、未登録標本のラベリングおよび登録等を順次行い、展示公開や博物館紀要への執筆等により成果を公表する。なお本年度は、国立科学博物館研究員の矢部　淳　氏を招き、上井草層産の植物化石の同定について再検討を依頼した。

（２）会津藩社倉制の研究

ア　趣　旨

江戸時代には備荒貯蓄や米価調整のため、各藩や代官所においてさまざまなシステムの構築が試みられた。その備荒貯蓄政策の代表的なものは会津藩の例で、保科正之がはじめた社倉や社跡米の制度である。この制度は藩政時代から全国的にも注目されたが、その詳細について、系統的な研究はあまり行われていない。よって各種文献の調査等を行い、制度の具体的なシステムについて明らかにすることを目指す。

イ　概　要

先ずは「家世実紀」など、会津藩の基礎資料の中でどのように記されているのかを調査し、藩の政策としてどのように変遷してきたのかを時系列で追うことに努めた。今後は引き続き家世実紀の調査を行うと共に、周辺資料についても合わせて調査を行い、研究結果を展示や紀要などで公表したい。

（３）デジタル化した映像資産の整理と活用

ア　概　要

平成 25 年度では、ふくしまの映像文化アーカイブ事業で収集しデジタル化した映像について、それぞれの映像に何が映っているかを中心として、内容が検索できるようなインデックスを付ける作業を行った。これは映像資産の活用のための基礎的な作業である。たとえば、「結婚式」という語で検索すれば、映像のタイトルに「結婚式」とあるもののほかに、実際結婚の様子が記録されているものがヒットする。しかも、各映像の何分何秒ぐらいにそのような映像が登場するかを記録することによって、より簡単に求める映像までたどりつくことができるようになる。なお、その成果については、平成 26 年度中に紀要で公開する予定である。

（４）町方資料の受け入れと整理

ア　趣　旨

会津若松市の河野家が設立した酒造博物館には、此花酒造の酒造関連資料のほか城下町の生活を物語る町方資料が多く収蔵されていたが、現在は閉鎖中である。おそらく数千点にのぼると考えられるそれらの資料は会津の都市生活史・民俗史を研究する上で貴重な文化財であり、それを後世に残すために資料の受け入れと整理を検討した。

イ　概　要

平成 23 年度に寄贈の申し出を受けて事前調査を行い、平成 24 年度には会津若松市と合同で現地で資料調査を行った。その際、建物の雨漏り等によりカビの発生している資料などがみられたため、緊急的に資料を県立博物館に搬送して燻蒸等の処置を行っていた。平成 25 年度は資料全体の受け入れと整理を進める予定であったが、河野家と会津若松市、当館とで協議を進める中で事情により資料の行き先が未定となってしまったため、当初の事業は行うことができなくなった。

2 その他の調査研究事業

（1）古文書整理事業

古文書類の調査・研究は、福島県の歴史をさぐるために欠かせない。しかし古文書を歴史資料として活用するためには、1 点ずつ整理を行い、表題・年代・形態・法量・状態などのデータを採取した上で、博物館資料として登録する必要がある。このため、購入・寄贈・寄託などにより当館で受け入れた古文書の整理作業を行っている。また古文書原本を状態よく保存し後世に伝えていくため、古文書をマイクロ撮影し、原本のかわりに閲覧用に提供している。

平成 25 年度は、昨年度に引き続き松﨑達夫家寄贈資料の整理作業を継続して実施したほか、新たに松下眞紀家寄贈資料の整理作業を行った。また資料管理システム更新後の所蔵資料一般公開に向けて、既登録資料のデータを一部整備した（五十嵐コレクション）。マイクロ撮影は、新たに「特定医療法人明智会寄託資料」の撮影を行った。

第３節　資料収集事業

1 収集展示委員会

博物館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12 名の委員を委嘱している。

（1）収集展示委員会委員

氏　名	役　職　名	備　考
有賀　祥隆	元東北大学大学院文学研科教授	委員長
野沢　謙治	郡山女子大学短期大学部文化学科教授	副委員長
入間田宣夫	一関市博物館館長	委員
大石　雅之	岩手県立博物館学芸部長	委員
岡田　清一	東北福祉大学教授	委員
佐々木利和	北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授	委員
設楽 博己	東京大学大学院人文社会系研究科教授	委員
原田 一敏	東京芸術大学大学美術館教授	委員
三上　喜孝	山形大学人文学部人間文化学科准教授	委員
村川　友彦	福島県史学会会長、元福島県歴史資料館課長	委員
柳田　俊雄	東北大学総合学術博物館教授	委員
渡邉　一雄	福島県考古学会顧問	委員

（2）会議

ア　日時：平成 26 年 3 月 6 日(木)

イ　議題　①平成 25 年度事業の実施状況について
②平成 26 年度事業計画について
③平成 26 年度の企画展等について
④その他
文化財レスキュー事業の実施状況について

2 受贈・受託

（1）歴史資料

ア　受　贈

天保通宝	1 件	個人
福島県関係観光絵葉書およびパンフレット類	1 件	個人
西国三十三所他御詠歌ほか	11 件	個人
掛物ほか	10 件	個人
浅羽家資料	29 件	個人
陣笠	1 件	個人
若松城写真	1 件	個人
日本甲冑の新研究（上・下）	2 件	個人
歩兵第六十五陸連隊行動概要ほか	11 件	個人

イ　受　託

古文書（巻子）ほか	262 件	双葉町教育委員会教育長
脇差	1 件	個人
老中奉書ほか	2 件	個人
酒井安右衛門関係文書	1 件	個人
斎藤家肝煎文書	1 件	個人
簗田家家系など	6 件	個人
童子訓版木火鉢ほか	2 件	個人
金剛界大日如来仏像ほか	5 件	個人
切手・葉書等郵便資料	390 件	個人
板かるた	1 件	個人

（2）美術資料

ア　受　贈

白地松竹梅鶴亀模様打掛ほか	3 件	個人
武井柯亭書ほか	3 件	個人

（3）民俗資料

ア　受　贈

彼岸獅子の絵	1 件	個人
断ち板ほか	4 件	個人
行燈ほか	29 件	個人
宝船ほか	4 件	個人
解説冊子ほか	4 件	個人

背あて具ほか　2件　個人
天神人形ほか　4件　個人
唐人凧ほか　5件　個人

イ　受　託

龍立ほか　3件　個人
会津幕之内誌ほか　4件　個人

（4）考古資料

ア　受　贈

三島町佐渡畑遺跡及び柳津町砂子原居平遺跡採集石鏃等ほか　89件　個人

イ　受　託

黒曜石製石核ほか　7件　個人
重弁蓮華文軒丸瓦　35件　富岡町教育委員会教育長

（5）自然資料

ア　受　贈

長石ほか　7件　個人
ヒロノリュウ頸骨ほか　2件　個人
鉱物・岩石標本等　98件　福島県立梁川高等学校校長
先カンブリア時代及び顕生代の岩石・化石　30件　個人

イ　受　託

化石・鉱物標本　1件　個人

3　購　入

（1）美術資料

東日本大震災復興記録写真「Reflection」　1件
港千尋・岡部昌生作フロッタージュ作品・関連資料　パッケージ「ARCHIVES 2001-2012」　1件
岡部昌生作フロッタージュ「おらほの碑」　1件

（2）自然資料

カモノハシリュウとアルバートサウルス産状（複製）　1件
プロトケラトプス頭骨（複製）　1件
三葉虫化石　1件
三畳紀・ジュラ紀動物化石他　80件

（3）図書資料

ア　一般図書

考古分野50冊、歴史分野41冊、美術分野88冊、
民俗分野56冊、自然分野74冊、保存分野75冊、
その他179冊　計563冊

イ　定期刊行物

第4節　保存管理事業

1　資料の収蔵

（1）博物館資料

資料受入れ時点における収蔵資料件数の，現在までの累計を示す。件数は概数であり、「一括」で受け入れた資料も1件と数えている。

収蔵資料数　（平成26年3月31日現在）

分野	件数	備　考
考古	20,386	土器・石器・金属器ほか
民俗	13,164	生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか
歴史	21,749	書籍・文書資料ほか
美術	6,185	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自然	48,636	化石・岩石・鉱物ほか
合計	110,120	

（2）図書および映像資料

ア　収蔵図書数　（平成26年3月31日現在）

考古分野：23,264冊　民俗分野：4,424冊
歴史分野：9,629冊　美術分野：3,673冊
自然分野：15,894冊　保存分野：1,564冊
その他：53,992冊　合計：112,440冊

イ　収蔵映像資料数（平成26年3月31日現在）

収蔵映像資料総数：1,370点

2　登録・整理

（1）資料管理システムの運用

マイクロソフト社製コンピュータ基本ソフトWindows XPのメーカーサポートが平成26年4月9日を以て終了するのに伴い、かねがね、同基本ソフト上でしか正しく動作しない従来の資料管理システムMuseum Keeper を更新する必要が生じていた。本年度、これを実施するための予算が認められたのでシステムを更新した。新たにASP方式の博物館資料管理専用システムである早稲田システム開発株式会社製I.B. Museum SaaS を導入し、既存データを移行して更新を完了した。同時に、来館者サービスの一端として資料情報の公開等に対応するため、LAN回線を改修・延長し、端末パソコン等を更新・増設して公開のための準備を行った。

これらにより資料管理システムは一新された。新システムはASP方式であるため、県教育委員会のFKS回線を介して端末パソコンをインターネットに接続し、システムを利用するものとした。このため、これまで運用して来た資料管理システム専用の館内LAN回線をFKS回線に統合したので、2系統あった回線が一本化された。

今回、システム更新のために要した費用は、

ア　新システム導入（データ移行、入力画面設計・制作、帳票出力用ローカルプログラムの作成、操作法説明会費用等を含む）　380万円
イ　LAN回線の改修および延長工事　172万円
ウ　端末機器購入（設定、調整費用含む）　235万円

である。

新システムの導入により、これまで不可能だったデータの一括登録や一括修正が可能となり、システムの機能は格段に向上した。また、ASP方式の採用によりサーバーの設置が不要となったことから、サーバーのメンテナンスや老朽化に伴う交換、定期的なデータのバックアップ作業などがすべて不要となり、これによりランニングコストもこれまでより削減された。更に、システムのインターネットへの接続により、資料情報の外部公開が可能となり、サービス機能が大幅に向上した。

今後、初期不良があれば修正し、資料登録に関して運用を開始する。また資料情報の外部公開についてはその準備

を進め、試験的な運用を行って不都合が発生しないか確認の後、本格的に運用する。

（2）資料の登録

整理が終了した資料のデータを資料管理システムに入力し、資料の登録を行った。表中の数値は登録済み資料の件数を示す。なお本年度は、上記した資料管理システム更新作業に伴い、旧システムを使用できる期間が制限されたため、表に示したのは平成26年2月13日までの登録件数である。また同じ理由から、本年度は中期目標による従来のような資料の登録目標件数を設けなかったので、登録件数はこれまでより少なくなっている。ただし、中期目標における5年間で1万件の登録件数の目標は、すでに平成24年度末に達成済みである。

データベース入力済みの登録資料の件数を示す。

（平成26年3月31日現在）

分野	資料データ入力件数（平成25年度）	登録資料件数（累　計）
考古	568	11,634
民俗	62	13,610
歴史	0	36,567
美術	3	6,218
自然	274	23,645
合計	907	91,674

（3）ボランティア

博物館資料の整理のため、次の通り資料整理ボランティアを受け入れ、資料の整理を行った。

ア　自然資料整理

桑原　功　　企画展「対決！恐竜展」展示設営および撤収作業協力　のべ7日

イ　古文書整理

古文書整理ボランティア登録者のうち12名が延べ68日参加し、松崎達夫家文書の整理作業（表題・年代・法量などのデータ採取）を行った。終了したのは257点。参加者は五十嵐晴日子、大堀義子、小熊和子、笠間せい子、川原太郎、菊池フミ子、小関栄助、佐藤敏子、佐藤紀子、鈴木清二、馬場純、星弘明の諸氏。

3　保　存

（1）防虫作業等

ア　保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫（一時、第1～第6収蔵庫）、エントランスホール、体験学習室、講堂、事務室、会議室、研究室、図書室、空調機械室など主要なスペースについて昆虫、室内塵埃中昆虫、空中浮遊菌、空中浮遊塵埃数、気相（アルカリガス定性、ホルムアルデヒド、酢酸、アンモニアの気中濃度）及び温度、湿度、照度等について調査を行った。

調査は季節による生息害虫等の状況を確認するため、6月17日～7月3日、10月29日～11月28日の2回にわたり実施した。

イ　燻蒸庫による燻蒸

第1回（8月8日）～第3回（3月27日）まで、新収蔵資料および企画展出品資料などを中心に約345件の燻蒸を実施した。

4　貸　出

（1）博物館資料

資　料　名	貸　出　先	期　　間	展覧会名
谷文晁「八仙人図」	サントリー美術館	6月11日～9月16日	企画展「生誕250周年谷文晁」
蒲生氏郷書状蒲生郷成宛1幅 蒲生氏郷画像　　蒲生記	仙台市博物館	9月20日～11月29日	特別展「伊達政宗の夢−慶長遣欧使節と南蛮文化−」
阿弥陀二十五菩薩来迎図	サントリー美術館	11月23日～平成26年1月13日のうちの3週間（展示期間）	平等院鳳凰堂平成修理記念「天上の舞　飛天の美」
只見町猿倉遺跡出土ナイフ形石器1点	三条市諸橋轍次記念館多目的ホール	6月20日～8月10日	企画展「八十里越を行く」
刺繍阿弥陀名号掛幅1幅（阿弥陀寺所蔵） 刺繍阿弥陀三尊来迎図掛幅1幅（阿弥陀寺所蔵） 法然上人像版木（阿弥陀寺所蔵）	南相馬市博物館	9月14日～12月6日（会期）	平成25年度秋季特別展「鹿島のたからもの　南相馬市のなかで」
郡山市熱海町出土ナウマンゾウ臼歯（レプリカ）	公益財団法人郡山市文化・学び振興公社	7月31日～8月31日	大安場史跡公園開園5周年記念事業ダンボールアートDE夏休み「昔の動物園」コーナー
会津藩廻米路絵図	千葉県立関宿城博物館	10月1日～12月10日	特別展「川が結ぶ−東北地方と江戸を結んだ利根川水運−」
戊辰戦争図（白河之戦）	白河市歴史民俗資料	9月20日～11月4日	特別企画展「新島八重の生涯と白

真匠銀光「会津戦争記聞」 官軍勝利会津落城 早川松山「会津軍記」 慶應四年辰正月伏見戦争以来戦死人別 新島八重再現ドレス	館	（会期）	河～白河がつなぐ故郷への想い」
金銅製双魚袋金具（甲・乙）2点 相馬・双葉地方の弥生時代石器のうち 天神沢遺跡出土石包丁6点	南相馬市博物館	9月1日～12月6日	特別展「鹿島のたからもの　南相馬市のなかで」
朝日稲荷神社奉納絵馬 23 点（須田秀幸氏寄託）	須賀川市博物館	9月3日～10月27日	企画展「震災から救出された須賀川の歴史展」
会津美里町油田遺跡 1356 号土坑出土勾玉・管玉1連 同　1547号土坑出土管玉1連	栃木県立博物館	9月18日～12月15日	企画展「弥生人の祈り」
十二天図軸木 7 本（修復銘有）宝物并年中行事目録　恵日寺　1冊	磐梯町磐梯山慧日寺資料館	10月5日～11月30日（会期）	企画展「慧日寺再興への軌跡−近世の慧日寺を支えた住持たち−」
若松城下絵図屏風	同志社大学同志社社史資料センター	11月29日～12月23日（展示期間）	ハリス理化学館同志社ギャラリー第1回企画展「新島襄と八重」
新島八重筆一行書「心和得天真」	同志社大学同志社社史資料センター	平成26年2月5日～2月28日（展示期間）	ハリス理化学館同志社ギャラリー第1回企画展「新島襄と八重」
新島八重再現ドレス 新島八重関連写真パネル	福島県織物同業会 会場：かわまたおりもの展示館	11月16日～12月15日（会期）	特別企画展「川俣シルクを使った「八重の桜」衣装展」
鳥脚類恐竜「ヒロノリュウ」の頸椎 「ヒロノリュウ」の歯	群馬県立自然史博物館	11月19日～平成26年3月25日	研究のための複製製作
渡部南嶽「山水図」 渡部南嶽「牛図」	奥会津博物館	平成26年4月26日～7月26日（展示期間）	企画展「渡部南嶽」
十二天図旧軸木のうち慶長六年銘 1 点 十二天図旧軸木のうち正徳六年銘（二月上旬吉祥）1点	磐梯町磐梯山慧日寺資料館	平成26年3月27日～12月3日	磐梯町磐梯山慧日寺資料館常設展
新生代植物化石　温帯−冷温帯植物群と暖帯−亜熱帯性植物群 14 点	財団法人ふくしま海洋科学館	平成26年4月1日～平成27年3月31日	同館常設展
鈴木敬治植物化石コレクションより、福島県金山町玉梨における上井草層中の堆積岩塊から産出する植物化石 24 点	国立科学博物館地学研究部	平成26年3月20日～平成27年3月31日	植物化石の同定を行なうため

（2）写真資料

全 133 件

歴史：109 点　　美術：53 点　　考古：37 点　　民俗：14 点　　自然：22 点　　計 235 点

第５節　展示事業

１ 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々のくらしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間の 6 つのテーマで構成される。部門展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。このうち「歴史美術」は実質的には美術分野が中心で展示する小規模展示室として機能している。

従来、部門展示の歴史美術では年間７～ 8 回のテーマを設けた中規模展示を開催しているが、他の常設展示では小規模な展示替えを不定期に実施していたのみであり、来館者に常設展示の固定化と捉えられてしまう懸念があった。

そこで平成 21 年度からは、期間を区切って展示替えを行う、「テーマ展」と「ポイント展」を新たな範疇として常設展示に加えることとし、今年度も継続して実施した。「テーマ展」は特定のテーマ・ストーリー設定に基づく中規模の展示であり、「ポイント展」は 1 点ものの資料や数点の特色ある資料に着目して紹介する小規模展示である。どちらの

展示も学芸員が日頃行っている資料収集と専門的な研究の成果を反映させて資料の持つ価値を再評価しようとする試みである。

テーマ展・ポイント展として常設展示の中で独立的に扱うことにより、展示替えをしやすくする効果が生まれた。

（1）テーマ展

常設展エリア内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として実施した。本年度が５年目である。全８回実施。「ふくしまの考古資料４【大熊町】遺跡探訪」展は大熊町教育委員会との共催事業である。

ア「ふるさとの考古資料３　館蔵『９人のコレクション』展」（部門：考古展示室）
平成24年度より継続　～平成25年5月12日(日)

イ「東神指の彼岸獅子」（部門：歴史美術展示室）
平成24年度より継続　～平成25年5月6日(月・祝)

ウ「絵図でタイムトリップ！幕末の若松城下」（収蔵資料展示室）平成25年4月13日(土)～5月6日(月・祝)

エ「ふるさとの考古資料４　【大熊町】遺跡探訪」（部門：考古展示室）　平成25年6月18日(火)
～平成26年5月11日(日･祝)

オ「資料でたどる山川浩と健次郎」（部門：歴史美術展示室）　平成25年7月20日(土)～9月23日(月・祝)

カ「現代「漆・歴史」考」（部門：歴史美術展示室）
平成25年10月5日(土)～12月8日(日)

キ「けんぱくの宝2013」（部門：歴史美術展示室）
平成25年12月21日(土)～平成26年2月2日(日)

ク「博物館に漂着した資料たち―会津に生きた女性にいただいた資料から―」（部門：歴史美術展示室）
平成25年2月20日(木)～3月26日(水)

（2）ポイント展

常設展エリア内において、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として実施した。本年度が５年目である。全19回実施。また、今年度は博物館実習生の制作による「東北郷土玩具の世界-県立博物館コレクションより-」をポイント展として実施した。

ア「青年貯蓄会の嶋台」（部門：民俗展示室）
平成25年4月4日(木)～5月1日(水)

イ「伝来資料にみる土津神社Vol.1」（総合：近世展示室）
平成25年4月6日(土)～6月28日(金)

ウ「近世に書かれた中世の城絵図」（総合：中世展示室）
平成25年4月6日(土)～7月19日(金)

エ「八重の時代の会津人」（総合：近・現代展示室）
平成25年4月6日(土)～12月27日(金)

オ「伝統の継承―福島県立会津工業高校所蔵逸品ギャラリー―」（レストコーナー）
平成25年4月6日(土)～12月15日(日)

カ「伝来資料にみる土津神社Vol.2」（総合：近世展示室）
平成25年6月29日(土)～9月27日(金)

キ「近世農具の発展」（総合：近世展示室）
平成25年7月18日(木)～10月9日(水)

ク「会津葦名氏・伊達政宗の文書」（総合：中世展示室）
平成25年7月20日(土)～12月27日(金)

ケ「 土偶ちゃん♡」（総合：原始展示室）
平成25年7月25日(木)～12月8日(日)

コ「落下傘で作った着物」（部門：民俗展示室）
平成25年8月1日(木)～8月28日(水)

サ「東北郷土玩具の世界-県立博物館コレクションより-」（エントランスホール）
平成25年9月1日(日)～9月29日(日)

シ「江戸から会津へ―幕末の道中絵図にみる諸藩と宿場」（総合：近世展示室）
平成25年9月28日(土)～12月27日(金)

ス「米作りを始めた頃の土器」（総合：原始展示室）
平成25年10月26日(土)～平成26年3月2日(日)

セ「古代山岳寺院－棚倉町流廃寺跡」（総合：古代展示室）
平成25年10月26日(土)～平成26年3月2日(日)

ソ「火の用心！―道具でみる消防―」（部門：民俗展示室）
平成25年10月31日(木)～12月11日(日)

タ「食卓を彩った昔の道具たち」（部門：民俗展示室）
平成25年12月19日(木)～平成26年2月19日(水)

チ「石英と水晶」（レストコーナー）
平成26年2月7日(金)～3月30日(日)

ツ「小さなひな祭り」（部門：民俗展示室）
平成26年2月27日(木)～4月9日(水)

テ「近世の水制工法」（総合：自然と人間展示室）
平成26年2月28日(金)～3月30日(日)

2　企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、期間を限定して開催している。

（1）春の企画展「NHK大河ドラマ特別展　八重の桜」

ア　会　期　平成25年5月17日(金)～7月3日(水)
開館日数：46日間

イ　会　場　福島県立博物館企画展示室

ウ　入場者数　22,567人

エ　担当学芸員　歴史分野：佐藤洋一　古山智行

オ　趣　旨

NHK大河ドラマ「八重の桜」と連動しながら、新島八重の生涯を」「プロローグ」「会津の教え」「幕末の京都」「会津籠城」「古都復興－覚馬と襄－」「ハンサムウーマンへ」「エピローグの構成で紹介した。八重ゆかりの品々や彼女が生きた時代の関連資料約２００点に加え、会場内には実際に使用していた家具を用いながら八重と夫である新島襄が暮らした新島旧邸（京都市指定有形文化財）の応接間を復元した。江戸･明治･大正・昭和という４つの時代を力強く生きた八重と戊辰戦争の敗戦から立ち上がった人々の姿を通して、復興へのメッセージを伝える展覧会となった。

なお本展は東京（東京都江戸東京博物館）、福島（当館）、京都（京都府京都文化博物館）の３会場を巡回した。

カ　展示構成

プロローグ
第１章　会津の教え
第２章　幕末の京都
第３章　会津籠城
第４章　古都復興－覚馬と襄－
第５章　ハンサムウーマンへ
エピローグ

キ　展示資料総数　210点

ク　主な展示資料

・家訓（題字：松平容保　本文筆：山川浩）・若松城下絵図屏風
・日新館童子訓（上・下巻）
・松平容保肖像写真　・孝明天皇御宸翰
・鳥羽伏見合戦図　・錦旗　・山本覚馬建白
・奥羽越列藩同盟旗　・白虎隊自刃図　・泣血氈
・新島八重筆和歌条幅「ふるさとの」
・新島襄所用コート　・新島八重宛書簡
・八重と襄の肖像　・新島旧邸家具類　・新島襄遺言
・日本赤十字社章　・新島八重筆一行書「心和得天真」
・昭和三年京都会津会秋季例会記念集合写真

ケ　関連行事

（ア）記念講演会「描かれた幕末の会津藩－追鳥狩図・蛤御門の辺図を読み解く－」
講師：茨城大学人文学部教授　高橋修氏
日時：平成25年5月29日(水)14時～15時45分

（イ）シンポジウム「企画委員が語るNHK大河ドラマ特別展八重の桜」1
講師：東京都江戸東京博物館　齋藤慎一氏
当館学芸員　佐藤洋一　高橋　充
日時：平成25年6月12日(水)14時～15時45分

（ウ）シンポジウム
「企画委員が語るNHK大河ドラマ特別展 八重の桜」2
講師：京都府京都文化博物館学芸員　西山剛氏
同志社大学同志社社史資料センター
社史資料調査員　小枝弘和氏
当館学芸員　古山智行
日時：平成25年6月26日(水)14時～15時45分

（２）.夏の企画展「震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム in 会津若松『対決！恐竜展　ティラノサウルスとトリケラトプス』」

ア　会　期　平成25年7月27日(土)～9月16日(月・祝)
開館日数：45日間

イ　会　場　福島県立博物館企画展示室

ウ　入館者数　18,987人

エ　担当学芸員　自然分野：相田　優

オ　趣　旨

この企画展は、国立科学博物館および全国科学博物館振興財団との共催による「震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム」として実施した。展示では、ふだん地方都市ではあまり目にすることのできない恐竜の全身骨格復元を複数展示し、恐竜に興味を持つ多くの人たち（特に子どもたち）の知的好奇心を満たすとともに、迫力ある恐竜の魅力を楽しんでもらう展示をめざした。

展示資料として、コラボミュージアムの巡回資料であるアロサウルス全身骨格や、平成23年に科博が開催した「恐竜博 2011」で反響を呼んだ“しゃがんだ姿勢のティラノサウルス”などを展示し、最近の恐竜学のようすを紹介した。また、これらと当館の所蔵標本の展示とを組み合わせて中生代古生物の概要を紹介し、来館者の自然科学的な好奇心を満たす展示となるよう心がけた。

さらに、コラボミュージアムの意図である地域の連携に目を向け、企画展全体の運営においてその実現に積極的に努めた。

カ　展示構成

（ア）アロサウルスとカンプトサウルス
（イ）対決！ティラノサウルスとトリケラトプス
（ウ）ジュラ紀の生きものたち
（エ）白亜紀の生きものたち
（オ）ふくしまのジュラ紀化石と恐竜
（カ）ふくしまの白亜紀化石と恐竜
（キ）恐竜時代の化石にさわってみよう

キ　展示資料総数　425点

ク　主な展示資料

（ア）アロサウルス全身骨格復元
（イ）カンプトサウルス全身骨格復元（複製）
（ウ）ティラノサウルス全身骨格復元（複製）
（エ）トリケラトプス全身骨格復元（複製）
（オ）タルボサウルス全身骨格復元（複製）
（カ）世界のジュラ紀化石（裸子植物、アンモナイト、貝類化石など）
（キ）世界の白亜紀化石（裸子植物、被子植物、アンモナイト、魚類など）
（ク）相馬中村層群産化石（恐竜足跡、裸子植物など）
（ケ）双葉層群産恐竜化石（フタバリュウ、オオヒサリュウなど）

ケ　関連行事

（ア）記念講演会「最新恐竜学」
日時：8月11日(日)13時30分～15時
会場：福島県立博物館講堂
講師：国立科学博物館研究主幹　真鍋　真　氏

（イ）企画展イベント「夏休み恐竜ナイトミュージアム」（ふくしま応援ミュージアムイベントを兼ねる）
日時：8月17日(土)17時30分～19時
会場：福島県立博物館企画展示室・講堂
講師：当館学芸員相田　優・船尾武彦・竹谷陽二郎

FTVアナウンサー 浜中順子氏（ボランティア）

（ウ）実技講座「ペーパーアートで恐竜をつくろう」

日時：8月24日(土)13時30分～15時

会場：福島県立博物館実習室

講師：美術家　半沢政人氏

（エ）企画展イベント「夏休み恐竜ナイトミュージアム PartⅡ」

日時：9月15日(日)17時30分～19時

会場：福島県立博物館企画展示室・講堂

講師：当館学芸員　相田　優・船尾武彦・竹谷陽二郎

FTVアナウンサー 若槻麻美氏（ボランティア）

（オ）展示解説会

①日時：7月28日(日)13時30分～14時30分

講師：当館学芸員　相田　優

②日時：8月11日(日)15時30分～16時30分

講師：国立科学博物館研究主幹　真鍋　真　氏

③日時：9月16日(月)13時30分～14時30分

講師：当館学芸員　相田　優

コ　成果と課題

・開館日数45日というやや短めの会期の中で、ほぼ1万9000人に達する入場者を迎えることができた。また、アンケートでは80%以上の人が「おもしろかった」「まあまあおもしろかった」と回答しており、来館者の満足度という点では成功を収めたと言える。

・国立科学博物館および全国科学博物館振興財団と当館との「コラボミュージアム」という共催形式で開催することができ、また、先方には震災による被災地域への復興支援という強い意図があったため、予算措置と展示資料の両面において多大な支援を得ることができた。このため、当館側の開催経費は比較的小規模であるにもかかわらず、大規模な展覧会として立ち上げることが可能となった。

・恐竜標本に対して人気が集中したことは言うまでもないが、このほか、展示全体の構成や展示解説のわかりやすさ等に関して好意的な評価が散見された。

・アンケートによれば、今回の企画に対する賛意とともに、今後も「こどもたち」を対象とした展覧会への期待が多く示された。しかし同時に、来館者の側からは、「恐竜展は子供たちのための企画」という、あらかじめの固定観念で捉えられている様子は否めなかった。

・化石にさわるコーナーと恐竜シアターの人気が高かった。しかし恐竜シアターの映像資料は上映時間約5分の作品を1本しか用意できなかったため、上映時間の短さや作品数の不足に対する不満も多く聞かれた。

・通例、自然分野の企画展図録は売れ行きが伸びないことが多い。しかし今回はページ数の少ないガイドブック形式で作成し、一冊300円という廉価版としたため、会期中に376冊という異例の販売数を記録した。

・事前に詳細な展示形態を把握できない恐竜標本があったため、展示室で標本の配置が終了した後、動線の一部に窮屈な箇所が生じた。今後においては十分慎重に検討すべき反省点であった。

・国立科学博物館の連絡先が分散していることや、関係する連絡先が多く生じたことから、準備期間中の打合せと事務手続きに予想以上の時間と労力を取られ、展示内容そのものを十分に検討する余裕が失われた。

・結果的に準備時間が不足気味となり、十分な解説パネルとグラフィックスパネルを用意できないコーナーが生じた。また、小型標本の展示手法を十分に工夫する時間が足りず、展示が単調になった。

・館内のコーヒーショップで小規模な恐竜グッズ販売を行ったが、人気は高く、同時にミュージアムショップがないことへの不満や批判が聞かれた。

（3）秋の企画展　「東北大学総合学術博物館のすべてⅩⅢ　考古学からの挑戦－東北大学考古学研究の軌跡－」

ア　会　期　平成25年10月5日(土)～12月1日(日)

開館日数：50日間

イ　会　場　福島県立博物館企画展示室

ウ　入館者数　2,685人

エ　担当学芸員　考古分野：田中　敏

オ　趣　旨

東北大学における考古学研究は、理学部の松本彦七郎、医学部の長谷部言人・山内清男らにより大正年間から開始された。大正14（1925）年には、喜田貞吉などが中心となり、「奥羽史料調査部」を創設し、東北地方における歴史研究の拠点として、原始・古代の資料収集と調査研究を始めた。このような研究の流れは、サハリン（樺太）の調査や弥生時代の遺跡、多賀城跡の調査などで大きな成果をもたらした伊東信雄や、旧石器時代の研究に精力的に取り組んだ芹沢長介に受け継がれた。長年にわたる調査・研究によって蓄積された膨大な資料の多くは現在、東北大学片平キャンパス内にある文学研究科考古学陳列館に収蔵されており、その一部は東北大学総合学術博物館において一般に公開されている。

今回の企画展では、それらのなかから福島県関連の資料も含め、考古学の研究史に登場する著名な遺跡から出土した資料を中心に紹介し、先学が歩んできた考古学研究の足跡をたどった。

カ　展示構成

第1章　人類文化の起源を求めて　－最古の狩人たち

第2章　縄文文化の探究

第3章　東北の弥生文化の実像を求めて　－北にひろがる米作り

第4章　東北の古墳文化の解明に挑む　－一枚の鏡から

第5章　古代陸奥国を掘る　－律令支配のあかし

終　章　考古学研究史に足跡を印した東北大学の先駆者

キ　展示資料総数　約900点

ク　おもな展示資料

（ア）長崎県福井洞穴出土石器

（イ）宮城県沼津貝塚出土骨角器（重文）

（ウ）青森県垂柳遺跡出土資料

（エ）福島県会津大塚山古墳出土資料（重文）
（オ）宮城県多賀城跡出土資料
ケ　関連行事
（ア）記念講演会「東北大学の旧石器文化研究－日本最古の文化を掘り下げる－」
講師：東北大学総合学術博物館教授　柳田俊雄氏
日時：10月12日(土)13時30分～15時
会場：講堂
（イ）記念講演会「サハリン考古学の先駆者　伊東信雄博士」
講師：東北大学大学院文学研究科教授　阿子島香氏
日時：11月3日(日･祝)13時30分～15時
会場：講堂
（ウ）記念講演会「弥生文化・古墳文化・続縄文文化」
講師：福島県考古学会顧問　中村五郎氏
日時：11月23日(土･祝)13時30分～15時
会場：講堂
（エ）展示解説会
講師：当館学芸員　田中　敏
日時：10月12日(土)・11月3日(日･祝)
講演会終了後
コ　成果と課題
今回の企画展は、東北歴史博物館との共同企画展で本来、平成23年度に開催する予定であったが、東日本大震災の影響で仕切り直しとなった展覧会である。展示資料の多くは、通常は東北大学文学研究科考古学陳列館に収蔵され、一般には公開されていない資料のため、今回展示公開し、皆さんにご覧いただけたことは意義深かったと考える。ただし、来場者数が少なかったことは少し残念であった。企画展のみどころなどについて原稿を作成し、それを新聞社に持ち込み掲載していただくなど、広報活動に努めたが、その効果はあまりなかったようだ。ほかの広報媒体の活用や広報対象の検討など、効果的な広報のあり方が課題として残った。
（アンケートの意見より）
・見学順路を示してほしい。
・知識の少ない私にとっては、ものの意義の見解などもみられると嬉しかったかなと思いました。
・地道な研究が東北の歴史を発掘していてすばらしい。
・縄文土器の型式や石器の石質も表記してほしかった。
・概略が書かれているパンフレットなどがあるとなおよい。
・数多くの重要なものを見学できてありがとうございました。宮城県に行かないと見られないものばかりです。
・縄文土器をながめているだけで幸福になりました。
・会津大塚山古墳が学術的にとても価値のあるものだと初めて知った。
・土偶が自分に似ていてウキウキした。

3　特集展

新しく収集した寄贈・寄託資料を中心に、特定のテーマに基づいて一定の期間開催する展示会。企画展示室の一角にある収蔵資料展示室を使用する場合が多い。たたし企画展のように特別の料金はとらず常設展料金で観覧できる。予算化せず常設展費予算でやりくりする。

（1）　「東北の伝承切り紙－千葉惣次コレクションを中心にして－」

ア　会　期　平成26年1月30日(木)～3月27日(木)
イ　会　場　福島県立博物館企画展示室
ウ　入館者数　2494人（会期中の常設展入館者数）
エ　担当学芸員
民俗分野：榎陽介・二瓶浩伸・内山大介・佐々木長生
オ　趣　旨
神事や儀礼の際に作られる伝承切り紙の美しさに心ひかれ、東北各地をめぐり集めた千葉惣次氏のコレクションを中心に、当館所蔵のコレクションも合わせて展示した。千葉氏は千葉県長南町に伝わる土人形・芝原人形の継承者であり、また郷土玩具の研究・収集家でもある。その千葉氏と東北をめぐり、伝承切り紙の写真を撮られてきた写真家・大屋孝雄氏の作品とともに展覧会を構成した。
カ　主な展示資料
上山八幡宮（宮城県南三陸町）の切り透かし、新山神社（岩手県奥州市）の御幣、養泉院（福島県二本松市）の御幣、八坂神社（岩手県北上市）の網飾りなど
キ　関連事業
（ア）展示解説会
講師：千葉惣次氏・大屋孝雄氏
日時：平成26年3月9日(日)13:30～
会場：福島県立博物館　企画展示室
ク　成果と課題
千葉氏の収集した宮城・岩手の伝承切り紙に当館が所蔵する福島県内の資料を加えて展示した内容であったが、アンケートをみる限りでは来館者の満足度は高かった。また会場では精巧に仕上げられた切り紙を一点一点じっくりと見て歩く人が多くみられ、資料のもつ力を再認識した展覧会となった。

4　移動展

県立博物館の企画展の一部や、当館の収蔵品を市町村の博物館・資料館で公開して欲しいという要望も多いために移動展を実施している。利用を促進するために移動展のパッケージプラン（別表）を用意し、その中から選んでいただくということも試みてきた。

（1）震災復興・国立科学博物館コラボミュージアムinおのまち「恐竜がやってきた！　そうだ！　アロサウルスにあいにいこう！」

主催：小野町ふるさと文化の館、国立科学博物館、
全国科学博物館振興財団
共催：福島県立博物館
ア　会　期　平成25年10月5日(土)～11月4日(月･祝)
イ　会　場　小野町ふるさと文化の館

ウ　入館者数　2,904 人

エ　担当学芸員　自然分野：相田　優

オ　趣　旨

国立科学博物館・全国科学博物館振興財団による「震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム」は、上記の期間を会期として小野町ふるさと文化の館でも開催された。同館でのコラボミュージアムは、恐竜アロサウルスをはじめとして、国立科学博物館から貸出されたいくつかの恐竜関連標本に基づく展覧会である。同展において、当館は小野町ふるさと文化の館より、関連する化石・岩石等の展示標本の貸出要請を受けた。当館では要請のあった標本類の貸出と、展示作業の支援を行うこととし、小野町ふるさと文化の館に対して当館との共催を依頼することにより、これらの展示を当館移動展の一環とした。また、関連企画「恐竜作品コンテスト」において審査員として協力した。

カ　展示資料

・アリエタイテス（ジュラ紀アンモナイト）
・ステノフレビア（ジュラ紀昆虫類）
・ジェレツキテス（白亜紀アンモナイト）
・サウロロフス頭骨（複製）（白亜紀恐竜）
・花崗岩（阿武隈山地産　白亜紀深成岩類）
・ハンレイ岩（小野町産　深成岩類）

ほか 16 点　合計 22 点

キ　関連企画「恐竜作品コンテスト」

依頼事項：コンテスト審査員

日　　時：平成 25 年 12 月 18 日(水)午前 10 時 30 分～

場　　所：小野町多目的研修会施設

出 席 者：当館学芸員　相田　優

5　指定文化財の公開

本館の展示で以下の指定文化財の公開を行った。

（1）国指定

〈重文〉磐城楢葉天神原遺跡出土品（壺 1 点　甕 1 点）
楢葉町　（総合展示「原始」）

〈重文〉椿彫木彩漆笈
当館　（テーマ展「けんぱくの宝 2013」）

〈重文〉政典
京都府立総合資料館　（特別展「八重の桜」）

〈重文〉レイマン・ハルトマン商会からの書簡
京都府立総合資料館　（特別展「八重の桜」）

〈重文〉下令雑記
京都府立総合資料館　（特別展「八重の桜」）

〈重文〉宮城県石巻市沼津貝塚出土　亀ヶ岡式土器　台付浅鉢形土器　動物型土製品　岩版　骨角器
東北大学大学院文学研究科
（企画展「考古学からの挑戦」）

〈重文〉宮城県名取市経ノ塚古墳出土　円筒埴輪　家形埴輪　短甲型埴輪　東北大学大学院文学研究科
（企画展「考古学からの挑戦」）

〈重文〉会津若松市大塚山古墳出土　三角縁三神二獣鏡　家形四獣鏡　管玉　ガラス玉　算盤玉　竪櫛　鉄剣　鉄鏃　刀子　銅鏃　鉄鏃
会津若松市　（企画展「考古学からの挑戦」）

（2）県指定

十一面観音立像懸仏　八槻都々別神社　（総合展示「中世」）

梁川城跡出土品　伊達市教育委員会　（総合展示「中世」）

三島町荒屋敷遺跡出土弥生土器壺　三島町教育委員会
（ポイント展「米作りをはじめた頃の土器」）

石川町鳥内遺跡出土弥生土器壺　石川町教育委員会
（ポイント展「米作りをはじめた頃の土器」）

棚倉町流廃寺跡出土鉄剣　棚倉町教育委員会
（ポイント展「古代山岳寺院－棚倉町流廃寺跡」）

6　展示解説

（1）展示解説員

平成 25 年度の展示解説員は 13 名で前年度と変わらなかった。これに加えて前年度と同様に常設展示室内で 2 名分の監視員を委託できる予算がついていた。春の企画展では、展示予算の中で監視員を予算化することができず、夏と秋の企画展では、辛うじてそれぞれの展示予算内で監視員を 1 名委託することができた。

ただ、企画展開催時には企画展示室の入口のもぎりに人数を割かれるなどするため、常設展示室内の監視員として実質 1 名の減となったいる。そのため、学芸員による監視・解説活動を増やし、定数減の状況を乗り切るしかなかった。

このような展示解説員の減員により、それまで実施されていたような解説員が主となる講座などは、今年度も実施できない状況であった。

また、展示解説員は来館者に展示を解説・案内することが第一の役割であるが、定数減により展示解説員 1 人で対応しなければならないエリアが広くなった関係で十分な解説活動ができない場合が多く、最低限の監視業務を行うので精一杯の状況であることが多かった。

しかし、総合ガイダンスと名付けられた受付での来館者への対応などは、展示や館内の業務をよく知っている解説員でなければ担当できない業務である。現在は、減員の中でもどうにか対応している状況であるが、現在の定員が通常業務を実施する上では限界の状態であり、来館者への解説サービスを考えた場合、定数増が図られなければ、本来の業務にも支障を来すおそれも出てくる。

ア　やさしい展示解説

展示解説員による常設展の定時解説で、原則的に他の行事の入っていない土曜と日曜日の午前 11 時、午後 2 時の 2 回開催することになっている。1 回の所要時間は約 30 分。年度当初は新人解説員の研修などが入るため、やさしい展示解説は 8 月 20 日からはじめた。

実施状況

開催日数：56 日　実施日数：34 日

開催回数：112 回　実施回数：39 回

総参加人数：111 人

イ　通し解説

非定期的に行われる常設展・企画展の解説。主として来館の個人・団体の要望に応じて展示解説員 1 名が全体を解説するもの。解説員の減員のため、通し解説は困難になってきているが、予約の団体の要望にこたえる形で実施してきていることが多い。

実施回数：18 回

ウ　部屋送り解説

非定期の常設展・企画展の解説。主として来館する個人の要望に応じ、各展示室の担当として立っている解説員が順に引き継いで解説する。

実施回数：72 回

エ　体験講座

体験講座などの解説員が主体となって実施する講座は、解説員業務に比して人数が少ないために平成 25 年度も実施されなかった。ただし、七夕の時期には竹飾り、クリスマスには手製のクリスマスツリー、小正月に合わせての団子飾り、ひな祭りの時期に自作の雛人形の段飾りなど、解説員が自分たちで作ったものを体験学習室内に展示することは継続している。

（2） 学芸員

企画展および特集展の開催中は展示監視に立つポストが増えることになり、展示解説員だけでは解説員の昼休みや休憩時間の減員に対応できないので、学芸員が代わって展示室に立つことになっている。原則 1 コマ 45 分である。25 年度は年間で 132 回を数えた。とくに展示室内の監視員が予算化できなかった春の企画展では解説員の人員配置を工夫したが、前年度以上に学芸員が展示室に立つ回数も増加した。学芸員が展示室に立つことは単なる解説員の肩代わりではなく、実際に展示室に立つことにより得るもの、気づくものが多かったが、通常業務とのバランスの点で今後の検討が必要である。また、企画展、テーマ展、特集展については、公民館、研究団体などからの依頼に応じて、担当分野の学芸員が 65 団体に対して 65 回の展示解説を実施した。

（3）展示解説のための印刷物

ア　福島県立博物館常設展示解説図録

常設展の解説図録。昭和 61 年初版発行。106 p.

イ　福島県立博物館ガイドブック

常設展の展示内容をコンパクトに解説。裏方の館活動も紹介。昭和 61 年発行。28 p.

ウ　Fukushima Museum Permanent Exhibition Guide Book

英文の展示解説パンフレット。希望する来館者に無償配布。平成 18 年発行。14 p.

7　体験学習室

エントランスホール隣に設置してある無料で使用できる場所。囲炉裏のついた畳敷きの座敷と木のフローリングの部分がある。昔のおもちゃが用意されていて、自由に遊べるほか、季節ごとに昔の着物を着ることができる。着付けは衣服の上からだがかなり本格的で好評を得ている。また、資料に触れるハンズオンコーナーは半年ごとの入れ替えになっている。この部屋には展示解説員が常駐し来館者に対応している。

（1）衣装

ア　衣装着付け

体験学習室で時代衣装の着付け体験を行っている。着衣のままその上に着る形ではあるが、かなり本格的な衣装着付けであり、展示解説員は着付けの技術をきちんと学ばなければならないし、一回の時間もかかる。しかし、他の博物館ではここまできちんと着つけることはそれほど多くはないと思われ、当館の体験学習室のセールス・ポイントでもある。前年度の合計 706 回に比べてやや増加したが、22 年度の 891 回には及ばなかった。

（ア）衣装着付け件数　768 件

（イ）着付けた衣装　春：直垂、打掛

夏：水干（子供用）、

秋：推古朝朝服、天武朝女官朝服

冬：山伏、白拍子

衣装の着付けはかなり本格的なものなので、そのため解説員の研修時間も多くかかるし、多人数の要望には一度に応え難い面もある。しかし、着終わった姿を鏡に映して満足する来館者が多く見られる。

イ　衣装展示

春：大鎧、稚児鎧　　夏：大鎧、稚児鎧

秋：武士旅姿、壺装束　　冬：半袴、南蛮装束

（2）手作り資料展示

季節に関する手作りの資料を展示した。製作は展示解説員が担当。

7 月：七夕飾り ／ 12 月：クリスマスツリー ／

1 月：団子さし ／ 3 月：手作り雛人形

（3）おもちゃ

畳の上で幼児におもちゃで遊ばせるお母さんや家族連れが多くみられる。壁の引き出しに用意されているおもちゃの利用も多い。修理を必要とするおもちゃもあり、解説員の係で担当している。

おもちゃの修理：236 件

（4）ハンズオンコーナー

来館者が展示品を実際に手に取り使用法を体験できるコーナー

平成 25 年 10 月～平成 26 年 3 月「雪国のはきもの」

（民俗分野）

8　博物館新情報収集･展示室改善プロジェクト

将来の博物館リニューアルを見据えて、新設あるいはリニューアルした博物館の視察、新しい展示手法に関する情報収集を行っている。

今年度は、東日本大震災資料の収集に関する報告会を職員向けに開催した。内容は、「災害資料展示について」（内

山大介)、「浜通り被災資料巡検について」(金澤文利)であった。

また、博物館実習では「新しい展示の立案について」の単元を担当し、実習生による展示制作「福島県の郷土玩具」を指導した。このほかリニューアルに関する会議を実施している。

第６節 東日本大震災からの復興支援

平成23年3月11日午後2時46分、宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生した。震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約500km、東西約200kmの広範囲に及んだ。福島県立博物館のある会津若松市は震度5強の揺れを被った。福島県立博物館では、建物の躯体そのものには被害はなかった。しかし、設備および資料に若干の被害があり展示室の安全性の確認と修繕工事のため当面のあいだ休館とした。再開したのは平成23年4月12日(火)である。

福島県域は地震とそれに伴う津波、そして東京電力福島第一原子力発電所の事故により甚大な被害を被った。当館では、震災からの復興支援を目的として、平成24年度に新たに「ふくしまの文化・自然遺産の発掘と再生プロジェクト」を立ち上げた。これは次の3つの柱からなっている。

1．ふくしまの宝の発掘と保全

市町村や文化施設および大学等と連携し、被災地域の文化財の救出と保全を図るとともに、地域の宝である文化財や自然史資料を改めて調査・収集し、その価値を明らかにすることに努める。

2．ふくしまの宝の公開と活用

救出および新たに収集した文化財およびその研究成果をさまざまな形で県民に発信し、地域の誇りをとりもどすとともに、それらを教材として、ふくしまの未来を担う子供たちの育成を図る。

3．ふくしまの再生と活性化

文化施設や地域の文化団体、市民グループと連携し、文化資源を活用した地域おこし、文化的事業の開催など、文化の力を用いて地域の再生と活性化を図る。

このコンセプトに基づいて復興支援の事業を展開している。平成25年度は次の事業を実施した。

１　文化財レスキュー

(１)　文化財・資料の受け入れ対応

ア　平成23年度以後受け入れ分への対応

前年度から継続して、臨時労務員2名が作業に当たった。

イ　平成25年度受け入れ分

平成25年度に、震災関連で新たに受け入れた資料は《表》の通り4件。

ウ　展示公開

当館テーマ展「ふるさとの考古資料4【大熊町】遺跡探訪」(6月12日～平成26年5月11日)

エ　その他

東日本大震災発生から2年が経過し、震災の直接的な被害とはいえないものの、この機会に蔵を取り壊す、あるいは建て直すというケースがあり、蔵の中の資料の調査や整理の作業、あるいは整理作業の指導などの要請が数件あった。

(２)旧警戒区域の資料への対応

ア　レスキュー作業の体制

前年度から継続して、福島第一原発事故による旧警戒区域内の資料館が所蔵する資料のレスキュー活動を、「福島県被災文化財等救援本部」(以下「救援本部」、当館は副代表・幹事・事務局)が中心となって行った(打ち合せ・幹事会など10回実施)。今年度から、県立美術館とふくしま歴史資料保存ネットワークが幹事に加わった。

「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会」(事務局：東京文化財研究所)は、前年度末に解散したが、福島県教育庁からの支援要請により、8月から文化庁・国立文化財機構による福島県内被災文化財等救援事務局が組織され、人的・物的な面で活動が拡大し、作業が大きく進展することになった。

イ　旧警戒区域内資料館資料の梱包・搬出作業

「救援本部」の計画にしたがって、富岡町歴史民俗資料館、双葉町歴史民俗資料館の収蔵資料の線量計測・記録・梱包・搬出、一時保管場所への搬入作業に参加した。5月から準備が始められ、翌年1月にかけて、大きな搬出作業は3回(6月・10月・1月)行われた。当館職員の従事日数はのべ24日、人数はのべ43人。旧警戒区域内への立ち入りについては福島県の基準を用い、とくに博物館独自のものは策定しなかった。また県の基準をもとに積算線量を管理することとした。

今年度末までの作業によって、旧警戒区域内では大熊町民俗伝承館および富岡町歴史民俗資料館の収蔵資料のレスキューが完了した。

ウ　保管施設の環境調査

旧警戒区域から運び出された資料の一時保管場所となった旧相馬女子高校教室の環境調査を当館保存担当職員が中心となって実施した。従事日数はのべ11日。調査項目は、温湿度、ガス濃度(酢酸、ホルムアルデヒド、アンモニア)、文化財害虫。また、前年度に救出された資料を保管する福島県文化財センター白河館(まほろん)の仮収蔵庫の環境調査にも協力した(のべ2日)。

エ　その他の資料・文化財への対応

旧警戒区域が再編され、部分的に立ち入りが可能になった地域には、震災後から取り残されたままの文化財・資料があり、それらへの対応について個別に協力を要請されることがあった。対応のしかたは、以下の通りケースに応じてさまざまであった。

(ア)浪江町棚塩地区所在の絵図

浪江町教育委員会からの要請で、津波で損壊した浪江町棚塩地区集会所の2階にとり残されていた大型の絵図「棚塩村絵図」(町指定　額装)をとりはずし、町役場の保管室

へ移送した（6 月）。一部カビの発生などがみられたため、当館へ搬送して燻蒸作業を行った（11 月～翌年 1 月）。

（イ）南相馬市神社資料

南相馬市小高区の神社の社殿を撤去することになったため、社殿（拝殿）内に残されていた資料を取り出した（8 月）。絵馬など一部は南相馬市博物館で保管することになり、それ以外は本殿に収納した。

（ウ）葛尾村寺院資料

葛尾村教育委員会からの要請で、村内の寺院に残されていた仏像・仏画・大般若経（村指定）などを調査し、当館へ搬送した（8 月調査・11 月搬送）。無住の寺院で地域住民による管理が難しく、また助成を得て修復に出す予定が立っていたため、当館で受け入れることとした。

（エ）南相馬市神社資料

南相馬市小高区の神社の絵馬殿にある和船模型・絵馬（県指定）などを、管理上の問題から、旧相馬女子高校へ搬送するための調査を行った（12 月）。搬送のための準備を進めていたが、予定日の前日から大雪となったために実施を延期することになった。

オ　被災文化財等救出対象リストの作成

旧警戒区域内の個人所有資料の救出活動を今後進めてゆくために、「救援本部」が中心となってリストの作成作業を開始した。当館でも、過去の展示や調査研究の中で得た資料所在情報などを提供した。

（3）その他

ア　ミュージアムイベント「館長サタデープロジェクト・真冬の学習『ふくしまの震災被害とミュージアムのこれから』」開催（26 年 3 月 15 日）

イ　関係するシンポジウム・研究会などへの参加・報告

（4）今後の見通しと課題

ア　すでに受け入れた文化財・資料への対応（継続）

イ　旧警戒区域からの文化財・資料の搬出・保全（継続）

（ア）双葉町歴史民俗資料館からの資料搬出

（イ）個人所有資料の保全

（ウ）救出された文化財・資料の収蔵・公開施設についての検討

ウ　救出された文化財・資料の展示公開（継続）

エ　今後の災害に備えたしくみづくりや準備

2　市町村埋蔵文化財技術協力

本事業は、県内市町村教育委員会が実施する埋蔵文化財発掘調査事業等について県教育委員会が調査等に必要な技術を協力・支援する県文化財課の事業である。東日本大震災の復興事業等による発掘調査の増加のため市町村に派遣する職員が不足している。このため、文化財課の依頼により博物館からの技術協力を平成 25 年度から開始している。

平成 25 年度は、7 月から中島村四穂田古墳出土品の調査報告書の作成のため実測等の整理作業および原稿執筆をおこなった。

3　ふくしま応援ミュージアムイベント

従来実施してきたミュージアムイベントを、「ふくしま応援ミュージアムイベント」と名付け、被災された方々への励ましや、福島県を応援する意図をもったイベントを企画し実施した。

（1）玄如節と会津の民謡

ア　日時　平成 25 年 6 月 22 日(土)13 時 30 分～ 15 時

イ　会場　福島県立博物館　講堂

ウ　参加者数　124 人

エ　出演　玄如節顕彰会の皆さん

オ　内容　玄如節は、即興の掛合で歌うことを基本とする会津の民謡の源流で、民謡「会津磐梯山」の歌詞のもとにもなっている。今回のイベントでは、会津の民謡をはじめ、相馬地方や東北地方各地の民謡を公演した後、玄如節に合わせ踊りを行い、東日本大震災からの復興を祈念した内容である。

（2）市民盆踊り

ア　日時　平成 25 年 8 月 15 日(木)19 時～ 20 時 30 分
※博物館閉館後

イ　会場　福島県立博物館　玄関前庭

ウ　参加者数　300 人

エ　共　催　会津磐梯山盆踊り保存会

オ　内　容

博物館前に櫓を組み、会津磐梯山の歌に合わせて自由参加での盆踊り大会を開催した。踊りを通して、先の戦争やこの度の大震災でやむなく生命を奪われてしまわれた方々に、あらためて追悼と感謝の祈りを捧げた。

（3）夏休み恐竜ナイトミュージアム

ア　日　時　平成 25 年 8 月 17 日(土)17 時 30 分～ 19 時

イ　会　場　福島県立博物館企画展示室・講堂

ウ　参加者数　100 人

エ　講　師　当館学芸員　相田優・船尾武彦・竹谷陽二郎
FTVアナウンサー 浜中順子氏（ボランティア）：
絵本読み聞かせ「おまえうまそうだな」

オ　内　容

例年、常設展示室を中心に行ってきた「ナイトミュージアム」だが、本年は夏休み期間中に企画展「対決！恐竜展」が開催中であったため、会場を恐竜展だけに絞り、名称も「夏休み恐竜ナイトミュージアム」として、企画展イベントの一つに組み込んで実施した。真っ暗闇な展示室の中、懐中電灯の光に中に浮かび上がる恐竜の姿は迫力満点で、参加者たちの興奮はピークに達した。またこのイベントでは、FTVの浜中順子アナウンサーがボランティアとして子供たちに絵本の読み聞かせを行って下さった。絵本の主人公も恐竜であり、内容はイベントとベストマッチ。参加者はナイトミュージアムの待ち時間も全く退屈することなく、たいへん充実した時間を過ごすことができた。イベントへの応募者は過剰気味であった。

（4）夏休み恐竜ナイトミュージアム PartⅡ

ア　日　時　平成25年9月15日(土)17時30分～19時

イ　会場　　福島県立博物館企画展示室・講堂

ウ　参加者数　100人

エ　講師　当館学芸員　相田　優・船尾武彦・竹谷陽二郎
　　FTVアナウンサー 若槻麻美氏（ボランティア）：
　　絵本読み聞かせ「おまえうまそうだな」

オ　内容

初回の「夏休み恐竜ナイトミュージアム」が著しく好評を博し、応募に漏れて参加できなかった方々が多数生じたため、急遽、PartⅡとして同一イベントを追加した。やはり応募者はすぐに定員に達した。前回と同様、参加者の熱気と興奮の中、充実したイベントを実施することができた。今回はFTVの若槻麻美アナウンサーがボランティアとしてお出で下さり、絵本「おまえうまそうだな」の読み聞かせを実施して下さった。

（5）クリスマスコンサート

ア　日時　平成25年12月21日(土)13時30分～15時

イ　会場　福島県立博物館エントランスホール

ウ　参加者数　105人

エ　出演　フルートアンサンブル「花咲里（かさり）」（安ヶ平由希絵・渡辺聡美・鈴木美奈子）

オ　内容

福島県内のコンサートに多数出演する「花咲里」のみなさんによる演奏会。クリスマスソングをはじめ21の楽曲を、金と銀のフルートの美しい音色で演奏していただいた。

4　館長サタデープロジェクト

館長サタデープロジェクトは、平成20年度から実施しているが、震災後は被災地の復興状況をテーマに、ゲストからの報告とゲストと館長のトークを主に構成している。

（1）ふくしまの震災被害とミュージアムのこれから

ア　日　時　　平成26年3月15日(土)
　　13時30分～16時00分

イ　会　場　　福島県立博物館講堂

ウ　参加人数　38人

エ　出　演　・吉野高光氏（双葉町教育委員会）
　　・津崎順氏（アクアマリンふくしま）
　　・赤坂憲雄（当館館長）
　　・藤原妃敏（当館学芸課長）

オ　内　容

前年に引き続き双葉町教育委員会の吉野高光氏をお招きして旧警戒区域の博物館や文化財、震災資料の現状と展望をお話しいただき、また東日本大震災による津波被害を受けながらも4ヶ月後に再オープンを果たした、いわき市の「アクアマリンふくしま」の取り組みを津崎順氏にご報告いただいた。最後に赤坂憲雄館長と藤原妃敏学芸課長を交えた総合討議を行い、復興に向けて様々な努力と活動を続けている方々に学びながら、福島県におけるミュージアムの現状と将来像について議論した。

5　復興応援パートナー事業

平成24年度に立ち上げた「ふくしまの文化・自然遺産の発掘と再生プロジェクト」の3つの目標のうち、下記を実現するものとして「福島県立博物館復興応援パートナー事業」を実施した。

◎ふくしまの再生と活性化

博物館などの文化施設、地域の文化団体や市民グループが連携し、文化の力を用いて地域の再生と活性化を図る。

3．被災者支援のための文化的事業の開催

（1）被災者を応援し元気づける文化的な事業の開催

（2）各種団体が企画する支援文化事業の受け入れおよび支援

この目標に該当し、福島県の文化や歴史、自然の豊かさを伝える事業、東日本大震災や東京電力福島第一原子力発電所事故に向き合い、福島の復興や再生を考え、将来像を共有することを目的とした事業の開催をパートナーとしてサポートすることと定めた。

これにより、文化による復興支援事業の効果的でスムーズな開催運営を促し、県民がそれらを享受する機会をより多く創出する。また、県立の文化施設として福島県立博物館が福島県の文化的復興支援における役割・責務を果たすことも目的とする。

●復興応援パートナー事業

No.	事業名	主催者・代表	日時	会場
1	第11回民家の甲子園全国大会　全国高等学校対抗民家町並みフォトコンテスト	NPO法人かがわサンサン倶楽部	8月4日（日）	講堂
2	宇宙に夢中！～日本の宇宙開発とその未来～	会津そらの会	11月17日（日）	講堂 実習室 エントホール

第7節　平成25年度行事

（1）木曜の広場

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
「会津風土記・風俗帳の世界」1	赤坂憲雄	館長	4月18日(木)	82
「会津風土記・風俗帳の世界」2	赤坂憲雄	館長	5月9日(木)	85
「会津風土記・風俗帳の世界」3	赤坂憲雄	館長	6月20日(木)	83

「会津風土記・風俗帳の世界」４	赤坂憲雄	館長	７月 18 日(木)	80
「会津風土記・風俗帳の世界」５	赤坂憲雄	館長	８月 15 日(木)	43
「会津風土記・風俗帳の世界」６	赤坂憲雄	館長	９月 19 日(木)	63
「会津風土記・風俗帳の世界」７	赤坂憲雄	館長	10 月 17 日(木)	51
「会津風土記・風俗帳の世界」８	赤坂憲雄	館長	11 月 21 日(木)	52
「会津風土記・風俗帳の世界」９	赤坂憲雄	館長	12 月 19 日(木)	58
「会津風土記・風俗帳の世界」１０	赤坂憲雄	館長	１月 16 日(木)	42
「会津風土記・風俗帳の世界」１１	赤坂憲雄	館長	２月 20 日(木)	74
「会津風土記・風俗帳の世界」１２	赤坂憲雄	館長	３月 20 日(木)	65

（２）考古学講座

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
実技講座「縄文土器を作ろう１」	森　幸彦	学芸員	８月３日(土)	14
実技講座「縄文土器を作ろう２」	森　幸彦	学芸員	８月４日(日)	14
考古学講座「土器の野焼き」	森　幸彦	学芸員	９月 22 日(日)	14
考古学講座「勾玉・ガラス玉を作ろう」	高橋　満	学芸員	３月８日(土)	18

（３）民俗講座

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
映像で考える民俗学 1「会津の民具について考える」	佐々木長生	学芸員	10 月 19 日(土)	11
映像で考える民俗学 2「会津の絵ろうそくを考える」	榎陽介	専門員	11 月２日(土)	12
映像で考える民俗学 3「会津の初市を考える」	二瓶浩伸	学芸員	１月 11 日(土)	36
映像で考える民俗学 4「会津の彼岸獅子を考える」	内山大介	学芸員	３月１日(土)	64

（４）歴史講座

テーマ	講師	講師所属	期日	参加人数
八重の時代の会津人１　「山川浩と健次郎」	佐藤洋一	学芸員	８月 31 日(土)	68
八重の時代の会津人２　「浅羽忠之助」	阿部綾子	学芸員	９月 14 日(土)	88
八重の時代の会津人３　「西郷頼母」	古山智行	学芸員	11 月９日(土)	94
八重の時代の会津人４　「渋谷光信」	高橋　充	学芸員	11 月 30 日(土)	84
歴史の中の旅１　「江戸時代の観音巡礼」	高橋　充	学芸員	１月 25 日(土)	108
歴史の中の旅２　「斗南への道」	阿部綾子	学芸員	２月１日(土)	187
歴史の中の旅３　「新島襄が見た道」	古山智行	学芸員	２月８日(土)	82
歴史の中の旅 4「明治期　子供雑誌に見る富士登山」	佐藤洋一	学芸員	２月 22 日(土)	64

（５）自然史講座

テーマ	講師	講師所属	期日	参加人数
野外講座「化石をさがそう」	相田　優	学芸員	10 月 12 日(土)	29
実技講座「化石標本をつくろう」	竹谷陽二郎	学芸員	10 月 13 日(日)	40
鶴ヶ城の野鳥	古川裕司	野鳥研究家	11 月 24 日(日)	9

（６）保存科学講座

テーマ	講師	講師所属	期日	参加人数
福島県立博物館における収蔵資料の予防保存－資料を取り巻く環境の調査と改善－	杉崎佐保恵	学芸員	４月 20 日(土)	5

（７）指導者向け研修

テーマ	講師	講師所属	期日	参加人数
博物館利用指導者研修会	古山智行ほか	学芸員	７月 31 日(水)	6

（８）実技講座

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
小旗をつくろう	大野青峯	伝統技術保持者	５月５日(日・	21

	大野久子		祝）	
会津三島の編み組み細工「マタタビ蔓のそばザル作り」1	五十嵐光栄 目黒政栄	伝統技術保持者	7月6日（土）	14
会津三島の編み組み細工「マタタビ蔓のそばザル作り」2	五十嵐光栄 目黒政栄	伝統技術保持者	7月7日（日）	14

（9）実演

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
大堀相馬焼の絵付け	半谷みどり	大堀相馬焼窯元休閑窯	6月23日（日）	86
昔語り	横山幸子	語り部	9月8日（日）	32
檜枝岐に伝わるガバぞうり作り	平野チサエ	伝統技術保持者	11月4日（月祝）	40
上映会＆トークイベント「ドキュメンタリー映画　生きてこそ」	山田登志美 安孫子　亘	語り部 映画監督	3月22日（日）	275

（10）企画展関連行事（記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等）

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
「2013年NHK大河ドラマ特別展　八重の桜」友の会内覧会	西山剛 齋藤慎一 小枝弘和 佐藤洋一 古山智行	京都府京都文化博物館学芸員 東京都江戸東京博物館学芸員 同志社大学同志社社史資料センター社史資料調査員 学芸員 学芸員	5月16日（木）	72
企画展関連講演会・シンポジウム　基調講演「昭和3年と会津」　シンポジウム「NHK大河ドラマ特別展『八重の桜』の魅力」	齋藤慎一 佐藤洋一	東京都江戸東京博物館学芸員 学芸員	6月12日（水）	134
企画展関連講演会・シンポジウム　基調講演「幕末京都の活力」　シンポジウム「幕末・明治の京都―覚馬と襄、新選組―」	西山剛 小枝弘和	京都府京都文化博物館学芸員 同志社大学同志社社史資料センター社史資料調査員	6月26日（水）	215
企画展「震災復興・国立科学博物館コラボミュージアムin会津若松『対決！恐竜展ティラノサウルスとトリケラトプス』」友の会内覧会	相田　優	学芸員	7月26日（金）	50
企画展「震災復興・国立科学博物館コラボミュージアムin会津若松『対決！恐竜展ティラノサウルスとトリケラトプス』」展示解説会	相田　優	学芸員	7月28日（日）	31
企画展記念講演会「最新恐竜学」	真鍋　真	国立科学博物館研究主幹	8月11日（日）	66
企画展「震災復興・国立科学博物館コラボミュージアムin会津若松『対決！恐竜展ティラノサウルスとトリケラトプス』」展示解説会	真鍋　真	国立科学博物館研究主幹	8月11日（日）	45
ペーパーアートで恐竜をつくろう	半沢政人	美術家	8月24日（土）	40
震災復興・国立科学博物館コラボミュージアムin会津若松「対決！恐竜展　ティラノサウルスとトリケラトプス」展示解説会	相田　優	学芸員	9月16日（月・祝）	25
企画展「考古学学からの挑戦」友の会内覧会	藤原妃敏 田中敏 荒木隆	学芸員	10月4日（金）	65

	高橋満			
企画展「考古学学からの挑戦」記念講演会「東北大学の旧石器文化研究－日本最古の文化を掘り下げる」	柳田俊雄	東北大学総合学術博物館前館長	10月12日(土)	59
企画展「考古学学からの挑戦」展示解説会1	田中　敏	学芸員	10月12日(土)	23
企画展「考古学学からの挑戦」記念講演会「サハリン考古学の先駆者　伊東信雄博士」	阿子島香	東北大学文学部教授	11月3日(日祝)	32
企画展「考古学学からの挑戦」展示解説会2	田中　敏	学芸員	11月3日(日祝)	14
企画展「考古学学からの挑戦」記念講演会「弥生人と鏃縄文文化」	中村五郎	考古学者	11月23日(土祝)	32

(11) ミュージアムイベント

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
玄如節と会津の民謡	玄如節顕彰会		6月15日(土)	67
会津磐梯山・市民盆踊り	会津磐梯山盆踊り保存会		8月15日(木)	300
夏休み恐竜ナイトミュージアム サプライズイベント絵本読み聞かせ「おまえうまそうだな」	竹谷陽二郎 相田優 船尾武彦 浜中順子	学芸員 FTVアナウンサー	7月21日(土)	100
夏休み恐竜ナイトミュージアムPart2 サプライズイベント絵本読み聞かせ「おまえうまそうだな」	竹谷陽二郎 相田優 船尾武彦 若槻麻美	学芸員 FTVアナウンサー	9月15日(日)	100
クリスマスコンサート		フルートトリオ「花咲里」	12月21日(土)	105
館長サタデープロジェクト　真冬の学習「福島の震災被害とミュージアムのこれから」	吉野高光 津崎　順 赤坂憲雄 藤原妃敏	双葉町教育委員会 アクアマリンふくしま 館長 学芸課長	3月15日(土)	38

(12) 共催事業

テーマ	主催	講師(所属等)	期日	参加人数
ふくしまスマイルキャラバン　ものづくりワークショップ「張り子の干支づくり」	県子育て支援課		12月15日(日)	58
ふくしまスマイルキャラバン　「よしもとキッズお笑いワークショップ＆トークショー」「ポケモンワークショップ」	県子育て支援課	キングコング梶原 ムーディー勝山 大西ライオン イシバシハザマ (よしもと興業)	12月23日 (祝・月)	621
「ふくしま復興のつどい2014～希望のあかり～inあいづ」	県会津地方振興局	キャンドルジュン 熊町小学校 大野小学校 大熊中学校 大沼高校 会津マスクワイア　等	3月9日(日)	600

（13）後援事業

テーマ	主催	講師（所属等）	期日	参加人数
同志社女子大学　講演会 「八重と会津と板かるた」 トークセッション 「八重が結ぶ会津と京都」	同志社女子大学	吉海直人（同志社女子大学教授） 湯田祥子（若松城天守閣郷土博物館学芸員） 古山智行（学芸員）	6月1日（土）	187
福島県青少年教化協議会講演会	福島県青少年教化協議会	大石邦子（エッセイスト）	6月16日（日）	150
小教研北会津地区社会科研究会	小教研北会津地区社会科研究部		7月23日（火）	15
「ふるさと福島」 魅力いっぱい！発掘コンテスト	県観光交流課	学芸員　古山智行ほか	8月2日（金）	180
民家の甲子園	一般社団法人福島県古民家再生協会		8月4日（日）	159
福島県造形サークル連合大会 夏期会津大会	会津造形サークル		8月24日（土）	49
大名庭園サミットin会津若松	大名庭園民間交流協議会主催 会津若松市商工観光課共催		10月6日（日）	210
会津大塚山古墳関連講演会 「会津大塚山古墳の意義＝発掘後50年-」	会津若松市教育委員会	伊藤玄三（考古学者）	10月13日（日）	148
「猪苗代湖と白鳥」	NPO風の谷委員会	赤羽正春（民俗学者）	10月14日（月）	75
会津史学会歴史文化講演会 「建造物から見た会津の歴史」	会津史学会	松崎照明 （東京造形大学講師）	10月20日（日）	96
宇宙に夢中！～はやぶさからはやぶさ2～「講演会日本の宇宙開発とその未来」「映画会HAYABUSA BACK TO THE EARTH 帰還バージョン」	会津そらの会	吉川　真（JAXA准教授）	11月16日（土）	173
宇宙に夢中！「工作教室」	会津そらの会		11月17日（日）	30
放送大学講演会 「福島の再生可能エネルギーを福島県民のために」	放送大学福島学習センター	佐藤理夫（放送大学福島学習センター客員教授・福島大学教授）	12月1日（日）	29
会津史談会公開文化史講座 「会津の寺院と僧侶－領主の信仰と三十三観音を中心に－」	会津史談会	高橋充（学芸員）	12月12日（木）	150
会津史談会公開講座 「講演　会津乱世日記松崎矩綱」	会津史談会	松崎　建 （H25史談会賞受賞者）	3月6日（木）	170
サムライシティプロジェクト講演会「会津武士道精神について～蒲生氏郷から山川健次郎まで～」	サムライシティプロジェクト実行委員会	中村彰彦（作家）	3月21日（金・祝）	200

第１７章　福島県自然の家

第１節　沿革及び所在地

１　沿革

昭和47年県内初の県立少年自然の家として、また、東北でも３番目の宿泊研修用の先導的施設として「福島県郡山少年自然の家」を開設。

昭和50年海浜型の青少年社会教育施設として「福島県海浜青年の家」（以下「青年の家」という。）を開設。同年発足した「財団法人福島県海浜青年の家」が管理運営を行うこととなる。

昭和56年県立少年自然の家2施設目となる「福島県会津少年自然の家」を開設。

平成8年「福島県いわき海浜自然の家」を開設。これに伴い、「青年の家」の名称を「福島県相馬海浜自然の家」に改める。運営財団の名称を「財団法人福島県海浜自然の家」に変更し、海浜型２施設の管理運営を行うこととなる。

平成10年福島県教育庁の直営であった「福島県郡山少年自然の家」及び「福島県会津少年自然の家」の名称を「福島県郡山自然の家」及び「福島県会津自然の家」と改める。これにより財団の名称を「財団法人福島県自然の家」に変更し、県内４施設の管理運営を行うこととなる。

平成18年度から指定管理者制度を導入し、平成20年度までの３年間「財団法人福島県自然の家」が指定管理者となり４施設の管理運営を行うこととなる。

指定管理者であった財団が平成20年度末をもって解散したため。平成21年度から４施設とも県の直営による管理運営となる。

平成22年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」が「財団法人いわき市教育文化事業団」に指定管理することとなる。なお、他３施設については検討会の条件を満たす団体がいないため直営による運営が継続されることとなる。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、「福島県会津自然の家」は同年7月2日まで「福島県郡山自然の家」は同年8月28日まで避難所として運営を行う。また「福島県いわき海浜自然の家」の指定管理は震災の影響により平成23年11月1日からの開始となる。なお「福島県相馬海浜自然の家」は地震・津波の甚大な被害を受け平成24年3月31日をもって公所廃止となる。

平成25年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」について平成26年度から平成30年度まで「財団法人いわき市教育文化事業団（平成26年度より公益財団法人に移行）」に指定管理することとなる。

２　所在地

(1)　福島県郡山自然の家

福島県郡山市逢瀬町多田野字中丸山46
〒963－0213　ＴＥＬ 024－957－2111
ＦＡＸ 024－957－2112
ＵＲＬ http://www.koriyama-nc.fks.ed.jp/

(2)　福島県会津自然の家

福島県河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山4495－1
〒969－6504　ＴＥＬ 0242－83－2480
ＦＡＸ 0242－83－2481
ＵＲＬ http://www.aizu-nc.fks.ed.jp/

(3)　福島県いわき海浜自然の家

福島県いわき市久之浜町田之網字向山53
〒979－0335　ＴＥＬ 0246－32－7700
ＦＡＸ 0246－32－7730
ＵＲＬ http://www.iwaki-nc.fks.ed.jp/

第２節　教育目標及び基本的視点

１　教育目標

恵まれた自然環境の中で、野外学習や集団宿泊活動など様々な活動を通して主体的に対応できる人々の育成を目指す生涯学習の推進のため、次の目標を設定する。

(1)　自然の恩恵にふれ、自然に親しむ心や敬虔の念を育てる。
(2)　集団宿泊活動を通して規律・協同・友愛及び奉仕の精神を養う。
(3)　自然体験活動を通して自ら実践し、創造する態度を育てる。

２　基本的視点

豊かな自然体験を楽しめる施設として、その機能を十分に発揮するために、施設・設備の整備や運営方法の確立・改善に努め、利用者が充実した活動を展開できるよう、次の基本的視点に基づきそれぞれの施設の運営にあたる。

(1)　所員の英知と創意を結集し、施設の充実・整備を図り活気と魅力ある施設の運営に努める。
(2)　利用者の多様なニーズや利用目的に応じた柔軟な運営を行うよう努める。
(3)　立地条件を生かした特色ある企画事業を展開するとともに、学校や地域に生きる活動種目やその指導方法の研究開発に努める。
(4)　民間の指導者の協力や高校生・大学生等のボランティアの受け入れを得るように努める。
(5)　現代的課題の解決に対応する事業を推進し、その情報の発信に努める。

第３節　各施設の利用者数

		平成25年度			延べ人数推移				
		団体数	利用人数	延べ人数	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
4月	郡山	28	1,299	1,624	2,664	1,576	1,514	0	1,207
	会津	16	979	1,140	2,372	2,906	2,484	0	1,216
	いわき	18	874	1,093	2,543	2,472	2,976	0	3,164
	計	62	3,152	3,857	7,579	6,954	6,974	0	5,587
5月	郡山	27	942	1,215	1,928	2,427	1,824	0	1,428
	会津	42	2,223	3,991	4,574	3,944	3,001	0	3,241
	いわき	21	2,712	2,781	9,158	7,949	6,668	0	3,030
	計	90	5,877	7,987	15,660	14,320	11,493	0	7,699
6月	郡山	46	2,259	3,938	5,230	4,602	3,947	0	3,193
	会津	66	3,269	6,172	5,496	6,162	4,661	0	5,853
	いわき	25	703	1,088	12,156	11,387	12,284	0	2,638
	計	137	6,231	11,198	22,882	22,151	20,892	0	11,684
7月	郡山	50	1,864	2,982	5,314	4,327	4,798	338	2,234
	会津	75	2,805	4,895	8,056	5,850	6,381	1,197	5,334
	いわき	59	2,630	3,733	13,520	12,204	11,575	0	5,709
	計	184	7,299	11,610	26,890	22,381	22,754	1,535	13,277
8月	郡山	47	1,521	2,835	4,320	3,669	3,053	1,079	2,254
	会津	42	1,639	2,706	5,094	4,752	5,204	3,436	4,710
	いわき	52	2,753	4,609	8,098	6,144	5,930		5,829
	計	141	5,913	10,150	17,512	14,565	14,187	4,515	12,793
9月	郡山	47	2,978	4,406	6,822	4,732	4,442	3,591	4,200
	会津	53	2,608	4,879	5,785	4,865	4,163	5,955	6,798
	いわき	42	2,528	3,051	11,703	10,839	11,560		891
	計	142	8,114	12,336	24,310	20,436	20,165	9,546	11,889
10月	郡山	41	2,011	2,608	6,247	4,250	4,677	2,949	2,007
	会津	56	3,179	4,153	5,166	4,133	4,577	4,664	5,559
	いわき	41	2,107	2,453	9,192	8,300	9,190		2,241
	計	138	7,297	9,214	20,605	16,683	18,444	7,613	9,807
11月	郡山	41	1,469	1,525	1,680	1,180	1,199	1,112	1,266
	会津	28	1,154	1,692	1,850	1,033	996	1,602	1,665
	いわき	38	1,251	1,388	2,809	3,461	2,038	509	730
	計	107	3,874	4,605	6,339	5,674	4,233	3,223	3,661
12月	郡山	40	1,235	1,383	1,446	1,216	982	786	984
	会津	13	518	800	898	990	746	604	658
	いわき	41	1,750	2,332	1,594	2,354	1,349	235	990
	計	94	3,503	4,515	3,938	4,560	3,077	1,625	2,632
1月	郡山	22	659	1,008	634	620	575	796	668
	会津	35	1,907	2,419	3,419	2,861	3,583	2,503	2,685
	いわき	43	1,573	1,670	1,553	899	1,243	2,717	1,089
	計	100	4,139	5,097	5,606	4,380	5,401	6,016	4,442
2月	郡山	34	1,008	1,331	1,715	1,261	1,360	731	1,544
	会津	35	1,356	1,916	2,637	4,749	4,002	2,540	2,464
	いわき	51	1,618	2,037	2,176	1,816	1,310	3,790	1,662
	計	120	3,982	5,284	6,528	7,826	6,672	7,061	5,670
3月	郡山	35	913	1,253	1,488	1,531	90	903	937
	会津	13	522	738	913	1,862	1,265	1,011	772
	いわき	66	2,240	3,088	1,807	1,780	488	4,574	2,161
	計	114	3,675	5,079	4,208	5,173	1,843	6,488	3,870
累計	郡山	458	18,158	26,108	39,488	31,391	28,461	12,285	21,922
	会津	474	22,159	35,501	46,260	44,107	41,063	23,512	40,955
	いわき	497	22,739	29,323	76,309	69,605	66,611	11,825	30,134
	合計	1,429	63,056	90,932	162,057	145,103	136,135	47,622	93,011

福島県郡山自然の家

第１節　概要

郡山自然の家は、昭和47年に「福島県少年自然の家」という名称で設立され、小・中学校の宿泊体験学習の場として開所して以来41年が経過し、平成21年10月には、延べ利用者数が150万人に達した。

本施設は、郡山駅より11km、郡山南インターより車で8分という交通の便に恵まれ、しかも豊かな自然環境に囲まれている都市近郊型の自然の家であり、心身共に健全な青少年と心豊かな社会人を育成することを目的とした教育施設である。

平成20年度まで11年間、県内４つの自然の家を運営してきた財団法人福島県自然の家が解散し、平成21年度から県直営としての運営形態に変わり５年目を終了した。

利用者は、これまで主体であった小・中学生のみならず、園児、高校生、一般社会人、家族など利用者層が多種多様になってきている。恵まれた自然環境の中で、「みどり・であい・感動」をキャッチフレーズに、野外活動や集団宿泊活動を通して、「自然に親しむ心や畏敬の念」「規律・協同・友愛・奉仕の精神」「自ら実践し、創造する態度」の育成を目指し、様々な活動を展開してきた。

生涯学習の拠点として、広く県民に利用していただけるような施設を目指し、施設の改築・改修や本館の段差を解消するなど障がい者にもやさしい施設づくりを進めてきた。

また、園児から高齢者までの幅広い年齢層に対応し、多くの人に利用していただけるよう、多種多様な企画事業を展開するとともに、特色あるプログラムの開発に努めてきた。

さらに、放射線の影響を心配する利用者の声にこたえるため、毎月エリア内の放射線量を測定してホームページに載せたり、クラフト活動で使用する木材等については、放射線量の低い地域から採集したり、「みどりの宅配便」を利用して全国から取り寄せたりした。また、放射線量が比較的高い場所のこまめな除草や表土の除去、活動コース付近の落ち葉等の清掃を実施し放射線量の低減化に努めた。

年間の利用状況は、震災前の８割程度まで回復し、利用団体数458団体、延べ利用者数26,108人となった。

1　職員組織

職員組織は、以下のとおりである。

職名	所長	次長	主査	主任指導主事	社会教育主事	指導主事	計
人員	1	1	1	1	2	0	6

2　平成25年度重点目標と成果

「復興加速の年」と位置づけ、利用者数を震災前の水準まで戻すために次の点に力を入れて取り組んできた。

(1)　利用団体への効果的な支援の充実

ア　団体が主体的に活動できるようにするために、学校利用・社会教育団体利用ともに、利用団体の指導者との連携を密にしてきた。学校利用については、４月と７月に「学校利用指導者研修会」を実施し、フィールドワークやアーチェリーなどの実技研修の他、施設の概要説明や活動計画の立案に対しての指導・援助を行った。また、事前打合せや実地踏査・下見等を奨励し、各利用団体が主体的に活動できるように支援した。

イ　社会教育団体の利用については、６月と７月に「社会教育団体利用指導者研修会」を実施し、施設見学や活動計画の調整などを行った。また、各団体代表者との電話連絡を密にし、各団体の利用目的に応じた活動が展開できるよう努めた。

ウ　職員の技能及び資質の向上を図るために、各種研修会に積極的に参加するなど、職員の研修に力を入れた。また、利用団体の指導者及び利用者の声をアンケート等により集約・分析して、職員の対応や準備物、食事等の改善に努めるとともに、利用者の立場に立った施設の運営に努めた。

(2)　特色ある企画事業の運営

ア　季節感を生かした魅力ある企画事業を計画するとともに、外部講師やボランティアを積極的に活用したり、地域や関係機関との連携を図ったりすることができた。

イ　前年度の反省や評価を踏まえ内容や方法等に工夫・改善を加え、参加者の満足度を高める運営に努めた。

ウ　利用者増を図るために新規の企画事業を立案し、幅広い年代に応じた特色ある企画事業を実施することができた。

(3)　広報の充実と利用促進

ア　多くの団体に利用してもらえるよう、利用拡大に向けて、積極的に広報活動を行ってきた。学校利用の拡大については、管内小中校長会議において、より多くの学校に利用していただけるようＰＲ活動を行った。春と秋の年２回、県中管内小中学校長会議でのＰＲ活動、秋には県北管内小中学校長会議でのＰＲ活動を実施した。

イ　企画事業案内や事業実施後の企画事業のあしあとをホームページに掲載するなど、ホームページの改善・充実に努めた。また、毎月エリア内１３カ所の放射線量をホームページに掲載し、利用者が安心して利用できるよう配慮した。

ウ　企画事業では、報道機関を通した周知活動や広報活動を積極的に行い、利用拡大に努めた。また、タウン誌に企画事業に関する記事の掲載の依頼をすることで、多く

の方の参加につなげることができた。

エ　利用促進を図るため、家族を対象とした会員登録制度を立ち上げ、名称を本所のマスコットキャラクターにちなんで「サザッピークラブ」とした。登録した会員には会員証を発行して入所手続きの簡略化を図ったり、企画事業の案内を送付したりして利用促進につなげた。また、利用回数に応じて、特製のシールやキーホルダーを贈呈した。４５家族、１７２名が会員となった。

(4)　安全管理と保健安全指導の徹底

ア　「事故はどこでもいつでも起こり得る」という認識に立って、所員の安全意識の向上を図り、施設設備の日常点検及び定期点検の実施はもちろんのこと、利用者に対しても働きかけ、積極的に安全対策を行ってきた。

また、特に次の点に力を入れてきた。

○食中毒防止のための、手洗い・アルコール消毒の徹底

○食物アレルギー対応のための、利用団体との連絡及び食堂との連携

○スズメバチ対策のための、捕虫装置の設置と点検

○イカダ乗りの安全確保のための非常用浮き輪の設置と点検及び活動中の職員（引率者）の配置

○松食い虫による倒木防止のための計画的な伐採

イ　防災に関しては食堂等の委託業者にも参加してもらい、消火訓練や火災が起きたことを想定した避難訓練を実施するとともに、日常の点検を怠ることのないようにした。

さらに、不審者の侵入防止を図るためのマニュアルを作成して職員研修により理解を深めた。常に来所者に声をかけ、車止めや施設の施錠に万全を期すなどして、安全管理に努めてきた。

(5)　施設・設備の整備

ア　利用者が快適に利用できるように、現在の施設環境のもとでできることは何かを考えながら、ハード面ソフト面の両面から改善を行ってきた。

また、安全対策として、利用者が利用するフィールドアスレチックなどの遊具全般の点検と併せて必要な補修整備に努めてきた。

イ　館内については、季節ごとの掲示に心がけたり、利用者から届いた写真や手紙を工夫して掲示するなど、変化のある計画的な掲示に努めた。

(6)　その他

ア　地元観光協会主催の「親子謎解き体験ツアー出逢ッテO（オー）」に協力した。8月10日～8月26日までの期間中に親子で本所に来所しクイズに答える、というイベントであったが、４４名が参加した。また、10月13日(日)に地元地域が主催した「浄土松公園まつり」に本所も協力し、木工クラフト体験コーナーを設置し184名が参加した。

イ　国立科学博物館との共催で「コラボミュージアム（恐竜展）」を11月7日～12月15日まで開催した。期間中、１，５５４名が来場した。

第２節　施設・設備の概要

１　所在地

〒963－0213

郡山市逢瀬町多田野字中丸山46番地

２　宿泊定員

○　本　館166名（14部屋）

○　ロッジ126名（9棟）

○　テント120名（20張）

３　敷地面積

○　237,587．59㎡

４　建物面積

○　延床面積　3,806.08㎡

・本館（管理棟・宿泊室・研修室・浴室）

・体育館、総合活動館、野外活動センター、東西炊飯場、ロッジ等

５　設備備品等

・野外活動設備（フィールドアドベンチャーコース、アーチェリー場、ナイトハイクコース、スコアオリエンテーリングコース、フィールドワークコース等）

・野外炊飯用具、天体望遠鏡、運動及び野外活動用具、視聴覚機器、液晶プロジェクター、ピアノ、クラフト用具、伝承遊びセット、インターネット接続大型液晶テレビ等

第３節　利用状況

郡山自然の家の利用者は、次のように大別される。

○　保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、大学等の園児や児童生徒、学生及び引率者

○　スポーツ少年団、子ども会育成会、公民館、学校・学級PTA等の社会教育団体に所属する児童生徒及び引率者

○　家族等その他のグループ等

本年度の利用団体数は458団体、利用者数は、実利用者が18,158人、延べ利用者26,108人であり利用状況の詳細は、次のとおりである。

１　月別利用状況

月	種別 / 区分	学校教育団体						社会教育団体				ファミリー	企画事業	合計
		幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学等	少年	青年	一般成人	高齢者			
4	団体数	4	1	0	0	0	2	8	1	6	0	1	5	28
	利用人員	139	255	0	0	0	185	242	15	53	0	2	408	1,299
	延人数	139	255	0	0	0	205	389	29	197	0	2	408	1,624
5	団体数	9	5	0	0	0	2	1	3	2	0	0	5	27
	利用人員	303	252	0	0	0	168	6	60	17	0	0	136	942
	延人数	303	457	0	0	0	168	6	114	31	0	0	136	1,215
6	団体数	2	23	0	0	3	1	8	1	0	0	5	3	46
	利用人員	92	1,399	0	0	99	17	490	40	0	0	22	100	2,,259
	延人数	92	2,617	0	0	178	17	858	54	0	0	22	100	3,938
7	団体数	9	4	0	0	2	2	22	3	6	0	0	2	50
	利用人員	501	143	0	0	49	24	964	32	92	0	0	59	1,864
	延人数	870	258	0	0	96	56	1,458	82	103	0	0	59	2,982
8	団体数	1	3	0	0	0	3	26	6	4	0	3	1	47
	利用人員	31	157	0	0	0	78	968	135	86	0	53	13	1,521
	延人数	61	157	0	0	0	181	1,780	335	224	0	58	39	2,835
9	団体数	1	21	1	0	1	1	15	1	4	0	0	2	47
	利用人員	91	1,401	47	0	20	245	517	24	151	0	0	482	2,978
	延人数	91	2,557	47	0	40	245	745	48	151	0	0	482	4,406
10	団体数	5	8	1	3	1	1	15	2	3	0	2	0	41
	利用人員	411	501	195	83	30	33	612	105	34	0	7	0	2,011
	延人数	447	789	195	83	30	33	854	127	34	0	7	0	2,608
11	団体数	9	4	0	2	1	0	14	0	2	0	1	8	41
	利用人員	279	134	0	38	20	0	417	0	58	0	6	517	1,469
	延人数	279	134	0	38	20	0	462	0	69	0	6	517	1,525
12	団体数	7	1	0	3	0	0	15	3	1	3	1	6	40
	利用人員	270	22	0	26	0	0	437	21	158	55	6	240	1,235
	延人数	270	22	0	26	0	0	551	49	158	55	12	240	1,383
1	団体数	2	2	0	1	0	2	7	3	1	0	0	4	22
	利用人員	40	40	0	16	0	85	294	51	2	0	0	131	659
	延人数	40	94	0	16	0	177	333	170	2	0	0	176	1,008
2	団体数	10	5	0	0	0	1	8	2	3	0	1	4	34
	利用人員	359	265	0	0	0	19	89	58	23	0	6	189	1,008
	延人数	501	291	0	0	0	38	113	116	40	0	6	226	1,331
3	団体数	8	0	0	0	0	1	15	1	6	0	0	4	35
	利用人員	157	0	0	0	0	21	514	13	132	0	0	76	913
	延人数	157	0	0	0	0	42	759	26	193	0	0	76	1,253
合計	団体数	67	77	2	9	8	16	154	26	38	3	14	44	458
	利用人員	2,673	4,569	242	163	218	875	5,550	554	806	55	102	2,351	18,158
	延人数	3,250	7,640	242	165	364	1,162	8,308	1,150	1,202	55	113	2,459	26,108

2　利用団体別・宿泊日数利用状況

(1)　利用者数

項　目	団体数	実利用者数	延宿泊者数	延利用者数
利用者数	458	18,158	7,950	26,108
(キャンプ)	(2)	(168)	(168)	(336)
(ロッジ)	(13)	(430)	(531)	(961)

(2)　利用受入日

項　目	利用可能日	利用日数	宿泊可能日	宿泊日数
利用日数	288	260	236	120
(キャンプ)	(107)	(4)	(102)	(4)
(ロッジ)	(115)	(17)	(108)	(17)

(3)　利用者区分

泊数	種別区分	学校教育団体						社会教育団体				ファミリー	企画事業	合計
		幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学等	少年	青年	一般成人	高齢者			
	団体数	53	30	2	9	3	9	89	2	29	3	12	41	282
1	実利用者数	2,167	1,578	242	163	72	706	3,002	151	622	55	91	2,256	11,105
日	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延利用者数	2,167	1,578	242	163	72	706	3,002	151	622	55	91	2,256	11,105
1	団体数	9	44	0	0	5	3	58	16	7	0	2	2	146
泊	実利用者数	435	2,911	0	0	146	51	2,373	252	114	0	11	82	6,375
2	延宿泊者数	435	2,911	0	0	146	51	2,373	252	114	0	11	82	6,375
日	延利用者数	870	5,822	0	0	292	102	4,746	504	228	0	22	164	12,750
2	団体数	5	3	0	0	0	4	6	6	0	0	0	1	25
泊	実利用者数	71	80	0	0	0	118	140	109	0	0	0	13	531
3	延宿泊者数	142	160	0	0	0	236	280	218	0	0	0	26	1,062
日	延利用者数	213	240	0	0	0	354	420	327	0	0	0	39	1,593
3	団体数	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	4
泊	実利用者数	0	0	0	0	0	0	35	42	46	0	0	0	123
4	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	105	126	138	0	0	0	369
日	延利用者数	0	0	0	0	0	0	140	168	184	0	0	0	492
4	団体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泊	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日	延利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	団体数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
泊	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	24	0	0	0	24
以	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	144	0	0	0	144
上	延利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	168	0	0	0	168
	団体数	67	77	2	9	8	16	154	26	38	3	14	44	458
合	実利用者数	2,673	4,569	242	163	218	875	5,550	554	806	55	102	2,351	18,158
計	延宿泊者数	577	3,071	0	0	146	287	2,758	596	396	0	11	108	7,950
	延利用者数	3,250	7,640	242	163	364	1,162	8,308	1,150	1,202	55	113	2,459	26,108

3　研修活動の分類と実施団体数

活動分類			学校教育利用団体						社会教育利用団体	合計
			幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学等		
野外活動	キャンプ活動	ロッジ泊	0	1	0	0	0	1	10	12
		テント泊	0	0	0	0	0	0	2	2
		キャンピング（テント設営・撤収）	0	0	0	0	0	0	1	1
		野外炊飯	1	3	2	5	1	3	49	64
		キャンプファイヤー	1	4	0	0	0	0	8	13
		キャンドルファイヤー	5	15	0	0	5	1	6	32
	自然ふれあい活動	自然散策	6	3	0	0	4	0	11	24
		ネイチャーゲーム	0	2	0	0	0	0	2	4
		フィールドワーク	0	22	0	0	3	0	8	33
		フィールドアドベンチャー	0	22	0	0	1	0	17	40
		スコアオリエンテーリング	0	9	1	0	0	1	6	17
		スタンプラリー	0	3	0	2	0	1	4	10
		ウォークラリー	0	1	0	0	0	0	2	3
		沢遊び	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイキング	0	0	0	0	0	0	0	0
		登山	0	1	0	0	0	0	0	1
		雪遊び・そりすべり	12	6	0	0	0	0	4	22
		ナイトハイク	1	11	0	0	0	0	5	17
		星空ウォッチング	0	5	0	0	0	0	0	5
	レク・ゲーム	伝承遊び	1	2	0	0	0	0	1	4
		旗とりゲーム	0	4	0	0	0	0	1	5
		室内スポーツ	9	4	0	4	1	1	64	83
		室内サーキット	52	22	0	0	6	0	80	160
		アーチェリー	0	37	0	1	0	0	14	52
		マウンテンバイク	0	21	0	0	1	0	4	26
		インラインスケート	0	28	0	0	0	0	4	32
		フリスビーゴルフ	0	18	0	0	0	0	1	19
		グランドゴルフ	0	0	0	0	0	0	0	0
		フロッカー	0	9	0	0	0	0	10	19
室内活動	文化活動	施設を訪ねて	0	27	0	0	0	0	1	28
		室内研修	0	1	0	1	0	6	72	80
		ボランティア	0	11	0	0	0	0	1	12
	クラフト活動	張り子面	0	0	0	0	0	0	3	3
		森の標本箱	3	10	0	0	0	0	5	18
		押し花アート	0	0	0	0	0	0	0	0
		焼き板	0	5	0	0	0	0	0	5
		草木染め	0	1	0	2	2	0	2	7
		革細工	0	1	0	0	1	0	8	10
		プラ板キーホルダー	5	1	0	0	0	0	7	13
		絵手紙	0	0	1	0	1	0	6	8
森林環境学習プログラム			0	1	0	0	0	0	1	2
職場体験学習プログラム			0	0	0	0	0	0	0	0
高齢者対応クラフト教室			0	0	0	0	0	0	3	3
合計			96	311	4	15	26	14	423	889

※複数選択

第４節　企画事業

１　研修会事業

(1)　学校利用指導者研修会（第１回、第２回）

ア　目的

当所を主体的に利用することができるようにするため、活動計画の立て方や研修の進め方について研修し、指導者としての資質を高める。

イ　期日・対象校及び参加者数

(ｱ) 第１回

期　日　　平成25年4月25日(木)
対象校　　４月～７月まで利用の学校
参加者　　３８名

(ｲ) 第２回

期　日　　平成25年7月31日(水)
対象校　　８月～３月まで利用の学校
参加者　　３２名

ウ　研修内容（第１回、第２回とも同じ内容）

・施設案内
・実技研修（フィールドワーク、スコアＯＬ、インラインスケート、アーチェリーなど）
・全体会
・施設の利用の仕方等
・活動プログラムの調整（所バス利用調整を含む）

(2)　社会教育団体利用指導者研修会（第１回、第２回）

ア　目的

当所を主体的に利用できるようにするため、研修計画の立て方や研修の進め方について研修し、指導者としての資質を高める。

イ　期日・対象者及び参加者数

(ｱ) 第１回

期　日　　平成25年6月16日(日)
対　象　　６月～７月まで利用団体の指導者
参加者　　２５名

(ｲ) 第２回

期　日　　平成25年7月7日(日)
対　象　　８月～９月までの利用団体の指導者
参加者　　２７名

ウ　研修内容（第１回、第２回とも同じ内容）

・全体会
・施設の利用の仕方等
・活動プログラムの作成及び調整（所バス利用調整を含む）

(3)　ボランティア研修

ア　目的

ボランティアを募集する機会とするとともに、ボランティアの資質の向上を図る。

イ　期日・対象者及び参加者数

期　日　　平成25年5月18日(土)
対象者　　高校生、大学生、一般
参加者　　２４名

ウ　研修内容

・開講式（本所の概要説明など）
・ふれあいゲーム（外部講師による）
・野外炊飯研修
・テント設営研修
・閉講式（ボランティア登録など）

２　利用拡大事業

(1)　サクラ・カタクリ週間

ア　目的

自然の家周辺にある桜やカタクリの群生地を観賞し、春の自然を満喫する。

イ　期日・対象者及び参加者数

期　日　　平成25年4月13日（土）～30日（火）
対象者　　どなたでも
参加者　　３０５名

ウ　活動内容

・桜やカタクリなどの観賞

(2)　さくらウオーク

※雪のため中止

(3)　安積山登山

ア　目的

新緑の安積山をトレッキングし、さわやかな汗を流しながら、身近な自然に親しむ。

イ　期日・対象者及び参加者数

期　日　　平成25年5月25日(土)
対象者　　小学３年生以上
参加者　　３７名

ウ　活動内容

・御霊櫃峠入口から額取山山頂を経由し、熱海登山口までの縦走登山

(4)　親子でスコアＯＬに挑戦（第１回、第２回）

ア　目的

親子（家族）で本所の活動プログラムに挑戦し、ふれあいを深めるとともに、本所のＰＲにつなげる。

イ　期日・対象者及び参加者数

(ｱ) 第１回

期　日　　平成25年6月2日(日)
対象校　　親子または家族
参加者　　４５名

(ｲ) 第２回

期　日　　平成25年6月9日(日)
対象校　　親子または家族
参加者　　３０名

ウ　活動内容（第１回、第２回とも同じ内容）

・スコアＯＬ
・サザッピークラブ会員募集

(5) 夢冒険キャンプ

ア 目的

キャンプ生活を通して、自然との共存を図りながら、様々な困難に打ち勝つことのできる子どもたちを育成する。

イ 期日・対象者及び参加者数

期 日 平成25年8月7日(水)～9日(金)
対象者 小学５年生～中学２年生
参加者 １３名

ウ 活動内容

(ｱ) 第１日
・開講式・オリエンテーション
・サイクリング・ニジマスつかみ・沢遊び
・テント設営・野外炊飯

(ｲ) 第２日
・サイクリング
・いかだ乗り（猪苗代湖舘浜）
・ドラム缶風呂体験

(ｳ) 第３日
・クラフト（竹細工）
・うどん打ち体験
・閉講式

(6) 第11回郡山自然の家オープンデー

(ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業 夏期間)

ア 目的

豊かな自然環境の中で、心身ともに健全な青少年を育成するとともに、県民に体験活動の場を提供する。

イ 期日・対象者及び参加者数

期 日 平成25年9月15日(日)
対象者 どなたでも
参加者 ４８２名

ウ 活動内容

・オープニングセレモニー（うねめ太鼓保存会による演奏、チームキビタンによるダンス）
・各種プログラム体験（インラインスケート・活動館開放・木工クラフトなど）
・イベント参加（ザリガニ釣り・親子で丸太切りに挑戦・遊びながらアイスクリームを作ろう・似顔絵コーナーなど）

(7) 手ぶらで、いも煮会

ア 目的

野外炊飯を通して、友だちや家族との交流を深める。

イ 期日・対象者及び参加者数

期 日 平成25年11月2日(土)
対象者 家族またはグループ
参加者 ２１名

ウ 活動内容

・野外炊飯（いも煮会）

(8) 深まる秋！まるごと体験

ア 目的

本所ならではの人気プログラムを体験したり、秋ならではの「食」を楽しむ機会とする。

イ 期日・対象者及び参加者数

期 日 平成25年11月10日(日)
対象者 どなたでも
参加者 ３０名

ウ 活動内容

・フロッカー・インディアカ・室内サーキット
・草木染め・絵手紙
・きのこ岩ウォーキング
・民話（外部講師による）

(9) Merry Christmas!&Happy New Year!

ア 目的

自然の家の周辺にある素材を生かしたリースや置物などを作るクラフト活動を通して、自然とのふれあいを深める。

イ 期日・対象者及び参加者数

期 日 平成25年12月8日(日)
対象者 どなたでも
参加者 ９９名

ウ 活動内容

・クリスマスリース作り（外部講師による）
・門松づくり（外部講師による）

(10) わくわく！ファミリー冬のつどい

ア 目的

スキー体験や冬ならではの遊びを通して、家族の絆や家族間の交流を深める。

イ 期日・対象者及び参加者数

期 日 平成26年2月1日(土)～2日(日)
対象者 小学生を含む家族
参加者 ３７名

ウ 活動内容

・猪苗代スキー場でのスキー体験
・クラフト体験（革細工）

(11) 冬の文化祭「クラフトまつり」

(ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業 冬期間)

ア 目的

各種クラフトや食堂での食事を体験することを通して利用拡大を図る。

イ 期日・対象者及び参加者数

期 日 平成26年2月23日(日)
対象者 どなたでも
参加者 １０８名

ウ 活動内容

・アレンジメント（外部講師による）
・革細工（外部講師による）
・紙飛行機作りと飛行大会
・郷土料理（きびごま団子）

(12) 活動館開放します

ア 目的

外で思い切り遊べない子どもたちに屋内施設を開放し、からだを動かす機会を提供する。

イ　期日・対象者及び参加者数

期　日　前期　平成25年4月7日（日）～5月26日（日）の毎週日曜日

後期　平成25年11月17日（日）～平成26年3月23日（日）の毎週日曜日

対象者　幼児及び小学生とその家族

参加者　568名

ウ　活動内容

・室内サーキット

・各種遊具を使った活動（ストラックアウト、竹馬、一輪車、縄跳びなど）

3　協力事業

(1)　会津の冬を満喫！ウィンターフェスティバル（会津自然の家企画）

ア　目的

会津自然の家での宿泊、雪国ならではの冬を楽しむ活動や伝統的な活動を通して、会津の冬や伝統文化のすばらしさを体験させるとともに、参加者相互の交流を深める。

イ　期日・参加者数

期　日　平成26年1月25日(土)～26日(日)

参加者　４５名（当所からの参加者数）

ウ　活動内容

・スキー

・スノーシュー、クロスカントリー、そり滑り

・会津の民話

福島県会津自然の家

第１節　概要

福島県会津自然の家は、恵まれた自然環境の中で、自然に親しむ活動や集団宿泊生活、野外活動を体験することにより心豊かで心身ともに健全な県民を育成することを目的とした生涯学習施設である。

昭和56年4月に開所し、本年度末で33年になり、開所以来多くの方々にご利用いただいているところである。

本年度の利用者数は、３万５,５００人強であった。これは、学校団体利用数が大震災以前の数までほぼ回復したことや「ふくしまっ子体験活動応援事業」の実施をはじめ、様々な企画事業を実施し、利用者数拡大に努めてきたことによると思われる。

また、次の３つの重点目標を掲げ、その達成に努めるとともに、誰もが利用しやすい魅力的な施設をめざして運営の改善を図り、時代や利用者のニーズに対応した生涯学習施設の役割に積極的に取り組んできた。

１　重点目標

（１）すべての利用者が利用目的を達成し、活動の満足感、成就感を得られるよう積極的に指導・支援にあたる。
　→　利用による付加価値を高める。
（２）利用者層の拡大に努める。
　→　生涯学習施設としての役割を担う。
（３）環境の整備に努める。
　→　事故ゼロを目指す。

２ 職員組織

職名	所長	主幹兼次長	副主査	主任社会教育主事	社会教育主事	指導主事	体験活動指導員	嘱託運転手	臨時労務員	計
人員	1	1	1	1	3	1	3	1	2	14

３ 平成25年度重点目標と成果

（１）すべての利用者が利用目的を達成し、活動の満足感、成就感を得られるよう積極的に指導・支援にあたる。
　→　利用による付加価値を高める。

＜取組の重点＞

ア　利用団体が主体性をもち、自主的な活動が促進できるように適切な支援ができるようにする。
（ア）事前打ち合わせ等で利用団体の活動のねらいをしっかり聞き取り、活動プログラムのねらいとの整合性を図る。
イ　信頼関係づくりゲーム、森林環境学習等の出前講座の充実を図る。
（ア）信頼関係づくりゲーム、森林環境学習のプログラムを敷衍するとともに、出前講座を積極的に推進する。
ウ　専門的知識・技能、経験等を有する講師を活用できるよう、積極的にコーディネートする。

＜取組の結果＞

ア　すべての団体の活動に対して所員が直接支援することができた。今後も事前研修会や受入時打合せをより充実させていきたい。利用者評価の結果によれば、利用者の満足度は高く、各団体の利用目的は概ね達成できたと判断される。
イ　学校周辺の環境を活用して森林環境学習等を実施する。出前講座のよさを伝えるとともに、信頼関係づくりゲームのよさを体感してもらうために、事前研修会や企画事業のオリエンテーションなどを実施して周知した。その結果、信頼関係づくりゲームを活動プログラムとして設定する団体がかなり多い。森林環境学習については、今後のさらなる働きかけが必要である。
ウ　民話の語り部、自然観察、スキー講師、星空案内人など、各種プログラム及び企画事業においての外部人材の活用は定着してきている。また、企画事業のサポート等において、一般、高校生のボランティア活動も少しずつ充実してきており、支援体制の充実が図られた。

（２）利用者層の拡大に努める。
　→　生涯学習施設としての役割を担う。

＜取組の重点＞

ア　ホームページの充実に努め、随時更新し最新の情報発信を行うとともに、企画事業等においては、広報誌、新聞社等への記事提供を行うなど、積極的な広報に努める。
イ　「会津自然の家だより」を定期的に発行し関係機関に配布するとともに、地域の広報誌、マスコミ等を積極的に活用する。
ウ　学校関係以外の機関や地域の各種サークル等への広報活動も積極的に推進する。

＜取組の結果＞

ア　ホームページの随時更新はもとより、県内の市町村教育委員会、県立学校、公民館，ＰＴＡ，大学等及びタウン誌へのＰＲ活動などを行い、積極的に広報活動に努めた。
イ　自然の家だよりの発行、地域情報紙（２紙）への掲載依頼を設けることにより利用拡大を図ることができた。
ウ　学校関係以外の機関、サークルへの周知活動は十分ではなかった。合唱団体などのサークル、老人会、大学等への利用拡大を図っていきたい。

（3）環境の整備に努める。
→ 事故ゼロを目指す。

＜取組の重点＞

ア 常に整理整頓、定物定位置を心がけ、美しい環境づくりに努める。

イ 事故発生予防に努める。

（ア）定期的な点検の充実に努める。

（イ）防火防災等安全に係る計画を見直し、改善を図る。

＜取組の結果＞

ア 臨時労務員の確保により、コースや周辺環境の整備には、これまで以上に取り組むことができた。

イ 毎月の定期点検はもとより、各種プログラムの実施の中でも常に気を配り、補修箇所、危険箇所については即座に対応し、事故発生の予防に努めることができた。

ウ 防火防災等安全に関わる「危機対応マニュアル」や利用団体に配付する「もしものときのために」を活用し、より広範囲にわたる困難な状況に対応ができるように改善を図った。

第２節 施設・設備の概要

１ 所在地

（１）河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山4495番1

２ 宿泊定員

（１）本 館 25室 290名（うち１室障がい者用）
（２）ロッジ 10棟 150名
（３）テント 20張 120名

３ 敷地面積

（１）249,654㎡

４ 建物面積

（１）延床面積 5,462.7365㎡
ア 管理研修棟（鉄筋造２階建）
イ 宿泊棟（鉄筋造２階建）
ウ プレイホール（鉄筋造）
エ アセンブリホール（鉄筋造）
オ 機械棟（鉄筋造３階建）
カ ロッジ（木造平屋建）
キ 野外活動管理センター（鉄筋造）
ク 炊飯場（鉄筋造）
ケ 薪置場（コンクリートブロック造）
コ 車庫（鉄筋造）
サ 野外便所（鉄筋造）

５ 運動広場面積

（１）8,500㎡

６ 設備備品等

（１）フィールドアスレチック
（２）野外活動用具、野外炊飯用具、運動用具
（３）双眼鏡、天体望遠鏡、テレビ、ＶＴＲ
（４）液晶プロジェクター、ＣＤカセットプレーヤー
（５）ピアノ、オルガン
（６）伝承遊びセット
（７）クラフト用具
（８）各種オリエンテーリング用具
（９）アルペンスキー
（10）歩くスキー（クロスカントリースキー）
（11）そり
（12）スノーシュー
（13）営火場（４箇所）
（14）諸活動コース
（15）その他

第３節 利用状況

１ 当施設を利用可能対象者

（１）学校団体（小学校、中学校、特別支援学校、高校、大学、高等専門学校、幼稚園等の構成員及びその指導者）
（２）社会教育団体（公民館、子ども会、保育所、スポーツ少年団体、家族、老人会、勤労青少年団体等）の構成員及びその指導者
（３）その他、教育長が適当と認めた者

２ 平成２５年度の利用団体数

（１）475団体
（２）実利用者数22,208人
（３）延利用者数は35,648人

３ 屋外活動を制限された子どもたちへの対応

（１）心身の健康、リフレッシュを図るため、外遊びや自然体験活動の機会提供を目的とした「自然の家体験活動応援事業」をはじめ、様々な独自の企画事業を実施して利用者の拡大に努めた。

４ 利用状況

（１）月別利用状況、利用団体別・宿泊日数別利用状況、研修活動の分類と実施団体数についての詳細は、次の表のとおりである。

5　月別利用状況

（平成26年3月31日現在）

月	種別	学校教育団体						社会教育団体				家族	企画事業	合計
	区分	幼稚園等	小学校	中学校	高校	特別支援学校	大学等	少年	青年	一般	高齢者			
4	団体数	1	1	1	2	0	0	0	1	5	0	0	5	16
	利用人員	228	25	50	105	0	0	0	32	26	0	0	513	979
	延人数	228	50	100	167	0	0	0	32	50	0	0	513	1,140
5	団体数	5	29	4	0	0	0	1	1	0	1	0	3	42
	利用人員	375	1,371	131	0	0	0	76	3	27	5	0	371	2,223
	延人数	375	2,986	273	0	0	0	76	3	35	5	0	371	3,991
6	団体数	3	41	1	1	0	3	15	0	1	1	0	0	66
	利用人員	225	1,927	15	23	0	3	1,038	0	33	5	0	0	3,269
	延人数	250	4,746	15	69	0	6	1,038	0	43	5	0	0	6,172
7	団体数	6	20	0	2	0	0	25	4	3	0	0	1	75
	利用人員	389	896	0	42	0	0	1,321	1	20	0	0	11	2,805
	延人数	768	2,171	0	62	0	0	1,677	53	93	0	0	18	4,895
8	団体数	2	4	4	4	0	1	15	0	10	0	1	2	42
	利用人員	141	277	61	157	0	10	655	0	43	0	3	341	1,688
	延人数	223	603	124	455	0	56	899	0	51	0	3	437	2,853
9	団体数	2	31	3	0	2	0	10	1	3	0	0	1	53
	利用人員	75	1,716	71	0	130	0	357	38	43	0	0	178	2,608
	延人数	111	3,560	79	0	390	0	415	75	71	0	3	178	4,879
10	団体数	8	29	0	2	0	0	7	0	5	0	2	3	56
	利用人員	414	1,594	0	65	0	0	356	0	142	0	9	599	3,179
	延人数	414	2,483	0	130	0	0	356	0	148	0	15	607	4,153
11	団体数	0	6	1	0	1	0	5	1	5	3	0	6	28
	利用人員	0	279	29	0	79	0	91	11	74	56	0	535	1,154
	延人数	0	347	58	0	79	0	135	11	81	56	0	925	1,692
12	団体数	0	0	0	0	0	0	5	1	3	0	0	6	13
	利用人員	0	0	0	0	0	0	222	5	40	0	0	251	518
	延人数	0	0	0	0	0	0	330	25	40	0	0	405	800
1	団体数	19	7	0	1	0	0	6	0	0	0	1	1	35
	利用人員	1,097	304	0	13	0	0	307	0	30	0	4	152	1,907
	延人数	1,359	353	0	31	0	0	344	3	33	0	4	295	2,419
2	団体数	15	4	0	0	2	0	12	0	0	1	0	1	35
	利用人員	574	186	0	0	96	0	442	0	13	16	0	29	1,356
	延人数	574	550	0	0	96	0	618	0	33	16	0	29	1,916
3	団体数	1	0	0	1	0	0	8	1	2	0	0	0	13
	利用人員	49	0	0	33	0	0	304	47	89	0	0	0	522
	延人数	49	0	0	88	0	0	418	94	89	0	0	0	738
合計	団体数	62	172	12	13	5	4	109	7	54	6	6	25	475
	利用人員	3,567	8,575	357	438	305	13	5,169	189	653	80	25	2,837	22,208
	延人数	4,351	17,849	649	1,002	565	62	6,306	333	780	83	31	3,637	35,648

前年対比

期間	区分	24年度	25年度	増減
4月	団体数	484	475	-9
～	実利用者	24,521	22,208	-2,313
3月	延利用者	40,955	35,648	-5,307

6　利用団体別･宿泊日数利用状況

（1）利用者数　　（　）はキャンプ、ロッジ内数

項　　目	団体数	実利用者数	延宿泊者数	延利用者数
利用者数	475	22,208	13,471	35,648
(キャンプ)	(1)	(49)	(98)	(147)
(ロッジ)	(12)	(503)	(1,871)	(1,871)

（2）利用者受け入れ日数

項　　目	利用可能日	利用日数	宿泊可能日	宿泊日数
利用日数	291	214	235	140
(キャンプ)	(158)	(2)	(144)	(1)
(ロッジ)	(158)	(30)	(144)	(15)

（3）利用者区分

泊	種別	学校教育団体						社会教育団体				家族	企画事業	合計
	区分	幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学等	少年	青年	一般	高齢者			
1日	団体数	52	41	5	2	3	0	80	4	49	5	5	16	262
	実利用者数	2,937	2,005	92	78	175	0	4,042	60	549	77	19	2,346	12,380
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延利用者数	2,937	2,005	92	78	175	0	4,042	60	549	77	19	2,346	12,380
1泊2日	団体数	7	81	5	4	0	3	28	2	5	1	1	5	142
	実利用者数	476	3,987	238	156	0	4	1,117	124	83	3	6	312	6,506
	延宿泊者数	476	3,987	238	156	0	4	1,117	124	83	3	6	312	6,506
	延利用者数	952	7,974	476	312	0	8	2,234	248	162	6	12	624	13,008
2泊3日	団体数	3	49	2	7	2	0	1	0	0	0	0	1	65
	実利用者数	154	2,462	27	204	130	0	10	0	15	0	0	49	3,051
	延宿泊者数	308	4,924	54	408	260	0	20	0	30	0	0	98	6,102
	延利用者数	462	7,386	81	612	390	0	30	0	45	0	0	147	9,153
3泊4日	団体数	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4
	実利用者数	0	121	0	0	0	0	0	0	6	0	0	130	257
	延宿泊者数	0	363	0	0	0	0	0	0	18	0	0	390	771
	延利用者数	0	484	0	0	0	0	0	0	24	0	0	520	1,028
4泊5日	団体数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	5
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	20
	延利用者数	0	0	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	25
5泊以上	団体数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	実利用者数	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	9
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	45	0	0	0	0	0	0	45
	延利用者数	0	0	0	0	0	54	0	0	0	0	0	0	54
合計	団体数	62	172	12	13	5	4	109	7	54	6	6	25	475
	実利用者数	3,567	8,575	357	438	305	13	5,169	189	653	80	25	2,837	22,208
	延宿泊者数	784	9,274	292	564	260	78	1,137	144	129	3	6	800	13,471
	延利用者数	4,351	17,849	649	1,002	565	62	6,306	333	780	83	31	3,637	35,648

7 研修活動の分類と実施団体数

（平成26年3月31日現在）

（1）野外活動

No.	プログラム名	学校	社教	計
1	アルペンスキー	10	3	23
2	フィールドアスレチック	50	23	83
3	野外炊飯	61	10	71
4	キャンプファイア	59	5	64
5	どきどきナイトハイク	65	4	69
6	そり・チューブ滑り	37	11	48
7	星空ウォッチング	9	0	9
8	宇宙大作戦	76	6	82
9	散策	12	4	16
10	ＵＦＯゴルフ	10	3	13
11	会津の歴史・町並みハイク	4	2	6
12	地層と化石の観察	16	0	16
13	アニマルランドの冒険	9	0	9
14	火起こし体験	21	2	23
15	樹木オリエンテーリング	14	2	16
16	カヌー	34	12	46
17	バウムクーヘン	4	11	15
18	森林環境学習	3	0	3
19	昆虫ウォッチング	6	0	6
20	かにの沢で遊ぼう	3	1	4
21	雪遊び	3	1	4
22	自然観察	7	1	8
23	ネイチャーゲーム	3	0	3
24	登山	6	0	6
25	ビンゴオリエンテーリング	7	2	9
26	森遊び	7	1	8
27	バーベキュー	2	5	7
28	草滑り	4	0	4
29	雪像つくり	1	1	2
30	どうぶつ村の大運動会	1	0	1
31	史跡めぐり	0	3	3
32	アニマルトラッキング	1	1	2
33	川の学習	2	0	2
34	ハイキング	6	0	6
35	雪上ハイキング	1	3	4
36	ダッチオーブン（ピザ）	1	6	7
37	ウォークラリー	0	0	0
38	すごろくオリエンテーリング	1	1	2
39	焼き板	6	0	6
40	スコアオリエンテーリング	11	2	13

（2）　室内活動

No.	プログラム名	学校	社教	計
1	クラフト	24	26	50
2	室内ゲーム	30	19	49
3	信頼関係づくりゲーム	18	6	24
4	会津の民話	13	1	14
5	キャンドルファイア	32	1	33
6	ケーキつくり	0	4	4
7	読み聞かせ	1	3	4
8	伝統工芸	7	8	15
9	テーブルマナー教室	0	7	7
10	そば打ち体験	1	1	2
11	音楽関係練習（吹奏楽他）	1	2	3
12	ダンス、剣道等練習	0	11	11
13	団体独自（学習会他）	22	37	59
14	絵手紙	1	1	2

※　クラフトには、森の生きものたち、ストーンペインティング、もっくんキーホルダー、すかし葉づくり、竹とんぼ等の活動を含む。

第４節 企画事業

１ 指導者の研修

（１）学校団体指導者事前研修会

ア　目的

（ア）本所の設立の趣旨、教育目標、方針、利用のねらい及び運営方法を理解させる。

（イ）児童生徒が安全に生活し充実した活動が行えるよう屋内外の施設環境を確認するとともに、各種プログラムのねらいや配慮事項を理解させ、効果的な活動計画が作成できるようにさせる。

（ウ）集団宿泊生活が円滑かつ効果的に進められるよう、同じ時期に宿泊する他の学校　団体との活動及び役割分担等について調整を図らせる。

イ　期日、対象、参加者数

第１回：平成25年4月17日（水）
5/ 7～5/31に利用する学校の教職員31名参加

第２回：平成25年4月18日（木）
6/ 4～6/27に利用する学校の教職員40名参加

第３回：平成25年4月19日（金）
9/10～10/18に利用する学校の教職員29名参加

第４回：平成25年4月23日（火）
7/ 2～9/ 6に利用する学校の教職員39名参加

ウ　研修内容

（ア）利用の仕方及び利用日までの手続き準備物の確認

（イ）活動計画の作成及び同時期利用団体との調整

（ウ）プログラム及び活動内容、指導方法の理解

（エ）施設及び避難経路の確認

２ 利用促進事業

（１）第９回高寺山山開き（会津坂下町との共催）

ア　目的

（ア）いにしえのロマンと豊かな自然を有する高寺山の山開きを行い、登山者の安全を願うとともに、町の教育観光資源を広く内外に広報し地域振興に資する。

（イ）参加者同士が共に汗を流し登山することにより、健康づくりと温かい心の交流の機会を提供する。

イ　期日、対象、参加者数

（ア）平成25年 4月10日（日）一日行事

（イ）一般374名参加

ウ　活動内容

（ア）山開き式典

（イ）高寺山登山

（ウ）お楽しみ抽選会、クジラ汁サービス

（２）春のオープンデー

ア　目的

（ア）自然の家オープンデーを実施することにより、県民に会津自然の家内外の環境やプログラムについて公開する。

（イ）屋外活動を制限されている県内の子どもたちに、心身ともにリラックスできる環境とプログラムを提供しのびのびと活動させる。

イ　期日、対象、参加者数

（ア）平成25年5月12日（日）一日行事

（イ）県内の小中学生とその家族226名参加、ボランティア2名

ウ　活動内容

（ア）プログラム体験コーナー（無料）

a カヌー体験、アスレチック（種目を限定）、森遊び、火起こし体験、ビンゴ OL、UFO ゴルフ、クラフト、バウムクーヘン（デモンストレーション）

（イ）プログラム体験コーナー（有料）

a ピザ作り

（３）大自然わくわくキャンプ

ア　目的

（ア）会津自然の家や会津地方の豊かな自然の中での体験活動を通して、健全な心と体、自然に親しむ気持ちを養わせる。

（イ）宿泊体験を通して参加者同士の交流を図らせる。

イ　期日、対象、参加者数

（ア）平成25年8月10日（土）～12日（月）　２泊３日

（イ）小学校５年生～中学生39名参加

ウ　活動内容

（ア）テント設営、焼きそば作り、釣り竿作り

（イ）バードウォッチング、釣り体験、カヌー、ツリーイング、ボンファイア

（ウ）早朝ハイキング、バーベキュー

（４）お月見コンサート２０１３

ア　目的

（ア）中秋の名月の時期に天体望遠鏡で月面を観賞し、年中行事としての「月見」の体験をさせる。

（イ）「月見」にふさわしい音楽や民話の語りを聴き、世代を越え、共に秋の夜長を心ゆくまで楽しむ。

イ　期日、対象、参加者数、主演者数

（ア）平成25年9月21日（土）一日行事

（イ）小学生～高齢者150名参加

（ウ）講話講師、声楽、器楽、合唱、音響、民話の出演者28名

ウ　活動内容

（ア）月面観賞～天体望遠鏡による月面観察、講話
（イ）音楽鑑賞～声楽とピアノ及びフルートによる演奏、合唱による演奏
（ウ）会津の民話

（５）第１０回会津自然の家あったかふれあいまつり
ア　目的
（ア）自然の家オープンデーを実施することにより、地域住民の方に施設及び周辺の環境を開放するとともに、活動プログラムを体験できる場を提供し、自然体験機能及び生涯学習機能を兼ね備えた本所への理解を深める。
（イ）各関係機関、団体と連携を図ることにより体験活動を充実させ、更なる集客につなげる。
イ　期日、対象、参加者数
（ア）平成25年10月20日（日）一日行事
（イ）地域住民を中心とした388名参加、ボランティア16名参加
（ウ）協力団体体験コーナー参加、出演者130名
ウ　活動内容
（ア）プログラム体験コーナー
（イ）協力団体による展示・体験コーナー
（ウ）協力団体による模擬店販売
（エ）施設開放

（６）通学キャンプ
ア　目的
（ア）自然の家での集団生活や様々な体験活動を通して、子どもたちの自律的な生活態度やよりよい人間関係を形成するための社会性を育成する。
（イ）中学校進学前に、他校との交流を図ることによって中学校進学の不安を取り除く。
イ　期日、対象、参加者数
（ア）地区別実施時期
a 喜多方市第二中学校地区
平成25年11月 5日(火)～11月 8日(金)３泊４日
b 会津坂下町
平成25年11月12日(火)～11月15日(金)３泊４日
c 会津若松市北会津中学校地区
平成25年11月26日(火)～11月29日(金)３泊４日
（イ）（ア）の各市町立中学校区内小学校に通う４年生～６年生、合計130名参加
（ウ）各回講師１名、合計３名参加
ウ　活動内容
（ア）信頼関係づくりゲーム
（イ）学習（宿題、自主学習、読書等）
（ウ）中学校英語教師による英語のスペシャル授業
（エ）ニュースポーツ

（７）打って食べて大満足　新そばにチャレンジ
ア　目的
そば打ち体験を通して、郷土の食生活、食の大切さを理解し、参加者同士の交流を深める。
イ　期日、対象、参加者数
（ア）平成25年11月16日（土）、17日（日）一日行事２回
（イ）一般、中学生以下は保護者同伴
a 11月16日（土）37名参加、講師7名
b 11月17日（日）49名参加、講師2名
ウ　活動内容
（ア）そば打ち実演
（イ）そば打ち体験
（ウ）そば茹で実演
（エ）そば茹で体験
（オ）試食
（カ）そば口上実演
（キ）会津の秋を楽しむ会（希望者）
a 自然観察コース
b 森の工作＆森遊びコース

（８）手作り森のクリスマス
ア　目的
クリスマスケーキ、クラフトづくりを通して、楽しみながらケーキを作ったり、自然素材を工夫したりすることにより、家族やグループ間の交流、親睦を深める。
イ　期日、対象、参加者数
（ア）平成25年12月 7日（土）、8日（日）一日行事２回
（イ）小・中学生の親子
a 12月 7日（土）43名参加、講師2名
b 12月 8日（日）50名参加、講師2名
ウ　活動内容
（ア）クリスマスケーキ作り
a 講師の実演
b 生地づくり、ロールの仕方、デコレート
（イ）クリスマスクラフトの飾り作成
（ウ）試食

（９）冬休み楽習宿
ア　目的
（ア）児童に冬季休業中の学習課題等に効果的に取り組む場を設定する。
（イ）自主性や創造性を育みながら学習の仕方を身に付けさせたり、基本的な生活習慣を身に付けさせる。
（ウ）児童のふれあいの場を設定し、参加者相互の交流を図る。
イ　期日、対象、参加者数
（ア）平成25年12月25日(水)～26日(水)Ａ班　１泊２日
（イ）平成25年12月26日(木)～27日(金)Ｂ班　１泊２日
（ウ）小学４年生～６年生
a Ａ班　76名参加

b B班　78名参加

ウ　活動内容

(ア) 信頼関係づくりゲーム

(イ) 学習（国語、社会、算数、理科、外国語活動（英語））

(ウ) 雪灯籠作り、そりすべり、雪遊びほか

(10) 冬を楽しもう！ウィンターフェスティバル

ア　目的

会津自然の家での宿泊、雪国ならではの冬を楽しむ活動などを通して、会津の冬や伝統文化のすばらしさを体験するとともに、参加者相互の交流を深めさせる。

イ　期日、対象、参加者数

(ア) 平成26年1月25日（土）～26日（日）１泊２日

(イ) 県内在住の子どもを含む家族、グループ143名参加

(ウ) インストラクター5名、ボランティア4名

ウ　活動内容

(ア) 雪遊び、(そり滑り、チューブ滑り、雪像づくり)

(イ) 雪灯籠作り

(ウ) スノーシュー体験

(エ) アルペンスキー、クロスカントリースキー

(オ) 会津の民話

3　その他の企画事業

(1) ふくしまっ子夏の体験活動応援事業

会津自然の家サマーフェスタ

ア　目的

自然の中での冒険体験等を通して、幼児、児童、生徒に対し、自立心や忍耐力、協調性を養わせるとともに、自然と調和することの大切さを感得させる。

イ　期日、対象、参加者数

(ア) 平成25年8月25日（日）一日行事

(イ) 県内小・中学生とその家族280名参加

(ウ) 派遣支援員3名、ボランティア1名

ウ 活動内容

(ア) プログラム体験コーナー

a アスレチック、カヌー体験、UFO ゴルフ、ミニ樹木オリエンテーリング、森遊び、クラフト

(イ) 野外クッキング体験コーナー

a バウムクーヘン

(2) ふくしまっ子冬の体験活動応援事業

会津自然の家スノーフェスタ

ア　目的

冬の会津での自然体験活動を通して、自立心や忍耐力、協調性を養うとともに、自然と調和することの大切さを知る。

イ　期日、対象、参加者数

(ア) 平成26年2月15日（日）一日行事

(イ) 県内幼児、小・中学生とその家族26名参加

(ウ) 派遣支援員2名、ボランティア1名

ウ　活動内容

(ア) 会津自然の家（プランA）

(イ) そり、雪あそびコース

(ウ) スノーシュー体験コース

(エ) ミニ雪まつり

※　大雪のため、猪苗代スキー場によるプランBは中止とした。

福島県いわき海浜自然の家

第１節　概要

福島県いわき海浜自然の家は、海と山の豊かな自然環境の中で様々な活動や集団宿泊体験を通して、心身ともに健全な青少年を育成することを目的とした社会教育施設として平成8年7月に開所した。

開所以来、学校の利用はもとより、スポーツ少年団、子ども会などの社会教育団体や家族などのあらゆる年齢層に利用されてきた。

しかし、平成23年3月11日の東日本大震災により休所を余儀なくされ、同年11月1日から財団法人いわき市教育文化事業団を指定管理者として一部再開した。以降、利用者が少しでも安心して利用できる環境を創出するため、活動エリアの放射線量測定及びデータの公開を行うとともに、低減措置を講じている。

平成23年度には本館周辺、平成24年度にはつどいの広場やいこいの広場、及び第５営火場周辺の芝生張替等による線量低減措置を実施。平成25年度にはトリムランドの除染、野営場入り口付近の崩落現場の復旧工事などを行い安全安心な活動エリアの拡大・復旧に努めた。また、平成24年度には震災により倒壊したロッジは再建されたが、野営場入り口付近の復旧工事のため平成25年度もロッジ・野外炊飯場等は使用できなかった。また、山林部分の放射線対策は進まずフィールドアスレチックコースや冒険の森歩道を利用した活動プログラムの再開はできなかった。しかしながら、四倉海岸の海水浴の再開に合わせて、砂の芸術や磯遊びなどの当施設の目玉である海の活動を一部再開した。

平成25年度の利用状況は、497団体、延べ利用数29,323人で、震災前の平成22年度（546団体66,611人）に比して 44%ほどであった。社会教育団体の利用は増えたが、学校教育団体の利用は、143団体延べ8,437人（平成22年度は342団体、延べ50,576人）と団体数では半分近くの回復をみたが、延べ人数では、2割にも満たない状況であった。

１　平成25年度重点目標と成果

震災によって、これまでの自然体験活動が制限される中、少しでも多くの利用者が、新たな発見や感動、満足感・充実感を味わうことにより、本来の活動目的が達成されるよう次の目標に取り組んだ。

(1)　本施設の設置目的の明確化とその周知及び利用促進を図る。

ア　自然体験活動が制限される中で教育施設として、青少年健全育成を目的とした利用のあり方などを考えながら受け入れを実施。野外での活動内容が制限されていることから、ペンダント作りなどの新たなクラフト活動の充実を図った。

イ　オープンデーや健康推進デーなどの企画事業を充実させ、利用の促進・広報につなげることができた。

ウ　小・中学等への利用促進のための情報提供、PR 活動に努めるとともに、生涯学習施設としての役割に鑑み、教育文化施設や公民館への広報活動を行い、史跡・文化財めぐり、健康体操、ニュースポーツなどを実施。更には、公民館等との連携事業を展開するなどして新たな利用者開拓を行った。

(2)　利用者のニーズに対応した施設運営に努める。

ア　幼児から高齢者まで、多様なニーズに対応した幅の広いプログラムの開発とクラフト活動に努めた。

イ　企画事業を通してアンケート調査を実施し、利用者のニーズについての調査・研究を行い、ニーズに応じた支援を実施した。また、利用者の自主性・主体性を助長できるよう、工夫・改善に努めた。

(3)　事故の未然防止、危機管理体制の充実に努める。

ア　受付やオリエンテーション、活動支援において安全のための適切な助言や指導を行った。

イ　学校・社会教育団体ともに事前研修会を実施し、安全で有効かつ適切な施設の活用について周知徹底するとともに、利用団体の指導者に対して適切な依頼・指示を行い安全教育の充実を図ってきた。

ウ　今回の震災を教訓として、事故発生時の緊急対応及び連絡体制を明確にし、情報の共有化を徹底し危機管理体制の充実に努めた。

　無線アンテナ設備の設置による海浜活動時等の情報通信網の整備や自然災害等での避難方法のマニュアル化など、利用者の安全と被害防止に努めた。

エ　本年度も利用不可であったが、フィールドアスレチックコース等の安全点検を行い、遊具等の安全管理に努めた。

　また、施設全体と活動エリアである海岸等の放射線量の測定を実施して公表した。

(4)　定期的な業務内容の点検と改善に努める。

ア　計画的かつ定期的な評価により、改善点の明確化を図り、密度の高い施設運営に努めた。

イ　多面的かつ多角的な視点から、業務遂行の在り方について検討し、開かれた施設運営に努めた。

ウ　利用者へのアンケート結果を参考に、業務遂行の在り方を検討し、利用者の目線に立った支援や管理運営に努めた。

(5)　地域との連携を深め、生涯学習実践の場として機能する施設運営に努める。

ア　環境ボランティアを中心に地域との関係を密接にし、地域に根ざした施設づくりに努めた。

イ　支援ボランティアが企画事業の一端を自主運営するなど、ボランティア活動の場の充実に努めた。

ウ　ボランティアによる自主運営の推進、親睦交流に努めるためにいわき海浜自然の家協力会を設立した。

エ　公民館、支所、消防署、交番、教育文化施設等のほか、地域の各種団体など、関係機関との連携強化に努めた。
オ　オープンデーや健康推進デーなど、地域の連携・協力を得て開催した。

2　職員組織

所長	次長	事務主任	副主任指導員	指導員	教育指導専門員	体験活動指導員	運転手	事務補助員	臨時労務員	計
1	1	1	1	3	1	3	1	2	2	16

第２節　施設・設備の概要

1　所在地

いわき市久之浜町田之網字向山５３

2　宿泊定員

○　本館定員　　300名（和室28室）
○　ロッジ定員　　160名（10棟）
○　テント定員　　100名（25張）

3　敷地面積

○　350,171㎡

4　建物面積

○　6,696.97㎡
○　中心施設
　本　館（宿泊室、オリエンテーションホール、研修室、野外学習室、事務室、食堂、浴室等）
　体育館
○　野外施設
　管理棟、ロッジ、便所等

5　野外活動施設面積

○　つどいの広場　　7,000㎡
○　多目的広場　　8,890㎡
○　自然観察園　　4,050㎡
○　みんなの広場　　4,700㎡

6　設備備品等

○　体育館　　（バレーボールコート2面、バスケットボールコート1面（ミニバスケットボールリング）、バトミントンコート2面、卓球台3台、ピアノ1台 キンボール 他）
○　野営場（野外炊飯、キャンプ用品一式、冷蔵庫他）
○　野外活動設備（フィールドアスレチックコース、冒険の森歩道、トリムランド、営火場５ヵ所、各種オリエンテーリングコース、ナイトハイキングコース、ウォークラリーコース、ロープコース、マウンテンバイクコース　他）
○　多目的広場　（ソフトボール、マウンテンバイクコース 他）
○　その他　　（視聴覚機器、無線機 天体望遠鏡、双眼鏡、七宝焼窯、マウンテンバイク、釣り用具一式、海浜用具一式、大型バス）

第3節　利用状況

1　平成25年度　月別利用状況一覧表（3月末現在）

1　前年対比

期間	区分	24年度	25年度	増　減
4月～3月	団体数	302	497	195
	実利用者	14,291	22,739	8,448
	延利用者	30,134	29,323	-811

2　利用実績及び申込状況

月	種別／区分	学校教育団体						社会教育団体				ファミリー	企画事業	合計
		幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	特別支援	大学等	少年	青年	一般成人	高齢者			
4	団体数	2	1	0	1	0	0	6	0	5	1	1	1	18
	実利用者	334	61	0	21	0	0	317	0	107	12	5	17	874
	延利用者	334	61	0	42	0	0	468	0	149	12	10	17	1,093
5	団体数	2	6	0	1	0	0	1	0	5	3	2	1	21
	実利用者	313	320	0	34	0	0	22	0	116	47	7	1,853	2,712
	延利用者	313	320	0	68	0	0	44	0	122	47	14	1,853	2,781
6	団体数	0	8	0	0	2	0	1	0	5	5	1	3	25
	実利用者	0	268	0	0	40	0	60	0	215	67	4	49	703
	延利用者	0	638	0	0	40	0	60	0	226	67	8	49	1,088
7	団体数	5	8	0	2	2	0	28	1	2	7	2	2	59
	実利用者	179	360	0	60	76	0	1,781	26	16	103	9	20	2,630
	延利用者	274	792	0	133	129	0	2,192	52	22	103	16	20	3,733
8	団体数	2	2	0	0	0	0	30	10	2	4	0	2	52
	実利用者	50	68	0	0	0	0	1,992	459	43	54	0	87	2,753
	延利用者	50	203	0	0	0	0	2,898	1,139	114	56	0	149	4,609
9	団体数	2	14	3	0	0	0	9	5	2	6	0	1	42
	実利用者	104	592	126	0	0	0	479	62	47	96	0	1,022	2,528
	延利用者	104	895	126	0	0	0	612	125	71	96	0	1,022	3,051
10	団体数	8	9	0	2	0	0	6	1	7	6	0	2	41
	実利用者	296	450	0	21	0	0	287	13	718	176	0	146	2,107
	延利用者	443	450	0	21	0	0	423	39	755	176	0	146	2,453
11	団体数	2	11	0	0	0	0	9	0	3	8	3	2	38
	実利用者	58	551	0	0	0	0	342	0	98	150	28	24	1,251
	延利用者	58	551	0	0	0	0	461	0	116	150	28	24	1,388
12	団体数	1	5	0	0	0	0	14	2	3	7	5	4	41
	実利用者	54	319	0	0	0	0	1,028	22	73	129	52	73	1,750
	延利用者	54	319	0	0	0	0	1,523	44	73	129	68	122	2,332
1	団体数	4	10	1	0	0	0	9	3	11	2	0	3	43
	実利用者	170	457	16	0	0	0	236	43	534	33	0	84	1,573
	延利用者	170	465	16	0	0	0	247	69	534	33	0	136	1,670
2	団体数	14	3	0	2	0	0	14	1	6	8	1	2	51
	実利用者	615	146	0	134	0	0	348	35	135	185	8	12	1,618
	延利用者	615	146	0	268	0	0	538	103	135	192	16	24	2,037
3	団体数	6	2	0	0	0	0	41	4	7	3	1	2	66
	実利用者	253	86	0	0	0	0	1,227	168	240	55	10	201	2,240
	延利用者	253	86	0	0	0	0	1,846	308	286	55	10	244	3,088
合計	団体数	48	79	4	8	4	0	168	27	58	60	16	25	497
	実利用者	2,426	3,678	142	270	116	0	8,119	828	2,342	1,107	123	3,588	22,739
	延利用者	2,668	4,926	142	532	169	0	11,312	1,879	2,603	1,116	170	3,806	29,323

2 平成25年度 利用団体別･宿泊日数利用状況

（1） 利用者数 （ ）はキャンプ等の内数

項目	団体数	実利用者	延利用者
利用者数	497	22,739	29,323
(キャンプ)	0	0	0
(ロッジ)	0	0	0

（2） 利用者受け入れ日数

項目	利用可能日	利用日数	宿泊可能日	宿泊日数
利用日数	290	266	228	111
(キャンプ)	0	0	0	0
(ロッジ)	0	0	0	0

（3） 利用者区分

泊数	種別／区分	学校教育団体						社会教育団体				ファミリー	企画事業	合計
		幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	特別支援	大学等	少年	青年	一般成人	高齢者			
1日	団体数	40	57	4	2	3	0	88	3	44	58	9	18	326
	実利用者	2,257	2,885	142	27	63	0	5,186	186	2,119	1,098	76	3,370	17,409
	延利用者	2,257	2,885	142	27	63	0	5,186	186	2,119	1,098	76	3,370	17,409
1泊2日	団体数	3	10	0	5	1	0	73	15	12	2	7	7	135
	実利用者	96	338	0	224	53	0	2,695	299	185	9	47	218	4,164
	延利用者	192	676	0	448	106	0	5,390	598	370	18	94	436	8,328
2泊3日	団体数	5	12	0	1	0	0	6	7	2	0	0	0	33
	実利用者	73	455	0	19	0	0	216	277	38	0	0	0	1,078
	延利用者	219	1,365	0	57	0	0	648	831	114	0	0	0	3,234
3泊4日	団体数	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
	実利用者	0	0	0	0	0	0	22	66	0	0	0	0	88
	延利用者	0	0	0	0	0	0	88	264	0	0	0	0	352
4泊5日	団体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実利用者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延利用者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5泊以上	団体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実利用者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延利用者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	団体数	48	79	4	8	4	0	168	27	58	60	16	25	497
	実利用者	2,426	3,678	142	270	116	0	8,119	828	2,342	1,107	123	3,588	22,739
	延利用者	2,668	4,926	142	532	169	0	11,312	1,879	2,603	1,116	170	3,806	29,323

3 平成25年度 研修活動の分類と実施団体数

				学校団体						社会教育団体				ファミリー	主催	合計
				幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	養護学校	大学等	少年	青年	一般成人	高齢者			
1	自然体験活動	1	冒険の森散策	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2		2	ネイチャーゲーム	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4
3		3	ネイチャーラリー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4		4	トレッキング（石森山）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5		5	森林環境学習	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
6		6	化石体験発掘	0	3	0	0	0	0	2	0	0	1	1	0	7
7		7	いわき花めぐり	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8		8	海の生き物にふれよう	0	8	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	10
9	いわきの歴史・文化体験	1	浜の暮らし・里の暮らし体験	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3
10		2	火おこし・いろり体験	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
11		3	常磐炭田の歴史と生活	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3
12		4	化石を学ぶ	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	3
13		5	いわき花めぐりの歴史と考古学を学ぶ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
14		6	民話の語り体験	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15		7	山城トレッキング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16		8	いわき文学散歩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
17		9	いわき史跡めぐり	0	0	0	0	0	0	1	0	0	12	0	0	13
18		10	いわき浜めぐり	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
19		11	いわき古町散歩（平・四倉地区）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	食体験	1	バイキング料理体験	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
21		2	野外炊飯	0	9	0	2	0	0	14	4	1	2	2	1	35
22		3	ダッチオーブン体験	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23	健康・スポーツ体験	1	いきいき健康体操	0	0	0	0	0	0	1	0	0	9	0	7	17
24		2	なわとび教室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25		3	スポーツ、ニュースポーツ体験	29	51	0	3	0	0	86	7	7	16	9	6	214
26		4	お風呂でのんびりリフレッシュ	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	6	11
27	海浜活動	1	磯遊び	0	11	0	0	0	0	5	1	0	0	1	0	18
28		2	魚釣り	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
29		3	砂の芸術	0	7	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	11
30		4	いかだ乗り	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31		5	カヤック（カヌー）乗り	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
32		6	海岸ウォークラリー	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
33		7	サイクリング	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	4

				学校団体						社会教育団体				ファミリー	主催	合計
				幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	養護学校	大学等	少年	青年	一般成人	高齢者			
34	野外活動	1	トリムランド	1	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	5
35		2	動物オリエンテーリング	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	3
36		3	伝承遊び（屋外編）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
37		4	マウンテンバイク	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	3
38		5	ニュースポーツ（屋外編）	0	3	0	0	0	0	3	1	2	2	0	0	11
39		6	キャンプ（テント）体験	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40		7	海浜フレンドパーク	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
41	野内活動	1	伝承遊び（室内編）	1	0	0	0	0	0	4	0	1	0	1	0	7
42		2	キャンドルファイア	2	7	0	1	1	0	9	0	1	0	1	1	23
43		3	室内ゲーム	3	6	1	0	0	0	1	1	1	0	0	2	15
44		4	室内ビンゴオリエンテーリング	0	5	0	0	0	0	26	1	1	0	0	1	34
45		5	海浜なんでもチャンピオン	15	4	0	0	0	0	3	0	1	1	1	0	25
46		6	海浜フレンドパーク	0	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	7
47	創作活動	1	しおり	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
48		2	飛ぶ輪っか	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3
49		3	キーホルダー	0	2	0	0	0	0	7	0	6	1	0	0	16
50		4	木彫るだー	0	0	0	0	2	0	3	0	1	1	1	0	8
51		5	木製コースター	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
52		6	ストーンアート	0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	0	11	16
53		7	貝飾り	0	0	0	0	1	0	3	0	1	0	1	0	6
54		8	貝の壁飾り	1	4	1	0	0	0	5	0	0	1	2	0	14
55		9	貝の絵ろうそく	0	1	0	0	1	0	13	0	3	1	1	0	20
56		10	草木染め	0	1	0	0	1	0	2	0	2	4	0	3	13
57		11	七宝焼き	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	2	7
58		12	陶芸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
59		13	エコバック作り	0	0	0	0	0	0	5	0	1	0	0	0	6
60		14	下敷きカレンダー	3	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	7
61		15	海浜ペンダント	0	0	0	0	0	0	7	0	0	1	1	1	10
62		16	土器作りハニワ作り	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
63	ナイト活動	1	スターウォッチング	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	4
64		2	ナイトハイク	0	9	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	14
65		3	キャンプファイア	0	10	0	0	0	0	4	3	1	0	0	0	18
66		4	ボンファイア	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
67		1	研修・講座等の会場	1	1	0	3	0	0	40	20	12	6	1	8	92
68		2	生涯学習の会場	5	2	0	0	0	0	2	0	6	4	0	2	21
			合計	64	167	2	9	7	0	278	40	57	76	31	53	784

第４節　企画事業

１　研修会事業

(1)　学校団体指導者事前研修会

ア　目的

当所での利用にあたって自主的、主体的な活動を展開するため、施設見学や実技研修を通して研修計画の立案やその実施についての理解を深める。また、学校間で調整を図り、宿泊体験活動が円滑に実施できるようにする。

イ　期日・対象者及び参加者数

・期日　　平成25年4月26日(金)
・対象　　平成25年度利用の学校団体
・参加　　17名

ウ　研修内容

・施設紹介と利用の仕方について
・本所プログラム活動の紹介
・活動プログラムの作成・調整

(2)　社会教育団体指導者事前研修会

ア　目的

施設見学や実技研修を通して、自主的、主体的な活動の進め方や研修計画の立て方の理解を深め、活動が円滑に実施できるようにする。

イ　期日・対象者及び参加者数

・期日　　平成25年6月25日(火)
・対象　　平成25年7月 1日～10月31日の利用団体
・参加　　26名

ウ　研修内容

・施設紹介と利用の仕方について
・本所プログラム活動の紹介
・海浜活動(磯遊び)

２　利用促進事業

(1)　春のオープンデー

ア　目的

いわき海浜自然の家を家族など地域の人々に広く開放し、クラフト作りやニュースポーツなどを通して当所への理解を深める。

また、地域の中で自然の家の役割を認識し、多くの方々の協力及び参加を得ながら地域づくりやまちづくりに貢献する。

更に、ボランティアスタッフにより、地域とのつながりを深め、生涯学習活動や施設運営の充実を図る。

イ　期日・対象者及び参加者数

・期日　　平成25年5月19日(日)
・対象　　県民
・参加者数　1,853名

ウ　内容

ニュースポーツ(フリーブロー、グランドゴルフなど)柏餅作り、室内ビンゴ、勿来工業フラ愛好会によるフラダンスショー、クラフト(サンドブラスト、下敷きカレンダー)、室内ビンゴ大会、体験スタンプラリー、ペタンク、海浜レストラン、菖蒲湯など。

(2)　心に翼・ふれあい夏キャンプ

ア　目的

自然体験を通して自然や人とふれあう喜びを体得するとともに、協調性・社会性を身につける。

イ　期日・対象者及び参加者数

・期日　　平成25年8月3日(土)～4日(日)
・対象　　小・中学生
・参加者数　77名

ウ　内容

海浜活動(砂の芸術 ボディボード体験)室内ゲーム、野外炊飯、すいか割りなど。

(3)　秋のオープンデー

ア　目的

いわき海浜自然の家を家族など地域の人々に広く開放し、クラフト作りやニュースポーツなどをとおして当所への理解を深める。

また、地域の中で自然の家の役割を認識し、多くの方々の協力及び参加を得ながら地域づくりやまちづくりに貢献する。

更に、ボランティアスタッフにより、地域とのつながりを深め、生涯学習活動や施設運営の充実を図る。

イ　期日・対象者及び参加者数

・期日　　平成25年9月29日(日)
・対象　　県民
・参加者数　1,022名

ウ　内容

ニュースポーツ(ペタンク、ストラックアウトなど)、消防車・救急車展示、室内ビンゴ大会、イモ汁、クラフト（サンドブラスト、ストーンアートなど)、四倉高校ハッピークロバーガールズのフラダンス、平三小の合唱など。

(4)　心に翼・わくわく秋体験

ア　目的

特別支援学校に通う児童･生徒を対象に、自然体験、クラフト活動などを通して自然や人とふれあう喜びを体得する。

イ　期日・対象者及び参加者数

・期日　　平成25年11月10日(日)
・対象　　県内の特別支援学校の児童・生徒とその家族
・参加者数　15名

ウ　内容

石森山散策(雨天のため室内ゲーム)、ペンダント作りなど。

(5)　親子のつどいファミリーウィンターランド

ア　目的

親子での共同作業をとおして家族の絆を深めるととも

に、他の家族との交流の促進を図る。
地域の人材やボランティアへの活動の場を提供し、交流の推進を図る。

イ　期日・対象者及び参加者数
・期日　　平成25年12月14日(土)～15日(日)
・対象　　小・中学生の親子
・参加者数　35名

ウ　内容
親子ゲーム、自然体験クラフト工作(クリスマスリース作り)、交流会、アウトドアクッキング(巻きパン、クリームシチュー)など。

(6)　クラフトを楽しむつどい

ア　目的
県民にクラフト制作を楽しむ体験活動の場を提供し、生涯学習の振興に寄与する。また、県民の本所への理解・利用推進を図る。

イ　期日・対象者及び参加者数
・期日　第1回平成26年1月19日(日)　参加者数 18名
　　第2回平成26年1月24日(金)　参加者数 14名
・対象　　一般成人

ウ　内容
サンドブラストでガラスの小皿に砂を吹き付け、絵や文字などを描いてオリジナルの小皿を作製した。

(7)　健康推進デー

ア　目的
当所のプログラムをとおして県民の健康推進を図るとともに、閑散期の利用促進を図る。

イ　対象者と内容
一般成人を対象に健康体操やペタンクなどのニュースポーツを体験。

ウ　期日
第１回 平成26年1月15日(水)　参加者数　5名
第２回 平成26年1月22日(水)　参加者数　10名
第３回 平成26年1月29日(水)　参加者数　12名
第４回 平成26年2月 6日(木)　参加者数　14名
第５回 平成26年2月13日(木)　参加者数　13名
第６回 平成26年2月18日(火)　参加者数　12名
第７回 平成26年3月13日(木)　参加者数　29名

(8)　クラフトデー

ア　目的
当所のプログラムをとおして自然の家への理解を図るとともに、閑散期の利用促進を図る。

イ　対象者と内容
一般成人を対象に七宝焼きやサンドブラストなどのクラフト制作を体験。

ウ　期日
第１回 平成26年1月16日(木)　参加者数　5名
第２回 平成26年1月23日(木)　参加者数　5名
第３回 平成26年1月30日(木)　参加者数　8名
第４回 平成26年2月 7日(金)　参加者数　5名
第５回 平成26年2月14日(金)　参加者数　4名
第６回 平成26年3月18日(火)　参加者数　8名

(9)　通学キャンプ

ア　目的
集団生活や体験活動をとおして、児童の自律的な生活態度やよりよい人間関係の形成を図る。

イ　期日・対象者及び参加者数
・期日　平成25年12月18日(水)～19日(木)
・対象　いわき市立大野第二小学校4～5年生
・参加者数　21名

ウ　内容
星座の学習や集団宿泊の体験。

(10)　森の音楽会

ア　目的
いわき市出身の若手音楽家の演奏を身近で鑑賞することにより、音楽に対する関心を高めるとともに県民の本所への理解・利用促進を図る。

イ　期日・対象者及び参加者数
・期日　平成26年3月8日(土)
・対象　県内の成人、家族
・参加者数　158名

ウ　内容
ディナーバイキング料理とトランペットやピアノによる演奏を楽しんだ。

(11)　星空のつどい

ア　目的
参加者同士の交流を図りながら春の星座について学び自然の美しさに感動する心を養う。

イ　期日・対象者及び参加者数
・期日　平成26年3月28日(金)～29日(土)
・対象　小・中学生
・参加者数　43名

ウ　内容
星座観察や星のペンダント作り、星の室内ビンゴなどを行い参加者同士の交流を図った。

3　その他の企画事業

(1)　公民館等連携講座

ア　目的
いわき市立公民館等と連携して所バスを活用した史跡見学・文化財めぐり、ニュースポーツ、クラフト体験など、社会教育団体等の利用促進を図った。

イ　公民館等・期日・対象・参加者数
(いわき市立大浦公民館)
・期日　平成25年5月10日(金)～
　　平成26年1月 8日(水)〈全10回〉
・対象　一般成人　参加者数　128名

ウ　内容
いわき市内北部の前方後円墳と周辺の史跡見学や市

内施設見学、クラフト制作など。

（いわき市立赤井公民館）

・期日　平成25年6月7日（金）～
　　平成26年2月8日（土）〈全５回〉

・対象　一般成人　参加者数　91名

・内容　いわき市内北部の前方後円墳と周辺の史跡見学や市内施設見学、健康体操、ペタンクなど。

（いわき市立豊間公民館）

・期日　平成25年 7月 6日（土）～
　　平成25年11月28日（木）〈全２回〉

・対象　一般成人　参加者数　50名

・内容　ニュースポーツ体験、史跡めぐり等。

（いわき市立四倉公民館）

・期日　平成25年7月24日（水）～
　　平成26年1月18日（土）〈全２回〉

・対象　一般成人　参加者数　47名

・内容　史跡めぐり、室内ゲーム等。

（いわき市立神谷公民館）

・期日　平成25年7月31日（水）～
　　平成25年8月28日（水）〈全２回〉

・対象　一般成人　参加者数　64名

・内容　ニュースポーツとペンダント作りの体験。

（いわき市立飯野公民館）

・期日　平成25年10月3日（木）

・対象　一般成人　参加者数　29名

・内容　史跡めぐり。

（いわき市立夏井公民館）

・期日　平成25年10月9日（水）～
　　平成26年3月19日（水）〈全３回〉

・対象　一般成人　参加者数　48名

・内容　史跡めぐりやニュースポーツの体験等。

（四倉・久之浜方部ＰＴＡ教育講演会）

・期日　平成25年10月20日（日）

・対象　一般市民　参加者数　98名

・内容　家庭・学校・地域による子どもとのコミュニケーションの関わり方について学んだ。

（いわき市立常磐公民館）

・期日　平成25年10月24日（木）

・対象　一般成人　参加者数　34名

・内容　史跡めぐり。

（いわき市立磐崎公民館）

・期日　平成25年12月8日（日）

・対象　小学生　参加者数　23名

・内容　クラフト、ニュースポーツ等の体験。

（いわき市立大野公民館）

・期日　平成26年2月21日（金）

・対象　一般成人　参加者数　17名

・内容　史跡めぐり。

(2)　出前講座

ア　目的

自然の家の活動内容の紹介と社会教育団体等への利用促進を図るために、また、生涯学習教育の一環として出前講座を行った。

イ　団体・期日・対象・参加者数

（東北電力(株)）

・期日　平成25年5月29日（水）

・対象　一般成人　参加者数　50名

・内容　いきいき健康体操。

（いわき市立小川公民館小川寿大学）

・期日　平成25年9月26日（木）

・対象　一般成人　参加者数　25名

・内容　草木染め。

（ふくしま海洋科学館アクアマリンキッズプログラム）

・期日　平成25年9月14日（土）

・対象　小学校1～2年生　参加者数　11名

・内容　アクアマリンふくしまの蛇の目ビーチで、いかだを作り、乗船体験をした。

（いわき市立豊間公民館　第４回豊間高齢者学級）

・期日　平成25年11月20日（水）

・対象　一般成人　参加者数　19名

・内容　健康体操、ニュースポーツの体験。

（いわき市立豊間公民館　第３回薄磯高齢者学級）

・期日　平成25年12月18日（水）

・対象　一般成人　参加者数　15名

・内容　健康体操、ニュースポーツの体験。

（いわき市立高野小学校）

・期日　平成25年11月27日（水）

・対象　小学6年生　参加者数　16名

・内容　草木染めの体験。

4　協力事業

(1)　福島の冬！　ウィンターフェスティバル　（主催：会津自然の家）

ア　目的

福島の冬の風情や伝統文化のすばらしさを発見させるとともに参加者相互の交流を図った。

イ　期日・対象・参加者数

・期日　平成26年1月25日（土）～26日（日）

・対象　小・中学生とその保護者

・参加者数　50名（当所からの参加者）

第１８章　福島県文化財センター白河館

第１節　白河館の運営状況

１　利用者数

特別展「震災復興・国立科学博物館コラボミュージアムinまほろん」の開催など、平成25年度は前年度比2%増の入館者数となった。平成26年2月には開館以来の入場者数40万人を達成し、記念セレモニーを行った。

（平成26年3月31日現在）

	入館者数（人）	ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ・ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽｱｸｾｽ件数（件
4 月	1,883	22,918
5 月	3,714	23,188
6 月	3,024	22,646
7 月	2,807	31,925
8 月	2,551	106,002
9 月	2,130	55,477
10 月	2,137	39,687
11 月	2,159	31,949
12 月	2,545	48,779
1 月	1,955	56,974
2 月	957	77,034
3 月	1,265	114,763
計	27,127	631,342

２　入館者の内訳と傾向

１日平均来館者数　４月：　75人　　５月：138人
６月：116人　　７月：100人
８月：　85人　　９月：　85人
１０月：　79人　　１１月：　83人
１２月：111人　　１月：　81人
２月：　42人　　３月：　49人

地域別利用状況　県内者 87%（うち白河市 36%）
県外者 13%

年齢層別利用状況　入館者全体のうち、児童生徒（高校生以下）が41%、団体入館者が33%を占める。

３　団体利用者の内訳と傾向

（単位 人）（平成26年3月31日現在）

		４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
幼稚園・保育園	団体数		1	1	2		1	2				1		8
	入館者数		28	68	53		62	84				16		311
小 学 校	団体数	11	19	22	11		9	11	3	1	9	4		100
	入館者数	502	981	1,120	647		587	741	135	24	257	145		5,139
中 学 校	団体数	1				1	1	1						4
	入館者数	9				66	10	17						102
高 等 学 校	団体数		1		1				3					5
	入館者数		32		16				83					131
養 護 学 校	団体数													0
	入館者数													0
大 学	団体数			1	1	1			1	1			1	6
	入館者数			20	6	33			25	18			11	113
幼小中高PTA	団体数													
（保護者のみ）	入館者数													
幼小中高PTA	団体数			6	2	1	1	2		1				13
（保護者と児童生徒）	入館者数			267	85	22	64	92		74				604
研 究 会	団体数													0
	入館者数													0
子 ど も 会	団体数				4	2							1	7
	入館者数				149	43							10	202

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
公民館等	団体数		2	1	1	6	3	4	2					19
	入館者数		64	33	37	145	61	46	47					433
福祉施設・	団体数		7	5	3	2	9	4	2		2	1	2	37
デイケアサービス	入館者数		126	72	32	35	134	73	39		24	10	19	564
資料館等	団体数	1				1								2
	入館者数	5				44								49
歴史研究団体	団体数			2	2		1	1	2	3		1		12
	入館者数			68	52		46	21	38	82		10		317
県・市町村・	団体数				1				2				1	4
教委・審議会等	入館者数				55				91				6	152
その他	団体数	1	8	6	2	1	3	5	9		2	3	1	41
	入館者数	18	259	96	35	23	69	90	172		28	62	27	879
計	団体数	14	38	44	30	15	28	30	24	6	13	10	6	258
	入館者数	534	1,490	1,744	1,167	411	1,033	1,164	630	198	309	243	73	8,996
総入館者に占める団体入館者の割合%		28	40	57	41	16	48	54	29	7	15	25	5	33

4　情報発信事業の利用者

文化財データベースアクセス件数631,342件

（平成26年3月31日現在）

（文化財データベース公開件数365,224件、文化財情報提供システム406件をインターネット上で公開し、白河館のイベント情報等もホームページで紹介している。）

5　資料管理業務

県教育委員会による調査の出土品約48,801箱を、教育・普及・研究への活用が可能な環境に整備して収蔵管理。

写真掲載・転載の申し込み31件、出土品借受の申し込み9件。収蔵庫保管品の館内閲覧16件。

6　研修事業の状況

埋蔵文化財や無形の文化財の調査・保護を担当する自治体・団体職員、学校教育・生涯学習に携わる教職員などを対象とした研修を実施する。

区分	研修対象者	研修内容
基礎研修	教職員・市町村職員等	主に発掘調査技術の向上と整理技術の向上などをめざす。
専門研修	教職員・市町村職員等	考古資料を基に、深く細やかな指導を行うための知識や技術の習得と、総合的な歴史価値判断能力の習得などをめざす。
特別研修	教職員・市町村職員等	上記以外の研修（教職員を主な対象とする発掘調査研修、市町村職員等の要望に応じて随時実施する研修、無形の文化財に関する研修など）

(1) 平成25年度研修実施状況

（平成26年3月31日現在）

参加者：合計 424名

・基礎研修

「考古学基礎講座Ⅰ」	5月25日	参加者 14名
「文献資料と地方史研究」	6月22日	参加者 29名
「教職員発掘調査体験研修」	8月6日～8日	参加者 36名
「考古学基礎講座Ⅱ」	11月23日	参加者 14名
「無形の文化財研修」	2月 1日	参加者 9名

・専門研修

「文化財保護指導者研修会」	9月4日～5日	参加者165名
「考古学と関連科学」	10月26日	参加者 10名
「専門考古学講座Ⅲ」	12月14日	参加者 24名
「史跡整備研修」	2月22日	参加者 12名

＜特別研修＞

「博物館学学外実習」	9月25日～29日	参加者 26名
「国見町ふるさと歴史教室」	12月22日	参加者 53名
「発掘調査から見た平田村」	1月23日	参加者 32名

7　体験学習事業の状況

過去の生活の一部を体験しながら学べるよう、復元品等を用いた体験学習の普及活動を、館内・館外で行う。

活動を行うための施設として、屋内に体験活動室、別棟として体験学習館を設けている。また、野外展示施設では、体験広場を囲むように、縄文時代竪穴住居、前方後円墳、奈良時代竪穴住居、奈良時代高床式倉庫、平安時代製鉄炉、中世館を復元展示している。

(1) 常時体験型体験学習

事前に予約を必要としない個人来館者を対象に実施するメニューと、事前予約制で、団体で体験学習を希望する場合を対象とするものを用意している。内容は、火おこし、勾玉づくり、土器づくりなどである。

常時体験型体験活動状況　　(平成26年3月31日現在)

	来館者数(人)	体験者数(人)	割合(%)
4 月	1,883	1,418	75
5 月	3,714	5,481	147
6 月	3,024	2,929	96
7 月	2,807	2,769	98
8 月	2,551	2,685	105
9 月	2,130	1,458	68
10 月	2,137	1,343	62
11 月	2,159	1,602	74
12 月	2,545	1,085	42
1 月	1,955	763	39
2 月	957	394	41
3 月	1,265	390	30
計	27,127	22,317	

※　体験者数は1人で複数メニューを体験した場合も合算した延べ人数である。

(2) 募集型体験学習

事前に参加者を募集して土器づくり・布づくりなどの単発プログラムを行う「実技講座」、事前に参加者を募集し、関連性・継続性のあるメニューを年間6回実施する「まほろん森の塾」などのプログラム。

・まほろん森の塾

第1回「結団式・大昔の土器づくり」　5月19日　参加者　7名
第2回「那須の古墳を調べてみよう・土器の野焼き」　6月22日　参加者　8名
第3回「那須の古墳を探検しよう」7月13日　参加者　5名
第4回「那須の古墳探検発表会」　9月21日　参加者　4名
第5回「古代の料理をつくろう」10月19日　参加者　6名
第5回「古代の装身具をつくろう・解団式」　12月14日　参加者　5名

・実技講座

「土器づくり初級編Ⅰ①製作」　5月11日　参加者　12名
「家族でお茶碗をつくろう①形づくり」　6月　8日　参加者　15名
「土器づくり初級編Ⅰ②野焼き」　6月22日　参加者　12名
「カラムシから布をつくろう①刈り取り」　6月29日　参加者　10名
「家族でお茶碗をつくろう②絵付け」　7月13日　参加者　17名
「カラムシから布をつくろう②糸づくり」　7月20日　参加者　9名
「古代の染色にちょうせん」　8月　3日　参加者　22名
「カラムシから布をつくろう③布づくり」　8月31日　参加者　7名
「鹿の角で装飾品をつくろう」　9月21日　参加者　13名
「むかしの料理をつくろう」　10月　5日　参加者　7名
「古代の竹笛をつくろう」　10月19日　参加者　5名
「縄文土器づくり初級編Ⅱ①製作」11月　9日　参加者　10名
「ひょうたんから容器をつくろう」11月23日　参加者　12名
「古代の印章をつくろう」　12月　7日　参加者　11名
「縄文土器づくり初級編Ⅱ②野焼き」　12月14日　参加者　3名
「家族で門松をつくろう」　12月21日　参加者　35名
「古銭をつくろう」　1月25日　参加者　13名
「縄文土器づくり上級編①形づくり」　2月　1日　参加者　11名
「縄文土器づくり上級編②文様づけ」　2月　2日　参加者　10名
「ガラスと組紐でアクセサリーをつくろう」　2月22日　参加者　8名
「縄文土器づくり上級編③野焼き」3月8日豪雪のため中止

(3) まほろんイベント

「GWまほろんまつり」　5月3日～6日　参加者1,339名
「まほろん夏まつり」　7月28日　参加者　346名
「まほろんを描こう」　9月14日～16日　参加者　33名
「まほろん秋まつり」　11月　4日　参加者　483名
「まほろんもちつき大会」　12月　1日　参加者　946名
「第10回双六大会」　1月11日　参加者　23名
「まほろん冬まつり」　2月16日　参加者　24名
「第8回毬杖大会」　3月15日　参加者　12名

(4) 「おでかけまほろん」

文化財センター白河館の職員が、土器や体験学習器材を携えて、学校や公民館などの教育機関を訪問し、体験学習の支援をしたり、先生方と連携して授業を進めるプログラム。平成25年度は47校で実施。参加者数は延べ1,647名。

(平成25年度実績(実施日順)：郡山市穂純小学校、福島市東湯野小学校、郡山市ザベリオ小学校、伊達市小手小学校、会津若松市永和小学校、福島市飯坂小学校、須賀川市稲田小学校、浅川町山白石小学校、本宮市岩根小学校、田村市関本小学校、伊達市大枝小学校、郡山市緑ヶ丘第一小学校、いわき市好間第四小学校、須賀川市須賀川養護学校、田村市古道小学校、田村市岩井沢小学校、郡山市芳賀小学校、いわき市四倉小学校、福島市蓬莱東小学校、いわき市上遠野小学校、いわき市田人第一小学校、いわき市貝泊小学校、二本松市旭小学校、福島市福島県立聾学校福島分校、二本松市石井小学校、須賀川市阿武隈小学校、伊達市小国小学校、本宮市本宮小学校、石川町母畑小学校、福島市蓬莱小学校、伊達市堰本小学校、田村市美山小学校、田村市船引小学校、伊達市上保原小学校、福島市茂庭小学校、三春町中妻小学校、福島市南向台小学校、田村市緑小学校、いわき市差塩小学校、郡山市喜久田小学校、会津若松市会津養護学校竹田分校、

喜多方市駒形小学校、福島市水原小学校、川俣町川俣南小学校、伊達市伊達東小学校、鏡石町鏡石第二小学校、石川町石川養護学校)

(5) まほろん出前講座

公民館等生涯学習施設を対象として、弓矢体験、勾玉づくりなどの体験学習を実施するプログラム。平成25年度は9か所で実施し、243名が参加した。

(平成25年度実績(実施日順):田村市都路公民館、須賀川市西袋公民館、会津若松市河東公民館、只見町教育委員会、大玉村あだたらふるさとホール、喜多方市中央公民館、会津若松市一箕公民館、会津若松市大戸公民館、塙町公民館)

(6) まるごとまほろん

文化財センター白河館に所蔵する発掘資料を、発掘調査をした付近の施設で展示するとともに、火おこし、弓矢などの体験学習も実施するプログラム。平成25年度は4か所で実施し、1,038名が参加した。

(平成25年度実績:白河市表郷総合運動公園、国立那須甲子青少年自然の家、大玉村あだたらふるさとホール、国立磐梯青少年交流の家)

(7) 講座・講演会

館長の講演会、白河館の学芸員などが講師となる「まほろん文化財講座」を開催した。

・館長講演会　シリーズ『北日本の縄文文化について』

第1回「縄文時代とはどんな時代?」	5月19日	聴講者	43名
第2回「縄文文化と社会(1)」	7月20日	聴講者	41名
第3回「縄文文化と社会(2)」	9月21日	聴講者	33名
第4回「縄文時代と弥生時代」	11月16日	聴講者	26名
第5回「JOMONには世界遺産の価値があるか?」	1月18日	聴講者	38名

・文化財講演会

「被災文化財復興事業の取り組み」	4月27日	聴講者	21名
「小峰城の歴史と震災復興」	6月 8日	聴講者	33名
「中田横穴墓と古墳時代の馬具」	8月24日	聴講者	33名
「白河地方の考古学研究」	9月14日	聴講者	25名
「中世陶器の窯について」	10月19日	聴講者	9名
「三春町の文化財」	11月 9日	聴講者	11名
「白河関と東山道」	12月21日	聴講者	70名
「白河だるまについて」	1月25日	聴講者	14名

・文化財に関するビデオ上映会

「無形民俗文化財保存伝承記録」	2月 8日	観覧者	5名

8　常設展事業

常設展示室では、収蔵遺物や復元品を、「見て、触れて、考え、学ぶ」というプロセスを通じて理解しやすい形で展示している。

常設展示では、次の各展示コーナーにより構成される。「話題の遺跡」、「みんなの研究ひろば」、「しらかわ歴史名場面」「ふくしまの宝物」については年間数回程度の展示替えを行っている。

○　めぐみの森(導入部)
○　暮らしのうつりかわり
○　暮らしをささえた道具たち
○　遺跡を掘る
○　話題の遺跡(最新の話題になった遺跡の発掘調査成果等を紹介する)
○　みんなの研究ひろば(体験学習などを通して得られた成果や、児童、生徒、一般研究家の研究成果等の発表の場として活用する)
○　ふくしまの文化財
○　のぞいてみよう福島の遺産
○　しらかわ歴史名場面(白河地方の文化財を集め、白河地方の歴史の一こまを展示する)
○　クイズふくしま歴史発見

9　企画展事業

特別展示室では、指定文化財展・収蔵資料展などの企画展を開催している。

(1) 企画展

・特別企画展
文化財復興展「救出された双葉郡内の文化財Ⅰ」
3月7日～6月9日　観覧者6,276名
(平成25年度観覧者)

・指定文化財展
「ふくしまの重要文化財XI　古墳時代の馬具
－いわき市中田横穴墓出土の馬具－」
7月20日～9月23日　観覧車5,471名

・収蔵資料展
「ダムに沈んだ遺跡たちⅠ－三春ダム内の遺跡－」
10月12日～12月23日　観覧者4,558名

・特別企画展
文化財復興展「救出された双葉郡内の文化財Ⅱ」
1月18日～3月23日　観覧者2,965名

(2) 移動展

・指定文化財展
「ふくしまの重要文化財XI　古墳時代の馬具
－いわき市中田横穴墓出土の馬具－」
いわき市考古資料館
10月19日～12月23日　観覧車1,854名

(3) 特別展

震災復興・国立科学博物館コラボミュージアムinまほろん
プロムナードギャラリーにて実施。
10月19日～12月23日　観覧車4,054名

10　ボランティア運営事業

(1) 「まほろんボランティア」の活動状況

・施設・展示の案内

・体験学習用機材の整備など
・ボランティア連絡会(2回開催)

(2) 登録数

個人ボランティア　　43名

第１９章　文化スポーツ局

※　平成19年度まで教育庁が所管していた事業等を掲載。

第１節　組織

文化やスポーツは、人々の暮らしに潤いや生きがいをもたらし、豊かな感性や創造性を持った人づくり、魅力ある地域づくりの原動力になることから、文化・スポーツの教育的側面に配慮しつつ、本県の個性豊かな文化を再認識し、守り、伝え、はぐくみ、生かしていくため、平成20年度から知事部局（企画調整部文化スポーツ局）において所管し、全庁を挙げて総合的に展開することとした。

○　文化スポーツ局　　局　　長　　鈴木　千賀子
　　次　　長　　橋本　幸洋

	職　名	課長等名
文化振興課	部参事兼課長	佐藤　弘美
	総括主幹兼副課長	関根　喜重次
	主幹	鈴木　秀明
生涯学習課	部参事兼課長	熊川　恵子
	副課長兼主任主査	木下　貴道
スポーツ課	課長	廣瀬　敬彦
	主幹兼副課長	細貝　和正
	主幹兼副課長	遠藤　　均

第２節　附属機関

１　福島県文化振興審議会

根拠法令　福島県文化振興条例（平成16年福島県条例第45号）

目的　　福島県文化振興条例の規定に定められた事項を審議するとともに、知事の諮問に応じ、文化振興に関する事項を調査審議する。

(1)　福島県文化振興審議会委員

任期：平成24年11月7日～平成26年11月6日

氏　名	役　職　名	備　考
岩　崎　真　幸	みちのく民俗文化研究所代表	
小　畑　瓊　子	朝日座を楽しむ会事務局長	（公　募）
冠　木　伸一郎	市役所通りを良くする会会長、喜多方市下町南部商工振興会会長	
佐々木　吉　晴	いわき市立美術館長	
鴫　原　明　寿	福島県芸術文化団体連合会副会長	（副会長）
新　城　希　子	元福島県人事委員会委員長	
鄭　　玄　実	ＮＰＯ法人ふくかんねっと理事長	
平　田　公　子	福島大学人間発達文化学類教授	
深　谷　笑　子	郡山女子大学家政学部准教授	
星　野　珙　二	福島大学共生システム理工学類教授	（会　長）

※　役職名は就任時のもの

２　福島県生涯学習審議会

根拠法令　生涯学習の振興のための施策の推進体制の整備に関する法律（平成2年6月29日法律第71号）第10条及び福島県生涯学習審議会条例（平成3年10月5日条例第65号）

目的　　生涯学習の振興に資するための施策の総合的な推進に関する重要事項を調査・審議する。

(1) 福島県生涯学習審議会委員（第11期）　　任期：平成24年7月31日~平成26年7月31日（五十音順）

氏　名	役　職　名	備　考
安部　かよ子	白河ユネスコ協会副会長	
猪狩　レイ子	富岡町婦人会長	
小沢　喜仁	福島大学副学長	会長
久保　美由紀	会津大学短期大学部准教授	
齊藤　邦昭	（公社）日本青年会議所福島ブロック協議会会長	
佐藤　正弘		（公募）
下山　功枝	NHK文化センター福島支店長	
首藤　亜希子	特定非営利活動法人育児サポートココネット・マム代表理事	
園部　一弘	福島県公民館連絡協議会会長	
中島　健至	日本銀行福島支店長	
中村　瑛子	福島県レクリエーション協会副会長	
中山　恵理	郡山市立美術館主任学芸員	
蛭田　正人		（公募）
古川　雅之	福島県社会福祉協議会副会長	副会長
三屋　惠一郎	（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構福島職業訓練支援ｾﾝﾀｰ訓練課長	

3　福島県スポーツ推進審議会

根拠法令　平成23年8月24日に施行したスポーツ基本法により、福島県条例を全面改正した。平成23年11月1日以降、名称も「福島県スポーツ推進審議会」となった。

○スポーツ基本法(平成23年法律第78号）第31条及び福島県スポーツ推進審議会条例（平成23年福島県条例第87号）

目的　地方スポーツ推進その他のスポーツの推進に関する重要事項を調査審議する。

（１）平成２５年度第１回福島県スポーツ推進審議会

ア　日時：平成２５年７月３１日（水）

１４：００　～　１６：００

イ　場所：県庁西庁舎１２階講堂

ウ　報告（ア）福島県スポーツ推進計画と実施事業について

エ　審議（ア）「福島県スポーツ振興基本計画」の進行管理について

（イ）意見交換

・子どもの体力向上方策について

(1) 平成２４年度福島県スポーツ推進審議会委員　　任期 平成24年9月1日～平成26年8月31日

領　域	氏　名	役　職　名	備　考
学識経験者	中澤　謙	公立大学法人会津大学文化研究センター上級准教授	
	黒須　充	国立大学法人福島大学人間発達文化学類教授	
体育団体代表	片平　俊夫	公益財団法人福島県体育協会副会長	
	菊池　辰夫	公益財団法人福島県体育協会スポーツ医・科学委員長	
	齋藤　俊蔵	財団法人福島県障がい者スポーツ協会理事	
	斉藤　富美子	ＮＰＯ法人福島県レクリエーション協会理事	
	髙橋　光子	福島県スポーツ推進委員連絡協議会副会長	
	班目　秀雄	元ＪＯＣナショナルコーチ（自転車）	
	本間　稔	福島県高等学校体育連盟会長	県立福島高等学校長
	佐々木　祐司	福島県中学校体育連盟会長	郡山市立郡山第四中学校長
	齋藤　道子	ＮＰＯ法人うつくしまスポーツルーターズ理事	

	山　崎　有理子	公立藤田総合病院栄養管理室長	
市町村・公益団体	遠　藤　栄　作	福島県町村会副会長	
	原　瀬　久美子	福島県都市教育長協議会会員	
	浜　崎　幸　子	会津若松商工会議所女性会副会長	
公募	戸　田　文　士	川俣町体育協会長	
	二　瓶　恭　子	NPO法人スポーツクラブ「バンビィ」専務理事	

（2）平成２５年度第２回福島県スポーツ推進審議会

ア　時間：平成２６年２月１３日（木）
１３：３０　～　１５：３０

イ　場所：本庁舎　正庁

ウ　報告（ア）平成２５年度スポーツ課事業報告について
（イ）平成２５年度公益財団法人福島県体育協会事業報告について
（ウ）福島県スポーツ推進基本計画（概要版）パンフレットについて

エ　審議（ア）県民の運動・スポーツに関する実態調査（案）について
（イ）福島県スポーツ推進基本計画の推進施策１，２について

平成２５年度福島県スポーツ推進審議会委員名簿　　任期：平成24年9月1日～平成26年8月31日

区分	No.	氏　名	所属団体・役職等
学識経験者	1	中澤　謙	会津大学文化研究センター上級准教授
	2	黒須　充	福島大学人間発達文化学類教授
体育団体	3	片平　俊夫	公益財団法人福島県体育協会副会長
	4	菊池　辰夫	公益財団法人福島県体育協会医・科学委員長
	5	齋藤　俊蔵	財団法人福島県障がい者スポーツ協会理事
	6	斉藤　富美子	福島県レクリエーション協会理事
	7	髙橋　光子	福島県スポーツ推進委員協議会副会長
	8	班目　秀雄	元ＪＯＣナショナルコーチ
	9	本間　稔	福島県高等学校体育連盟会長
	10	佐々木　祐司	福島県中学校体育連盟会長

	11	齋藤　道子	ＮＰＯ法人うつくしまスポーツルーターズ理事
健康・栄養	12	山﨑　有理子	公立藤田総合病院栄養管理室長
市町村・公益団体	13	遠藤　栄作	福島県町村会副会長
	14	原瀬　久美子	福島県都市教育長協議会副会長
	15	浜崎　幸子	会津若松商工会議所女性会副会長
公募	16	戸田　文士	川俣町体育協会長
	17	二瓶　恭子	ＮＰＯ法人スポーツクラブ「バンビィ」専務理事

第３節　表彰

１　文化功労賞受賞者

教育部門（社会教育）　内池　和子
芸術部門（美　　術）　村上　皓南

（五十音順）

２　第66回福島県文学賞受賞者　（　）本名

(1)　小説・ドラマ部門(4名)

準　　賞　「風の坂道」　丹野　　彬（丹野　幸男）
準　　賞　「ざんぎり頭に花簪を」　服部　美南子
奨　励　賞　「朝　君が家を出る時」　小荒井　新　佐
青少年奨励賞　「真夜中のホーム」　吉　田　桃　子

(2)エッセー・ノンフィクション部門(4名)

文　学　賞　「吾等は善き日本人たらん　－井筒　平・伝」　町　田　久　次
奨　励　賞　「クール流鏑馬世界へ駆ける」　野　崎　喜　彦
奨　励　賞　「だから私は帰りたい」　早　川　みどり
青少年奨励賞　「描いた夢を」　岡　田　愛莉花

(3)　詩　部　門(5名)

準　　賞　「黄の荒涼」　わたなべ　えいこ（戸部　エイ子）
準　　賞　「迎え火」　室　井　大　和
奨　励　賞　「悲しみの向こうに－故郷・双葉町を奪われて」　二階堂　晃　子
奨　励　賞　「鯨になる日」　大河内　真　人
青少年奨励賞　「想起」　野　木　碧　音

(4)　短　歌　部　門(4名)

文　学　賞　「紫陽花」　鈴　木　紀　男
準　　賞　「五月、六月」　小　林　真　代
奨　励　賞　「ハートのしるし」　片　野　邦　子
奨　励　賞　「ダイアリー」　澤　邊　裕栄子

(5)　俳　句　部　門(4名)

文　学　賞　「花明り」　益　永　孝　元
準　　賞　「十三夜」　久　保　羯　鼓（久保　和子）
奨　励　賞　「供華」　中　田　　昇
青少年奨励賞　「夏の思い出」　奥　山　雄　冴

３　文化・スポーツ知事感謝状受賞者

文化部門　阿部　輝郎
文化部門　高橋　正彦
文化部門　福島県美術家連盟
スポーツ部門　佐藤　　敦
スポーツ部門　関口　　學
スポーツ部門　橘　　政弘

（部門別／五十音順）

4　体育・スポーツ関係

(1)　叙勲

氏　名	役　職　名
石井　賢明 （田村市）	福島県ゲートボール協会会長

(2)　文部科学大臣表彰

ア　生涯スポーツ功労者表彰

氏　名	役　職　名
永井　祥一 （いわき市）	福島県バドミントン協会副会長
渡辺　末雄 （郡山市）	福島県グラウンド・ゴルフ協会顧問
佐藤　靖弘 （鏡石町）	鏡石体育協会会長

イ　優良団体

団　体　名	代　表　者
会津なぎなたスポーツ少年団	五十嵐　義 （会津若松市）
本宮スキークラブ	後藤　邦男 （本宮市）
勿来卓球クラブ	三瓶　清次 （いわき市）

ウ　スポーツ推進委員功労者

氏　名	役　職　名
松崎　和美 （郡山市）	福島県スポーツ推進委員協議会副会長
古川　昭雄 （会津若松市）	会津若松市スポーツ推進委員

(3)　スポーツ推進委員表彰

ア　全国スポーツ推進委員連合功労者表彰

No.	支部名	市町村名	氏　名
1	安達	二本松市	半澤　美樹夫
2	郡山	郡山市	落合　薫
3	石川	浅川町	岡田　長次
4	両沼	会津坂下町	樋口　栄一
5	いわき	いわき市	会川　新平

イ　全国スポーツ推進委員連合優良団体表彰

No.	支部名	市町村名	氏　名
	なし		

ウ　全国スポーツ推進委員連合３０年勤続表彰

No.	支部名	市町村名	氏　名
1	福島	福島市	髙橋　光子
2	福島	福島市	佐藤　昶
3	安達	二本松市	渡辺　茂
4	安達	大玉村	角田　正昭
5	郡山	郡山市	落合　薫
6	郡山	郡山市	松崎　和美
7	西白河	白河市	堀田　賢治
8	東白川	塙町	鈴木　太一
9	いわき	いわき市	菅野　佳誉

エ　東北地区スポーツ推進委員協議会功労者表彰

No.	支部名	市町村名	氏　名
1	福島	福島市	沼沢　行晴
2	福島	川俣町	佐藤　研策
3	郡山	郡山市	浜津　たか子
4	郡山	郡山市	佐藤　勝男
5	田村	田村市	石井　忠重
6	西白河	白河市	佐久間　正己
7	西白河	白河市	入谷　みちこ
8	東白川	矢祭町	佐川　昭夫
9	北会津	猪苗代町	阿部　昌弘
10	両沼	三島町	菅家　豊子
11	南会津	南会津町	木下　武司
12	南会津	下郷町	玉川　森男
13	相馬	相馬市	亀岩　正寛
14	相馬	相馬市	熊　正子
15	いわき	いわき市	箱崎　しげ子
16	いわき	いわき市	鈴木　良成

オ　福島県スポーツ推進委員協議会功労者表彰

No.	支部名	市町村名	氏　名
1	福島	川俣町	三浦　正一郎
2	福島	川俣町	高橋　房代
3	福島	川俣町	三宅　逸朗
4	伊達	伊達市	佐藤　初男
5	伊達	伊達市	山田　努
6	安達	二本松市	武藤　悦夫
7	安達	本宮市	桜井　弘和
8	安達	本宮市	星　次男
9	安達	本宮市	遠藤　純子
10	安達	本宮市	武田　幸子
11	郡山	郡山市	馬場　正子
12	郡山	郡山市	橋本　京子
13	郡山	郡山市	相樂　浩
14	郡山	郡山市	安田　友一
15	郡山	郡山市	人見　秀行
16	郡山	郡山市	渡辺　征子
17	郡山	郡山市	野村　和子
18	田村	田村市	佐久間　一広
19	田村	田村市	根本　泰幸
20	田村	田村市	石塚　久美子
21	田村	田村市	遠藤　祥一
22	西白河	泉崎村	稲本　初子
23	西白河	泉崎村	小林　薫
24	西白河	泉崎村	兵藤　登喜也
25	西白河	泉崎村	田﨑　貴紀
26	西白河	泉崎村	本柳　光一
27	西白河	泉崎村	関谷　正文
28	東白川	棚倉町	須藤　寛
29	東白川	棚倉町	益子　清志
30	東白川	棚倉町	髙橋　三樹
31	東白川	棚倉町	阿久津　光市
32	耶麻	喜多方市	猪俣　浩幸
33	耶麻	喜多方市	大竹　浩子
34	耶麻	喜多方市	加藤　誠
35	耶麻	北塩原村	佐藤　智之
36	両沼	会津美里町	星　由美
37	両沼	会津美里町	高橋　由美子

No.	支部名	市町村名	氏　　名
38	相馬	相馬市	佐藤　忠人
39	相馬	新地町	菅野　孝雄
40	相馬	南相馬市	荒　義裕
41	相馬	南相馬市	山田　真弓
42	いわき	いわき市	佐藤　菊江
43	いわき	いわき市	渋谷　政義
44	いわき	いわき市	小貫　由美子
45	いわき	いわき市	平子　順子
46	いわき	いわき市	曽我　正郎
47	いわき	いわき市	三戸　まゆみ
48	いわき	いわき市	髙木　勝弥
49	いわき	いわき市	遠藤　邦男
50	いわき	いわき市	本多　俊一

カ　福島県スポーツ推進委員協議会感謝状贈呈者

No.	支部名	市町村名	氏　　名
1	福島	川俣町	安田　仙松
2	安達	大玉村	斎藤　徹

(4) 公益財団法人福島県体育協会表彰

ア 優秀選手賞（個人）

競技名	氏名	所属
陸上	青木 沙弥佳	東邦銀行
〃	渡辺 真弓	東邦銀行
〃	千葉 麻美	東邦銀行
〃	吉田 文代	郡山女子大学附属高校
〃	武石 この実	福島大学4年
〃	吉田 惇	平工業高校3年
〃	荒 裕子	相馬東高校3年
〃	波田野 瑠花	磐崎中学校3年
〃	須藤 悠太	鮫川中学校2年
ソフトテニス	檜山 遥斗	西郷第一中学校1年
〃	原野 亜衣	住友ゴム工業(株)白河工場
サッカー	橋沼 真帆	富岡高校1年
〃	中條 結衣	富岡高校1年
〃	立花 葉	富岡高校1年
〃	北川 ひかる	富岡高校1年
卓球	根本 理世	十六銀行
ボート	吉川 由姫	東北大学3年
水泳	小松 桃子	湯本高校3年
〃	安部 翔一郎	湯本高校1年
〃	服部 翼	福島成蹊高校1年
〃	加藤 樹	福島成蹊高校1年
〃	寺田 拓未	湯本高校1年
〃	但野 智哉	駒ヶ嶺小学校6年
〃	吉田 佳世	日本体育大学4年
〃	小林 和真	筑波大学4年
〃	吉田 真実	安積第二中学校3年
自転車	大木 拓斗	学法石川高校3年
〃	西尾 滉平	平工業高校3年
〃	吉田 優樹	日本大学1年
〃	金内 一行	中央大学2年
〃	緑川 裕也	日本大学1年
〃	緑川 竣一	中央大学3年
バドミントン	大堀 麻紀	
〃	矢部 芳光	片柳ディサービス
〃	五十嵐 弘之	弘陽社
〃	高松 悦子	
〃	増子 トキ	
〃	半田 賢二	(株)日立製作所情報・通信システム社
〃	塚野 美和子	
〃	保木 卓朗	富岡高校3年

競技名	氏名	所属
バドミントン	小林 優吾	富岡高校3年
〃	古賀 穂	富岡高校2年
〃	三橋 健也	富岡高校1年
〃	渡辺 勇大	富岡高校1年
〃	西 豊	富岡高校2年
〃	大堀 彩	富岡高校2年
〃	東野 有紗	富岡高校2年
〃	高橋 明日香	猪苗代中学校2年
ボクシング	齋藤 晶	拓殖大学4年
弓道	渡會 和樹	東日本国際大学4年
ウエイトリフティング	近内 三孝	田村高校3年
〃	中野 直樹	川俣高校3年
〃	熊川 雄太	拓殖大学4年
〃	吉田 真弘	三春町役場
〃	官野 由佳	JA郡山
〃	清野 裕司	福島明成高校
レスリング	榊 大夢	北信中学校3年
〃	今村 太陽	四倉中学校3年
〃	我妻 翔比古	田島高校3年
〃	渡部 広章	日本体育大学3年
〃	角田 友紀	東京農業大学4年
〃	井上 佳子	クリナップ株式会社
〃	鈴木 博恵	クリナップ株式会社
〃	田野倉 翔太	クリナップ株式会社
フェンシング	佐々木 陽菜	福島成蹊高校2年
なぎなた	古俣 紗由美	会津若松市立第五中学校3年
〃	藤田 らら	会津ザベリオ学園中学校2年
〃	古舘 佳樹	会津若松市立第二中学校1年
〃	渡部 悠雅	会津若松市立第二中学校2年
〃	山口 夏実	会津若松市立第二中学校3年
〃	後藤 葵	会津若松市立第一中学校3年
〃	大井川 澪	会津若松市立第四中学校3年
〃	鳴瀬 裕美	会津学鳳中学校3年
〃	成田 結唯	会津学鳳中学校3年
〃	藤城 瑛人	会津若松市立第三中学校2年
〃	齋藤 俊慧	会津学鳳中学校2年
〃	上野 凛花	会津学鳳中学校3年
〃	吉田 天音	謹教小学校4年
〃	大竹 優奈	城北小学校4年
〃	小柴 康隆	テクノアカデミー会津1年

ゴルフ	蛭田玲於	学法石川高校3年
カヌー	鈴木康大	(株)久野製作所
〃	宮田悠佑	鹿屋体育大学4年
〃	三浦翔太	専修大学4年
〃	佐藤貴充	専修大学3年
〃	菅野寿斗	安達高校3年
〃	中野友貴	筑波大学4年
〃	小久保南海	安達高校1年
トライアスロン	鋤崎隆也	順天堂大学2年
〃	石塚祥吾	日本食研
〃	菊池日出子	福島県トライアスロン協会
スポーツチャンバラ	野寺竜矢	いわき市立平第三中学校3年
〃	藁谷雄太	内郷第一中学校3年
車椅子バスケットボール	森谷幸生	江戸川大学2年
陸上	佐藤智美	NPO法人シャロームまちなか夢工房
陸上	山田真人	(株)タンガロイ
陸上	佐々木真菜	盲学校高等部1年
ボッチャ競技	大堀誠眞	NPO法人スケッチブック
〃	國分章夫	郡山養護学校
陸上	鈴木顕人	小原田中学校3年

陸上	遠藤日向	郡山第四中学校3年
〃	布川輝	石神中学校3年
ソフトテニス	田邉雅人	西郷第二中学校3年
〃	佐藤勇乃介	西郷第二中学校3年
〃	根本大地	西郷第一中学校2年
〃	北野亮介	西郷第一中学校1年
〃	大貫彩	西郷第二中学校3年
〃	久我奈々子	西郷第二中学校3年
バドミントン	山澤直貴	猪苗代中学校3年
〃	仁平澄也	白河中央中3年
〃	本田大樹	猪苗代中学校3年
〃	筑後恵太	猪苗代中学校2年
〃	佐藤雄輝	猪苗代中学校3年
〃	久場圭祐	猪苗代中学校3年
〃	金子真大	猪苗代中学校2年
〃	久保田友之祐	猪苗代中学校2年
〃	仁平菜月	猪苗代中学校3年
〃	由良なぎさ	猪苗代中学校2年
〃	永井瀬雰	猪苗代中学校2年

イ　優秀指導者賞

競技名	氏名	所属
陸上	川本和久	福島大学
ソフトテニス	佐藤光一	二本松市役所
サッカー	齋藤克幸	相馬農業高校　教員
卓球	原晃	福卓会
〃	柴田廣道	福卓会
〃	五十嵐修二	喜多方卓球ランド
水泳	志田正弘	スウィン大教スイミングスクール小名浜
バドミントン	朝倉裕朗	小名浜高校　教員
〃	大堀均	富岡高校　教員
〃	本多裕樹	富岡高校　教員

競技名	氏名	所属
弓道	白石吉徳	東日本国際大学　職員
ソフトボール	和田広	帝京安積高校　教員
ウエイトリフティング	小野寺浩亀	勿来工業高校　教員
〃	鈴木宗徹	田村高校　教員
ボウリング	垣内泰	菅野建設(株)
カヌー	今村和美	二本松工業高校　教員
綱引	小澤宏史	行仁小学校　教員
〃	内谷昌史	木幡べんてんジュニア
バドミントン	齋藤亘	猪苗代中学校　教員
ソフトテニス	井戸沼正彦	西郷第二中学校　教員

ウ　優秀選手賞（団体）

競技名	団　体　名	実　　績	
陸上	東邦銀行	第61回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会　4×100mR	第1位
〃	東邦銀行	第97回日本選手権リレー　女子4×100mR	第1位
〃	東邦銀行	第61回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会　団体総合	第3位
〃	東邦銀行	第61回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会　女子総合	第1位
〃	福島大学	第82回日本学生陸上競技対校選手権大会　女子4×400mR	第4位
〃	福島大学	第97回日本選手権リレー　女子4×400mR	第4位
ソフトテニス	福島県男子選抜	第30回全日本小学生ソフトテニス選手権大会	第3位
サッカー	福島県少年男子	第68回国民体育大会　サッカー競技　少年男子	第4位
卓球	GLORY	第32回全日本クラブ卓球選手権大会　男子一般2部	第2位
〃	福卓会	第32回全日本クラブ卓球選手権大会　男子一般2部	第3位
〃	福卓会	第32回全日本クラブ卓球選手権大会　女子一般1部	第3位
〃	喜多方卓球ランド	第32回全日本クラブ卓球選手権大会　女子小・中学生の部	第3位
剣道	福島県	第48回全日本居合道大会　団体	第3位
水泳	福島県少年男子	第68回国民体育大会　水泳競技　少年男子B　400mメドレーリレー	第3位
〃	清陵情報高校・福島ダイビングクラブ	第89回日本選手権水泳競技大会　女子シンクロ高飛込	第2位
自転車競技	福島県自転車競技連盟	第68回国民体育大会　自転車競技　男子4kmチームパーシュート	第3位
バドミントン	福島県成年女子	第68回国民体育大会　バドミントン競技　成年女子	第4位
〃	富岡高校	平成25年度全国高等学校総合体育大会　バドミントン競技男子団体	第1位
〃	富岡高校	平成25年度全国高等学校総合体育大会　バドミントン競技女子団体	第2位
弓道	東日本国際大学	第61回全日本学生弓道選手権大会　女子団体	第1位
〃	東日本国際大学	第61回全日本学生弓道選手権大会　男子団体	第3位
ソフトボール	帝京安積高校	第31回全国高等学校女子ソフトボール選抜大会	第3位
〃	福島県少年女子	第68回国民体育大会　ソフトボール競技　少年女子	第3位
なぎなた	会津なぎなたスポーツ少年団	JOCジュニアオリンピックカップ第21回全国中学生なぎなた大会　試合競技　団体の部	第2位
ボウリング	福島県成年男子	第68回国民体育大会　ボウリング競技　成年男子　団体戦（4人チーム）	第2位
カヌー	福島県カヌー協会	平成25年度日本カヌースプリントジュニア選手権大会　男子カヤックペア200m	第2位
〃	福島県カヌー協会	平成25年度日本カヌースプリントジュニア選手権大会　男子カヤックペア200m	第3位
〃	福島県カヌー協会	平成25年度日本カヌースプリントジュニア選手権大会　男子カヤックフォア500m	第1位
綱引	行仁小学校	2013全日本ジュニア綱引選手権大会　男子ジュニア360kg以下クラス	第2位
〃	木幡べんてんジュニア	2013全日本ジュニア綱引選手権大会　男子ジュニア360kg以下クラス	第3位
島県高等学校体育連盟	福島県選抜	平成25年度全国高等学校定時制通信制体育大会　柔道競技　男子団体	第3位
島県中学校体育連盟	猪苗代中学校	平成25年度全国中学校体育大会　バドミントン競技　男子団体	第1位
〃	猪苗代中学校	平成25年度全国中学校体育大会　バドミントン競技　女子団体	第1位
〃	西郷第二中学校	平成25年度全国中学校体育大会　ソフトテニス競技　男子団体	第3位

エ　スポーツ功労賞

所属団体	氏　　名	市町村名
テニス	根本勝也	いわき市
卓球	深谷秀三	郡山市
剣道	吉﨑　勝	いわき市
バスケットボール	大津恒夫	浪江町
ポーツチャンバラ	佐藤とも子	桑折町
県中地域連合	桑澤　康	石川町
会津地域連合	佐藤光雄	会津若松市
ハンドボール	田口侑義	福島市
なぎなた	古川智子	会津若松市

オ　特別賞

所属団体	氏　　名	実　績　等
卓球	根本　理世	第27回ユニバーシアード　卓球競技 女子団体　第1位 女子ダブルス　第3位
レスリング	田野倉　翔太	第27回ユニバーシアード　レスリング競技 男子グレコローマンスタイル　55kg級　第3位

第４節　文化

１　概要

(1)　文化の振興

ア　文化振興の力による創造的な復興

東日本大震災・原子力災害などによる社会経済情勢の変化を踏まえ、文化の力による創造的な復興を目指し、平成25年3月に、平成33年度を目標年次とする新たな文化振興基本計画「ふくしま文化元気創造プラン」を策定した。

県民の文化に親しみ交流する機会の創出及び文化活動の発表の場の充実を図るとともに、さまざまな文化資源を活用した地域活性化の取組み促進するなど、芸術文化の振興を図った。

イ　県民の文化活動の促進

県民の文化活動が促進されるよう、県総合美術展覧会、県文学賞の内容を充実し、作品の応募の奨励を図るとともに、文化団体が主体となり運営している県芸術祭の充実及び県高等学校文化連盟の育成・援助に努めた。

また、平成26年3月に第7回の声楽アンサンブルコンテスト全国大会を開催した。

ウ　芸術の鑑賞その他文化に接する機会の充実

福島県文化振興財団の積極的な自主事業、支援事業の展開により、県民の優れた文化芸術を鑑賞する機会や文化活動に親しむ機会の充実に努めた。

エ　民俗芸能（伝統芸能）の継承及び発展

県内外の避難先等において、地域コミュニティを維持するよりどころとなる地域の祭りや民俗芸能等を確かな形で継続し、かつ、継承できるよう、担い手や後継者の育成、確保に努めた。

オ　文化振興による地域づくり

人と人、人と地域のきずなを強め、地域の復興や活性化、地域づくりにつながるよう、地域の特性や様々な資源を活かした文化振興に努めた。

(2)　福島県文化センターの管理運営

県民の芸術及び文化の振興を図るため設置した福島県文化センターの効率的な運営を図るため、指定管理者に運営を委ねてきた。平成20年に指定した指定管理者の指定期間が平成26年3月31日をもって満了することから、平成26年4月1日からの5年間の指定管理者について選定を行い、公益財団法人福島県文化振興財団を指定管理者として指定し、運営を委ねることとなった。

２　文化の振興

(1)　芸術の鑑賞その他文化に接する機会の充実

ア　第66回福島県文学賞

(ｱ) 趣旨

県民から作品を公募して優秀作品を顕彰し、本県文学の振興と地方文化の進展を図る。

(ｲ) 応募数

小説・ドラマ44点、エッセー・ノンフィクション34点、詩40点、短歌38点、俳句59点、計215点

(ｳ) 受賞者数種別

部門＼種別	文学賞	準　賞	奨励賞	青少年奨励賞	計
小説・ドラマ	0	2	1	1	4
エッセー・ノンフィクション	1	0	2	1	4
詩	0	2	2	1	5
短歌	1	1	2	0	4
俳句	1	1	1	1	4
計	3	6	8	4	21

(ｴ) 審査委員

(小説・ドラマ)

松村　栄子、九頭見和夫、高見沢　功

(エッセー・ノンフィクション)

八百板洋子、小野　　浩、佐藤　洋一

(詩)　長田　　弘、長久保鐘多、齋藤　　貢

(短歌) 小池　　光、佐藤　文一、遠藤たか子

(俳句) 黒田　杏子、結城　良一、江井　芳朗

(ｵ) 企画委員

植村　美洋、鳴原　靖彦、高坂　光憲、

小野木正夫、永瀬　洋市、鎌田　喜之、
佐藤　弘美

イ　第67回福島県総合美術展覧会

(ｱ) 趣旨

県内及び県出身者から作品を公募して展覧し、本県美術の振興を図る。

(ｲ) 会期

日本画･洋画･彫刻･工芸美術･書（５部門１期開催）
平成25年6月21日（金）～6月30日（日）
出品数９１０点　陳列数６９９点

(ｳ) 運営委員

青田道雄、伊藤匡、岩崎道弘、遠藤俊博、大石尚
片野一、神野忠和、菅野誠、斎藤鶴龍、齋藤勝正
佐藤功、佐藤幹、佐藤弘美、瀬谷真理子、長沢誠一

(ｱ) 平成25年度福島県芸術祭行事参加状況（主催行事）

区　分	行事名	開催月日	開催場所
開幕行事	第52回福島県芸術祭開幕式典・開幕行事	9月8日	いわき芸術文化交流館アリオス
全県組織行事	第41回福島県写真展	11月5日～11月10日	福島県文化センター
	第67回福島県合唱コンクール	8月30日～9月1日	いわき芸術文化交流館アリオス
	第51回福島県吹奏楽コンクール	8月 3日～8月 4日 8月10日～8月11日	郡山市民文化文化センター いわき芸術文化交流館アリオス
	第30回福島県「現代吟詠のつどい」in福島大会	9月15日	福島県文化センター
	福島県吟剣詩舞道第47回大会	12月7日	いわき芸術文化交流館アリオス
	第61回福島県短歌祭	10月20日	いわき市文化センター
	第49回福島県おかあさん合唱祭	10月13日	いわき芸術文化交流館アリオス
	第30回福島県声楽協会演奏会	10月14日	福島テルサ
	第39回福島県日本画協会展	10月22日～10月27日	福島県文化センター
	第25回福島県篆刻会展	9月9日～9月15日	コラッセふくしま
	第22回福島県日本画連盟展	8月14日～8月18日	福島県文化センター
	第37回福島県版画展	8月21日～8月25日	福島県文化センター
	第37回福島県書道連盟選抜展	10月17日～10月20日	福島県文化センター
	第81回記念福島県美術協会展	11月15日～11月24日	福島県文化センター
	第50回福島県彫刻会展	11月15日～11月24日	福島県文化センター
	第48回福島県三曲連盟演奏会	10月27日	いわき市文化センター
	福島県俳句大会	10月27日	いわき市文化センター
	第52回福島県芸術祭第36回「詩祭・講演と朗読のつどい」	10月14日	いわき市文化センター
	第52回福島県芸術祭川柳大会・第45回いわき市民文化祭川柳大会	10月20日	いわき市生涯学習プラザ
	ふくしま民謡のつどい	9月29日	いわき市文化センター
	福島県書作家連盟第31回展	11月1日～11月3日	福島県文化センター

平原春嶺、三坂制、吉田和春　　（五十音順）

ウ　第52回県芸術祭

県芸術文化団体連合会が主体となって９月から11月までの３か月間を開催期間として実施した。

	第53回福島県書道協会展	11月29日～12月1日	福島県文化センター
	第40回福島県観世流謡曲大会	10月14日	福島県文化センター
	第7回うつくしま ふくしま。全国洋舞コンクール	11月2日～11月3日	福島県文化センター
	福島県宝生流謡曲大会	9月28日	いわき芸術文化交流館アリオス
	第76回福島オペラ協会メンバーズコンサート	12月7日	福島県文化センター
	27行事		

(ｲ) 参加行事

部門　区分	行事数	出演者数（点）数	来場者数
音楽	13	3,850	11,055
演劇	2	120	650
美術	17	1,956	23,381
文学	1	168	103
舞踊	4	430	3,473
総合	4	6,513	19,829
生活	5	254	1,949
その他	0	0	0
計	46	13,291	60,440

(2) 声楽アンサンブルコンテスト全国大会開催事業

ア　趣旨

全国的に活躍している本県の合唱活動の更なる発展を図るため、継続的に全国規模のコンクールを開催し、「合唱王国ふくしま」を全国に発信する。

イ　第７回大会の開催

(ｱ) 期日　平成26年3月20日（木）～23日（日）

(ｲ) 部門　中学校部門・高等学校部門・一般部門

(ｳ) 出演団体数122団体（推薦78団体、公募44団体）

中学校部門　41団体

高等学校部門　41団体

一般部門　40団体

(3) 新しい文化の風交流事業

ア　趣旨

本県で開催される全国規模の大会に出場する海外文化団体と県民との交流を行うとともに、ふくしま総文の開催を契機とした青少年と芸術文化団体との交流を通して本県文化活動の担い手を育成する。

イ　実施内容

(ｱ) 海外文化団体との交流事業

海外合唱団との合同練習会等を通じた文化交流

実施団体　3団体

(ｲ) 青少年と芸術文化団体との交流事業

「短歌」「陶芸」ワークショップの開催

参加者数　120名

(4) ふくしま心の復興アートプロジェクト

ア　趣旨

アートにより、震災及び原子力発電所の事故で傷ついた県民の心をケアする。地域に密着したアートプログラムを構築することで、地域の活性化を図る。

イ　実施内容

(ｱ)デイリリーアートサーカス

９回開催、参加者数　514名

(ｲ) 週末アートスクール

４回開催、参加者数　144名

(ｳ) フォーラム

３回開催、参加者数　216名

(ｴ) ワークショップ

１２回開催、参加者数1,048名

(5) 「地域のたから」伝統芸能承継事業

ア　趣旨

祭りの力で地域に活力をもたらすため、県内外の地域伝統芸能の公演等を行う。

イ　実施内容

(ｱ) 会場：いわき市

(ｲ) 期日：平成25年9月14日（土）～15日（日）

(ｳ) 参加団体：県外1団体、県内24団体、計25団体

(ｴ) 来場者数:23,000人(14日 20,000人　15日 3,000人)

(ｵ) 内容

[地域伝統芸能公演]

被災地の団体や子どもが演じ手となっている団体を中心となって伝統芸能を披露

[代表者交流会]

専門家による「民俗芸能団体の現状報告」及び各団体が抱える問題点について情報を交換

[担い手交流事業]

専門家による演技指導及び子ども同士の交流

(6) 文化で元気！「新生ふくしま」グランドステージ事業

ア　趣旨

全国的に著名な芸術家等による公演、展覧会等を積極的に誘致することにより、県民の心の復興とともに観客の増加を図り、いきいきとした県民の姿を通して“新生ふくしま”を全国に発信し、更なる文化振興を図る。

イ　実施内容

交付　15件（公演　13件　展覧会　2件）

第５節　生涯学習

１　概要

いつでも、どこでも、だれでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価される社会、すなわち生涯学習社会を目指し、県民が主体的、継続的に学習活動に取り組めるよう、生涯学習に関する情報や学習機会を体系化して提供するしくみである「県民カレッジ(ふくしま学習空間・夢まなびと)」を運営・推進し、県民の学習活動を支援した。

また、福島県を復興し地域コミュニティを再生するには、地域課題を解決するための県民一人ひとりの「力」が欠かせないことから、地域をつなぐ活動や地域課題を解決するための学びの場の提供を行い、地域の核となる人材を養成するための事業等を実施した。

東日本大震災は、地震、津波、原子力災害、風評被害と日本がこれまで経験したことのない複合災害であり、これらかつてない体験、記録、記憶、教訓を次世代に継承することが必要であることから、資料の収集及び保存等を行った。

さらに、子どもたちが、地域の状況やふくしまの未来について考え、新聞にまとめＨＰ等を活用し、県内外に発信する「ジャーナリストスクール」等を実施し、ふくしまの復興を担う子どもたちの育成に努めた。

２　生涯学習の推進体制

(1)　福島県生涯学習審議会の開催

第１回

日時　平成26年2月10日(月)

場所　福島県本庁舎　５階　正庁

内容　福島県生涯学習基本計画の進行管理について

３　生涯学習情報提供及び啓発

(1)　県民カレッジ(ふくしま学習空間・夢まなびと)の推進

県民の多様なニーズや学習活動の広域化に対応するため、県・市町村・大学等高等教育機関、民間教育機関等が連携・協力し、県民が主体的、継続的に学習活動に取り組めるよう、生涯学習に関する情報や学習機会を体系化して提供するしくみである「県民カレッジ（ふくしま学習空間・夢まなびと)」を運営し、生涯学習の推進に努めた。

ア　生涯学習情報提供システムの整備・運営

県内各地域における様々な生涯学習関連情報をインターネットにより一元的かつ体系化して提供し、県民の生涯学習活動を支援した。

アクセス状況 248,983件

ホームページアドレス

http://www.yumemanabito.jp

イ　インターネットによる講座の配信

・ｅ－ラーニングふくしま学習チャンネル

・ほっとHug（子育てに関する映像コンテンツ）

県民がいつでもどこでも学べるインターネットによる講座を配信した。

8分類　169コンテンツ

ウ　連携講座

県と市町村、高等教育機関、民間事業者、ＮＰＯ等市民団体の学習実施機関とが連携し、様々な講座を体系化し、提供した。

連携機関　138団体

提供講座数 690講座

４　生涯学習による復興応援

(1)　生涯学習による復興応援事業の実施

福島県を復興し地域コミュニティを再生するには、地域課題を解決するための県民一人ひとりの「力」が欠かせないことから、地域をつなぐ活動や地域課題を解決するための学びの場の提供を行い、地域の核となる人材を養成するための事業等を実施した。

ア　地域コミュニティ再生のための県民講座

日時　平成26年10月～11月

会場　県内4箇所

参加人数　123名

５　復興を担う子どもたちの育成

(1)　ふるさと「ふくしま」の学び事業（ジャーナリストスクール）

子どもたち（小学校高学年～高校生）が、復興に向けてがんばる本県の現状や地域の文化、自然などについて取材し、地域の置かれている状況や、「ふくしま」の未来について考え、新聞にまとめ、ＨＰなどを活用し県内外に発信した。

日時　平成25年7月23日(火)～25日(木)(２泊３日)

場所　県男女共生センター

参加者数　受講者35名　講話一般聴講者400名

特別講師　ジャーナリスト・東京工業大学教授　池上彰氏

講師　県立相馬高校　武内教諭

福島民報社及び福島民友新聞社の協力

(2)　学びによる未来を担う子ども育成事業（詩のスクール）

子どもたち（小学校高学年～高校生）が、地域の方々や地域再生に向けがんばっている方々等と交流し、被災者の思いや考え、復興に向けた「ふくしま」の現状を感じ取り、詩の創作を行い、ＨＰなどを活用し県内外に発信した。

日時　平成26年1月25日（土）～26日（日）（１泊２日）

場所　県男女共生センター

参加人数　受講者18名

トークショー一般聴講者100名
総合監修　和合亮一氏（詩人）
特別講師　ラジオ福島アナウンサー・編成局次長
鏡田辰也氏

第６節　スポーツ

１　概　　要

今年度も本県出身、あるいは本県にゆかりのある選手が、世界の舞台で活躍を見せた。

まず、ソチ冬季五輪の２競技に３名が出場。スキー競技フリースタイルモーグルの星野純子選手（ホテルリステル猪苗代）が予選第２ラウンド１５位、遠藤尚選手（忍建設）が決勝第１ラウンド１５位、スケート競技スピードスケート女子５０００mの穂積雅子選手（ダイチ）が１３位の成績を残す。同パラリンピックにおいては、鈴木猛史（駿河台大職員）がスキー競技アルペンスキー男子回転座位で金メダル、滑降で銅メダルを獲得した。また、第２７回ユニバーシアード競技大会では、根本理世選手（十六銀行）が卓球競技女子団体優勝、ダブルス３位入賞を果たし、田野倉翔太（クリナップ）はレスリング競技男子グレコローマンスタイル５５kg級第３位の成績を収めた。ジュニアにおいても、世界ジュニアバドミントン選手権大会に富岡高校バドミントン部から日本代表として４名（保木卓朗、小林優吾（富岡高３年）、大堀彩、東野有紗（富岡高２年））が出場し、団体（国別対抗）で３位入賞する。大堀選手は同大会女子シングルスで準優勝し、またアジアユース大会の女子シングルスで優勝を果たした。サッカー競技では、橋沼真帆、中條結衣、立花葉、北川ひかる選手（富岡高１年）がアジア U16 女子選手権大会に出場し優勝を果たす。

冬季五輪を始め、本県トップアスリートが世界を舞台に活躍し、県民に勇気や元気を与え、改めてスポーツの力を感じる機会となった。

スポーツの振興については、平成22年3月に福島県スポーツ振興基本計画を策定したが、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により本県を取り巻く社会経済情勢は大きく変化したこと、また、国が平成23年8月にスポーツ基本法を制定、平成24年3月にスポーツ基本計画を策定したことを踏まえ、平成25年3月に福島県スポーツ推進基本計画（ふくしまスポーツ元気創造プラン）への見直しを行った。本計画は、３０年後を展望しながら、平成25年度を初年度とする８年間のスポーツ振興の指針となるもので、それを基に各種事業を展開している。

生涯スポーツに関しては、平成14年度にあづま総合体育館内に「うつくしま広域スポーツセンター」を、Ｊヴィレッジ内に「浜通り広域スポーツセンター」を、平成15年度には、玉川村たまかわ文化体育館内に「中通り広域スポーツセンター」を、平成16年度には、会津若松市ふれあい広場ふれあい体育館内に「会津広域スポーツセンター」を設置した。その後、平成17年度に「うつくしま広域スポーツセンター」を(財)福島県体育協会内に、平成18年度に「浜通り広域スポーツセンター」を富岡町教育支援センターにそれぞれ移転し、県内４つの広域スポーツセンターが中心となり、地域住民が主体的に運営する総合型地域スポーツクラブの育成・定着を図ってきた。現在は、３つの広域スポーツセンターが支援をしている。

また、競技力向上に関しては、本県競技力の維持・向上を図るために、ジュニア期からの長期的・計画的な指導を行う「競技力向上総合システム」の構築に向け、うつくしまスポーツキッズ発掘事業や「陸上王国福島」パワーアップ事業等の事業を実施し、一貫指導体制の確立を図っているところである。

２　生涯スポーツ・競技スポーツの振興

○　生涯スポーツ

県民の誰もが、生涯にわたってそれぞれの体力や年齢、興味関心、目的等に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも気軽にスポーツに親しみ、豊かなスポーツライフを実現するため、「ふくしまスポーツ元気創造プラン」に基づき、各種事業を展開した。

（１）ふくしまからスポーツ発信・全国大会誘致事業

県民のスポーツ活動を推進するとともに、災害からの復興にも大きく寄与するスポーツ大会及びレクリエーション大会の本県開催を支援するため、大会主催者に予算の範囲内で補助金を交付した。

（２）スポーツ振興推進の整備充実

①うつくしま広域スポーツセンター事業

県内３つの広域スポーツセンターにより、総合型地域スポーツクラブの創設・育成・定着及び広域市町村圏のスポーツ活動を支援した。

また、福島県版の総合型地域スポーツクラブ連絡協議会である「うつくしま総合型スポーツクラブユニオン」を平成22年3月7日に設立し、クラブのネットワーク化を図り、魅力あるクラブを目指し活動を開始した。

②公益財団法人福島県スポーツ振興基金助成事業

ア　スポーツ・レクリエーション指導者の養成・確保と充実に対する事業への助成

イ　生涯スポーツの振興に対する事業への助成

ウ　スポーツ施設の整備と活用に対する事業への助成

エ　その他基金の目的を達成するために必要な事業への助成

③ふくしまスポーツフェスタ２０１３の開催

平成２５年９月１３日（金）～１５日（日）・２１日（土）・２２日（日）に県内１１市町村において競技種目２６種目に６．０８８人が参加した。

④県総合体育大会県民スポーツ大会の開催

第６６回福島県総合体育大会県民スポーツ大会を７地区において実施し、参加者は３，４０２名であった。

（３）県スポーツ推進委員協議会研修会等の開催

県スポーツ推進委員協議会の研修大会への支援を通じ、スポーツ推進委員の資質の向上を図った。

ア　東北地区スポーツ推進委員研修会福島県大会兼県スポーツ推進委員研究大会
7月12日（金）13日（土）郡山市
イ　新任スポーツ推進委員研修会6月11日（火）郡山市
ウ　女性スポーツ推進委員研修会10月4日（金）郡山市

○　競技スポーツ

本県の選手が国際大会や各種全国大会において活躍し、好成績を収めることを目的に、（公財）福島県体育協会をはじめ、関係競技団体等と連携し、競技力向上体制の整備はもとより、指導者の養成・確保及び選手の育成・強化などに加え、発掘から強化までの一貫指導体制の確立を目指し、各種事業の推進に努めた。特に、昨年度より再開された一貫指導体制の発掘部分を担う「うつくしまスポーツキッズ発掘事業」は、震災前と同じ5会場での発掘テスト実施を行った。

さらに新規事業として、平成22年度から3年間取り組んだ「陸上王国福島」基盤整備事業の成果の活用と、平成26年度に本県で開催される「日本陸上競技選手権大会」を契機に、陸上競技をツールに子どもたちの体力向上と心身の健康のため、また、将来の日本一の陸上選手誕生を目差し、①小・中学校陸上競技出前講座、②小学校特設陸上部指導事業、③中学校陸上選手指導事業の3事業からなる、「陸上王国福島」パワーアップ事業を実施するとともに、本県のお家芸と言われた競技の選手と指導者の両面を重点的に強化して競技力を回復させ、福島のスポーツ環境の復活の象徴とする「スポーツ環境復興緊急対策事業」を行った。

(1)　スポーツ団体の状況

ア　公益財団法人福島県体育協会（平成25年度）役員一覧

役　職	氏　名	備　考	役　職	氏　名	備　考
名誉会長	佐藤　雄平	県知事	理　事	森崎　俊紘	県トライアスロン協会副会長
会　長	宗形　守敏	県ハンドボール協会名誉会長	理　事	石田　洵	県バスケットボール協会長
副会長	片平　俊夫	福島陸上競技協会長	理　事	須佐　喜夫	県テニス協会長
副会長	御代田公男	いわき市体育協会長	理　事	深谷　秀三	県卓球協会長
副会長	本間　稔	県高等学校体育連盟会長	理　事	千葉　忠孝	県北地域連合会副会長
副会長	佐藤　金正	学識経験者（県議会議員）	理　事	櫻井　和朋	県南地域連合会長
専務理事	廣瀬　敬彦	県スポーツ課長	理　事	大橋　哲男	会津地域連合会長
常務理事	佐藤　祀男	県バレーボール協会長	理　事	貝田　美郎	南会津地域連合会長
常務理事	山本　和子	県なぎなた連盟理事長	理　事	草野　清貴	相双地域連合会長
常務理事	安藤　喜勝	県中地域連合会長	理　事	菊池　辰夫	学識経験者（県医師会）
常務理事	星　本文	県スポーツ少年団本部長	理　事	甚野源次郎	学識経験者（県議会議員）
常務理事	佐々木祐司	県中学校体育連盟会長	理　事	紺野　長人	学識経験者（県議会議員）
常務理事	白石　豊	学識経験者（大学）	監　事	佐藤　英壽	県スケート連盟会長
理　事	渡部　孝美	県スキー連盟会長	監　事	壱岐ひろみ	県水泳連盟会長
理　事	太田　豊秋	県馬術連盟会長・県クレー射撃協会会長	監　事	渡邉　幹夫	外部

イ　公益財団法人福島県体育協会加盟団体の登録状況

(ｱ)　競技・種目団体

団　体　名	登録人数	団　体　名	登録人数	団　体　名	登録人数
福島陸上競技協会	5350	体操協会	355	ゲートボール協会	3866
野球連盟	16109	スキー連盟	391	少林寺拳法連盟	998
ソフトテニス連盟	10212	スケート連盟	47	トランポリン協会	62
テニス協会	2285	馬術連盟	13	オリエンテーリング協会	68
サッカー協会	12763	ソフトボール協会	6157	パワーリフティング協会	18
ハンドボール協会	1879	バレーボール協会	10253	ダンススポーツ連盟	840
卓球協会	9033	ウエイトリフティング協会	105	武術太極拳連盟	1139
剣道連盟	7331	レスリング協会	139	綱引連盟	470
ボート協会	154	フェンシング協会	44	トライアスロン協会	270
水泳連盟	1477	山岳連盟	14	グラウンドゴルフ協会	5834
自転車競技連盟	85	銃剣道連盟	1627	野球協会	765
ホッケー協会	132	クレー射撃協会	50	テコンドー協会	39
相撲連盟	92	セーリング連盟	46	バウンドテニス協会	392

ライフル射撃協会	90	空手道連盟	943	ハング・パラグライディング連盟	93
バスケットボール協会	12115	アーチェリー協会	175	スポーツチャンバラ協会	805
バドミントン協会	5695	なぎなた連盟	196	インディアカ協会	510
ボクシング連盟	41	アイスホッケー連盟	201	障がい者スポーツ協会	－
柔道連盟	3298	ボウリング連盟	241		
弓道連盟	3030	ゴルフ連盟	592		
ラグビーフットボール協会	791	カヌー協会	108	合　計	129,828

（イ）福島県スポーツ少年団

平成25年9月末日現在

	市町村	団数	指導者数			団員数			
			計	男	女	計	小	中	高
	県北支部								
1	福島市	165	946	777	169	3,566	2,699	849	18
2	川俣町	15	121	107	14	290	214	74	2
3	桑折町	11	67	60	7	245	195	47	3
4	伊達市	52	359	290	69	1,108	897	206	5
5	国見町	8	58	51	7	193	155	38	0
6	二本松市	46	418	327	91	1,215	988	223	4
7	大玉村	6	44	41	3	137	137	0	0
8	本宮市	30	204	170	34	647	532	110	5
	計	333	2,217	1,823	394	7,401	5,817	1,547	37
	県中支部								
9	郡山市	140	1,144	993	151	3,796	3,141	614	41
10	三春町	16	136	114	22	313	270	40	3
11	小野町	12	55	44	11	236	222	14	0
12	田村市	34	263	225	38	672	591	68	13
13	須賀川市	35	261	224	37	987	819	147	21
14	鏡石町	8	36	28	8	237	203	34	0
15	天栄村	1	19	15	4	75	75	0	0
16	石川町	9	74	64	10	230	217	11	2
17	玉川村	4	33	29	4	133	100	33	0
18	平田村	6	40	36	4	84	77	7	0
19	浅川町	2	42	36	6	126	126	0	0
20	古殿町	3	20	15	5	49	42	7	0
	計	270	2,123	1,823	300	6,938	5,883	975	80
	県南支部								
21	棚倉町	17	107	91	16	403	334	67	2
22	塙町	10	89	79	10	250	196	54	0
23	矢祭町	2	6	6	0	40	30	10	0
24	鮫川村	5	22	19	3	86	83	2	1
25	白河市	43	344	295	49	1,131	852	278	1
26	西郷村	22	106	96	10	415	295	120	0
27	中島村	6	27	26	1	105	88	13	4
28	矢吹町	7	53	47	6	225	182	43	0
29	泉崎村	5	36	32	4	144	110	34	0
	計	117	790	691	99	2,799	2,170	621	8

	市町村	団数	指導者数			団員数			
			計	男	女	計	小	中	高
	会津支部								
30	会津若松市	68	541	410	131	1,846	1,335	464	47
31	磐梯町	4	17	11	6	84	71	8	5
32	猪苗代町	15	192	146	46	489	419	60	10
33	会津坂下町	26	115	88	27	496	393	98	5
34	湯川村	4	29	29	0	83	75	7	1
35	柳津町	2	50	42	8	161	74	87	0
36	会津美里町	12	91	79	12	330	271	59	0
37	三島町	4	19	16	3	62	52	10	0
38	金山町	1	15	15	0	29	27	2	0
39	喜多方市	48	249	193	56	1,229	885	340	4
40	北塩原村	4	41	36	5	114	93	21	0
41	西会津町	9	43	38	5	200	145	55	0
	計	197	1,402	1,103	299	5,123	3,840	1,211	72
	南会津支部								
42	南会津町	26	192	164	28	765	502	258	5
43	下郷町	9	58	47	11	167	110	52	5
44	桧枝岐村	1	5	5	0	35	31	4	0
45	只見町	7	56	50	6	178	118	59	1
	計	43	311	266	45	1,145	761	373	11
	相双支部								
46	広野町	1	61	50	11	130	106	24	0
47	楢葉町	8	50	40	10	129	97	32	0
48	富岡町	17	117	98	19	383	271	104	8
49	川内村	4	13	8	5	70	34	36	0
50	大熊町	9	67	61	6	357	249	103	5
51	双葉町	8	70	63	7	186	107	78	1
52	浪江町	22	111	104	7	413	288	122	3
53	葛尾村	1	18	13	5	38	30	7	1
54	新地町	14	84	78	6	253	152	89	12
55	相馬市	34	174	150	24	679	437	235	7
56	南相馬市	76	409	326	83	1,370	993	342	35
57	飯舘村	6	24	23	1	122	83	39	0
	計	200	1,198	1,014	184	4,130	2,847	1,211	72
	いわき支部								
58	いわき市	172	772	602	170	3,548	2,625	910	13
	平成25年度合計	1,332	8,813	7,322	1,491	31,084	23,943	6,848	293
	平成24年度	1,332	8,813	7,322	1,491	31,084	23,943	6,848	293
	比較（※）	−	−	−	−	−	−	−	−

役職員	合計	市町村役職員数	県役職員数
	390	366	24

※ 今年度の登録数は、東日本大震災の被災県に対する日本スポーツ少年団登録の特別措置（平成２２年度登録をしている場合、今年度の登録申請ができなくともスポーツ少年団活動は通常通り認めること）により、平成22年度の登録数と同様になります。

ウ　スポーツ安全協会傷害保険加入状況

この傷害保険は、スポーツ及び社会教育活動の普及・振興に寄与することを目的として、昭和46年に事業を開始して以来、現在（2013年3月）では約30万団体、926万人の人々が加入する世界に類のない大型保険である。本県の加入者は、5,651団体、151,724人で全人口の12.7%となっている。誰でも安心してスポーツ活動や社会教育活動に親しむことができるよう、なお一層普及に力を注いでいく必要がある。

(2)　第66回福島県総合体育大会

東日本大震災の影響などにより、一部開催できない競技種目があったものの、国民体育大会・東北総合体育大会選手選考会等、スポーツ少年団大会及び県民スポーツ大会の三本柱の形で開催することができた。

本大会は、本県最大のスポーツイベントで国民体育大会・東北総合体育大会選手選考会等５１競技、スポーツ少年団体育大会１８競技、県民スポーツ大会７地域９競技を２８市町村で実施した。

ア　国体・東北総体選手選考会

No.	競技名	開催市町村	期日	会場	参加人数
1	陸上競技	郡山市	7/11（木）～14（日）	開成山陸上競技場	1,306
2	軟式野球	郡山市	6/22（土）～23（日） 30（日）	開成山野球場	453
		本宮市		しらさわグリーンパーク球場	
3	ソフトテニス	福島市	7/6（土）～7（日）	あづま総合運動公園テニスコート（成年）	867
		いわき市		平テニスコート（少年）	
4	テニス	いわき市	7/6（土）～8（月）	平テニスコート いわき明星大学テニスコート（成年男女） いわき南の森テニスコート	1,032
		天栄村		羽鳥湖高原ﾚｼﾞｰﾅの森ﾃﾆｽｺｰﾄ（少年男女）	
5	サッカー	郡山市	4/20（土）～21（日）	郡山市内（少年男子）	305
		福島市	7/21（日）・8/4（日）	十六沼公園サッカー場（成年男子・女子）	
			8/3（土）	十六沼公園サッカー場（壮年）	
6	ハンドボール	福島市	7/6（土）～8（月）	国体記念体育館	615
7	卓球	会津若松市	7/4（木）～6（土）	あいづ総合体育館（少年）	882
			7/7（日）	あいづ総合体育館（成年・壮年・教職員）	
8	剣道	郡山市	6/9（日）	西部第二体育館（成年男女・高齢者）	659
		いわき市	6/29（土）～30（日）	いわき市総合体育館（少年男女）	
9	ボート	喜多方市	6/14（金）～16（日）	県営荻野漕艇場	199
10	水泳	郡山市	7/27（土）～28（日）	郡山カルチャーパークプール（競泳・飛込）	738
11	自転車競技	西郷村	6/30（日）	東京女子医大ｾﾐﾅｰﾊｳｽ発着周回ｺｰｽ（ﾛｰﾄﾞ）	95
		いわき市	7/3（水）～6（土）	平競輪場（トラック）	
12	ホッケー	棚倉町	7/14（日）	ルネサンス棚倉多目的広場	115
13	相撲	郡山市	7/14（日）	郡山市相撲場	116
14	ライフル射撃	福島市	7/13（土）	県警察学校拳銃射撃場（ＣＰ）	159
		二本松市	7/14（日）	二本松市総合射撃場（ＣＰ以外）	
15	バスケットボール	いわき市	7/12（金）～15（月）	いわき市総合体育館 いわき市内高等学校体育館	1,552
16	バドミントン	白河市	7/11（木）～13（土）	白河市中央体育館（少年）	845
			7/13（土）～14（日）	白河市中央体育館（成年）	
17	ボクシング	伊達市	7/12（金）～14（日）	伊達市保原体育館	78
18	柔道	いわき市	7/14（日）	いわき市立南部アリーナ	442
19	弓道	郡山市	7/5（金）～7（日）	開成山弓道場（少年）	574
			7/14（日）	開成山弓道場（成年）	
20	ラグビーフットボール	福島市	5/25（土）～26（日） 5/31（金）～6/1（土）	あづま総合運動公園ｽﾎﾟｰﾂｲﾍﾞﾝﾄ広場（少年）	585
			6/16（日） 23（日）・30（日）	あづま総合運動公園ｽﾎﾟｰﾂｲﾍﾞﾝﾄ広場（成年）	
		いわき市		鮫川河川敷グラウンド（成年）	
21	体操	福島市	7/14（日）	国体記念体育館（体操競技：成年）	347
			7/16（火）～17（水）	国体記念体育館（体操競技：少年）	
			7/14（日）～15（月）	国体記念体育館（新体操：成年）	
			7/16（火）～17（水）	国体記念体育館（新体操：少年）	

No.	競技名	開催市町村	期日	会場	参加人数
22	スキー	猪苗代町	平成26年 1/17（金）～22（水）	猪苗代スキー場（アルペン）	418
				猪苗代町クロスカントリーコース（クロカン）	
23	スケート	郡山市	11/17（日）	磐梯熱海アイスアリーナ（フィギュア）	89
			12/7（土）	磐梯熱海ｽﾎﾟｰﾂﾊﾟｰｸ郡山ｽｹｰﾄ場（スピード）	
24	馬術	いわき市	7/13（土）～14（日）	ヘレナ国際乗馬倶楽部	61
25	ソフトボール	福島市	6/15（土）～16（日） 22（土）	十六沼公園スポーツ広場（成年男子）	1,140
			6/22（土）	十六沼公園スポーツ広場（成年女子）	
			7/6（土）～7（日）	十六沼公園スポーツ広場（少年男女）	
26	バレーボール	会津若松市	7/11（木）～13（土）	あいづ総合体育館・葵高等学校体育館 若松商業高等学校体育館（少年男女）	1,305
			7/13（土）～14（日）	あいづ総合体育館（成年男女）	
27	ウエイトリフティング	福島市	7/13（土）～14（日）	福島明成高等学校格技場	153
28	レスリング	南会津町	7/13（土）～14（日）	田島高等学校体育館	94
29	フェンシング	川俣町	7/13（土）～14（日）	川俣町体育館	133
30	山岳	郡山市	6/23（日）	トレイル・ロック	55
31	銃剣道	郡山市	5/26（日）	郡山駐屯地体育館	123
32	クレー射撃	二本松市	7/14（日）	二本松市総合射撃場	48
34	空手道	下郷町	7/7（日）	下郷町大川ふるさと公園ｺﾐｭﾆﾃｨｰｾﾝﾀｰ	170
35	アーチェリー	福島市	7/13（土）～14（日）	あづま総合運動公園イベント広場	79
36	なぎなた	会津若松市	7/7（日）	鶴ヶ城体育館	190
37	アイスホッケー	郡山市	11/16（土）～17（日）	磐梯熱海アイスアリーナ	195
38	ボウリング	郡山市	5/12（日）	ボウルアピア郡山	70
39	ゴルフ	いわき市	6/3（月）	湯本スプリングスカントリークラブ	114
40	カヌー	二本松市	5/25（土）	阿武隈川島山コース（ｽﾗﾛｰﾑ・ﾜｲﾙﾄﾞｳｫｰﾀｰ）	130
			6/2（日）	阿武隈漕艇場（スプリント）	
41	ゲートボール	白河市	7/28（日）	白河市陸上競技場	236
42	少林寺拳法	須賀川市	6/2（日）	須賀川アリーナ	292
43	トランポリン	須賀川市	7/6（土）～7（日）	須賀川アリーナ	71
44	オリエンテーリング	福島市	7/14（日）	あづま総合運動公園	61
45	パワーリフティング	福島市	10/27（日）	あづま総合運動公園陸上競技場トレーニング室	35
46	ダンススポーツ	川俣町	6/2（日）	川俣町体育館	107
47	武術太極拳	福島市	10/5（土）～6（日）	国体記念体育館	178
48	トライアスロン	中止	中止	中止	
49	綱引	南相馬市	7/14（日）	南相馬市スポーツセンター	81
50	グラウンド・ゴルフ	会津若松市	7/18（木）	会津総合運動公園多目的グラウンド	雨天中止
51	バウンドテニス	伊達市	7/28（日）	霊山体育館	70
52	ﾊﾝｸﾞﾗｲﾃﾞｨﾝｸﾞ	喜多方市	8/24（土）	エアパーク三ノ倉高原	52
53	スポーツチャンバラ	福島市	7/7（日）	国体記念体育館	378
54	テコンドー	中止	中止	中止	

イ　スポーツ少年団体育大会

No.	競技名	開催市町村	期日	参加人員	参加人数
1	軟式野球	田村市	6/29（土）～30（日）	常葉運動場（小学生）	215
		郡山市		喜久田スポーツ広場（小学生）	
				三穂田スポーツ広場（小学生）	
				日和田球場（中学生）	
2	ソフトテニス	福島市	6/23（日）	福島市庭球場（小・中学生）	467
3	テニス	郡山市	8/3（土）～4（日）	郡山市庭球場	457
4	卓球	会津若松市	7/7（日）	あいづ総合体育館	361
5	剣道	郡山市	8/11（日）	西部体育館	333
6	自転車競技	西郷村	6/30（日）	東京女子医大ｾﾐﾅｰﾊｳｽ発着周回ｺｰｽ（ﾛｰﾄﾞ）	23
		いわき市	7/6（土）	平競輪場（トラック）	
7	バスケットボール	福島市	7/20（土）～21（日）	あづま総合体育館（小学生の部）	762
			7/27（土）～28（日）	福島市内中学校体育館（中学生の部）	
8	柔道	福島市	9/15（日）	福島体育館・福島市武道館	429
9	ラグビーフットボール	郡山市	9/8（日）	熱海サッカー場	122
10	体操	福島市	7/14（日）～15（月）	国体記念体育館（体操競技・新体操）	361
11	スキー	金山町	平成26年 1/18（土）～19（日）	フェアリーランドかねやま（アルペン）	503
		猪苗代町	平成26年 1/17（金）～19（日）	猪苗代町クロスカントリーコース（クロカン）	
12	スケート	郡山市	11/17（日）	磐梯熱海アイスアリーナ（フィギュア）	98
			12/7（土）	磐梯熱海ｽﾎﾟｰﾂﾊﾟｰｸ郡山ｽｹｰﾄ場（スピード）	
13	ソフトボール	福島市	6/8（土）～9（日）	十六沼公園スポーツ広場	485
14	バレーボール	郡山市	8/3（土）～4（日）	郡山総合体育館 西部体育館・西部第二体育館	799
15	フェンシング	川俣町	7/13（土）～14（日）	川俣町体育館	82
16	なぎなた	会津若松市	7/7（日）	鶴ヶ城体育館	102
17	レスリング	南会津町	7/13（土）	田島高等学校体育館	234
18	スポーツチャンバラ	福島市	7/7（日）	国体記念体育館	128

ウ　県民スポーツ大会

地区	開催市町村	競技名	開催期日	参加人員	参加人数
県北	本宮市	壮年ソフトボール	7/14(日)	本宮運動公園多目的グラウンド	604
	大玉村	卓球		大玉村民体育館	
	本宮市	ソフトテニス		本宮運動公園庭球場	
		バドミントン		本宮市白沢体育館	
		家庭バレーボール		本宮市総合体育館	
		テニス		本宮市白沢庭球場	
県中	田村市	壮年ソフトボール	8/25(日)	田村市総合運動公園多目的運動場	658
	三春町	ソフトテニス		田村西部工業団地夕陽が丘公園庭球場	
	小野町	バドミントン		小野町民体育館	
	田村市	家庭バレーボール		田村市総合体育館	
県南	泉崎村	壮年ソフトボール	8/18(日)	泉崎総合運動公園ソフトボール球場	369
		卓球		農業トレーニングセンター	
		ソフトテニス		泉崎総合運動公園テニスコート	
		バドミントン		農業トレーニングセンター	
		家庭バレーボール		泉崎中学校体育館	
会津	喜多方市	壮年ソフトボール	8/4（日）	押切川公園スポーツ広場	494
		卓球		押切川公園体育館	
		ソフトテニス		熱塩加納運動場テニスコート	
	北塩原村	バドミントン		自然環境活用センター体育館	
	西会津町	家庭バレーボール		さゆり公園体育館	
	喜多方市	テニス		高郷運動広場テニスコート	
南会津	只見町	壮年ソフトボール	8/25(日)	只見町町下グラウンド	313
	南会津町	フットサル		田島小学校体育館	
		ゴルフ	8/18(日)	会津高原たかつえカントリークラブ	
		バレーボール	8/25(日)	南郷体育館	
	下郷町	グラウンド・ゴルフ		大川ふるさと公園	
相双	相馬市	壮年ソフトボール	8/4（日）	相馬光陽ソフトボール場	296
		卓球		松川浦スポーツセンター	
		ソフトテニス		角田テニスコート	
		バドミントン		スポーツアリーナそうま	
		家庭バレーボール		中村第一中学校体育館	
いわき	いわき市	壮年ソフトボール	8/11(日)	好間多目的広場	668
		ソフトテニス		平テニスコート	
		家庭バレーボール		いわき総合体育館・平体育館・小名浜武道館	
		グラウンド・ゴルフ		いわき陸上競技場	

(3) 第40回東北総合体育大会

第40回東北総合体育大会は、山形県内10市6町、宮城県内1市で開催された。

本県選手団は、本部役員15名、監督･選手712名が参加した。今回、国体ブロック大会となる競技・種別・種目のみ実施のため、競技ごとの総合順位は決定しなかった。（陸上競技、レスリング、自転車、相撲、ゲートボールは未実施）

主会期　平成25年8月23日(金)～25日（日）

No.	競技名	競技期間	派遣場所		派遣人数
1	水泳（水球）	8／3～4	山形市	山形市総合スポーツセンター屋外プール	12
2	ボート	7／27～28	宮城県登米市	宮城県長沼ボート場	40
3	カヌー（スラローム・ワイルドウォーター）	7／14	西川町	寒河江川スラローム・ワイルドウォーター競技場	5
	カヌー（スプリント）	7／21	西川町	月山湖カヌーレーシング競技場	17
4	ボウリング	7／13～14	山形市	山形ファミリーボール	16
5	ゴルフ	7／17～18	山形市	蔵王カントリークラブ	4
7	サッカー	8／9～11	天童市	山形県総合運動公園サッカー場・ラグビー場 第２運動広場・第３運動広場	49
8	テニス	8／17～18	天童市	山形県総合運動公園テニスコート	7
9	ホッケー	8／23～25	川西町	川西町総合運動公園ホッケー場	64
10	ボクシング	8／23～25	新庄市	新庄市体育館	13
11	バレーボール	8／24～25	天童市	山形県総合運動公園アリーナ・サブアリーナ	52
12	体操競技	8／24～25	酒田市	酒田市国体記念体育館	22
	新体操	8／23～24			
13	バスケットボール	8／24～25	山形市	山形市総合スポーツセンター 山形県体育館	39
15	ウエイトリフティング	8／24	鶴岡市	鶴岡市羽黒体育館	10
16	ハンドボール	8／24～25 8／31～9／1	東根市 尾花沢市	東根市民体育館・東根工業高校体育館 尾花沢市文化体育施設サルナート	49

17	ソフトテニス	8／24～25	山形市	山形市総合スポーツセンターテニスコート	20
18	卓球	8／23～25	上山市	上山市体育文化センター	15
19	軟式野球	8／24～25	中山町 山形市	山形県野球場 山形市野球場	16
20	馬術	8／23～25	上山市	上山市民馬術場	10
21	フェンシング	8／24～25	米沢市	米沢市営体育館	11
22	柔道	8／24～25	山辺町	山辺町民総合体育館	14
23	ソフトボール	8／23～25	南陽市 白鷹町	南陽市向山公園ソフトボール場 白鷹町ソフトボール場	54
24	バドミントン	8／25	鶴岡市	鶴岡市小真木原総合体育館	12
25	弓道	8／24～25	山形市	山形市総合スポーツセンター弓道場	15
26	ライフル射撃	8／24～25	南陽市	南陽市ライフル射撃場	12
27	剣道	8／24	寒河江市	寒河江市市民体育館	18
28	ﾗｸﾞﾋﾞｰﾌｯﾄﾎﾞｰﾙ	8／23～25	天童市	山形県総合運動公園ラグビー場・サッカー場	35
29	山岳	7／27～28	山形市 飯豊町	山形市　dead Point 飯豊町民スポーツセンター	9
30	アーチェリー	8／24	鶴岡市	鶴岡市小真木原公園南多目的広場	14
31	空手道	8／25	山形市	山形市総合スポーツセンター第２体育館	10
32	銃剣道	8／25	天童市	天童市スポーツセンター	4
33	クレー射撃	8／25	東根市	東根クレー射撃場	6
34	なぎなた	8／25	中山町	中山町総合体育館	5
35	アイスホッケー	12／7～8 12／14～15	山形市	ヒルズサンピア山形スケート場	33

イ　第69回国民体育大会

第69回国民体育大会冬季大会スケート競技会では、男女総合成績第19位、スキー競技会では男女総合第16位の成績を収め、冬季大会における男女総合成績は、第24位で本大会に引き継いだ。

（ア）　参加状況

大会＼区分		会期	開催地	団長	参加競技数	派遣人数 役員	監督	選手	合計
冬季大会	スケート アイスホッケー競技会	H26. 1/28(火)～2/2(日)	栃木県 日光市	佐藤　英壽	2	8	6	35	49
冬季大会	スキー競技会	H26. 2/21(金)～2/24(月)	山形県 山形市 上山市	渡部　孝美	1	11	10	49	70

（イ）　競技成績

大会＼区分	天皇杯 競技得点	参加得点	得点合計	順位	皇后杯 競技得点	参加得点	得点合計	順位
スケート競技会	16点	10点	26.0点	19位	10点	10点	20点	20位
アイスホッケー競技会	5点	10点	15.0点	11位	—	—	—	—
スキー競技会	7.5点	10点	17.5点	16位	6.5点	10点	16.5点	12位
合計	28.5点	30点	58.5点	24位	16.5点	20点	36.5点	19位

（ウ）　入賞状況

a　冬季大会

スケート競技　　競技得点　16点　　天皇杯　19位　　皇后杯　20位

種別	種目	順位	得点	選手名	所属
少年男子	スピード　1500m	7	2	渡邉　晟	郡山商業高等学校　3年
少年男子	スピード　2000mR	5	4	水澤　拓海	安積高等学校　2年
				鈴木　大地	安積高等学校　1年
				鈴木　瑞騎	郡山商業高等学校　1年
				渡邉　晟	郡山商業高等学校　3年
少年女子	スピード　1500m	1	8	水澤　彩佳	郡山商業高等学校　3年
少年女子	スピード　3000m	7	2	水澤　彩佳	郡山商業高等学校　3年

アイスホッケー競技　　競技得点　5点　　天皇杯　11位

種別	種目	順位	得点	選手名	所属
成年男子		8	5	伏島　祐司	郡山第一中学校　教員
				木俵　史章	小高工業高等学校　教員
				大内　康裕	ゼビオ㈱
				笠原裕二郎	ゼビオ㈱
				中村　卓矢	ゼビオ㈱
				本間ジェフリー	ゼビオ㈱
				西間木　渉	アムリタ㈱郡山三穂田温泉
				鈴木　克幸	アムリタ㈱郡山三穂田温泉
				佐藤　大起	郡山地方広域消防組合郡山消防本部
				佐藤　永和	明治大学　3年
				鈴木　博敦	東京消防庁野方消防署
				橋本　圭介	八戸学院大学　4年
				鈴木　秀宜	札幌大学　4年
				後藤　佑亮	東北福祉大学　3年
				中村　和平	㈱ネクスコ・パトロール東北　福島事業所
				佐藤　秀広	八戸学院大学　4年

スキー競技　　競技得点　7.5点　　天皇杯　16位　　皇后杯　12位

種別	種目	順位	得点	選手名	所属
成年女子A	ジャイアントスラローム	5	4	網代　慈子	東海大学　4年
成年女子B	ジャイアントスラローム	7	1.5	竹林奈々子	リゾートトラスト㈱
少年女子	ジャイアントスラローム	10	1	猪俣　美彩	猪苗代高等学校　3年
少年男子	ジャイアントスラローム	10	1	長谷部尚仁	猪苗代高等学校　2年

※スキー競技における少年男女の得点は、上位に３名の同道県の選手がいたため、繰り上がりで得点した。

b　本大会

水泳競技	競技得点　51点		天皇杯　15位		皇后杯　15位	
種別	種目	順位	得点	選手名	所属	
少年男	B100m自由形	4	5	服部　翼	福島成蹊高等学校	1年
	B100mバタフライ	1	8	服部　翼	福島成蹊高等学校	1年
	B100m平泳ぎ	3	6	安部翔一郎	湯本高等学校	1年
	B200m個人メドレー	4	5	加藤　樹	福島成蹊高等学校	1年
	B400mメドレーリレー	3	6	加藤　樹	福島成蹊高等学校	1年
				安部翔一郎	湯本高等学校	1年
				寺田拓未	湯本高等学校	1年
				服部　翼	福島成蹊高等学校	1年
少年女	A100m自由形	4	5	小松桃子	湯本高等学校	3年
成年男	飛板飛込	5	4	西川友章	清陵情報高等学校	教員
成年女	高飛込	3	6	吉田佳世	日本体育大学	4年
少年女	飛板飛込	3	6	吉田真実	安積第二中学校	3年

ボート競技	競技得点　5.5点		天皇杯　31位		皇后杯　23位	
種別	種目	順位	得点	選手名	所属	
成年女	シングルスカル	6	3	吉川由姫	東北大学	3年
少年女	シングルスカル	5	2.5	佐々木幸	田村高等学校	3年

陸上競技	競技得点　42点		天皇杯　16位		皇后杯　14位	
種別	種目	順位	得点	選手名	所属	
成年女	100m	2	7	渡辺真弓	東邦銀行	
	三段跳	7	2	五十嵐麻央	福島大学	3年
	ハンマー投げ	6	3	佐藤若菜	宮城教員クラブ	
	400m	1	8	千葉麻美	東邦銀行	
	女子共通4×100mR	5	4	渡辺真弓	東邦銀行	
				千葉麻美	東邦銀行	
				熊坂真央	福島成蹊高等学校	3年
				村上　穂	福島第四中学校	3年
少年男	共通円盤投	3	6	吉田惇	平工業高等学校	3年
	Aやり投	7	2	村澤雄平	会津学鳳高等学校	2年
	B110mH	6	3	五十嵐礼	会津学鳳高等学校	1年
	B砲丸投	8	1	布川輝	石神中学校	3年
	共通800m	5	4	小林采記	学法石川高等学校	3年
少年女	共通やり投	7	2	荒　裕子	相馬東高等学校	3年

サッカー競技	競技得点　40点		天皇杯　9位		皇后杯　9位	
種別	種目	順位	得点	選手名	所属	
少年男		4	40	オビ　パウエル	富岡高等学校	1年
				牧野　潤	富岡高等学校	1年
				渡邉康平	尚志高等学校	1年
				金城ジャスティン俊樹	富岡高等学校	2年
				稲村知大	尚志高等学校	2年
				吉田直矢	富岡高等学校	1年
				松井輝純	尚志高等学校	1年
				中村駿介	尚志高等学校	2年
				名畑祐杏	富岡高等学校	1年
				柳原隆二	尚志高等学校	1年
				小野寛之	尚志高等学校	1年
				津田亘介	尚志高等学校	2年
				佐藤凌輔	尚志高等学校	1年
				石井凌平	尚志高等学校	1年
				石塚　亮	尚志高等学校	1年
				茂木星也	尚志高等学校	1年

ボクシング競技	競技得点　7.5点		天皇杯　23位			
種別	種目	順位	得点	選手名	所属	
成年男	バンタム級	5	2.5	渡部哲也	駒澤大学	4年
	ライト級	5	2.5	遠藤智秀	東洋大学	4年
	ウェルター級	5	2.5	齋藤　晶	拓殖大学	4年

レスリング競技	競技得点　16点		天皇杯　26位			
種別	種目	順位	得点	選手名	所属	
成年男	ｸﾞﾚｺﾛｰﾏﾝｽﾀｲﾙ55kg級	5	2.5	水野雄太	水野工務店	
	ｸﾞﾚｺﾛｰﾏﾝｽﾀｲﾙ60kg級	3	5.5	田野倉翔太	クリナップ（株）	
	ﾌﾘｰｽﾀｲﾙ120kg級	5	2.5	角田友紀	東京農業大学	4年
少年男	ｸﾞﾚｺﾛｰﾏﾝｽﾀｲﾙ60kg級	3	5.5	我妻翔比古	田島高等学校	3年

ｳｴｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ競技		競技得点	53点	天皇杯	5位	
種別	種目	順位	得点	選手名	所属	
成年男	53kg級スナッチ	3	6	吉田真弘	三春町役場	
	53kg級C&J	2	7	吉田真弘	三春町役場	
	69kg級スナッチ	2	7	熊川雄太	拓殖大学	4年
少年男	53kg級スナッチ	5	4	中野直樹	川俣高等学校	3年
	53kg級C&J	5	4	中野直樹	川俣高等学校	3年
	62kg級スナッチ	1	8	近内三孝	田村高等学校	3年
	62kg級C&J	1	8	近内三孝	田村高等学校	3年
	94kg級スナッチ	5	4	佐藤啓隆	福島工業高等学校	2年
	94kg級C&J	4	5	佐藤啓隆	福島工業高等学校	2年

自転車競技		競技得点	31点	天皇杯	7位	
種別	種目	順位	得点	選手名	所属	
成年男	ポイントレース	2	7	緑川竣一	中央大学	3年
少年男	1kmタイム・トライアル	3	6	西尾滉平	平工業高等学校	3年
男子	4kmチーム・パーシュート	3	18	吉田優樹	日本大学	1年
				我妻優弥	日本大学	3年
				緑川竣一	中央大学	3年
				久保田元気	日本大学	3年

馬術競技		競技得点	11点	天皇杯	24位	皇后杯	27位
種別	種目	順位	得点	選手名	所属		
成年男	馬場馬術	6	3	杉本隆雄	東北馬事センター		
	自由演技馬場馬術	4	5	杉本隆雄	東北馬事センター		
	トップスコア	6	3	吉田学人	東北馬事センター		

相撲競技		競技得点	0点	天皇杯	14位	
種別	種目	順位	得点	選手名	所属	
成年男	個人戦	5	0	齋藤健	駒澤大学	2年

※個人戦は獲得得点なし

ソフトボール競技		競技得点	44点	天皇杯	12位	皇后杯	6位
種別	種目	順位	得点	選手名	所属		
少年女		3	44	鹿目真実	帝京安積高等学校		3年
				宮川眞子	帝京安積高等学校		3年
				岡部沙綺	帝京安積高等学校		3年
				鳳平綾香	帝京安積高等学校		3年
				朝倉早紀	帝京安積高等学校		3年
				鳴原涼夏	帝京安積高等学校		3年
				小檜山美咲	帝京安積高等学校		3年
				大塚あすか	帝京安積高等学校		2年
				渡部恵理花	福島東稜高等学校		3年
				新田麗	福島東稜高等学校		3年
				円谷玲緒奈	郡山東高等学校		3年
				村田理央	郡山東高等学校		3年
				酒井秀香	尚志高等学校		3年

剣道競技		競技得点	12.5点	天皇杯	14位	皇后杯	14位
種別	種目	順位	得点	選手名	所属		
成年男子		5	12.5	武藤士津夫	福島県警察		
				下重成彌	福島県警察		
				原田賢治	福島県警察		
				鈴木洋隆	塙中学校	教員	
				増井將次	福島県警察		

バドミントン競技		競技得点	30点	天皇杯	5位	皇后杯	3位
種別	種目	順位	得点	選手名	所属		
成年女子		4	15	高木美季	日本体育大学		3年
				早田紗希	ヨネックス（株）		
				篠田未来	専修大学		3年
少年男子		5	7.5	保木卓朗	富岡高等学校		3年
				小林優吾	富岡高等学校		3年
				古賀穂	富岡高等学校		2年
少年女子		5	7.5	濱北もも	富岡高等学校		2年
				東野有紗	富岡高等学校		2年
				川上紗恵奈	富岡高等学校		1年

カヌー競技	競技得点 33点	天皇杯 16位	皇后杯 12位		
種別	種目	順位	得点	選手名	所属
成年男	ｶﾔｯｸｼﾝｸﾞﾙ500m	2	7	鈴木康大	(株)久野製作所
成年女	ｶﾔｯｸｼﾝｸﾞﾙ500m	6	3	中野友貴	筑波大学 4年
成年女	ｶﾔｯｸｼﾝｸﾞﾙ200m	7	2	中野友貴	筑波大学 4年
少年男	ｶﾔｯｸｼﾝｸﾞﾙ500m	5	4	菅野寿斗	安達高等学校 3年
少年男	ｶﾔｯｸｼﾝｸﾞﾙ200m	5	4	菅野寿斗	安達高等学校 3年
少年女	ｶﾔｯｸｼﾝｸﾞﾙ500m	1	8	小久保南海	安達高等学校 1年
少年女	ｶﾔｯｸｼﾝｸﾞﾙ200m	4	5	小久保南海	安達高等学校 1年

ボウリング競技	競技得点 27点	天皇杯 10位	皇后杯 14位		
種別	種目	順位	得点	選手名	所属
成年男	団体（４人チーム）	2	21	伊藤丈	(株)東北装美
				大塚正	(有)城南製作所
				林勇介	(株)プロスタイル
				中田明	福浜大一建設(株)
成年女	団体（４人チーム）	8	3	斎藤あ咲	青森中央学院大学 3年
				石塚香織	(株)維芯
				鈴木英子	日立オートモティブシステムズ(株)
				志賀章子	(株)郡山電機製作所
	団体（２人チーム）	8	3	鈴木英子	日立オートモティブシステムズ(株)
				志賀章子	(株)郡山電機製作所

トライアスロン競技					
種別	種目	順位	得点	選手名	所属
成年女		5	0	菊池日出子	福島県トライアスロン協会

※トライアスロン競技は公開競技のため競技得点なし

(5) 各種共催行事(スポーツ課関係)

行事名	主催者名	場所
第66回福島県総合体育大会	福島県総合体育大会実行委員会	県内各地
第25回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会	福島民報社	白河市～福島市

No.	競技名	出場大会名	氏　名 (所　属)	開催場所	期　間	種目・成績	出身校等
1	陸上競技	第20回アジア陸上選手権大会	渡辺 真弓 (東邦銀行)	インド プネー	7／3～7	100m 4位 200m 予選敗退 4×100R 2位	福島大
2	陸上競技	第20回アジア陸上選手権大会	青木 紗弥佳 (東邦銀行)	インド プネー	7／3～7	4×400mR 3位	福島大
3	陸上競技	第20回アジア陸上選手権大会	千葉 麻美 (東邦銀行)	インド プネー	7／3～7	4×400mR 3位	郡山東→福島大
4	陸上競技	第6回東アジア競技大会	星 創太 (富士通)	中国 天津	10／7～9	5000m 1位	会津工→駒澤大
5	陸上競技	第6回東アジア競技大会	青木 紗弥佳 (東邦銀行)	中国 天津	10／7～9	400mH 2位	福島大
6	陸上競技	ユニバーシアード夏季大会	記野 友晴 (福岡大大学院)	ロシア カザン	7／10	400mH 4位	会津学鳳高校
7	陸上競技	アジアユースパラ競技マレーシア2013	佐々木 真菜 (盲学校1年)	マレーシア アラルンプール	10／26～30	T13 1500m 1位 T13 800m 1位	県立盲学校
8	サッカー	AFC(アジアサッカー連盟)U―14選手権2014予選	池髙 暢希 (アカデミー福島)	香港	4／11～16	グループH2位	
9	サッカー	AFC(アジアサッカー連盟)U―14選手権2014予選	田村 祐二朗 (アカデミー福島)	香港	4／11～16	グループH2位	
10	サッカー	AFC U-19選手権2014 予選	金子 翔太 (アカデミー福島)	中国 浙江省	10／8～12	1位	
11	サッカー	AFC U-19女子選手権	三宅 史織 (アカデミー福島)	中国 南京	10／11～20	4位	
12	サッカー	AFC U-19女子選手権	井上 ねね (アカデミー福島)	中国 南京	10／11～20	4位	
13	サッカー	AFC U-19女子選手権	平尾 知佳 (アカデミー福島)	中国 南京	10／11～20	4位	
14	サッカー	AFC U-19女子選手権	乗松 瑠華 (アカデミー福島)	中国 南京	10／11～20	4位	
15	サッカー	AFC U-19女子選手権	小島 美玖 (アカデミー福島)	中国 南京	10／11～20	4位	
16	卓球	ジャパンオープン・荻村杯	根本 理世 (十六銀行)	日本 横浜市	6／19～23	予選リーグ敗退(1勝1敗)	桜の聖母→中央大
17	卓球	第27回ユニバーシアード競技大会卓球競技	根本 理世 (十六銀行)	ロシア カザン	7／8～15	女子団体 1位 女子ダブルス 3位	桜の聖母→中央大
18	卓球	クウェートオープン	根本 理世 (十六銀行)	クウェート	2／12～16	予選リーグ敗退(0勝2敗)	桜の聖母→中央大
19	卓球	カタールオープン	根本 理世 (十六銀行)	カタール	2／19～23	予選リーグ通過(2勝0敗) 決勝トーナメント1回戦敗退	桜の聖母→中央大
20	水泳	第6回東アジア大会	吉田 佳代 (日本体育大学)	中国 天津	10／7～9	女子高飛込シンクロ 第4位	清陵情報→日体大
21	自転車	第33回アジア自転車競技選手権大会・第20回アジアジュニア自転車競技選手権	吉田 優樹 (学法石川高校)	インド ニューデリー	3／7～17	男子ジュニアロードレース(99.4km) 12位	学法石川高校出身
22	自転車	2013ツール・ド・イストリア(UCI ジュニアネイションズカップ	吉田 優樹 (日本大学)	クロアチア	4／19～21	122位	学法石川高校出身
23	自転車	2013トラック中国国際大会	渡邉 一成 ((社)日本競輪選手会福島支部)	中国・北京	6／28～30	ケイリン男子 1位	小高工高卒
24	自転車	2013年ドイツ国際大会 スプリンター・ミーティング(CL1)	渡邉 一成 ((社)日本競輪選手会福島支部)	ドイツ ドゥーデンホーフェン	8／30～31	男子ケイリン 6位	小高工高卒
25	自転車	2013年ドイツ国際大会 スプリンター・ミーティング(CL1)	渡邉 一成 ((社)日本競輪選手会福島支部)	ドイツ ドゥーデンホーフェン	8／30～31	男子スプリント 2位	小高工高卒
26	自転車	2013年ドイツ国際大会 コットバス・ナイト(CL1)	渡邉 一成 ((社)日本競輪選手会福島支部)	ドイツ コットバス	8／20～26	男子ケイリン 7位	小高工高卒
27	自転車	第6回東アジア競技大会	新田 祐大 ((社)日本競輪選手会福島支部)	中国 天津	10／14～15	男子1000mタイムトライアル 1位 男子スプリント 1位	白河高校卒
28	自転車	2013～14 UCIトラックワールドカップ第1戦	渡邉 一成 ((社)日本競輪選手会福島支部)	イギリス マンチェスター	11／1～3	男子ケイリン 19位 男子チームスプリント 第9位	小高工高卒

29	自転車	2013～14 UCIトラックワールドカップ第2戦	渡邉 一成 ((社)日本競輪選手会福島支部)	メキシコ アグアスカリエンテス	12／5～7	男子ケイリン 12位 男子チームスプリント 7位 Cycle Channel Tokyo 43.092(予選タイム・日本新記録) 河端 朋之(JPCA・JPCU岡山) 中川誠一郎(JPCA・JPCU熊本)	小高工高卒
30	自転車	2013～2014UCIトラックワールドカップ第3戦	渡邉 一成 ((社)日本競輪選手会福島支部)	メキシコ グアダラハラ	1／17～19	2月26日(水)現地時間 ●男子チームスプリント 1位 ニュージーランド NZL 42秒840 2位 ドイツ GER 42秒885 3位 フランス FRA 43秒285 11位 日本(河端・中川・渡邉)JPN 44秒938 渡邉 一成(JPCA・JPCU福島)	小高工高卒
31	ライフル射撃	ライフル射撃ワールドカップ	佐藤 絹子 (警視庁)	韓国 昌原	4／5	25mピストル 予選敗退	原町高校
32	ライフル射撃	東アジア選手権	佐藤 絹子 (警視庁)	中国 天津	10／10	女子エアピストル個人予選敗退 女子エアピストル団体3位	原町高校
33	バスケットボール	第3回FIBA ASIA U－16女子バスケットボール選手権大会	水野 妃奈乃 (福島西高2年)	スリランカ コロンボ	11／18～25	2位	清水中→福島西高
34	バスケットボール	第3回東アジアバスケットボール選手権	美原 貴宏 (東芝ブレイブサンダース)	韓国 仁川	5／16～21	3位	日大東北高→日本大
35	バスケットボール	第35回ウィリアム・ジョーンズカップ	美原 貴宏 (東芝ブレイブサンダース)	台湾 台北	7／7～14	7位	日大東北高→日本大
36	バスケットボール	第27回FIBA ASIA男子バスケットボール選手権大会	美原 貴宏 (東芝ブレイブサンダース)	フィリピン マニラ	8／1～11	9位	日大東北高→日本大
37	バスケットボール	アジアユースパラ競技マレーシア2013	森谷 幸生 (江戸川大)	マレーシア アラルンプール	10／26～30	2位	いわき市出身
38	バドミントン	オーストラリアオープン2013[GPG]	桃田 賢斗 (NTT東日本)	オーストラリア シドニー	4／2～7	男子シングルス ベスト16	富岡高卒
39	バドミントン	2013年アジアバドミントン選手権大会[GPG]	桃田 賢斗 (NTT東日本)	台湾 台北	4／16～21	男子シングルス 2回戦敗退	富岡高卒
40	バドミントン	インドオープン2013[SS]	桃田 賢斗 (NTT東日本)	インド ニューデリー	4／23～28	男子シングルス 1回戦敗退	富岡高卒
41	バドミントン	インドネシアオープンスーパーシリーズプレミア2013[SSP]	桃田 賢斗 (NTT東日本)	インドネシア ジャカルタ	6／10～16	男子シングルス 1回戦敗退	富岡高卒
42	バドミントン	シンガポールオープン2013[SS]	桃田 賢斗 (NTT東日本)	シンガポール シンガポール	6／18～23	男子シングルス ベスト8	富岡高卒
43	バドミントン	USオープン2013[GPG]	桃田 賢斗 (NTT東日本)	アメリカ カリフォルニア州 オレンジ郡	7／8～13	男子シングルス ベスト4	富岡高卒
44	バドミントン	中国マスターズ2013[SS]	桃田 賢斗 (NTT東日本)	中国 常州	9／10～15	男子シングルス ベスト8	富岡高卒
45	バドミントン	ヨネックスオープンジャパン2013[SS]	桃田 賢斗 (NTT東日本)	日本 東京	9／17～22	男子シングルス ベスト16	富岡高卒
46	バドミントン	YONEX OPEN JAPAN 2013	桃田 賢斗 (NTT東日本)	日本 東京	9／22～17	男子シングルス 2回戦敗退	富岡高卒
47	バドミントン	デンマークオープン2013[SSP]	桃田 賢斗 (NTT東日本)	デンマーク オーデンセ	10／15～20	男子シングルス 1回戦敗退	富岡高卒
48	バドミントン	フランスオープン2013[SS]	桃田 賢斗 (NTT東日本)	フランス パリ	10／22～27	男子シングルス 1回戦敗退	富岡高卒
49	バドミントン	中国オープン2013[SSP]	桃田 賢斗 (NTT東日本)	中国 上海	10／16	男子シングルス 3位	富岡高卒
50	バドミントン	香港オープン2013[SSP]	桃田 賢斗 (NTT東日本)	中国 香港特別行政区 (マカオ)	11／19～24	男子シングルス 1回戦敗退	富岡高卒
51	バドミントン	韓国オープン2014	桃田 賢斗 (NTT東日本)	韓国 ソウル	1／7～1／12	男子シングルス 2回戦敗退	富岡高卒
52	バドミントン	マレーシアオープン2014	桃田 賢斗 (NTT東日本)	マレーシア クアラルンプール	1／14～1／19	男子シングルス ベスト8	富岡高卒
53	バドミントン	韓国オープン2014	桃田 賢斗 (NTT東日本)	韓国 ソウル	1／3～12	男子シングルス 2回戦敗退	富岡高卒
54	バドミントン	マレーシアオープン2014	桃田 賢斗 (NTT東日本)	マレーシア クアラルンプール	1／14～19	男子シングルス ベスト8	富岡高卒
55	バドミントン	バドミントンドイツオープン2014	桃田 賢斗 (NTT東日本)	ドイツ ミュルハイム・ アン・デア・ルール	2／25～3／2	男子シングルス 3回戦敗退	富岡高卒
56	バドミントン	第104回全英オープンバドミントン選手権大会	桃田 賢斗 (NTT東日本)	イギリス バーミンガム	3／4～9	男子シングルス ベスト8	富岡高卒

57	バドミントン	第27回ユニバーシアード競技大会	齋藤 太一 (早稲田大2年)	ロシア カザン	7／5～11	混合団体 6位 男子ダブルス(古賀・齋藤)3回戦敗退 9位 混合ダブルス(齋藤・平井)2回戦敗退 17位	富岡高卒
58	バドミントン	2013年アジアユースU19バドミントン選手権大会	大堀 彩 (富岡高校)	マレーシア コタキナバル	7／7～14	女子シングルス 1位	
59	バドミントン	2013年アジアユースU19バドミントン選手権大会	小林優吾・保木卓朗・大堀 彩・東野有紗 (富岡高校)	マレーシア コタキナバル	7／7～14	日本チーム団体 3位	
60	バドミントン	アジアユースバドミントン選手権大会	古賀 稔 (富岡高校)	中国 南京	8／21	混合ダブルス 1位	
61	バドミントン	YONEX OPEN JAPAN 2013	松居圭一郎 (日本体育大学2年)	日本 東京	9／17～22	男子シングルス 1回戦敗退	富岡高卒
62	バドミントン	YONEX OPEN JAPAN 2013	大堀 彩 (富岡高校2年)	日本 東京	9／17～22	女子シングルス 3回戦敗退	
63	バドミントン	ロシアオープン2013	大堀 彩 (富岡高校2年)	ロシア ウラジオストク	9／24～29	女子シングルス 1位	
64	バドミントン	東アジア選手権	大堀 彩 (富岡高校2年)	中国 天津	10／8～13	団体戦 3位 女子シングルス 3位	
65	バドミントン	東アジア選手権	松居圭一郎 (日本体育大学1年)	中国 天津	10／8～13	団体戦 1勝3敗 男子ダブルス 三浦・松居 準々決勝敗退	富岡高卒
66	バドミントン	2013世界ジュニアバドミントン 選手権大会	日本チーム	タイ バンコク	10／23～11/4	団体戦 3位 小林優吾 保木 卓朗 大堀 彩 東野 有紗	
67	バドミントン	2013世界ジュニアバドミントン 選手権大会	大堀 彩 (富岡高校2年)	タイ バンコク	10／23～11/4	女子シングルス 2位	
68	バドミントン	2013世界ジュニアバドミントン選手権大会	小林優吾・保木卓朗・大堀 彩・東野有紗 (富岡高校)	タイ バンコク	10／23～11/3	日本チーム団体 3位	
69	バドミントン	2013世界ジュニアバドミントン選手権大会	大堀 彩 (富岡高校2年)	タイ バンコク	10／23～11/3	女子シングルス 2位	
70	バドミントン	USAインターナショナル2013 インターナショナルチャレンジ	小林 優吾 保木 卓朗 (富岡高校3年)	アメリカ オーランド	11／6～10	男子シングルス ③小林優吾 保木卓朗 ベスト16 男子ダブルス 小林優吾・保木卓朗 ベスト8	
71	バドミントン	香港オープン2013	大堀 彩 (富岡高校2年)	中国 香港特別行政区 (マカオ)	11／19～24	女子シングルス 2回戦敗退	
72	バドミントン	第12回日韓ジュニアバドミントン競技大会	男 子 山澤 直貴 筑後 憲太 仁平 菜月 女 子 香妻 咲弥 由良 なぎさ 水井 ひらり	韓国 光州	11／26～29	男子団体戦 4勝5敗 女子団体戦 5勝4敗	
73	バドミントン	平成25年度 日・韓高校生バドミントン交流競技会	三橋 健也 渡辺 勇大 古賀 稔 東野 有紗 川上紗恵奈	長崎県 長崎	12／13～15	出場	
74	バドミントン	2014年アジアユースU19バドミントン選手権大会	古賀 稔 渡辺 勇大 三橋 健也 仁平 菜月 東野 有紗 大堀 彩	台湾 台北	2／16～23	団体戦 日本チーム団体 3位	
75	バドミントン	2014年アジアユースU20バドミントン選手権大会	古賀 稔 (富岡高校)	台湾 台北	2／16～23	男子シングルス 2回戦敗退	
76	バドミントン	2014年アジアユースU20バドミントン選手権大会	仁平 菜月 (富岡一)	台湾 台北	2／16～23	女子シングルス 2回戦敗退	
77	バドミントン	2014年アジアユースU20バドミントン選手権大会	大堀 彩 (富岡高校2年)	台湾 台北	2／16～23	女子シングルス 3回戦敗退	
78	バドミントン	2014年アジアユースU20バドミントン選手権大会	三橋 健也 渡辺 勇大 (富岡高校)	台湾 台北	2／16～23	男子ダブルス 3位	
79	バドミントン	2014年アジアユースU20バドミントン選手権大会	東野 有紗 (富岡) 永原和 奈 (青森山田)	台湾 台北	2／16～23	女子ダブルス 3回戦敗退	
80	バドミントン	2014年アジアユースU22バドミントン選手権大会	渡辺 勇大 東野 有紗 (富岡)	台湾 台北	2／16～23	混合ダブルス 3回戦敗退	
81	バドミントン	2014年アジアユースU22バドミントン選手権大会	三橋 健也 (富岡) 荒木 香羽 (青森山田)	台湾 台北	2／16～23	混合ダブルス ベスト8	
82	バドミントン	ベトナムインターナショナルチャレンジ2014	小林 優吾 保木 卓朗 (富岡高校3年)	ベトナム ハノイ	3／25～30	男子シングルス 小林優吾 3回戦敗退 保木卓朗 1回戦敗退 男子ダブルス 小林優吾・保木卓朗 3回戦敗退	
83	柔道	第3回ロシア警察・軍隊国際団体柔道大会	野島 恒久 (福島県警機動隊)	ロシア モスクワ	4／6	2位	熊本県出身→福島県警

84	スキー	ワールドカップ複合個人第2戦	渡部 剛弘 (明治大学2年)	リレハンメル	12／7	38位	猪苗代高校卒
85	スキー	ワールドカップ複合個人第3戦	渡部 剛弘 (明治大学2年)	リレハンメル	12／8	45位	猪苗代高校卒
86	スキー	ワールドカップ複合個人第14戦	渡部 剛弘 (明治大学2年)	フィンランド	2／28	27位	猪苗代高校卒
87	スキー	ワールドカップ複合団体第5戦	渡部 剛弘 (明治大学2年)	フィンランド	3／1	17位	猪苗代高校卒
88	スキー	ワールドカップフリースタイルモーグル第1戦	星野 純子 (リステル)	フィンランド	12／14	予選敗退	新潟大→リステル
89	スキー	ワールドカップフリースタイルモーグル第2戦	星野 純子 (リステル)	カルガリー	1／4	第10位	新潟大→リステル
90	スキー	ワールドカップフリースタイルモーグル第3戦	星野 純子 (リステル)	アメリカ ユタ	1／9	予選敗退	新潟大→リステル
91	スキー	ワールドカップフリースタイルモーグル第4戦	星野 純子 (リステル)	アメリカ ユタ	1／11	予選敗退	新潟大→リステル
92	スキー	ワールドカップフリースタイルモーグル第6戦	星野 純子 (リステル)	カナダ	1／19	第3位	新潟大→リステル
93	スキー	ソチオリンピック	星野 純子 (リステル)	ロシア ソチ	2／6～8	予選敗退	新潟大→リステル
94	スキー	ワールドカップフリースタイル	星野 純子 (リステル)	猪苗代	3／1～2	モーグル 6位 デュアルモーグル 第3位	新潟大→リステル
95	ウエイトリフティング	世界マスターズウエイトリフティング	滝野 裕宮 (福島明成高校教諭)	イタリア トリノ	8／3～10	M45 105kg級	
96	ウエイトリフティング	世界マスターズウエイトリフティング	今野 金哉	イタリア トリノ	8／3～10	M65 77kg級 5位	
97	ウエイトリフティング	第21回日・韓・中ジュニア交流競技会	近内 三孝 (田村高)	中国 山東省	8／23～29	62kg級 1位	
98	ウエイトリフティング	第28回アジアジュニア選手権大会	近内 三孝 (田村高)	タイ バンコク	3／9～12	62kg級 5位	
99	レスリング	第1回ハリ・ラム・グランプリ大会	鈴木 博恵 (クリナップ)	インド ニューデリー	5／26～27	女子72kg級 3位＝9選	立命館大
100	レスリング	アジア選手権	田野倉翔太 (クリナップ)	インド ニューデリー	4／18～19	グレコローマン 55kg級 2位＝9選手出場	日本体育大学
101	レスリング	アジア選手権	前田 将吾 (クリナップ)	インド ニューデリー	4／18～22	フリースタイル 60kg級 5位＝16選手出場	日本体育大学→至学館大学職員
102	レスリング	アジア選手権	鈴木 博恵 (クリナップ)	インド ニューデリー	4／19～21	女子72kg級 1位＝7選手出場	立命館大
103	レスリング	アジア選手権	井上 佳子 (クリナップ)	インド ニューデリー	4／19～21	67kg級 6位＝7選手出場	至学館大
104	レスリング	第27回ユニバーシアード	田野倉翔太 (クリナップ)	ロシア カザン	7／6～17	男子グレコローマン55kg級 3位	日本体育大学
105	レスリング	世界選手権	田野倉翔太 (クリナップ)	ハンガリー ブダペスト	9／16～22	グレコローマン 55kg級 3回戦 敗退 14位＝33選手出	日本体育大学
106	レスリング	世界選手権	前田 将吾 (クリナップ)	ハンガリー ブダペスト	9／16～22	フリースタイル 60kg級 3回戦 負傷棄権 17位＝39選手出場	日本体育大学→至学館大学職員
107	レスリング	世界選手権	鈴木 博恵 (クリナップ)	ハンガリー ブダペスト	9／16～22	女子72kg級 敗復戦 敗退 9位＝25選手出場	立命館大
108	レスリング	NYACホリデー国際大会	鈴木 博恵 (クリナップ)	米国 ニューヨーク	11／8	女子72kg級 1位	立命館大
109	レスリング	ゴールデン・グランプリ(GP)決勝大会	田野倉翔太 (クリナップ)	アゼルバイジャン バクー	11／22～24	男子55kg級 55kg級 1回戦敗退 13位＝18選手出場	日本体育大学
110	レスリング	ゴールデン・グランプリ(GP)決勝大会	井上 佳子 (クリナップ)	アゼルバイジャン バクー	11／22～24	女子67kg級 5位＝11選手出場	至学館大
111	レスリング	ゴールデン・グランプリ(GP)決勝大会	鈴木 博恵 (クリナップ)	アゼルバイジャン バクー	11／22～24	女子72kg級 2位＝8選手出場	立命館大
112	レスリング	ヤデガー・イマム国際大会	田野倉翔太 (クリナップ)	イラン テヘラン	1／23～24	男子グレコローマン59kg級 12位	日本体育大学

113	レスリング	モンゴル・オープン国際大会	鈴木 博寒 (クリナップ)	モンゴル ウランバートル	3／1～2	女子75kg級 1位	立命館大
114	フェンシング	アジアジュニアカデフェンシング選手権大会	佐々木 陽菜 (成隊高2年)	ヨルダン	3／12～16	カデ女子サーブル団体 3位 カデ女子サーブル個人 10位	
115	カヌー	カヌースプリント ワールドカップ第1戦	鈴木 康大 (久野製作所)	ハンガリー セゲド	5／4～14	カヤックシングル 500mC決勝 5位 カヤックシングル 1000mC決勝 6位	
116	カヌー	第27回ユニバーシアード	宮田 悠佑 (鹿屋体育大学4年)	ロシア カザン	7／13～15	カヤックシングル 500m準決勝 7位 カヤックシングル 1000m準決勝 7位	
117	カヌー	カヌースプリントジュニアU－23世界選手権大会	菅野 寿斗 (安達高校3年)	カナダ ウェランド	8／1～4	カヤックペア 200mB決勝 17位 カヤックペア 1000m準決勝 8位	
118	カヌー	カヌースプリントジュニアU－23世界選手権大会	小久保南海 (安達高校1年)	カナダ ウェランド	8／1～4	カヤックフォア 500m準決勝 9位	
119	カヌー	カヌースプリント アジア選手権大会	鈴木 康大 (久野製作所)	ウズベキスタン サマルカンド	9／26～29	カヤックシングル 1000m第4位 500m第3位	
120	ボッチャ	アジアユースパラ競技マレーシア2013	大堀 誠真 (NPO法人スケッチブック)	マレーシア アラルンプール	10／26～30	BC3個人戦 1位 BC3団体戦 1位	

スタッフ等

No.	競技名	出場大会名	氏 名 (所 属)	開催場所	期 間	種目・成績	役 職
1	自転車	2013年UCIジュニアトラック世界選手権大会	近目真紀夫 (白河実業高校)	イギリス グラスゴー	8／3～13		コーチ
2	自転車	2013年オーストラリアユースオリンピック フェスティバル	近目真紀夫 (白河実業高校)	オーストラリア シドニー	H25 1／14～21		コーチ
3	バドミントン	2013世界ジュニアバドミントン選手権大会	大堀 均 (富岡高校)	タイ バンコク	10／23～11/3		コーチ
4	ラグビー	第21回日・韓・中ジュニア交流競技会	坂本 幸司 (磐城高校)	中国 維坊	8／24～27		監督
5	スケート (ショートトラック)	第 26 回ユニバーシアード冬季競技大会 (スケート・ショートトラック)	菊池由喜男 (安積高校御舘高)	イタリア トレンティーノ	12／11～21		コーチ
6	スピードスケート	ソチ冬季オリンピック	門間崇文 (わたなべ整形外科・東京・文京区)	ロシア ソチ	2/19		トレーナー 福島大学卒
7	レスリング	第1回ハリ・ラム・グランプリ大会	今村 浩之 (クリナップ)	インド ニューデリー	5／26～27		監督
8	レスリング	アジア選手権	今村 浩之 (クリナップ)	インド ニューデリー	4／18～22		男子フリースタイル 監督
9	レスリング	NYACホリデー国際大会	今村 浩之 (クリナップ)	アメリカ ニューヨーク	11／9～10		女子 監督
10	レスリング	ゴールデン・グランプリ(GP)決勝大会	今村 浩之 (クリナップ)	アゼルバイジャン バクー	11／22～24		女子監督 コーチ
11	アイスホッケー	第 26 回ユニバーシアード冬季競技大会 (スケート・ショートトラック)	笠原裕二郎 (ゼビオ株式会社)	イタリア トレンティーノ	12／10～20	第4位	女子監督
12	カヌー	カヌースプリントジュニアU－23世界選手権大会	小久保英一知 (あぶくま養護学校)	カナダ ウェランド	8／1～4		ジュニア監督
13	ボッチャ	アジアユースパラ競技マレーシア2013	国分 章夫 (郡山養護学校)	マレーシア アラルンプール	10／26～30		パートナー
14	ボッチャ	アジアユースパラ競技マレーシア2013	若松 伸司 (郡山養護学校)	マレーシア アラルンプール	10／26～30		コーチ
15	車いすバスケットボール	アジアユースパラ競技マレーシア2013	菅野 英輔 (いわきサン・アビリーズ)	マレーシア アラルンプール	10／26～30		審判員
16	バイアスロン	ソチ冬季オリンピック	渡部 恒 (陸上自衛隊)	ロシア ソチ	2/19		コーチ 猪苗代高校卒

※以下は本県ゆかりの選手

No.	競技名	出場大会名	氏 名 (所 属)	開催場所	期 間	種目・成績	本県とのゆかり
1	陸上	第20回アジア陸上競技選手権大会	久保倉 里美 (新潟アルビレックス)	インド プネー	7／3～7	400mH 1位 4×400mR 3位	福島大
2	陸上	世界陸上	久保倉 里美 (新潟アルビレックス)	ロシア モスクワ	8／12	予選敗退	福島大
3	サッカー	東アジアカップ	高萩洋次郎 (サンフレッチェ広島)	韓国	7／20	1位	福田中卒
4	サッカー	東アジア大会	吉沢 侑衣香	中国 天津	10／6～15	3位	JAFアカデミー出身
5	サッカー	東アジア大会	山根 恵里奈	中国 天津	10／6～15	4位	JAFアカデミー出身
6	サッカー	東アジア大会	浜田 遥	中国 天津	10／6～15	5位	JAFアカデミー出身

7	サッカー	AFC U-19選手権2014 予選	松本 昌也 （大分トリニータ）	中国 浙江省	10／8～12	1位	JAFアカデミー出身
8	サッカー	ラ・マンガ国際大会	井上 ねね	スペイン	3／1～5	2勝1敗	JAFアカデミー出身
9	サッカー	ラ・マンガ国際大会	乗松 瑠華	スペイン	3／1～5	2勝1敗	JAFアカデミー出身
10	サッカー	アルガルベカップ	山根 恵里奈	ポルトガル ファロ	3／6～13	2位	JAFアカデミー出身
11	水泳（競泳）	第15回世界選手権	立石 諒 （ミキハウス）	スペイン バルセロナ	7／28～8／4	200m平泳ぎ 第8位	幼稚園～小学4年生まで那山市に住む
12	自転車	第33回アジア自転車競技選手権大会 第20回アジア・ジュニア自転車競技選手権大会	窪木 一茂 （和歌山県庁）	インド ニューデリー	3／7～3／17	男子エリートチームパーシュート決勝 第2位日本（窪木・一丸・橋本・伊藤）4分11秒103（日本新） オムニアムポイントレース 第2位 オムニアム個人パーシュート 第4位 オムニアムエリミネイション 第2位 オムニアムスクラッチ 窪木3位 男子エリートオムニアム 第3位	学法石川高出身
13	自転車	第6回東アジア競技大会	窪木 一茂 （和歌山県庁）	中国 天津	10／14～15	男子4km個人追抜競走 第6位	学法石川高校出身
14	自転車	2013～14 UCIトラックワールドカップ第1戦	窪木 一茂 （和歌山県庁）	イギリス マンチェスター	11／1～3	男子オムニアム 1 DE BUYST Jasper BEL 18p 2 VELDT Tim NED 20p 3 DAVISON Luke AUS 34p 14 窪木 一茂 JPN 和歌山・和歌山県庁 79p 男子オムニアム 窪木 一茂 JPN 和歌山・和歌山県庁 I フライング・ラップ 18 14.104 II ポイントレース（30km） 10 5p III エリミネイションレース 14 IV 4km個人追抜競走 14 4:40.721 V スクラッチ 7 VI 1kmTT 16 1:07.028	学法石川高校出身
15	自転車	2014年香港インターナショナルトラックカップ	窪木 一茂 （和歌山県庁）	中国 香港	1／10～12	チーム・パシュート 第2位 日本4分17秒501	学法石川高校出身
16	バスケットボール	第3回FIBA ASIA U－16女子バスケットボール選手権大会	遠藤 楓 （桜花学園高校1年）	スリランカ コロンボ	11／18～25	2位	白河中央中→桜花学園高
17	スキー	ワールドカップフリースタイルモーグル第1戦	遠藤 尚 （忍建設）	フィンランド	12／14	第3位	猪苗代高校卒
18	スキー	ワールドカップフリースタイルモーグル第3戦	遠藤 尚 （忍建設）	アメリカ ユタ	1／9	第7位	猪苗代高校卒
19	スキー	ワールドカップフリースタイルモーグル第4戦	遠藤 尚 （忍建設）	アメリカ ユタ	1／9	第14位	猪苗代高校卒
20	スキー	ワールドカップフリースタイルモーグル第6戦	遠藤 尚 （忍建設）	カナダ	1／19	第6位	猪苗代高校卒
21	スキー	ソチオリンピック	遠藤 尚 （忍建設）	ロシア ソチ	2／8，9	第15位	猪苗代高校卒
22	スキー	フリースタイルワールドカップ	遠藤 尚 （忍建設）	猪苗代	3／1～2	モーグル 予選敗退 デュアルモーグル 第2位	猪苗代高校卒
23	スキー	障害者スキーワールドカップ	鈴木 猛史 （駿河台大学職員）	イタリア	2／26	男子座位 第3位	猪苗代高校卒
24	スキー	ソチパラリンピック	鈴木 猛史 （駿河台大学職員）	ロシア ソチ	3／8～9	男子回転座位 第1位 男子滑降座位 第3位	猪苗代高校卒
25	スピードスケート	フォールクラシック	穂積 雅子 （ダイチ）	カナダ カルガリー	9／21～22	3000m 2位 5000m 1位	福島県生まれ
26	スピードスケート	W杯カルガリー	穂積 雅子 （ダイチ）	カナダ カルガリー	11／8～10	3000m Bクラス3位	福島県生まれ
27	スピードスケート	W杯アスタナ	穂積 雅子 （ダイチ）	カザフスタン アスタナ	11／29～12/1	5000m 6位	福島県生まれ
28	スピードスケート	W杯ベルリン	穂積 雅子 （ダイチ）	ドイツ ベルリン	12／6～8	3000m 10位	福島県生まれ
29	スピードスケート	ソチ冬季オリンピック	穂積 雅子 （ダイチ）	ロシア ソチ	2/9	3000m 21位	福島県生まれ
30	スピードスケート	ソチ冬季オリンピック	穂積 雅子 （ダイチ）	ロシア ソチ	2/19	5000m 13位	福島県生まれ
31	スピードスケート	ソチ冬季オリンピック	穂積 雅子 （ダイチ）	ロシア ソチ	2/20	5000m 14位	福島県生まれ
32	スピードスケート	W杯ヘーレンフェイン	穂積 雅子 （ダイチ）	オランダ ヘーレンフェイン	3/14～16	3000m 15位	福島県生まれ

（参考）国際大会出場選手数（平成１０年度～平成２２年度）

年度	人数	年度	人数
平成１０年度	27	平成１８年度	49
平成１１年度	22	平成１９年度	53
平成１２年度	50	平成２０年度	64
平成１３年度	44	平成２１年度	73
平成１４年度	32	平成２２年度	101
平成１５年度	29	平成２３年度	57
平成１６年度	28	平成２４年度	66
平成１７年度	44	平成２５年度	120

（出場選手数は延べ人数）

3　体育・スポーツ施設

(1) 体育・スポーツ施設の管理及び利用状況

県営体育施設の効率的活用と施設管理の万全を期し、もって地域スポーツの振興を図るため、当該施設設置市町村等に管理を委託した。

ア　施設管理一覧

施設名	所在地	管理方法	受託者	摘要
福島体育館	福島市	事務委託	福島市	昭和49年4月1日より平成26年3月31日限りで廃止とした。
福島体育館附属合宿所	〃	〃	〃	〃
クライミングウォール	〃	指定管理	(公財)福島県都市公園・緑化協会	平成18年4月1日より
荻野漕艇場	喜多方市	事務委託	喜多方市	〃

※事務委託(地自法第252条の14第１項)

イ　施設の利用状況

施設の利用状況は、次のとおりである。

施設名		利用状況	摘要
荻野漕艇場	漕艇	1,464 隻	
	トレーニング室	1,140 時間	

ふくしま海洋科学館

第１節　施設の概要

１　本館施設

(1) **場所**：福島県いわき市小名浜字辰巳町50番地

(2) **施設**：鉄骨・鉄筋コンクリート造

ア　階数：地上４階建て

イ　高さ：34m　（展望室）

ウ　敷地面積：56,265.1㎡（駐車場含む）

エ　延床面積：14,201.81㎡

（本館12,935.11㎡　えっぐ1,266.7㎡）

オ　総水量：6,020ｔ（メイン水槽：潮目の大水槽2,050ｔ、蛇の目ビーチ1,600t、BIOBIOかっぱの里430t）

２　ふくしま海洋科学館子ども漁業博物館

(1) **場所**：福島県いわき市小名浜字辰巳町43-9

(2) **施設**：小名浜美食ホテル潮目交流館内

ア　屋内展示面積　　232.27㎡

イ　屋外展示面積　　203.52㎡

３　水生生物保全センター

(1) **場所**：福島県いわき市小名浜字辰巳町47番地の１

(2) **施設**：鉄筋コンクリート、鉄骨造

ア　階数：地上２階建て

イ　延床面積：925.09㎡

４　海水取水・送水施設

(1) **場所**：福島県いわき市小名浜下神白字松下

(2) **施設**：

ア　ろ過送水棟：１棟180.04㎡

イ　取水ポンプ棟：１棟84.43㎡

ウ　取水管：182.2m

エ　送水管：2,875.9m

オ　揚水管：146.0m

５　展示生物の収集、蓄養施設

当施設の「黒潮水槽」等において展示をしている大型魚類の採集・蓄養を行うため、海上生け簀を借り上げている。

(1) **場所**：鹿児島県大島郡（奄美大島）瀬戸内町

(2) **施設**：生け簀

第２節　各種事業

１　飼育展示事業

(1) **常設展示**

展示のメインテーマを「潮目の海～黒潮と親潮の出合い～」としている。

「福島県の海」において、最も特徴的な事象である黒潮と親潮の境界「潮目」をテーマとして取り上げ、豊かな生物相を中心とした潮目の海の自然、潮目の科学、人と海とのかかわり合い、そして地球環境問題まで幅広い分野を紹介した。

(2) **飼育展示活動**

ア　生物収集事業

展示生物（水生生物、陸上小動物及び植物）の主な採集、購入及び輸送は以下のとおりである。

(ｱ) 淡水生物採集

オイカワ、イトヨ他県内生物の採集及び熱帯生物を購入した。

(ｲ) 沿岸生物採集

県水産試験場調査船乗船採集（ホウボウ、サブロウ他）、松川浦採集（アマモ、ギンポ類他）、潜水採集（マヒトデ、マナマコ他）を行った。

(ｳ) 深海生物採集

駿河湾にてＲＯＶを使用し、マルアオメエソ他、底引き網漁によりミドリフサアンコウ他を採集した。

(ｴ) 北方系生物採集

北海道(オホーツク海沿岸)において沿岸生物のハダカカメガイ、ナメダンゴ、アバチャン他を採集した。

(ｵ) 南方系生物採集

奄美大島において、カツオ、キハダを採集した。

(ｶ) サンゴ礁、マングローブ生物採集

奄美大島での採集及び購入により収集した。

(ｷ) 植物

県内採集及び購入により収集した。

(ｸ) 当館で生まれたユーラシアカワウソ４頭を高知県立のいち動物園（２頭）、新潟市水族館（２頭）へブリーディングローン等により搬出した。

(ｹ) フェネック１頭を東京都井の頭自然文化園より搬入した。

イ　南方系生物蓄養事業

奄美大島の海上生け簀にて、キハダ、カツオの蓄養、搬入を実施した。

ウ　水生生物保全センター運営事業

(ｱ) 震災により閉鎖していた水生生物保全センターを再開した。

(ｲ) 串本分館を開設し、タチウオ等の飼育困難生物の蓄養を行った。

(ｳ) 県内希少生物の繁殖

ゼニタナゴ、シナイモツゴの繁殖を行った。

(ｴ) 深海生物生息域環境調査

東京湾にて底棲生物のＲＯＶ調査を行った。

(オ) 深海性生物の飼育

ヤエギスの育成を行った。

エ　飼育生物管理事業

本館収容生物(植物を含む)の展示及び飼育管理を実施した。

2　移動水族館事業

移動水族館専用車（アクアラバン）により、各地域・各施設のイベント等に出展し、普段当館に足を運ぶことができない人にも海の生物に親しむ機会を提供し、自然の事象への興味、関心を高めてもらうとともに、開催地における地域振興に貢献した。

また、主催者からの要請に応じ、有料で移動水族館専用車を派遣し、計４か所で開催した。

3　研究交流事業

(1) 学会・研究会等

ア　平成25年10月16日

世界動物園水族館協会年次会議において日本の水族館の現状について報告を行った。

「世界水族館会議の開催について」、「Ｈａｐｐｙ　Ｏｃｅａｎｓの取り組み」、「シーラカンスの調査活動について」と題したポスター発表を行った。

イ　平成25年12月3日～4日

東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会の「水族館との共同研究。 その現状と、将来展望に期待を込めて」シンポジウムにおいて、「原発事故による放射線研究の取り組みと研究機関との共同研究について」と題し、研究発表を行った。

ウ　平成26年2月17日

平成２５年度第２回関東東北ブロック動物園水族館園館長会議にて「アクアマリンふくしまの原発事故対応について」と題し、研究発表を行った。

エ　平成26年3月15日

当館において、第８回めひかりサミット（いわきサイエンスカフェ共同企画）「よみがえれ私たちの海～これからどうなる水産業～」を開催し、「アクアマリンふくしまの取り組み～いわきの海は今～」と題し、講演を行った。

福島県立博物館において「東日本大震災とアクアマリンふくしま」と題して講演を行い震災からの復旧について紹介した。

オ　平成26年3月19日

インドネシア、アメリカ合衆国、国内のシーラカンス研究協力者を招聘し、シーラカンスの域内保全と海洋調査に関するシンポジウムを開催した。各研究者から最新の研究結果、状況などの話題提供を行った後に、今後の調査研究活動について討議を行った。当館からは「海外での域内保全への貢献」として報告を行った。

カ　平成26年3月29日

生体機構制御研究会による公開講座「二関節筋による生体力学・生体工学革命」に参加し、「シーラカンス、陸上進出支援準備完了」と題して発表を行った。併せてシーラカンス模型、ナメクジウオの生体展示を行った。

4　海洋文化推進事業

インドネシアのマナドにおいてＲＯＶを用いたシーラカンスの生態観察を実施し、インドネシアシーラカンス１個体の発見、観察を行った。その結果、平成２４年度に観察した個体であることがわかり、シーラカンスの長期的な行動を研究する上で貴重な結果を得た。

5 企画営業事業

(1) 企画管理事業

接客や案内誘導等の業務委託、年間パスポートの販売等を通して来館者サービスの向上に努めた。

ア　券売・受付業務の委託

券売・改札業務において、専門業者へ委託することにより接客の質向上を図った。

イ　年間パスポートの販売

利用者の利便性に配慮するとともに、リピーター増を図るため、「年間パスポート」の販売促進に努めた。

また、「福島県子育て応援パスポート事業」に協賛し、「年間パスポート」の割引販売を実施した。

(2) 広報宣伝事業

ア　各種媒体等を活用した広報

(ア) テレビ・ラジオＣＭの制作

当館をテレビ及びラジオで広報する際に使用するＣＭ放送素材を新たに制作した。

(イ) テレビＣＭ

a ＧＷ向け：県内４局、宮城４局、新潟４局、山形４局、千葉１局、栃木１局で放映した。

b 夏休み向け：県内４局、宮城４局、新潟４局、山形４局、千葉１局、栃木１局で放映した。

c 春休み向け：県内４局、宮城４局、新潟４局、千葉１局、栃木１局で放映した。

(ウ) ラジオＣＭ

ＧＷ、夏休み、春休み向け：県内３局、宮城２局、新潟３局、茨城１局、栃木２局で放送した。

(エ) 新聞

地元３紙及び隣県の地方紙などに、観光シーズンにおける誘客を目的とした広告を掲載した。

(オ) 旅行誌等

「るるぶ」（ＪＴＢ出版）、「じゃらん」（リクルート）、「まっぷる」（昭文社）、「ぴあ」（ぴあ）のほか、高速道路ＳＡで配布される「ハイウェイウォーカー」（東日本高速道路）にイベント開催の告知や観光シーズン

における誘客広告を掲載した。

また、季節のイベントに合せて「あんふぁん（首都圏版、東北版）」（サンケイリビング新聞社）など幼稚園配布雑誌や地元タウン誌に広告を掲載した。

(ｶ) 看板

福島空港に広報看板を掲出した。８月のレジャーシーズンには、ＪＲ東京駅京葉線通路に１６連の電照ポスターを掲出した。

(ｷ) その他

県内の新聞、情報誌においてパブリシティを活用した広報活動を積極的に展開した。

テレビの全国放送では、ＴＢＳ系「世界水族館物語」で当館の取組みが放送され、当館のＰＲとなった。

イ　ポスター・パンフレット等の作成・活用

(ｱ) 館内案内リーフレット

来館者に配布したほか、県内外の観光施設、旅行エージェント、公共施設等に配布したり、館外でのＰＲ活動で配布した。

(ｲ) イベントチラシ・ポスター

県内外の公共施設等に配布・掲出したほか、市内の新聞織り込みや小学校、幼稚園へ配布した。

(ｳ) イベントカレンダー

県内外の宿泊施設、旅行エージェント、公共施設等に配布した。

ウ　各種イベントへの参加・協賛

(ｱ) 「第23回いわきシーサイドウォーク」（後援）

(ｲ) 「うつくしま・みずウォーク２０１３」（後援、優待入館）

エ　館内外における季節演出及び催事等の実施

(ｱ) ＧＷイベント（５月）

ＧＷに合わせ開館時間を午後７時まで延長し、イベントを開催した。

(ｲ) 海の日イベント（７月）

７月１５日の夏の３連休に合わせ、イベントを開催した。

(ｳ) サマーイベント（８月）

午後７時まで開館時間を延長し、コンサートや参加型イベントを実施した。

(ｴ) クリスマスイベント（１２月）

クリスマス期間の計４日、開館時間を午後７時まで延長し、参加型イベントやコンサート等を実施した。

(ｵ) お正月イベント（１月）

お正月プレゼント、生き物かるた大会、フィギュア釣りを実施した。

(ｶ) 門松の設置（１月）

(ｷ) ひなまつりイベント（２～３月）

つるし雛装飾、ちりめん細工教室を開催した。

オ　アクアラバンを活用した営業・広報宣伝

移動水族館専用車両（通称：アクアラバン）により県内外のイベントに出展し、営業・広報宣伝を推進した。

出展か所数　19か所　　観覧者数　34,872名

カ　キャラクター「権兵衛」によるＰＲ

館内で来館者に対してのサービスのほか、移動水族館や県外での観光ＰＲにおいて、権兵衛によるＰＲを行った。

(3) 観光誘致事業

ア　地元旅館ホテル等との連携の強化

当館への誘客を図るため、地元温泉旅館組合（いわき湯本温泉旅館協同組合、小名浜旅館ホテル組合、勿来旅館組合）、近隣６宿泊施設（小名浜オーシャンホテル等）、ホテルハワイアンズ、母畑温泉八幡屋、磐梯熱海温泉旅館協同組合及びかんぽの宿いわきにおいて、契約宿泊施設宿泊者限定入館券の販売を実施した。

イ　団体旅行等の誘客促進対策の実施

団体旅行客については、営業活動を強化するとともに、県及び市等の補助事業（宿泊費や交通費の補助）を活用して誘客促進に努めた。

ウ　コンビニ前売券販売の実施

コンビニエンスストア店舗における前売券販売に新たに取り組み、県外からの誘客を促進した。

(4) 地域交流事業

小名浜まちづくり市民会議への参画など、積極的に周辺地域との交流を深めるとともに地域振興に貢献した。

６　学習交流事業

(1) 解説活動事業

子どもから大人まで多くの人々が、海の生物や環境について楽しみながら学び、考え、交流のできる施設をめざし、一般来館者を対象に次のような解説活動を実施した。

ア　バックヤードツアー

当館のボランティアが展示水槽のキーパースペース、実験室、調餌室、サービスヤード、濾過槽、ホルマリン室を案内しながら、水族館の仕組みや飼育員の仕事について紹介した。

イ　ハンズオン解説

アクアマリンえっぐのボランティアーズステーションにおいて、小名浜港で採集したプランクトンの観察や化石、標本などを手に取って観察できるハンズオン解説を行った。

ウ　アクアマリンえっぐワークショップ

アクアマリンえっぐのワークショップコーナーにおいて、塗り絵と点結びを実施した。

また、７月１３日から７月１５日までの３連休には、ボランティアイベントとして折り紙を実施した。

エ　オリエンテーリング

悪天候で釣り体験を中止した際の体験活動の提供として、アクアマリンえっぐの展示生物に関する問題を解かせるオリエンテーリングを実施した。

オ　わくわく里山ワークショップの開催

９月２１日から２３日までの３日間「山・川・海のつながり」をテーマとしたワークショップを開催した。会場は、えっぐの森、ＢＩＯＢＩＯかっぱの里、蛇の目ビーチを使用し、フィールドにおけるワークショップの開催実績を有する３つの団体に解説を委託した。

カ　マリンシアター

１階マリンシアターにおいてシーラカンス調査やアクアマリンふくしまの紹介などのオリジナルハイビジョン映像４本を３０分間隔で交互に上映した。

(2)　企画展開催事業

来館者サービスと館の広報を兼ね、常設展示を拡充させるとともに、テーマを定めた展示を以下の内容で実施した。

ア　中川成生写真展「東京から動物園がやってきた」

期間：平成25年1月12日～平成25年4月21日

概要：東京の動物園で写真を撮り続けてきた中川成生氏が撮影した動物や飼育の様子の写真を展示した。

イ　ワールドオーシャンズデイ特別展「海神ナウシカからのメッセージ」

期間：平成25年5月25日～平成25年6月9日

概要：6月8日のワールドオーシャンズデイに合せてフランス・ナウシカ水族館との共同企画として開催した。ナウシカ水族館で展示した鯉のぼりアートや絵画を当館で展示したほか、ナウシカ水族館では当館のデザイン大漁旗を展示した。

ウ　小名浜国際環境芸術祭

期間：平成25年9月21日～平成25年11月10日

概要：大漁旗をテーマとしたデザイン展を実施し、芸術を通して環境保全のメッセージを発信するとともに、芸術による地域交流を図った。

エ　キッズアート展

期間：平成25年9月21日～平成25年11月10日

概要：カッティングシートで海の生き物を作り壁に貼り付けるワークショップを実施し、作品を展示した。

オ　海の男たちの盆栽展

期間：平成25年10月26日～平成25年11月4日

概要：黒松等の古木の迫力ある作品や秋の草花等による作品を展示した。

カ　干支展

期間：平成25年11月30日～平成26年1月13日

概要：館内に展示している辰にちなんだ生き物を紹介する企画を行った。

キ　伊藤隆道展

期間：平成25年3月16日～平成26年3月19日

概要：動く彫刻の第一人者である伊藤隆道氏の作品を展示した。

(3)　展示事業

魅力ある展示を維持するため、展示品、種名板、情報ソフト等の更新を随時行い、図書や映像ソフト等の充実にも努めた。

(4)　学校教育関連事業

ア　ガイダンス

当館に来館した学校団体を対象に施設の展示概要の紹介と館利用上の注意点等を解説するガイダンスを実施した。(10回実施、対象者数430名)

イ　館内学習

当館に来館した学校団体を対象に研修室などで授業を行った。当館の釣り堀を利用した命の教育、獣医の仕事の紹介、震災からの復興などをテーマとした学習を実施した。(46回実施、対象者数2,596名)

ウ　移動水族館の実施

移動水族館専用車（アクアラバン）による生物の観察、標本や化石などを手に取って観察をするハンズオン展示、震災からの復興をテーマにしたレクチャーを行う移動水族館を実施した。平成２５年度は、放射線量が高く屋外での活動が制約されている南相馬市及び中通りの小学校並びに津波被害の大きかった新地町の小学校で開催した。(20校、対象者数3,560名)

エ　職場体験・インターンシップ・博物館学芸員実習の実施

中学校、高等学校、大学の生徒・学生を対象に、業務体験をとおして職業観・勤労観の習得や進路指導の一環を目的とした実習を実施した。

(ｱ) 中学校・高等学校生徒の職場体験

12回実施　対象生徒数46名

(ｲ) 高校生、専門学校のインターンシップ

1回実施　対象生徒数2名

(ｳ) 大学生のインターンシップ

2回実施　対象学生数4名

(ｴ) 博物館学芸員実習

1回実施　対象学生数2名

(ｵ) 獣医実習

1回実施　対象学生数1名

オ　館内学習支援事業

いわき市内の小学校を対象に当館のバスで児童を送迎し、館内において学習活動を実施した。

(8回実施、対象者数228名)

カ　教職員セミナー、教員研修の実施

８月６日から８日の３日、県内の教職員を集めて館の利用の説明や体験活動を体験してもらう教職員セミナーを開催し、８３名が参加した。また、県いわき教育事務

所からの依頼による高等学校初任者研修や経験者研修を実施した。

(5) 情報提供事業

ア　情報コーナー

情報コーナーでは、国内外の友好園館の展示を開始した。

イ　インターネットによる情報提供

ホームページを随時更新し、企画展やイベントの案内、さまざまな生物の紹介等を行った。また、フェイスブック、ツイッターを活用した情報提供も行った。

ウ　機関誌の発行

水族館活動をはじめ、生物や海に関するさまざまな情報を掲載した機関誌「AMF NEWS」を年4回発行した(発行部数5,500部／回)。

7　スクール開催事業

(1) スクールの開催

海の生物に親しみ、自然の事象について興味、関心を高めることを目的に、各種スクールを開催した。

開催月	スクールの名称	参加人数
5月	わくわく漁業体験	9人
	春の磯観察会	20人
6月	家族で日帰りナイトツアー	42人
	金魚カフェ	36人
7月	親子で宿泊ナイトツアー	40人
	夏の海で遊ぼう①	8人
	夏の海で遊ぼう②	22人
8月	キッズナイトツアー	30人
9月	家族で日帰りナイトツアー	29人
	いかだをつくってこみでみよう	11人
10月	山であそぼう	30人
	メダカのひみつをみつけよう	9人
11月	飼育体験	14人
	家族で宿泊ナイトツアー	35人
12月	大人のナイトツアー	24人
	シーラカンスを作ってみよう	30人
1月	クラゲを飼ってみよう	34人
	キッズナイトツアー	29人
2月	おいしい解剖学	10人
3月	家族で日帰りナイトツアー	29人
	プロに学ぶ魚イラストの描き方(基礎編)	19人
	プロに学ぶ魚イラストの描き方(応用編)	7人
年度計		517人

(2) 炭火焼体験

蛇の目ビーチの復旧工事を行っていた期間（４月１日～４月２１日）に、命の体験プログラムとして、活きたホタテガイとハマグリを炭火で焼いて食べる機会を提供した。

(3) 釣り体験

アクアマリンえっぐの釣り場において魚を釣って調理し、食べるという体験を提供し、子どもたちに命の教育の場を提供した。

(4) 他団体と連携をした被災者支援活動

いわき市内のボランティア団体やこども☆ひかりプロジェクトと協働して、東日本大震災で被災した子供たちを支援する活動を実施した。

8　子ども漁業博物館事業

アクアマリンうおのぞきでは、伝馬船の櫓漕ぎ体験や鰹節削り体験、炭火焼体験等さまざまな体験活動を提供するとともに、缶づめつくりや工作などの内容を頻繁に更新し、リピーター対策に努めた。

また、平成２５年６月１日には、潮目交流館の屋外にトラック水槽や炭火焼体験を行う囲炉裏を設置した屋外展示スペースを新設した。

9　ボランティア等活動事業

アクアマリンふくしまボランティアの会による自主的、積極的なボランティア活動を通して、来館者の学習活動を支援するとともに、多様な交流を促進した。また、ボランティア活動者に対しては、資質向上のための専門研修を継続的に行い、本施設を自らの学習・実践の場として積極的に提供した。

第1期～第15期ボランティア更新者	211名
第16期新規ボランティア登録者	22名
登録者数(平成26年3月31日現在)	233名

10　クウェート・ふくしま友好記念日本庭園整備事業

東日本大震災に際し、３００万ドルの復興支援金を頂いたクウェート国への謝意を表すために、本館と水生生物保全センターの間に「クウェート・ふくしま友好記念日本庭園」を整備した。

第３節　月別入館者数

平成25年度における当館の入館者状況は次のとおりである。

月	開館日数	入館者数	個人	団体	無料
４月	30日	42,891	30,537	3,785	8,569
５月	31日	74,662	52,446	6,454	15,762
６月	30日	39,327	24,735	7,013	7,579
７月	31日	58,861	41,014	6,073	11,774
８月	31日	123,259	91,930	5,244	26,085
９月	30日	50,084	30,909	9,655	9,520
10月	31日	41,767	22,746	9,797	9,224
11月	30日	36,277	22,039	7,004	7,234
12月	31日	33,430	22,424	3,559	7,447
１月	31日	33,975	24,101	2,156	7,718
２月	28日	19,214	12,050	2,006	5,158

3月	31日	43,555	31,452	1,949	10,154
合計	365日	597,302	406,383	64,695	126,224

第４節　公益財団法人ふくしま海洋科学館の概要

１　財団法人の名称

公益財団法人ふくしま海洋科学館（設立当初の名称「財団法人ふくしま海洋学習館」。平成12年４月１日「財団法人ふくしま海洋科学館」に名称変更。平成25年４月１日公益財団法人に移行。）

２　財団法人の目的

海洋生物及び海洋文化・科学に関する展示・研究並びに環境保全等に関する教育普及を実施するとともに、本県にふさわしい地域特性を生かした生涯学習の振興を図り、もって本県教育・文化の振興と生涯学習社会の実現に寄与する。

３　財団法人の事業

本財団法人では、設立目的を踏まえ、以下の事業を行う。

(1)　海洋生物（その他の水族を含む）の収集、飼育、展示及び調査研究に関する事業

(2)　海洋文化・科学に関する資料の収集、展示及び調査研究に関する事業

(3)　海洋に係る生物・文化・科学等に関する教育普及及び地域交流に関する事業

(4)　海洋生物の保護及び保全の研究に関する事業

(5)　身近な自然環境の保全及び修復、再生、持続的利用に関する事業

(6)　上記(1)から(5)の事業を行うための公の施設等の管理運営に関する事業

(7)　その他公益目的を達成するために必要な事業

(8)　ショップ及びレストランの運営等に関する事業

(9)　その他上記事業に関連する事業

４　基本財産

本財団法人は、県の社会教育施設を管理する組織となる性格に鑑み、設立の基礎となる基本財産については、県100％出捐の法人である。（出捐額 150,000千円）

５　組織（平成２６年３月現在）

(1)　役員、評議員

ア　役員、評議員の人数

理事９名、監事２名、評議員９名

イ　役員及び評議員の任期

理事の任期は２年とする。

監事及び評議員の任期は４年とする。

(2)　事務局

ア　グループ・チームの設置

事務局に事業調整グループ、地域交流グループ、命の教育グループ、環境展示グループ、環境研究所、シーラカンス研究所、デザイン研究所を置く。

事業調整グループに事業調整チーム、環境維持チーム、地域交流グループに地域交流チーム、観光チーム、営業チーム、命の教育グループに命の教育チーム、うおのぞきチーム、環境展示グループに潮目の海チーム、環境展示チーム、環境研究所に環境研究所チーム、ＩＴチーム、動物健康室、弁財天うなぎプロジェクトチーム、シーラカンス研究所に国際交流チーム、生命の進化チームを置く。

イ　職員の人数

平成25年度の事務局体制は、館長（理事長兼務）、副館長（常務理事兼務）を含め、正規職員数（定数）50名。この外、臨時的な職員を別に置く。

ウ　職員の身分

	財団職員	県派遣者
館長	1	
副館長	1	1
事業調整ｸﾞﾙｰﾌﾟ	5	2
地域交流ｸﾞﾙｰﾌﾟ	12	0
命の教育ｸﾞﾙｰﾌﾟ	7	3
環境展示ｸﾞﾙｰﾌﾟ	12	0
環境研究所	3	0
ｼｰﾗｶﾝｽ研究所	3	0
ﾃﾞｻﾞｲﾝ研究所	（委嘱）	0
計	44	6

エ　役員、評議員名簿（敬称略）

【理事長】

ふくしま海洋科学館長	安部義孝

【理　事】

元日本魚類学会長	上野輝彌
前上野動物園長	小宮輝之
小名浜まちづくり市民会議会長	佐藤毅
福島県企画調整部文化スポーツ局次長	橋本幸洋
生物生態研究所長	谷口旭
ＦＭいわきパーソナリティー	馬場典枝
ＮＰＯ日本渚の美術協会長	本間清
ふくしま海洋科学館副館長	阿部由之助

【監　事】

丹野公認会計士・税理士事務所代表	丹野勇雄
福島県企画調整部企画調整課長	西山茂樹

【評 議 員】

いわき商工会議所会頭	小野栄重
いわき明星大学主任教授	神山敬章
童謡のまちづくり市民会議会長	九頭見淑子
冷泉寺住職	酒主照之
小名浜機船底曳網漁業協同組合 代表理事組合長	野崎哲
武蔵野美術大学名誉教授	森豪男
福島県企画調整部文化スポーツ局長	鈴木千賀子
ぴあ（株）代表取締役社長	矢内廣
大國魂神社宮司	山名隆弘

福島県文化センター

第１節　概要

福島県文化センターは、県民の文化振興を図るために設置されたもので、福島県文化会館及び福島県歴史資料館の２つの施設をもって構成されている。

この文化センターの管理運営は、県が財団法人福島県文化振興財団に委託し、同法人はこの施設の設置目的に沿って県民の文化活動の場としてその利用に供し、利用者の便宜を図るとともに、各種の文化事業を展開し、あるいは歴史、文化関係資料の収集、整理、保管、調査研究を行っている。

１　業務内容

福島県文化センターを構成する施設の業務内容は、概ね次のとおりである。

（１）　福島県文化会館

○文学、音楽、演劇、舞踊等の芸術の振興に関すること。
○社会科学、自然科学等の学術の振興に関すること。
○文化会館の施設及びその付属設備の利用に関すること。

（２）　福島県歴史資料館

○県に関する文書資料、考古資料、民俗資料、その他の歴史資料に関する調査研究及びその利用に関すること。
○歴史資料に関する後援会、講習会、映写会、研究回答の主催及びその開催の援助に関すること。

第２節　施設の概要

所在地　　福島市春日町５−54
敷地面積　26,525㎡
建築面積　4,951㎡
建築延面積 12,400㎡
構造　　鉄骨・鉄筋コンクリート造り 地下１階、地上３階、塔屋１階
竣工　　昭和45年７月31日

１ 福島県文化会館

地階　中央監視室、空調・電気機械室、奈落
１階　大ホール(1,752席)、小ホール(379席)、リハーサル室(107㎡)、和室(20畳２室)、楽屋(４室)、浴室、視聴覚室(108席)、会議室、事務室、収蔵庫など
２階　会議室兼展示室(466㎡)、託児室(42㎡)など
３階　展示室(505㎡×２室)、ギャラリー(366㎡)、事務室、倉庫など

２ 福島県歴史資料館

１階　展示室(180㎡)、事務室
２階　事務室、研究室、閲覧室、文書庫(252㎡×3) など
３階　文化財収蔵庫(455㎡)

第３節 事業の実施状況

平成25年度に福島県文化センターが実施した事業の概要は、次の通りである。

１　管理運営事業

平成25年度における福島県文化センターの利用状況は、次のとおりである。
なお、大ホールについては迫り上げ装置改修工事のため２月１日から２月25日まで貸出を休止した。

（１）福島県文化会館

施設名	大ホール		小ホール		視聴覚		1F会議		会議室兼展示室		3F展示		3Fギャラリー		館外
区分	回数 日	入場者数	回 日	入場者数	回 日	入場者数	回 日	入場者数	回 日	入場者数	回 日	入場者数	回 日	入場者数	入場者数
年間	136		211		98		181		95		26		9		
合計	234	172,938	270	42,184	115	2,934	185	2,279	231	21,796	206	42,398	116	9,961	44,345
稼働	224		235		114		179		227		196		116		
稼働率%	68		66		32		50		64		55		33		

施設名	合計	
区分	回数 日数	入場者数
年間	756	
合計	1,357	338,835
稼働日数		
稼働率%		

開館日数	355

（備　考）
・館外入場者数は、館外で実施した自主事業への参加者数。
・大会行事や美術展で数日間使用した催しは１回とした。
・大会に伴う分科会などで、一つの催しに複数施設を使用した場合の人数は、主となる施設に計上した。
・合計日数は延べ日数で表す。例えば、１日に別の催物が２件あった場合は２日にした。
・準備・リハーサルは公演日（本番）とは別の日に使用したもので、利用者とみなし入場者数も計上した。
・開館日数は休館日及び工事などの使用不可能日を除いたものとした。

（２）福島県歴史資料館

ア　利用状況

種　別	利用件数	同冊（点）数	内　　容
閲覧利用	1192	5,032	会社員・公務員・教員・学生・研究者等
特別貸出利用	6	26	福島市教育委員会等
施設利用	8,038	－	入館者

イ　資料収蔵状況

種　別	搬　入	搬　出	合計（累計）	内　　容
文書資料	37	0	208,619	県及び諸家寄贈・寄託資料
文献	0	0	44,936	寄贈・購入等

2 文化情報の発信

県民が、それぞれの価値観に基づいて主体的に文化活動に参加し豊かな人生を楽しむことができるよう文化情報誌の発行と、インターネット・ホームページにより文化情報を発信した。

（１）文化情報誌『ふくしま文化情報』の発行

編集方針：本県の文化行事に関する情報を幅広く収集し、広く県民に提供した。写真を多用し見やすい誌面構成に努めた。

発行部数：１回５，５００部　年１０回発行

内　　容：今月のお薦め催事を「今月のピックアップ」として写真入りで紹介した。
また、県内各地の文化ベンの中から地域の特色を生かした行事に注目し「イベントアカルト」として紹介した。

配布先：県内の市町村教育委員会公民館・高校・大学・文化施設・公民館・文化団体・報道機関・病院など。

（２）インターネットによる情報提供

文化センターホームページには『ふくしま文化情報』に載せている県内の文化イベント情報をさらに充実させて掲載した。
「音楽」「展示」「演劇・舞台」「講演・講座」「自主上映」及び「その他」のジャンルごとに常時３００件前後を掲載した。また、これらの情報にはなによりも新鮮さが要求されることから、各種文化団体や文化施設と連絡を密にし、情報をいち早く入手して毎週（１回）更新した。
また、当財団が管理運営する各施設の企画事業情報及び県内の文化イベン情報を編集し「福島県文化振興財団メールマガジン」として毎月１回配信した。

3 歴史資料館事業

事業名	期日・開催場所等	目的及び内容等	入場者数
収蔵資料展「八重の時代の人」	4月20日～7月15日 県歴史資料館展示室	NHK大河ドラマ「八重の桜」に合わせて、福島県歴史資料館に収蔵されている資料の中から新島八重や新島襄と実際に付き合いのあった福島県ゆかりの人物を取り上げ、八重の人生の関連資料を展示。	1,611名
地域展「ふくしま再生と文化財」	8月3日～9月13日 県歴史資料館展示室	東日本大震災の発生により、多くの歴史遺産が危機に瀕している。大地震・大津波・原発事故に伴う地域破壊が進む中、地域の歴史と伝統文化を体現する歴史遺産に焦点を当て、地域史を見直す機会とした。	1736名
収蔵資料展「描かれた江戸時代の信夫郡前期」	9月28日～11月10日 県歴史資料館展示室	福島県歴史資料館に収蔵されている資料の中から江戸時代の信夫郡に関する絵図を取り上げ、福島城下の町割り・寺院や神社・村落での耕地の利用状況など彩色豊かに描かれた、江戸時代の町と村の景観がよく分かる資料を前期・後期の分け展示。	978名
収蔵資料展「描かれた江戸時代の信夫郡後期」	11月12日～12月23日 県歴史資料館展示室		801名
収蔵資料展「新公開史料展」	1月11日～3月30日 県歴史資料館展示室	2013年3月に刊行した『福島県歴史資料館収蔵資料目録』第44集に収録された「大沼忠四郎家文書」「大沼ハルヨ」「小島徳二氏収集文書」「高野伊勢男家文書」「官報」の史料を展示。	909名
古文書講座①～④	①・②　6月22日 ③・④　7月6日 県文化センター小ホール	古文書解読初心者を対象とする講座。講座では「村に伝達された法令を読む」をテーマに、法令伝達の歴史的背景や村の自治との関係を分かりやすく解説。	①・②　92名 ③・④　87名
フィルム上映会	①6月15日 ②9月8日 ③11月17日 県文化センター視聴覚室	①『会津の歴史』 ②『風流のまつり　長崎くんち』 ③『鹿島さまの村』『からむしと麻』	①　35名 ②　13名 ③　29名

歴史資料館友の会行事	5月～12月　計8回	総会、友の会講座、展示見学会、歴史散策、研修旅行などの実施を支援。	会員約160名
校外学習協力	5件（19日間）	中学校、大学等の生徒の校外学習、インターンシップ、博物館実習への協力。	30名
生涯学習協力	1回	公民館等の生涯学習講座への講師派遣協力。	66名
地域史研究講習会	2月23日 県文化センター小ホール	報告1「大正時代の恵隆寺観音堂の修復について」渡邉智裕（福島県文化振興財団 歴史資料課） 報告2「過去・現在・未来の懸け橋　地域の歴史と仏像・神像の修復」松岡誠一 氏（仏像文化財修復工房代表） 講演「いわき市長福寺本尊地蔵菩薩坐像納入文書について」西岡芳文 氏（神奈川県立金沢文庫　学芸課長） の三本の講習を実施した。	47名

4　受託事業

事業名	期日・開催場所等	目的及び内容等	入場者数
次代を担う子どもの文化芸術体験事業（派遣事業） 【東日本大震災復興支援対応】	7月16日～26年2月14日 実施回数　134　回	東日本大震災により被害を受けた地域の子どもたちへ文化芸術活動を提供する事業。実行委員会を立ち上げて文化庁からの委託を受け、学校や幼稚園等へ音楽、演劇、伝統芸能等7分野の講師を派遣した。	合計17,683名
福島県緊急雇用創出事業 「歴史資料館収蔵資料電子データ化業務」	4月～26年3月	福島県からの受託事業として失業者を雇用し、県庁行政文書について、683冊の文書綴り再編作業と5,122点の目録カード作成・電子データ入力作業を行った。また、被災歴史資料2,698点の目録カード作成・電子データ入力作業を実施した。	-

福島県緊急雇用創出事業 「復興の担い手を育む芸術文化活動支援業務」	8月～26年2月	福島県教育委員会からの委託を受け、今後の福島の復興を担う県内の小・中学生を対象に演劇・日本音楽・郷土芸能等の文化活動を支援する事業。レベルアップを図るためのワークショップや舞台見学会を実施した。また、事業の成果を公開する合同発表会を開催した。	支援対象校 4校
新しい文化の風交流事業「青少年と芸術文化団体との交流事業」	7月21日、8月11日・20日 福島県文化財センター白河館	県内在住の高校生と県芸術文化団体連合会会員との情報交換及び交流をとおして本県文化の担い手育成を目的とした事業で、福島県からの委託を受けて「短歌」と「陶芸」を取り上げて3回のワークショップを実施した。	合計88名

5　文化事業

(1)　芸術文化振興事業

区分	事業名	期日・開催場所等	目的及び内容等	入場者数
ふくしま文化復興事業	「発掘された日本列島2013」展	8月3日～9月13日、2F展示室	より多くの県民に埋蔵文化財に親しんでもらうとともに、その保護について理解を深めてもらうことを目的に、全国で発掘された出土品の中から近年注目されたものを中心に展示した。	計6,516名
			【関連イベント】 地域展「ふくしま再生と文化財」講演会等	
	復興推進事業	財団単独では実施困難な各種文化イベントを「ふくしま文化復興事業」として、報道機関や文化団体、民間事業者等との共催により実施した。		
		「辻井伸行コンサート」6月10日	福島テレビ主催	1,758名
		「八神純子コンサート」6月25日	ギルドネクスト主催	1,000名
		「加山雄三コンサート」7月31日	ふくしまＦＭ主催	1,300名
		「中島潔展」8月31日～9月29日	福島民報主催	15,000名
		「平原綾香コンサート」9月14日	ニュースプロモーション主催	1,600名
		「久保田利伸コンサート」9月17日	キョードー東北主催	1,651名

区分	事業名	期日・開催場所等	目的及び内容等	入場者数
		演劇「人生はガタゴト列車に乗って…」9月29日	福島テレビ主催	1,100名
		[アンパンマンミュージカル]10月20日、2回公演	福島中央テレビ主催	1,800名
		「江戸落語五人男」11月30日	福島テレビ主催	1,700名
		「プリキュア・ミュージカルショー」3月9日、2回公演	福島放送主催	2,300名
舞台芸術等鑑賞事業	古典劇場 野村万作・萬斎狂言公演	5月29日、大ホール	日本古来の伝統芸能の継承・普及を目的に、日本伝統芸能のなかでも人気の高い狂言を実施した。	1,525名
	古典劇場 松竹大歌舞伎公演	7月11日、大ホール、2回公演	日本古来の伝統芸能である歌舞伎を実施した。	1,986名
	キッズシアター	6月5日～28日 県内6市4町 16公演	児童の情操涵養をねらいとした舞台芸術鑑賞事業。県教育委員会、開催地教育委員会との共催による移動事業として実施した。	11,490名
	ファミリーシアター	〈児童劇公演〉 9月18日～9月27日 県内5町村5公演 〈音楽公演〉 10月8･9日 県内3町3公演	ホール施設が未設置の地域において、舞台芸術の巡回公演を実施した。 児童劇演目／「あした あさって しあさって」劇団のばら 音楽演目／「日本のしらべ」オーケストラ アジア ジャパン	合計2,708名
	子ども映画会	7月24日・31日、8月10日 小ホール	子どもたちの有意義な余暇活動の機会として、子どもの豊かな情感の育成を目的に、学校の夏休みの期間に合わせて実施した。	498名
	名作シネマ	1月29日・30日 2日間 4回上映、小ホール	国立東京近代美術館フィルムセンターとの共催により文化庁優秀映画鑑賞推進事業を実施した。	292名
人材育成事業	マイホールコンサート	1月26日、大ホール	若手演奏家たちに発表の場を提供し、次代を担う人材の育成と「県民に親しまれる施設づくり」を目的に出演者を募集して実施した。出演/6団体	330名
	イベント運営・舞台技術ボランティア ワークショップ	1月26日、大ホール	イベント作りの楽しさを理解してもらうためにマイホールコンサートの運営に携わるボランティアに、コンサートの運営や舞台技術を学んでもらった。	5名

(2)　共催事業

事業名	期日・開催場所	主管団体	入場者数
第67回福島県総合美術展覧会	6月21日～30日、文化センター	福島県	7,283名
第55回福島県考古学会大会	8月3日～4日、小ホール	福島県考古学会	120名
再興第50回記念創美展	11月1日～6日、2階展示室	日本画創美会	1,250名
ＮＨＫ歌謡コンサート	1月21日、大ホール	ＮＨＫ福島放送局	1,369名
ＮＨＫ交響楽団演奏会	3月15日、大ホール	ＮＨＫ福島放送局	1,586名

第４節　財団法人福島県文化振興財団の概要

１　財団法人の名称

財団法人福島県文化振興財団

２　財団の目的

芸術文化の振興及び文化財等の調査研究、保存、活用等を図り、もって県民の教育、学術及び文化の振興に寄与する。

３　財団の事業

○文学、音楽、演劇、舞踊等の芸術文化事
○文書、考古、民俗等の歴史資料の収集、研究、整理保管及び研修に関する事業
○埋蔵文化財の調査、研究、整理及び保存等の事業
○文化財保護の教育普及並びに文化財の展示、保管及び研修に関する事業
○委託を受けた文化センター及び文化財センター白河館の管理運営
○文化活動に関する助成及び顕彰に関する事業
○物品販売等に関する事業
○その他この法人の目的を達成するために必要な事業

４　組織（平成２６年３月３１日現在）

（１）　役員、評議員

理事１１名及び監事２名、評議員１２名

（２）　組織体制

・事務局総務課
・福島県文化センター（文化推進課、歴史資料課）
・福島県文化財センター白河館（総務課、学芸課）
・遺跡調査部（調査課・管理課）となっており、職員は５６名となっている。

役員名簿　（平成 26 年3月 31 日現在）

職	氏　名	現　職
理事長	遠藤　俊博	福島県文化センター館長 福島県歴史資料館長
副理事長	菊池　徹夫	福島県文化財センター白河館長早稲田大学名誉教授
〃	渡邉　和裕	福島商工会議所副会頭 一般社団法人福島市観光コンベンション協会会長
理事	小野　利廣	福島県南土建工業株式会社代表取締役 白河地区経営者協会長 一般社団法人福島県建設業協会会長
〃	鈴木千賀子	福島県企画調整部文化スポーツ局長
〃	新城猪之吉	末廣酒造株式会社代表取締役社長 会津若松市教育委員会委員 福島県酒造組合会長
〃	須佐由起子	元福島県教育委員会委員長
〃	髙城　俊春	元福島県教育委員会教育長 福島県芸術文化団体連合会会長
〃	髙萩阿都志	株式会社タイヘイドライバーズスクール代表取締役社長
〃	平田　公子	国立大学法人福島大学人間発達文化学類教授
〃	山口　晢子	宇都宮文星短期大学教授
監事	齋藤　忠	公認会計士
〃	芳賀　裕	司法書士

評議員名簿　　（平成２６年３月３１日現在）

氏　名	現　職
五十嵐　乃里枝	元三島町公民館社会教育指導員
伊藤　喜良	第一工業大学東京上野キャンパス教授
掛田　弘訓	福島県文化財保護審議会委員
齋藤　美保子	郡山女子大学短期大学部教授
佐藤　幸英	福島県市長会事務局長
澤田　修	（企業組合）劇団風の子東北代表理事
宗田　利八郎	倉美館（棚倉町文化センター）運営協会監事
橋本　幸洋	福島県企画調整部文化スポーツ局次長
新妻　香織	相馬市議会議員
馬目　順一郎	いわき市教育委員会委員長
安田　清敏	福島県町村会事務局長
湯浅　孝子	財団法人湯浅報恩会会長

＊五十音順

平成25年度実績　　教育年報

発　　行　　平成26年12月10日
編集発行　　福島県教育委員会
福島市杉妻町2－16
TEL（024）521－7759